

京都府遺跡調査報告書

第 19 冊

KUWA GAI KAMI

桑飼上遺跡

1 9 9 3

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

卷頭 図版



(1) 弥生時代集落検出状況



(2) 奈良時代掘立柱建物跡検出状況

序

財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センターでは、昭和56年4月の設立以来、京都府内の公共事業に伴う埋蔵文化財の発掘調査を行ってまいりました。

今回報告いたします桑飼上遺跡も、由良川の河川改修に伴って発掘調査を実施したものです。由良川は、京都府北部最大の河川で、その流域には数多くの遺跡が分布しています。桑飼上遺跡は、由良川の下流域に位置する遺跡で、4か年にわたる発掘調査の結果、本書に収録しましたように弥生時代から中世にかけてのさまざまな遺構や遺物が見つかっております。とりわけ大型建物跡を含む奈良時代の掘立柱建物跡群は、この時期の由良川下流域の歴史環境を知るうえに貴重な発見となりました。また、弥生時代から古墳時代にかけての住居跡や多数の遺物は、当時の集落のあり方を考えるうえに貴重な資料を提供するものと思われます。本書を関係各位の参考に供され、地域の文化の発展に少しでも寄与することができましたら幸いです。

現地での発掘調査にあたりましては、調査を依頼された建設省近畿地方建設局福知山工事事務所をはじめ、京都府教育委員会・舞鶴市教育委員会などの関係諸機関のご協力を受けました。また、現地及び内部での各作業についても、多くの方々の献身的なご協力を受けました。最後になりましたが、ここに記し感謝いたします。

平成5年12月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
理事長 福 山 敏 男

本文目次

はじめに-----	1
第1章 位置と環境-----	3
第1節 地理的環境-----	3
第2節 歴史的環境-----	6
1. はじめに-----	6
2. 中流域の遺跡-----	6
3. 桑飼上周辺の遺跡-由良川下流域-----	9
第2章 調査の経過-----	11
第1節 昭和62年度の調査(遺跡範囲の確認調査)-----	11
第2節 昭和63年度の調査(第2次調査地区の発掘調査)-----	11
第3節 平成元年度の調査(第3次調査地区の発掘調査)-----	11
第4節 平成2年度の調査(第4次調査地区の発掘調査)-----	11
第3章 桑飼上遺跡の概要-----	15
第1節 基本層序-----	15
第2節 各トレンチの概要-----	16
第4章 桑飼上遺跡の遺構-----	20
第1節 弥生時代中期-----	20
第2節 弥生時代後期～古墳時代前期-----	44
第3節 古墳時代中期～後期-----	59
第4節 飛鳥・奈良時代の遺構-----	74
第5節 その他の時期・時期不明の遺構-----	89
第5章 桑飼上遺跡の遺物-----	91
第1節 土器-----	91
1. 弥生時代中期の土器-----	91
2. 弥生時代後期～古墳時代前期-----	99
3. 古墳時代中期・後期の土器-----	106
4. 飛鳥・奈良時代の土器-----	112

第2節	石器	117
第3節	玉類及び玉作り関係遺物	120
1.	玉作り関係遺物	120
2.	玉類	120
3.	小結	122
第4節	土錘・紡錘車	124
第5節	鉄製品	125
第6節	数珠玉・銅銭	125
1.	数珠玉	125
2.	銭貨	126
第6章	総括	127
第1節	桑飼上遺跡周辺の地形環境	127
1.	はじめに	127
2.	方法	128
3.	遺跡周辺の微地形	128
4.	遺跡周辺の沖積層	129
5.	遺跡発掘区における層序	130
6.	遺跡周辺の地形発達	131
7.	おわりに	131
第2節	桑飼上遺跡の遺構の変遷	132
第3節	桑飼上遺跡の弥生土器・古式土師器の編年について	134
第4節	桑飼上遺跡の弥生時代中期の集落と墳墓	137
1.	方形周溝墓	137
2.	玉生産	138
3.	まとめ	138
第5節	古墳時代の竪穴式住居跡について	138
第6節	奈良時代の掘立柱建物跡について	141
1.	建物跡群の概観	141
2.	時期の決定	143
3.	建物跡群の消長	145
4.	京都府の飛鳥・奈良時代の掘立柱建物跡	147
5.	まとめ	154

挿 図 目 次

はじめに	
第1図 調査地位置図	3
第1章 位置と環境	
第2図 由良川沿岸の微地形と集落位置	4
第3図 洪水位と沖積低地の幅(1)	5
第4図 洪水位と沖積低地の幅(2)	5
第5図 桑飼上遺跡の位置と周辺の遺跡	7
第2章 調査の経過	
第6図 桑飼上遺跡トレンチ配置図	13
第3章 桑飼上遺跡の概要	
第7図 第1～16トレンチ土層断面模式図	15
第8図 A～Dトレンチ遺構平面図	17
第9図 E～Kトレンチ遺構平面図	18
第10図 L～Nトレンチ遺構平面図	19
第4章 桑飼上遺跡の遺構	
第11図 弥生時代中期遺構分布図	21
第12図 竪穴式住居跡24実測図	23
第13図 竪穴式住居跡26実測図	24
第14図 竪穴式住居跡26遺物出土状況図	25
第15図 竪穴式住居跡27実測図	27
第16図 竪穴式住居跡28実測図	28
第17図 竪穴式住居跡29実測図	29
第18図 竪穴式住居跡30・31実測図	30
第19図 竪穴式住居跡30・31断面図	31
第20図 竪穴式住居跡32実測図	32
第21図 Lトレンチ遺構平面図及び断面図	33
第22図 方形周溝墓1・2主体部実測図	36

第23図	溝 5 遺物出土状況図	37
第24図	溝 6 遺物出土状況図	38
第25図	溝 4・7 遺物出土状況図	39
第26図	溝15・27・28、土坑11遺物出土状況図	40
第27図	主な溝と土坑実測図	43
第28図	弥生時代後期～古墳時代前期遺構分布図	45
第29図	竪穴式住居跡 7 実測図	46
第30図	竪穴式住居跡11実測図	47
第31図	竪穴式住居跡12実測図	48
第32図	竪穴式住居跡13実測図	48
第33図	竪穴式住居跡12遺物出土状況図	49
第34図	竪穴式住居跡13遺物出土状況図	50
第35図	竪穴式住居跡14実測図	51
第36図	竪穴式住居跡15実測図	52
第37図	竪穴式住居跡16実測図	52
第38図	竪穴式住居跡16遺物出土状況図	53
第39図	竪穴式住居跡17実測図	55
第40図	竪穴式住居跡25実測図	56
第41図	竪穴式住居跡25遺物出土状況図	56
第42図	竪穴式住居跡33・34実測図	57
第43図	土器溜まり 3 実測図	58
第44図	土器溜まり 4 周辺遺構平面図	58
第45図	古墳時代中期遺構分布図	59
第46図	竪穴式住居跡 1 実測図	61
第47図	竪穴式住居跡 2 実測図	62
第48図	竪穴式住居跡 3 実測図	63
第49図	竪穴式住居跡 3 遺物出土状況図	64
第50図	竪穴式住居跡 4 実測図、特殊ピット遺物出土状況図	65
第51図	竪穴式住居跡 5 実測図	66
第52図	竪穴式住居跡 5 遺物出土状況図	67
第53図	竪穴式住居跡 6 実測図	69
第54図	竪穴式住居跡 8 実測図	69

第55図	竪穴式住居跡 8 遺物出土状況図	70
第56図	竪穴式住居跡 9 実測図	71
第57図	竪穴式住居跡 9 遺物出土状況図	72
第58図	竪穴式住居跡10実測図	73
第59図	飛鳥・奈良時代遺構分布図	75
第60図	掘立柱建物跡 1 実測図	76
第61図	掘立柱建物跡 2 実測図	77
第62図	掘立柱建物跡 3・4 実測図	78
第63図	掘立柱建物跡 5 実測図	79
第64図	掘立柱建物跡 6・7 実測図	80
第65図	掘立柱建物跡 8 実測図	81
第66図	掘立柱建物跡 9・柵列 1 実測図	82
第67図	掘立柱建物跡10・11実測図	83
第68図	掘立柱建物跡12・13実測図	84
第69図	掘立柱建物跡14及び竪穴状遺構 1 実測図	85
第70図	竪穴式住居跡21実測図	87
第71図	竪穴式住居跡22実測図	88
第72図	竪穴式住居跡23実測図	89
第73図	中世墓実測図	90
第 5 章 桑飼上遺跡の遺物		
第74図	方形周溝墓 2 主体部出土の管玉法量分布図	121
第75図	ガラス玉法量分布図	122
第76図	白玉法量分布図	123
第 6 章 総括		
第77図	遺跡周辺等高線図	127
第78図	桑飼上遺跡周辺深層地質断面図	128
第79図	桑飼上遺跡表層地質断面図	129
第80図	C・Dトレンチ掘立柱建物跡配置図	142
第81図	奈良時代掘立柱建物跡群出土土器	144
第82図	奈良時代掘立柱建物の変遷	146
第83図	B期掘立柱建物跡群の平面規格	147

付 表 目 次

付表 1	桑飼上遺跡調査組織及び調査内容一覧表-----	12
付表 2	竪穴式住居跡一覧表 1-----	20
付表 3	溝一覧表-----	41
付表 4	土坑一覧表-----	42
付表 5	竪穴式住居跡一覧表 2-----	44
付表 6	竪穴式住居跡一覧表 3-----	60
付表 7	掘立柱建物跡一覧表-----	74
付表 8	桑飼上遺跡遺構変遷表-----	133
付表 9	桑飼上遺跡弥生時代中期遺構出土土器型式別点数表(1)-----	134
付表10	桑飼上遺跡弥生時代中期遺構出土土器型式別点数表(2)-----	135
付表11	桑飼上遺跡弥生時代後期～古墳時代前期出土土器型式別点数表-----	136
付表12	桑飼上遺跡古墳時代中期玉類出土遺構一覧表-----	139
付表13	掘立柱建物跡柱間規模一覧表-----	159
付表14	掘立柱建物跡柱掘形規模一覧表-----	162
付表15	弥生時代中期土器観察表-----	167
付表16	弥生時代後期～古墳時代前期土器観察表-----	184
付表17	古墳時代中期土器観察表-----	195
付表18	飛鳥・奈良時代土器観察表-----	203
付表19	石器観察表-----	214
付表20	玉作り関連遺物観察表-----	216
付表21	管玉観察表-----	217
付表22	白玉観察表-----	217
付表23	ガラス小玉観察表-----	222
付表24	土錘観察表-----	222
付表25	紡錘車観察表-----	223
付表26	数珠玉観察表-----	224
付表27	銅銭一覧表-----	224

図 版 目 次

- 図版第 1 出土遺物実測図(弥生時代中期 1)
- 図版第 2 出土遺物実測図(弥生時代中期 2)
- 図版第 3 出土遺物実測図(弥生時代中期 3)
- 図版第 4 出土遺物実測図(弥生時代中期 4)
- 図版第 5 出土遺物実測図(弥生時代中期 5)
- 図版第 6 出土遺物実測図(弥生時代中期 6)
- 図版第 7 出土遺物実測図(弥生時代中期 7)
- 図版第 8 出土遺物実測図(弥生時代中期 8)
- 図版第 9 出土遺物実測図(弥生時代中期 9)
- 図版第 10 出土遺物実測図(弥生時代中期 10)
- 図版第 11 出土遺物実測図(弥生時代中期 11)
- 図版第 12 出土遺物実測図(弥生時代中期 12)
- 図版第 13 出土遺物実測図(弥生時代中期 13)
- 図版第 14 出土遺物実測図(弥生時代中期 14)
- 図版第 15 出土遺物実測図(弥生時代中期 15)
- 図版第 16 出土遺物実測図(弥生時代中期 16)
- 図版第 17 出土遺物実測図(弥生時代中期 17)
- 図版第 18 出土遺物実測図(弥生時代中期 18)
- 図版第 19 出土遺物実測図(弥生時代中期 19)
- 図版第 20 出土遺物実測図(弥生時代 1)
- 図版第 21 出土遺物実測図(弥生時代 2)
- 図版第 22 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期 1)
- 図版第 23 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期 2)
- 図版第 24 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期 3)
- 図版第 25 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期 4)
- 図版第 26 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期 5)
- 図版第 27 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期 6)

- 図版第28 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期7)
- 図版第29 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期8)
- 図版第30 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期9)
- 図版第31 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期10)
- 図版第32 出土遺物実測図(弥生時代後期～古墳時代前期11)
- 図版第33 出土遺物実測図(古墳時代中期・後期1)
- 図版第34 出土遺物実測図(古墳時代中期・後期2)
- 図版第35 出土遺物実測図(古墳時代中期・後期3)
- 図版第36 出土遺物実測図(古墳時代中期・後期4)
- 図版第37 出土遺物実測図(古墳時代中期・後期5)
- 図版第38 出土遺物実測図(古墳時代中期・後期6)
- 図版第39 出土遺物実測図(古墳時代中期・後期7)
- 図版第40 出土遺物実測図(古墳時代中期・後期8)
- 図版第41 出土遺物実測図(古墳時代中期・後期9)
- 図版第42 出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代1)
- 図版第43 出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代2)
- 図版第44 出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代3)
- 図版第45 出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代4)
- 図版第46 出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代5)
- 図版第47 出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代6)
- 図版第48 出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代7)
- 図版第49 出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代8)
- 図版第50 出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代9)
- 図版第51 出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代10)
- 図版第52 出土遺物実測図(石鏃)
- 図版第53 出土遺物実測図(石錐・磨製石鏃等)
- 図版第54 出土遺物実測図(石斧1)
- 図版第55 出土遺物実測図(石斧2)
- 図版第56 出土遺物実測図(石斧3)
- 図版第57 出土遺物実測図(敲石類1)
- 図版第58 出土遺物実測図(敲石類2)
- 図版第59 出土遺物実測図(敲石類3)

- 図版第60 出土遺物実測図(石皿)
- 図版第61 出土遺物実測図(砥石 1)
- 図版第62 出土遺物実測図(砥石 2)
- 図版第63 出土遺物実測図(砥石 3)
- 図版第64 出土遺物実測図(砥石 4)
- 図版第65 出土遺物実測図(管玉未製品)
- 図版第66 出土遺物実測図(石鋸等)
- 図版第67 出土遺物実測図(管玉・勾玉・有孔円板)
- 図版第68 出土遺物実測図(白玉 1)
- 図版第69 出土遺物実測図(白玉 2)
- 図版第70 出土遺物実測図(白玉・ガラス小玉)
- 図版第71 出土遺物実測図(土錘・紡錘車)
- 図版第72 出土遺物実測図(紡錘車・鉄鏃・刀子等)
- 図版第73 出土遺物実測図及び拓本(数珠玉・銭貨)
- 図版第74 (1) L・Mトレンチ下層遺構検出状況(東から)
(2) Lトレンチ下層遺構(ピット群)検出状況(南東から)
- 図版第75 (1) 竪穴式住居跡29(東から) (2) 竪穴式住居跡24(東から)
- 図版第76 (1) 竪穴式住居跡26遺物出土状況(西から) (2) 竪穴式住居跡26(南から)
- 図版第77 (1) 竪穴式住居跡26遺物出土状況(南から)
(2) 竪穴式住居跡26遺物出土状況(南から)
- 図版第78 (1) 竪穴式住居跡28遺物出土状況(西から)
(2) 竪穴式住居跡27遺物出土状況(南から)
- 図版第79 (1) 竪穴式住居跡32(東から) (2) 竪穴式住居跡30・31(西から)
- 図版第80 (1) 方形周溝墓 1 (南から) (2) 方形周溝墓 1 主体部(北から)
- 図版第81 (1) 方形周溝墓周溝(溝 5～7)遺物出土状況(南から)
(2) 方形周溝墓周溝(溝 5～7)遺物出土状況(南から)
- 図版第82 (1) 溝 5 遺物出土状況(東から) (2) 溝 5～7 遺物出土状況(北から)
- 図版第83 (1) 土坑18(東から) (2) 溝27遺物出土状況(南から)
- 図版第84 (1) 石鋸検出状況(南東から) (2) 管玉未製品検出状況(南から)
- 図版第85 (1) G・Fトレンチ遺構検出状況(東から)
(2) Eトレンチ遺構検出状況(東から)
- 図版第86 (1) 竪穴式住居跡11(南から) (2) 竪穴式住居跡11(西から)

- 図版第87 (1) 竪穴式住居跡12(北から) (2) 竪穴式住居跡12(北から)
- 図版第88 (1) 竪穴式住居跡13遺物出土状況(北から) (2) 竪穴式住居跡13(北から)
- 図版第89 (1) 竪穴式住居跡14(南から) (2) 竪穴式住居跡14(南から)
- 図版第90 (1) 竪穴式住居跡14・15・16(東から) (2) 竪穴式住居跡15・16(南から)
- 図版第91 (1) 竪穴式住居跡16(南から)
(2) 竪穴式住居跡16周壁溝遺物出土状況(南東から)
- 図版第92 (1) 竪穴式住居跡17(西から) (2) 竪穴式住居跡17(南から)
- 図版第93 (1) 竪穴式住居跡25遺物出土状況(北から) (2) 竪穴式住居跡25(東から)
- 図版第94 (1) 竪穴式住居跡33・34(北東から) (2) 土器溜まり4(南西から)
- 図版第95 (1) 土器溜まり2(南から) (2) 土器溜まり3(東から)
- 図版第96 (1) C・Dトレンチ下層遺構検出状況(東から)
(2) Cトレンチ下層遺構検出状況(西から)
- 図版第97 (1) 竪穴式住居跡2・5・6(南から) (2) 竪穴式住居跡3・8(南から)
- 図版第98 (1) 竪穴式住居跡1(北から) (2) 竪穴式住居跡1白玉出土状況(東から)
- 図版第99 (1) 竪穴式住居跡2(西から) (2) 竪穴式住居跡2特殊ピット(西から)
- 図版第100 (1) 竪穴式住居跡3遺物出土状況(南東から) (2) 竪穴式住居跡3(南東から)
- 図版第101 (1) 竪穴式住居跡3ピット遺物出土状況(南から)
(2) 竪穴式住居跡3ピット遺物出土状況(西から)
- 図版第102 (1) 竪穴式住居跡4(南東から)
(2) 竪穴式住居跡4特殊ピット遺物出土状況(南西から)
- 図版第103 (1) 竪穴式住居跡4有孔円板出土状況
(2) 竪穴式住居跡4有孔円板出土状況
- 図版第104 (1) 竪穴式住居跡5遺物出土状況(東から) (2) 竪穴式住居跡5(東から)
- 図版第105 (1) 竪穴式住居跡5ピット遺物出土状況(東から)
(2) 竪穴式住居跡5ピット遺物出土状況(北から)
- 図版第106 (1) 竪穴式住居跡6(南から) (2) 竪穴式住居跡6(南から)
- 図版第107 (1) 竪穴式住居跡10(南東から) (2) 竪穴式住居跡10遺物出土状況(東から)
- 図版第108 (1) 土器溜まり5(北から) (2) 土器溜まり5(北西から)
- 図版第109 (1) A・B・C期建物跡群(南から) (2) D・E期建物跡群(南から)
- 図版第110 (1) C・Dトレンチ掘立柱建物跡群(東から) (2) 掘立柱建物跡9(北から)
- 図版第111 (1) 掘立柱建物跡10・12(南から) (2) 掘立柱建物跡1
- 図版第112 (1) 掘立柱建物跡5(北から) (2) 掘立柱建物跡3・4

- 図版第113 (1)掘立柱建物跡9(図版第110のb)掘形断ち割り(南から)
(2)掘立柱建物跡9(図版第110のa)掘形断ち割り(南から)
- 図版第114 (1)掘立柱建物跡9(図版第110のc)掘形断ち割り(南から)
(2)掘立柱建物跡9(図版第110のd)掘形断ち割り(南から)
- 図版第115 (1)掘立柱建物跡9(図版第110のe)掘形断ち割り(南から)
(2)掘立柱建物跡9(図版第110のf)掘形断ち割り(南から)
- 図版第116 (1)掘立柱建物跡9(図版第110のg)掘形断ち割り(南から)
(2)掘立柱建物跡13(南西から)
- 図版第117 (1)竪穴状遺構床面焼土(東から) (2)竪穴状遺構(南から)
- 図版第118 (1)竪穴式住居跡18(南から) (2)竪穴式住居跡18遺物出土状況(南から)
- 図版第119 (1)竪穴式住居跡23(南西から) (2)竪穴式住居跡22(北東から)
- 図版第120 (1)竪穴式住居跡21(南から) (2)土器溜まり7(東から)
- 図版第121 (1)Jトレンチ溝状遺構(東から) (2)Mトレンチ中世墓(西から)
- 図版第122 弥生時代中期の土器(1)
- 図版第123 弥生時代中期の土器(2)
- 図版第124 弥生時代中期の土器(3)
- 図版第125 弥生時代中期の土器(4)
- 図版第126 弥生時代中期の土器(5)
- 図版第127 弥生時代中期の土器(6)
- 図版第128 弥生時代中期の土器(7)
- 図版第129 弥生時代中期の土器(8)
- 図版第130 弥生時代後期～古墳時代前期の土器(1)
- 図版第131 弥生時代後期～古墳時代前期の土器(2)
- 図版第132 弥生時代後期～古墳時代前期の土器(3)
- 図版第133 古墳時代中期の土器(1)
- 図版第134 古墳時代中期の土器(2)
- 図版第135 古墳時代中期の土器(3)
- 図版第136 古墳時代中期の土器(4)
- 図版第137 古墳時代中期の土器(5)
- 図版第138 古墳時代中期の土器(6)
- 図版第139 飛鳥・奈良時代の土器(1)
- 図版第140 飛鳥・奈良時代の土器(2)

- 図版第141 石器(1)
図版第142 石器(2)
図版第143 石器(3)
図版第144 石器(4)・玉作り関係遺物
図版第145 玉類等
図版第146 土錘・紡錘車
図版第147 数珠玉・銅銭・鉄製品

桑飼上遺跡発掘調査報告書

はじめに

桑飼上遺跡は、京都府北部を貫流する由良川の河口からさかのぼること十数kmの自然堤防上に位置している。

近隣には縄文時代の集落跡である桑飼下遺跡や、縄文時代前期や弥生時代の集落・墓地が確認された志高遺跡など、京都府北部でも考古学上きわめて重要で、しかも有数の大遺跡が集中している。

桑飼上遺跡の発掘調査は、建設省が計画した由良川改修工事に伴うもので、昭和62年度に試掘調査を実施し、昭和63年度から平成2年度までの3か年にわたって本格調査を行った。その後、平成3年度から平成5年度にかけて整理作業を実施した。

これらの作業に伴う費用は、全額建設省が負担した。

調査に伴う組織は、以下のとおりである。

調査に関しては、建設省近畿地方建設局福知山工事事務所・同舞鶴出張所・舞鶴市教育委員会社会教育課・同耕地課・同土木課・同市史編纂室・京都府教育委員会・同中丹教育局・舞鶴地方振興局・京都府立丹後郷土資料館及び地元の桑飼上地区の方がたの協力を得た。また、以下の方がたからご指導・ご助言をいただいた(敬称略)。

金村允人・佐原 眞・杉本嘉美・高橋美久二・堤圭三郎・長谷川達・吉岡博之・飯塚武司・寒川 旭・近澤豊明・都出比呂志・中寫陽太郎・中村孝行・広瀬和雄・穂積裕昌・宮本長二郎・山中敏之・和田晴吾・坪井清足・田中 琢・赤澤徳明・小橋拓司・佐藤晃一・杉原和雄・成瀬敏郎・森下 衛・佐藤 哲

なお、調査に参加していただいた方がたは以下のとおりである(敬称略)。

池田 力・倉橋谷夫・倉橋三男・小谷弥太郎・嵯峨 勉・佐藤一郎・佐藤健一・佐藤哲・佐藤正作・佐藤春夫・佐藤治幸・佐藤 勉・佐藤芳夫・新宮又健・高橋松見・橋垣周郎・南谷 工・南谷虎夫・山崎源治・吉岡 譲・若狭義明・碓 弥生・井上英子・井上久子・今西アヤノ・今西和子・今西ひさ江・白井あき子・梅原トシ江・瓜生初枝・倉橋ヤエ・河合美智子・河合好乃・河崎和子・新宮久野・新宮ヒサノ・新宮久野・新宮 操・新宮美代子・嵯峨ひさ江・佐藤清栄・佐藤修子・佐藤弘美・佐藤文子・佐藤マサ枝・佐藤正子・佐藤増江・佐藤ミドリ・佐藤ミネ子・佐藤ヤス子・谷口美年子・土井淑子・永野澄

慧・永野久枝・牧 鈴子・真下朝野・真下重子・真下志津江・真下チセノ・真下トメ子・
真下幸江・水口和子・村上千里・森野石子・荒賀俊貴・荒木尚之・飯田 徹・岩崎浩一・
岩永篤彦・岡本英一・岸岡貴英・小橋拓司・高山太郎・中尾重宏・野田敦子・真下定平・
真下徳也・山本政敏・轟なをみ・中本憲子・西川悦子・山下雅子・白井三郎・白井信夫・
倉橋吉雄・土井康雄・山田優紀・吉岡勇治・小田敦子・沢藤光子・谷口成美・中村ひろ
み・野田友子・今井欽之・加藤晴彦・金森昭憲・佐藤宏典・高田 洋・辻川哲朗・中野智
章・宝珍伸一郎・松本達也・小沼のり子・末武雅子・高木里佳・苗村明美・服部智佳・堀
由香里・山下恵里・井之本知美・真下春美・荒賀正之・佐藤孝雄・真下朋之・芦田歌子・
迫田美美・佐藤佳美・野田雅美・矢野千代子・山下記代子・荒賀敏貴・荒堀裕巳・岡本泰
典・仲川 隆・野間一宏・芦田佐和子・沼辺 香・長田京子・谷口正行・宮野勝行・江口
啓子・本田美津子・木村雅哉・西角雅士・上田貴子・野田裕子・藤井路子・白井宏美・日
置京子・布川依子・貢 鏡子・村上喜美子・石原祐子・杉本厚典・山本弥生・長友朋子・
藤澤地恵

第1章 位置と環境

第1節 地理的環境

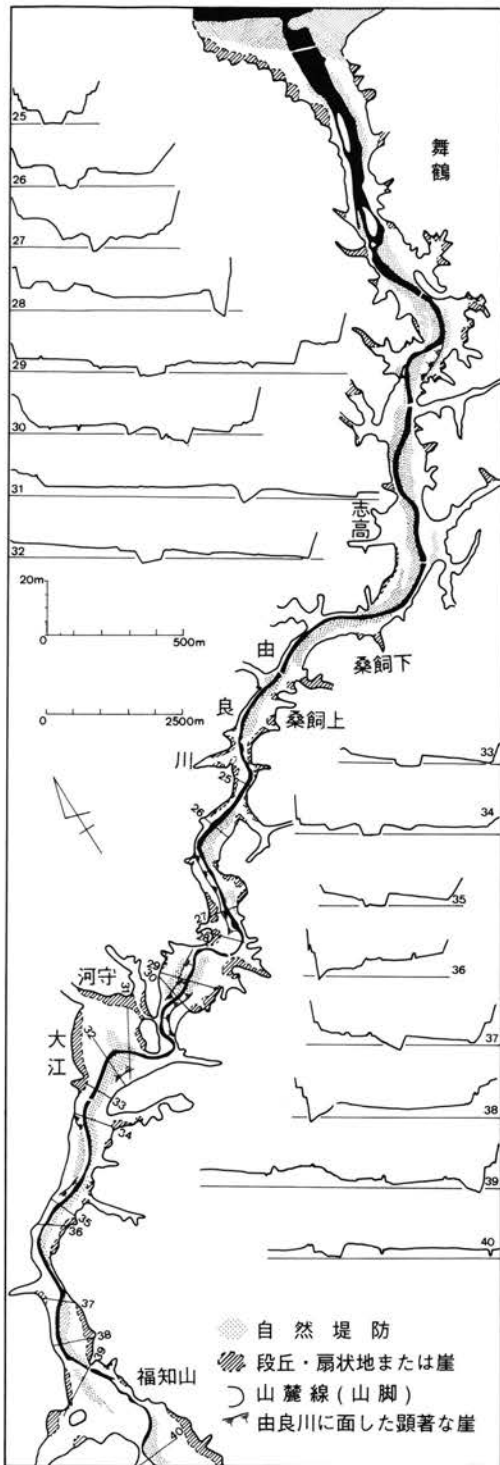
桑飼上遺跡は、京都府舞鶴市の桑飼上にあり、由良川右岸に位置している。由良川は、京都府北桑田郡美山町に源を発し、丹波山地を西流する。標高が300~1000mの隆起準平原である丹波山地は、東に高く西に低い傾動地塊なので、由良川の幹流は、この傾動地塊を必従的に流れていることになる。福知山・綾部盆地に入り、はじめて沖積低地が展開し、上林川、土師川、和久川、牧川などの主な支流がここで合流する。そして流路を北東に大きく変え、大江町、舞鶴市を流れ下り、若狭湾に注いでいる。

福知山から下流の約35kmは、平野の幅が非常に狭くなり、大江町の河守盆地を除けば、幅が1kmを越えることはない。また河川の平均傾斜は1万分の1程度しかない緩流河川となる。由良川は、このような狭窄部を緩く蛇行し、滑走斜面にあたる河岸の凸部に比高の大きな微高地を発達させている。桑飼上遺跡はそうした微高地の一つに存在する。

由良川流域は古くから洪水の多発する地域として知られてきた。その要因としては、下流部の河川傾斜が緩やかな河川であること、由良川の代表的な支流の大部分が中流域の福知山・綾部盆地で合流する求心状の水系パターンをとること、下流域では山麓がせまり、平野の幅が非常に狭いことなどが考えられる。下流域では洪水位が高いことが特徴的で、10mを越えることもしばしばあり、湛水日数は2から3日である。いくつもの狭窄部はボトルネックとなって、ダムアップを助長し、下流の狭窄部より上流側へと逆流浸水することもある。したがって、洪水による浸水域は狭窄部でややくびれた数珠状の湖水域を形成している。洪水位が高いため、小規模の洪水では、微高地は冠水しないが、中規模程度以上の洪水になると冠水してしまう。このため微高地は洪水に対し決して安



第1図 調査地位置図



第2図 由良川沿岸の微地形と集落位置(籠瀬良明作 1962)

全な場所とはなっていない。

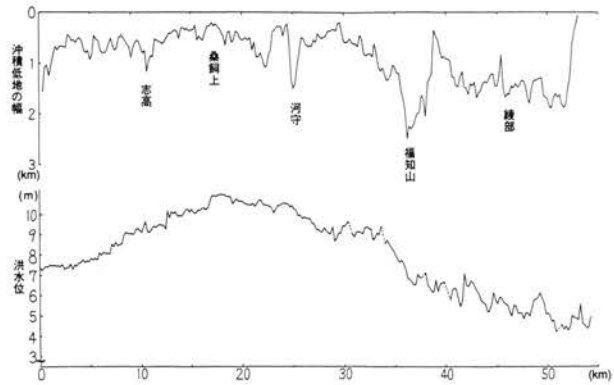
そこで、由良川下流域平野において、河畔の微高地上の集落は明治40年の水害などをきっかけとして移転を行ってきた。桑飼上においても例外ではなく、字谷舟戸(現由良橋近く)には20数戸の家があったが、明治40年の水害によって流出したのを機に、村内あるいは隣村に集落移転をおこなっている^(注1)。

由良川中・下流域は、狭長な沖積低地と水害の多発地域として、研究者に注目されてきた。小出(1970)は、由良川は「下流溪谷部の勾配が極めて小さく長いため、福知山盆地に常習的な洪水被害が現われる」と述べ、このように中流域に盆地をもち、下流部が狭窄部になっている河川は東北地方の河川では、ごく普通にみられるが、西南日本では、円山川、江川を除き由良川以外にほとんどみられない特異な河川であると指摘している^(注2)。

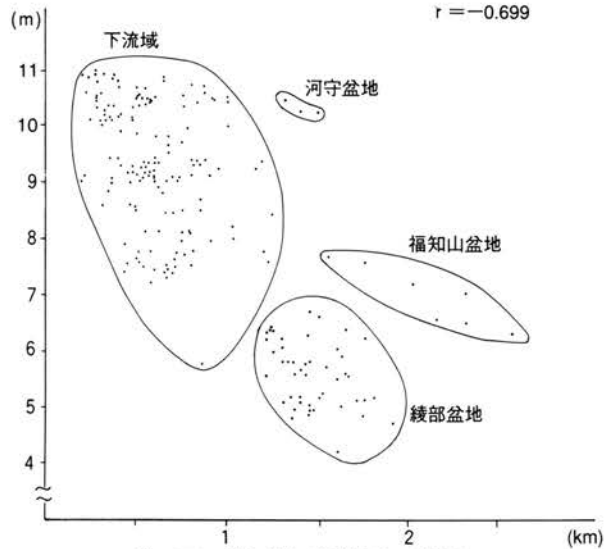
一方、由良川下流域の詳細な地形・水害調査をおこなってきた籠瀬^(注3)は、蛇行帯の幅と平野の幅との広狭を比較して、沖積平野を「広い平野」と「狭い平野」とに区分している。そして狭い平野について、「蛇行帯の側刻により、急崖

線の後退、平野幅の増大の進行中のものが狭い平野である。言い換えるとその河川が求める蛇行帯の幅に達しない、幅の狭い平野である。」と述べ、その例として、由良川をあげている。

このような狭長な河川では、河川の移動が制限されるため、堆積の場も移動しにくく、洪水位も高くなる。このため微高地は継続的に形成され、高い比高をもつのが特徴である。第2図で示したように由良川下流域の低地の平面形態と、微高地の位置関係をみると、河道の攻撃斜面側すなわち河道の凹岸は、山麓に接している。このことは由良川の蛇行帯の幅(波長)が、沖積低地の幅よりも狭いことを示している。逆に河道の凸岸



第3図 洪水位と沖積低地の幅(1)



第4図 洪水位と沖積低地の幅(2)

にあたる滑走斜面では堆砂がおり、微高地を形成している。従来、由良川下流域の微高地に対して自然堤防の名称を与えてきたが、一般的に自然堤防は攻撃斜面側に形成されることが多い。したがって、ポイントバーなどの微高地も自然堤防の中に入れてしまっていないか再検討する必要がある。

沖積低地の幅と洪水の関係について考察するため、河口部より上流に向かって500mごとに沖積低地の幅を測定し、洪水位との関係をみたのが第3図である。由良川中・下流低地は狭長な平野であるため、河口部から一定の距離ごとに平野の幅をとっても大河川ほど誤差はでないと考えられる。洪水は近年のものでは、昭和47年7月、9月、49年9月、58年9月、平成2年9月に大規模なものが発生し、建設省の福知山工事事務所によって洪水位が調べられている。ここでは昭和58年9月の洪水位を使用した。資料未見の平成2年9

月のものを除き他の洪水位についても検討を行ったが、ほぼ同じ傾向であることが確かめられた。最も洪水位が高くなるのは河守盆地の下流阿良須から桑飼上にかけてで、洪水位は11mに達する。先に述べたように下流部では一般に洪水位が高い。反対に上流部では徐々に水位を下げ、福知山・綾部盆地では5から7mに低下する。

この関係をよりはっきりさせるため、縦軸に洪水位をとり、横軸に沖積低地の幅をとり、第3図で示した500m間隔の地点をプロットしてみたのが第4図である。これをみると、河守・福知山・綾部の各盆地は、それぞれ沖積平野と洪水位との関係において独自の傾向を示し、グルーピングが可能である。「下流域」とは福知山盆地より下流域を指しているが、沖積低地の幅はほぼ1km以下で、洪水位もほとんどのものが7m以上である。

このように狭窄部で洪水位が上昇するような洪水の特性は、沖積層が堆積し、沖積低地の陸化以降、大きく変わることがなかったと考えられる。長い年月にわたって洪水による堆積作用を繰り返しながら、低地の微高地が形成されてきたのである。しかしながら、洪水特性に大きな変化がなくても、洪水頻度に関しては変化があったものと考えられ、洪水の頻発する時代やあまり発生しない穏やかな時代が繰り返されたことであろう。考古学的な資料や地質資料の蓄積から、この点についての解明が望まれる。

(小橋拓司)

第2節 歴史的環境

1. はじめに

由良川流域の地域区分は、自然地形による区分と遺跡の分布密度により、中流域の綾部・福知山盆地と下流域の由良川河口部付近の2か所による大別区分が实际的である。

由良川流域の遺跡は、縄文時代～奈良時代にかけての集落遺跡及び墳墓については、自然堤防上の遺跡が多いが、特にその傾向は、平野部の少ない下流域から河口部にかけて顕著である。ここでは近年の発掘調査の成果を中心に課題を概観したい。

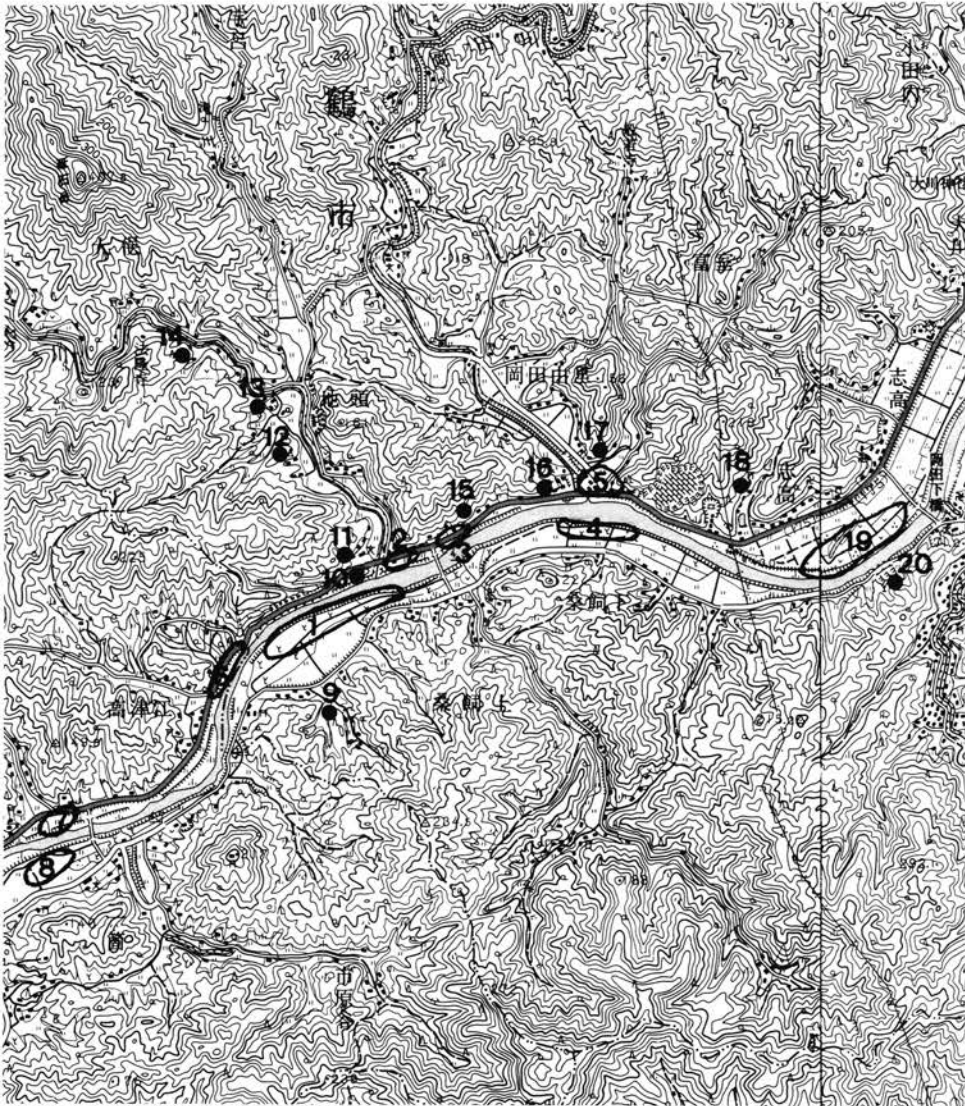
2. 中流域の遺跡

縄文時代以前 旧石器時代の遺物については、由良川の河岸段丘上や氾濫原などで採集されているが、遺構に伴って確認されたものはなく、遺跡の規模・性格については検討の課題となっている。

縄文時代 中地遺跡(綾部市)、奥野部遺跡(福知山市)、和久寺遺跡(福知山市)などで有舌尖頭器が出土した。中地(凹基式)、奥野部(凸基式)が二上山サヌカイト製とされ、和久

寺(逆三角基式)がチャート製である。武者ヶ谷遺跡(福知山市)から出土の草創期とされる小型丸底土器は、古墳の墳丘中からの単独出土という出土状況であり、小型丸底の器形をなし、口縁部への刺突文を持つ特殊なものである。

弥生時代 集落遺跡の立地は、自然堤防上に集中する。前期の遺跡は、具体相が明確で



第5図 桑飼上遺跡の位置と周辺の遺跡(1/50,000)

- | | | | | |
|------------|------------|-----------|----------|------------|
| 1. 桑飼上遺跡 | 2. 地頭遺跡 | 3. 地頭東遺跡 | 4. 桑飼下遺跡 | 5. 岡田由里遺跡 |
| 6. 高津江遺跡 | 7. 三河宮ノ下遺跡 | 8. 二箇遺跡 | 9. 上村古墳群 | 10. 城古墳群 |
| 11. 山根古墳 | 12. 西飼古墳 | 13. 別荘古墳 | 14. 大俣城跡 | 15. ニヤ古墳 |
| 16. 水無月山遺跡 | 17. 枝宮古墳 | 18. 葉師谷古墳 | 19. 志高遺跡 | 20. シゲツ墳墓群 |

はない。青野・綾中遺跡群(綾部市)は、由良川中流域の弥生時代における拠点集落であるが、近年新たに前方後方形周溝墓が発見され、その系譜が検討の課題となった。

興遺跡(福知山市)では、中期後半の環濠集落の一端が明らかにされ、環濠内から分銅形土製品も出土した。観音寺遺跡(福知山市)では古く銅剣形石剣の出土が知られている。

墳墓の調査は、綾部・福知山盆地東半部(福知山市域)では、丹後・但馬地域に一般的な方形台状墓群が築造される地域で、豊富谷丘陵墳墓群、宝蔵山墳墓群(福知山市)などがある。一方、盆地西半部(綾部市域)の久田山墳墓群(綾部市)では、方形台状墓と方形周溝墓が共存しており、盆地の中で墓制の異なりを示している。

古墳時代 これまで由良川中流域では、古墳時代前・中期にさかのぼる明確な前方後円墳が確認できず、副葬品に鏡を持つもの(完形鏡・破鏡の別がある)や、必ずしも明確な盛り土墳ではないが、擬凹線文の土器を含まず布留式以前の土器が出土するものまでも含めて古墳として取り扱ってきた。成山2・3号墳(綾部市)、広峯・寺ノ段古墳群、豊富谷丘陵遺跡群(福知山市)の一部がそれである。しかし、景初四年銘鏡を副葬する広峯15号墳(福知山市)の調査により、この古墳の築造をどのように評価するかが、由良川中流域の古墳出現期の重要な課題となった。この古墳は、外表施設は葺石・埴輪の欠落、埋葬施設は、割竹形木棺+竪穴式石室または粘土槨の不採用、あるいは副葬品についても、鏡・鉄製武器などの量的副葬といった古墳としての構成要素が認められない。いまのところ、福知山盆地には、東半部・西半部ともに他に前方後円墳はみられず、広峯15号墳だけが前方後円墳として突出した古墳なのである。

前方後円墳以外の前半期古墳は、綾部・福知山盆地西半部(福知山市域)の首長墓については、方墳+組合式木棺ないし石棺が主流である地域と位置付けられる。宝蔵山4号墳は、中心主体に組合式木棺ないし土器棺を用いるもので、副葬品も鉄剣、鉄鏃などのみで、きわめて乏しい。八ヶ谷古墳では、竪穴式石室の構造の強い影響下に成立したと見られる組合式石棺を有し、副葬品のなかに琴柱形石製品を含む。稲葉山8・9号墳は、副葬品の少ない在地色の強い方墳ととらえられる。また、三宅遺跡(綾部市)の土壙墓群は、集落の一般成員の共同墓地の可能性も指摘されている。

古墳時代中期には、福知山盆地東半部(綾部市域)で葺石・埴輪・周濠を備える菖蒲塚・聖塚古墳の相次ぐ築造をみ、東半部と西半部(福知山市域)の接点に甲冑を副葬する大型円墳の私市円山古墳が築造され、ここに方墳主流地域の由良川中流域は大きな画期を迎える。

大型円墳の私市円山古墳に続く首長墓は、高槻茶臼山古墳(綾部市)、稲葉山1号墳(福知山市)、殿山1号墳、沢3号墳(綾部市)など中期後半から後期前半にかけて、前方後円墳が拠点的に築造される。このうち、稲葉山1号墳を契機として、三段池古墳群が、沢3

号墳を契機として以久田野古墳群などの木棺直葬を埋葬施設とした群集墳が形成される。また、三段池周辺には賀茂野窯跡があり、6世紀中葉には須恵器生産が行われている。

後期後半に始まる横穴式石室を埋葬施設とした後期後半型群集墳は、下山古墳群・額塚古墳群(福知山市)等が豊富谷に集中的に形成される。ほかに横穴系埋葬施設の特異な墓制として中坂・仏山古墳群(福知山市)にみる木芯粘土室(横穴式木室)が盆地東半部に集中する。

石本遺跡(福知山市)は、鈴鏡を出土する弁財古墳を築造契機とする牧古墳群に隣接し、集落と古墳の関係を考える好例となっている。

飛鳥・奈良時代以降 青野・綾中遺跡群が律令時代にも、由良川中流域の拠点となるが、中でも綾中廃寺は郡衙付属寺院、青野南遺跡は何鹿郡衙に比定する意見もある。また、群集墳の集中地域であった豊富谷には和久寺廃寺が築造される。

官衙遺跡の調査については、小西町田遺跡(綾部市)では、平安時代の掘立柱建物跡群が検出され、緑釉陶器・灰釉陶器・青磁・白磁などが出土し、官衙関連遺跡の可能性もある。経塚と古墓についても近年の調査により、重要な成果がある。大道寺経塚(福知山市)と大内城古墓(福知山市)がそれである。平安時代末～鎌倉時代初頭(12世紀末～13世紀初頭)の大道寺経塚では、文献には記録があるものの、これまで未見の竹製経筒が確認された。経塚の構造自体も横口式ともいふべき、丹後、但馬、丹波にのみ見られる独特の構造を持ち、経塚造営の意義を再考させる資料を提示している。

大内城古墓は、鎌倉時代～南北朝時代(12世紀末～14世紀後半)にかけて次々と築造されたもので、骨蔵器に常滑焼を使用しているものもある。また、山田館跡(福知山市)でも古瀬戸の瓶子が骨蔵器として使用されていた。

城館の調査については、大内城(福知山市)、平山城館(綾部市)において中世の山城の具体相が明らかとなった意義は大きい。

3. 桑飼上周辺の遺跡—由良川下流域—

遺跡の立地 1961年八雲遺跡(舞鶴市)での由良川河底からの砂利採取に伴う縄文土器の発見以来、下流域から河口部にかけては河底からの採集品が中心であったが、1973年の桑飼下遺跡(舞鶴市)の発掘で、はじめて自然堤防上の遺跡の存在が注目されることとなった。

縄文時代 志高遺跡(舞鶴市)では、縄文時代前期の土器様相を検討するに足る良好な土器群が検出された。桑飼下遺跡は後期を主体とする集落遺跡だが、600点以上の多量の打製石斧が出土し、自然堤防上での地下茎類の採集を示唆するものとも考えられている。

祭祀関連遺物については、三河宮の下遺跡(大江町)では土偶が、桑飼下遺跡では岩版・土偶・石棒などが出土し、東日本の縄文文化の影響をうかがわせる。ほかに、由良川河口

部の城ヶ谷遺跡(宮津市)では大型石棒が存在していることも注意される。

装身具の出土は、三河宮の下遺跡、志高遺跡ではいずれも欠損した珉状耳飾り、桑飼下遺跡では土製耳飾りが出土している。

弥生時代 集落の祭祀として、志高遺跡では中期後半磨製石剣の破碎祭祀を問題提起している。由良川河口部に近い丘陵端部の由良遺跡(宮津市)では、銅鐸の出土の伝承がある。

志高遺跡・桑飼上遺跡で中期中葉～後葉の方形周溝墓が確認され、自然堤防上の弥生時代集落での居住空間と墳墓域についてのあり方を示している。また、志高遺跡では、中期後葉の貼り石方形墓が確認され、類似の貼り石墓は、丹後半島にも存在することが明らかとなった。ほかに、墳墓として弥生時代後期前半の土器棺墓の水無月山墳墓(舞鶴市)、丘陵上のシゲツ4号墓(舞鶴市)がある。

古墳時代 下流域には、これまで前期にさかのぼる古墳が知られていなかったが、三庄太夫城ヶ腰墳墓(舞鶴・宮津市境)の発掘は、下流域における古墳時代前期のあり方を示すものとなった。三庄太夫城ヶ腰墳墓は、立地が丘陵頂部であり、単独墳の様相を示し、埋葬施設の配列には、中心主体と明確に位置付けられるものがなく、2基の埋葬施設が直交し、副葬品は全く持たず、むしろ古墳と呼ぶべき要素に乏しい。

中期古墳の実態も明らかではないが、桑飼上遺跡では滑石製の孔円板・勾玉・白玉の石製模造品を伴う祭祀・古式須恵器の存在を考えれば、当該期の古墳が当然存在すると考えられる。しかし、後期古墳は小規模な古墳が知られているにすぎず、桑飼上遺跡の墳墓地である横穴式石室を持つ上村古墳群(舞鶴市)なども群集墳としては発達しない。加えて、桑飼上・志高遺跡でも古墳時代後期後半～末葉の出土品はきわめて少なくなっている。

飛鳥・奈良時代以降 シゲツ窯跡(舞鶴市)の発掘調査は、由良川の水運に製品の搬出を依拠させた立地の可能性のあるものとしてきわめて注目されるが、飛鳥Ⅱ～Ⅲ型式に並行する時期としては、隣接する桑飼上・志高・桑飼下の各遺跡からは、この時期の出土品は少なく、供給地がどこであったか検討の課題となる。

桑飼上遺跡では、律令的土器様式の完成・定着期である平城Ⅱ～Ⅲ型式並行期に至り、きわめて規格性の高い掘立柱建物跡群が出現しているが、飛鳥Ⅲ型式前後の時期の掘立柱建物跡群が存在する可能性があり、強い規格性を有する奈良時代中葉前後の掘立柱建物跡群の性格を検討する上で重要である。また、桑飼下遺跡では二彩陶器片が出土しており、交通の要衝としての桑飼下遺跡の立地が検討の課題となる。

平安時代末～鎌倉時代の由良川河口部には、胡州鏡を伴う油江経塚(舞鶴市)・青磁碗を副葬する志高墳墓が営まれるようになり、ある時期の丹後国分寺や国府の推定地として必要な条件は充たしているといえよう。

(細川康晴)

第2章 調査の経過

第1節 昭和62年度の調査(遺跡範囲の確認調査)

遺跡推定範囲の下流側、約三分の二の部分調査対象地として合計12か所のトレンチ(1～12トレンチ)を設定し、範囲確認のための試掘調査を実施した。

この調査の結果、河川の氾濫ですでに流失したか所も認められるが、各調査地区から、^(注5) おおむね弥生時代中期から奈良時代に属する遺構・遺物が検出された。

第2節 昭和63年度の調査(第2次調査地区の発掘調査)

前年度の試掘調査の結果をもとに地区割り設定を行った後、まずA～Dトレンチを対象に発掘調査を実施した。また、前年度に未着手であった5か所(13～17トレンチ)の試掘調査も合わせて行った。

第2次調査地区の遺構検出面は二層(面)あり、上層では、奈良時代初期(8世紀初め)の掘立柱建物跡群、下層では、古墳時代前半(5世紀)頃の竪穴式住居跡群からなる遺構が検出された。このうち、上層で検出された掘立柱建物跡群は、各々の建物跡規模が大きく、^(注6) 規則性をもつ相互の配置等から、豪族居館あるいは公的な施設に係わると考えられる。

第3節 平成元年度の調査(第3次調査地区の発掘調査)

昭和62・63年度に行った範囲確認調査の結果を受け、E～Kトレンチの発掘調査を実施した。この地区では、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての竪穴式住居跡7基を検出した。住居跡の内訳は、円形住居跡2基、方形住居跡5基である。各住居跡からは、土器類のほか、^(注7) ガラス製小玉や碧玉製管玉等の玉類が出土し注目された。

第4節 平成2年度の調査(第4次調査地区の発掘調査)

調査最終年度に当たる。遺跡の東端L～Nトレンチの調査を実施し、上下二層の遺構面を確認した。

下層は、弥生時代中期の遺構群からなり、円形竪穴式住居跡6基・方形竪穴式住居跡4基・方形周溝墓・土坑等を検出した。それぞれの遺構の重複関係から、居住区から墓域への変遷が明らかになった。

上層は、奈良時代の遺構群で、竪穴式住居跡6基・掘立柱建物跡数棟・土坑等を検出した。検出した竪穴式住居跡の中には、「青野型住居跡」と呼ばれる平面形が特異な住居跡が含まれており注目された。^(注8)

(辻本和美)

付表1 桑飼上遺跡調査組織及び調査内容一覧表

調査回数	第1次調査	第2次調査	第3次調査	第4次調査
調査年次	昭和62年度	昭和63年度	平成元年度	平成2年度
調査期間	1987.7.6～ 1988.2.10	1988.4.11～ 1989.3.10	1989.4.18～ 1990.2.27	1990.4.3～ 1991.3.5
調査トレンチ	1～12	13～17・A～D	E～K	L～N
調査面積	約2,100	約4,906	約4,000	約4,000
調査主体者	理事長 福山敏男	同左	同左	同左
調査責任者	事務局長 荒木昭太郎	同左	同左	松阪寛支
調査担当責任者	事務局次長 中谷雅治 調査第2課長 杉原和雄	同左 同左	同左 同左	同左 安藤信策
事務局責任者	総務課長 田中秀明	同左	事務局次長 山本 勇	小林将夫
調査担当	調査第2課 調査第1係長 辻本和美 同調査員 肥後弘幸 細川康晴	同左 同左 同左 森 正 中川和哉	同左 細川康晴 石崎善久 森島康雄	水谷壽克 同左 同左 岸岡貴英 野島 永



第6図 桑飼上遺跡トレンチ配置図

第3章 桑飼上遺跡の概要

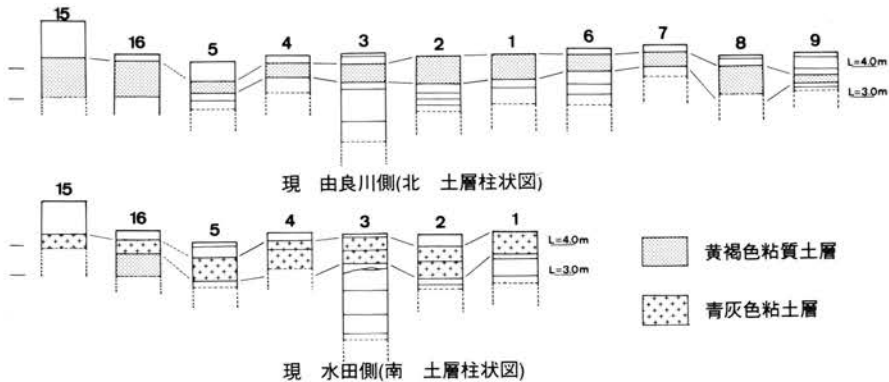
第1節 基本層序

調査地は、東西に長くのびる自然堤防の上に帯状に設定した。調査地の北側(現由良川)は、現状では自然堤防の高い部分にあたり、そこから南側(現水田側)にゆるやかに下がる。基本層序は、現地表面下に近世以降の堆積土が厚く堆積する。その下に現水田側に厚く堆積している青灰色粘土があり、各トレンチの下層遺構のベースとなっている黄褐色粘土へと続く。黄褐色粘土は、北(現由良川側)から南(現水田側)へと斜向しており、その下層には粘土とシルトの互層の状態が続く。以下、各トレンチごとに層位の状況を説明する。

7～9トレンチは、黄褐色粘土層(ベース層)が全体に広がっており、その上層には古墳時代～奈良時代の包含層が南側(現水田側)にやや厚く堆積している。上層遺構はその包含層中から切り込んでいる。北側端は現由良川の氾濫源となる。

1～4・6トレンチは、中央に黄褐色粘土層(ベース層)が広がっており、その上層には弥生時代後期～古墳時代の包含層が薄く堆積している。南側(現水田側)には青灰色～灰色の粘土層が広がっている。この層は、古墳時代～奈良時代の遺物をわずかに含む。北側端は、現由良川の氾濫源になる。

15・16トレンチは、南側(現水田側)に約1mの青灰色粘土層が堆積する。この粘土層は下層に行くほどシルト質に近くなる。この層は上層では飛鳥・奈良時代の遺物を含み、シルト質に近くなると弥生時代中期～古墳時代前期の遺物を含むようになる。上層遺構はこの層をベース面としている。この下には黄褐色粘土層(ベース層)がこの地区全体に広がる。



第7図 第1～16トレンチ土層断面模式図

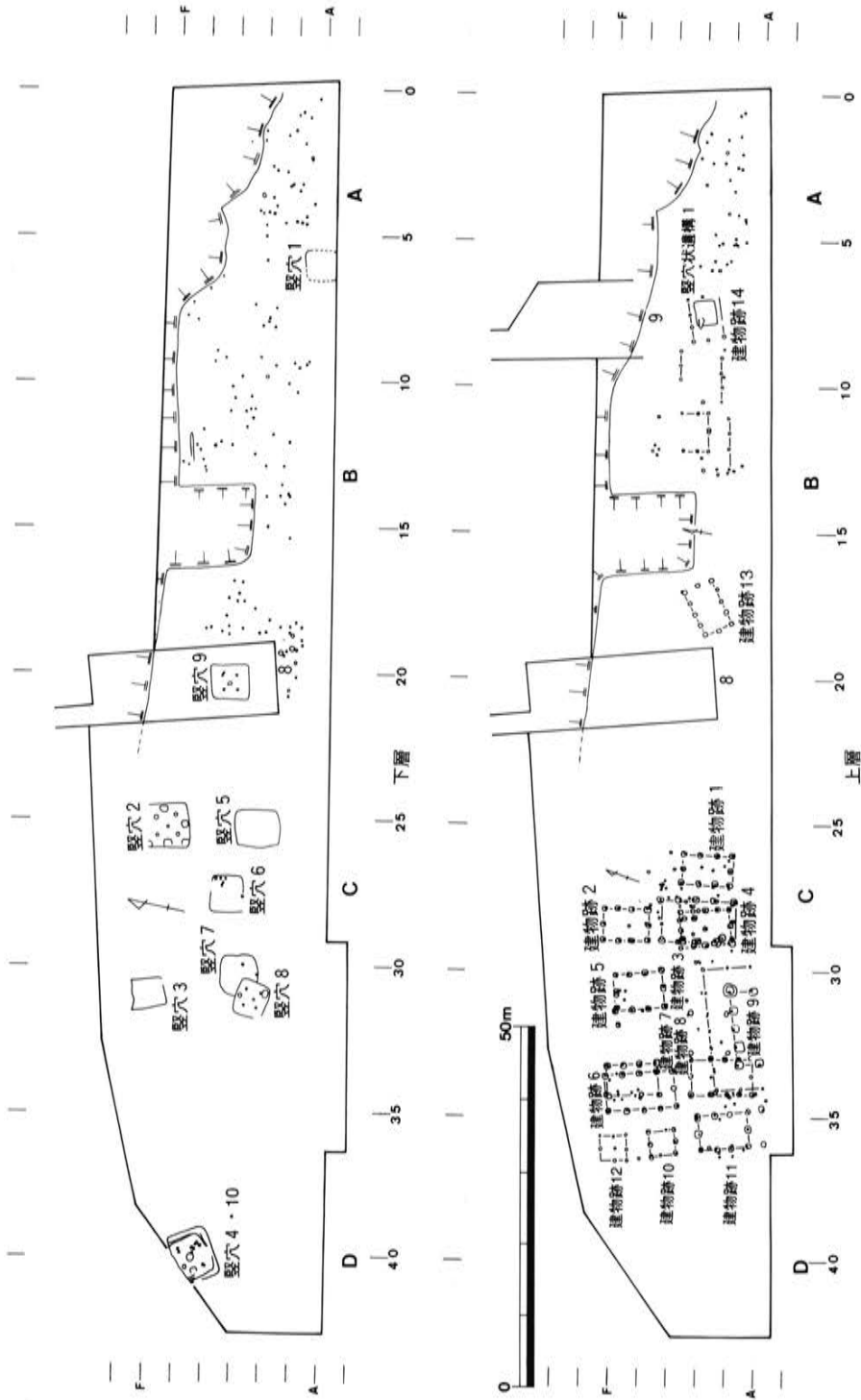
第2節 各トレンチの概要

A～Dトレンチは上下2枚の遺構面からなる。上層遺構は飛鳥～奈良時代を中心とする。包含層は薄く、遺物は少ない。検出遺構は、掘立柱建物跡14棟と多数のピット群からなる。掘立柱建物跡群は、比較的大きな方形掘形をもつ掘立柱建物跡9を中心に、「コ」の字形の配置をとるものがあり、単なる一般集落とは違った様相を示す。さらに約20～30cmほど下げると遺構面を検出し、その上面で下層遺構群を検出した。この面の包含層は、古墳時代中期の遺物を多数含む。下層遺構は、弥生時代後期の竪穴式住居跡1棟、古墳時代中期の竪穴式住居跡9棟を検出した。中心は古墳時代中期の集落跡である。中でも竪穴式住居跡5は遺構の残りがよく、深さも70～80cmある。出土遺物には白玉、有孔円板、滑石製勾玉などの祭祀関係遺物があり注目される。また、竪穴式住居跡3からは噴砂を検出した。

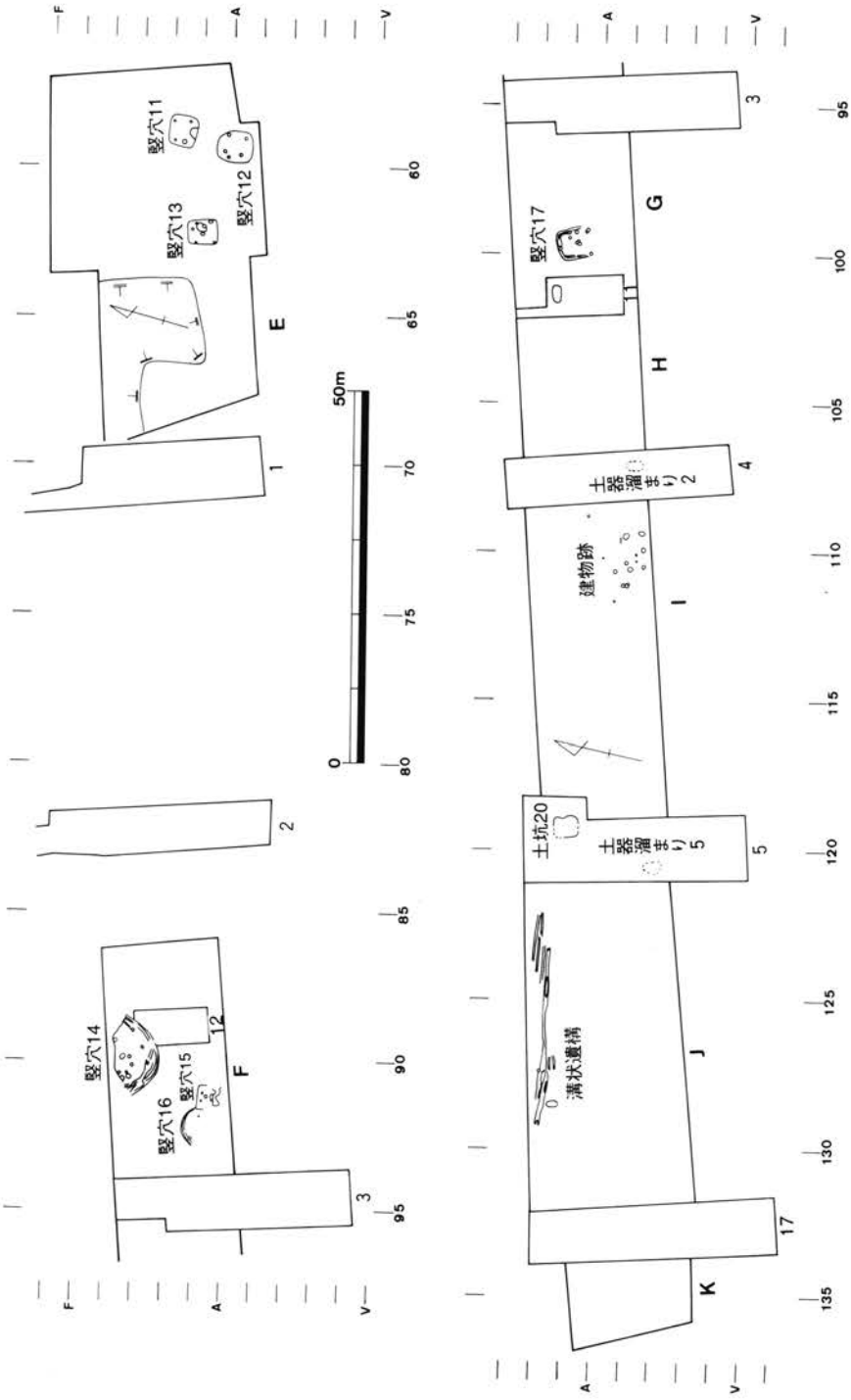
E～Kトレンチは、東西350mに帯状に広がる。包含層は薄く、遺物は比較的少ない。検出遺構には、竪穴式住居跡7基、溝状遺構、土器溜まり2基、土坑、方形の柱掘形、ピットなどがある。竪穴式住居跡はEトレンチで3基、Fトレンチで3基、Gトレンチで1基検出した。弥生時代後期前半～古墳時代前期のものである。平面プランは方形4基、円形2基が認められる。住居跡からはガラス玉・管玉が出土した。溝状遺構は、Jトレンチの北側で検出した。時期不明である。土器溜まりは、第4トレンチと第5トレンチで検出した。土器溜まり2は弥生時代後期後半、土器溜まり5は古墳時代中期の時期を示す。ほかに、Iトレンチでは方形の柱掘形が数個検出され、掘立柱建物跡の存在が推定される。

L～Nトレンチは、上下2層の遺構面からなる。上層遺構は飛鳥～奈良時代のものである。厚い包含層が堆積しており、そこから多数の土器が出土した。注目される遺物として、墨書土器・転用硯が出土している。検出遺構は竪穴式住居跡、土器溜まり、土坑、ピット、方形の柱掘形などが認められた。竪穴式住居跡は6基検出した。L～Mトレンチに帯状に広がる。平面プランは一応すべて方形であるが、その内1基は住居跡の一边を内側に取り込む青野型住居跡である。土器溜まり2基はLトレンチとNトレンチで認められた。

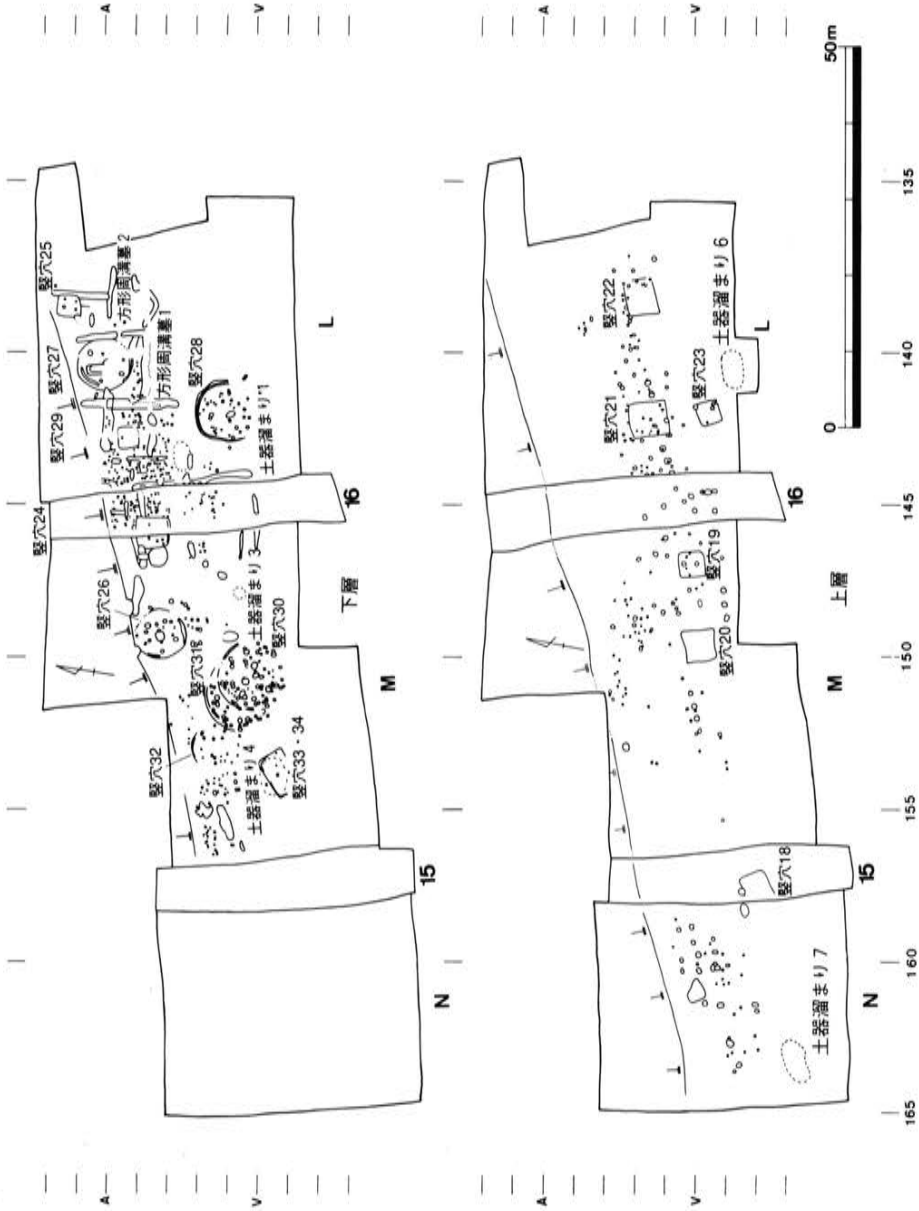
下層遺構は、弥生時代中期と古墳時代前期の遺構からなる。包含層は、最大30～40cmの厚さを持ち、弥生時代中期と古墳時代前期の土器が多数出土した。検出遺構は竪穴式住居跡・方形周溝墓・土坑・溝・ピット・土器溜まり等がある。竪穴式住居跡は11基検出した。弥生時代中期のものが8基、古墳時代前期のものが3基ある。平面プランは円形6基、方形3基、長方形2基と多様である。住居跡から土器・石器・玉類・玉作り関係遺物・鉄器などが出土している。方形周溝墓は、弥生時代中期後半のもので2基検出した。両者とも中央に主体部を1基もつ。方形周溝墓2の主体部から管玉が14個検出された点は注目される。ほかに、2基の土器溜まりと多数の土坑・溝・ピットなどを検出した。（岸岡貴英）



第8図 A～Dトレンチ遺構平面図



第9図 E-Kトレンチ遺構平面図



第10図 L~Nトレンチ遺構平面図

第4章 桑飼上遺跡の遺構

第1節 弥生時代中期

桑飼上遺跡の弥生時代中期の遺構は、L・Mトレンチの下層遺構面で集中的に検出された。この下層遺構面の上には10～30cmの包含層が堆積している。この包含層は、弥生時代中期と弥生時代後期末葉～古墳時代前期の土器を多量に含む。前者は、量的に多く、かつ広範囲に出土し、Ⅲ～Ⅳ様式の土器が中心である。後者は点的に出土し、前者に比べると量的にも少ない。

検出された弥生時代中期の遺構には、竪穴式住居跡、竪穴状遺構、方形周溝墓、溝、土坑、土器溜まり、ピット等がある。竪穴式住居跡は、L～Mトレンチにかけて全体に広がっている。その平面プランは円形が主流を占めるが、一部に方形のものもある。竪穴式住居跡の残存状況は、床面から10cm前後のものがほとんどであるが、中には30～40cm前後のものもある(竪穴式住居跡8基の形状と計測値は以下の表に示してある。)

方形周溝墓及び溝は、Lトレンチ北側～16トレンチ北側に集中する傾向がある。検出した方形周溝墓は2基であるが、いくらかの溝は削平された方形周溝墓の周溝が残存した可能性がある。また、土坑は散漫な分布を示し形状も多様であるため、その性格を一概に述べることはできない(溝及び土坑の形状と計測値は以下の表に示してある。)

ピットは多数検出されているが、その密度をみると、Lトレンチ西北～16トレンチ北側に集中する傾向がある。また、この付近のピットからは、緑色凝灰岩製のチップが出土し、その直上の包含層からは、玉作り関係の遺物(玉作り未製品や石鋸等)も出土している。こ

付表2 竪穴式住居跡一覧表1(竪穴式住居跡を竪穴と略称)

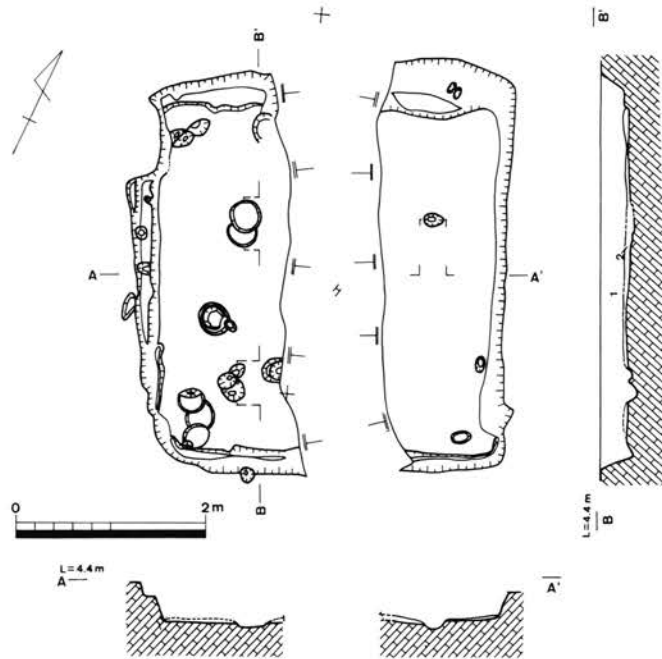
	平面形	規模(m) (東西×南北)	面積 (m ²)	床面絶対 高(m)	壁残存 高(m)	軸方向	周溝	焼土	中央 土坑	時期
竪穴24	方形	4.02×4.36	17.53	4.36	0.28	N25° W	○ ×	×	×	Ⅳ様式
竪穴26	円形	6.76×6.48	34.40	4.92	0.36	—	○ ○	○	○	Ⅲ様式
竪穴27	円形	7.12×7.20	40.24	4.04	0.12	—	○ ○	○	○	Ⅲ様式
竪穴28	円形	7.80×?	47.76	3.52	0.08	—	○ ○	○	○	Ⅳ様式
竪穴29	方形	2.90×2.80	8.12	3.90	0.08	N25° W	× ○	×	×	Ⅲ様式
竪穴30	円形	9.36×8.96	60.24	3.86	0.20	—	○ ×	○	○	Ⅳ様式
竪穴31	円形	?×9.60	—	3.86	0.14	—	○ ×	○	○	Ⅳ様式
竪穴32	円形	?×5.28	—	3.96	0.14	—	○ ×	○	○	Ⅳ様式



第11図 弥生時代中期遺構分布図

のような状況はピット群の性格の一端を示す可能性が高い。

ところで、これら溝・土坑・ピットなどで、時期の判明する遺物が出土するケースは少なく、多くは何も出土しない。そのため、包含層から出土した土器の地区や遺構の密度などから判断すると、これらは弥生時代中期(Ⅲ～Ⅳ様式)に属する可能性が高い。



第12図 竪穴式住居跡24実測図
1. 黄褐色砂質土層 2. 黄褐色シルト層

① 竪穴式住居跡

竪穴式住居跡24

平面形と規模 中央部を第16トレンチの側溝によって深く削り取られている。東西4.02m・南北4.36mを測る方形の竪穴式住居跡である。

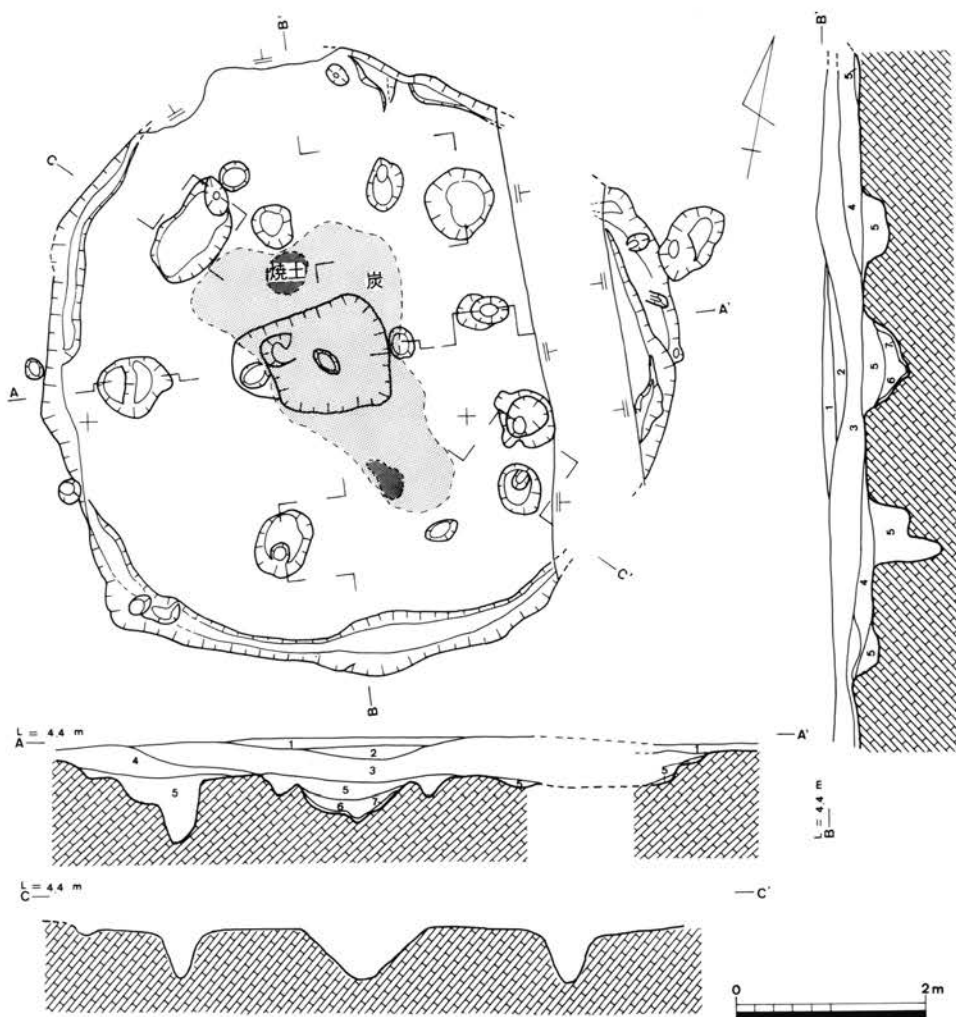
壁と床面の状況 壁は四周とも残りがよく約28cmである。北辺と西辺はわずかに段差をもつ。周溝は南辺のみ検出した。深さは約10cm前後である。床面は、東西方向にわずかに傾斜する。焼土及び炭は現状では確認できない。明瞭に主柱穴と思われるピットは検出できなかった。ただ、削平された中央部分に主柱穴が存在したとすれば、二本柱の住居であった可能性も考えられる。

埋土及び遺物の出土状況 埋土は2層にわかれる。第1層からは土器片が若干出土した。第2層は、床面直上の埋土である。床面の土器はわずかに残されていた。第1・2層から出土した土器は、ほぼ第Ⅳ様式に限られる。

竪穴式住居跡26

平面形と規模 東側の一部が試掘溝により掘り抜かれている。北辺は、現在の由良川の氾濫原によって削平されている。南北長6.48mを測るほぼ円形の住居跡である。

壁と床面の状況 壁は残りのよいところで36cmを測る。周溝は、南側全面と西側の一部を検出した。南側部分は比較的広くしっかりとしている。床面はほぼ水平である。焼土は中央土坑を挟んだ2か所で検出した。炭は中央部分に拡がり、中央土坑の最下層に薄く堆



第13図 竪穴式住居跡26実測図

- | | | | |
|-------------|------------|-------------------|-------------|
| 1. 暗茶褐色砂質土層 | 2. 茶褐色粗砂土層 | 3. 茶褐色砂質土層 | 4. 暗黄褐色砂質土層 |
| 5. 淡茶褐色砂質土層 | 6. 黄褐色シルト層 | 7. 黒色シルト層(炭を多く含む) | |

積している。支柱穴と思われるピットは40~50cmの深さがあり、5本柱の住居跡と思われる。また、中央土坑の両端に小ピットがあり注目される。

埋土及び遺物の出土状況 この竪穴式住居跡の埋土は計7層にわかれる。出土遺物には土器、石器、鉄器(鉄斧)などがあり、これらは3・4層を中心に多数出土した。出土位置の分布をみると、竪穴式住居跡のほぼ中心部で集中して出土した。また、そのレベルは床面から10~20cm浮いた状態にある。以上の状況から、これらの遺物群は竪穴式住居の廃絶後集中的に投棄されたのではないかと推定される。また、各柱穴及びピットからは土器は出土しなかったが、唯一中央の土坑から大型の柱状砥石が出土した。

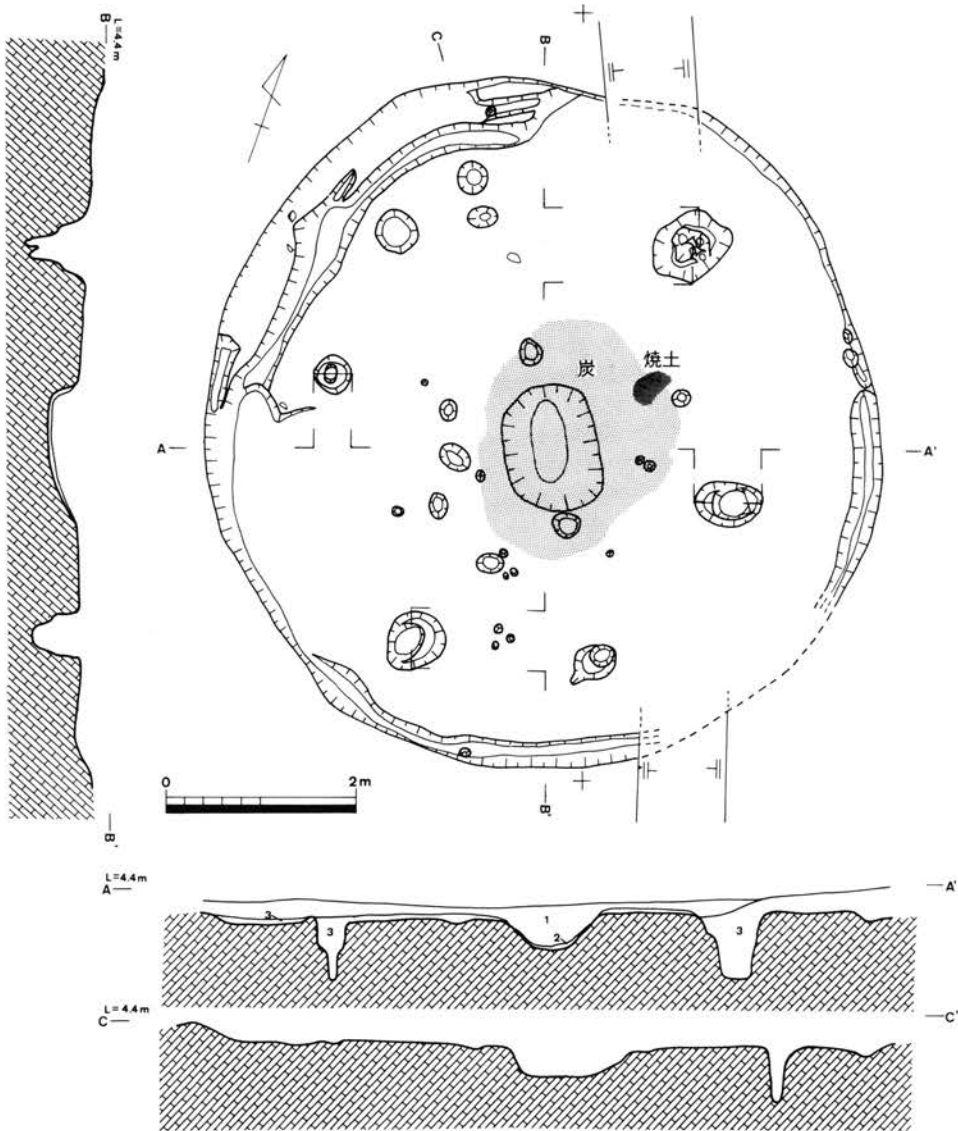


第14図 竪穴式住居跡26遺物出土状況図

竪穴式住居跡27

平面形と規模 北辺と南辺の壁の一部が試掘溝によって消失している。南北長7.2mを測るほぼ円形の住居跡である。

壁と床面の状況 壁はほぼ10cm前後残存している。北辺はやや段状を呈しつつ下る。周溝は3方向にほぼ断続的にめぐり、深さはやや浅い。床面は北側がやや高い。焼土は中央



第15図 竪穴式住居跡27実測図

- 1. 茶褐色砂質土層(シルト混じり)
- 2. 黒灰色シルト層
- 3. 暗黄褐色シルト層(炭混じり)

部の土坑からやや離れたところで1か所確認した。炭は中央部分に拡がり、中央部の土坑の底面に薄く堆積していた。支柱穴と思われるピットはいずれも30~40cmあり、5本柱の住居跡と思われる。また、中央土坑の両端に浅い小ピットが存在する。

埋土及び遺物の出土状況 埋土は3層、大きくは2層にわかる。出土遺物には土器・石器・管玉などがあるが、量的には少なく細片化したものばかりである。また、これらはすべて第1層から出土した。この住居跡は、方形周溝墓1と切り合い関係をもち、竪穴式住居跡27→方形周溝墓1の切り合い関係をもつ。



第16図 竪穴式住居跡28実測図
1. 暗灰色シルト層 2. 黒灰色シルト層(炭混じり)

竪穴式住居跡28

平面形と規模 壁と周溝は2/3ほどしか残存しておらず、南側の形状は削平されいて不明である。東西長7.8mを測る不整形の住居跡である。

壁と床面の状況 壁は残りのよい西辺で7～8cm残存しているのみである。周溝は南側部分が削平によって消失しているほかは、北西辺を除きほぼ全周する。床面は北から南にかけて傾斜する。焼土は、中央土坑の北側で1か所検出した。炭は中央部分に拡がり、中央土坑の床面にも薄く堆積していた。床面上でピットを多数検出したが、支柱穴と思われるピットは30～40cmほどあり、6本柱の住居跡と推定される。また、中央土坑を挟んで東西に小ピットが位置する。

埋土及び遺物の出土状況 竪穴式住居跡埋土は、暗灰色シルト層の単層である。中央土坑を除くと、ピット内もほぼ同じ埋土が堆積していた。出土遺物には土器・石器などがあるが、石皿が数点出土している点が注目される。これらは、床面からやや遊離した状態で出土した。

竪穴式住居跡29

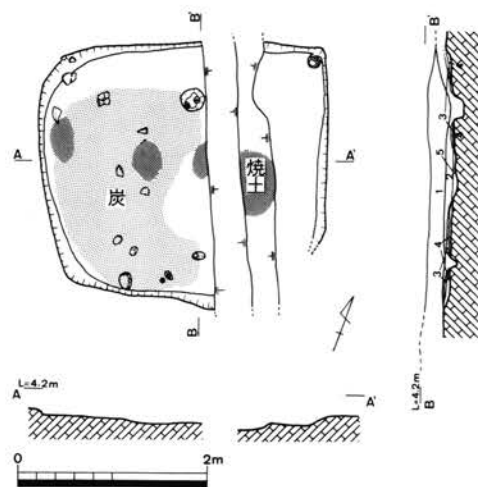
平面形と規模 中央部分は試掘溝によって掘り抜かれているが、焼土が残っているか所もある。東西2.9m×南北2.8mを測る方形の竪穴式住居跡である。

壁と床面の状況 壁はわずかに7～8cm残存している。床面には淡緑灰色粘土層(4)の張り床を施す。床面は四周から中央部に向けてゆるやかに下る。焼土は西側部分を中心に4か所に拡がり、その厚さはかなり厚い。炭は西側半分全面に拡がり、厚く堆積する。ピットは数個検出したが、支柱穴に比定できるものはない。

埋土及び遺物の出土状況 埋土は計5層、大きく2層にわかれる。第1層からは、体部中央を穿孔した供献土器が横位の状態出土した。床面上の第2層からは、土器片が数点出土している。

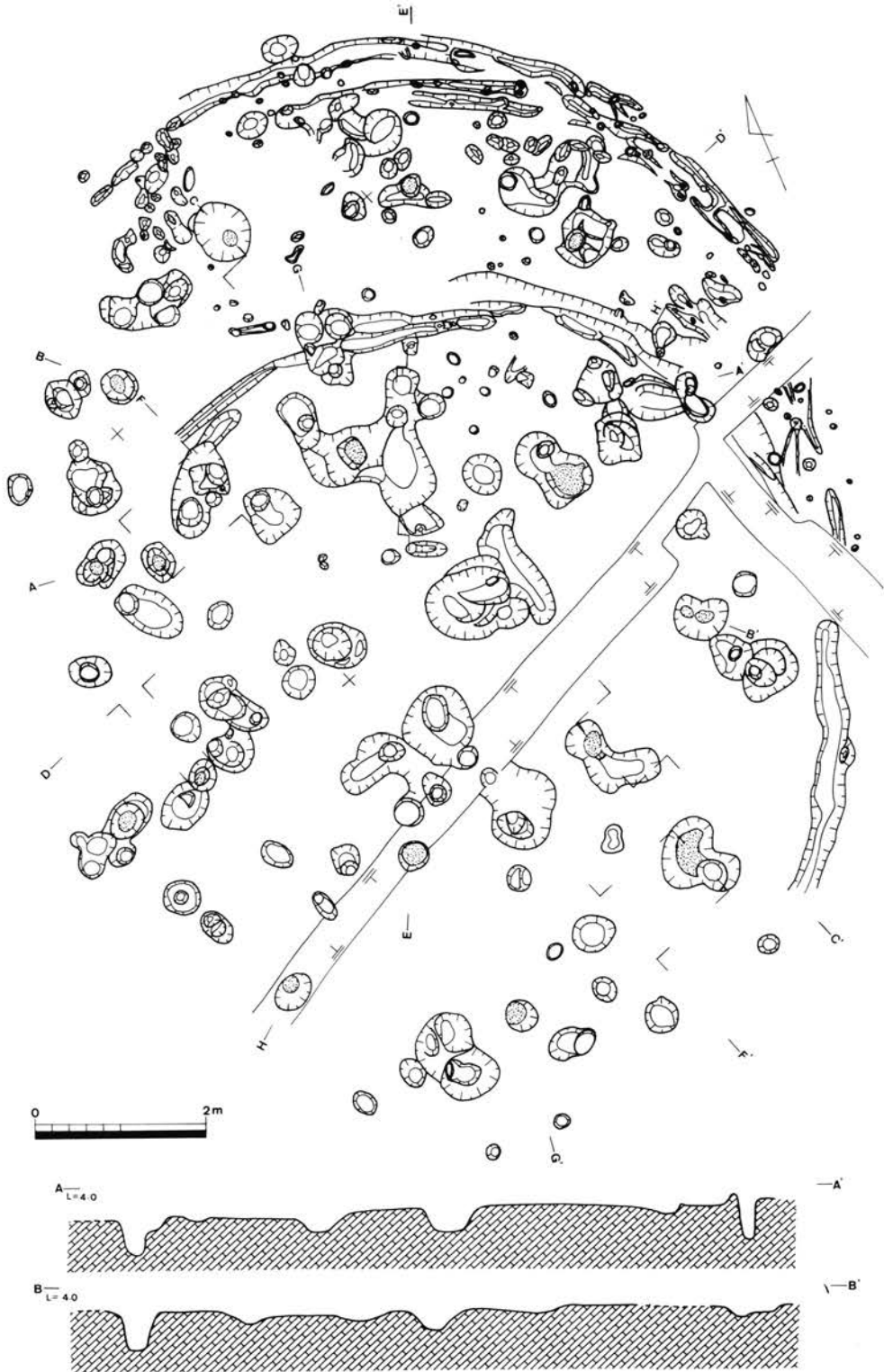
竪穴式住居跡30

平面形と規模 中央部分と東側の肩部が試掘溝により掘り抜かれている。住居のプランは約1/2残存した周溝と床面上の多数のピットにより推定した。東西径

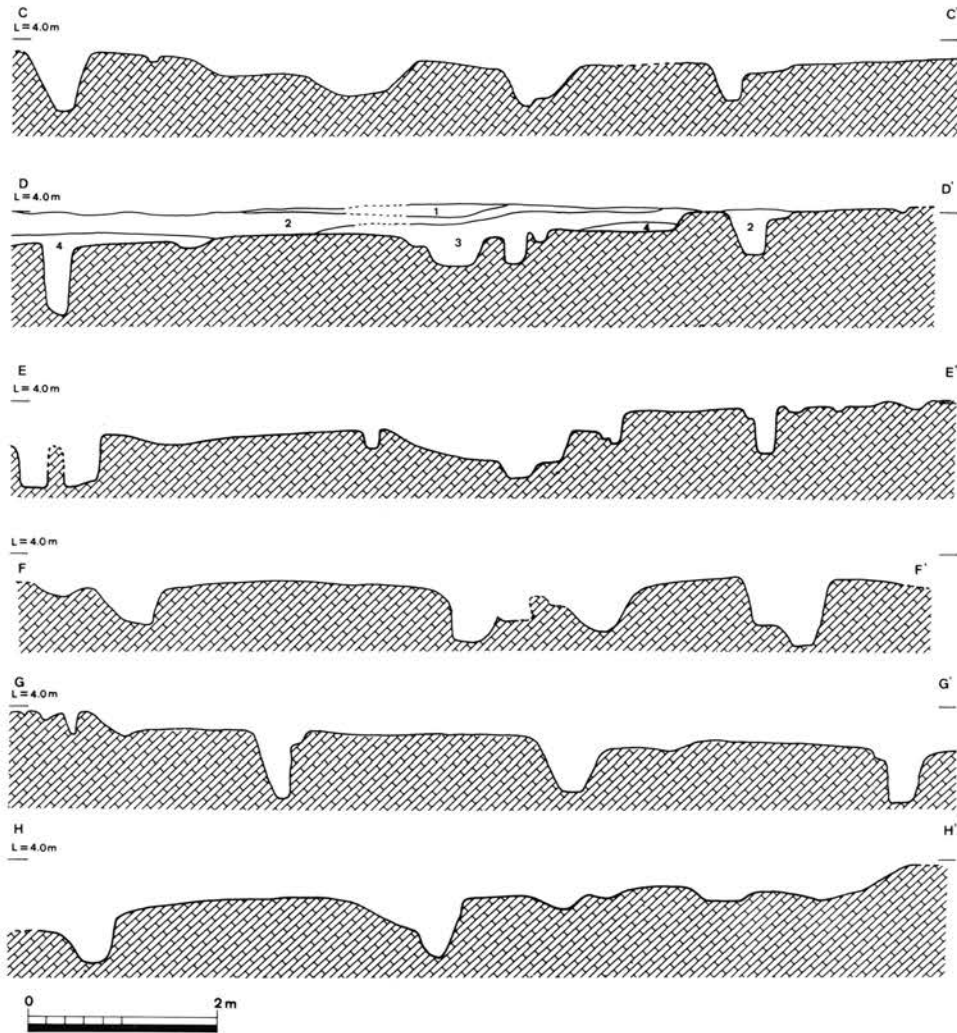


第17図 竪穴式住居跡29実測図

- | | |
|-------------|------------|
| 1. 黄褐色粗砂質土層 | 2. 黄褐色砂質土層 |
| 3. 炭化層 | 4. 淡緑灰色粘土層 |
| 5. 焼土層 | |



第18図 竪穴式住居跡30・31実測図(支柱穴と想定されるピットにはトーンをいれた)



第19図 竪穴式住居跡30・31断面図

1. 黄褐色砂質土層(シルト混じり) 2. 暗灰色砂質土層 3. 暗灰色砂質土層(シルト混じり)
4. 淡緑灰色粘土+黒灰色シルト層

9.3m×南北径8.9mを測る円形の住居跡と推定される。

壁と床面の状況 壁は東北辺にわずかに残存しており、約20cmを測る。床面は東から西に向けてゆるやかに下る。焼土・炭は確認していない。床面には多数のピットが存在するが、柱穴に比定できるピットは40～50cmの深さをもつ。8本柱の住居跡と想定される。

埋土及び遺物の出土状況 埋土は計5層にわかる。出土遺物には土器・石器等があり、埋土中層、ピット等から出土した。竪穴式住居跡31と切り合い関係をもち、竪穴式住居跡31→竪穴式住居跡30の前後関係をもつ。

竪穴式住居跡31

平面形と規模 竪穴式住居跡30に切られており、周溝は1/4ほどしか残っていない。ただ竪穴式住居跡30の床面上にも一部ピットが残存していると考え、南北径9.6mを測る円形の住居跡と推定できる。

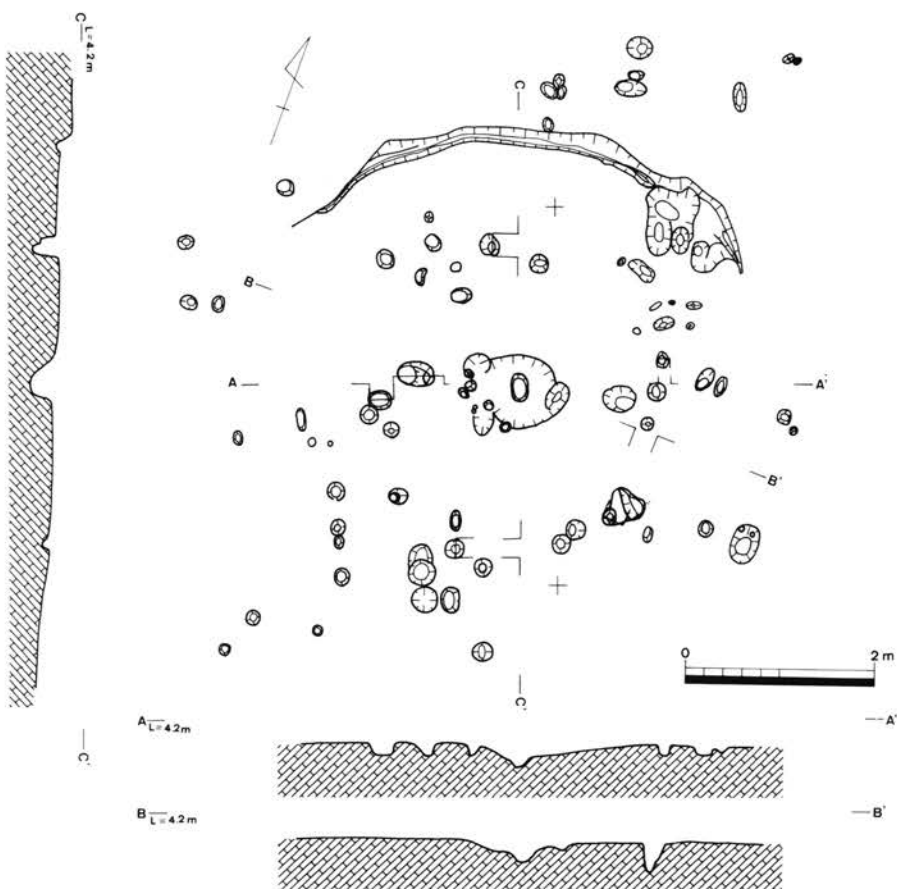
壁と床面の状況 壁はほとんど残存していない。床面はほぼ平坦である。焼土・炭は確認していない。柱穴に比定できるピットは、40~50cmの深さを測る。一応10本柱の住居跡と推定した。

埋土及び遺物の出土状況 遺物は、少量の土器片が埋土中から出土している。

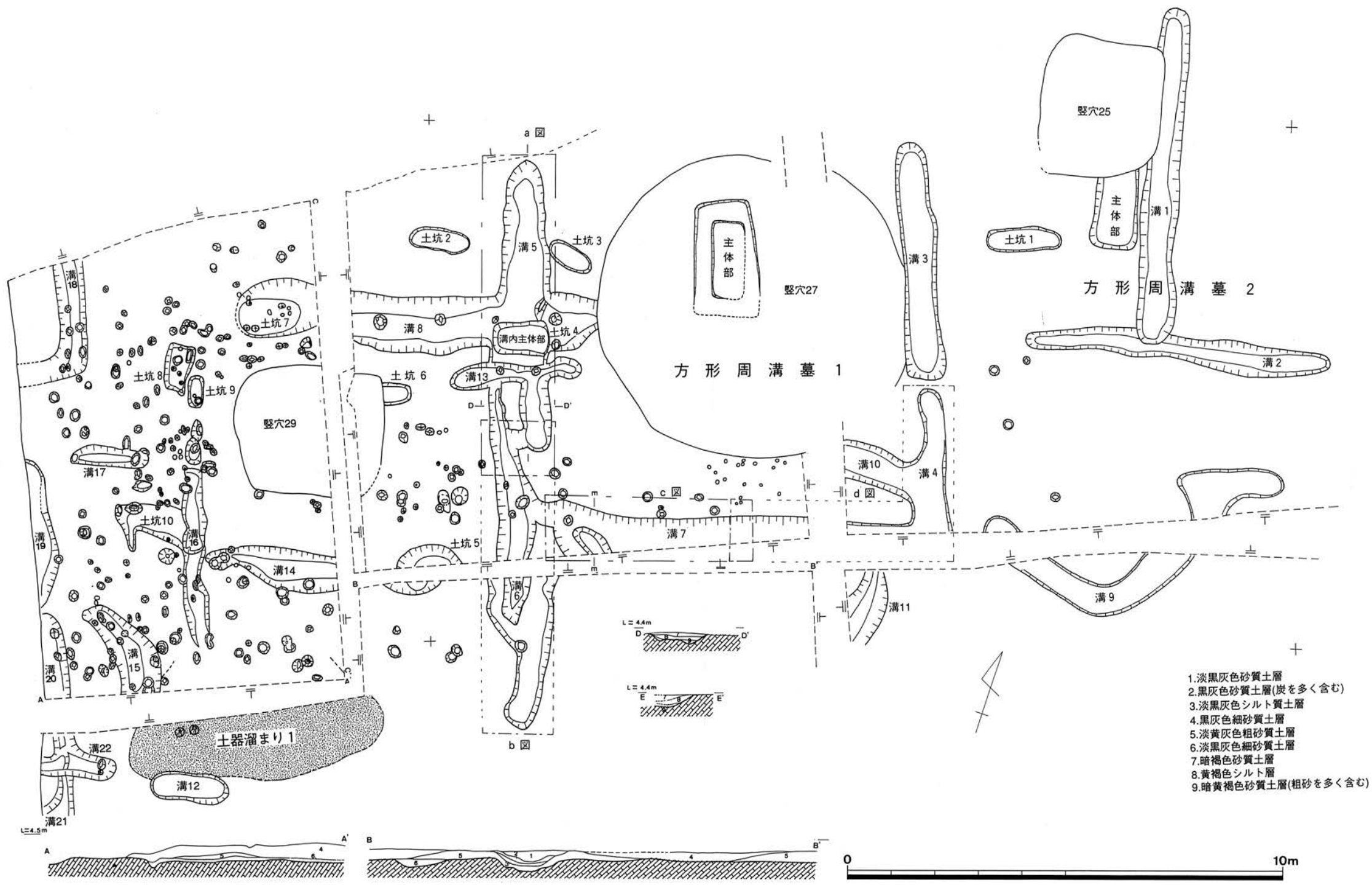
竪穴式住居跡32

平面形と規模 北側の壁が約1/3残存している。残された床面上のピットにより復原すると、直径5.2mの円形の住居跡と考えられる。

壁と床面の状況 北辺の壁は約10cmを測る。床面は北から南に向けてゆるやかに下る。



第20図 竪穴式住居跡32実測図



1. 淡黒灰色砂質土層
2. 黒灰色砂質土層(炭を多く含む)
3. 淡黒灰色シルト質土層
4. 黒灰色細砂質土層
5. 淡黄灰色粗砂質土層
6. 淡黒灰色細砂質土層
7. 暗褐色砂質土層
8. 黄褐色シルト層
9. 暗黄褐色砂質土層(粗砂を多く含む)

第21図 Lトレンチ遺構平面図及び断面図

焼土・炭は確認していない。主柱穴と考えられるピットは20cm前後の深さをもつ。5本柱の住居跡と思われる。中央土坑は直径約20cmあり、断面は台形状を呈する。

埋土及び遺物の出土状況 埋土中から弥生土器(Ⅳ様式)の細片が出土している。

②方形周溝墓

方形周溝墓は、Lトレンチの北側で2基検出した。加えて、溝8・12・18～22のような、直線的もしくは「L」字状の浅い溝を検出した。これらを削平された方形周溝墓の痕跡と考え、6～7基の方形周溝墓を想定することができる。

方形周溝墓 1 溝3～溝7によって囲まれた方形周溝墓である。平面形は南北主軸の長方形を呈する。規模は、東西長が約9mを測る。北側は、現由良川の氾濫源により削平されている。埋葬施設は、中央部に1基(主体部)、溝5の中央に1基(溝内主体部)検出した。第1主体部は、墓壙が南北方向を長軸とする。その規模は、長さ2.5m×幅1.5m×深さ0.12mを測る。さらに、その中に木棺痕跡を検出した。規模は、長さ1.8m×幅0.7m×深さ0.1mを測る。溝内主体部は、南北方向を長軸とする墓壙をもつ。その規模は、長さ1.2m×幅0.75m×深さ0.1mを測る。ともに副葬品などは出土していない。また、第1主体部及び溝3は竪穴式住居跡27と切り合い関係をもち、竪穴式住居跡27→方形周溝墓1の前後関係が成り立つ。

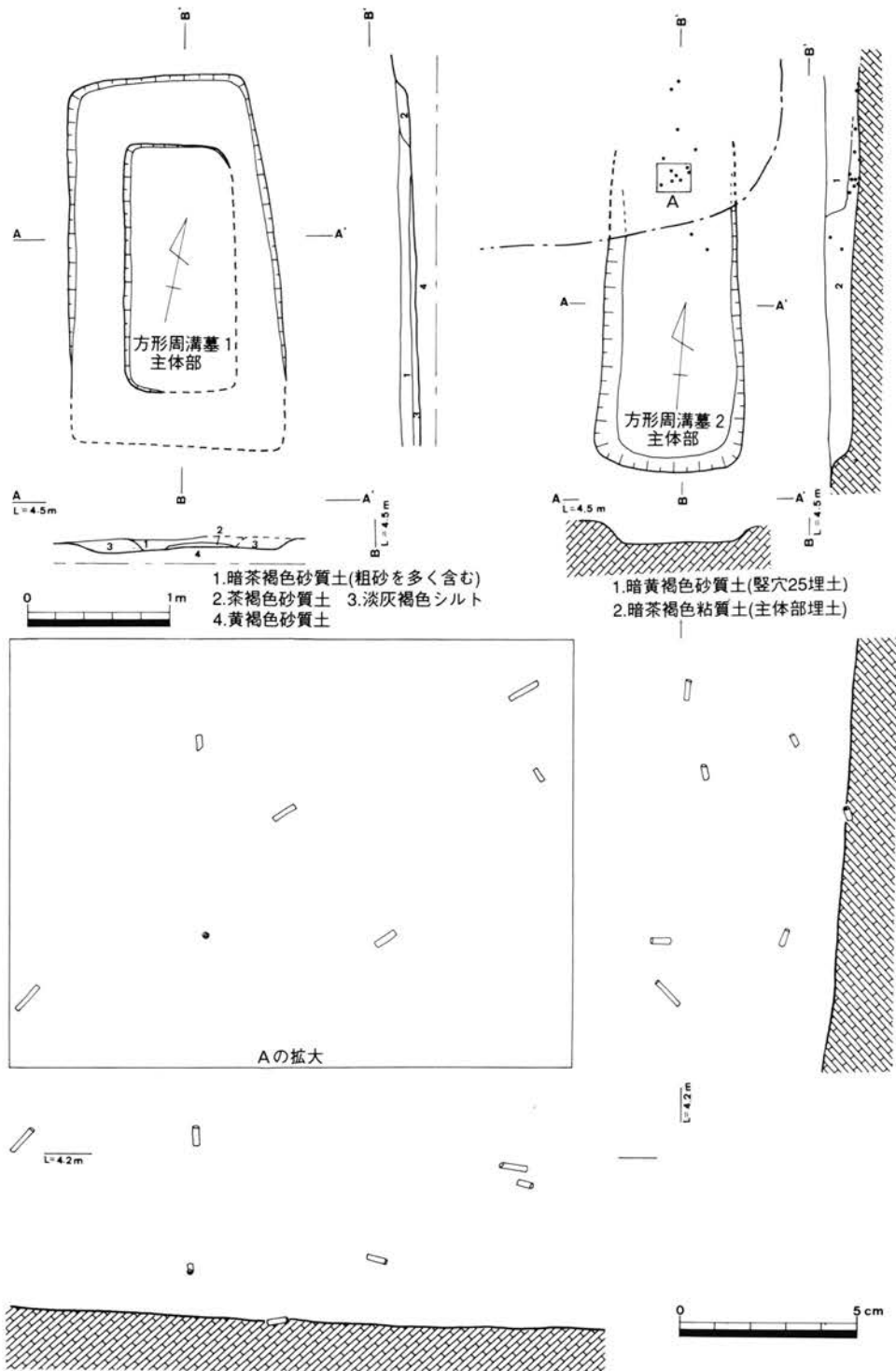
ところで、この方形周溝墓の周溝である溝4～溝7からは第Ⅳ様式の土器が多数出土した。溝4は、浅い皿状を呈する溝であり、溝のほぼ中央部からやや浮いた状態で土器片が数点出土している。

溝5は、断面が台形状を呈し底面は凹凸に富む。さらに、溝の全面からは多数の土器が出土した。溝の埋土は3層からなり、土器は主に上層・中層から出土した。出土土器の中では無頸壺・甕が多数を占める。また、溝内埋葬である第2主体部はこれら土器群を取り去ったのち検出された。

溝6は、南北方向にのびる溝である。平面形は中央部がふくらむ不整形な形状を呈する。断面は凹凸に富み、中央部分は二段に落ちる。さらに溝の全面から土器が出土している。溝の埋土は3層にわかれ、上層・中層からすべての土器が出土している。出土土器の中では甕が目立つ。溝6は、黄褐色砂層を挟んで土坑5と上下関係をもち、土坑5→溝6の前後関係が成り立つ。

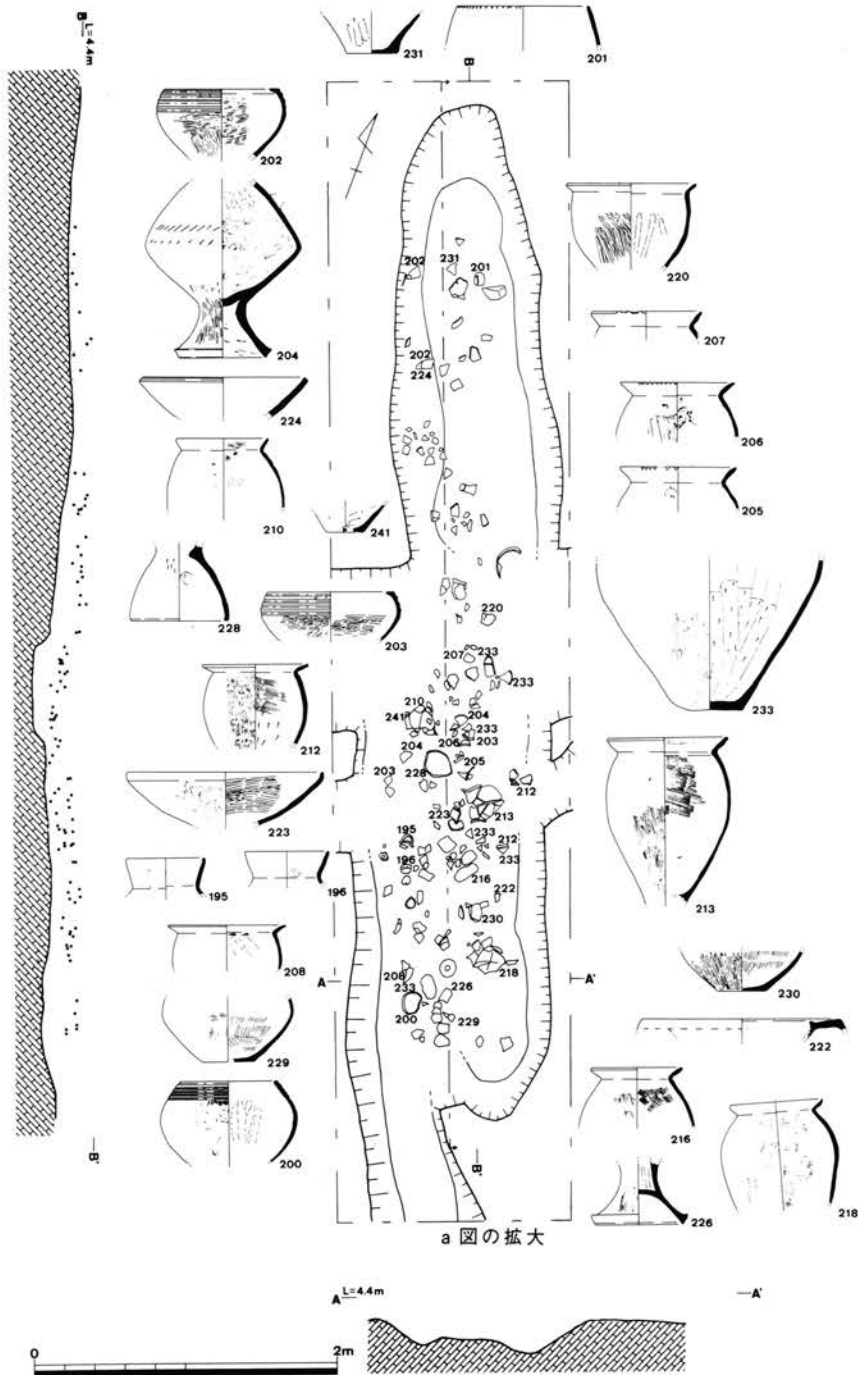
溝7は、南側の底部を試掘溝により掘り抜かれており、北側部分のみ検出した。溝の埋土は3層からなり、上層・中層から数点の土器が出土している。出土土器には壺・甕・鉢等がある。

方形周溝墓 2 溝2・溝3を周溝とする方形周溝墓である。溝3は方形周溝墓1と共有



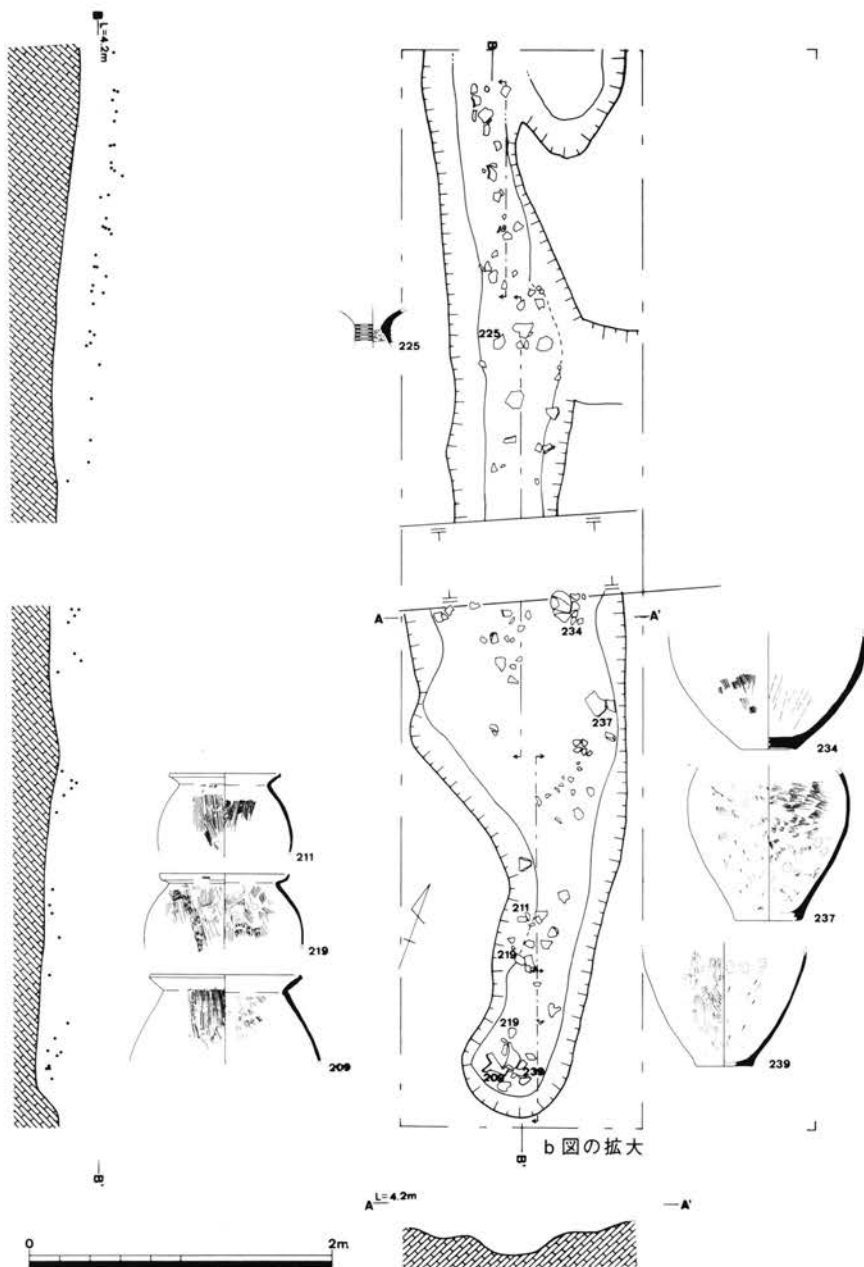
第22図 方形周溝墓1・2主体部実測図

する。北側は現由良川の氾濫源により削平されており、東側には溝を検出していない。ただ、溝2・溝3とも非常に浅く、上面が削平されている可能性が高いため、東側部分の溝



第23図 溝5 遺物出土状況図

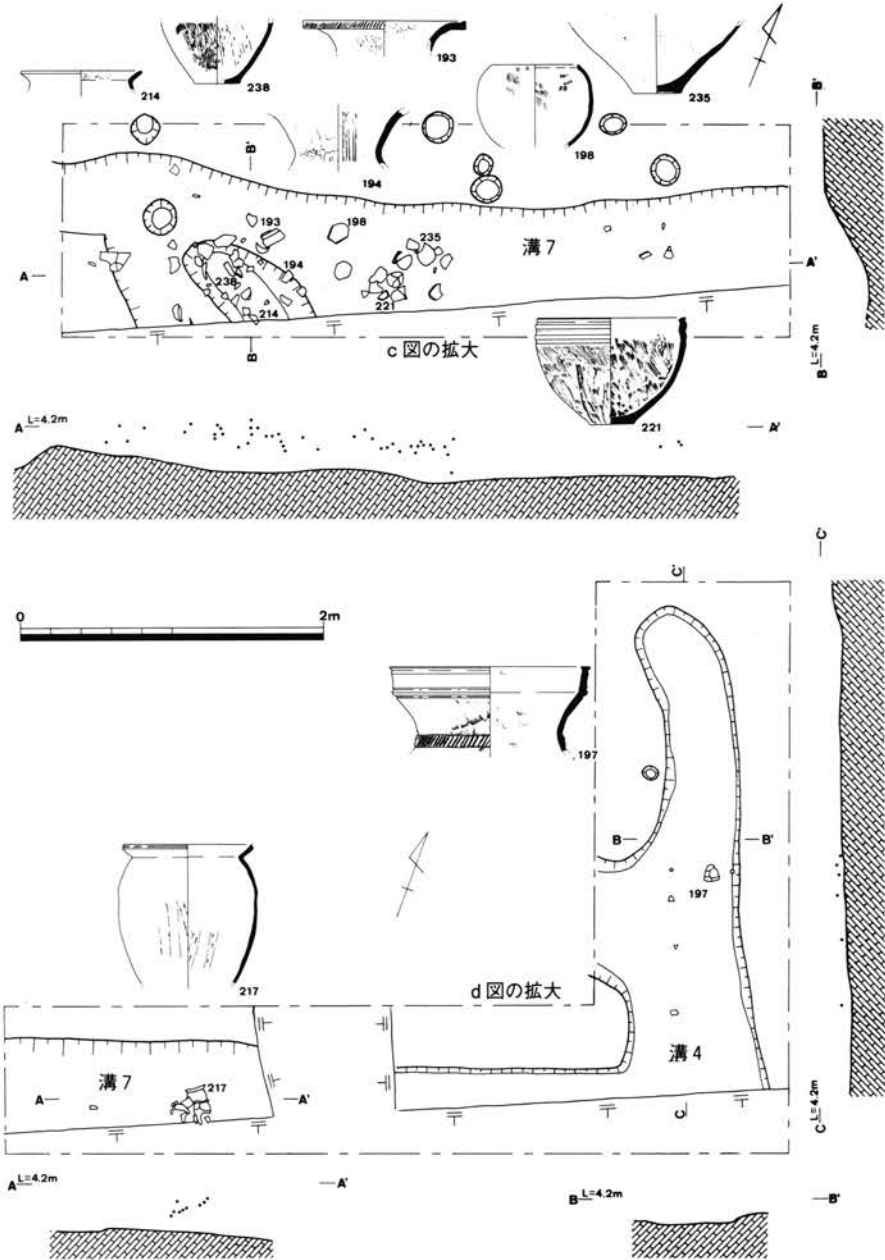
はすでに削平されてしまったと考えることもできる。埋葬施設は、中央部で1基(主体部)を検出した。主体部は、北側を竪穴式住居跡25により削平されている。墓壙は、南北を長軸にもつ長方形のプランをもち、長さ1.8m×幅0.8mを測る。木棺痕跡は確認できなかった。墓壙内から管玉が14個出土している。ほかに、溝2からは土器が数点出土している。



第24図 溝6 遺物出土状況図

③溝

溝は、計32条検出した。ほとんどが東西もしくは南北に直線的にのびる溝であり、方形周溝墓の溝である可能性が高い(溝1～溝12、溝18～溝26、溝28～溝31)。ただ層位的、時期的、形状等から別の性格が考えられるものもある(溝13～溝17、溝27、溝32)。詳細は一



第25図 溝4・7 遺物出土状況図

覧表に示してあり、以下主な溝について記述する。

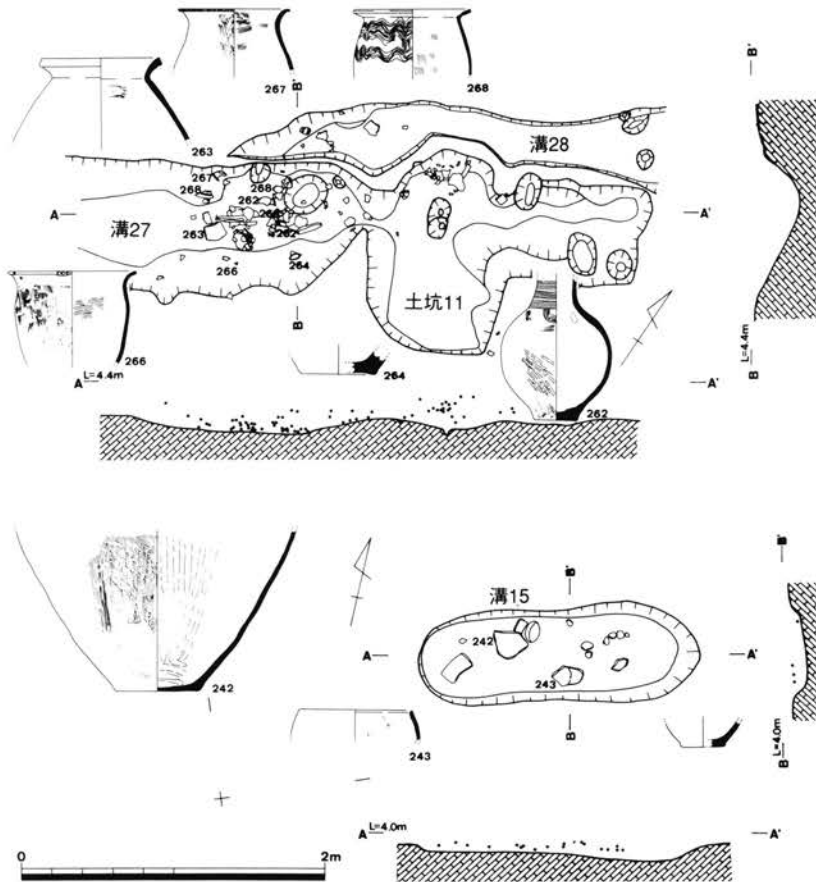
溝12は、東西方向に短くのびる。断面は皿状を呈する。溝6と同じく砂層をベースとする。壺の底部や無頸壺などが底面からやや遊離した状態で出土した。土器溜まり1と切り合い関係をもち、土器溜まり1→溝12の前後関係をもつ。削平された方形周溝墓の周溝の可能性が高い。

溝14・溝15は、方形周溝墓のベース層となっている砂層を除去したのち検出された溝である。断面はともに浅い「U」字状を呈する。

溝16は、南北方向にのびる深い「U」字状を呈する溝である。溝の肩部で碧玉のチップが出土している。

溝27は、東西方向にのびる断面が「U」字状を呈する溝である。溝のほぼ底面から第Ⅲ様式に相当する壺・甕など、多数の土器が出土している。

溝32は、東西方向にのびる溝である。底面の形状は複雑で部分的に2条の溝が平行に走るような状況を呈する。



第26図 溝15・27・28、土坑11遺物出土状況図

付表3 溝一覧表

遺構番号	形状	検出長(m)	上面幅(m)	深さ(cm)	断面形	出土遺物	時期
溝1	直線的	7.70	0.80	17.00	船底状		
溝2	直線的	6.90	0.80	14.00	船底状	あり	
溝3	直線的	5.40	0.80	12.00	平坦	あり	Ⅳ様式
溝4	直線的	3.20	0.80	4.00	平坦	あり	Ⅳ様式
溝5	直線的	6.50	1.30	28.00	U字状	あり	Ⅳ様式
溝6	西側にゆるく曲がる	7.00	1.60	14.00	U字状	あり	Ⅳ様式
溝7	直線的	8.20	0.70	28.00	U字状	あり	Ⅳ様式
溝8	直線的	3.40	1.30	18.00	船底状		
溝9	S字状に曲がる	9.10	0.75	141.00・ 6.00	平坦		
溝10	直線的	1.75	0.90	15.00	皿状		
溝11	西向きに浅く曲がる	1.50	0.90	19.00	船底状		
溝12	直線的	1.80	0.60	10.00	皿状	あり	Ⅳ様式
溝13	直線的	3.00	0.60	3.00	皿状	あり	
溝14	ほぼ直線的	3.10	1.00	14.00	船底状	あり	
溝15	北西に曲がり、直線的にのびる	2.40	0.90	3.00	船底状	あり	Ⅳ様式
溝16	直線的	4.30	0.40	134.00・ 2.00	U字状	あり	Ⅳ様式
溝17	直線的	1.85	0.45	15.00	皿状	あり	
溝18	直線的にのび南端部で西に曲がる	2.50	0.60	13.00	船底状		
溝19	西に浅く曲がる	3.30	0.60	4.00	船底状		
溝20	直線的	2.80	0.50	8.00	船底状		
溝21	西に曲がる	8.20	0.60	11.00	船底状		
溝22	直線的	1.70	0.60	10.00	船底状		
溝23	直線的	2.50	0.70	10.00	皿状		
溝24	直線的	3.50	0.75	26.00	皿状	あり	
溝25	直線的	1.60	0.40	23.00	皿状	あり	
溝26	直線的	2.00	0.50	9.00	皿状	あり	
溝27	直線的	2.00	0.80	26.00	船底状	あり	Ⅲ様式
溝28	直線的	4.00	0.60	9.00	船底状	あり	
溝29	直線的	3.90	0.25	7.00	逆台形状		
溝30	直線的	3.10	5.50	16.00	逆台形状	あり	
溝31	直線的	2.40	0.60	16.00	皿状～船底		
溝32	直線的	4.20	0.60	27.00	船底～U字状	あり	Ⅳ様式

④土坑

土坑は、計19基検出した。平面プランは長楕円形(1～3・6)、楕円形(5・7・17)、長方形(8・9・11)、不整形(4・10・14・15・18・19)、円形(12・13)と多様である。また、出土遺物等も少ないため、その各々の性格を特定できる可能性は少ない。以下、主な土坑について記述する。

土坑4 不整形なプランをもつ浅い土坑である。竪穴式住居跡27と方形周溝墓1の第2主体部と切り合い関係をもつ。土坑4→竪穴式住居跡27・方形周溝墓1の第2主体部の前後関係が成り立つ。第Ⅲ様式の甕が2点出土している。

土坑5 楕円形のプランを呈し、「U」字状の断面をもつ土坑である。溝6のベース層である黄褐色砂層を除去したのち検出したため、土坑5→溝6の前後関係が成り立つ。

土坑11 長方形のプランをもち、底面は浅い皿状を呈する。

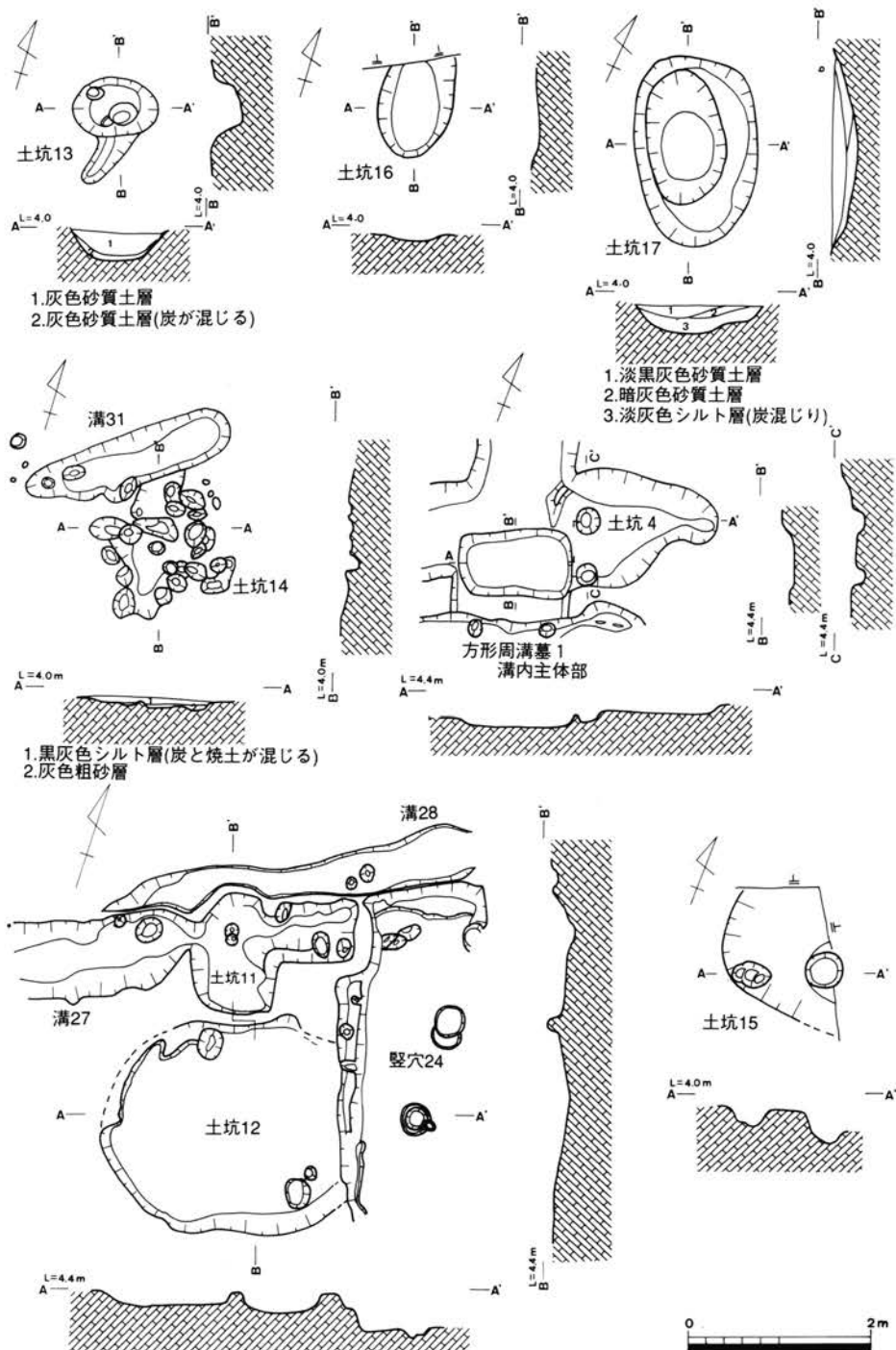
土坑12 ほぼ円形に近いプランをもち、断面は皿状を呈する。底面には焼土が拡がり、その上に炭層が厚く堆積する。竪穴式住居跡24と切り合い関係をもち、土坑12→竪穴式住居跡24の前後関係をもつ。

土坑13 円形で船底状を呈する小さな土坑である。南側に小さな溝がのびる。

土坑14 不整形のプランを呈し、周囲に多数の小ピットが群がる。深さは5cm前後で、

付表4 土坑一覧表

土坑	平面状態	床形態	規模(長軸・短軸)(m)	深さ(cm)	備考
1	溝状	平坦	1.60×0.50	12	
2	長楕円形	皿状	1.00×0.45	6	
3	隅丸方形	皿状	1.40×0.44	11	
4	不整形	船底状	1.40×1.80	17	
5	楕円形	船底状	1.15×1.50	24	
6	隅丸方形	船底状	0.90×7.00	13	
7	楕円形	船底状	1.80×1.35	24	
8	隅丸長方形	平坦	1.00×0.50	6	
9	隅丸長方形	平坦	0.70×0.30	3	
10	不整形	平坦	1.50×0.75	4	
11	隅丸方形	船底状	1.45×0.90	25	小さな溝状遺構が取り付く
12	円形	船底状	2.35×2.40	25	炭・焼土を含む
13	円形	船底状	0.92×0.64	32	小さな溝状遺構が取り付く
14	不整形	凹凸状	1.10×1.10	7	
15	不整形	皿状	1.52×1.16	8	
16	長楕円形	皿状	1.04×0.80	8	
17	長楕円形	船底状	2.04×1.36	32	
18	溝状	逆台形状	5.40×1.40	31	凹凸あり
19	不整形	凹凸状	2.00×1.80	11	2条の溝に分離できるか



第27図 主な溝と土坑実測図

埋土に炭層を含む。

土坑15 北辺と東辺が試掘溝によって削平されている。

土坑16 南北に長軸をもつ楕円形の土坑である。北辺は試掘溝により削平されている。断面は浅い皿状を呈する。

土坑17 南北に長軸をもつ楕円形の土坑である。埋土は3層からなる。

⑤土器溜まり

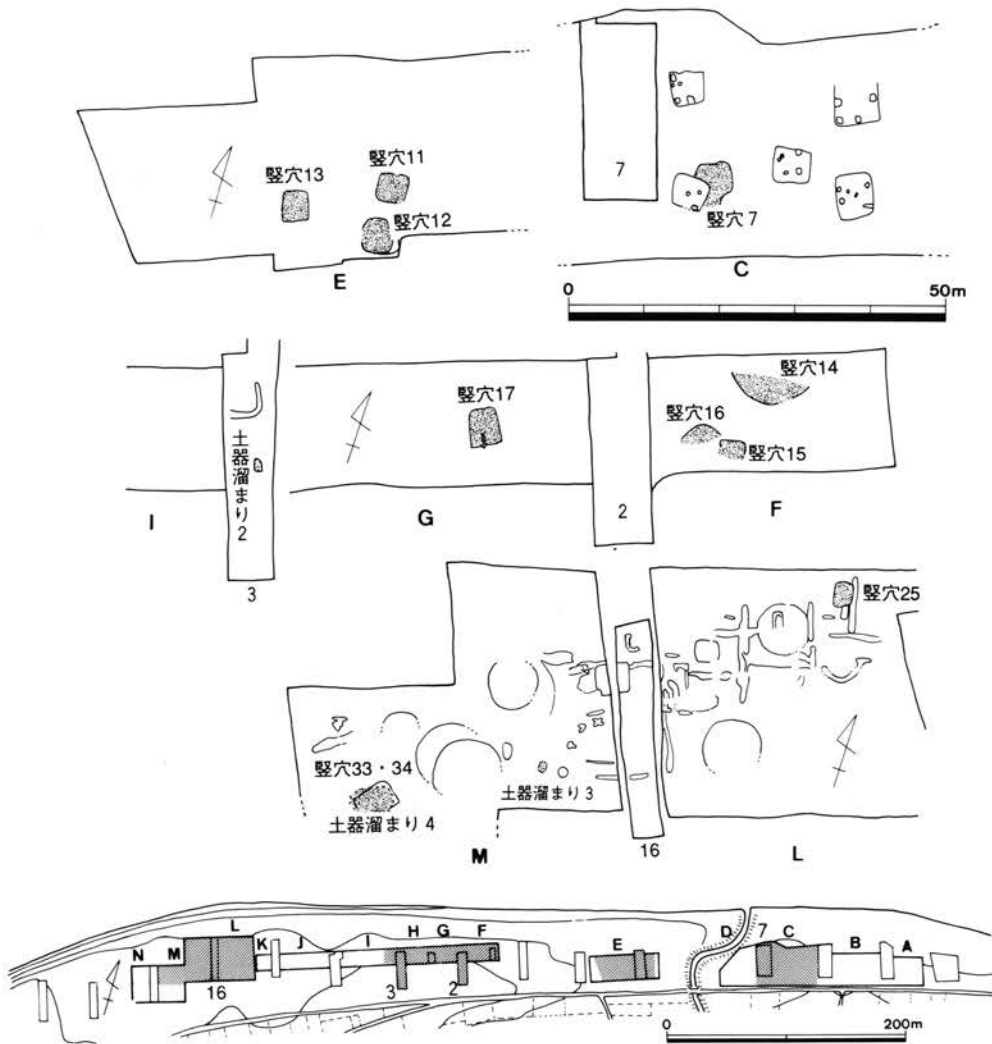
土器溜まり1 Lトレンチの西側で東西5.5m・南北1.5m以上の範囲に土器群が据わったような状態で出土した。北側は試掘溝の削平を受けている。埋土は、黒灰色シルト質土層である。また、この土器溜まりは、溝6・溝12のベース層である黄褐色の砂層を除去した後に検出された。そのため、土器溜まり1→方形周溝墓1の前後関係が成り立つ。出土土器には第Ⅲ様式の壺・甕などがある。

第2節 弥生時代後期～古墳時代前期

弥生時代後期～古墳時代前期の遺構は、調査区の全体に部分的に検出されている。竪穴式住居跡は計11基検出した。平面プランは円形住居跡2基、隅丸方形住居跡2基、不整形方形住居跡1基、方形住居跡4基、長方形住居跡2基と多種多様である。弥生時代後期前半～古墳時代前期と時代が下るとともに、円形・隅丸方形プラン→方形・長方形プランへと変化する傾向がある。ほかに、弥生時代後期後半・古墳時代前期の3基の土器溜まり

付表5 竪穴式住居跡一覧表2

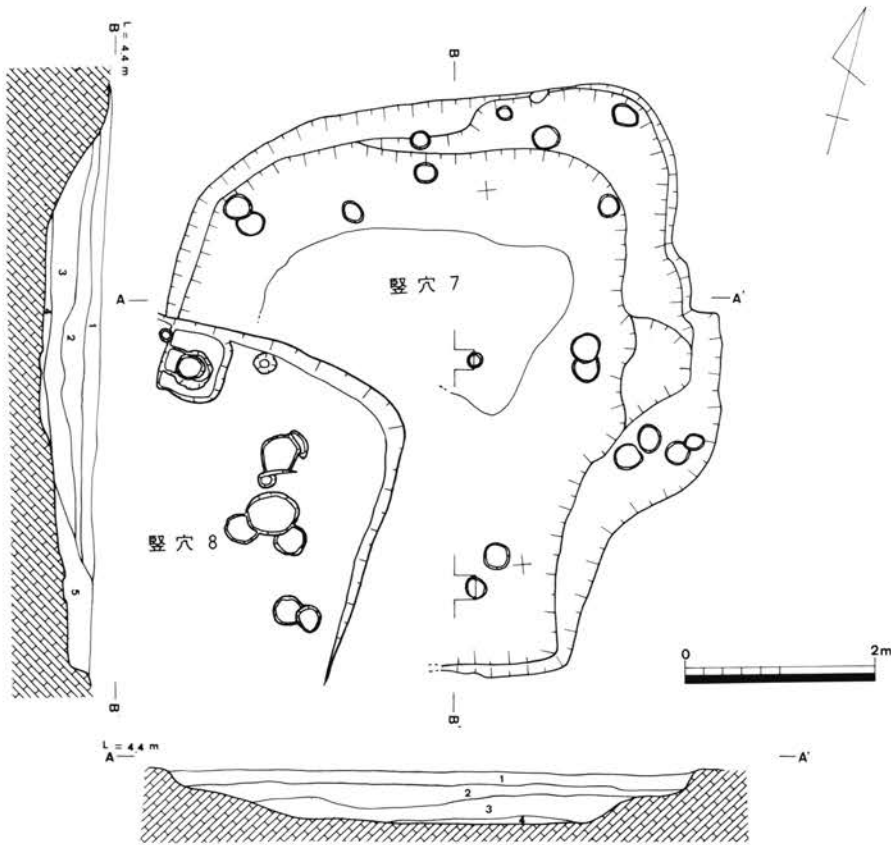
	平面形	規模(m) (東西×南北)	面積 (m ²)	床面絶 対高(m)	壁残存 高(m)	軸方向	周溝	焼土	特殊 ピット	時期
竪穴7	不整 方形	5.52×6.00	33.12	3.72	0.56	—	×	×	×	弥生後期
竪穴11	隅丸 方形	4.34×4.00	17.36	4.08	0.20	N	○	○	○	古墳前期
竪穴12	隅丸 方形	4.44×5.26	23.35	3.98	0.34	N18° 30' W	○	×	×	弥生後期
竪穴13	方形	3.42×4.14	14.16	4.04	0.18	N19° W	×	×	○	古墳前期
竪穴14	円形	—	(74.78)	4.00	0.20	—	○	×	○	弥生後期
竪穴15	方形	5.18	(26.83)	3.72	0.12	N8° W	×	×	○	弥生後期
竪穴16	円形	—	—	4.02	0.18	—	○	×	×	弥生後期
竪穴17	方形	4.28	(18.32)	4.18	0.12	N32° W	○	○	×	弥生後期
竪穴25	方形	2.82×3.12	8.80	4.16	0.26	N11° 30' W	×	○	×	弥生後期
竪穴33	長方形	3.60×5.60	19.18	3.60	0.10	N40° E	○	×	×	古墳前期
竪穴34	長方形	2.60×5.40	14.04	—	0.10	N40° E	○	○	×	古墳前期



第28図 弥生時代後期～古墳時代前期遺構分布図

を検出している。以下、トレンチごとに概要を述べる。

Cトレンチの下層遺構は古墳時代中期の遺構が中心であり、包含層もその時期のものが多。その中で、弥生時代後期前半の竪穴式住居跡を1基検出した。E・F・G・4トレンチでは、弥生時代後期前半～古墳時代前期の住居跡が7基、土器溜まり1基が検出された。包含層は薄いが、上記の時期の遺物が中心となる。E・Fトレンチには、住居跡が比較的密に集中している。L～Mの下層遺構は、弥生時代中期の遺構が中心であるが、部分的に弥生時代後期末～古墳時代前期の遺物が出土する地点がある。特に、2か所の土器溜まりを検出した付近ではその傾向が強い。住居跡3基、土器溜まり2基を検出した。



第29図 竪穴式住居跡7実測図

1. 濃茶褐色粘質土層 2. 黒褐色粘質土層 3. 暗褐色粘砂質土層
4. 暗黄褐色粘土層 5. 黄褐色粘土層

①竪穴式住居跡

竪穴式住居跡7

平面形と規模 南西側1/4を竪穴式住居跡8と切り合い関係をもつことにより攪乱されている。東西径5.52m・南北径6.0mを測る不整形の竪穴状の遺構である。

壁と床面の状況 断面は船底状を呈する。北西壁はゆるやかに下り、南東側は段状を呈する。床面に焼土・炭は確認していない。床面上には多少ピットが存在するが、どれも浅く柱穴に比定できるものはない。

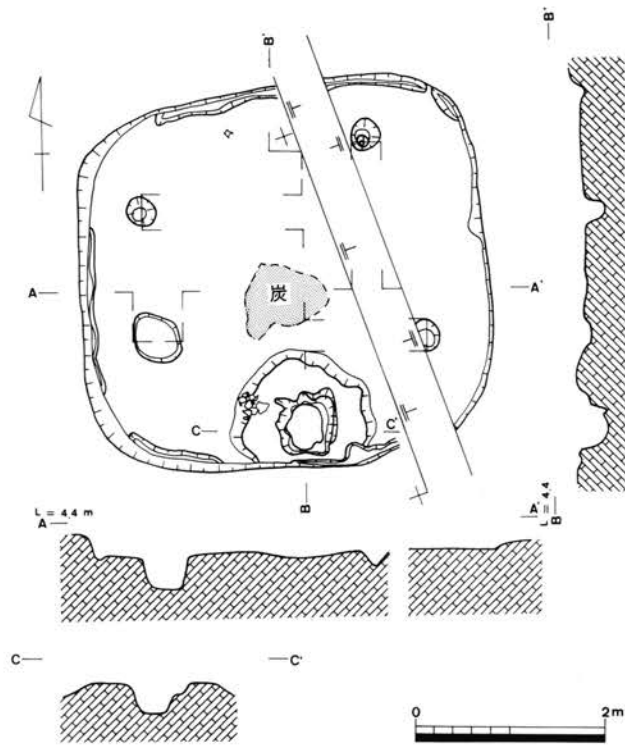
埋土及び遺物の出土状況 埋土は5層にわかる。各層から多数の弥生時代後期の土器が出土している。

竪穴式住居跡11

平面形と規模 南北径3.9m・東西径4.4mを測る隅丸方形の竪穴式住居跡である。中央

部を南北方向の試掘溝によって削平されている。

壁と床面の状況 壁は約18cmほど残存している。周壁溝は竪穴壁体に沿ってめぐるが、断続的であり、東辺・北西隅・南西隅部分では確認できなかった。断面が「V」字状を呈し、最大幅24cm、床面からの深さは5cmと浅い。床面中央部には炭化層が認められるが、焼土・土坑などは認められない。南辺に特殊ピットを持つ。柱穴は基本的に四本柱と考えられる。南西のもののみやや大型であり、直



第30図 竪穴式住居跡11実測図

径48cm・深さ36cmを測る。他の3基はやや小型で、直径32cm・深さ20cmである。

埋土及び遺物の出土状況 住居跡の中央から東側にかけて、床面直上と埋土層から古墳時代前期の土器が数点出土している。その中で完形に近いものには、床面上の台杯鉢と特殊ピット埋土中の甕がある。

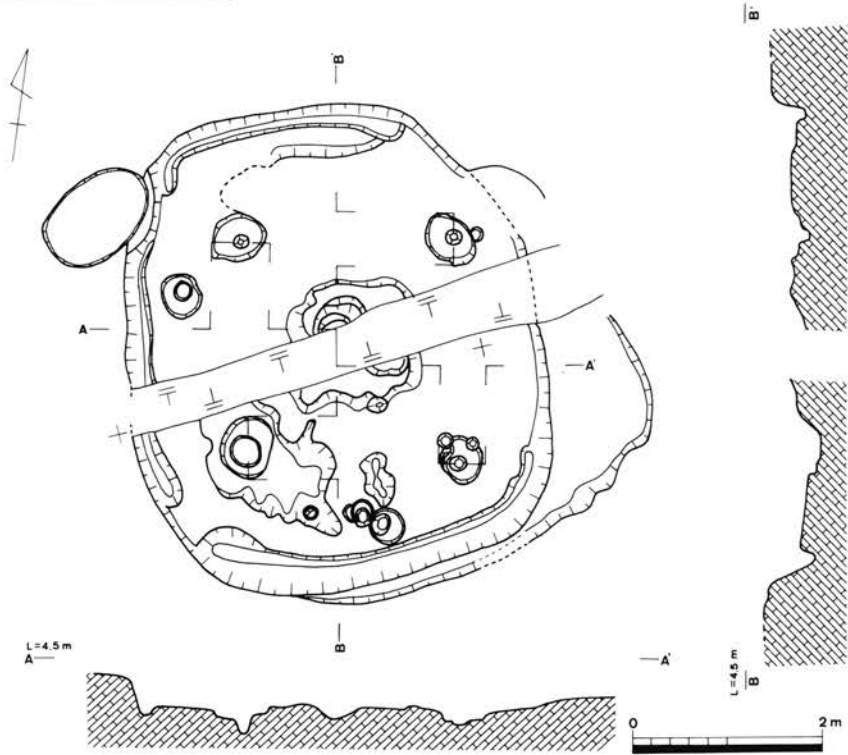
竪穴式住居跡12

平面形と規模 中央部を東西の試掘溝によって削平されている。東西径4.44m・南北径5.26mを測る隅丸方形の竪穴式住居跡である。

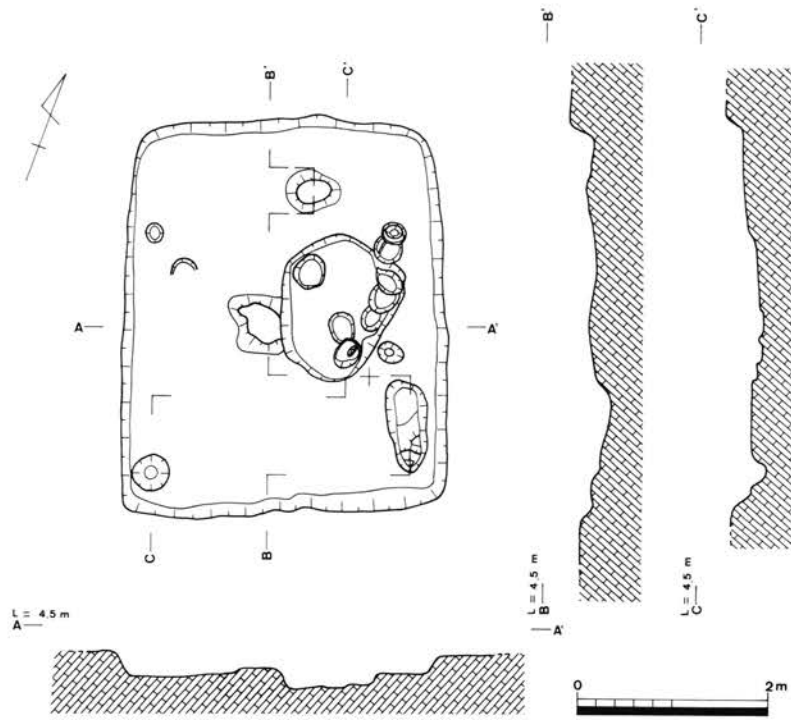
壁と床面の状況 壁は約30cm残存している。周溝は東側を除き完周している。断面「U」字状を呈し浅い。炭化層・焼土は検出できなかった。中央部には周囲にやや高まり(土堤帯)をもつ土坑がある。主柱穴は、基本的に4本柱である。ただ、竪穴式住居跡の主軸とずれることは注意を要する。深さは床面から10~20cmを測る。

埋土及び遺物の出土状況

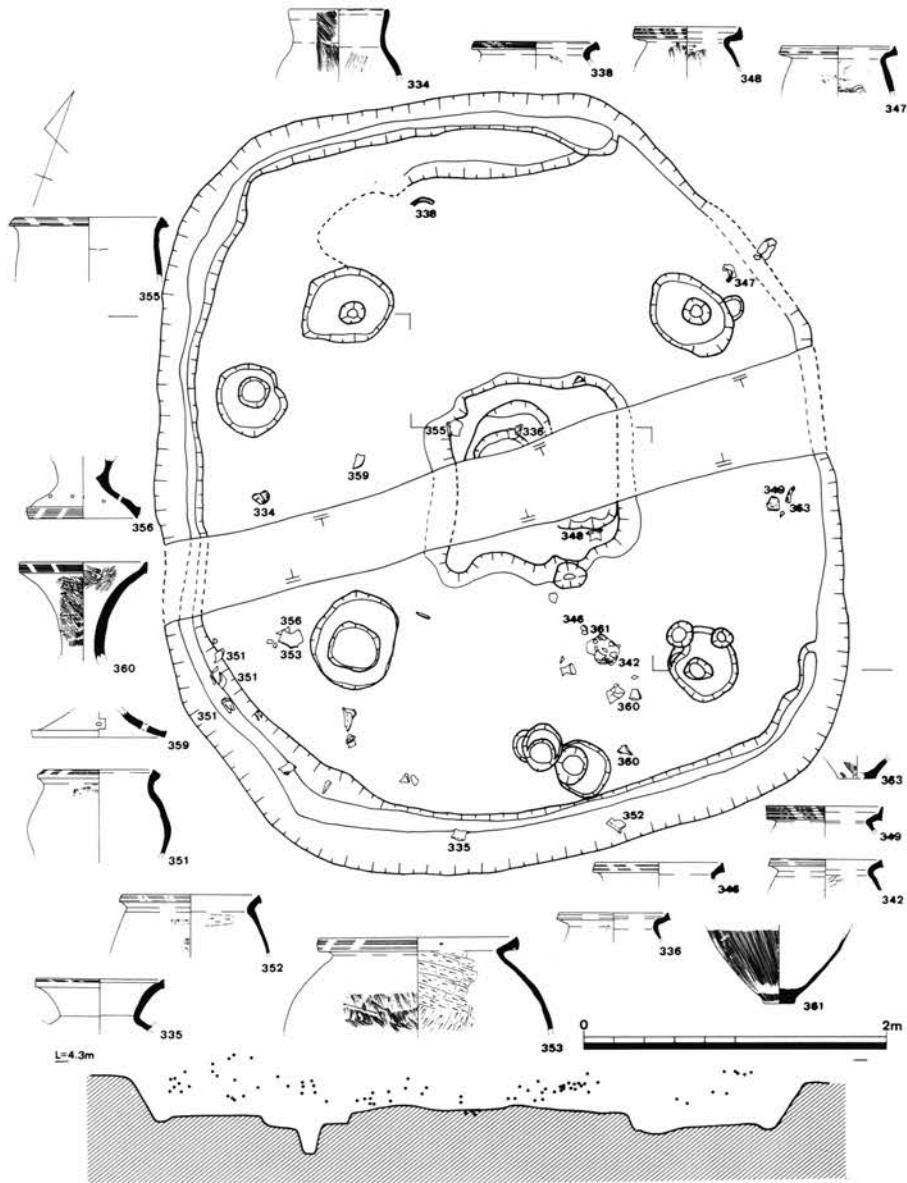
土器・ガラス小玉が出土している。出土土器は、中央~南側にかけて拡がっており、すべて埋土中からの出土である。これらは、完形品はなく破片が多い。弥生時代後期前半のものが多数を占めている。



第31図 竪穴式住居跡12実測図



第32図 竪穴式住居跡13実測図

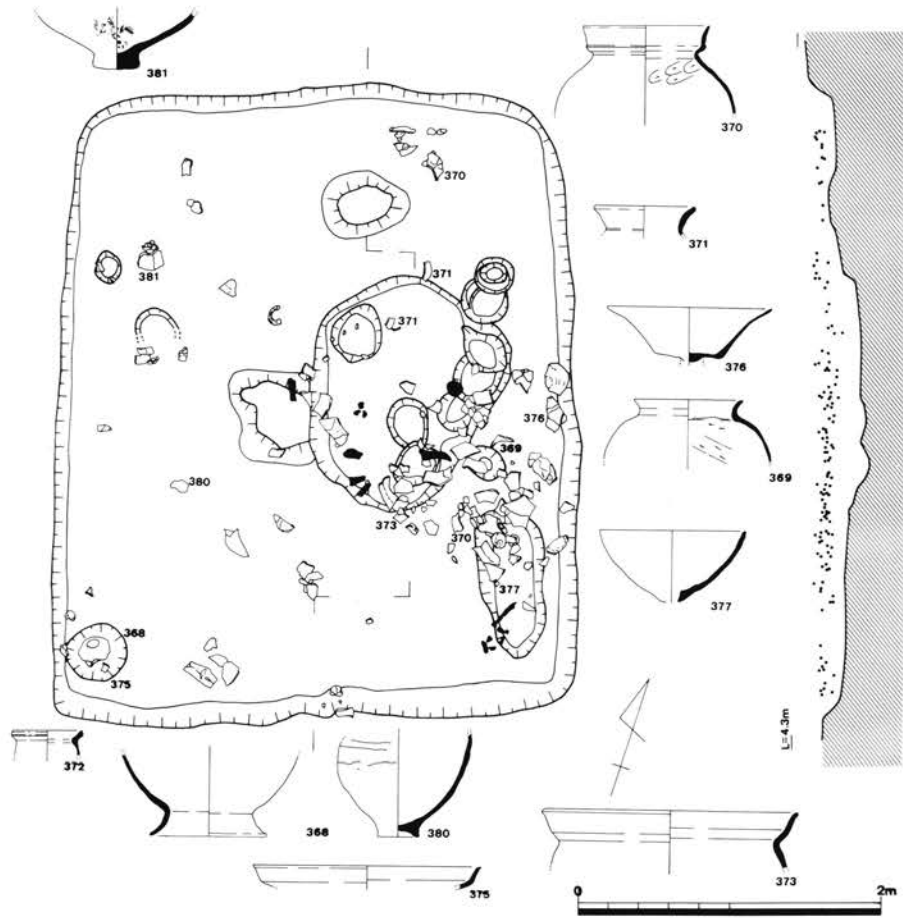


第33図 竪穴式住居跡12遺物出土状況図

竪穴式住居跡13

平面形と規模 東西径3.42m・南北径4.14mを測る方形の竪穴式住居跡である。

壁と床面の状況 壁は約20cmほど残存している。周壁溝・炭化層・焼土は認められなかった。中央部からやや東よりで東西径1.2m・南北径1.5mの楕円形土坑を検出した。土坑内には小ピットが複数あり、10~20cmの深さをもつ。中央部とやや北側に不整形の高まりがある。さらに、南東隅で長楕円形の土坑、南西隅で円形ピットを検出した。円形ピット



第34図 竪穴式住居跡13遺物出土状況図

からは壺の上半部1個体が逆位で出土した。主柱穴は確認できない。

埋土及び遺物出土の状況 中央部の土坑及び長楕円形の土坑埋没後、その上面から多数の土器が出土している。竪穴式住居の廃絶後、数個体の土器が投棄された可能性がある。出土した土器は、比較的大型の破片の状態のものが多いが、細片化しているものもある。その多くは古墳時代前期のものである。中には、弥生時代後期後半のものも数点あり、何らかの理由で混入した可能性が高い。

竪穴式住居跡14

平面形と規模 直径約7～9mの円形の住居跡である。南側半分のみ残存している。中央部に2条の試掘溝が走る。南側に溝が1条孤状にめぐり、形状から考えて周壁溝と思われる。住居跡を拡張したと考えることもできる。

壁と床面の状況 内側の壁は約20cm残存している。周壁溝は完周せず、東～南側にかけ



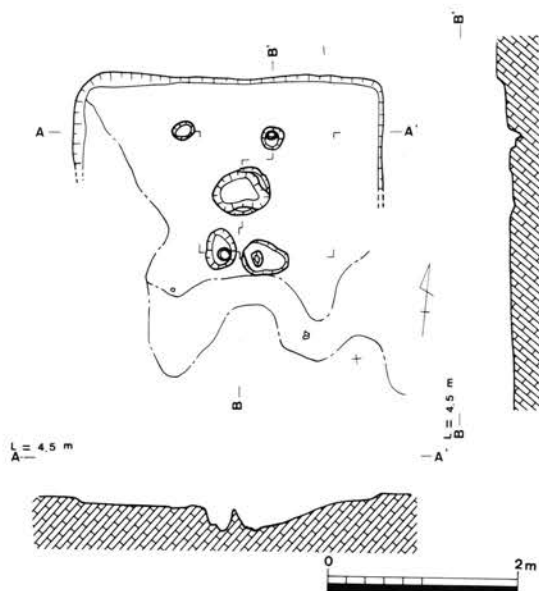
第35図 竪穴式住居跡14実測図

て部分的に検出された。住居跡の中央部で円形のピット、西側で若干の高まりを確認した。柱穴状のピットは多少検出したがどれも浅く、主柱穴を確定することは困難である。

埋土及び遺物出土状況 弥生時代後期後半の土器が十数点出土した。出土位置は、南西部周壁溝付近や西側のピット内で、ほとんど破片である。出土遺物の中では甕が多い。

竪穴式住居跡15

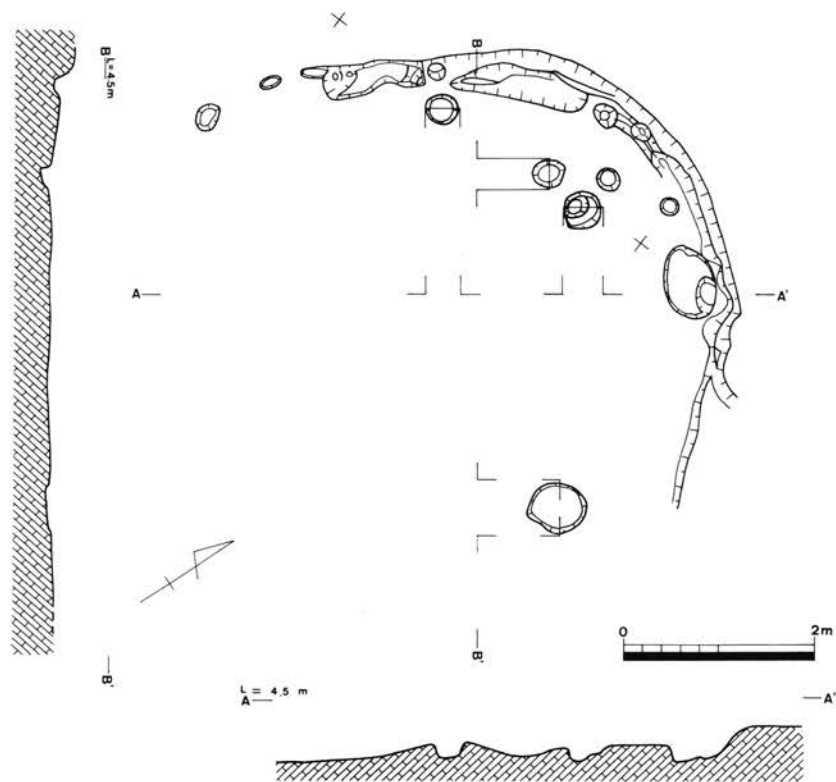
平面形と規模 北側部分のみプランを検出した。南側壁は削平されている。東西径5.18mを測る方形の住居跡である。住居跡内床面の南側で噴砂らしき地面の割れを確認した。



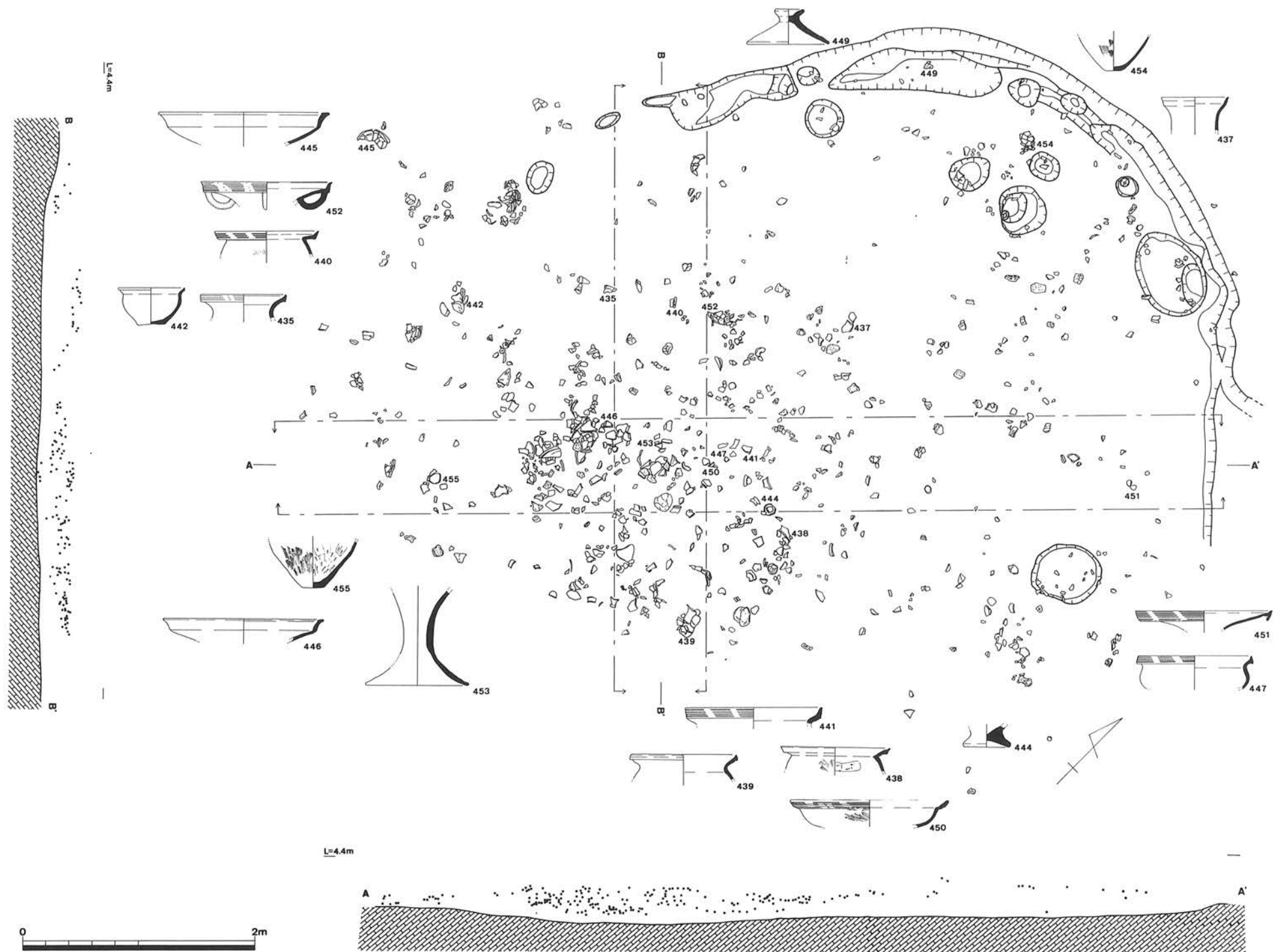
第36図 竪穴式住居跡15実測図

壁と床面の状況 残存壁高は約10cmである。周壁溝・炭化層・焼土は認められなかった。中央部に楕円形のピットを検出した。その内、二つは中に小ピットをもつ。その他、北側にピット二つ検出した。支柱穴は不明である。

埋土及び遺物の出土状況 弥生時代後期後半の土器が約30点ほど出土している。これらは、住居内と考えられる範囲全面に分布する。ほとんどが埋土中で破片の状態で出土した。出土土器には壺・甕・高杯などがある。



第37図 竪穴式住居跡16実測図



第38図 竪穴式住居跡16遺物出土状況図

竪穴式住居跡16

平面形と規模 東西径6.0m以上を測る竪穴式住居跡である。北辺のみ検出しており、他の辺の状況はわからない。

壁と床面の状況 壁残存高は約18cmを測る。周壁溝は、北西辺で部分的に検出した。焼土・炭化層は認められなかった。円形の小ピットを十数個検出したが、主柱穴を推定できる状況ではない。

埋土及び遺物の出土状況 弥生時代後期後半の土器が約20点ほど出土している。出土位置は、南側に分布の中心をもち、多数の土器が破片の状態でも出土した。出土層位は、すべて埋土中からで、ほぼ中心から密集して出土している。住居廃絶後に、一括して投棄された可能性が高い。出土土器には壺・甕・鉢・蓋・高杯・器台などがある。

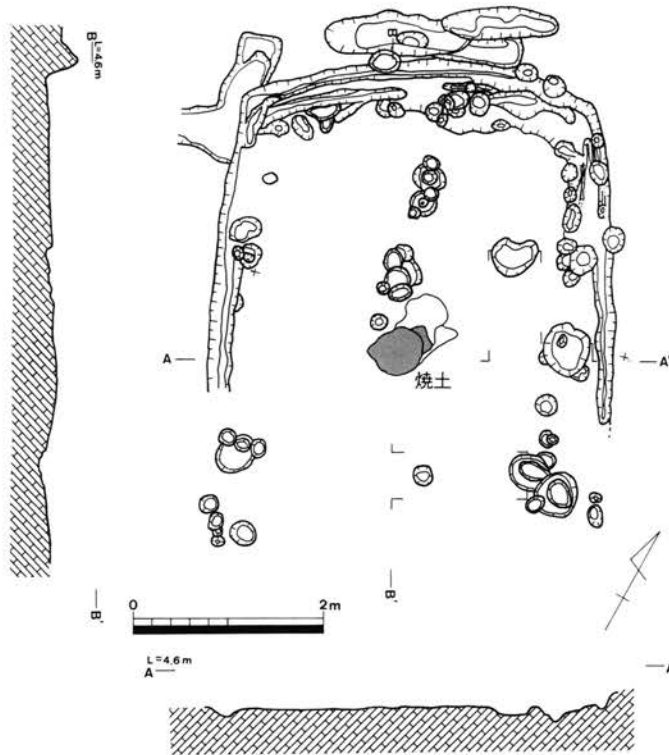
竪穴式住居跡17

平面形と規模 東西径4.28mを測る方形の住居跡である。南辺は削平を受けており、南北径は不明である。

壁と床面の状況 壁残存高は10~20cmを測る。周壁溝は浅く断続的にめぐるので、炭化層は認められなかった。焼土は中央部で円形状に確認した。円形・楕円形など、種々の形状・大きさのピットを検出したが、主柱穴は想定できない。

焼土は中央部で円形状に確認した。円形・楕円形など、種々の形状・大きさのピットを検出したが、主柱穴は想定できない。

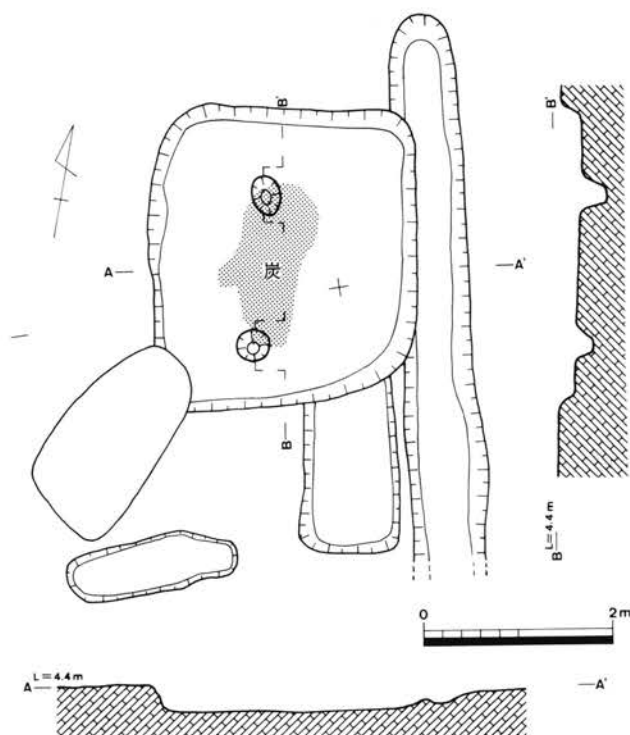
埋土及び遺物の出土状況 弥生時代後期後半の土器が十数点出土した。出土位置は、北側と南側に偏る傾向がある。すべて埋土中からの出土である。出土土器の中では、甕と蓋が多数を占める。



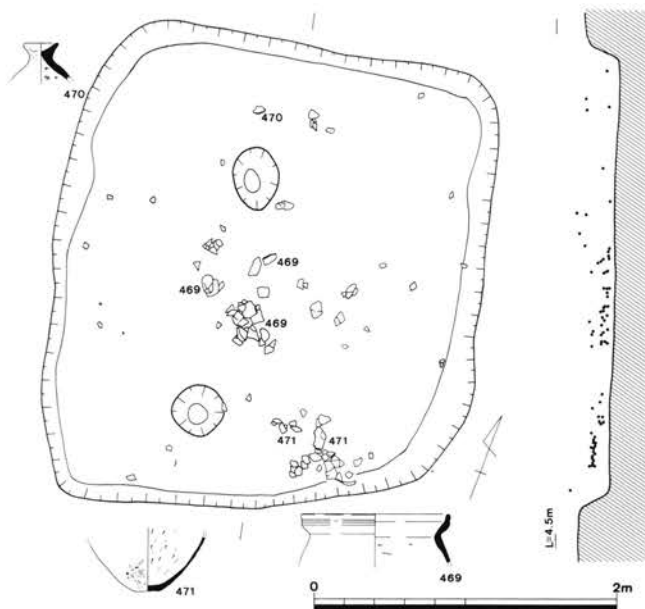
第39図 竪穴式住居跡17実測図

竪穴式住居跡25

平面形と規模 東西



第40図 竪穴式住居跡25実測図



第41図 竪穴式住居跡25遺物出土状況図

2.82m×南北3.12mを測る方形の住居跡である。南西辺を飛鳥～奈良時代の長方形の土坑によって切られている。

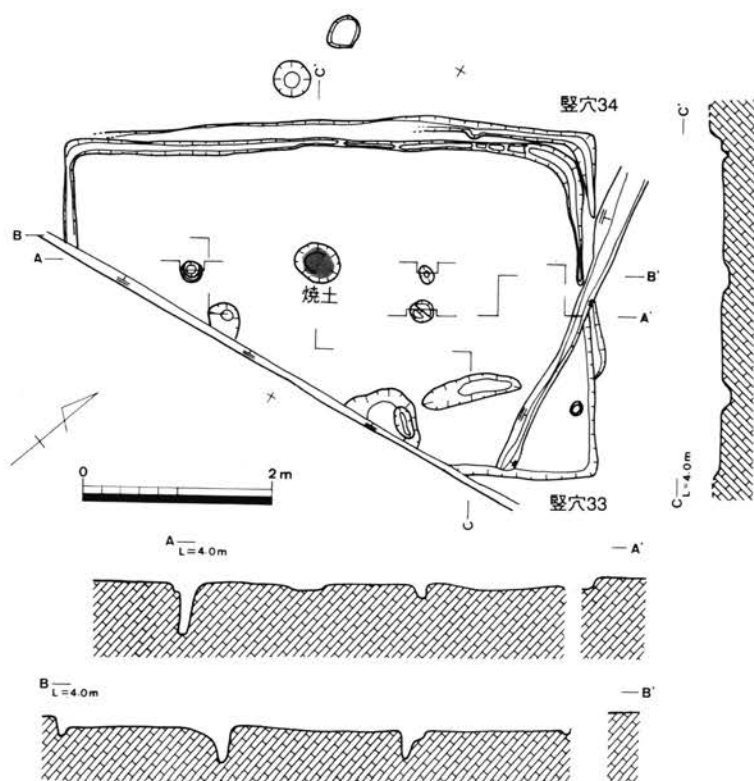
壁と床面の状況 壁残存高は約26cmを測る。中央部に長楕円形状に薄く広がる炭化層を検出した。周壁溝・焼土は認められなかった。中央部で深さ約20cmのピットを2個検出した。二本柱の住居跡である。

埋土及び遺物の出土状況 弥生時代後期後半の土器が数点出土した。出土位置は、床面の中央部と南辺に集まる。土器は埋土中から蓋、床面上には、甕が1個体完形に近い状態で出土している。この甕は竪穴式住居跡廃絶時のものと思われる。

竪穴式住居跡33

平面形と規模 東西3.6m×南北5.6mを測る長方形の住居跡である。南辺は未検出である。

壁と床面の状況 壁残存高は約10cmを測る。周壁溝は南西辺と北西辺に



第42図 竪穴式住居跡33・34実測図

認められる。深さは5～6cmある。炭化層・焼土は認められなかった。住居跡の短辺中央部で径20cm前後、深さ約40cmを測るピットを2個検出した。二本柱の住居跡である。

埋土及び遺物の出土状況 埋土は1層である。埋土中からは、弥生時代中期と古墳時代前期の土器片がわずかに出土している。床面上からは土器は出土していない。竪穴式住居跡34と切り合い関係を持ち、竪穴式住居跡34→竪穴式住居跡33の前後関係が成り立つ。

竪穴式住居跡34

平面形と規模 東西2.6m×南北5.4m以上を測る長方形の住居跡である。竪穴式住居跡33がほぼ上面に重なっており、北西辺と北東辺のみしか残存していない。

壁と床面の状況 壁は北西辺がわずかに10cmほど残存している。周壁溝は北側にわずかに検出した。床面の状況は、竪穴式住居跡34が上面に重なっているため不明な点が多い。竪穴式住居跡33の床面上にある三つのピットは、検出位置からこの住居跡に伴うと考えられる。中央部の円形ピット内全面で厚い焼土を検出した。2本柱の住居跡と考えられる。

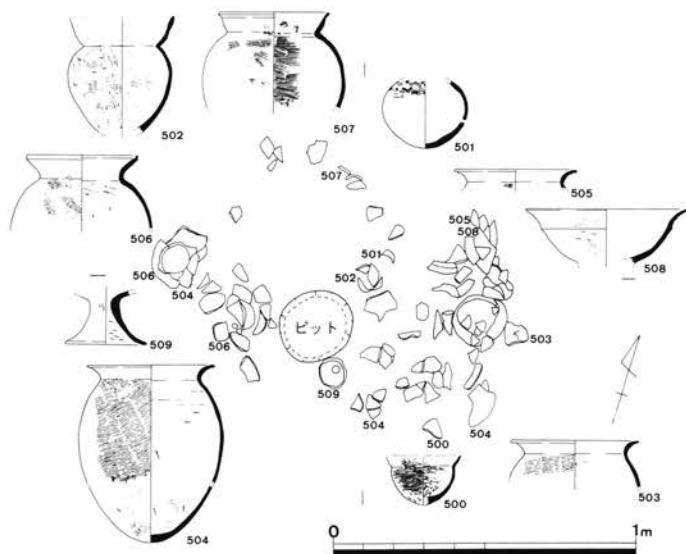
この竪穴式住居跡33・34の埋土・床面上からはほとんど土器は出土しなかったが、この竪穴式住居跡33の検出面より上に土器溜まり2が拡がる。これによって、両竪穴式住居跡

の下限を押さえることができる。また、竪穴式住居跡33・34はともに長方形2本柱の住居跡であり、このプランの竪穴式住居跡は現在のところ丹後・丹波地域では古墳時代前期をさかのぼり得ないため、土器溜まり2とはほぼ変わらない時期と考えられる。

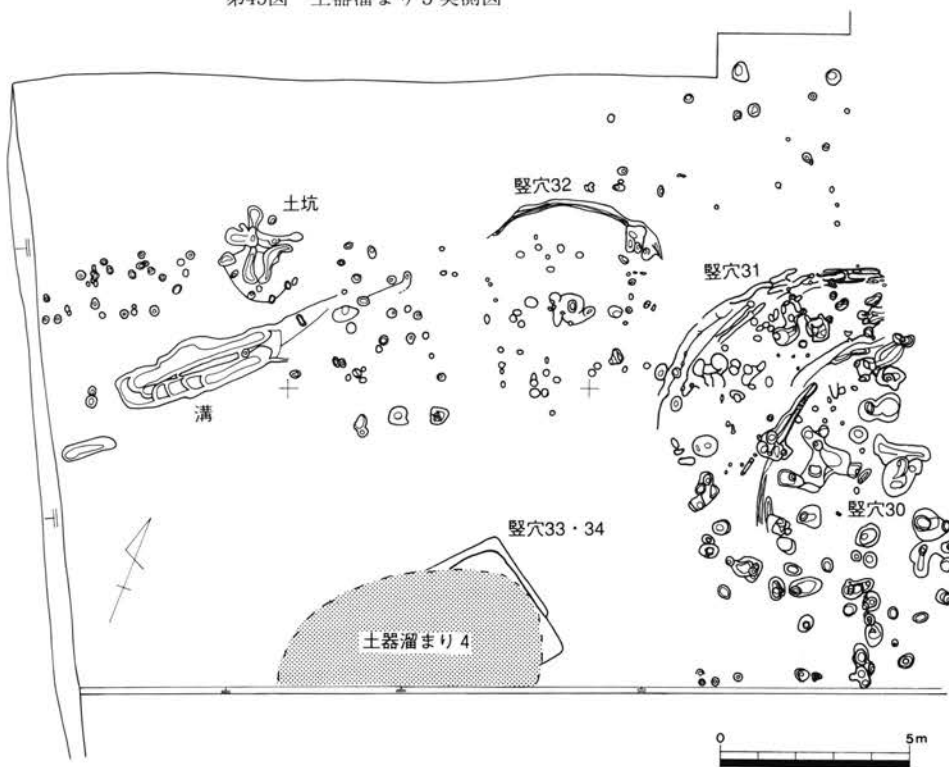
②土器溜まり

土器溜まり2 4ト
レンチの中央部で検出した。東西0.8m×南北1.2mの範囲から弥生時代後期後半の土器が多数出土した。これらはまさしく密集した状態で検出された。その器種には壺・甕・鉢・高杯・器台などがある。

土器溜まり3 Mト



第43図 土器溜まり3実測図



第44図 土器溜まり4周辺遺構平面図

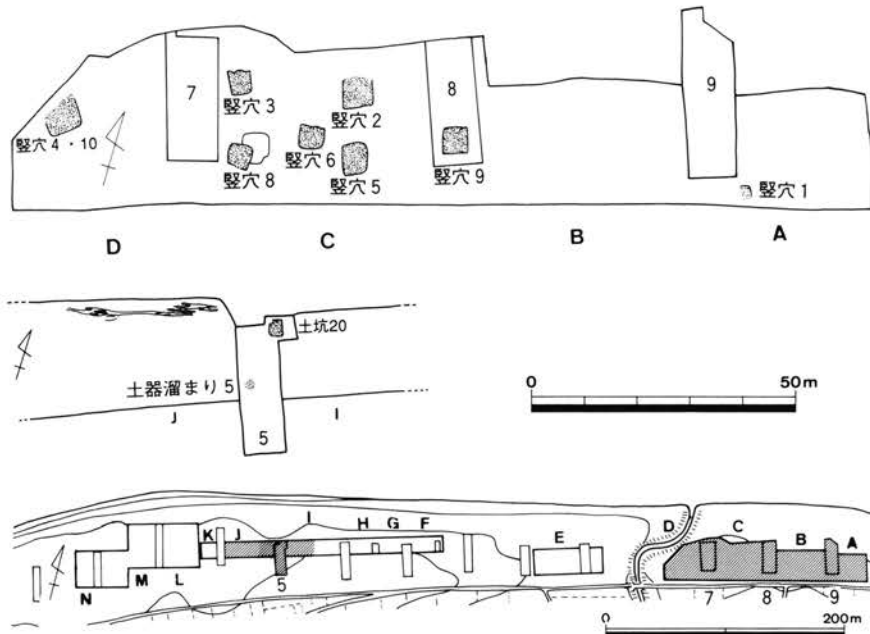
レンチの東側で検出した。直径25cmのピットの周囲東西1.2m×南北0.8mの範囲から古墳時代前期の土器が約10点出土した。出土土器には壺・甕・高杯・鉢などがあり、やや甕が多い。

土器溜まり4 Mトレンチの南側、竪穴式住居跡33・34の上面で検出した。東西7m×南北2.8mの範囲に古墳時代前期の土器20数点、3か所の自然石・敲き石を含む小集石遺構が広がる。土器は比較的完形のものが多い。その器種には壺・甕・鉢・高杯・小型器台など多様なものがある。

第3節 古墳時代中期～後期

桑飼上遺跡の古墳時代中期～後期の遺構は、A～Dトレンチ・5トレンチにおいて検出した。さらに、Mトレンチの包含層から古墳時代後期の遺物が出土している。A～Dトレンチは、上層において奈良時代の掘立柱建物跡群を検出しており、20～30cmの包含層を除去した後、古墳時代中期～後期の竪穴式住居跡を9基検出した。包含層からは同時期の遺物が出土している。検出した竪穴式住居跡はすべて方形の住居跡である。また、住居跡の大部分(竪穴式住居跡1・3・4・5・6・8・10)からは白玉を中心とした滑石製品が出土している点が注目される。

さらに、5トレンチからは土坑20と土器溜まり5を検出した。土坑20については、古墳



第45図 古墳時代中期遺構分布図

付表6 竪穴式住居跡一覧表3

	平面形	規模(m) (東西×南北)	面積 (m ²)	床面絶 対高(m)	壁残存 高(m)	軸方向	周溝	焼土	特殊 ピット	時期
竪穴1	方形	—	—	3.44	0.20	N29° W	○	—	—	古墳中期
竪穴2	方形	6.04×?	(36.48)	4.56	0.04	N20° W	○	○	○	古墳中期
竪穴3	方形	4.22×?	(17.81)	4.60	0.04	N22° W	○	×	○	古墳中期
竪穴4	方形	7.04×?	(49.56)	4.34	0.14	N40° W	○	×	○	古墳中期
竪穴5	方形	5.08×6.06	3.78	3.42	0.58	N30° W	○	×	×	古墳中期
竪穴6	方形	4.96×4.24	21.03	4.10	0.10	N20° W	×	○	×	古墳中期
竪穴8	方形	4.52×4.44	20.07	4.04	0.14	N	×	○	○	古墳中期
竪穴9	方形	5.20×5.14	26.73	4.04	0.20	N20° W	○	○	×	古墳中期
竪穴10	方形	5.86×?	(34.34)	4.20	0.18	N44° W	○	○	×	古墳中期

時代前期にさかのぼる可能性もあるが、一応この節で扱うことにする。

①竪穴式住居跡

竪穴式住居跡1

平面形と規模 北辺と東辺の一部を検出した。方形プランを持つ住居跡と推定される。規模はわからない。

壁と床面の状況 壁の残存高は約20cmを測る。周壁溝は東辺のみ検出した。幅は約10cm前後で、断面は「U」字状を呈する。炭化層・焼土は認められなかった。床面に小ピットをわずかに検出した。

埋土及び遺物の出土状況 北辺付近の床面上からは、白玉が23点まとまって出土した。その密集度から、何かに繋れていた可能性がある。土器はほとんど出土していない。

竪穴式住居跡2

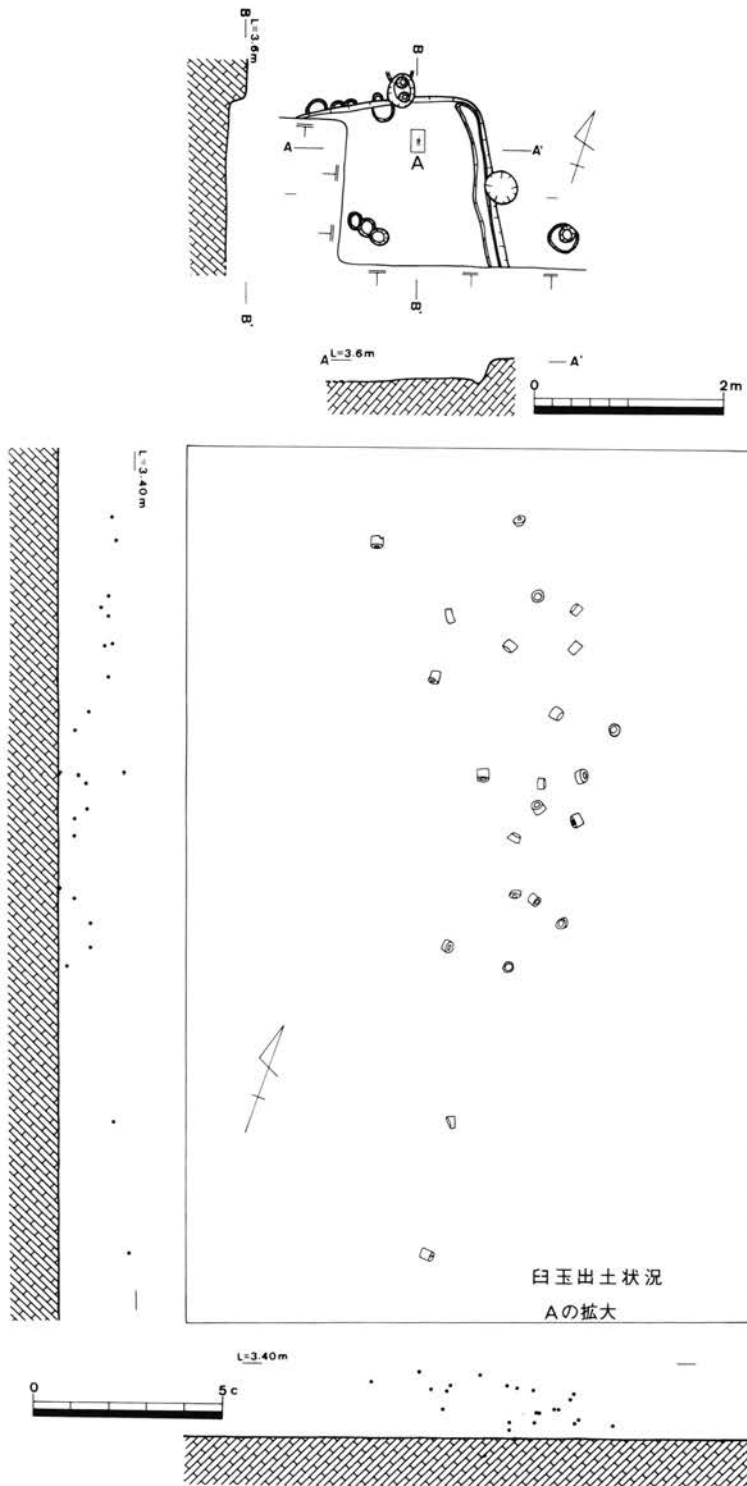
平面形と規模 東西6.4mを測る方形の住居跡である。北辺は現由良川の氾濫原によって削平されている。

壁と床面の状況 壁の残存高はわずか4～5cmである。周壁溝は幅約20cmでほぼ完周する。炭化層は、中央の円形ピットの底面から周囲に広がる。焼土は、南側径約40cmの範囲に広がる。西辺に取り付く特殊ピットを検出した。周囲にわずかな高まり(土堤帯)をもち、船底状の断面である。深さ約40cmを測る。4本柱の住居跡であり、その柱間距離は2.7mを測る。ほかに、隅丸方形の土坑を4か所検出した。すべて浅く遺物は出土していない。

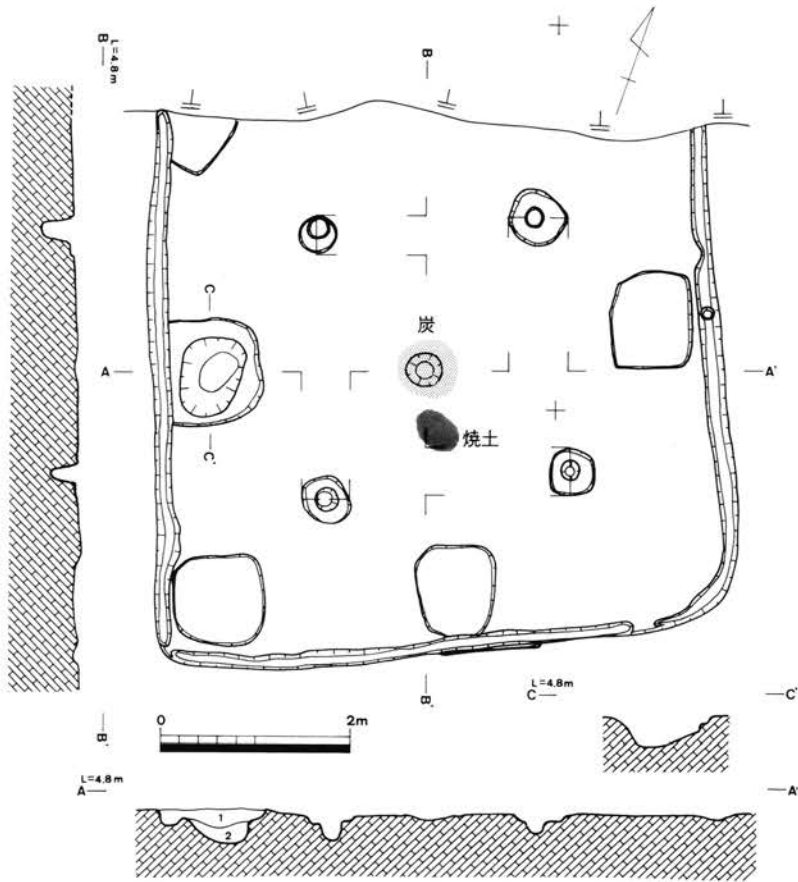
埋土及び遺物の出土状況 特殊ピット内の埋土は2層にわかれる。埋土中から古墳時代中期の土器が数点出土している。出土土器は土師器甕・小型丸底壺・高杯がある。

竪穴式住居跡3

平面形と規模 東西3.75mを測る方形の住居跡である。住居跡北辺については、河川の



第46図 竪穴式住居跡1実測図



第47図 竪穴式住居跡2 実測図

1. 褐色粘性砂質土層(炭・灰混じり) 2. 褐色粘性砂質土+黄色粘土層

侵食により流失しているのですが、検出できなかったが、周壁溝と北西隅に位置する土坑の存在から、やや南北に長い平面形が復原推定できる。

壁と床面の状況 壁の残存高は4～5cmを測る。周壁溝は10～20cmの幅をもってほぼ完周する。焼土・炭化層は認められなかった。南辺中央部で特殊ピットを検出した。さらに北西隅と南西隅に不整形形状の土坑を検出した。貯蔵穴などの可能性が考えられる。径30～50cmの円形ピットを十数個検出したが、支柱穴は確定できなかった。また、床面は段状を呈するか所がいくらかあり、噴砂によって生じた可能性がある。

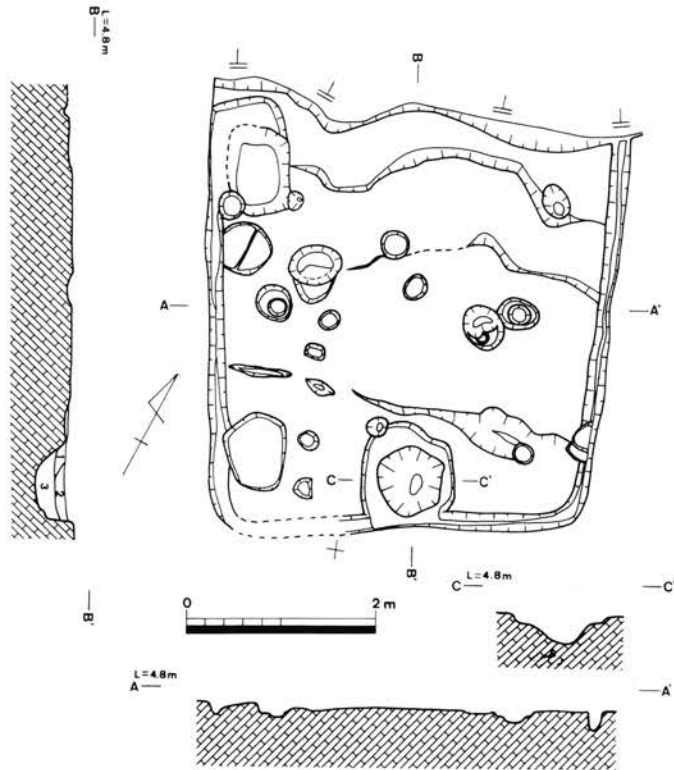
埋土及び遺物の出土状況 古墳時代中期の土師器が数点、滑石製の白玉が十数点出土した。土器は、3か所に集中して分布する。すなわち、北西隅に取り付く土坑埋土中からは、完形の小型丸底壺・甕、南西隅の土坑には壺、南辺に取り付く特殊ピット検出面上面及び埋土中からは、甕・壺・高杯などが出土している。また、埋土中及び床面付近のほぼ全面

から滑石製白玉が多数出土した。

竪穴式住居跡 4

平面形と規模 東西7.04mを測る方形の住居跡である。住居跡の北側は河川の侵食を受けている。

壁と床面の状況 壁の残存高は約15cmである。周壁溝はほぼ断続的に完周する。焼土・炭化層は認められなかった。南東側の床面は段差をもち、いわゆるベッド状遺構と考えられる。埋土は1層で床面に張り床(3.黄灰色粘土層)をもつ。南東



第48図 竪穴式住居跡3実測図

1. 茶褐色砂質土層(炭混じり)
2. 茶褐色砂質土層
3. 黄褐色粘性細砂質土層

辺中央部で特殊ピットを検出した。土坑埋土は2層にわかれる。20cm前後の円形ピットを2つ検出した。北西側のピットは未検出であるが、4本柱の住居であった可能性が高い。

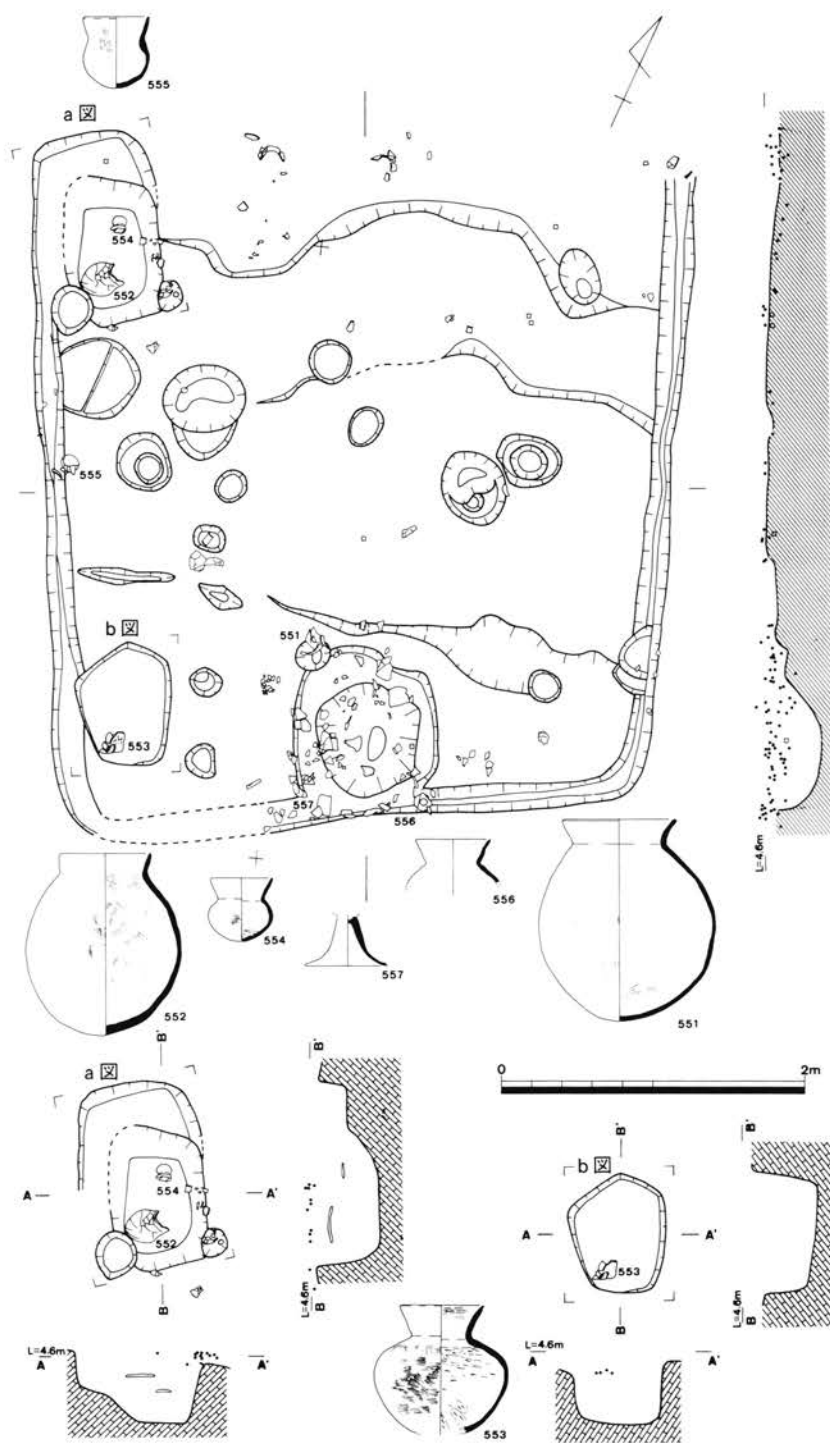
埋土及び遺物の出土状況 古墳時代中期の土師器・須恵器、有孔円板、ガラス小玉などが出土した。特殊ピット内の埋土上層からは、完形の土師器壺・高杯が出土した。須恵器は埋土中からの出土である。有孔円板、ガラス小玉は東側の床面上に集中する傾向にある。

竪穴式住居跡 5

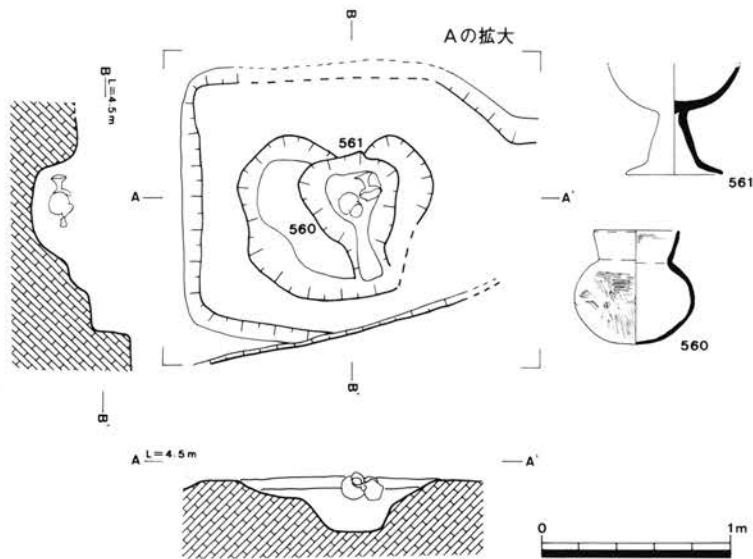
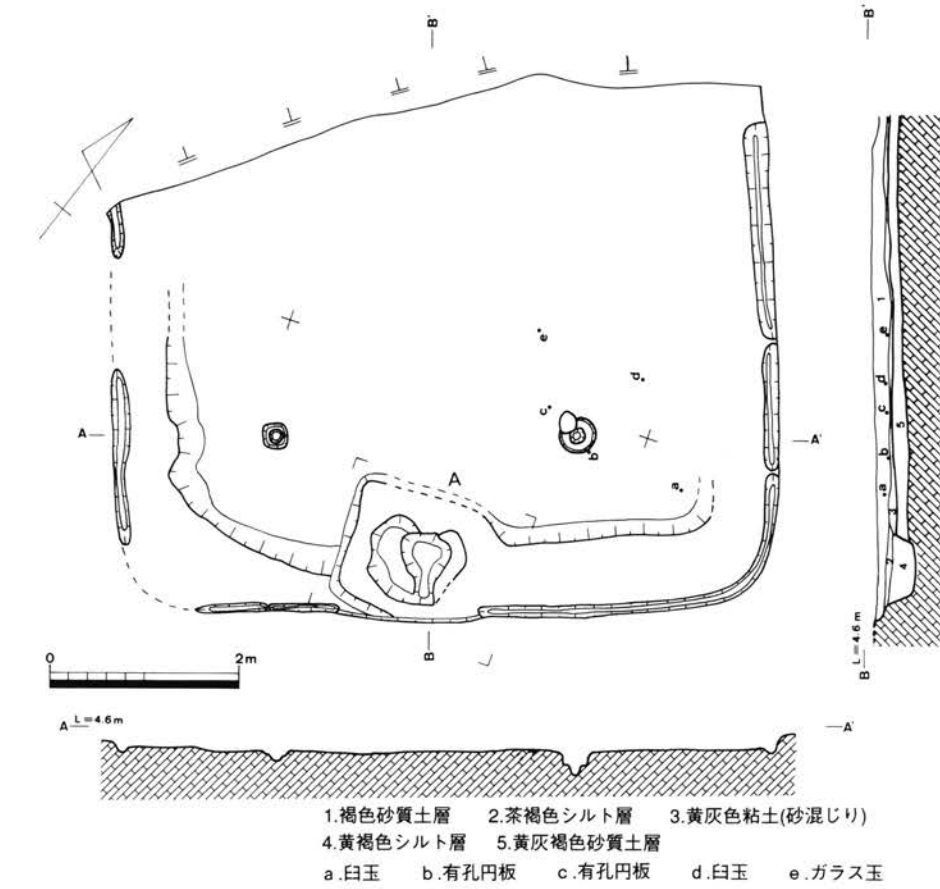
桑飼上遺跡で検出された34基の住居跡の中でもっとも残りがよい。

平面形と規模 東西4.95m・南北6.15mを測る長方形の竪穴式住居跡である。

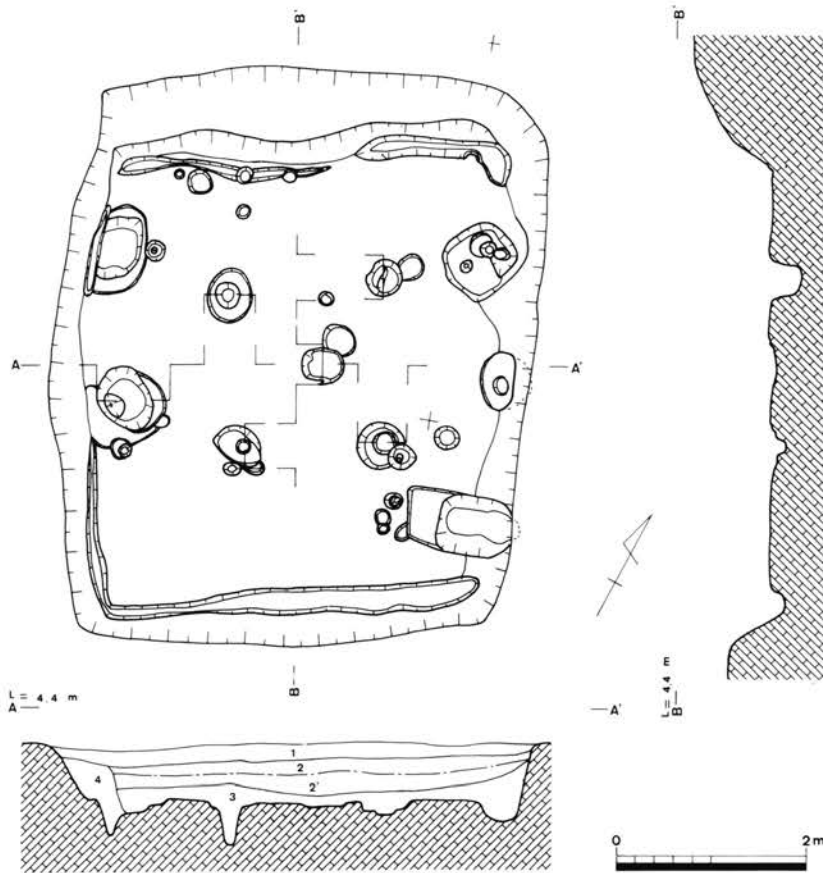
壁と床面の状況 壁の残存高は最大約80cmを測る。北壁は各辺に比べてゆるやかに下る。周壁溝は東辺を除き断続的にめぐる。焼土は中央に検出した。炭化層は明瞭には認められなかった。さらに径40cm前後の円形ピットを4か所で検出しており、4本柱の住居跡と考えられる。その柱間距離は平均1.6mである。また、住居内施設として西辺西北隅で深さ



第49図 竪穴式住居跡3 遺物出土状況図(ドットは土器、白ヌキ四角は白玉)



第50図 竪穴式住居跡4実測図、特殊ピット遺物出土状況図

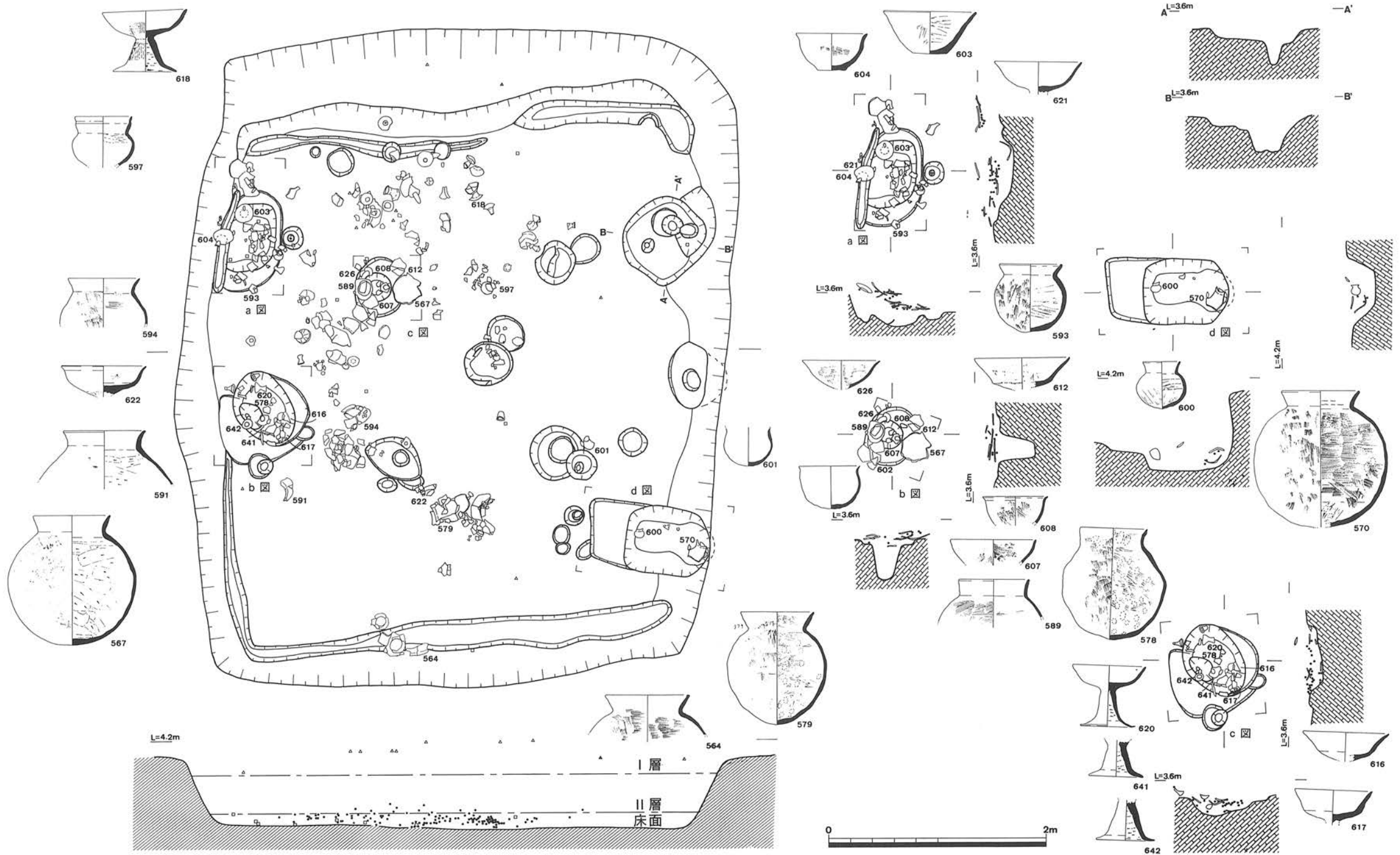


第51図 竪穴式住居跡5実測図

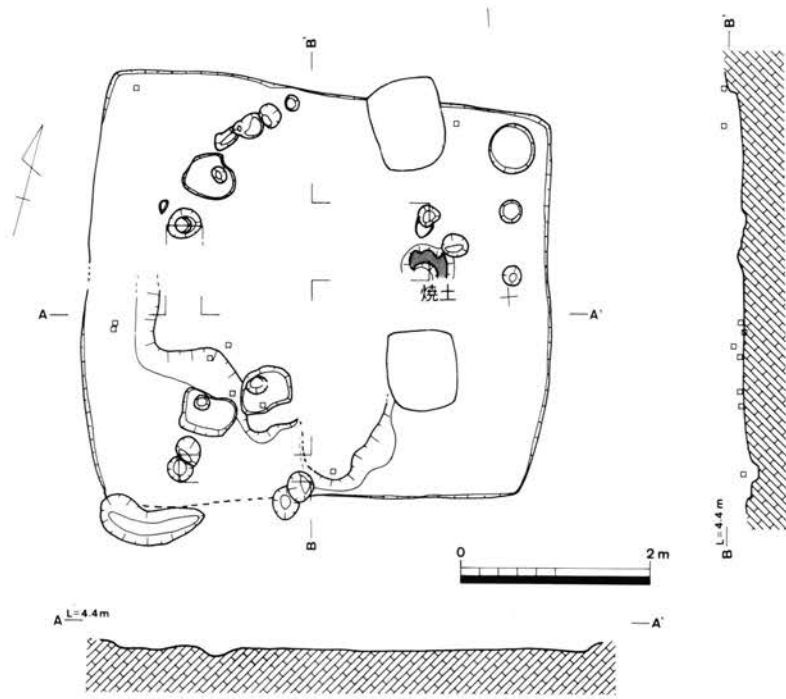
1. 暗褐色粘砂質土層
2. 茶褐色粘質土層
- 2'. 茶褐色粘質土層(焼土・炭をやや含む)
3. 黄茶褐色粘質土層(青灰色粘土のブロックを含む)
4. 黄茶褐色粘質土層(青灰色粘土ブロックをやや含む)

約20cmを測る楕円形の土坑、西辺中央部で径40cm前後の断面皿状の円形土坑、東辺東北隅で深さ約20cmを測る隅丸方形の土坑、東辺中央部でオーバーハングする径約40cmの円形土坑、東辺東南隅で隅丸方形の土坑などが認められた。

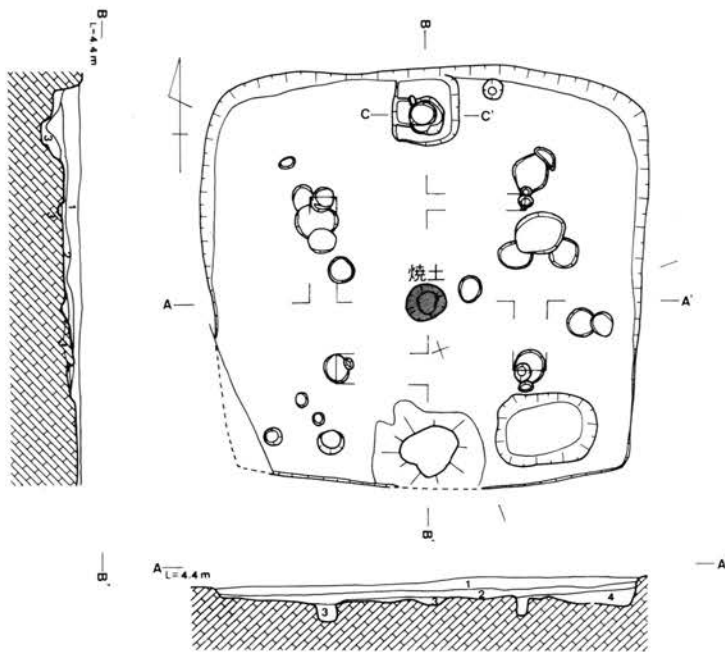
埋土及び遺物の出土状況 埋土は4層にわかれる。出土遺物には古墳時代中期の土師器、須恵器、滑石製白玉・勾玉・碧玉製勾玉、土錘などがある。土師器は、埋土中・床面上から多数出土している。ただ、床面上に密に分布する傾向がある。また、土坑内出土の土師器はすべて埋土中から検出されており、完形及び完形に近いものが多い。須恵器は2点とも埋土中から出土した。滑石製白玉は、埋土中及び床面上で出土した。埋土中出土白玉は、埋土Ⅰ層のもの9点、埋土Ⅱ層のもの87点(水洗い選別により出土)、床面上8点である。滑石製勾玉・碧玉製勾玉・土錘は埋土中から出土している。



第52図 竪穴式住居跡5 遺物出土状況図(ドットは土器、白ヌキ三角は上層の白玉、白ヌキ四角は下層の白玉)



第53図 竪穴式住居跡6実測図(白ヌキ四角は白玉)



第54図 竪穴式住居跡8実測図

1. 暗黄茶褐色粘質土層 2. 暗黄褐色粘質土層 3. 黄褐色粘質土層 4. 暗茶褐色粘質土層

竪穴式住居跡 6

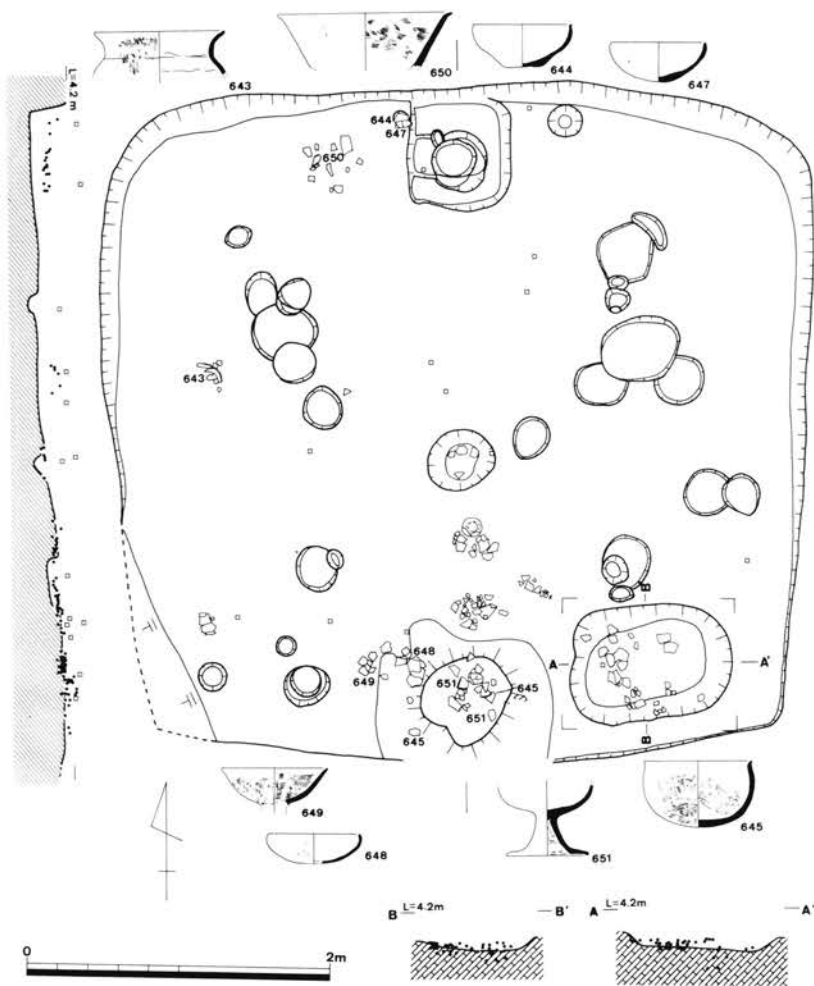
平面形と規模 東西4.96m×南北4.24mを測る方形の住居跡である。上層の掘立柱建物の柱掘形が2つ切り込む。

壁と床面の状況 壁の残存高はわずか10cmである。周壁溝・炭化層は認められなかった。焼土は、東側中央部に三日月形に拡がる。床面は起伏に富む。床面上には径20~40cm大のピットを十数個検出したが、支柱穴は確定できなかった。

埋土及び遺物の出土状況 土器などはほとんど出土していない。埋土中・床面上から15個の白玉が出土している。

竪穴式住居跡 8

平面形と規模 東西4.52m×南北4.44mを測る方形の住居跡である。南西辺と南辺中央



第55図 竪穴式住居跡 8 遺物出土状況図(白ヌキ四角は白玉、ドットは土器)

部は検出できなかった。

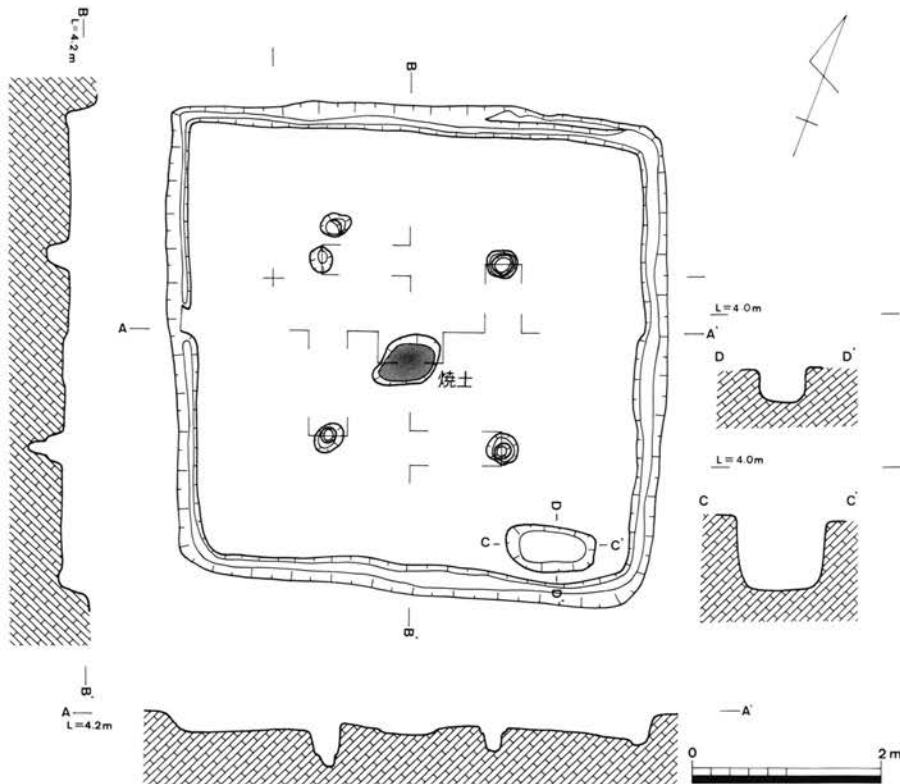
壁と床面の状況 壁の残存高は最大14cmを測る。周壁溝・炭化層は認められなかった。焼土は中央に円形に拡がる。4本柱の住居跡と考えられる。主柱穴は深さ最大20cmを測るものがある。床面の状況は、北辺中央部に特殊ピット、南東部に長方形の土坑、南辺中央に不整形形状の高まりが認められる。

埋土及び遺物の出土状況 埋土は4層に分かれる。古墳時代中期の土師器(甕・鉢・碗・高杯など)・須恵器(高杯)が床面上・土坑内・埋土中から出土している。

竪穴式住居跡9

平面形と規模 東西5.19m×南北5.6mを測る方形住居跡である。主軸はN20°Wである。

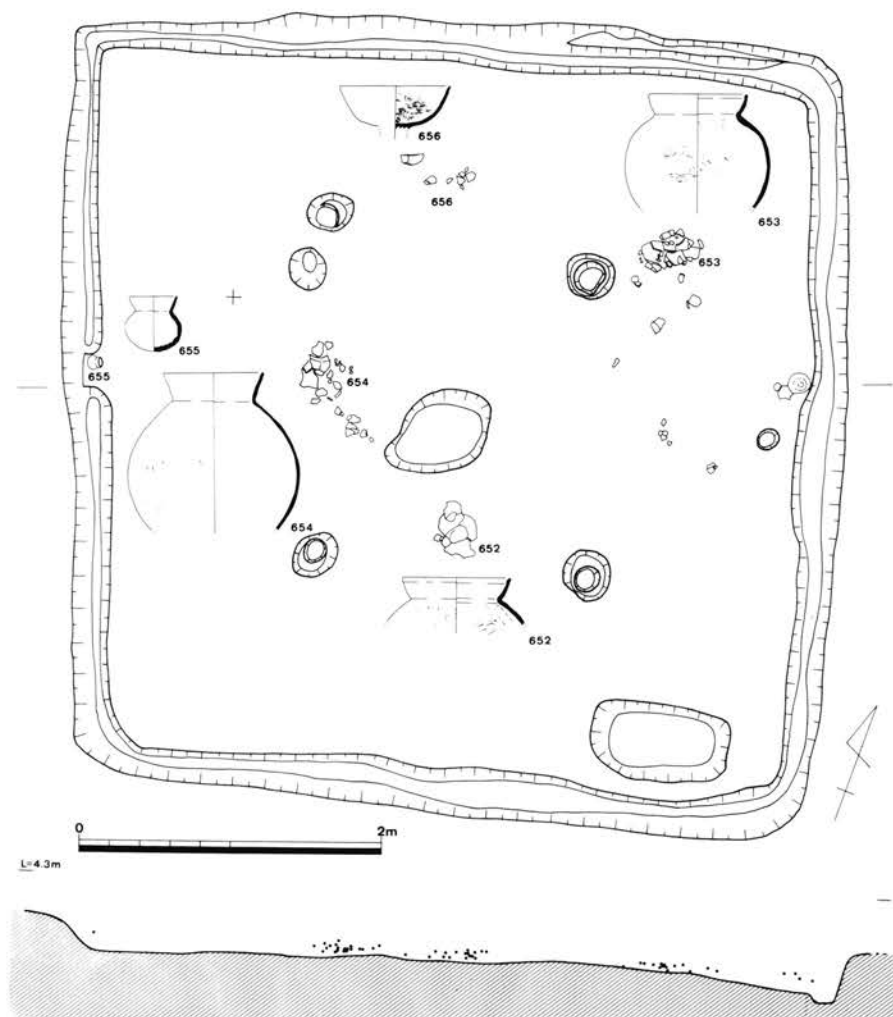
壁と床面の状況 壁の残存高は29cmを測る。周壁溝は北辺の一部を除き完周する。幅32cm、検出面からの溝底の深さは16cmを測る。床面中央には浅く掘りくぼめた土坑があり、直径約72cm・深さ4cmを測る。土坑底には焼土が堆積し、土坑の北に隣接する部分にも焼土が拡がっていた。竪穴式住居跡南西隅に存在する土坑は、長辺94cm・短辺52cm・深さ40cmを測る長方形の土坑である。主柱穴は基本的に4本柱である。東北の柱穴のみ隣接し



第56図 竪穴式住居跡9実測図

て、さらに1基存在し柱穴の総数は5基である。柱穴の直径は30cm前後、深さ40cm前後である。柱間距離は東北のものから時計回りに、1.88m、1.98m、1.81m、1.88mを測る。

埋土及び遺物の出土状況 竪穴式住居跡埋土中からは、若干の土師器片が出土した。竪穴式住居跡埋土は、基本的に1層のみで分層は不可能であった。埋土最下層からは土師器片がややまとまった状態で出土した。北辺付近では、周壁溝を掘り残した部分の床面で小型丸底壺(655)の完形品が出土した。中央炉跡やや北側では、床面にほぼ密着した状態で甕(654)1個体分が出土した。南東部の柱穴の南でも、3~4cm床面から遊離した状態で甕(652)1個体分が出土した。他の遺物は床面より若干遊離しており、いずれも破片の状態である。ほかに床面上から管玉1点が出土した。



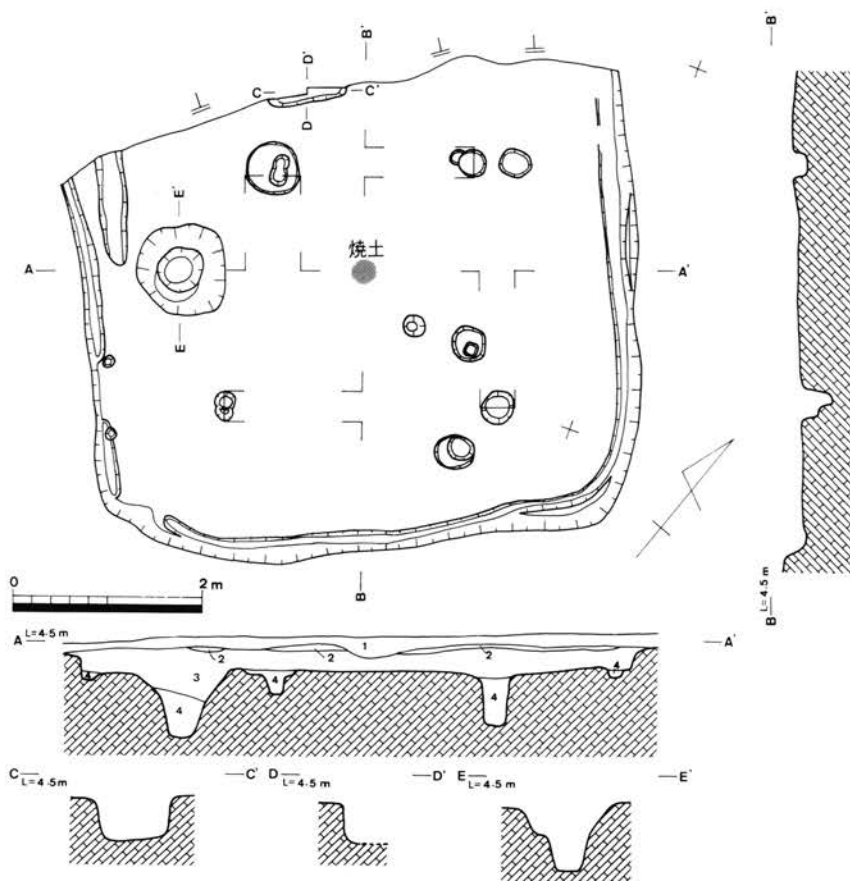
第57図 竪穴式住居跡9 遺物出土状況図(ドットは土器)

竪穴式住居跡10

平面形と規模 東西5.86mを測る方形の住居跡である。北辺は河川の侵食により、流失しているため、検出できなかった。

壁と床面の状況 壁の残存高は最大20cmを測る。周壁溝は、最大幅約20cm・深さ約10cmでは断続的に完周する。焼土は中央部に丸く検出した。炭化層は認められなかった。床面で土坑・溝・ピットなどを検出した。土坑には西辺から約60cm離れたところで、深さ約70cmを測る特殊ピットと、北側に船底状の底面をもつ土坑(南側の肩部のみ)がある。4本柱の住居跡と考えられる。

埋土及び遺物の出土状況 埋土は4層にわかれる。遺物は、埋土中から土器が出土している。



第58図 竪穴式住居跡10実測図

- | | |
|----------------------|-----------------------|
| 1. 褐色砂質土層(竪穴式住居跡4埋土) | 2. 黄灰色粘土層(竪穴式住居跡4の貼床) |
| 3. 黄灰褐色砂質土層 | 4. 黄灰色シルト層 |

②土坑

土坑20

第5トレンチ北側で長方形の土坑を検出した。東西約2.5m×南北約3.0mを測る。壁はほぼ垂直に落ちる。埋土中からヒスイ製の勾玉や古墳時代前期・中期の土器片が出土した。

③土器溜まり

土器溜まり5

第5トレンチ中央部に青灰色粘土中で検出された。ここからは古墳時代中期の土器が整理箱にして約3箱分出土した。出土土器には甕・高杯などがある。

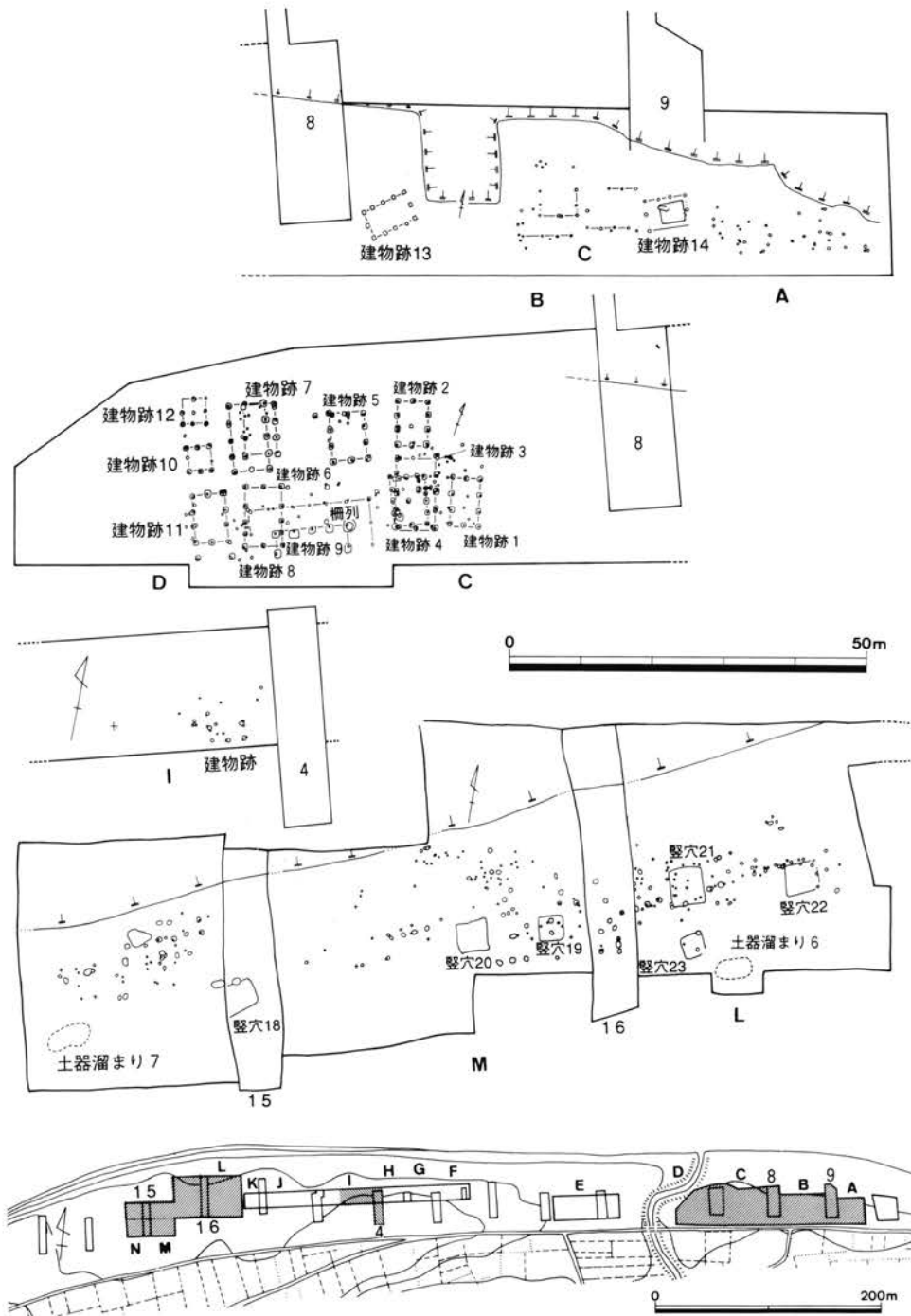
第4節 飛鳥・奈良時代の遺構

桑飼上遺跡における飛鳥・奈良時代の遺構は、A～Dトレンチ、Iトレンチ、L～Nトレンチで検出された。

A～Bトレンチからは、掘立柱建物跡2棟、竪穴式住居跡1基、多数のピットを検出した。Aトレンチでは2間×3間の掘立柱建物跡と竪穴式住居跡が各辺をそろえて検出されており注目される。C・Dトレンチからは、東西44m・南北24mの範囲に集中的に分布する12棟の掘立柱建物跡を検出した。建物跡群は、若干の切り合い関係をもつものもあり、すべての建物が同時には存在しない。柱間は2間×3間ないし2間×4間の南北棟が主体をしめる。柱間寸法については、各建物跡のほとんどすべてが隅丸方形の柱掘形であり、

付表7 掘立柱建物跡一覧表

建物跡	柱間	南北長(m)	柱間寸法(南北)(m)	東西長(m)	柱間寸法(東西)(m)	主軸	時期
1	2×3	6.8	2.0~2.5	4.1	1.7~2.1	N16° W	E期
2	2×3	6.4	1.8~2.5	4.4	2.0~2.3	N18° W	D期
3	2×4	10.3	2.2~2.9	5.6	2.8	N18° W	D期
4	2×4	6.9	1.6~1.9	4.95	2.45~2.5	N24° W	B期
5	2×3	7.25	1.6~2.4	4.9	2.2~2.7	N24° W	B期
6	2×4	9.6	2.3~2.6	5.1	2.5~2.55	N24° W	B期
7	1×3	7.15	2.3~2.4	4.4	4.3~4.4	N22° 30' W	C期
8	2×4	8.6	1.7~2.8	5.1	2.4~2.6	N20° 30' W	A期
9	4×?	?		10.3	2.5~2.6	N24° W	B期
10	1×2	3.7	3.6~3.7	3.4	1.65~1.7	N24° W	B期
11	2×3	6.9	2.1~2.4	4.7	2.1~2.4	N24° W	B期
12	2×2	3.7	1.65~2.05	3.4	1.35~2.05	N20° 30' W	A期
13	2×4	6.6	1.3~1.8	3.8	1.8~2.0		
14	2×3	5.1	—	6.8	—		
欄列	6×?	?		16.8	2.35~3.2	N24° W	B期

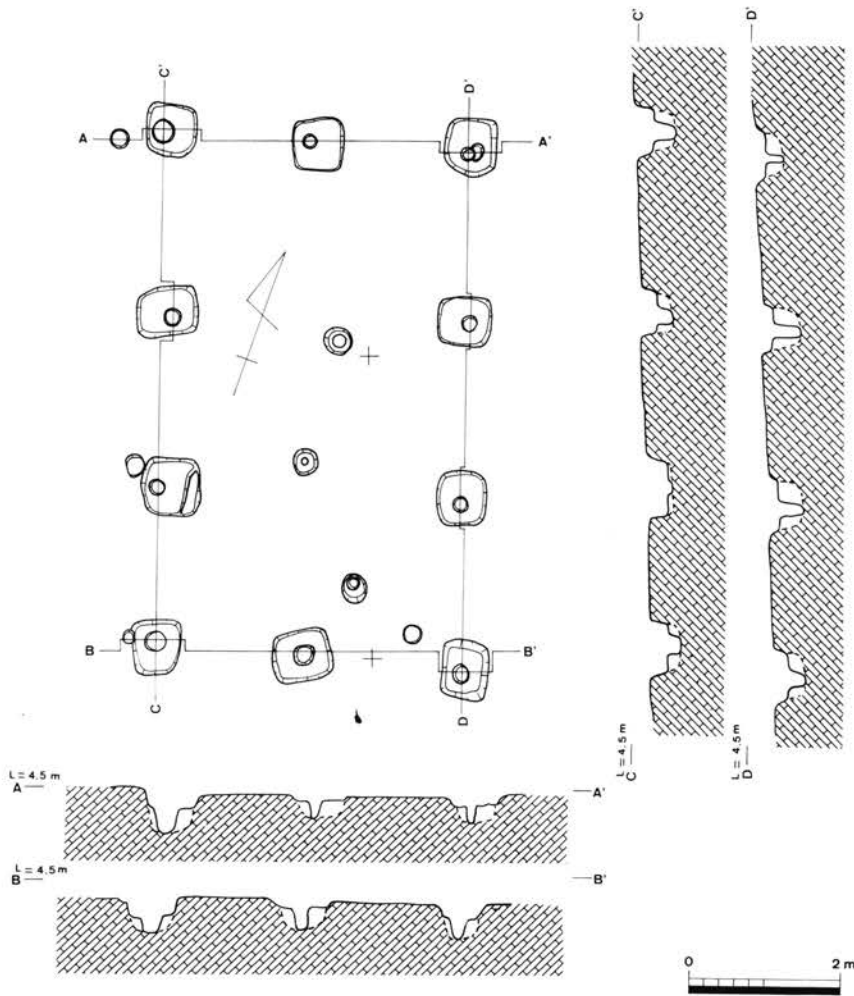


第59図 飛鳥・奈良時代遺構分布図

一辺0.6~1.4mを測る。柱の太さは、柱痕跡から推定すると最大で直径40cmを測るものもある。

Iトレンチの南側で数個の隅丸方形の柱掘形を検出しており、掘立柱建物跡の存在が想定される。

L~Nトレンチからは、竪穴式住居跡6基、土器溜まり2基、方形の柱掘形、ピットを多数検出した。竪穴式住居跡は、飛鳥~奈良時代前半の時期幅をもち、東西に帯状に広がる。平面プランはすべて方形もしくは不整形である。また、Lトレンチ西側・第16トレンチ・Mトレンチ東側とNトレンチで方形の柱掘形を検出しており、複数の掘立柱建物が存在した可能性が高い。なお、この地区は厚い包含層が堆積しており、飛鳥~奈良時代の多数の須恵器・土師器が出土している。顕著な遺物としては墨書土器や転用硯などがあり、



第60図 掘立柱建物跡1実測図

この地区の遺構の性格を考える上で貴重な資料を提供している。

L～Nトレンチの上層遺構は、調査中に台風による由良川の氾濫に見舞われ、調査トレンチが水中に没した。この洪水は、遺構の形状に大きな影響を与えた。

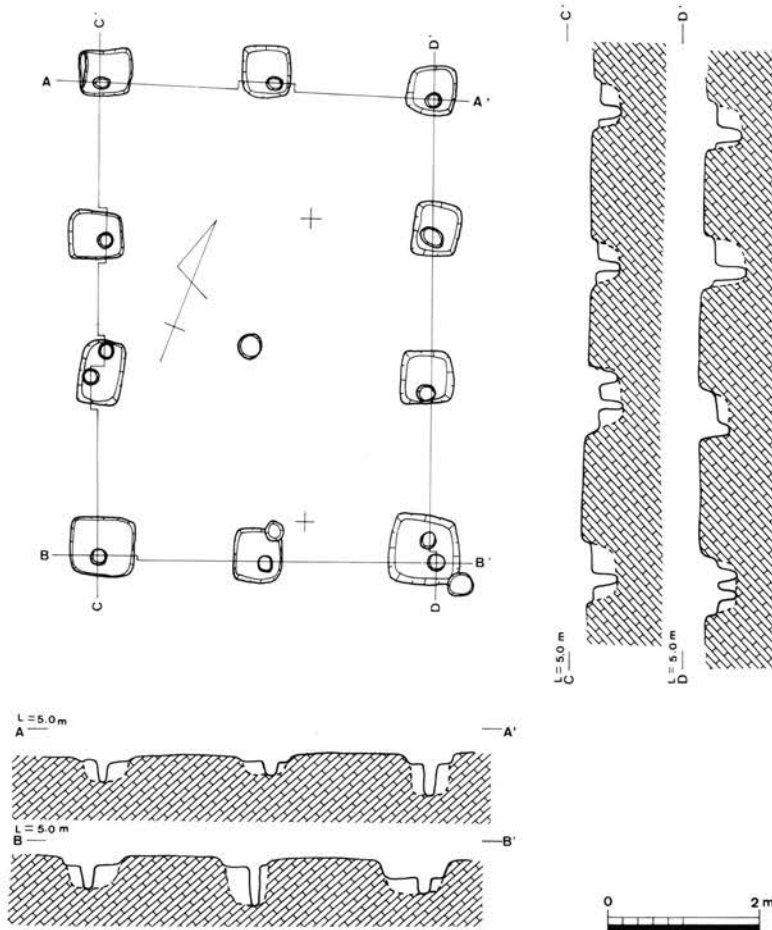
①掘立柱建物跡

掘立柱建物跡 1

C・Dトレンチで検出した。2間(4.1m)×3間(6.8m)の南北棟の建物跡で、柱間距離は、南北2.0～2.5m・東西1.7～2.1mを測る。主軸はN16°W傾く。柱掘形からは須恵器蓋・短頸壺・壺などが出土している。

掘立柱建物跡 2

C・Dトレンチで検出した。2間(4.4m)×3間(6.4m)の南北棟建物跡で、柱間距離は南北1.8～2.5m・東西2.0～2.3mを測る。主軸はN18°Wである。柱掘形から須恵器杯が出

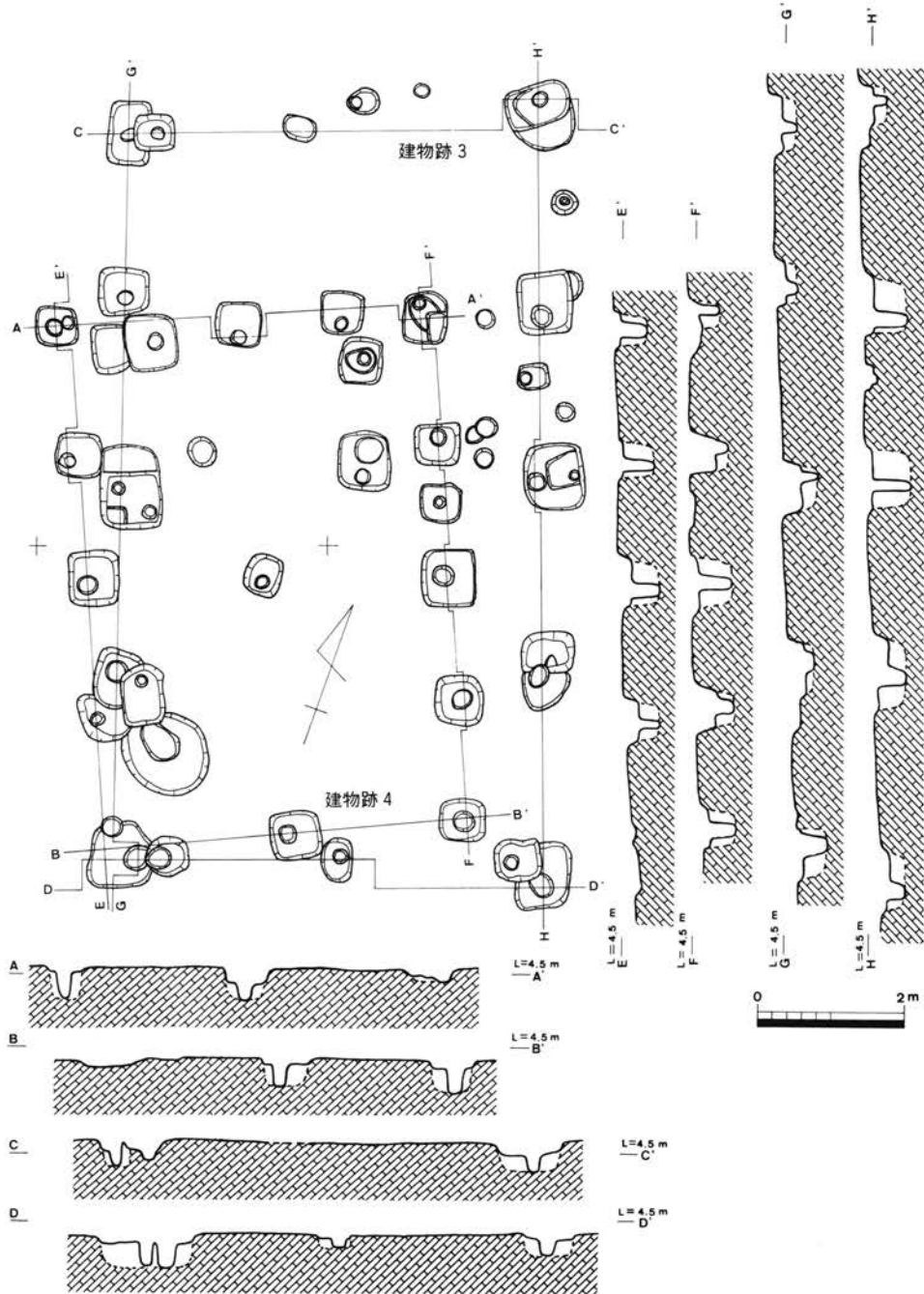


第61図 掘立柱建物跡 2 実測図

土している。

掘立柱建物跡 3

C・Dトレンチで検出した。掘立柱建物跡4と切り合い関係をもつ。掘立柱建物跡4→



第62図 掘立柱建物跡3・4実測図

掘立柱建物跡3の前後関係が成り立つ。2間(5.6m)×4間(10.6m)の南北棟の建物跡で、柱間距離は、南北2.2~2.9m・東西2.8mを測る。主軸はN18°W傾く。柱掘形から須恵器杯・蓋が出土している。

掘立柱建物跡4

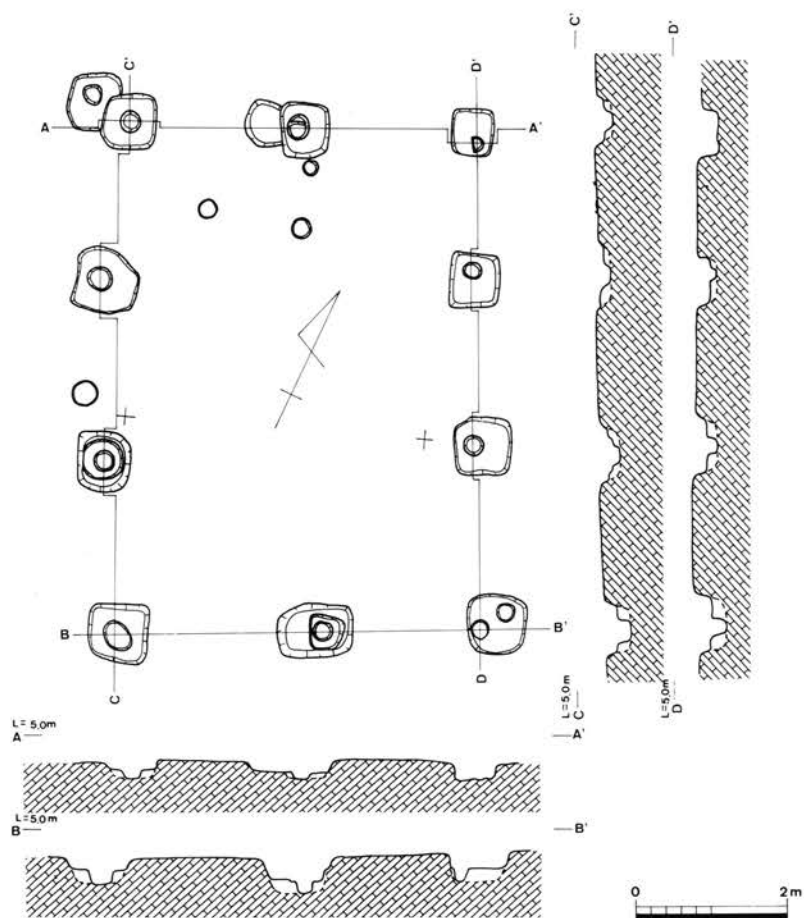
C・Dトレンチで検出した。掘立柱建物跡3と切り合い関係をもつ。2間(4.95m)×4間(6.9m)の南北棟の建物跡で、柱間距離は、南北1.6~1.9m・東西2.45~2.5mを測る。

掘立柱建物跡5

C・Dトレンチで検出した。2間(4.9m)×3間(6.7m)の南北棟の建物跡で、柱間距離は南北1.6~2.4m・東西2.2~2.7mを測る。主軸はN24°W傾く。柱掘形から須恵器蓋・杯が出土している。

掘立柱建物跡6

C・Dトレンチで検出した。2間(5.1m)×4間(9.6m)の南北棟の建物跡で、柱間距離

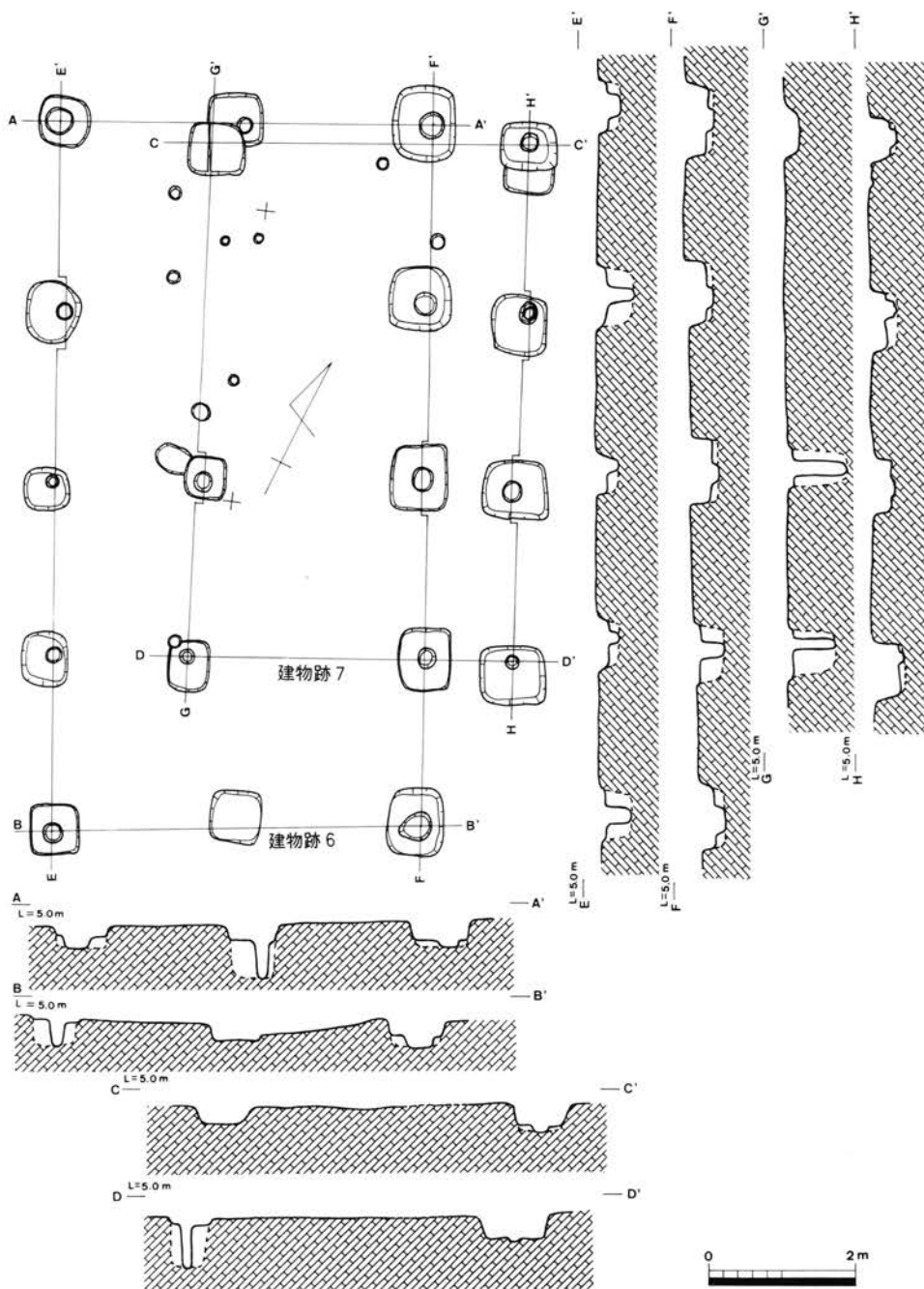


第63図 掘立柱建物跡5実測図

は南北2.3~2.6m・東西2.5~2.55mを測る。主軸はN24°W傾く。

掘立柱建物跡11

C・Dトレンチで検出した。1間(4.4m)×3間(7.0m)の南北棟の建物跡で、柱間距離



第64図 掘立柱建物跡6・7実測図

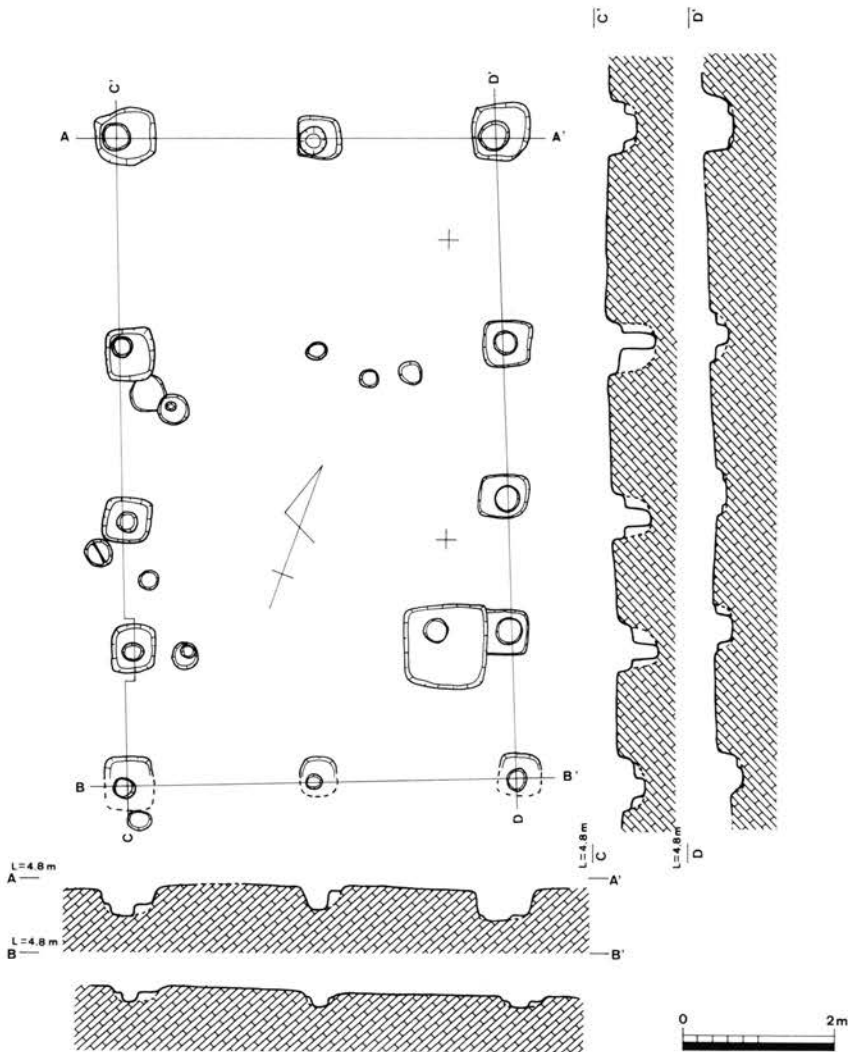
は、南北2.3~2.4m・東西4.3~4.4mを測る。主軸はN22°30'W傾く。柱掘形から須恵器蓋が出土した。

掘立柱建物跡 8

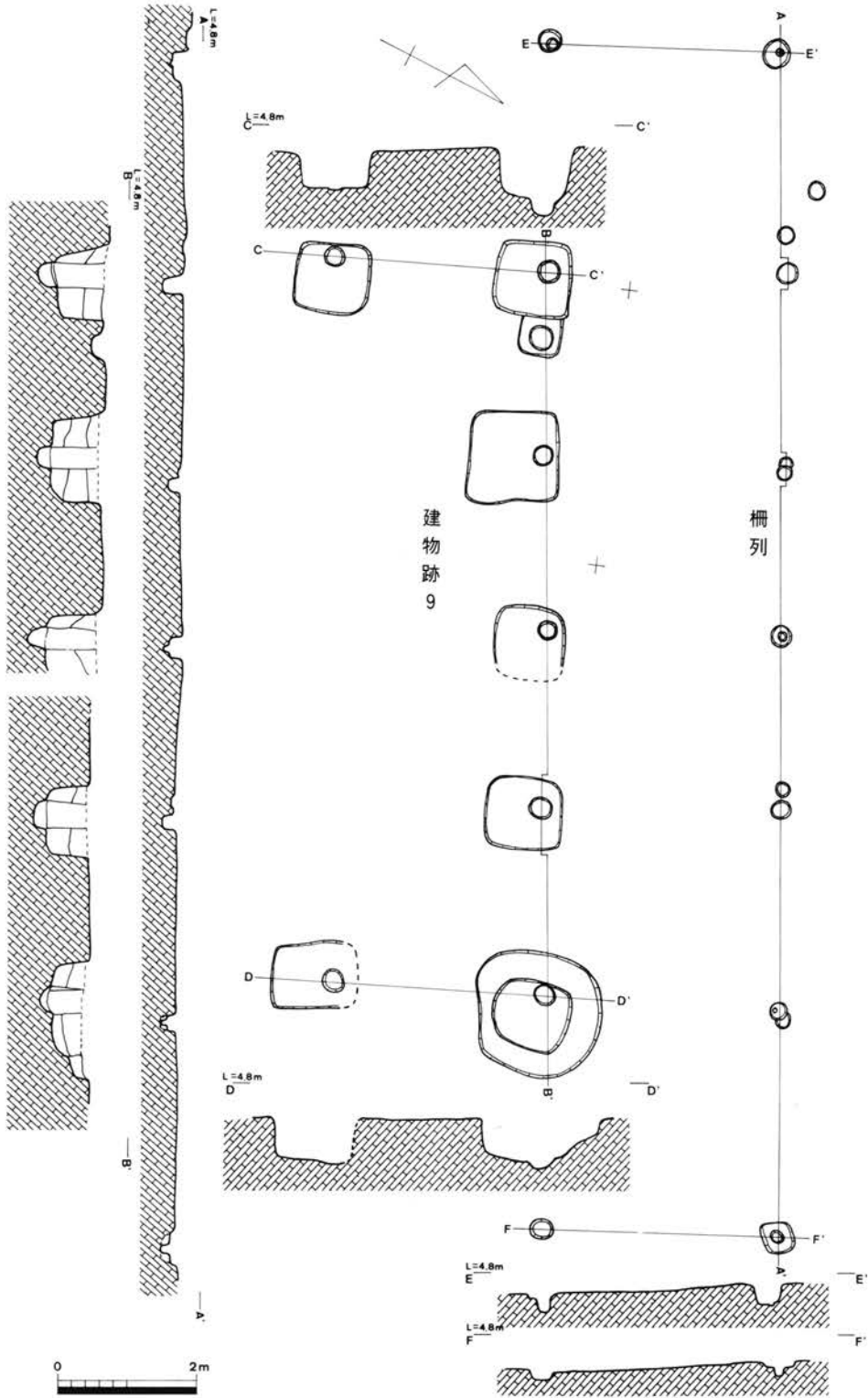
C・Dトレンチで検出した。2間(5.1m)×4間(8.6m)の南北棟の建物跡で、柱間距離は、南北1.7~2.8m・東西2.4~2.6mを測る。主軸はN20°30'W傾く。

掘立柱建物跡 9

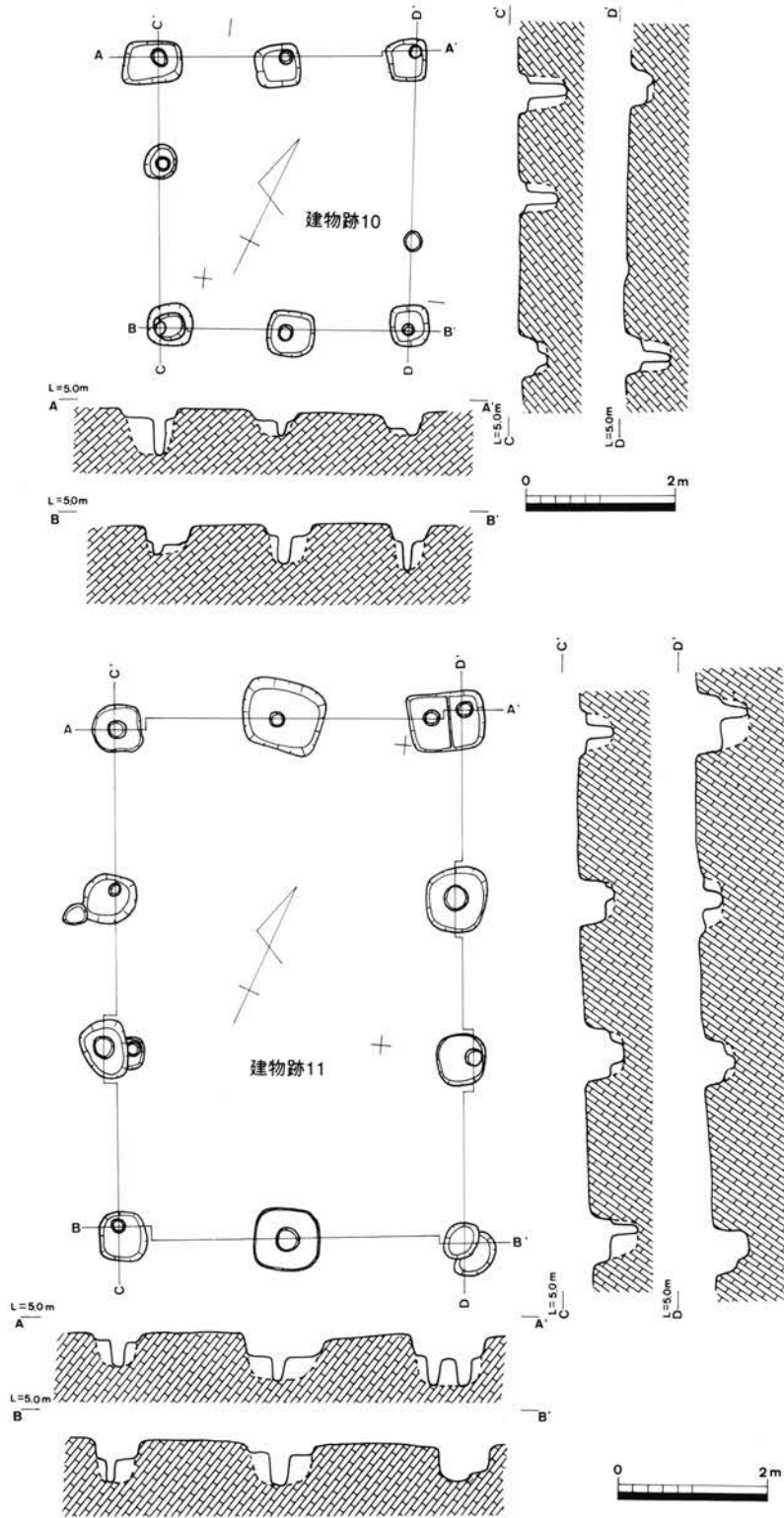
C・Dトレンチで検出した。4間(10.3m)×1間以上の建物跡で、柱間距離は東西2.5~2.6mを測る。主軸はN24°W傾く。外側で掘立柱建物跡9と同主軸で、6間(16.8m)×1間以上の柵列がめぐる。柱間距離は東西2.35~3.2mを測る。柵列は廂の可能性もある。



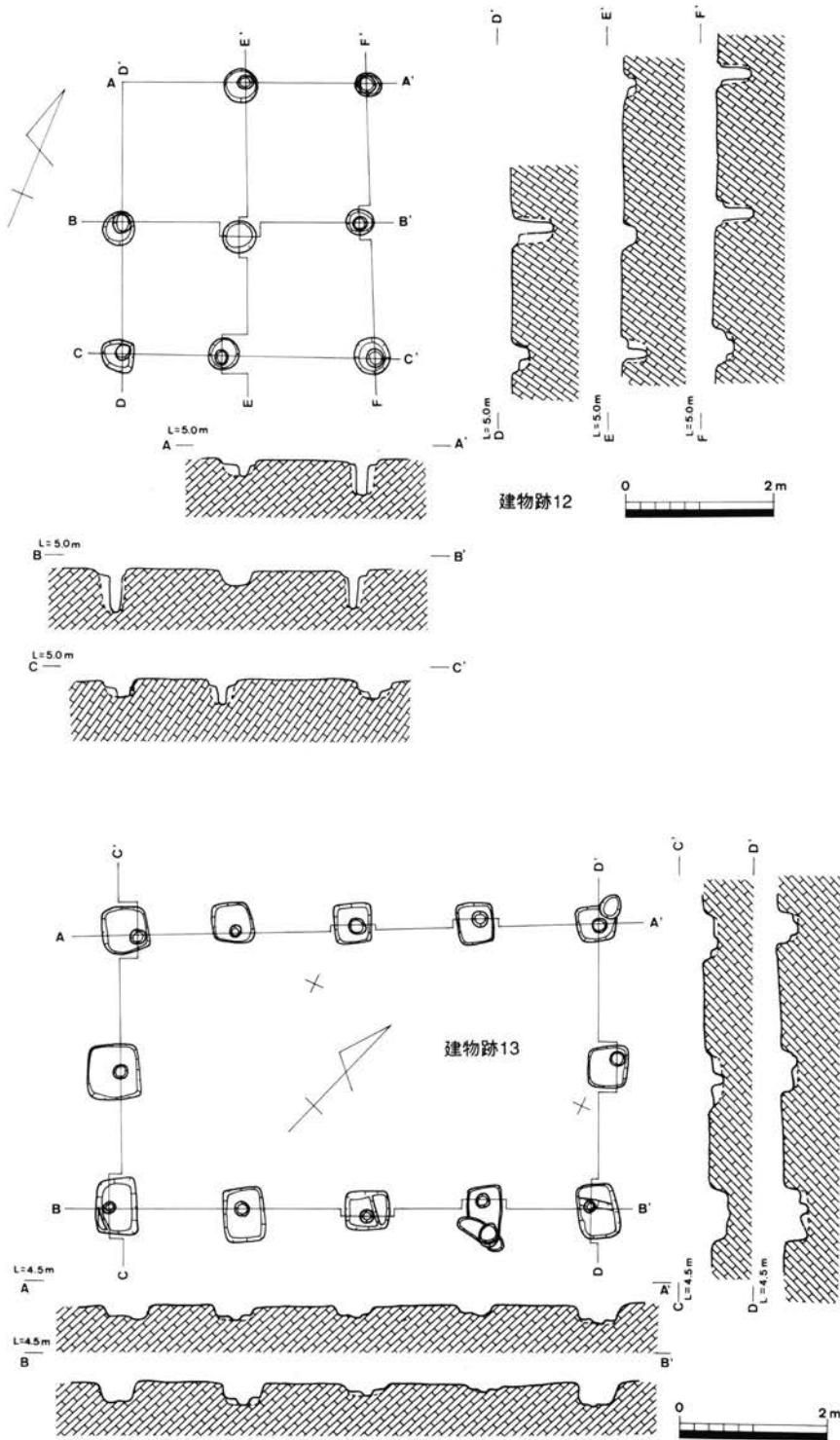
第65図 掘立柱建物跡 8 実測図



第66図 掘立柱建物跡9・柵列1実測図



第67図 掘立柱建物跡10・11実測図



第68図 掘立柱建物跡12・13実測図

掘立柱建物跡10

C・Dトレンチで検出した。1間(3.7m)×2間(3.4m)の南北棟の建物跡で、柱間距離は、南北3.6~3.7m・東西1.65~1.7mを測る。主軸はN24°W傾く。

掘立柱建物跡11

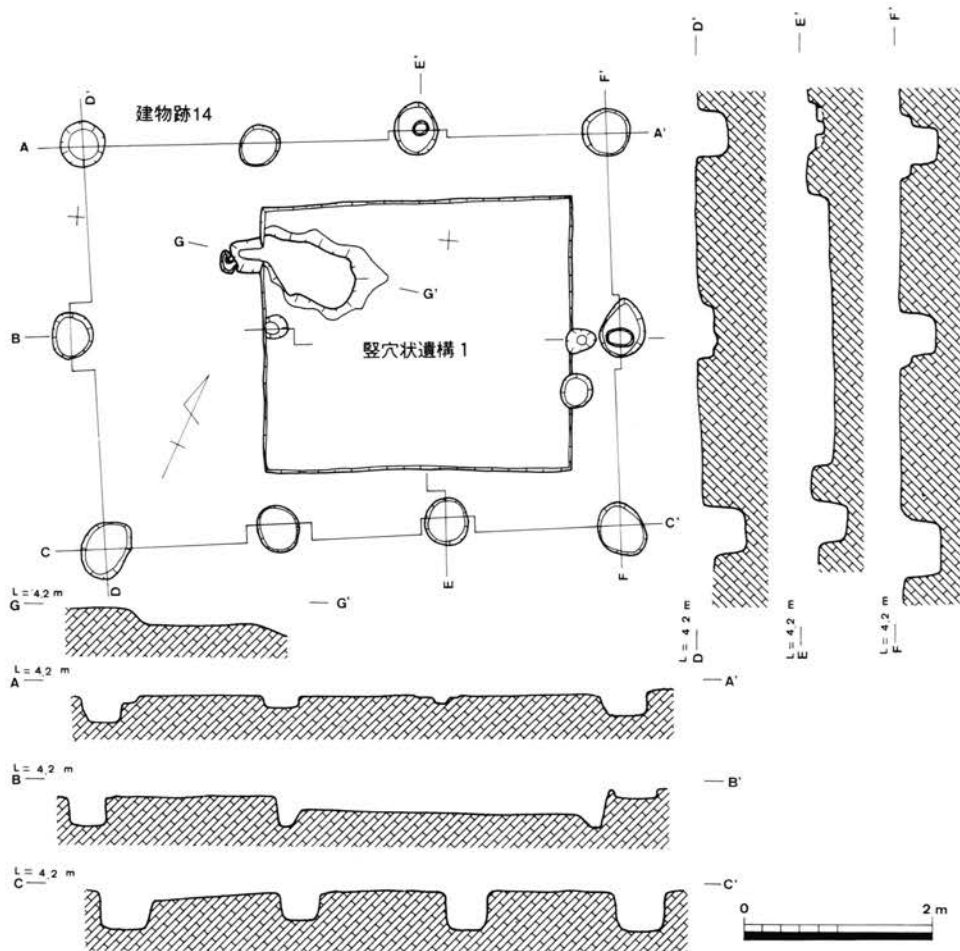
C・Dトレンチで検出した。2間(4.7m)×3間(6.9m)の南北棟の建物跡で、柱間距離は、南北2.1~2.4m・東西2.1~2.4mを測る。主軸はN24°W傾く。

掘立柱建物跡12

C・Dトレンチで検出した。2間(3.4m)×2間(3.7m)の総柱の建物跡で、柱間距離は、南北1.65~2.05m・東西1.35~2.05mを測る。主軸はN20°30'W傾く。

掘立柱建物跡13

Bトレンチで検出した。2間(3.8m)×4間(6.6m)の東西棟の建物跡で、柱間距離は、



第69図 掘立柱建物跡14及び竪穴状遺構1実測図

南北1.3～1.8m・東西1.8～2.0mを測る。主軸はN27°30'W傾く。

掘立柱建物跡14

Aトレンチで検出した2間(5.1m)×3間(6.8m)の東西棟の掘立柱建物跡である。柱掘形は直径50cm程度の円形を呈し、検出面からの深さは約40cmを測る。柱痕跡を確認したのは10個の柱穴中2個にすぎない。主軸は、N27°30'傾く。柱痕跡の直径は約20cmを測る。

竪穴状遺構1

東西3.31m×南北2.86mを測る。四隅が非常にきわだった整然とした長方形をなすのが特徴である。壁の立ち上がりはほぼ垂直であり、検出面から土坑底までの深さは33cmを測る。埋土は分層できなかつた。主軸はN18°Wである。付属施設として柱穴・焼土の堆積と半円形状の掘り込みがある。柱穴は3基確認した。その内2基は竪穴東辺を切って設けられる。東半分の検出面は、竪穴と同一であるが、切り合い関係は確認できなかつた。竪穴床面まで掘り下げたところ、ようやく柱穴の西半分の輪郭が確認できた。他の1基は、西辺中央に接して存在する。柱穴の直径は30cm前後、床面からの深さ47cmを測る。焼土の堆積は床面北西部に認められる。範囲は、東西133cm・南北100cmで、厚さ17cmを測る。焼土の堆積の西側に接して、竪穴西辺を半円形状にわずかに掘りくぼめたか所がある。東西42cm・南北36cm、検出面からの深さ4cmを測る。掘りくぼめられた面は焼土と化している。

遺物出土状況 堆積した周辺でややまとまった状態で遺物が出土した。焼土北側では、床面から数cm遊離して須恵器杯が、焼土上面で土師器甕が出土したが、いずれも破片の状態である。ほかに、埋土中から須恵器・土師器片が出土した。

掘立柱建物跡14と竪穴状遺構1の関係について

竪穴状遺構1と掘立柱建物跡14の主軸はほぼ一致し、そのずれは30'前後である。また、竪穴状遺構1は、主柱穴が不明瞭で、それだけでは建物としては成り立ちにくい。したがって、互いに切り合い関係をもたない竪穴状遺構1と掘立柱建物跡14は相互に関連しあう建築遺構として同時に存在したものとして捉えられる可能性もある。しかし、竪穴状遺構1の北西部に堆積する焼土を竈の破壊されたものとするならば、煙道部が掘立柱建物跡14の西1間分にすっぽり入ってしまい、住居としてきわめて不都合である。一つの可能性として竪穴式住居から掘立柱建物へと拡張して改築したものとも考えられる。

②竪穴式住居跡

竪穴式住居跡18

15トレンチ中央部で検出した。西辺はトレンチの側溝によって削平されている。南北3.6m測る方形の竪穴式住居跡である。床面上からはほぼ完形に近い土師器甕、埋土中から須恵器杯が出土している。壁の残存高は約20cm前後である。主軸はN32°30'W傾く。

竪穴式住居跡19

Mトレンチの東側で検出した。東西3.4m×南北3.3mを測る方形の住居跡である。出土遺物は、わずかに土師器細片が見られる。主軸はN15°W傾く。

竪穴式住居跡20

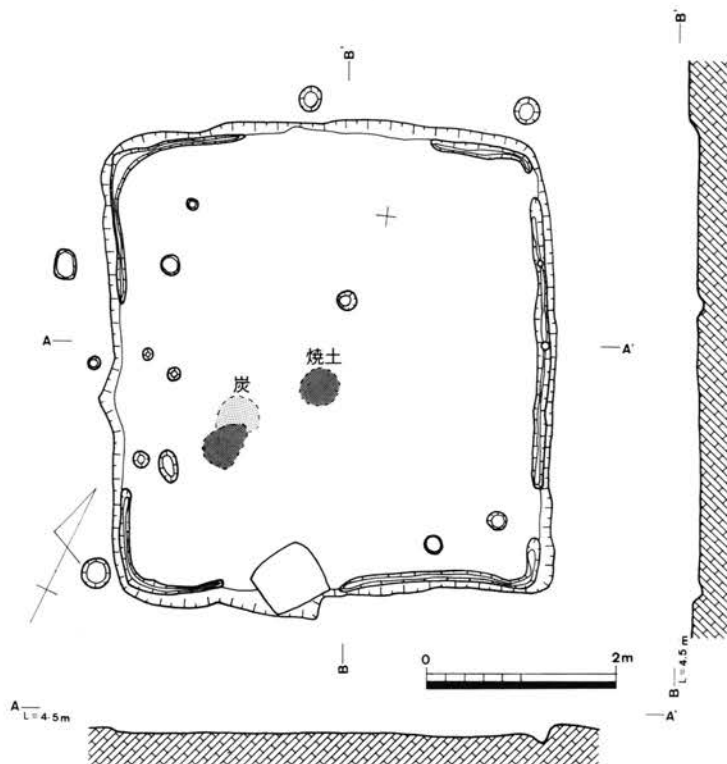
Mトレンチの中央部で検出した。東西4.2m×南北4.0mを測る方形の住居跡である。住居跡内からはほとんど遺物は出土していない。主軸はN12°W傾く。

竪穴式住居跡21

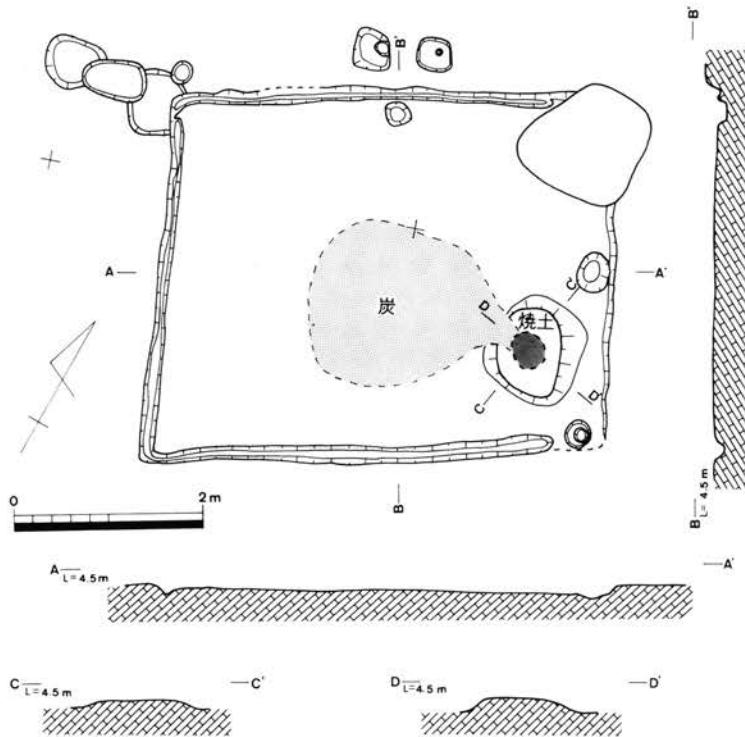
規模と平面形 Lトレンチの西側で検出した。東西4.4m×南北4.6mを測る方形の住居跡である。主軸はN26°W傾く。

壁と床面の状況 壁の残存高はわずかに5cm前後である。住居跡の南辺の方形の土坑は上層遺構の残穴である。周壁溝はほぼ断続的に完周する。焼土は中央部に2か所、炭化層は中央部に1か所検出された。床面には径20cm前後の小ピットを数個検出したが、支柱穴は不明である。

埋土と遺物の出土状況 出土遺物には須恵器と土師器の細片が若干存在している。床面上からは須恵器(717)と土師器(718)が出土した。



第70図 竪穴式住居跡21実測図



第71図 竪穴式住居跡22実測図

竪穴式住居跡22

規模と平面形 Lトレンチの東側で検出した。東西3.8m×南北3.8mを測る方形の住居跡である。主軸はN25°W傾く。

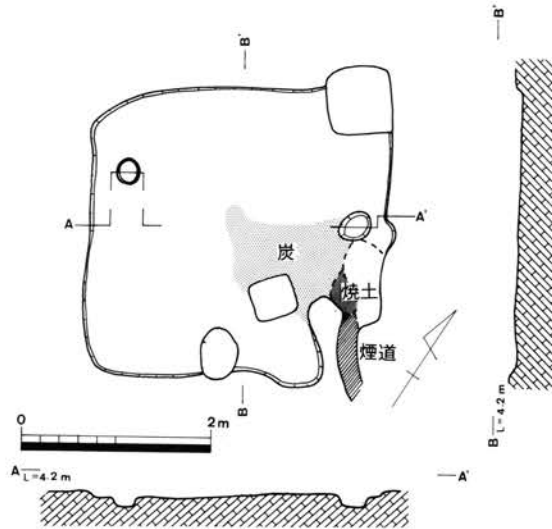
壁と床面の状況 壁の残存高は最大10cmである。住居跡北隅の土坑は、竪穴式住居跡を切っており、特に関係はない。住居跡の東隅に竈の痕跡を検出した。ただ、上部構造は削平されており、基底のみ残存する。竈付近の床面はわずかに高まりを持つ。焼土は、竈の中央部に認められた。炭化層はそこから住居跡の中央部に拡がる。煙道は未検出である。周壁溝は東辺を除き完周する。径20~40cmのピットを3個検出した。竈の北側の円形ピットからは土師器甕(724)が出土した。

埋土と遺物の出土状況 埋土は1層である。出土遺物には須恵器蓋・杯、土師器杯・甕があり、ほとんどが埋土中からの出土である。円形ピット出土土器以外は細片化している。

竪穴式住居跡23

規模と平面形 Lトレンチの南側で検出した。検出面は他の住居跡より約10cm低い。東西3.2m×南北3.1mを測る方形の青野型住居跡である。住居跡の東隅が内側に入り込む平面プランをもつ。主軸はN29°W傾く。

壁と床面の状況 壁はわずか2～3cm前後である。住居跡の東側を内側に掘り残し、それをもとに竈を構築する青野型住居跡である。竈は基底部のみ残存している。焼土は、竈の中央に残存し、煙道は南東に外へのびる。竈の南側は掘り残した地山を、対する北側は新たに粘土を使用し竈を構築したようである。炭化層は竈の全面に広がる。周壁溝はなく、竈の北側に円形ピットを検出した。



第72図 竪穴式住居跡23実測図

埋土及び遺物の出土状況 埋土

は1層である。須恵器杯蓋(731)・土師器甕(730)が埋土中から出土している。

③土器溜まり

土器溜まり5

Lトレンチの南、青灰色粘土中で検出した。東西径約5m×南北径約3mの範囲から飛鳥～奈良時代の土器が整理箱2箱分ほど出土した。厚さ約10～20cmほどの土器溜まりである。出土土器は、ほとんど破片の状態であり、完形のものはない。器種には須恵器蓋・杯、土師器杯・甕・鉢がある。

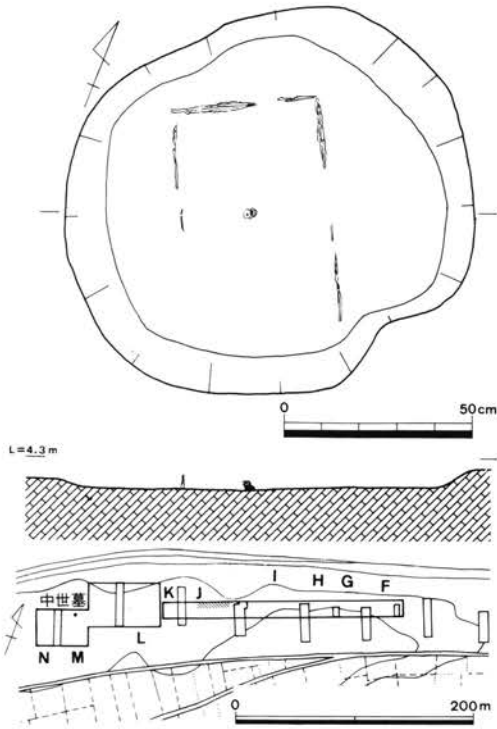
土器溜まり7

Nトレンチの西側で検出した。径約4～7mの楕円形状の範囲から奈良時代の土器が整理箱3箱分出土した。土器群は、かなり密集した状態で出土している。出土土器は、トレンチのほとんどが須恵器・土師器などの細片で、さらに須恵器甕体部の破片が目立つ。器種には須恵器蓋・杯、土師器杯・甕がある。

第5節 その他の時期・時期不明の遺構

中世墓

Mトレンチの北側で検出した。東西4.2m×南北3.9mを測る方形の土坑内に東西1.6m×南北1.28mの木柁を検出した。深さは検出面から約5cmである。この木柁内からは、土坑中央部を中心に木製・水晶製の数珠玉と銅銭が出土した。



第73図 中世墓実測図

さて、この中世墓の時期であるが、出土した銅銭のうち製造時期の判明したものは11世紀代のものであり、そこに上限をみることができる。だが、銅銭の使用年代や伝世の可能性を考えると、下限は日本に宋銭の流入が停止した17世紀代まで下る可能性が残る。

溝状遺構

Jトレンチの北側で検出した。8～10条の東西方向にのびる溝からなる。各溝は一部に切り合い関係をもちながらも、ほとんどのものはほぼ平行に走る。幅は10～30cm・深さ10～20cmを測り、その断面は逆台形～「U」字状を呈する。溝内からは弥生土器の細片が出土した。

この溝状遺構は出土遺物のみから判

断すると、弥生時代中期のものであるが、出土したものはわずかな細片であり、埋土の状況などを考えると二次堆積の可能性も考えられる。また、遺構の形状から判断すると、中世の素掘り溝とみることもできる。

桑飼上遺跡の中世～近世

桑飼上遺跡の中世～近世の遺物包含層は、現地表下の耕作土から古墳時代前期～飛鳥・奈良時代の包含層である青灰色粘土までの間に存在する。この包含層は、場所により最大1mになるが、遺物はわずか十数点のみで顕著な遺構はみられなかった。ただ、上記の埋納遺構や溝状遺構が数少ない中世～近世の遺構である可能性が高い。このように、遺物・遺構ともに不明な点が多く、桑飼上遺跡の中世～近世の様相はまだわからない点が多い。

(岸岡貴英・細川康晴)

第5章 桑飼上遺跡の遺物

第1節 土器

1. 弥生時代中期の土器

桑飼上遺跡で出土した弥生時代中期の土器は、Ⅲ～Ⅳ様式の土器がほとんどである。器種には広口壺、受け口壺、直口壺、細頸壺、無頸壺、甕、鉢、高杯、蓋、ミニチュア土器などがある。なお、出土した土器の中で比較的多数を占める広口壺、無頸壺、水差形土器、甕、鉢、高杯は、以下のように分類し報告する。また、胎土・焼成・色調・口径・器高・残存率・調整など詳細については観察表を参照されたい。

①弥生中期の土器分類

広口壺 頸部及び口縁部の形態から以下のように分類した。

広口壺A 筒状の頸部から大きく外反する口縁部をもつ。

A 1 口縁端部が水平にのびる。

A 2 口縁端部が垂下する。

広口壺B 短い頸部から小さく開く口縁部をもつ。

広口壺C 斜め上方に外反する口縁部をもつ。

C 1 口縁端部は丸い。

C 2 口縁端部に面をもつ。

C 3 口縁端部を拡張する。

C 4 口縁部外端面に凹線文を施す。

広口壺D 太い頸部から上外方に直線的にのびる口縁部をもつ。

広口壺E 頸部から短く外反する口縁部をもつ。

受け口壺 受け口状を呈する口縁部をもつ。

無頸壺 体部及び口縁部の形態から以下のように分類した。

無頸壺A 算盤玉状の体部をもつ大型の器形である。

無頸壺B 口縁部が短く内湾もしくは内上方にのびる。

無頸壺C 口縁部が内湾し、口縁端部を内側に拡張する。

細頸壺 細くのびる口縁部をもつ。

直口壺 直口する口縁部をもつ。

水差形土器 口縁部の形態から以下のように分類した。

水差形土器A 口縁部が短くのびる。

水差形土器B 口縁部が長くのびる。

甕形土器 口縁部の形態を中心として以下のように分類した。

甕形土器A 「く」の字状に屈曲し、外反気味にのびる口縁部をもつ。

A 1 緩やかに屈曲し、端部は丸い。

A 2 水平方向に外反し、端部は面をもつ。

A 3 斜め上方に外反し、端部は面をもつ。

A 4 斜め上方に外反し、端部を細くおわる。

甕形土器B 直線的もしくは内湾気味にのびる口縁部をもつ。

B 1 外上方にのび内傾する面をもつ。

B 2 外上方にのび端部はややつまみ上げ気味におわる。

B 3 斜め上方に直線的にのびる。端部は内傾する。

B 4 斜め上方に内湾気味にのび、端部は直立する面をもつ。

B 5 口縁部は内湾し、受け口状を呈する。

甕形土器C 口縁端部をつまみ上げる。

甕形土器D ゆるやかに屈曲し、口縁端部を外側に巻き込む。

甕形土器E 口縁部は「く」の字状に屈曲し、体部外面に波状文を施す。

甕形土器F ゆるやかに「く」の字状に外反し端部は丸い。

甕形土器G 器壁が厚く、球形に近い体部を持ち、頸部から斜め上方に短くのびる口縁部をもつ大型の甕である。

鉢形土器 口縁部の形態から以下のように分類した。

鉢形土器A 「く」の字状に屈曲する。

鉢形土器B 直口する。

高杯形土器 杯部の形態から以下のように分類した。

高杯形土器A 直口する口縁部をもつ。

A 1 深い椀状の杯部をなす。

A 2 内湾する浅い杯部をもつ。

A 3 明瞭に屈曲する浅い杯部をもつ。

高杯形土器B 水平にのびる口縁部をもつ。

B 1 口縁部が垂下しない。

B 2 口縁部が垂下する。

高杯形土器C 浅い杯部をもつ。

②遺構出土の弥生土器

竪穴式住居跡24出土土器

広口壺(1) 外上方に拡がる口縁部を持つ広口壺C 3である。口縁部に2条、頸部に1条以上の凹線文を施す。

甕(2~4) 2は、甕A 3である。口縁部には浅く刻みを施す。3と4は、甕B 4である。3は、口縁部外面に沈線状の凹部が見られる。4は、体部外面に3条の沈線文を施す。

無頸壺(5) 体部外面に4条以上の凹線文を施す。口縁端部は比較的シャープである。

高杯脚部(6) 器壁の摩滅が激しい。柱状部外面には幅の狭い3条の凹線文を施す。

底部(7・8) 7は、外面にわずかにケズリの痕跡がうかがえる。

竪穴式住居跡26出土土器

ほとんどが細片化しており、完形品はわずかである。

広口壺(9~37・39) A(25~33)、A 1(10・12・14~18・20)、A 2(9・11・13・19・21~24)、B 1(37)、D(36)、E(34・35)などにわけられる。

A 1は、口縁端部をやや丸味をもっておさめるもの(10・12・15)と、明瞭な面をもつもの(14・16~18・20)にわけられる。後者には口縁部内面に扇形文を施すもの(20)や、ハケ状工具による刻みを施すもの(14・17)がある。A 2には、口縁端部を上方に拡張するもの(11)、外傾する面を持つもの(9・13・19・21・23)、下方に拡張するもの(24)、上下に拡張するもの(22)がある。13は、ハケ状工具による刻みを施す。9は、小型の器形であり、上端部に刻みを施す。21は、外端面にヘラ状工具による斜格子状の刻みを施し、口縁部内面には8条の櫛描き波状文を施す。23は、頸部に1条以上の凸帯文、口縁部外面に刻みを施し、内面には7条の櫛描き扇形文がめぐる。24は、ハケ状工具による刻みを残す。

また、広口壺Aの頸部には、2~3条の凸帯文がめぐるもの(25~30)と指頭圧痕凸帯文を施すもの(31~33)がある。前者には凸帯間に比較的強いナデを施すもの(26・27・29・30)や棒状浮文を貼り付けるもの(29)がある。

37は、比較的短い頸部から水平に開く広口壺B 1である。体部上半に先の丸い工具により、横方向4列にヘラ描きする。外面にはキメ荒い板状工具によるハケの調整痕を明瞭に残す。内面はハケ後ナデ調整である。36は、斜上方に直線的に立ち上がる広口壺Dである。頸部には指頭圧痕凸帯文をめぐらす。口縁端部は内傾し、ハケ状工具による刻みを施す。口縁部内面には斜め方向のミガキ調整をよく残す。34・35は、斜め上方に短く立ち上がる広口壺Eである。

水差形土器(40) 短く直立する口縁部をもつ水差形土器Aである。

ミニチュア土器(38) 内面にナデ上げた痕跡が残る。

甕(41~89) 甕は、A(64・65・68)、A1(41・42)、A2(43~63)、A3(87・88)、A4(66)、B1(67・69~76)、B2(77~83)、C(84~86)、小型の甕(89)にわけられる。

41は、口縁端部に刻みを施し、押圧文を2個以上のもつ。42は、如意形の体部から外上方に外反し、口縁部に3個一対の押圧文を施す。

A2には口縁端部に押圧文を確認したもの(43~49・52・56~63)と、確認できなかったもの(50~55・64・65・68)がある。口縁部端面の形状には、内傾するもの(43・44・48・50・57・59)、直立するもの(51・56・58・60・62・63)、外傾するもの(45・46・49・52~55・61)がある。

44は、「く」の字状に屈曲し、口縁部には四個一対の押圧文がある。45は、水平に短く開く口縁部をもち、内面には横ハケ調整を施す。49は、長胴傾向の体部から短く外反し、口縁部に対し水平に3個一対の押圧文を加える。52は、長胴気味の体部から、ゆるやかに「く」の字状に外反し、口縁部に2個以上の押圧文を加える。内外面とも同一原体によるハケ調整を行い、内面には指頭圧痕が確認できる。59は、「く」の字状に外反する口縁部に対し、上下から3個一対の押圧を加える。

66は、斜め上方に屈曲し、先端を細くおさめる口縁部に2個以上の押圧文を施す甕A4である。体部は内外面とも縦ハケ調整を施し、口縁部内面に横ハケ調整を施す。88は、斜め上方に直線的にのびる口縁部をもつ甕A3である。口縁部に対し水平に3個一対の押圧文を施す。65は、斜め上方に外反し、垂下する口縁部をもつ甕である。64は、比較的張りのある体部からゆるやかに屈曲し、口縁部は短く外反する。器壁は比較的厚い。67は、ゆるやかに屈曲し、水平にのびる口縁部をもつ甕である。端部は外反し内面に接合痕を残す。

甕B1は、内外面ともハケ調整を施し、内面に指頭圧痕(72・74)や指ナデ痕(76)を残すものがある。口縁部は「く」の字状に屈曲し、内湾気味もしくは直線的にのびる。口縁端部は比較的シャープな面をもって内傾し、端面がつまみ上げ気味のもの(71・75・76)もある。72・73は、やや上半部に体部最大径をもち、長胴の形状を呈する。内面調整をみると、72は板ナデ状を呈し、73は比較的原体幅の広い板ハケ状を呈する。75は、口縁の下端部に刻みを施す。

甕B2は、内外面とも縦もしくは斜め方向のハケ調整を施し、内面に指頭圧痕(79・80)を残すものがある。甕Cには比較的体部の張るもの(86)がある。89は、体部中央に最大径をもつ小型の甕である。「く」の字状に屈曲し、端部は丸い。

鉢(90~97) A(90~92)、B(93~97)がある。Aには口縁端部を丸くおさめるもの(90・91)と、面をもつもの(92)がある。93は、口縁端部外面に刻みを施し、体部外面に指頭圧痕凸帯文がめぐる。96は、体部外面に縦もしくは斜め方向に荒いミガキを施す。97は、

口縁部外端面に刻みをめぐらし、体部外面には4条の櫛描き文を2段に施す。

脚部(99) 比較的器高は高い。外面はミガキ調整、端部は丸くおさめる。

高杯(98) 口縁端部外面に刻みを施す高杯B 1である。

底部(100~117) 外面調整は縦ハケするものがほとんどであるが、一部に縦ミガキを施すもの(103・110・113)もある。内面はハケもしくはナデ調整を行うものがほとんどである。102・114は、底面に指頭圧痕を確認することができる。117は、底面に穿孔を行う。

竪穴式住居跡27出土土器

住居跡の埋土中から出土している。ほとんどが細片化している。広口壺(118・119・120)、甕A(121)、底部(122)が出土している。

121は、口縁端部を押圧し、刻みを施す。

竪穴式住居跡28出土土器

全体的に破片が多いが、完形に近く状態のよいものもある。

広口壺(123~129) A(124)、C 2(123・125)、C 3(126)、C 4(127)に分類できる。124は、口縁部に強いナデを施し、体部は内面に横ハケ、外面に縦ハケ調整を行う。126は、口縁外端面に強いナデを施すことによってわずかに拡張する。128は、「く」の字状に外反する口縁部をもつ壺である。口縁端部は面をもつ。127は、拡張した口縁端面に深く狭い凹線文を4条施す。129は、断面が浅く広い「V」字状を呈する凹線文を2条以上を施す。

細頸壺(130) 口縁端部は面をもつ。

水差形土器(131) 口縁部に浅く広い凹線文を5条以上施す水差形土器B。

無頸壺(132) 浅く広い凹線文を4条以上施す無頸壺C 1である。

甕(135~148) A 1(138)、A 2(135~137)、A 3(139~143)、C(144~146)、G(133・134)などに分類できる。138は、内外面ともハケ調整を行う。

135は、口縁端部に4対以上の押圧を施す。外面はハケ調整、内面には指ナデ痕を残す。

140は、外面にハケ調整痕を残す。143は口縁部に強いナデを施し、体部内面には接合痕を残す。141は、内面にハケ調整を施し、わずかに接合痕を残す。

144~146は、口縁端部に強いナデを施すことによりつまみあげる。147・148は、「く」の字状に外反する口縁部をもつ小型の甕である。147は、口縁端部に刻みを施す。

鉢(149) 体部が内湾気味に立ち上がる鉢Bである。内外面ともハケ調整を行う。

高杯(150~154) A 1(152)、A 2(150・151)、B 2(153・154)がある。152は、体部外面に1条の凹線文を施す。ミガキ調整は内外面とも密に施す。150・151は、口縁部外面に凹線文を3条施す。端部は内側にやや拡張する。153は、口縁端部を大きく垂下させる。154は、水平方向に大きくのびる口縁部をもつ。

底部(155～162) 161は外面をケズる。162は内面をケズり、のちハケで調整している。

竪穴式住居跡29出土土器

広口壺(163) 体部中央を穿孔する広口壺B 1である。体部中央にやや張りをもち、筒状の短い頸部から口縁部は水平方向に短くのびる。体部上半から中央に8条の櫛描き文を直線文・波状文・波状文・直線文の順で施す。外面調整は、体部上半に縦ハケ、下半に横ミガキを密に施す。内面には体部中央に接合痕を残し、下半にハケ、上半に指ナデを施す。

竪穴式住居跡30出土土器

広口壺(164～171) C 2 (170)、C 4 (166～169)がある。164は、口縁端面に羽状に刻みを施したのち、上端にやや深く刻みを行う。口縁内面には列点文を施す。165は、口縁部外面に刻みを施す。170は、口縁部は外反したのち水平方向にわずかにひらく。166は、頸部と口縁部に凹線文を施す。口縁部内面には3条の扇形文を施す。167は、口縁端面にやや間隔をあけて浅い凹線文を2条施す。169は、口縁外端面に狭く深い凹線文を5条施す。171は、頸部にやや広く浅い凹線文を施す。

水差形土器(172～175) A (175)、B (172～174)がある。175は、短く直立する口縁部をもつ水差形土器Aである。172は、直立する口縁部に注ぎ口を有する。外面には2条の沈線文を施す。173は、内湾気味にのびる口縁部に6条の浅い凹線文を施す。174は、斜め上方にのびる口縁部に浅い凹線文を2条施す。

無頸壺(176) 内傾する口縁端面を有する無頸壺Bである。

甕(177～179) A 3 (177・179)、B 3 (178)がある。177は、内外面ともハケ調整を施す。

高杯(180・181) A 3 (180)、B (181)がある。180は、口縁部が内湾気味に立ち上がり、端部は拡張する。外面に浅く広い凹線文を2条施す。

脚部(182～184) 外面にはハケ、内面にはケズりを施す。脚端部には回転ナデを施す。

脚柱部(190) 柱実の脚柱部をもち、杯部内面にはハケ調整を行う。

底部(185～189) 187は、内外面ともハケ調整を行う。188・189は、内面にケズりを施す。

竪穴式住居跡31出土土器

細頸壺(191) 口縁部外面に広く浅い凹線文を2条施す。口縁端部は面をもつ。

高杯脚部(192) 脚端部に強いナデを施す。

溝2・4～7出土土器(方形周溝墓1・2)

広口壺(193・194) 193は、口縁端部に刻みをもつ。194は、口縁内面に縦方向の櫛描き文を6条施す。

受け口壺(197) 口縁部の上下端に3条の凹線文、頸部にはヘラ圧痕凸帯文を施す。

無頸壺(198～203) B (198～201)、C (202・203)がある。198は、球形に近い体部を有

し、口縁部は短く内湾し端部は丸い。199は、内傾し直線的にのびる口縁部をもつ。端部には強いナデを施し内傾する面をもつ。200は、張りのある体部をもち、外面には浅く広い凹線文を6条施す。201は、口縁上端部に刻みを施す。202・203は、浅く広い凹線文を4条施す。内外面ともミガキを密に施す。

水差形土器(204) 算盤玉状の体部をもつ。体部中央にハケ状工具による刻みを2段に施す。体部内面には指ナデ、外面下半にはケズリを施す。脚端部は拡張しない。

壺(195・196) 195は、口縁端部を内側に折り返す。

甕(205~219) A 2 (208)、A 3 (207)、A 4 (205・206)、B 3 (209~214・216)、B 4 (215・217・218)、B 5 (219)がある。205は、口縁上端に狭く強い押圧を6個以上行う。206は、口縁上端に9個の狭く強い押圧を行う。207は、比較的浅く3個の押圧を行う。209・211は、口縁端部が明瞭な内傾する面をもち、外面に細かい単位の手調整を行う。213は、やや肩部の張る体部から「く」の字状に外反し、端部は丸くおさめる。外面下半にミガキ、内面に手調整を行う。215は、やや器壁が厚い。217は、体部上半に最大径をもち、口縁外端面を強くナデる。体部内面にケズリ、外面下半には板状によるナデを施す。218は、やや肩部の張る体部をもつ。219は、体部上半に最大径をもつ。口縁端部は丸い。

鉢(220・221) A (220)、B (221)がある。220は、体部外面にはミガキ、内面には指ナデを施す。221は、口縁部外面に浅く広い凹線文を3条施す。

高杯(222~224) A (223)、B (222)、C (224)がある。223は、内面に手調整痕を残す。224は、口縁端部に内傾する面をもつ。

脚柱部(225) 比較的狭く強い凹線文を5条以上施す。内面はケズリ調整。

脚部(226~228) 226は、内側から充填する。227は、脚柱部内面に絞り痕を残す。228は、脚部が内湾気味にふんばる。外面にはケズリ、内面には手調整を行う。

底部(229~241) 230は、外面に縦ミガキ、内面に手調整を施す。233・238は、外面にミガキ、内面にケズリを行う。240は、外面に縦手調整、内面にケズリ調整を行う。241は、体部外面にケズリ、内面に手調整を行う。

その他の溝の出土土器

溝12 243は、無頸壺Bである。242は、壺の底部である。内面には指ナデを施す。

溝14 245は、甕A 1である。口縁端部はわずかに面をもつ。

溝15 244は、「ハ」の字状にひらく杯部をもつ高杯B 1である。

溝16 246は高杯A 2、247は底部である。246は、口縁部外面に間隔をあけて浅く広い凹線文を3条施す。

溝17 248は、甕B 1である。

溝24 広口壺(249・250)、直口壺(251)、底部(252~254)などが出土している。250は、凸帯文を1条施し、体部上半には列点文を2段に施す。内面調整は指ナデを行う。

溝25 255は、壺の底部である。

溝26 256は鉢A、内面に指ナデ調整を施す。257は、高杯の脚柱部である。

溝27 広口壺(262)、甕(263・266~268)、底部(264・265)が出土している。262は、球形の体部をもつ広口壺である。頸部には6条の櫛描き直線文を3段、その下に6条の櫛描き弧状文がめぐる。体部外面にミガキを施す。

266は、甕A1である。口縁部に3個一対の押圧文を6か所に施す。内外面ともハケ調整を行う。267は、甕Dである。口縁端部に刻みを施す。268は、「く」の字状に外反する口縁部をもつ甕Eである。体部外面には7条の櫛描き文を3段に施す。263は、甕Gである。

溝28 258は、広口壺A2である。口縁端部を上方に拡張する。

溝32 260は甕A2、259は甕B3、261は甕B5である。

各土坑出土土器

土坑4 269・270は、甕A1である。口縁端部に3個一対の押圧文を施す。270は、体部内面に指頭圧痕を残す。

土坑7 271は甕A3で、外面にハケ調整痕を残す。272は、甕の底部である。

土坑11 広口壺(273・274)、直口壺(275)、底部(276)が見られる。273は、口縁内面にヘラ圧痕凸帯文を付加し、上端面に刻みを施す。274は、上端面に刻みを施す。

土坑12 広口壺(277)、甕(278)、底部(279・280)がある。277は、浅く広い凹線文を5条以上施す。278は、甕B4である。

土坑13 広口壺(281)、細頸壺(282)、直口壺(283)、底部(284)がある。281は、口縁端部に羽状に刻みを施す。282は、浅く広い凹線文を施す。283は、口縁部外面に凹線文を2条施す。

土坑16 288は、胴鐘形の体部からゆるやかに外反する口縁部をもつ甕A1である。口縁端部は3個1対で4か所押圧する。体部外面に縦ハケを施し、内面に指ナデを施す。底部は円形に穿孔する。

土坑17 無頸壺C(285)、底部(286・287)がある。285は、浅く広い凹線文を5条以上施す。

土坑18 広口壺C2(289)、甕B3(290)がある。290は、口縁端部をわずかに上方に拡張し、内傾する面をもつ。

土器溜まり1 広口壺(291・292)、無頸壺(295)、甕(293・294・296~299)、底部(300~305)がある。291は、体部外面に櫛描き直線文、櫛描き弧状文を施す。292は、球形状の体部をもつ広口壺である。体部上半に5条の櫛描き直線文、櫛描き波状文、櫛描き弧状文

を施す。体部外面下半にミガキ、内面に指ナデ調整を施す。295は、無頸壺Aである。体部上半に櫛描き直線文・櫛描き波状文を交互に施す。298は、甕A 2である。口縁部を体部に接合した後は内面調整を行わない。297は、甕Eである。端部に強いナデを施し端面は直立する。体部外面には2段に櫛描き波状文を施す。296・299は、甕Fである。296は、比較的大型である。293・294は、甕Gである。293は、短く外反する口縁部をもち、端面は直立する。294は、内傾する口縁部をもち、体部外面には刺突文を3段に施す。

弥生時代中期・後期包含層出土土器

306は、球形状に近い体部から屈曲して筒状の頸部にいたり、大きく外反し垂下する口縁部をもち広口壺A 2である。体部外面には頸部～口縁部に指頭圧痕凸帯文、櫛描き波状文、櫛描き直線文を施す。口縁内面には刻みをもつ凸帯がめぐり、縦方向に波状文を施す。さらに上端面に刻みを施す。体部上半には縦ハケ下半にはミガキを施す。頸部内面にはミガキを体部内面には指ナデを行う。307は、球形の体部から水平方向にのびる口縁部をもち広口壺Aである。体部上半には櫛描き直線文、櫛描き波状文を施す。調整は外面を縦ハケ、内面にハケ・指オサエを行う。308・309は、長胴化した算盤玉状の体部をもち広口壺Bである。308は、口縁部が水平方向にのび、端部は内傾する。調整は体部外面上半をハケ、体部外面下半にミガキを施す。体部内面にはハケ調整を密に施す。309は、口縁部がやや垂下する。調整は外面に縦ハケ、内面に指ナデを施す。310は、水差し形土器Bである。口縁部には凹線文を3条施す。体部外面にミガキ、内面にハケ、脚部内面に横方向のケズリを施す。脚端部は強くナデ、透かしは3方向に穿つ。311は、甕A 1である。底部は上げ底状を呈する。312は、高杯A 2である。口縁部外面には凹線文を4条、脚柱部には上段に7条、下段に9条の凹線文を施す。杯部は、内外面とも縦方向のミガキを密に施す。脚部は、外面にミガキ、内面に横方向のケズリを施す。透かしは3方向もしくは4方向である。313は、高杯B 2である。拡張した口縁部と脚端部に凹線文を施す。杯部外面にはケズリ、内面にはミガキを密に施す。314は、算盤玉状の体部をもち壺である。拡張した口縁部に擬凹線を施し、円形浮文を付加する。体部外面にはミガキを密に施す。315は、ジョッキ形土器である。体部外面には上段から櫛描き直線文、波状文、列点文を施す。

2. 弥生時代後期～古墳時代前期

桑飼上遺跡出土の弥生時代後期～古墳時代前期の土器は、第V様式前半～布留式併行期に及ぶ。器種には壺・甕・鉢・高杯・器台などがある。これらは以下のように分類し、報告した。

なお、胎土・焼成・色調・口径・器高・残存率・調整など、詳細については、観察表を参照されたい。

①土器の分類 口縁部の形態を中心に分類した。

- 壺 A 1 (長頸壺) 上方に長くのびる口縁部をもち、擬凹線を施す。
2 (長頸壺) 上方に長くのびる口縁部をもち、擬凹線を施さない。
B 1 (短頸壺) 上方に短くのびる口縁部をもち、擬凹線を施す。
2 (短頸壺) 上方に短くのびる口縁部をもち、擬凹線を施さない。
C 1 (広口壺) 大きく外反する口縁部をもち、擬凹線を施す。
2 (広口壺) 大きく外反する口縁部をもち、擬凹線を施さない。
D 1 斜め上方に直線的にのびる口縁部をもち、擬凹線を施す。
2 斜め上方に直線的にのびる口縁部をもち、擬凹線を施さない。
E 口縁部を拡張し、複合口縁状を呈する。
F 内湾気味に斜め上方に短くのびる。
G 内湾気味に上方に長くのびる。
H (二重口縁壺) 太い筒状の頸部から段状に外反する口縁部をもつ。
I 「5」の字状を呈する口縁部をもつ。
J 小型で丸底状を呈する壺
K 球形状の体部から短く外反する口縁部をもつ。
甕 A 1 「く」の字状に外反し、内傾する口縁端面に擬凹線を施す。
2 「く」の字状に外反し、直立する口縁端面に擬凹線を施す。
3 「く」の字状に外反し、複合口縁の端面に擬凹線を施す。
4 「く」の字状に外反し、下方に拡張した口縁端面に擬凹線を施す。
B 1 「く」の字状に外反し、内傾する口縁端面にヨコナデを施す。
2 「く」の字状に外反し、拡張した口縁部端面にヨコナデを施す。
C 「く」の字状に外反し、口縁端部をツマミ上げる(タタキ調整)。
D 1 口縁部はゆるやかに屈曲し大きく外反する。口縁端部は丸い(タタキ調整)。
D 2 口縁部は「く」の字状に屈曲し、上外方にのびる。口縁端部は面をもつ(タタキ調整)。
D 3 口縁部は「く」の字状に屈曲し、外反する(タタキ調整)。
D 4 口縁部は「く」の字状に屈曲し、内湾気味にのびる(タタキ調整)。
E 体部から明瞭な境界なく、斜め上方にゆるく外反する。
F 1 口縁部は「5」の字状に屈曲し、直線的にのびる。
2 口縁部は「5」の字状に屈曲し、外反する。
鉢 A 1 「く」の字状に外反し、口縁部は内傾する。
2 「く」の字状に外反し、口縁部は上方に拡張する。

- B 体部から明瞭な境界をもたず、短くひらく口縁部に続く。
- C 椀形の杯部に小さくふんばる脚部をもつ(台付鉢)。
- D コップ状の小型の杯部をもつ。
- E 平底の杯部から直口する口縁部をもつ。
- F 小型で丸底の杯部から「く」の字状に屈曲する口縁部をもつ。
- G 有段口縁をもつ。
- H 有孔鉢
- 高杯A 口縁部は明瞭に屈曲したのち外反気味にのびる。端部は肥厚する。
 - B 1 口縁部は「S」字状に屈曲したのち、端部は内傾する。
 - 2 口縁部は「S」字状に屈曲したのち、端部は外反気味にのびる。
 - C 比較的深い杯部から、ゆるく「S」字状近くに外反する。
 - D 小型で浅い椀形の杯部をもつ(小型高杯)。
 - E 深い杯部から大きく外反する口縁部をもつ(布留型)。
- 器台A 1 大きく広がる受け部をもつ。
 - 2 大きく広がる受け部をもつ。口縁部を上下に拡張する。
 - 3 大きく広がる受け部をもつ。下方に拡張する。
 - 4 大きく広がる受け部をもつ。上方に拡張する。
- B 小型の器台。

②遺構出土の土器

竪穴式住居跡7出土土器

壺(316~320) A 1 (316・317)、B 2 (319)、C 2 (320)、D 1 (318)がある。316は、口縁部が外反気味にのびた後、屈曲し直立する。口縁部には擬凹線を2条施す。317は、内湾する口縁部をもつ。浅い擬凹線を5条施す。319は、口縁部を上下に拡張する。320は、口縁部は水平にのびる。318は、口縁部が屈曲した後上方にのび、外面に擬凹線を3条施す。

甕(321~323) A 2 (321)、A 3 (322・323)がある。322・323は、深い擬凹線を施す。

ほかに、高杯A(324)、脚部(325~327)、底部(328・329)が出土している。325・327は、脚端部に面をもち、326はやや丸くおさめる。

竪穴式住居跡11出土土器

甕(330~332) B 2 (332)、D 2 (331)、D 3 (330)がある。332は、外端面が沈線状を呈する。331は、「く」の字状に屈曲した後、直線的にのびる。外面にはタタキ、内面にはケズリを施す。

鉢C(333) 口縁端部は細くおさめる。脚端部は短く「ハ」の字状にひらく。

竪穴式住居跡12

壺(334・335) 334は、壺B 2である。内外面ともハケ調整を行う。335は、壺C 2である。口縁端面は、直立し沈線化した擬凹線を施す。

甕(336~353) A 1 (337~344・351・352)、A 2 (345~347)、A 3 (348・349)、A 4 (353)、B 1 (336)、B 2 (350)などがある。336は、内傾する口縁端面に横ナデを施す。甕A 1は、擬凹線を2条施すもの(337・339~343・351)と3条施すもの(338・342・352)がある。これら擬凹線には、340・343のように比較的深く施すもの、342のように浅く施すものがある。345・346は、比較的しっかりした擬凹線を2条施す。348・349は、比較的深い擬凹線を施す。353は、大型の甕である。外面には縦ハケ、内面のヘラケズリは頸部まで施す鈍い稜をなす。350は、鈍い複合口縁をなす。

鉢(354~356・358) 354は、口縁端部を上下に拡張する鉢A 1である。355は、口縁端部を拡張し、端面に擬凹線を4条施す鉢Bである。356は、台付鉢の脚部である。6方向に円孔を穿つ。脚端部には擬凹線を3条施す。358は、小型の鉢である。

ほかに、高杯A (357)・器台A 1 (360)・脚部(359)・底部(361~367)がある。360は、筒状の頸部から「ハ」の字状にひらき、口縁部はわずかに上方に拡張する。端面には深い擬凹線を4条施す。内外面ともやや荒いミガキを施す。

竪穴式住居跡13

壺(368・369) とともに壺Kである。369は、やや肩部の張る体部をもち、口縁部は短く外反する。内面にはケズリを施す。

甕(370~374) 372・374は、甕A 1である。372は、小型の器形である。口縁端面には2条の浅い擬凹線を施す。374は、比較的大型の器形である。373は、甕F 1である。鈍く「5」の字状に屈曲し、端部はわずかに外反気味におさめる。370は、甕F 2である。「5」の字状に屈曲し、稜は鈍い。体部内面には頸部の付近までケズリを施す。

鉢(377) やや浅めの杯部をもつ鉢Hである。口縁部は擬口縁状を呈する。

高杯(375・376・378) A (375・378)、E (376)がある。376は、器壁も薄くシャープな作りである。

底部(379~382) 380は、上げ底状を呈する。381は、突出する底部を持つ。

竪穴式住居跡14

壺(383) 壺D 2である。口縁部は丸くおさめる。

甕(384~403) A 1 (387・392)、A 2 (384)、A 3 (385・386・388~391・393・394)、B 2 (395~400・402・403)がある。A 1には口縁部に浅い擬凹線を施すもの(387)と、口縁部が上方に若干拡張し明瞭な擬凹線を施すもの(392)がある。A 3には上方に拡張する

もの(385・388・389・391・393)と斜め上方に拡張するもの(386・390・394)がある。Bには複合口縁部がゆるやかに屈曲するもの(396・397・402)と屈曲して稜をもつもの(395・398～400・403)にわかれる。

鉢(401・404) A 1(404)、A 2(401)がある。401は、かなり大型の鉢である。口縁部は複合口縁化し端部は面をもつ。口縁部はナデ調整を施す。体部外面にはミガキ、内面には頸部までケズリを施す。

高杯(405・406) A 2(406)、B 2(405)がある。比較的深い杯部に斜め上方にのびる口縁部をもつ。外面には比較的浅い擬凹線を5条施す。

器台(407) 直立する口縁部に4条の擬凹線を施す器台A 2である。

他に蓋(408・409)、底部(410～415)などがある。410・411は、突出する底部である。415は、大型の底部である。

竪穴式住居跡15

壺(416・417) C 2(416)、D 2(417)がある。416は、直立する口縁端部にナデを施し、端面は凹線状を呈する。417は、口縁部に強いナデを施し、外面は段状を呈する。

甕(418～421) A 2(419・420)、A 3(421)、B 2(418)がある。419・420は、やや浅い2条の擬凹線を施す。421は、比較的しっかりした擬凹線を3条施す。418は、ゆるやかに屈曲し、上外方にのびる口縁部をもつ。

高杯(422・424～426) A(422・424・425)、C(426)がある。424は、口縁部が大きく外反する。425は、口縁端部を外方に拡張する。

他に蓋(423)、脚部(432～434)・底部(427～431)がある。432は、台付鉢の脚部である。

竪穴式住居跡16

壺(435～437) A 2(437)、B 1(436)、C 1(435)がある。437は、口縁部がゆるやかな受け口状を呈する。436は、口縁端部を上下に拡張し、2条の擬凹線を施す。

甕(438～441) A 1(439)、A 3(440・441)、B 2(438)がある。439は、わずかに拡張した口縁端面に浅い擬凹線を2条施す。438は、明瞭な稜をもって屈曲し、口縁端面は外傾する。

鉢(442～444) A 1(442)、D(443)がある。442は、小型の鉢である。端面は直立する。443は、把手をもつコップ形の土器である。胎土はやや荒く、この手の土器にしてはシャープさに欠ける。

高杯(445～448) A(445・446)、B 1(447)、B 2(448・450)にわけられる。445・446は、口縁端部を外方向に拡張する。447は、上方に拡張した口縁端面に浅く擬凹線を4条施す。448は、外反する口縁端面に浅く5条の擬凹線を施す。450は、比較的浅い杯部もち、口縁部は屈曲したのち短く立ち上がり、端面には浅い擬凹線を5条施す。

器台(453・451・452) 451は、器台A 3である。5条の擬凹線を施す。452は、器台A 4である。半円形の把手をもつ。口縁部外面にはやや深い擬凹線を4条施す。

他に、蓋(449)、底部(454・455)がある。

竪穴式住居跡17

甕(456~463) A 3(456~459)、B(460~463)がある。456・459は、口縁部が直立し、457・458は、外反気味にのびる。ともに3~4条の擬凹線を施す。460・461は、口縁部が稜をもって屈曲した後、短くのびる。463は、口縁部が緩やかに屈曲する。462は、上外方に外反する口縁部をもつ。

その他、蓋(464~466)、脚部(467)、底部(468)がある。466は、柱状に長いつまみ部をもつ。

竪穴式住居跡25

甕B 2(469) 口縁部はゆるやかに屈曲したのち立ち上がり、端部は面をもつ。ケズリは頸部まで行く。その他、蓋(470)、底部(471)がある。

土器溜まり2

壺(472~474) A 2(473)、C 1(474)、E(472)がある。474は、口縁部が屈曲し上方に立ち上がる。端部は浅い擬凹線を施す。472は、算盤玉状に近い体部をもつ。口縁部にはハケ状工具により羽状に刻みを施す。

甕(475~482) A 1(478)、A 3(475~477・479・480)、B 2(481・482)がある。478は、口縁部が屈曲したのち上方に長くのびる。比較的器壁も薄くシャープな作りである。外面には擬凹線を5条施す。475・477は、口縁部が明確な稜をもって屈曲する。479・480は、比較的ゆるやかに屈曲する。475・477は、口縁部が屈曲した後、外反気味に直立する。

鉢(483~485) A(483)、D(485)、E(484)がある。すべて内外面ともミガキを施し、シャープな作りである。484は、口縁外面に1条の沈線文を施す。485は、浅い杯部に半円形の把手をもつ。口縁部には2条の擬凹線を施す。

器台(487~489) A 2(487・488)、A 4(489)がある。487は、上下両端に沈線文を施し、その間にヘラ描きによって波状文を施す。488は、上下に大きく拡張する。浅い擬凹線を6条施す。489は、比較的幅の広い擬凹線を施す。

その他、脚部(486・490~492)・底部(493~499)がある。486は、ミニチュア土器の脚部になると思われる。底部には矮小化しているものが多い。

土器溜まり3

壺(501・502) 502は、肩部の張る粗製の壺Iである。外面にはケズリ痕を残しながら、ハケ調整が主体となる。501は、丸底の壺Jである。体部上半に不明瞭な波状文を2条施す。

甕(503~507) C(506)、D 1(503~505)、D 2(507)がある。506は、ゆるやかに屈曲

した後、口縁部は斜め上方にのびる。外面にはタタキ後ハケ調整を施す。504は、長胴化した倒卵形の体部をもつ。底部は丸底に近い。外面の体部上半には右上りのタタキ目を残す。内面の頸部付近には接合痕を残し、体部中央以下にはわずかにケズリ痕を残す。507は、外面にタタキ後ハケ調整を施し、内面には横ハケ調整を行う。

鉢(500) 精良な胎土をもつ鉢Fである。内外面ともミガキを密に施し、底面にはケズリ調整を施す。

他に、高杯(508)、脚部(509)、底部(510)がある。508は、杯部外面にわずかな稜線を残す。509は、脚内面を横方向にケズる。

土器溜まり4

壺(512~514・516並518) F(512・516)、G(517・518)、H(514)がある。512は、大型の土器である。516は、内外面ともハケ調整を施す。517は、肩の張る体部をもち、口縁部に強いナデを施し、端部はシャープにおさめる。外面調整は、底部にケズリ痕を残す以外はミガキを密に施す。518は、下膨れ状の体部をもち、内湾してのびる口縁部をもつ。端面は丸い。外面調整は、底面にケズリ調整を施す以外はハケ後ミガキ調整を行う。体部内面は底面にハケを施し、上半~中部には接合痕に指頭圧痕を明瞭に残す。口縁部内面は横ハケを施す。514は、筒状の頸部をもつ二重口縁壺である。端部は丸くおさめる。513は、筒状の頸部から水平にのびる口縁部をもつ。口縁端面は直立する面をもつ。内外面ともハケのちミガキを施す。

甕(511・515・519~531) D3(519~525・527・528)、D4(526)、E(529・531)、F1(511)、F2(515)がある。519は、外面に右あがりのタタキを施し、内面には屈曲点までケズリを施す。520は、右上りのタタキを施し、ハケ調整を行うか所もある。527は、口縁端面が水平に短く外反させる小型の甕である。屈曲点までケズリを施す。528は、水平方向のタタキ目をもつ小型の甕である。内面には板ナデを施す。526は、小型の甕である。左上りのタタキをもち、内面には屈曲点までケズリを施す。口縁内面には指頭圧痕を施す。531は、下膨れ状の体部をもつ。内面上半にハケ、下半にケズリを施す。

鉢G(537) 内外面ともミガキを密に施す。

高杯D(538・540) 538は、やや深い杯部をもつ。540は、浅い碗状の杯部をもつ。

器台B(539) 口縁部は明瞭に屈曲する。端部は丸い。外面は細いミガキを密に施す。
ミニチュア土器(541・542) 541は、内面に指ナデ痕を残す。542は、台付鉢状を呈する。

脚部(543~546) 「ハ」の字状にひらくもの(543)と、大きく水平方向にひらくもの(545・546)がある。

底部(532~536) 甕の底部である。平底状(532・534・535)と、丸底状(533・536)がある。

3. 古墳時代中期・後期の土器

桑飼上遺跡で出土した古墳時代中期・後期の土器は、TK23～TK209前後の時期のものである。器種には、須恵器(杯身・杯蓋・高杯・甕・甗)、土師器(甗・壺・鉢・椀・高杯)などがみられる。その中で、土師器の甗・壺・鉢・高杯について、若干の分類を行った。また、調整など、個々の土器の詳細については観察表を参照されたい。

①土器の分類 口縁部及び体部などの形態から、以下のように分類した。

壺A 肩部に張りをもち、斜め上方にのびる口縁部をもつ。

B 直口する口縁部をもつ壺。

C 斜め上方にのびる口縁部をもつ。口径と体部最大径はほぼ同じ。

D 小型丸底壺。

甗A 1 口縁部は斜め上方に内湾し、端部は内面に肥厚する。

A 2 口縁部は斜め上方に直線的に立ち上がり、端部は内面に肥厚する。

B 比較的器壁は厚く、球形に近い体部をもつ。

C 下膨れ状の体部をもつ。

D 比較的器壁の薄い体部をもち、口縁部もシャープに仕上げる。

E 小型の甗。

鉢A 丸底の底部をもつ。

B 平底の底部をもつ。

高杯A 杯部は稜をもち、口縁部は大きく外反する。

B 「ハ」の字状にひらく杯部をもつ。

C 椀状の杯部をもつ。

D 大型の杯部をもつ。

③遺構出土土器

竪穴式住居跡2出土土器

壺D(548・549) 548は、直口気味に立ち上がる口縁部をもつ小型丸底壺である。549は、小型丸底壺の下半部である。内面は指ナデ痕が顕著である。

甗A 2(547) 口縁端部の肥厚は鈍い。

高杯A(550) 稜や口縁端部はシャープに終わる。

竪穴式住居跡3出土土器

壺(553～556) 553・556は、壺Aである。553は、外面は不定方向のハケ、内面は横方向のケズリが顕著である。口縁端部は細くシャープにおさめる。554・555は、壺Bである。554は、締まった頸部に体部最大径を中央にもつ。555は、体部の張りは顕著でない。

甕(551・522) 551は、甕Bである。口縁部は外反気味に立ち上がる。552は、甕Cである。器壁の凹凸は激しく、不整形な作りである。口縁部は、外方へ立ち上がる。

557は、高杯の脚部である。

竪穴式住居跡4出土土器

須恵器杯蓋(558) 天井部はやや丸みを帯びるが扁平な感じがする。口縁部と天井部をわけると突帯はにぶくなっているが、突帯と稜の中間形態をとる。口縁部は、わずかに外方にひらく。口縁端部外面は、わずかに突出し、端部内面は内傾した段を有する。天井部の回転ヘラケズリは単位が細かくていねいである。TK23型式並行期。^(注9)

以下は土師器についてである。

壺B(560) 体部中央に最大径をもつ。口縁端部は丸くおさめ、底部には穿孔をもつ。体部外面の調整は不定方向のナデ調整が目立つ。

甕(559) 「く」の字に外反する口縁部を持つ。

高杯C(561) 口縁端部は欠損している。脚部は途中で屈曲し、「ハ」の字状に大きくひらく。端部は丸い。

竪穴式住居跡5出土土器

須恵器杯蓋(563) 天井部は丸く高く、口径の割に器高が高い。天井部と口縁部をわけると稜はにぶい。口縁端部内面は内傾し、段が退化した凹面を持つ。TK47型式並行期。

須恵器甕(562) TK208～TK47型式の中におさまる。口縁部下方の稜はややにぶく、口縁端部内面はやや肥厚気味に丸く終わる。口頸部にはかつて突帯をめぐらしていた名残りか、角度に変化がある。

以下は土師器についてである。

壺(599・600・596～597) 596・597は、壺Cである。599・600は、壺Dである。599は、比較的肩部の張る体部をもち、内面には接合痕を残す。600は、体部最大径が口径よりも大きくなる。内面に接合痕を残す。

甕(564～595)

A2(564) 564は、斜め上方に立ち上がり、口縁端部はわずかに肥厚する。

B(565～568・570・571～576) 565・566・570・572・576は、外面に縦方向または斜め方向のハケ調整、内面に横方向のハケ調整を行う。567・568・573は、外面にハケ調整、内面に横方向のケズリ調整を行う。

C(577～582) 器形・調整とも比較的共通点が多い。体部～口縁部にかけてはゆるやかに屈曲し、外反気味にゆるやかにのびる。体部と口縁部の境界は明瞭でなく、端部は細くおさめる。外面は縦もしくは斜め方向のハケ調整を行う。口縁部の調整は横ナデを行った

のち縦ハケを行う点で共通している。577・578は、体部が下膨れ状を呈する。577～579は、内面に指頭圧痕が明瞭に観察できる。

D (583～592) 器形・調整とも多様な状況がうかがえる。口縁部の形状をみると「く」の字状に屈曲し、斜め上方に直線的にのびるもの(584・585・586～588・592)、外反するもの(583・590・591)、直立するもの(589)等がある。調整をみると、外面にヨコハケ・斜めハケ調整を施し、内面に接合痕を残す(585・590)、横ハケ調整を施すもの(586～588・592)、横方向のケズリを施すもの(597)がある。

E (593～595) 比較的小型の甕である。口縁部の形態をみると、外反するもの(594・595)、内湾気味にのびるもの(593)にわけられる。調整は、外面にタテハケ、内面にヨコハケを施す。

鉢(601～610)

A (601・602) 丸底の底部からゆるやかに外反する口縁部をもつ。602は、口縁端部を細くおさめる。

B (603～610) 底部の形状をみると、平底のもの(603・604・606)、底部が丸みをもつもの(605・609・610)にわけられる。口縁部は内湾気味に立ち上がるもの(605・607)、内湾気味に立ち上がったのち短く外反するもの(604・608)がある。調整は、内外面ともハケ調整(604・605・607・610)・ミガキ調整(608)、内面に板ナデ痕を残すもの(603・606)がある。

ミニチュア土器(611) 611は、内面に指ナデの痕跡が明瞭に残る。

高杯(612～631・633・634)

A (612～614・616・617) 杯部は屈曲した後、外反気味に開く。端部はほとんど丸く仕上げ上げる。614は、比較的シャープに屈曲する。612・613は内外面ともハケ調整痕を残す。

B (615・618～628・630・631・634) 杯部はゆるやかに内湾し、斜め上方に直線的にのびる口縁部をもつ。端部は比較的丸い。杯部の形状をみるに比較的深いもの(615・618～622・631・634)と浅いもの(623～638)にわけられる。615・634は、脚部が杯部の中心からずれて接合されており、不安定な状況がうかがえる。615は、杯部がゆるやかに屈曲した後「ハ」の字状にひらき端部は丸い。脚部内面には横方向のケズリを施す。634は、脚部内面にラセン状の接合痕を残す。618は、杯部が内湾気味に立ち上がり、脚部は一度屈曲したのち内湾気味におさめる。端部は丸い。外面にはタテハケ、内面にケズリを施す。619は、筒状の脚柱部から裾部で屈曲し水平方向に開く。内面には横方向の調整痕を施す。620は、杯部がゆるやかに屈曲したのち「ハ」の字状にひらき、脚部は筒状の脚柱部から裾部で屈曲し大きく広がる。脚端部は跳ね上がる。

C (629・633) 椀状の杯部をもつ。端部は丸くおさめる。629は、筒状の脚柱部から明

瞭に屈曲し直線的にひろがる。

脚部の形状をみると、筒状の柱状部がゆるやかにひろがるもの(632・633)、筒状の脚柱部から「ハ」の字状にのび、屈曲したのち下方にのびるもの(635～638・641・642)、筒状の脚柱部から「ハ」の字状にのび、屈曲したのち水平に広がるもの(639・640)にわけられる。脚柱部の内面には接合痕を明瞭に残すもの(636・637・641・642)やケズリを施すもの(641・642)などがある。

竪穴式住居跡 8 出土土器

須恵器直口壺(646) 口頸部外面に、断面三角形の突帯が退化した稜を2条めぐらし、稜線間に6条1単位の波状文を施す。波状文の波形はやや右に傾く。口縁部は、上段稜線からさらに外反し、口縁端部内面は、ヨコナデにより、内傾する凹面を形成し、やや鋭い感じに仕上げられる^(注10)。TK23型式並行。

この種の直口壺は、初期須恵器段階から存在し、I型式のなかで終息してしまう。比較的生产量が少ない。

由良川流域では大道4号墳(福知山市)、高谷5号墳(綾部市)に類例が知られる。大道4号墳例は、口縁部が全体に直立気味で、口頸部の突帯の突出度も高く、波状文の波形も密で、比較的ていねいに施されていることなどから、桑飼上例よりも古相を示す。

高谷5号墳例は、口縁端部内面が内傾する凹面を有することでは桑飼上例と共通し、口縁部のみ残存する桑飼上例の全体のプロポーションを補って考えることができる。高谷5号墳例では、肩部はやや張り、肩部付近の胴部最大径をむかえる部分に波状文が施されるが、列点文化してはいない。

以上のことから、桑飼上遺跡の直口壺(646)は、TK23型式並行期でも古相をとどめるものと判断できる。

以下は土師器についてである。

甕(643) 甕Dである。

鉢(644・645) 644は、鉢Bである。口縁端部は外面にわずかに肥厚する。645は、鉢Aである。口縁端部はわずかに外反する。内外面にはハケ目調整を施す。器壁は比較的厚い。

碗(647・648) 内碗する傾向をもつ。端部は丸くシャープである。胎土は密、砂礫はほとんど含まない。

高杯(649～651) 649・651は、高杯Bである。649は、内外面ともハケ調整を施す。651は、比較的深い杯部をもっている。口縁部は欠損している。脚部は、筒状の脚柱部からゆるやかに広がり、屈曲したのち水平方向にひらく。内面は横方向にケズる。650は、高杯Dである。

竪穴式住居跡9出土土器

壺D(655) 口径より体部最大径の方が大きい。

甕(652~654) 652・653は、甕A1である。外面に縦ハケ、内面にはケズリを施すが、屈曲部付近には指ナデ痕が残る。654は、甕Cである。体部最大径を中央にもち、形状は球形に近い。

高杯B(656) 杯部は深くシャープに作られており、器壁も比較的薄い。内面にはハケ調整痕が残る。

竪穴式住居跡10出土土器

甕(657・658)

A2(658) 球形に近い体部から上外方に直線的にのびる口縁部をもつ。端部はやや肥厚する。外面には斜めハケ、口縁部内面には横ハケ、体部内面には荒いハケと細かいハケの両者を施す。屈曲部付近には板ナデ痕を残す。

C(657) 口縁端部は面をもつ。

土器溜まり5出土土器

甕(659~664)

B(659~662) 659は、球形の体部から屈曲し上外方に外反する口縁部をもつ。口縁端部は細くおさめる。外面には斜め方向のハケ、内面には横ケズリを施す。662は、ゆるやかに上外方にのびる。端部は小さくまとめる。内面には横ハケ調整を施す。660・661は、「く」の字状に外反する口縁部をもつ。660は、口縁端部が上方にやや膨らむ。

D(663) 球形に近い体部から屈曲し、わずかに外反気味にのびる。体部の調整は内外面とも不定方向のハケを施す。

E(664) 外面はハケ調整、内面は板ナデ調整を施す。端部は丸い。

高杯(665~668) 665は、高杯Aである。杯部は比較的深く脚部は大きくひらく。脚部外面にはミガキ、内面には横方向のケズリを施す。666・667は、比較的深い杯部をもつ高杯Bである。口縁部はわずかに外反する。前者は筒状の脚柱部から「ハ」の字状に大きくひらき、脚端部は若干はねる。外面には縦ハケ、内面には横方向の調整を施す。668は、高杯Dである。口縁端部はわずかに水平にひらく。

脚部(669~672) 669・670は、筒状にひらいた後屈曲し下方に広がる脚部をもつ。内面は横方向にケズる。670は、外面をミガク。671は、屈曲してひらいた後端部をはねる。

包含層出土土器

須恵器甗(675・676) 675は、口縁部と頸部の境界に、突帯状の段を設け、口縁は短く外反し扁平な口縁。口縁端部内面には水平に近い凹面を持ち、端部はやや外方につまみだ

される。口縁部と頸部に密な波状文を施す。いずれも波形はやや右に傾く。色調は暗赤褐色。以上、口縁部外面にも施されたていねいな波状文、水平に近い凹面を持つ口縁端部、暗赤褐色の色調などから、TK208型式でも古相をとどめるものと判断できる。

須恵器高杯(677~680) 677は、高杯脚部。脚柱部にはカキメを施し、透かしは円形透かし。円孔の下の裾部に断面三角形の突帯をめぐらす。突帯と脚端部の段との間隔が狭くなっている。脚端部はとがり気味。TK208型式並行期の中でも新相を示す。

678~680は、無蓋高杯。678の杯部はやや浅く、口縁部と杯底部の境界を分ける1条の突帯状の稜を残し、口縁部に波状文、杯底部に列点文を施す。口縁端部は横ナデによりややとがり、外反気味に終わる。内面には浅い凹線を残す。脚端部外面は外傾し、段をなし装飾的であるがやや分厚い。脚部の透かし孔は、長方形4方透かしで、広く大きい。以上、端部内面の凹面、幅の広い4方透かし、分厚い脚端部など古い要素を各所に残すが、小型化していることから、TK23~47型式並行期か。

679・680は、無蓋高杯口縁部。口縁部と杯底部の境界に2条の突帯を持つ。679の口縁端部内面には浅い凹面を持つ。

須恵器杯蓋(681~692) 681は、天井部は水平で、天井部と口縁部を分ける断面台形状のかなり明瞭な突帯を有する。口縁部はわずかに外方へ開き、細かい単位で横ナデされる。口縁端部内面にはやや水平に近い段を有し、端部外面は、外方へつまみだされる。以上のことから、TK23型式に並行するもののうち古相をとどめるものか。

682の天井部はやや丸みを帯びる。天井部と口縁部を分ける稜は、やや鋭く明瞭ではあるが突帯化してはいない。683の端部は、外方へ傾斜気味のやや明瞭な段を持つ。684の天井部は丸く、高く、全体に丸みを帯びながら、口縁部は内湾気味に開く。天井部と口縁部を分ける境界はわずかに突出し稜をなし、口縁端部に外方へ傾斜する段を持つ。685・686の口縁端部の段は、外方へ傾斜するが、鋭さがなくややあまい。687の天井部と口縁部の境界には、稜の痕跡である明瞭な角度の変化がある。天井部はやや突出し、口縁端部は段をなす。天井部中央はやや突出する。688の天井部と口縁部の境界は、稜がわずかにつまみだされ凹面を持つ。口縁端部は、段をなさず内傾する面を持つもの。天井部中央はやや突出する。689の天井部と口縁部の境界は、凹面を持つ。口縁端部は、内面に明瞭な端面を持たないが、まったく丸く終わるわけでもない。690の天井部と口縁部の境界は、角度の変化によってのみ認識できる。口縁端部は、内面に明瞭な端面を持たない。692は、天井部中央のみヘラケズリする。

須恵器杯身(693~699) 693の口縁端部の段は、水平に近いがやや内傾する。底部は全体に丸みを帯びる。694・695の受け部は、明瞭な切れ込みが施されず、口縁端部内面にわ

ずかに面を持つ。696の口縁部はやや内傾し、端部は丸くおさめる。697・698は、立ち上がりは短く内傾する。

台付椀(700・701) 700は、口縁部と底部の境界に櫛描き列点文を施し、701は、2条の沈線を施す。

以下は土師器についてである。674は、屈曲したのち「ハ」の字状にひらく深い杯部をもつ高杯である。脚部は太い脚柱部から屈曲した後、短く直線的にのびる。673は、丸底の底部から椀状にひろがる鉢である。

4. 飛鳥・奈良時代の土器

桑飼上遺跡からは、飛鳥・奈良時代の土器が多数出土している。出土地点別では、4次調査地区がもっとも多く、2次調査地区がそれに続く。出土土器の時期は、TK209型式前後～平城宮VIくらいまでであるが、飛鳥IV～平城宮IIIの時期のものがもっとも多い^(註11)。

器種としては、須恵器(杯、蓋、皿、椀、短頸壺、長頸壺、鉄鉢形土器、平瓶、甕)、土師器(杯、甕、鉢、鍋、甌)などがある。その他、転用硯、墨書須恵器なども出土しており、多種・多様である。

a. 遺構出土の土器

掘立柱建物跡掘形出土土器

掘立柱建物跡掘形埋土中からごく少量の須恵器が出土した。この地域では、地域色をふまえた編年に耐える良好な一括資料にまだ恵まれないので、とりあえず平城宮編年との比較観察結果を記しておく。

掘立柱建物跡1出土遺物

706は、口縁端部内面がほとんど垂下しない蓋。平城宮VI型式=長岡京期杯BⅡ蓋に並行か。711は、短頸壺の口縁。平城宮V型式壺Aの口縁に類似し、平城宮V～VI型式に並行か。704は、壺の口縁であるとすれば平城宮VI型式に並行するものか。707は、704と同じ器種の端面がやや内傾する壺の口縁か。

掘立柱建物跡2出土遺物

709は、高台端部が直立する杯で、平城宮Ⅲ～Ⅳ型式に並行か。

掘立柱建物跡3出土遺物

703は、端部がやや短い蓋で、平城宮Ⅱ～Ⅲ型式杯BⅣ蓋に並行か。708は、高台が内端面で接地する杯。接地面は丸みを帯び、平坦に近いねいなつくり。裏面にヘラ記号あり。平城宮Ⅱ～Ⅲ型式に並行するものか。

掘立柱建物跡5出土遺物

703は、口縁端部がやや長く下方に垂下する蓋で、口縁部と天井部の境界は明瞭である。平城宮Ⅰ型式(S D1900A)杯BⅣ蓋に形態が類似し、平城宮Ⅰ～Ⅱ型式に並行するものか。710は、高台が内端面で接地する杯で、端部は凹面をなし、比較的ていねいなつくり。平城宮Ⅰ～Ⅱ型式の杯BⅢないしⅣに並行するか。

掘立柱建物跡7出土遺物

702は、笠形の天井部を持つ蓋。口縁端部はやや内傾する。天井部と口縁部の境界の稜はややあまい。平城宮Ⅱ型式新相(S D485)よりやや端部はあまく、平城宮Ⅳ型式(S K219)では端部は外傾していることから、平城宮Ⅲ型式(S K820)の杯BⅤ蓋に並行か。

竪穴状遺構1出土土器

714は、須恵器杯である。口縁部はわずかに外反する。713は、土師器甕である。口縁部に強いナデを施し、内面が段状を呈する。口縁部は外上方に大きく外反する。外面に縦ハケ、内面に横ケズリを施す。

竪穴式住居跡18出土土器

715は、口縁内面が段状を呈する土師器甕である。体部は長胴をなし、口縁部は大きく外反する。体部の調整は外面に縦ハケを密に施し、内面には横方向のケズリを施す。口縁部には強い回転ナデを施す。716は、大型の須恵器杯Bである。口縁部は斜め上方に直線的にのびる。高台は外方にふんばり、端面はわずかにくぼむ。

竪穴式住居跡21出土土器

717は、須恵器杯蓋である。丸みを帯びた天井部から屈曲し、口縁部は外反気味におわる。天井部にはヘラケズリ調整痕を残す。718は、土師器高杯脚部である。柱実の脚柱部から水平方向に大きくひらき、端部ははねる。

竪穴式住居跡22出土土器

719は、須恵器蓋である。傘形の天井部をもち、端部はわずかに直立する。720は、須恵器蓋である。わずかにかえりを残す。721は須恵器杯A、722は須恵器杯Lである。後者はシャープな稜をもつ。723は、土師器杯である。須恵器杯Aを模倣したものと思われる。724～729は、「く」の字状に外反する口縁部をもつ土師器甕である。724・725・727～729は、口縁端面が内傾する。724は、外面に縦ハケ、内面にケズリ調整を施す。726は、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。端部は丸い。729は、小型の甕である。

竪穴式住居跡23出土土器

731は、須恵器杯身である。口縁部の立ち上がりは短く、底面にはヘラケズリをわずかに残す。730は、土師器甕で、球形の体部に短く外反する口縁部をもつ。外面には不定方

向のハケ、内面にケズリを行う。

土器溜まり6出土土器

733・734は、須恵器蓋である。傘形に近い天井部に口縁端部は丸くおさめる。内面にはわずかにかえりを残す。732は、水平な天井部をもつ須恵器蓋である。口縁部は二段に屈曲したのち、端部は外反気味におさめる。735～737は、須恵器杯である。735は、外方にふんばり、内端面で接地する。738～743は、土師器杯である。738・741は、体部が皿状を呈し、口縁端部は外反気味におさめる。内面には縦～斜め方向に暗文を施す。739・742は、体部が椀状を呈し、器壁は比較的厚い。外面には不定方向にケズリを施す。740・743は、椀状の体部から屈曲したのち口縁部は短く外反する。内面には縦～斜め方向に暗文を施す。器壁は薄く全体的にシャープに仕上げる。744～746は、土師器甕である。口縁内面は回転ナデにより段状を呈する。744・745は、大きく外反する口縁部をもつ。746は、「く」の字状に屈曲し、直線的にのびる口縁部をもつ。747は、土師器鉢である。内面にはハケ調整を施す。

土器溜まり7出土土器

748・749は、須恵器蓋である。比較的扁平な天井部に口縁端部は直立する。750～752は、須恵器杯Aである。750・751は、口縁部が直線的にのびる。752は、椀状に近い体部を有し、口縁端部は上方にのびる。753～755は、須恵器杯である。756～758は、須恵器杯Bである。756は、高台は短く外方にふんばり内端面で接地する。

757・758は、須恵器杯Bである。短く直立し内端面で接地する。759～761は、土師器杯である。759は、浅い椀状を呈する体部をもつ。760は、口縁部が屈曲し、端部をわずかに外反させる。761は、皿状を呈する体部をもつ。762は、口縁部内面が回転ナデによって段状を呈する土師器甕である。763・764は、土師器鍋である。口縁部には強い回転ナデを施し、内面は段状を呈する。体部外面はハケ調整、内面にはケズリ調整を施す。

b. 包含層出土の須恵器

① 2次調査出土(B・C・Dトレンチ)の須恵器蓋杯

蓋 口縁端部「Z」字状のもの=平城宮A形態(766～770)と、笠形天井部のもの=平城宮B形態(765・771～775)とがある。

杯B 高台付きの杯。高台の接地面は、内端面で接地するもの(776・777・782・784・790・793)と直立するもの(779・780・781)がある。高台の形状はさらに、底部への接着面から接地面まで一様な厚みのもの(776)、接地面内面が肥厚するもの(779・780)、接地面両面が肥厚するもの(777)がみられる。口縁端部のおさめ方は、内外面を強くナデ、とが

り気味におさめるもの(776・779)、端部外面は強くナデず、内面に横ナデによる凹面を形成するもの(777)が認められる。底部の切り離し後の調整は、ヘラキリ後の横ナデにより稜を残さないもの(776・780)、ヘラキリ後横ナデを行うが、稜を残すもの(777)、ヘラキリ後の面をそのまま残すもの(779)がある。782は、口縁端部が外方へ突出し、高台は高く、内端面で接地する。輪状突帯状つまみの蓋と組み合う杯か。

杯A 無高台の杯(778・785～789・792)。

皿B 高台付きの皿。783は、口縁端部外面がやや丸みを帯びた明瞭な端面を形成する。高台は直立し、接地面は全体を横ナデし、凹面を形成する。底部は回転ヘラキリ後ナデを施すが、稜を残す。平城宮Ⅲ型式(S K 820)皿BⅢないしⅣに並行するものか。

②4次調査出土(L・Mトレンチ)の須恵器蓋杯

蓋 内面にかえりのある蓋(825～838)は、口縁部より下方へかえりが突出するものは1点(825)のみある。つまみの形状が明らかなものは、2点のみで、乳頭状のつまみ(826)と扁平なつまみ(831)がある。

蓋 口縁端部が屈曲するもの=平城宮A形態は1点(798)のみで、他は、笠形天井部のもの=平城宮B形態(794～802)である。つまみの形は、扁平な擬宝珠つまみ(794)、やや高さのある擬宝珠つまみ(795)、内面が落ち込むつまみ(797)がある。ほかに、つまみを持たないもの(801・802)も存在する。

杯B 高台付きの杯。高台の形状は、外端面で接地するもの(803・804・811)、内端面で接地するもの(805～808・812・814)、直立するもの(809・810・813)がある。

杯A 無高台の杯(818～823)。

杯F 大型、深手の金属器を模倣した須恵器の系譜を引く高台付きの杯(814)。

皿B 高台付きの皿(815・816)。815は、外端面で接地し、816は内端面で接地する。

皿A 無高台の皿(824)。

③その他の器形の須恵器(2・4次調査)

輪状突帯状つまみを持つ蓋 866～872は、輪状の突帯状のつまみを付ける蓋である。天井部の形状には2種あり、866・868は天井部がやや丸みを帯び、他は天井部中央が水平に近いものである。端部の形状には3種あり、

a = 口縁端部上面が内傾する凹面を形成するもの(866・867)

b = 端部が水平でわずかに内面に肥厚するもの(870・871)

c = つまみ内面が全体にわずかに凹面状をなし、端部は丸く終わるもの(868・869・872)となる。

杯L 839～858は、口縁部と底部の境界に稜を持ち、口縁部を屈曲させるいわゆる稜椀

である。口縁端部の形状により、次の3種類に分類できる。すなわち、

a = 口縁最端部内面に沈線を持ち、端部を外方へ強く屈曲させるもの(845~847・850・852~855・858)

b = 口縁端部内面に沈線を持つが、端部の屈曲度の低いもの(840・842・848・854)

c = 口縁端部内面に沈線を持たず、端部を外方へ短く強く屈曲させ、外端面が突出した面を持つもの(839・841・843・844・849・856・857)

である。高台の形状がわかっているものでは、856はわずかに外方へ踏ん張るが直立に近く、857は内端面で接地する。

壺A(短頸壺=薬壺形) 859~861は、短頸壺の蓋。859・861は、水平な天井部から垂直に下りる口縁部を持ち、口縁端部にわずかに外傾する面を持つ。860は、やや丸みを帯びた天井部を持ち、口縁端部は丸く終わる。

862~863は、短頸壺。862は、垂直気味に立ち上がり、わずかに外傾する口縁を持ち、口縁端部はわずかに肥厚する。肩部以下、体部外面上半はカキメ、下半はタタキ調整。863は、短く外反する口縁を持ち、肩部はやや丸みを帯びる。

壺K(長頸壺) 865は、頸部から上を欠いた長頸壺。肩部には明瞭な稜や沈線は施されずやや丸く、扁平な体部上半を形成する。底部は平底で、やや外方へ踏ん張った短い高台を付す。接地面はほぼ水平。

鉢A(鉄鉢形) 864は、鉄鉢形土器。平底の底部から、わずかに内湾気味のやや直線的な体部をなし、内湾する口縁部にいたる。口縁端部内面は外方へ傾斜する平坦な面を持つ。

④墨書須恵器と転用硯

墨書須恵器は4点であり、器種は蓋が1点(876)、杯Aが2点(877・878)、平瓶が1点(879)で、すべて4次調査区からの出土である。876は、通有の蓋に比べ器高が高い大型品である。879は、小型品で把手・高台を持ち、肩部は内端面で接地している。口頸部は太く短く直線的で、肩部は鋭角的に張るが扁平であり高さに乏しい。

転用硯は器種として、杯B及び蓋に限定される。すべて4次調査区からの出土である。蓋は、図化し得たものはすべてB形態(880・883)であり、内面のかえりはない。杯Bは、内端面で接地するがほぼ直立に近いもの(885~889)と直立するもの(890)がある。ほかに、ヘラ記号を持つ杯(891・893)、蓋(892・894)がある。

(細川康晴)

C. 包含層出土の土師器

杯(895~903) 895~897は、体部外面にヘラケズリを顕著に残す。椀状のもの(895・896)と皿状のもの(897)がある。色調はすべて淡黄褐色を呈し、胎土は比較的粗い。898~

899は、体部外面に沈線をめぐらす。900は、口縁部付近を強くナデる。901は、須恵器杯Bの模倣土器である。898～901は、淡褐色～赤褐色を呈し、胎土は密である。902・903は、内面に暗文を残すが、内底面には残さない。口縁端部は、シャープに仕上げる。色調は、ともに赤褐色を呈し、胎土は密である。

甕(904～906) これらは、ともに長胴形の体部から外反する口縁部を持ち、口縁内面に段状に強いナデを施す。外面には縦もしくは斜めハケを、内面には横もしくは縦方向のケズリを施し、屈曲部付近には接合痕を残す。口縁部の形状、調整及び体部の形状から、904→905→906の型式配列が考えられるが、時間幅、共伴遺物関係などで多くの問題点を残す。

鍋(907) 口縁内面に段状に強いナデを施す。

(岸岡貴英)

第2節 石器

①石器の概要

桑飼上遺跡から出土した石器には、打製石器・磨製石器・礫石器がある。打製石器には石鏃・石錐・石斧・楔形石器・削器があり、磨製石器には石庖丁・石鏃・石剣・石斧類(大型蛤刃石斧・扁平片刃石斧・柱状片刃石斧)がある。礫石器は、敲石類(敲石・磨石・凹石)・石皿・砥石を含む。

これらの石器の大半は、第4次調査地区から出土しているが、第2次・3次調査地区からもわずかに出土している。遺構に伴うものは少なく、大半が包含層からの出土である。このため、各器種別に記述をすすめていくことにする(なお打製石斧は、石斧類に含めて記述した。)

a. 打製石鏃(1～24) 基部の形状により、Ⅰ類平基式石鏃、Ⅱ類凹基式、Ⅲ類凸基無茎式石鏃(円基)、Ⅳ類凸基無茎式石鏃(尖基)、Ⅴ類凸基有茎式石鏃にわけられる。

Ⅰ類(1～11) 両側縁を細かく両面調整するもの(1～5・7・8・11)と、側縁を調整し、荒く整えただけのもの(6・9・10)にわかれる。基部は、3・4・8・11のように細かく調整するものと、荒く形を整えただけのもの(1・2・5～7・9・10)がある。

Ⅱ類(13～17) 14は、比較的深く細部調整が及ぶが、13・15～17は、浅く細かく細部調整を行う。

Ⅲ類(18・19・21・22) 21・22は、片面から調整を行い、基部を円形に作り出す。19は、両側縁が直線的にのびる。

Ⅳ類(20・23) 20は、側縁を荒く調整しただけのものである。23は、比較的深くまで細

部調整が及ぶていねいな作りである。

V類 24は、側縁部・基部とも荒い調整によって作り出している。

b. 石錐(25~29)

I類(幅がほぼ一定した棒状のもの)とII類(三角形もしくは不整形の分厚い作りのもの)にわけられる。

I類(29) 先端部・基部ともに欠損している。両側縁からの厚い両面調整により、断面は楕円形をなす。

II類(25~28) 先端部にはすべて回転痕を残す。25は、先端部を細かい調整で行い、その他は荒い調整によってかたちを整えているにすぎない。26・27は、比較的細かく細部調整を行い、形を整えている。

c. 楔形石器(30・31) 相対する縁片に両極打法によるツブレ状の刃部をもつ剥片である。上下両端からの階段状剥離痕が深くまで入り込む。形状はともに台形状を呈する。

d. 削器(32) 横剥ぎされた剥片の一方に、片面から連続的に細部調整を行い刃部を作る。刃部には一部使用に伴うと考えられる光沢が見られる。

e. 磨製石鏃(34~36) 34は、有茎式の石鏃と考えられる。下端部と一部側縁を欠損する。35は、凹基無茎式の石鏃で、先端部を欠損する。36は、刃部を鋭利に研ぎだしている。先端部と基部を欠損する。

f. 磨製石剣(33) いわゆる「鉄剣形石剣」の先端部である。右側縁は一部欠損している。

g. 石庖丁(37) 使用に伴うと考えられる剥離痕が多くみられる。また、整形に伴う荒い擦痕が目立つ。

h. 石斧類(38~61) 石斧類は、以下のI~IV類に分類した。これらは完形品、欠損品、未製品も含む。

I類 太型蛤刃石斧(38~45) 断面が楕円形状を呈するもの(38~43)と、扁平化した長楕円形状を呈する(44・45)にわかれる。38は、完形品であり、断面はやや扁平化した楕円形状を呈する。39は、基部中央に整形段階の敲打痕を残す。また、基部を欠損しており、一部に剥離痕を残す。40は、完形品である。整形段階の敲打痕がよく残る。刃部には使用に伴うと考えられる剥離痕が見られる。41は、基部を欠損しており、刃部は片減りが見られる。42は、完形品であり、一部に整形段階の剥離痕を残す。43は、大きく欠損している。44は、完形品であり、表裏に整形段階の剥離痕や敲打痕を残す。基部には整形に伴う擦痕が見られる。45は、基部全体を欠損している。

II類 扁平片刃石斧(46~57) 刃部幅が5cm以上の大型品(46・48・49・51)、3cm以上5cm未満の中型品(50・52・56)、3cm以下の小型品(57)にわけられる。46・49は、基部を

欠損している。ともに整形段階の剥離痕がよく残っている。48・51は、完形品である。48は、剥離痕や敲打痕が目立つ。基部には荒い擦痕を残す。51は、基部よりも刃部が広がる「有肩鉄斧」状の形態をもつ。両側縁からの整形段階の剥離痕をよく残す。基部はよく研磨されている。50・52は、未製品と考えられる。50は、縁辺部からの剥離がよく残っている。52は、刃部は作り出されているが、全体的な形状は不明である。柱状片刃石斧になる可能性もある。54は、側縁部の一部に調整段階の敲打痕が残る。53・55・56は、調整段階の剥離痕を一部に残すが、ほぼ完成品と考える。56は、刃部が欠損している。53・55は、完成品である。57は、完形品である。全面によく研磨が施されている。

Ⅲ類 柱状片刃石斧(58~61) 58は、片刃石斧の未製品と考えられる。基部全面に敲打痕が見られる。基部には荒い擦痕が残る。59は、断面方形の片刃石斧の完成品である。側縁は平行に直線的にのびる。部分的に調整段階の敲打痕を残す。60は、片刃石斧の未製品である。側縁部から激しい調整剥離を施す。61は、断面が厚いレンズ状を呈する。側縁部に面を持たない片刃石斧の未製品と考えられる。石材の特質から明瞭な敲打痕は見られない。研磨を多様して仕上げたと考えられる。刃部と基部を大きく欠損している。

Ⅳ類 打製石斧(62~64) 板状剥片の先端部分に使用に伴う光沢を残す。62・63は、両面調整の剥片である。64は、片面調整の剥片に両側縁から調整剥離を及ぼす。片面には自然面を残す。

i. 敲石類(65~76) これらは以下のように分類した。

I類 敲打痕の顕著な自然礫及び転用石器、いわゆる「敲石」(65~68・70・72・73)^(註12) これらは、磨製石斧を転用したもの(65・67・68)と自然礫を使用したもの(66・70・72・73)にわけられる。実際に敲打する部分は礫によって多様であり、65は両端辺もしくは平坦部中央に、67は細い先端部分に、68は、広い平坦面の一方に敲打痕を有する。これは自然礫でも形態によって敲打する部分は相違し、66は長楕円形礫の両端に、70・72は礫の周縁部分に、73は礫の周縁部及び平坦面に敲打痕を残す。

Ⅱ類 擦痕及び顕著な研磨面を有する自然礫及び転用石器、いわゆる「磨石」(69・71・74~76) 69・71は、部分的に擦痕を有する球形及び卵形の礫である。74は、磨製石斧を転用したもので、短辺の一方に顕著な擦痕をもつ。75・76は、円盤状自然礫の平坦面に顕著な研磨面をもつ。

Ⅲ類 いわゆる「凹石」(77~79) これらは、もともと砂岩の自然礫であり、ある面を研磨して平坦面をつくり、その中央部を集中的に敲打することにより作り出された。

j. 石皿(80~83) 81は破損品、80・82・83は完形品である。すべて凹みはないが、滑らかな磨面をもつ。

k. 砥石(84~111) 砥石の形態は以下のように分類した。

I類 厚みのない扁平な砥石(84~87・90) 平面形は、長方形(84・85)・方形(86・87)・不定形(89)にわけることができる。86は、磨面の両端にのびる深い溝を有し、擦り切り技法を使用した可能性がある。また、87も長側面の観察の結果、その可能性がある。

II類 ある程度の厚みを有し、方形もしくは長方形の形態をもつ砥石(88・91~104) 幅1cm前後のもの(94)から幅5cm前後のもの(103)まで、多様な大きさのものがある。すべて直方体状を呈する。磨面には、浅い線条痕が一般に残るが、95・100には磨面に浅い溝があり、95は磨面に深く鋭い溝が数条走っている。

III類 自然面を多く残す砥石(105~109) 自然石の一面もしくは二面に磨面をもつ。形態は多様で、I・II類に比べて大型である。107は、磨面に浅い溝を数条有する。

IV類 大型柱状の砥石(110・111)

ほぼ全面に研磨された滑らかな面で構成される。使用による線条痕はあまり明瞭でない。

(岸岡貴英)

第3節 玉類及び玉作り関係遺物

1. 玉作り関係遺物

桑飼上遺跡の玉作り関係遺物には、管玉の未製品と工具がある。

1~5は、緑色凝灰岩の板状剥片である。これらは、方形に近い石核の作業面を調整剥離(いわゆる打面調整)、敲打し、あるいは研磨して平坦面を作る。その後、施溝具を用いて擦り切り施溝し、小型の石核に分割する各段階の工程を示している。ただ3のみは、施溝が見られないところから軟質ハンマーによるフリーフレイキングが考えられる。

6は、緑色凝灰岩の多くの稜をもつ多柱体である。上下の両端面は、平滑な面を形成するほど研磨されていない。

7は、調整剥離により板状剥片から分離された剥片である。縁辺に施溝を残す。

8は、安山岩の多くの稜をもつ多柱体である。上下両端面についても研磨して整え、平滑な面を形成する。

9~14は、紅簾片岩もしくは結晶片岩製の石鋸である。9~11・14は、両端に使用痕をもち、12・13は一方にのみ使用痕が残る。

2. 玉類

玉類としては、有孔円板・勾玉・管玉・白玉^(注13)・ガラス小玉・不明石製品が出土している。

管玉(1~28) 管玉は、完成品が28点出土した。

完成品は、(a)方形周溝墓2の主体部内から一括して出土した一群(4~7・9~13・15・17~20)、(b)竪穴式住居跡から出土した2例(23・25)、(c)残りの包含層出土例とに大別することができる。

(a)は、いずれも細身で、良質な緑色凝灰岩製の管玉である。法量的には(第74図)、直径が最大2.8mm~最小1.95mmを測り、平均的には2.25mm程度である。長さは、ややバラツキがあり、最大10.95mm~最小4.55mmを測る。平均は8.6mm程度である。穿孔方式には、片面両面いずれもが認められる。

(b)のうち、25は、竪穴式住居跡2の特殊ピット内から出土した。黄緑色を呈し、やや軟質の蛇紋岩製である。また23は、竪穴式住居跡14から出土した、明緑色を呈する緑色凝灰岩製の管玉である。穿孔方式は片面穿孔である。

(c)の包含層出土例(1~3・8・14・16・23・26)は、いずれも青緑系色を呈する良質な緑色凝灰岩製である。特に、1~3・8・14・16は細身で、(a)の一群に類似する。弥生期のものと思われる。一方、24・27は青緑系色を呈し、蛇紋岩製である。

勾玉(31~33) 勾玉は3点出土した。

31は、「C」字形の整美なもので、竪穴式住居跡5から出土した。濃緑色を呈し、碧玉製である。最大長24.3mm・最大幅8.4mmを測る。

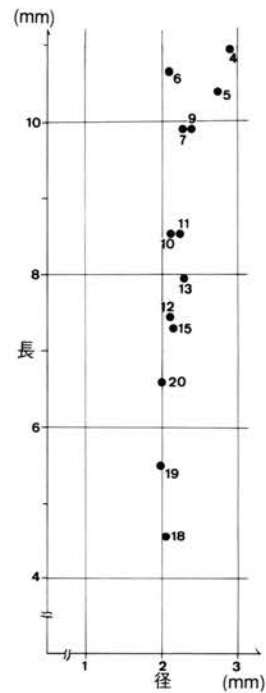
32は、竪穴式住居跡5の埋土水洗中に出土した扁平な小型品である。最大長9mm・最大幅3.5mmを測る。淡灰色を呈し、滑石製である。

33は、硬玉製の小型品である。土坑20の壁面に付着した状態で出土した。最大長15.3mm・最大幅5.95mmを測る。淡緑色を呈し、全体的に不定形である。このような不定形で小型の硬玉製勾玉については、由良川流域では志高遺跡のS D8317出土例に次いで2例目となる。

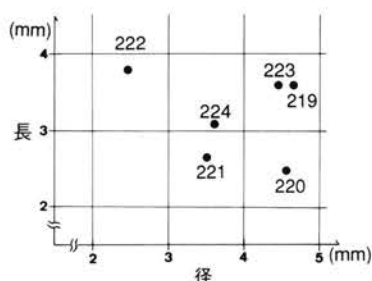
有孔円板(29・30) 竪穴式住居跡4から2点が出土した。

29は、緑色凝灰岩製の円板である。直径24.3mm・厚さ4.3mmを測る。中央部付近に、約13mmの間隔をあけて2孔が穿たれている。いずれも片面穿孔による。両端面のほぼ全面と側面とに研磨痕が認められる。

30は、29とほぼ同形同大の緑色凝灰岩製の円板である。29と同



第74図 方形周溝墓2
主体部出土の
管玉法量分布図



第75図 ガラス玉法量分布図

じく中央部付近に約13mmの間隔をあけて2孔が片面より穿たれている。両端面ともに錆が付着しているが、特に片面に著しい。残る片面には、研磨痕が一部に認められる。

不明石製品(34) 緑色凝灰岩製の扁平な板材に1孔を穿っている。最大長27mm・最大幅16mm・厚さ4mmを測る。長側面は研磨が加えられている

が、片面は研磨が不十分なために凹凸が残っている。周縁部分は彫割されたままの状態であり、研磨の痕跡は認められない。包含層から出土した。

白玉(35~218) 188点が出土している。そのうち4点については、劣悪な遺存状態のために計測・図示することができなかった。出土は、大半が古墳時代中期後半~後期前半の竪穴式住居跡群からであるが、若干の包含層出土例を含んでいる。

白玉の色調は、緑灰色・青灰色を基調にしている。石材はほとんどすべてが滑石製であるが、1例のみ赤褐色を呈し、鉄石英製と思われるもの(218)がある。

法量的には、直径が最大5.55mm・最小3.0mmを測るが、平均は3.4mm程度である。また、厚さは、最大4.25mm・最小0.15mmを測り、その平均は2.0mm程度になる(第76図)。

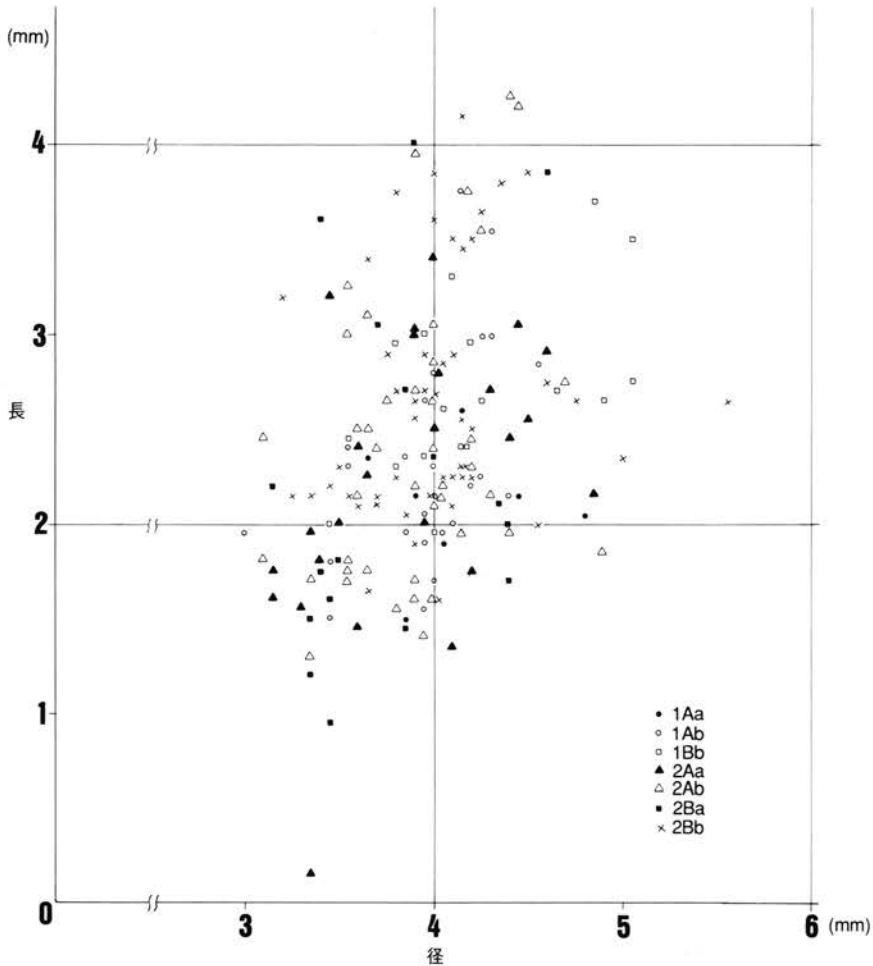
ガラス小玉(219~224) 6点出土した。法量的には、直径4.7~2.5mm程度・長さ3.6~2.6mm程度の範囲内に収まる(第75図)。断面形態は、隅丸長方形であるが、224は全体的に片側へ歪み、平行四辺形を呈している。色調は、222がコバルトブルーであるほかは、すべてライトブルーである。

3. 小 結

白玉について 白玉は形態・外面調整の点から、以下のような分類を試みた。

外面形態は、第一に側面に稜を有する一群(1類)と稜を持たない一群(2類)とに分けることが可能である。2類には、側面が直線的な白状のものと、側面がやや外方に張り出す樽状のものと両方を含めている。さらに、白玉の上下両端面がほぼ平行な一群(A類)と上下両端面が非平行な一群(B類)とに大別できる。B類には、両端面ともに平滑に研磨されている例がある一方、片面あるいは両面ともに未研磨の例も存在する。次に、側面の調整状況から、タテ方向の研磨痕を残す一群(b類)とさらに研磨を加えてタテ方向の研磨痕を磨り消した一群(a類)とに分けることができる。

以上の各要素の組み合わせから、1 A a (35~41)・1 A b (42~66)・1 B b (67~84)・2 A a (85~109・218)・2 A b (110~152)・2 B a (153~167)・2 B b (168~217)の7類



第76図 白玉法量分布図

型を設定できる。これら各類型の差異は、製作技術過程の違いに起因すると考えられる。そこで次に、これらの各類型の意味づけを試みたい。

白玉の製作工程に関しては、すでに復原案の提示がなされている^(註15)。それらを参考にするならば、大まかな製作手順として以下のような諸段階を想定できよう。

①原材を粗割して、板状剥片をとる。②板状剥片を両面研磨する。③白玉の直径に近い大きさに方形分割する。④側面調整して、円形に近づける。⑤穿孔。⑥周縁を研磨する。有稜のものは、この段階で稜を作り出す。⑦仕上げ研磨。

a類とb類の違いは、⑦段階を経るかどうかに起因する。b類はa類に比して、製作工程を一段階省略していることになる。また、1類と2類との差異は⑥段階で生じる。1類は、稜を作り出すために研磨の回数が2類よりも倍以上に増加している。

次に、A類とB類との差異はどう理解すればよいのだろうか。これには、B類の特徴である上下端面の非平行の要因を説明しなくてはならない。このことに関しては、先述した製作工程では、理解しがたいように思われる。B類の端面を詳細に観察すると、不整な端面には溝状のへこみや段状の食い違いなどが認められることがある。こうした痕跡からは、分割して白玉状の石材を得るために、管玉状の石材を輪切りにしたのではないか、という推定ができる。また、B類の端面のなかで、両面ともに研磨されている例にも、研磨されきれなかった溝状痕跡が認められることがあることから、輪切りにした後に、さらに不整な端面を平滑に研磨することもあったことがわかる。

以上から、A類とB類との差異は、粗割→分割段階において採用された製作技法の違いに起因することが予想される。A類が板状剥片を白玉大に分割するのに対して、B類の場合、管玉状石材を輪切りにすることによる分割を行っていると考えられる。こうした違いが果してまったく別個に確立した2系統の製作手順なのか、あくまで粗割→分割段階の技法のバリエーションであり、原石の状態に応じて臨機応変にいずれかが選択採用されたのかは、製作遺跡出土資料のより詳細な検討を経なければ決し得ない問題である。ここでは、桑飼上遺跡出土白玉群が上下両端面の状態から2群に大別でき、それが粗割→分割で採用された製法技法の違いを反映している可能性を指摘するにとどめたい。

(辻川哲朗)

第4節 土錘・紡錘車

土錘 10点が出土している。両端に向かって細くなるもの(1・3・4・7・10)と、そうでないもの(2・5・6・8・9)とがある。いずれも土師質で、長軸方向に正円形の円孔を有する。その他に不明土製品として11が出土している。

紡錘車 6点が出土している。12は、弥生時代のもので土器片を利用している。13～17は、古墳時代中期後半～後期のもので、形態的には截頭円錐形で側面の面を持つもの(13～15)と面を持たないもの(17)、半球形状のもの(16)と分けられる。材質には石製品(14・15・16)と、土製品(13・17)がある。13はミガキ状の、17はケズリ状の調整痕がそれぞれ認められる。14・15の側面斜面部には縦方向に幅の狭い面が認められ、斜面部を形づくる際の成形痕跡であると思われる。その他に不明石製品として18・19がある。18は、円孔が穿たれており、本来は紡錘車として製作または機能していた可能性が考えられる。19は、回転による同心円の線刻状の擦痕が認められる。また、18・19は、それぞれに細かい擦痕が認められ、砥石として利用されていた可能性も考えられる。

(加藤晴彦)

第5節 鉄製品

1は、Cトレンチ堅穴式住居跡7埋土から出土した。残存長8.5cm・鍔身長6.3cmを測る。左右非対称な関を作り出す。茎部の断面は方形を呈する。弥生時代後期に属するものと思われる。2は、8トレンチ茶褐色粘質土層(包含層)より出土した。残存長10.3cm。篋被から茎部にかけて木質が遺存する。茎部の断面は方形。古墳時代中期か。3は、NトレンチSK01から出土した。残存長5.7cm、鍔身はふくらを有し、両丸造りの腸挟三角形鍔である。篋被部分は欠損している。共伴した出土遺物から奈良時代のものであろう。4は、Cトレンチから出土した。出土位置は不明である。残存長3.9cmを測る。鍔身の造りも保存処理後のため不明である。腸挟部分が弧状に挟り込む。5は、Dトレンチ堅穴式住居跡4から出土した。残存長5.5cmを測る。切先と茎を欠損する。背関があり、5世紀末から6世紀前半の刀子と考えられる。6は、9トレンチ西排水溝から出土した。残存長5.8cmを測る。切先と茎を欠損する。把縁金具が遺存する。背関があり、5と同時期のものと思われる。7はCトレンチで出土した。出土位置は不明である。袋状の鉄斧である。全長5.3cm・刃部幅6.2cmを測る。袋部は、基部部分で一部欠損する。袋部内に木柄痕跡は遺存しない。刃部は両刃である。弥生時代後期以降のものであろう。8は、堅穴式住居跡26から出土した。全長6.7cm・刃部幅2.9cmを測る。わずかながら袋部を形成しているようであるが、保存処理後のため、袋部折り返しが密着するかどうかは不明である。密着していたとすれば、装着する木柄が小さくなりすぎ、使用時の強度が保てない。共伴した土器群は弥生時代中期中葉を中心としている^(注16)。9は、4トレンチ堅穴式住居跡5で出土した。残存長3.4cm・厚さ1.5mmほどの板状鉄片である。両面に木質が付着している。

(野島 永)

第6節 数珠玉・銅銭

1. 数珠玉

Mトレンチの墓からは玉類が15点検出された。肉眼観察によれば、材質はガラスが11点で、水晶は4点である。個々の内容については、付表26に譲るとして、ここでは分類の基準の概要について説明する。ガラス製と認定したのは、1～8・11～13で、そのうち、1～8は表面が白濁しており、縞状に筋が入っている。表面に数か所の小孔があり、直径は0.6～0.7cm・厚さ0.5～0.6cmで、中央に径0.2cmの穴をあけている。8は2個が融着している。

なお、11は、表面に貫入があり、透明でもっとも遺存度が高い。12は、表面がやや白濁

しているものの、半透明である。縞状に表面が変質しかけており、変質の度合いは1～8と11の中間に位置している。13は偏平で、色調も淡褐色を呈しており、質的にはよくない。

一方、水晶製と認定したのは9・10と、14・15である。これは、材質が透明で、貫入はない。中央の孔には打痕があり、一方がやや大きいという特徴がある。これは、工具を使用して、まず敲打によってくぼみを作り、そして円孔をあけたものと思われる。

2. 銭貨

Mトレンチの墓からは銭が10枚検出された。いずれも銅銭である。個々の概要については、付表27に譲る。字が判明したのは7枚である。種類は、開元通寶1枚、咸平元寶1枚、祥符通寶1枚、皇宋通寶2枚、元祐通寶1枚、政和通寶1枚である。この内、咸平元寶と元祐通寶は字形が鮮明で、また大きさも他より一まわり大きく、初鑄に近いものと言えよう。また、開元通寶も字形は鮮明である。祥符通寶は縁の幅があまりなく、初鑄のものとは言えない。また、皇宋通寶は逆に縁の幅が広すぎて、これも初鑄のものとは言えない。元祐通寶は、祐の字が極端に右上がりになっている。

(伊野近富)

第6章 総 括

第1節 桑飼上遺跡周辺の地形環境

1. はじめに

沖積低地における遺跡発掘の事例が増加するにしたがい、当時の遺跡周辺の古環境復原が、考古学や周辺領域の自然科学の対象として注目を集めるようになってきた。遺跡周辺の地形環境復原もそうした流れの延長線上にあるように思われる。遺跡発掘の成果に対応した地形復原を行う際には、次の点に考慮する必要がある。第一に、地形学で作成してきた地形分類のスケールは2万5000分の1であることが多い。しかしながら、沖積低地における人間の居住に影響を与えるような地形変化は、このスケールで明らかにできるとは限らない。遺跡発掘で明らかになるような地形変化を考察するためには、よりマイクロなスケールで地形を検討する必要がある。第二に、沖積平野の地形は、過去から現在に至るまでダイナミックに変化しており、現在の地形を単純に過去に当てはめることはできないし、現在の地形を見て過去の地形を推定することも難しい。例えば現在では後背湿地にあたる地形から、埋没自然堤防や旧河道が各地で発掘されたりしている。

筆者はこれまで、由良川中・下流低地において、完新世の地形発達史をマクロな視点で考察してきた^(注17)。ここでは以上の2つの視点を踏まえ、桑飼上遺跡周辺の地形について若干の検討をおこなう。

2. 方 法

桑飼上遺跡周辺の20cm等高線図の作成や、空中写真の判読を行い遺跡周辺の微地形を把握し、既存のボーリングデータより遺跡周辺の沖積層の堆積構造を明らかにした。次に発掘現場において、地層の観察と遺物・遺構との対比をおこなった。これまで発掘された地域については、すでに刊行された遺跡発掘調査報告書概要などの検討をおこなった。

3. 遺 跡 周 辺 の 微 地 形

地表面下に埋没した地形の手がかりを得るため、遺跡周辺において20cmの等高線図を作成した。桑飼上では由良川の拡幅のため、微高地の河川側を半分削るとともに、後背湿地に土砂を入れ土地改良を行っている。その土地改良事業のため、舞鶴市が改良前の状況に

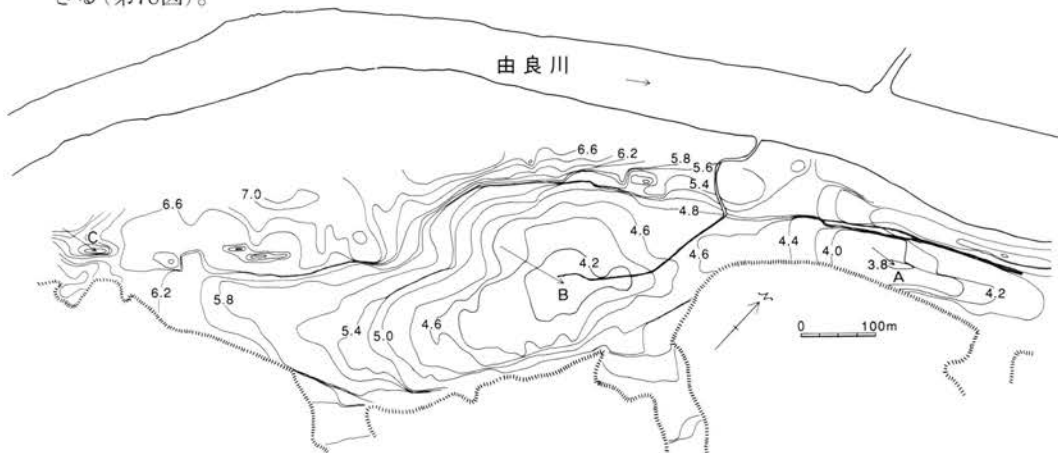
ついて調査した500分の1の地図を使用させていただいた。この地図では、田畑一筆ごとの標高が1cm単位で測定されている。この数字に基づいて等高線の記入を行った(第77図)。

この図では、河川沿いに微高地が発達し、山麓側には等高線が閉曲線となったところが、3か所認められ(図中のA・B・C)、山麓側へ向かって逆傾斜しているようすがうかがえる。特にAの部分はその形態から、由良川の旧流路がその下に埋没している可能性が高い。Bの地点に関しては、かつて由良川の流れがあったと考えられるが埋積が進み後背湿地化し、その痕跡を地表面にはほとんど残していない。またCの地点は、由良川に平行な細長い凹地である。河川側は等高線が引けなかったため不明であるが、この地点が河川の凹岸から凸岸に移行する凸岸にあたることから、シュートと呼ばれる地形であろう。シュートは、洪水時において流速が大きい条件下で形成される地形で、下流側に、シュートバーと呼ばれる木の葉状の粗粒堆積物からなる微高地を形成することが多い。

遺跡を載せる微高地の大部分については、残念ながら由良川の拡幅区域のため、土地改良区域から外されている。このため等高線を入れることができなかった。しかしながら微高地上は、教科書に載っている自然堤防のように単純ではなく、河川に平行にあるいは垂直に高まりがはしっていることが観察できよう。

4. 遺跡周辺の沖積層

京都縦貫自動車道の舞鶴2号橋(仮称)建設のための深層ボーリング資料や、建設省福知山工事事務所蔵の由良川河岸の深層ボーリング資料に基づき、遺跡周辺の沖積層の検討をおこなった。この地域の沖積層は、標高17から21m付近で基底に達し、22から27m程度の層厚を持っている。下位より沖積層基底礫層、下部砂層、中部粘土層、陸成層に区分できる(第78図)。



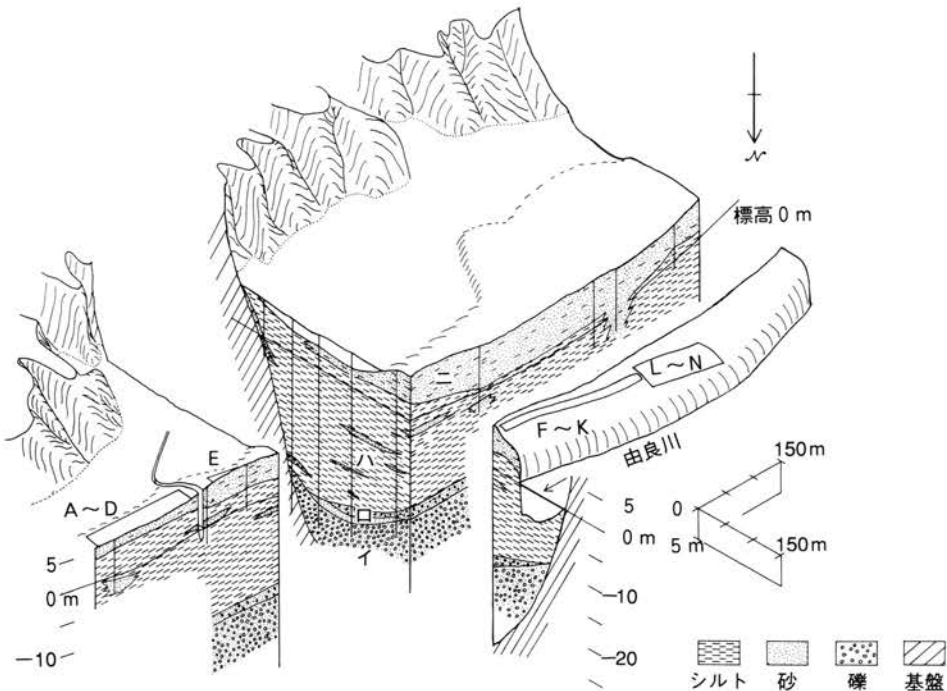
第77図 遺跡周辺等高線図(等高線間隔は0.2m)

沖積層の基底は角から亜円礫を主体とする砂礫層が広がっている(図中イ)。この層は標準貫入試験値(N値)では50を越えていて固く締まっており、沖積層基底礫層に相当するものと考えられよう。下部砂層は、相対密度が基底礫層よりも低い砂礫や砂の地層が1から5 m程度存在する(図中ロ)。

下部砂層のさらに上位には、主にシルトよりなる中部泥層が厚く堆積している(図中ハ)。N値も5以下と極めて小さく、軟弱な地層である。またところどころで、砂層や砂質シルト層を挟んでいる。この地層は一般的に三角州の底置層として堆積が進行していったものとされ、縄文海進によって奥深く入り込んだ内湾底に堆積したのと考えられる。しかしながら、これより下流で発掘調査が行われた志高遺跡では標高0 m付近で縄文早期の遺物が数多く出土している。このことから泥層の堆積時期、縄文海進の時期については、志高遺跡周辺の埋没地形の可能性も含め検討を要する。

中部泥層の上位には、砂質シルトからシルト質砂の上部陸成層が載っている(図中ニ)。層厚は6 m以内である。この地層は水平方向への層厚、層相の変化が著しく、河成作用によって堆積した後背湿地や微高地の構成層と考えられる。

以上のことから、由良川下流域は蛇行帯の狭い沖積平野であるが、全国的な沖積層の層序区分の適用が可能であることがわかった。



第78図 桑飼上遺跡周辺深層地質断面図(A~Nは発掘番号)

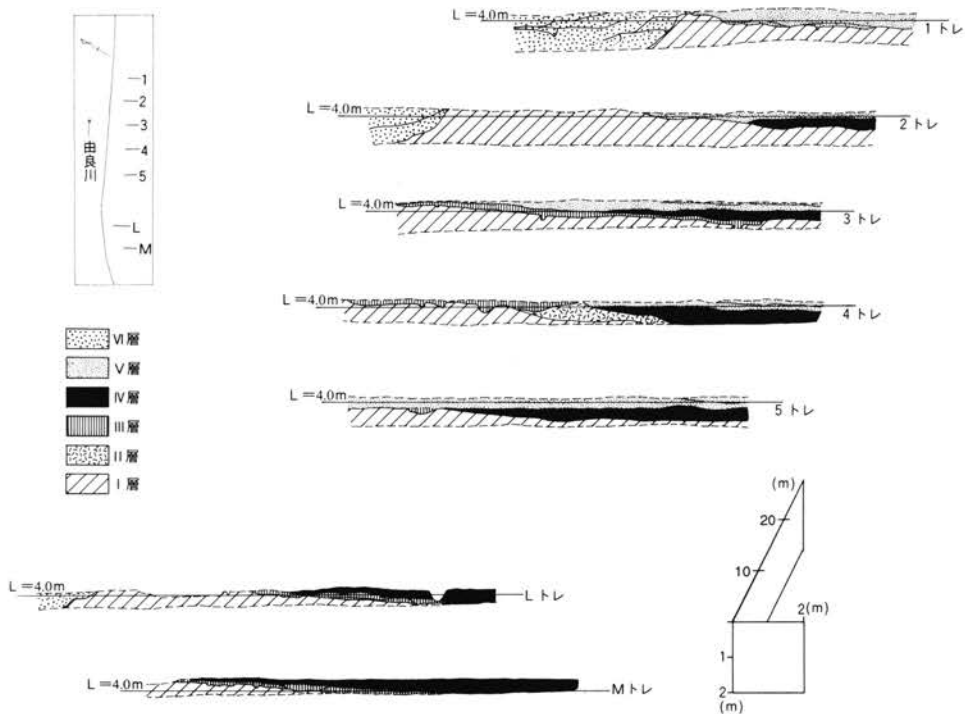
5. 遺跡発掘区における層序

今回の発掘では、前節で述べた沖積層の最上部の河成層を対象におこなわれた。大きく6層に区分することが可能である。ここでは、その6層について述べ、微高地の形成を考察したい(第79図)。

I層は黄褐色の細砂質粘土からシルトよりなり、発掘区域全体に広がっており、ベースと考えられる地層である。この地層の上面は、由良川河岸に向かって高く、反対に南へ徐々に高度を下げ、微高地を形成している。またこの層の上面には、弥生時代後期の土坑や古墳時代中期の住居跡をのせている。II層は還元作用をうけていたため青灰色の砂層である。分布は一部に限られている。

III層は茶褐色から淡黄灰色の細砂層である。ところにより粘土層となっている部分もみられる。この層の下部には炭化物の集積が見られるのが特徴的である。炭化物は木片を燃焼させたものと考えられるが、樹種やこの層に集積する理由についてはよくわかっていない。弥生時代から古墳時代前期の土器を包含している。

IV層は青灰色から淡灰褐色の粘土層である。発掘区域の南側でよく発達している。上部は砂層に変わるところも見られ、さらに細分することも可能であろう。この層は6世紀末



第79図 桑飼上遺跡表層地質断面図

から8世紀の土器を包含している。V層はIV層に連続する粘土からシルトの地層である。上部は細砂質に層相が変化する。

VI層は締まりのない灰色の細砂層で、粘土質の砂層を挟むこともある。遺物はこの層には含まれず、近世以降の由良川の側方侵蝕による氾濫堆積物と考えられる。

6. 遺跡周辺の地形発達

以上のことから、桑飼上遺跡周辺の地形発達を考察する。I層の堆積状況から、微高地は、弥生時代後期にはすでにできあがっていたと考えられる。このことは少なくとも弥生時代後期までに、沖積層の中部泥層を形成する時代から上部陸成層の形成期に入っていたことを示している。その後微高地の周辺部にある低所に弥生時代後期から古墳時代にかけてⅢ層が堆積した。低湿で沼沢地が形成されていたものと考えられる。Ⅲ層は、微高地をつくるI層の遺構面を削り込まずに堆積していることから、激しい流れは考えにくい。したがってこの区域が由良川の主たる流路となった可能性は低い。さらにIV層の形成された6世紀末から8世紀にかけて細粒な地層の堆積が続き、VからVI層形成期にかけて微高地は徐々に平坦化していったものと考えられる。瀬戸内海沿岸では、三角州帯において縄文時代晩期から弥生時代前期に陸化が始まり、弥生時代中期前半にかけて微高地が形成され、さらに古墳時代から古代にかけては微高地の比高を減じるように埋積が進行することが報告されている⁽¹⁸⁾。桑飼上遺跡においても似た傾向が指摘できるが、詳細は今後の課題である。

中世から近世にかけて2 m以上の堆積により再びこの地区では微高地を形成することとなるが、機械掘削により資料がないため詳細は不明である。

7. おわりに

今回は資料的な制約から古地理復原図を描くことができなかったが、これまでの検討から、桑飼上遺跡周辺の沖積層の層序、調査区域における地形変化について若干の知見を得ることができた。今後、桑飼下や志高などの周辺遺跡と地形変化の比較検討を行うことや、「第1章第1節 地理的環境」において述べたように、由良川の洪水あるいは洪水による土砂堆積の質的・量的な変化を明らかにしていく必要がある。

(小橋拓司)

第2節 桑飼上遺跡の遺構の変遷

桑飼上遺跡からは、掘立柱建物跡14棟、竪穴式住居跡34棟、方形周溝墓2基、土器溜まり7か所、多数の溝・土坑などが検出された。これらは、溝状遺構・中世墓を除くと、弥生時代中期から奈良時代にわたる。その結果、桑飼上遺跡の東西800mにわたる自然堤防上に、集落が断続的に形成されたことがうかがえる(付表8、第82図)。

①弥生時代中期(L・Mトレンチ)

桑飼上遺跡では、第Ⅲ様式に集落が形成され始めたようである。この状況は、由良川中～下流域の宮遺跡^(F19)や青野遺跡^(F20)においても同様である。また、畿内Ⅳ様式には、方形周溝墓が造られ、墳墓域が形成される。これらと併行して竪穴式住居跡が6基検出されているが、竪穴式住居跡から出土した土器群と、方形周溝墓の周溝から出土した土器群は、詳細な時期差を検討するには一括性などに問題を残す点もあり、その関係を明確にできない。ただ、遺構の分布状況からは、住居域と墓域は一部重複するものの、南東側に住居域、北西側に墓域を想定できる。そのため、Ⅳ様式の時期にはこれらをセットで考えることが妥当と思われる。

ところで、近隣の集落である志高遺跡^(F21)・庄村遺跡^(F22)・青野西遺跡^(F23)などで方形周溝墓群がみられ、さらに志高遺跡では、大溝を隔てて住居域と墳墓域を明確に分離できる状況にある。このような例は、住居域と墳墓域を区画する溝を持たない桑飼上遺跡とは対象的であり注目される。

②弥生時代後期～古墳時代前期(C～Mトレンチ)

Ⅳ様式からⅤ様式にかけての集落の継続性については、Ⅳ様式の状況が明瞭でないため、いまいち不明確である。ただ、Ⅳ様式土器群が出土する住居跡の中に、小型化した高杯や退化凹線文(6-竪穴式住居跡24)の存在をみると、小規模ながら集落は継続していた可能性がある。

畿内Ⅴ様式から布留式前半までは、ほぼ集落が継続していたようであり、さらに桑飼上遺跡全体に住居跡が散在的に広がる。この時期は、Ⅴ様式前半、Ⅴ様式後半～庄内式古段階(青野西Ⅰ式)、庄内式新段階(青野西Ⅱ式)～布留式古段階、布留式中段階の4時期にわけて考えることができる。さらに、住居跡の平面形態の変遷を追うことのできる資料である。Ⅴ様式前半では、C・Eトレンチで2基の住居跡を検出した。平面形態は隅丸方形と不整形のものがある。Ⅴ様式後半～庄内式古段階では、F・G・Lトレンチで5基の住居跡を検出することができる。中でも、Fトレンチに3基と集中する傾向にある。平面形態は円形2基、方形3基とわかれる。庄内式の新段階～布留式古段階にかけては3基の住居跡が、E・Mトレンチで検出された。平面形態は隅丸方形1基、長方形2基である。その

後、集落は一時期断絶し、Eトレンチに布留式中段階の住居跡が造られた。平面形態は方形である。つまり、布留式古段階を示す土器群(土器溜まり4)と布留式中段階の住居跡の土器群(竪穴式住居跡13)をみると、その間に1段階の空白期をおくことが妥当と考えるためである。

桑飼上遺跡の住居跡の平面形態は、中期は円形が多数をしめる一方で、わずかに方形の住居跡(竪穴式住居跡24)をみることができる。この中期後半の時期の方形の住居跡については、宮津市日置遺跡^(注24)、弥栄町奈具岡遺跡^(注25)、兵庫県氷上郡春日町七日市遺跡^(注26)などで検出されており、各地に点々と見られるようである。後期になると、円形、隅丸方形、方形の住居跡が共存する状況が見られる。これらの内、隅丸方形と方形の住居跡は、すべて4本柱の住居跡である。庄内新段階～布留式古段階には、長方形2本柱の住居跡が出現する。この長方形2本柱の住居跡は、青野西遺跡^(注27)にみられる。この2本柱の住居跡は、弥生時代の丹後・丹波地域に見られないものであり、なんらかの他地域の影響を考える必要がある。

付表8 桑飼上遺跡遺構変遷表

時期	遺構	備考	
畿内II様式			志高弥生II期
畿内III様式	溝27 土坑4 土器溜まり7	A期	
	竪穴26 竪穴29 竪穴27	B期	興編年III様式
畿内IV様式	竪穴24・28 方形周溝墓1・2 竪穴30・31 竪穴32	C期	興編年IV様式 志高編年V・VI期
畿内V様式 (前半)	竪穴12 竪穴7	D期	京都府弥生土器集成 V-I~II期
畿内V様式 (後半) ~庄内式古段階	竪穴14・16・17 竪穴15・25 土器溜まり2	E期	京都府弥生土器集成 V-III~IV期
庄内式新段階	竪穴11	F期	青野西II式
布留式古段階	土器溜まり3	G期	
	土器溜まり4 竪穴33・34		志高古式土師器II期
布留式中段階	竪穴13	H期	
	竪穴9		
陶邑編年 TK23~TK47	竪穴4・8 竪穴1・3・5・6・10 土器溜まり5		
陶邑編年TK209	竪穴23		
平城編年II~III	竪穴22 B期建物跡群		
平城編年IV~V	D・F期建物跡群		

③古墳時代中・後期(A～D・5トレンチ)

この時期の集落域は、C～Dトレンチ付近に集中する傾向がある。住居跡は計9基検出されており、そのほとんどが、陶邑編年TK23～TK47に併行するものと考えられる。ただ、竪穴式住居跡9のみは、新段階の布留式甕(652・653)が出土しているところから、ややさかのぼる可能性がある。住居跡の平面形態は、方形ではほぼ統一される。

④飛鳥・奈良時代(A～D・I・L～Nトレンチ)

L～Mトレンチで、竪穴式住居跡が9基検出されており、陶邑編年TK209～平城宮編年Ⅱ・Ⅲ期まで断続的に集落が営まれたと考えられる。その後、A～Dトレンチの掘立柱建物群が造られた。掘立柱建物跡群は大きく2時期にわかれ、平城宮編年Ⅱ・Ⅲ期に併行するB期建物跡群と平城宮編年Ⅳ・Ⅴ期に併行するD・E期建物跡群にわかれる。

(岸岡貴英)

第3節 桑飼上遺跡の弥生土器・古式土師器の編年について

①弥生時代中期

桑飼上遺跡の弥生時代中期の土器群は、A～Cの3時期からなり、畿内Ⅲ様式～Ⅳ様式に相当する。これらは、凹線文をもつものと持たないものにわかれ、さらに凹線文を持たないものは、甕の様相から2分することができる。

A期は、由良川流域の在地型甕Aや瀬戸内系甕Cが顕在化する以前の段階で、大和型甕の影響の強い甕D、瀬戸内系甕の影響の強い甕E、大型の甕Gなどがある。壺の施文に櫛描き弧状文を持つ点も特色である。このA期は志高編年弥生Ⅱ期より新しく、興編年Ⅲ～Ⅰ様式に併行するか、より古くなると考えられる。

付表9 桑飼上遺跡弥生時代中期遺構出土土器型式別点数表(1)

		広口壺									無頸壺			水差		鉢	
		A1	A2	B	C1	C2	C3	C4	D	E	A	B	C	A	B	A	B
A期	溝27																
	土器溜まり1									1							
	土坑4																
B期	竪穴26	8	8	1					1	2				1		3	5
	竪穴27																
	竪穴29			1													
C期	竪穴24						1					1					
	竪穴28					2	1	1			1			1			
	竪穴30					1		4			1		1	3			
	方形周溝墓1・2										4	2				1	1

付表10 桑飼上遺跡弥生時代中期遺構出土土器型式別点数表(2)

		甕														高杯					
		A1	A2	A3	A4	B1	B2	B3	B4	B5	C	D	E	F	G	A1	A2	A3	B1	B2	C
A期	溝27	1													1	1		1			
	土器溜まり1		1													1	2	2			
	土坑4	2																			
B期	竪穴26	2	21	2	1	9	7					3							1		
	竪穴27	1				1															
	竪穴29																				
C期	竪穴24			1					2												
	竪穴28	1	3	5							3				2	1	2			2	
	竪穴30			2					1									1			
	方形周溝墓1・2		1	1	2				7	3	1										1

1/16以上の残存率を示す個体で、型式判別の可能なものを対象とした。

B期は、広口壺A1・A2、在地型甕A1・A2、甕B1・B2、瀬戸内系甕Cが主体を占める段階である。また、水差形土器Aが出現している点も注目される。このB期の中心となるのは、竪穴式住居跡26出土土器群である。田代氏は興編年においてⅢ様式をⅢ-I様式とⅢ-II様式に細分されている。Ⅲ-II様式については、「横ナデ手法が発達する段階である。Ⅲ-I様式に比べ、広口壺口縁部が矮小化し、凸帯文間にも強い横ナデが施されるようになる。直口する口縁部を持つ短頸壺が現れる。」と記述している^(注28)。竪穴式住居跡26出土土器群の広口壺は、完形個体がなく、個々に部位の観察に頼らざるを得ないが、上記の様相を見てとることは可能である。かつ、水差形土器A(40)が出現している点などを考慮に入れると、この土器群は、Ⅲ-II様式に併行すると考えることが妥当と思われる^(注29)。

C期は、凹線文併行期である。広口壺C2～C4、無頸壺B・C、水差形土器A・B、甕A1～A4・B3～B5・C・G、鉢A・B、高杯A1～A3・B2・Cなどが見られる。新たに出現する型式としては、広口壺C2～C4、甕B3～B5がある。興編年Ⅳ様式は、Ⅲ期に細分されているが、C期は細分不可能と考えられる。

②弥生時代後期～古墳時代前期

桑飼上遺跡の弥生時代後期～古墳時代前期の土器群は、D～H期の5時期にわかれる。D期は、壺A1・甕A1に代表される土器群であり、この時期の甕Bはほぼ混入品とみてよい。『京都府弥生土器集成』北丹波地域V-I～II期が相当する^(注30)。

E期は、甕A3と甕B2の共伴関係により、代表される土器群である。壺はA～D、鉢はA～E、高杯はA～C、器台Aなどがみられ、多数の器種・型式が存在する。『京都府弥生土器集成』北丹波地域V-III～IV期が相当する^(注31)。

F期は、甕B2と甕Dの共伴関係により、代表される土器群である。青野西II式が相当^(注32)

付表11 桑飼上遺跡弥生時代後期～古墳時代前期遺構出土土器型式別点数表

		壺											I	J	K		
		A1	A2	B1	B2	C1	C2	D1	D2	E	F	G				H	
D期	竪穴12						2										
	竪穴7	2			1		1	1									
E期	竪穴14										1						
	竪穴16		1	1		1											
	竪穴17						1		1								
	竪穴15																
	竪穴25																
	土器溜まり2		1			1					1						
F期	竪穴11																
G期	土器溜まり3													1	1		
	土器溜まり4												2	2	1		
H期	竪穴13	2															2

		甕													
		A1	A2	A3	A4	B1	B2	C	D1	D2	D3	D4	E	F1	F2
D期	竪穴12	10	3	2	1	1	1								
	竪穴7		1	2											
E期	竪穴14	2	1	8			7								
	竪穴16	1		2			1								
	竪穴17			4			4								
	竪穴15		2	1			1								
	竪穴25						1								
	土器溜まり2	1		5			2								
F期	竪穴11						1			1	1				
G期	土器溜まり3							1	3	2					
	土器溜まり4										9	1	2	1	1
H期	竪穴13													1	1

		鉢								高杯					器台							
		A1	A2	B	C	D	E	F	G	H	A	B1	B2	C	D	E	A1	A2	A3	A4	B	
D期	竪穴12	1		1							1						1					
	竪穴7										1											
E期	竪穴14	1	1								1							1				
	竪穴16	1			1	1					2	1	3						1	1		
	竪穴17																					
	竪穴15										3			1								
	竪穴25																					
	土器溜まり2					1	1											2			1	
F期	竪穴11				1																	
G期	土器溜まり3							1														
	土器溜まり4								1													1
H期	竪穴13									1												

1/16以上の残存率を示す個体で、型式判別の可能なものを対象とした。

する。

G期は、壺F～J、甕C～F、鉢F・G、高杯D、器台Bからなる土器群である。青野西Ⅱ式に後続し、志高古式土師器Ⅱ期より、さかのぼる時期の土器群である。

H期は、壺K、甕Fが見られる。ほぼ布留式中段階に併行する。志高古式土師器Ⅱ期より新しいと考えられる。

第4節 桑飼上遺跡の弥生時代中期の集落と墳墓

1. 方形周溝墓

方形周溝墓の周溝である溝5～7からは、多数の土器が出土した。これらは、溝埋土の上層から、中央部に比較的密集した状態で出土した。出土した土器には完形のものはなく、ほとんどが破片の状態であった。器種には壺・甕・鉢・高杯などがあり、量的には無頸壺と甕が多く、すべて弥生時代第Ⅳ様式のものである。

このように、方形周溝墓の周溝の一～二辺に片寄る形で、溝埋土上層に多量の土器片が密集した状態で出土する状況は、少ないながらも各地で事例が報告されている。愛知県朝日遺跡S X 194、^(注34) 東大阪市西ノ辻遺跡第7次調査7号方形周溝墓、^(注35) 茨木市東奈良遺跡F 4 N地区第1号方形周溝墓などがある。さらに、西ノ辻第7次調査の報告では、「方形周溝墓における何らかの祭祀が行われた後、周溝内に一括投棄された可能性を示すものと思われる。」と慎重な表現ながらも、方形周溝墓における土器祭祀に言及されている。^(注37)

桑飼上遺跡における方形周溝墓のこのような土器の出土状況は、単に溝が埋まっていく過程で土器片が周辺から落ち込んだと考える以外にも、周溝内に一括投棄された可能性も考えられる。

方形周溝墓2の主体部からは管玉14点が出土している。方形周溝墓2の時期は、方形周溝墓1の周溝である溝5～7から出土した土器群が、弥生時代第Ⅳ様式併行と考えられるところから、ほぼ同様の時期と考えられる。

この中期後半以前の段階において、丹後・丹波地域では、方形周溝墓・方形台状墓などが数例調査されているが、副葬品をもつ墳墓はなく、桑飼上遺跡が唯一である。さらに近畿地方全体に目を向けると、福井市太田山2号墓^(注38)(碧玉製管玉500点・鉄石英製管玉1点)、七尾市細口源田山8号墓^(注39)(管玉18点)・1号土壙墓(管玉103点・石鏃・石錐2点)、^(注40) 尼崎市田能遺跡第16号墓などがあり、各地に数例見られるにすぎない。

2. 玉生産

桑飼上遺跡から出土した玉作り関係遺物は、緑色凝灰岩製管玉未製品数点、紅廉片岩製石鋸数点、磨面に溝状の痕跡を残す砥石数点がある。これらの内の数点はⅢ～Ⅳ様式の遺物包含層から出土しており、弥生時代中期後半には、桑飼上遺跡において小規模な管玉生産が行われたことは確実である。この時期、丹後・但馬・丹波地域では、途中ヶ丘遺跡、奈具岡遺跡^(注41)などをはじめとして数例の玉作り遺跡が見つかっており、特に珍しいものではない。桑飼上遺跡の数km下流に位置する志高遺跡^(注42)からは、碧玉製管玉完成品・未製品・原石(剥片)・石鋸などが出土している。これらを検討した田代 弘氏は、石鋸を伴う擦切施溝分割手法の存在や押圧剥離による調整が認められない点、石核から板状剥片を作り出した後、角柱体を切断することなどから、大中の湖技法と同様の技法であることを確認している。桑飼上遺跡においても、擦切施溝のある板状剥片や多柱体・石鋸の存在などからほぼ同様の技法が推定される。

3. まとめ

以上のように、桑飼上遺跡の弥生時代中期には、集落で小規模な管玉生産を行い、方形周溝墓に管玉が副葬されるという状況がみられる。このように、集落と墳墓がセットで検出され、そこに管玉の生産と消費をみることのできる遺跡は、現在のところ、丹後・丹波地域においては見られない。この状況は、弥生時代中期の管玉生産のあり方及び製品の流通を考える上で興味深い。

(岸岡貴英)

第5節 古墳時代の竪穴式住居跡について

桑飼上遺跡の古墳時代中期～後期の竪穴式住居跡の埋土及び床面からは、多数の玉類と石製模造品(管玉・ガラス小玉・勾玉・有孔円板・白玉)が出土する。中でも白玉は計175点ともっとも多く出土している。この白玉の出土状況については、竪穴式住居跡の1か所に集中的に出土する状況(竪穴式住居跡1)と住居跡内全面から散在して出土する状況(竪穴式住居跡3・5・6・8)がある。竪穴式住居跡1については、住居跡内の北東隅にほぼ床面に接して5～10cm内外のところから集中して出土しており、白玉を一繋ぎした使用方法が推測される。

竪穴式住居跡3・5・6・8については、住居跡内の堆積土から出土し、かつ住居跡内のほぼ全面から散漫的に分布する状況である。この状況については、住居跡内流入土自体

に多数の白玉が含まれていたと考えるか、もしくは住居の廃棄・埋没に伴い、何らかの祭祀行為が行われ、多数の白玉が投棄されたと考えるなど、多様な考え方があ

ところで、この古墳時代中期～後期の竪穴式住居跡を検出したA～Dトレンチは、計10基の住居跡が出土しており、その内弥生時代後期の住居跡である竪穴式住居跡7と古墳時代中期の中でも古くなると思われる竪穴式住居跡9からは、白玉は出土していない。竪穴式住居跡5は検出面から床面まで80cm以上あるが、竪穴式住居跡2・4・6・8・10については、20cm以下である。ここでは比較的残りのよい竪穴式住居跡5について詳細に述べることにする。

この住居跡の調査は、検出面から約10cmまでは慎重な精査を行い、出土した白玉の出土位置・レベルを記録した。その下の約50～60cmの埋土は、掘り出したのちすべて水洗い選別を行った。その後、床面までの約10～20cmは、慎重な精査を行い、出土位置・レベルを記録した。また、床面の一部からは、甕と高杯を中心に多数の完形及び破片の土器が出土している。以上の結果、埋土上層からは7点、水洗い選別した埋土中～下層からは82点、床面からは7点の白玉が出土している。多少調査精度上の問題点はあると思われるが、大きく3層にわけて扱った住居跡内の堆積土からは、ほぼまんべんなく白玉が出土していると考えられる。

近畿地方では、滑石製品の生産遺跡^(注43)以外での住居内からの滑石製品出土例としては、亀岡市北金岐遺跡^(注44)の竪穴式住居跡C-S B01(滑石製小玉29・ガラス小玉1)、舞鶴市桑飼下遺跡^(注45)(白玉1)、和歌山県鳴神地区遺跡J区S B001(滑石製勾玉)・S B002(白玉)・S B

付表12 桑飼上遺跡古墳時代中期玉類出土遺構一覧表

	白玉	勾玉	管玉	有孔円板	ガラス小玉
竪穴1	23(床面)				
竪穴2	2(埋土)		1(埋土)		
竪穴3	12(埋土・床面)				
竪穴4	2(床面)			2(床面)	1(床面)
竪穴5	104(埋土I層9) (埋土II層87) (床面8)	2(埋土)			
竪穴6	15(埋土・床面)				
竪穴8	13(埋土・床面)				
竪穴9			1(埋土)		
竪穴10	1(埋土)				
A～Dトレンチ	7				
Jトレンチ	1				
M・Nトレンチ	4				

004(滑石製有孔円板・白玉)・S B 005(滑石製勾玉・白玉)、さらに滋賀県高槻南遺跡や大阪府古市遺跡^(注16)などがあるが、いずれも白玉が多量に出土したものではない。

住居跡内の堆積土に多くの滑石製品をもつムラとしては、埼玉県川越市後伊勢原遺跡^(注17)が有名である。5世紀中葉の住居跡68軒の内、44軒の住居跡から白玉ないしは石製模造品などが出土している。住居跡出土の祭祀関係遺物の総数は、681点である。その内わけは、勾玉13点(1.9%)・剣形品5点(0.7%)・有孔円板9点(1.3%)・紡錘車3点(0.4%)・管玉3点(0.4%)・白玉647点(95%)にのぼる。「しかしこれらの遺物は、住居内覆土からすべて出土したとはいえ、住居跡内祭祀を伺えるような状況には無い。」とされている。

一方、住居跡以外からも、滑石製品が多数出土する集落は多々ある。東大阪市神並遺跡^(注18)は、縄文時代早期～室町時代にわたる複合集落遺跡である。この遺跡の第13次発掘調査のC地区において、旧河道が検出された。この旧河道北岸部において、滑石製模造品やミニチュア土器が多量に出土した地点がある。滑石製模造品の総数は2,600点である。その内わけは、勾玉12点、子持ち勾玉1点、剣形品20点、有孔円板・不整板形品33点、白玉2,529点である。ほかに、高杯や口縁部を打ち欠いた壺なども出土している。調査担当者は、この遺構について「水辺の祭祀を行ったあと、そのおり使用された道具が廃棄された場所」と考えている。

兵庫県加東郡家原・堂ノ元遺跡^(注19)は、弥生時代後期～室町時代に至る集落遺跡である。古墳時代中期では、竪穴式住居跡7棟、祭祀関連遺構2基が検出されている。滑石製白玉が出土したのは、祭祀関連遺構1である。この遺構は、土坑3基が重なり合った状態で検出され、中央の土坑の床面から遊離した状態で祭祀関連遺物が出土している。遺物は、土器類約24個体(須恵器甕1、土師器壺4、甕3、高杯10、鉢4、手捏ね土器2)と白玉約126個である。

以上のように、集落における滑石製品が多量に出土する遺構については、祭祀場・祭祀関係遺物の廃棄の場所、もしくは付近に滑石製品を含む包含層が存在し、それらの二次的な流入など、さまざまな状況が存在する。桑飼上遺跡の場合は、古墳時代の中期～後期のほとんどの住居跡から出土していること、竪穴式住居跡5にみられる住居跡内堆積土に、散漫な分布を示しつつ検出されたことなどを考えると、白玉が密集して出土した竪穴式住居跡1を除き、竪穴式住居跡2～6・8・10については、滑石製品を含む包含層の二次的な流入と考えるのが妥当と思われる。

(岸岡貴英・辻川哲朗)

第6節 奈良時代の掘立柱建物跡について

1. 建物跡群の概観

立地と範囲 C・Dトレンチ(昭和63年度調査区)では、上層遺構として、奈良時代を中心に存続した12棟の掘立柱建物跡(以下、建物跡と呼称する)群を検出した。これらの建物跡群の立地する地形は、自然堤防上であるが、由良川と岡田川の合流する狭隘な地形に面し、決して河川の氾濫の心配のない安定した立地条件ではない。

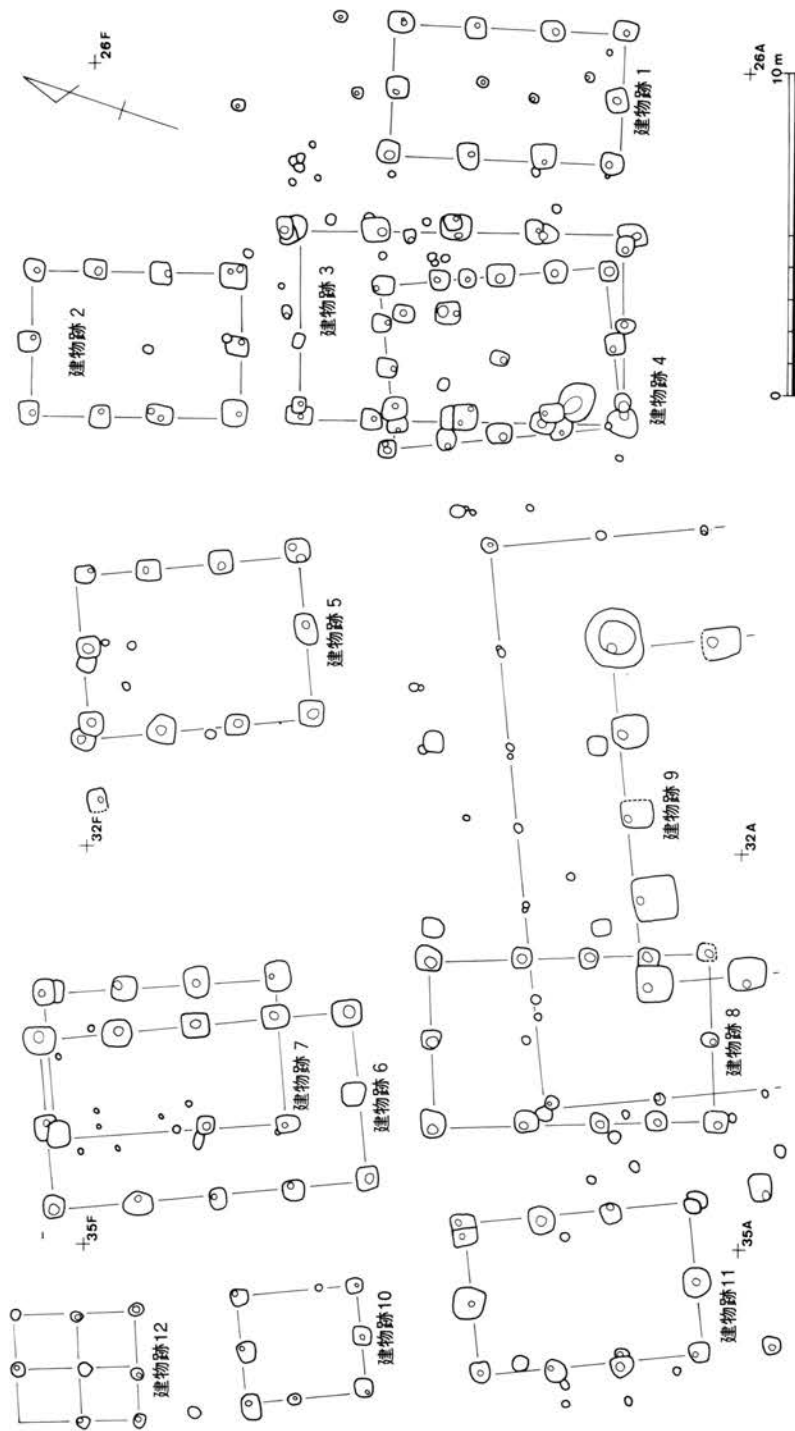
限られた調査区内では、建物跡群の範囲は東西44m・南北24mの範囲で検出している。建物跡群の四方の境界については、東・西限では溝・柵列などの区画施設は検出されず、北限は河川の浸食による地形の流出のため、南限は調査区外のためいずれも不明である。

主軸方位と建物跡規模 建物跡群は、主軸方位により、A～Eの5群の建物跡群に分類できる(すべて西に振っている)。A群(N20°30'W)は、2間×4間の南北棟(建物跡12)と小規模な2間四方の総柱建物跡(建物跡12)からなる。B群(N24°W)は建物跡数が最も多く、2間×4間(建物跡4・6)と2間×3間(建物跡5・11)の南北棟が2棟ずつ、2間以上×4間で柵ないし廂状施設が付属する南北棟の可能性のある建物跡(建物跡9)と小規模な2間四方の建物跡(建物跡10)からなる。C群(N22°30'W)は1間×3間の南北棟1棟(建物跡7)のみである。D群(N18°W)は、2間×3間(建物跡2)及び2間×4間の南北棟(建物跡3)が南北に並ぶ。E群(N16°W)は、D群の東に位置する2間×3間の南北棟(建物跡1)が1棟である。

柱間寸法 建物跡の柱間寸法は、同一建物跡の中でさえ不均等である。特に、南北棟の東西方向の柱間寸法については、2間四方のA群の建物跡12、B群の建物跡10、2間×3間のD群の建物跡2を除く、ほとんどすべての建物跡で不均等で、柱間寸法に10～50cmの差がある。また、南北棟の南北方向の柱間寸法においては、柱間寸法が均等なものに、B群の建物跡5・6、C群建物跡7があり、これらはいずれも柱間寸法が2.35～2.45m(8尺)におさまるものであり、共通している。ほかに2間×3間の建物跡では、B群の建物跡11(北から2.3m+2.1m+2.5m)とD群の建物跡2(北から2.1m+1.8m+2.5m)が、中央間がやや狭くなるという点で共通している。

柱掘形の規模 柱掘形の一辺がすべて1mをこえるものは唯一東西棟の可能性のあるB群の建物跡9のみである(106～180cm)。また、1m以上の掘形を含むものはB群に限られ(建物跡5・6・11)、B群建物跡は、他の群に対して相対的に柱掘形が大きいといえる。

柱掘形と建物跡規模の相関関係が明瞭なものは、柱掘形が直接の切り合い関係を持つことにより、先後関係が明らかなB群の建物跡4(古)とD群の建物跡3(新)では建物跡規模の拡大に伴い、柱掘形は、一辺54.5～72.5cm(建物跡4)、56.5～90cm(建物跡3)となり、



第80図 C・Dトレンチ掘立柱建物跡配置図

柱痕跡直径も12.5～26.5cm(建物跡4)、15～34cm(建物跡3)と拡大している。

また、柱掘形の深さは、現存値でB群の建物跡9が55～100cmと最も深く、A群では、建物跡8が15～65cm、建物跡9を除いたB群では14～75cm、C群では建物跡7が25～85cm、D群で25～62.5cm、E群では建物跡1が14～35cmとやや浅い。柱掘形の深さは、B群建物跡9→C群→B群(建物跡9を除く)・A・D群→E群となる。

柱痕跡の規模 柱痕跡の直径がすべて20cmをこえるものはA群の建物跡8(22.5～40cm)、B群では、建物跡9(20～45cm)、建物跡6(20～45cm)の3棟のみである。柱痕跡の直径がすべて25cm以下のものは、A群の建物跡12(14～24cm)、B群の建物跡10で、いずれも2間四方の建物跡である。他の建物跡の柱痕跡の直径は、15～35cm以下におさまる。

建物跡の配列 A群建物跡は、2間×4間の建物跡8に2間四方の建物跡12が付属する。B群建物跡は、建物跡9の周囲に付属する柵列ないし廂の掘形(以下、柵列状遺構と呼称する)の柱掘形北辺を中心とした場合の方眼操作(2.88m方眼)の結果からは、建物跡相互の規格的配列が認められる。やや子細に見ると、南北軸については、建物跡9の中心から、建物跡11の西辺及び建物跡4の東辺までの距離は、それぞれ6単位方眼(60尺)で、建物跡群の西限及び東限は、建物跡9を中心とした60尺等間により設定されていることがわかる。なお、建物跡10と建物跡11は西辺をそろえている。このほか、建物跡6の東辺と建物跡9西辺は柱通りをそろえている(第83図参照)。

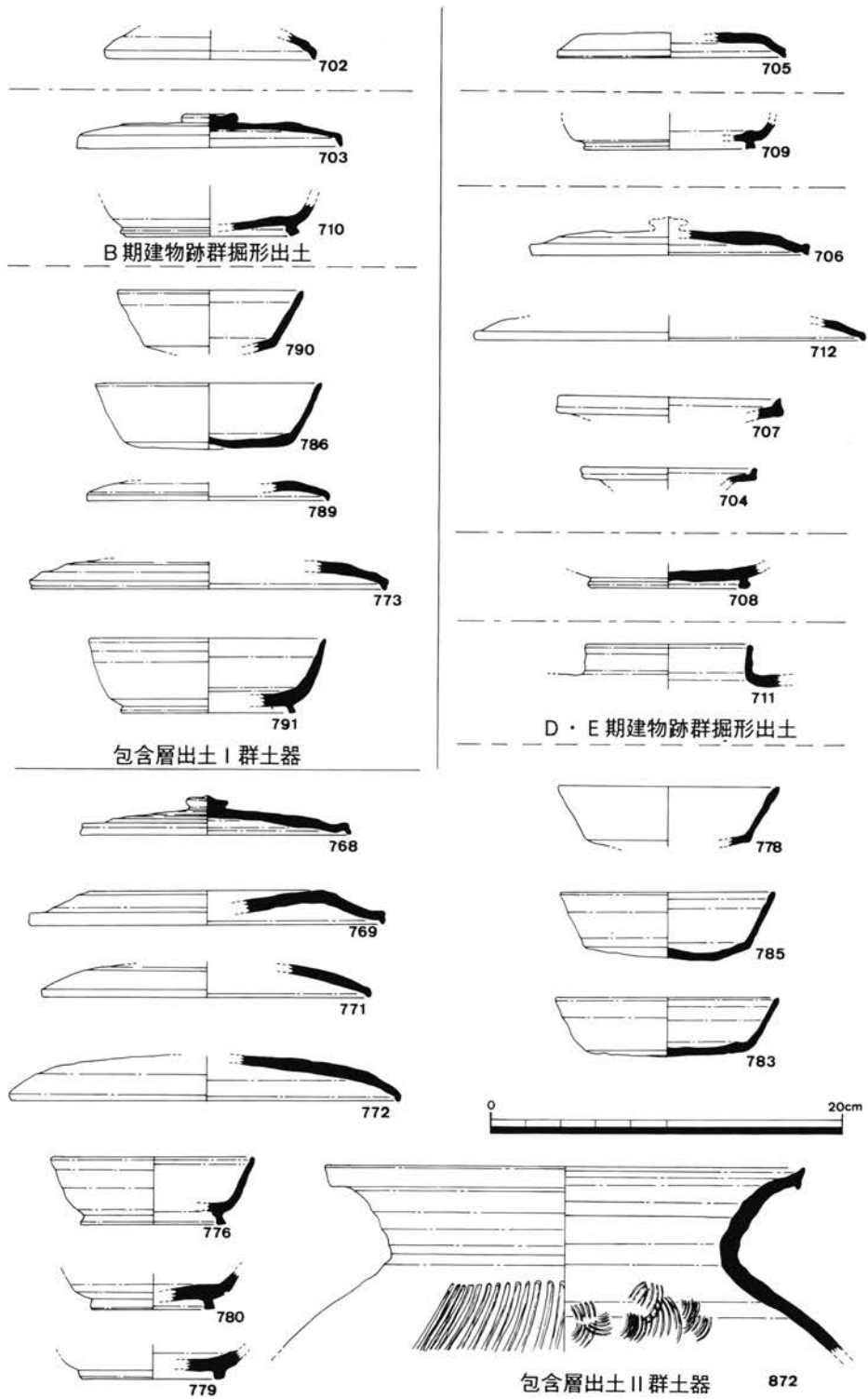
東西軸については、建物跡5・6・10は南辺を、4・11は北辺をそろえるべく規格されたものと推定されるが、施工段階でずれが生じていると見ることもできる。また、建物跡9に付属する柵列北辺の位置からは、2単位方眼(20尺)の北に建物跡5・6の南辺が、1単位方眼(10尺)の北に建物跡4・11の北辺が配置されたものとみられる。

このように、一見、建物跡9を中心とした左右対称の配列にみえるB群建物跡も基本的には建物跡6と5、11と4は左右対称の位置に計画されながらも、それぞれの個別の建物跡の規格の違いから(建物跡規模、柱間、柱間距離)、微妙な食い違いを見せていることが明らかである。

D群建物跡では、建物跡の西辺をそろえて南北に建物跡2・3が配置され、さらに、やや遅れて、建物跡主軸の異なるE群建物跡とした建物跡1が、建物跡3の東側に配置される。

2. 時期の決定

建物跡群の先後関係 柱掘形が直接の切り合い関係を持つことにより、先後関係が明らかかなものは、A群の建物跡6→B群の建物跡7、B群の建物跡9→C群の建物跡8、及びB群の建物跡4→D群の建物跡3である。これにより群別相互の先後関係は、A→B→



第81図 奈良時代掘立柱建物跡群出土土器

C・Dとなる。

各建物跡群の年代 先に概報で直接重複関係を持たないC・D期建物跡群として一括した建物跡群は、遺物の時期の検討から分離する必要性が生じてきた。

遺物の検討結果によると、B群建物跡を構成する柱掘形から、平城宮Ⅰ～Ⅱ型式に並行する須恵器が、D群建物跡からはこれよりやや新しい様相の平城宮Ⅱ～Ⅳ型式の須恵器が出土しており、遺物の点からも先に見た建物跡の先後関係を裏切っていない。また、D群とE群については、E群建物跡からの出土品に平城宮Ⅴ～Ⅵ型式に並行する須恵器を含むことから、D→Eの関係を導きだすことができよう。

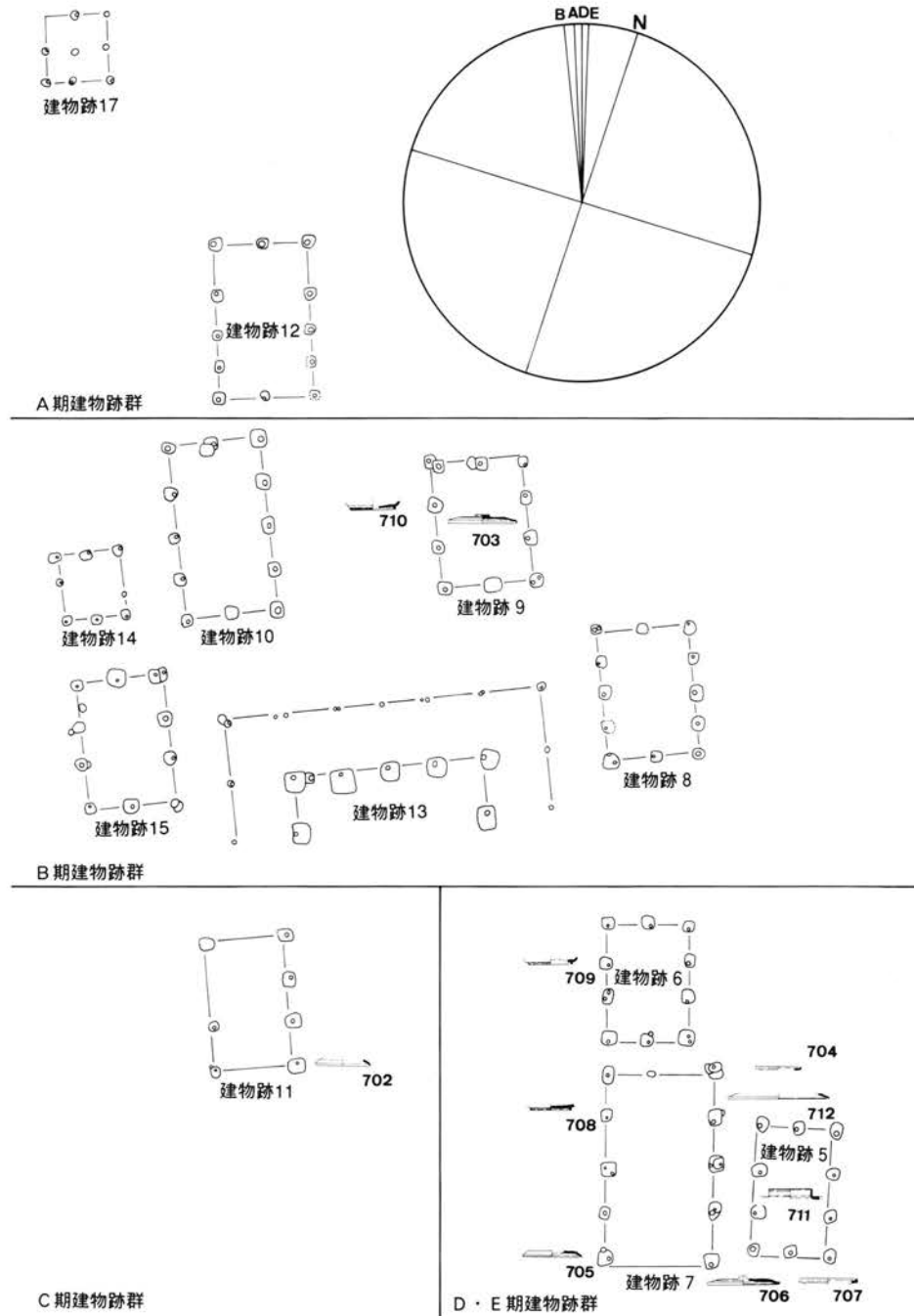
3. 建物跡群の消長

桑飼上遺跡C・Dトレンチに営まれた掘立柱建物跡群は、最初、A群建物跡が2間×4間の南北棟(建物跡8)と2間四方の方形総柱建物跡(建物跡12)の2棟のみという必要最小限の組み合わせから出発した。方形総柱建物跡の建物跡12を仮に倉庫として考えた場合、柱痕跡直径は14～25cmであり、柱痕跡直径22.5～40cmの建物跡8に劣り、主体的な建物跡は建物跡8であったといえようか。

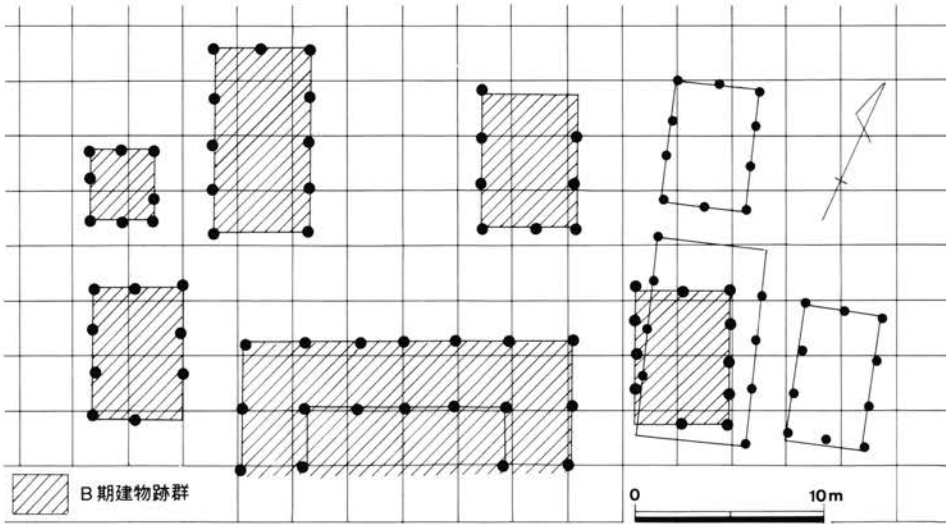
次に、建物跡9を中心とする規格により、B群建物跡が営まれる。A群の建物跡8の規格が全く生かされることなく破壊され、建物跡9が建築されるが、この建物跡は唯一東西棟の可能性のあるものである。周囲の施設は、柵列か廂か判断がつかねるところであるが、柵列であるとした場合、建物跡9の正面は北辺ではないと考えざるをえないことになる。A群の建物跡12の規模をほぼ踏襲して(床面積12.6㎡で同値)、建物跡12と重複することなく南側に建物跡10が建築される。建物跡12は、B群建物跡に重複して破壊されることなく建物跡10が建築されているので、その後も存続して使用されていた可能性もあるが、子細にみると、柱掘形が円形から方形に変化し、必ずしも総柱建物とはなっておらず、少なからず建物の構造・性格の変化がなかったとはいえない。この建物跡10・12の存在は、建物跡9を中心とする左右対称の建物配列をやぶっている。

B群建物跡の配列はすでに述べたが、ここで各建物跡の床面積を見ると、建物跡6が49㎡とやや大きいのが、建物跡9をはさんで左右対称に配置される建物跡11(床面積33.1㎡)と4(床面積34.1㎡)及び建物跡5(床面積35.5㎡)はほぼ等しく、柱間や柱間寸法が異なっているけれども床面積はそろえているものと見られよう。

B群建物跡の建物跡6(2間×4間・床面積48.96㎡・柱痕跡直径20～45cm)は、規模を縮小して、C群建物跡の建物跡7(1間×3間・床面積31.5㎡・柱痕跡直径15～30cm)に改築される。建物跡6では特に四隅の柱が太く、B群の中でも建物跡9に次ぐ規模の大型建



第82図 奈良時代掘立柱建物の変遷



第83図 B期掘立柱建物跡群の平面規格(方眼の1マスは2.9m)

物跡であったが、柱掘形の規模は踏襲されるものの、柱痕跡の直径は細くなっている。また、建物跡6から建物跡7への改築は、南北軸の柱間が2.35~2.45m等間に踏襲されるが、東西軸は2間から1間へと妻側の柱間の広い変則的な構造となる。また、床面積は先に見たB群の建物跡11・4・5に近いものとなっている。

相前後して、B群建物跡4(2間×4間・床面積34.2㎡・柱痕跡直径12.5~26.5cm)もD群建物跡3(2間×4間・床面積60.8㎡・柱痕跡直径15~34cm)へ規模を拡大して改築される。建物跡3は、建物跡9(2間×4間とした場合、推定復原床面積63.9㎡)に次ぐ大規模な建物跡となる。さらに、北側には建物跡3の西辺にそろえて建物跡2が、若干遅れて建物跡2の東側にはほぼ同規模の建物跡1が建築される。この段階でB群建物跡が何棟存続していたか不明であるが、建物の中心はD・E群建物が建築される東側へ移っていったようである。しかし、D・E群の中心的建物である建物跡3に対する付属的な建物である建物跡2(床面積28.2㎡)、建物跡1(床面積27.9㎡)は、先に見たB群建物の付属的な建物である建物跡11・4・5に比べて小型化しており、やはりB群建物が建築された時期がこの遺跡の盛期であることは明らかである。

4. 京都府の飛鳥・奈良時代の掘立柱建物跡

正垣遺跡⁽¹⁵⁰⁾(中郡大宮町)

この遺跡は、丹後半島最大の河川・竹野川の支流・常吉川の左岸の台地上に立地する。現状では、中郡盆地からは奥まった印象を与えるが、平地峠を越えて野田川流域へと抜け

るルート上に位置する遺跡である。

この遺跡では、奈良時代～鎌倉時代にわたる掘立柱建物跡20棟が検出されているが、奈良時代(正垣Ⅰ期前半)には、2棟の掘立柱建物跡(SB01・SB02)と2か所の柵列遺構(SA01・SA02)がある。このうち、SB02・SA01・SA02が同一主軸であり、同時期と考えることができる。

限られた調査区内では、全体の建物跡配置がどのようなものであったか明らかではないが、SB02は柵列に囲まれた建物であった可能性がある。SB01とSB02は、直接の切り合い関係を持たないので、先後関係が明らかではないが建物跡主軸方位は一致しない。両者の距離は約12m離れており、同時存在していた可能性はあっても、同一の建物跡群ではない可能性も大きい。

SB01は、片面廂(東面廂)を持つ2間×2間以上の南北棟で、SB02は2間×3間以上の東西棟である。柱間寸法は、SB01が約1.8m等間で、SB02が、桁行(東西軸)2.4m×梁間(南北軸)1.5mである。柱掘形は、SB01が一辺約60cm、SB02が一辺約80cmである。

このように、片面廂を持つSB01(床面積19.4㎡以上)よりも、廂を持たないSB02(床面積21.6㎡以上)の方がむしろ相対的に建物跡規模が大きいといえる。SB02の時期は、柱掘形出土の須恵器より平城宮Ⅲ型式前後と考えられる。ほかに、奈良時代の出土遺物として、墨書土器2点(「貴」・「阿」)、転用硯5点が認められ、長頸壺の出土量が目立つ。

桑飼上遺跡との比較すると、時期については桑飼上C・D群が正垣Ⅰ期前半にあたる。

正垣Ⅰ期前半では、前述のように床面積19.4㎡以上(SB01)・21.6㎡以上(SB02)の2棟の建物跡が知られるが、この2棟は同一グループに属さない可能性もある。一方、桑飼上遺跡では、一部建物の増設・建替拡大が行われたD・E群にあたり、床面積はD群が28.3㎡(建物跡2)と60.8㎡(建物跡3)、E群(建物跡1)が27.9㎡であり、桑飼上遺跡には、正垣遺跡の3倍近い床面積を持つ建物を含んでいることがわかる。

柱掘形の規模は、正垣Ⅰ期前半では、一辺約60cm(SB01)、一辺約80cm(SB02)で、桑飼上D群で一辺59～92.5cm(建物跡2)、一辺56.5～90cm(建物跡3)、E群で一辺64～80cm(建物跡1)を測り、桑飼上遺跡の柱掘形が相対的に規模が大きい。

柱間寸法は、正垣Ⅰ期は約1.8m等間(SB01)で、桁行(東西軸)2.4m×梁間(南北軸)1.5m(SB02)で、桑飼上D群で1.8～2.5m(建物跡2)、2.3～3.0m(建物跡3)、E群で2.1～2.4m(建物跡1)を測り、桑飼上遺跡の方が相対的に柱間寸法が長いことがわかる。

以上、同時期の桑飼上遺跡と正垣遺跡における建物跡規模の比較は、それぞれの遺跡で検出された建物跡が、建物跡群のどの部分を構成する建物跡であるかという点で問題を残すが、桑飼上遺跡の方が正垣遺跡よりも相対的に規模が大きな建物跡を含んでいることを

指摘しておきたい。

志高遺跡^(注51)(舞鶴市・旧加佐郡)

この遺跡は、桑飼上遺跡と同じく由良川の自然堤防上に立地する遺跡で、桑飼上遺跡の下流2.7～4.3kmの地点にある。

この遺跡では、奈良時代後半から平安時代前半にかけての掘立柱建物跡が、カキ安地区(3次調査・舞鶴市教委)で15棟以上、と舟戸南地区(6・7次調査・府埋文センター)で20棟以上検出されている。両地区の距離は100m以上離れている。

カキ安地区の掘立柱建物跡群は、奈良時代後半から平安時代前半にかけての建物跡群で、2間×3間ないし、2間×4間の南北棟が中心で、建物跡主軸方位から、5類に分類されている。しかし、厳密にみると同一主軸による建物跡群は、2～3棟にしか及ばず、個々のグループごとに「L」字形ないし雁行形の配列を取りつつ、建物跡を増設しているようすがうかがえ、建物跡配列について、調査区内では綿密な規格性が認めがたい。

柱掘形は、一辺30～60cmの隅丸方形ないしは円形に近いもので桑飼上遺跡に比べ小規模である。

また、数少ない東西棟である建物跡14の北面には建物は設けられず、幅5m・深さ40cmの池状遺構が設けられていることも特色のひとつである。

出土遺物については、墨書土器、硯などは検出されていない。

このように、カキ安地区の掘立柱建物跡群は、同時期に左右対称の配列により規格・配置された建物群ではなく、むしろ最小単位の個々の建物群の集合体であるといえる。

舟戸南地区では、8世紀中頃から9世紀前半の建物跡群で、建物跡主軸方位などから4期に分類されている。

I期(8世紀中頃)には、まだ竪穴式住居跡が残っていた可能性も指摘され、掘立柱建物跡の主軸方位もそろわない。むしろ、長方形竪穴式住居跡群からなるグループは、主軸方位がほぼそろい、1期の掘立柱建物跡との比較では、竪穴式住居跡の中では最大規模のS H86014が床面積23.4m²、掘立柱建物跡S B85027が床面積28.9m²で、掘立柱建物跡の出現は必ずしも著しい床面積の拡大にはつながっていない。さらに、竪穴式住居跡群と掘立柱建物跡群は36m以上離れて位置し、本来別々のグループを形成していたものと思われる。このことは、この時期は当地域で竪穴式住居から掘立柱建物への移行期であるとも考えられているが、竪穴式住居と掘立柱建物の建物自身の性格の違いから、長方形大型竪穴式住居のもつ特異な性格を示すものとも考えられる。

柱間寸法は5尺・7尺・8尺の完数尺で、柱掘形の規模は、40～80cmで一辺1mをこえるものはみられない。床面積はS B85027で、28.8m²である。

Ⅱ期(8世紀第3四半期)には、2間四方の最小規模の倉庫を1棟伴う2間×3間の東西棟及び南北棟が2～3棟でグループを形成している。

柱間寸法は8尺・8.5尺・9尺等間の組み合わせであるが、大型の総柱建物跡の可能性も残されるS B 85024では、梁間12尺となりとりわけ長い。また、柱掘形についても、S B 85024は80～120cmと特に大きく、柱痕跡直径も25～40cmと大型である。他の建物跡の柱掘形は一辺50～1mにおさまり、柱痕跡直径は20～60cmと非常に大型である。また、床面積についても、S B 5017は39㎡であり、大型化している。

Ⅲ期(8世紀第4四半期)には一部建物が規模を縮小して建て替えられ(S B 85017・39㎡ S B 85026・26.5㎡)、倉庫群が増設されている。

Ⅳ期(9世紀第1四半期)には、東西棟が中心となり、5間×2間以上・床面積64.8㎡以上の大型建物の建築が契機となり、建物相互に柵列による区画が生じた可能性がある。柱間寸法は、東西棟については8尺等間(S B 86018・S B 86003)ないし桁行8尺、梁間9尺(S B 86008)であるが、南北棟については桁行8.5尺、梁間6.5尺(S B 85003)・床面積39㎡となり完数尺とはならない。同様に東西棟では、柱掘形の規模が南北棟に比べて大きく、東西棟が一辺70～120cmであるのに対し、南北棟では50～80cmとなり、建物跡主軸による建物相互の性格の違いを反映しているものと思われる。

このように舟戸南地区では、Ⅲ期の倉庫群の一部、Ⅳ期の東西棟の一部が柱列の一辺をそろえるにすぎず、左右対称の規格的な配列は取られることがなかった。

ここで、桑飼上遺跡との対比を試みると、まず時期の点で、おおむね桑飼上遺跡C・D群が志高Ⅱ期に、桑飼上E群が志高Ⅲ期にあたる。

志高Ⅱ期の床面積は、30.2㎡(S B 85046)～39㎡(S B 85017)であり、桑飼上遺跡C群では、31.5㎡(建物跡7)、D群では28.2㎡(建物跡2)、60.8㎡(建物跡3)となり、桑飼上遺跡の建物跡の方が規模が大きい。

志高Ⅲ期でも、床面積は24.5㎡(S B 85026)～25.9㎡(S B 86019)であり、桑飼上E群の27.9㎡(建物跡1)よりも狭い。

ただし、志高Ⅱ期のS B 85024は柱掘形が80～120cmと特に大きく、柱痕跡直径も25～40cmと大型である点は、桑飼上遺跡のC群(建物跡7)の柱掘形・柱痕跡直径よりも規模が大きくこの建物跡の性格が目立つ。

建物跡配列の規格性も桑飼上D群に見られるような柱筋をそろえるということは、志高遺跡Ⅱ・Ⅲ期には行われず、Ⅱ期に東西棟と南北棟を「L」字形に配列したものが認められるのみである。

青野南遺跡^(注52)(綾部市・何鹿郡衙推定地)

この遺跡は、由良川中流域の自然堤防上に立地する遺跡で、7世紀段階の掘立柱建物跡7棟が検出されている。

建物跡主軸方位から2群に分類された建物跡群のうち、先行するA群は豪族居宅、つづく綾中廢寺創建後のB群は何鹿郡衙に推定されている。

A群は、2間×4間の東西棟2棟からなるが、両者は建物跡主軸方位をそろえるものの、約26.8m離れている。建物跡の全体がほぼわかるS B8107は、柱間寸法は、桁行東側2間は2.6m(8.5尺)、西側2間は2.28m(7.5尺)、梁間は2.28m(7.5尺)等間である。柱掘形は方形で、柱痕跡は直径30cm、床面積は42.3m²である。

B群は、2間×8間の東西に長い中心建物跡を中心に南前面に2間×3間程度の小規模な門の可能性がある建物跡と、そこから東へのびる柵列及びこれに直交する南北方向の柵列がある。建物跡配置の全容はいま明らかではないが、門を伴う柵列に囲まれた建物跡群が想定される。中心建物跡のS B8108は、柱間寸法が2.55m前後(8.5尺等間)で、柱掘形は一辺1～1.3mの方形で柱痕跡は直径30cmである。床面積は102m²である。

桑飼上遺跡では、この段階の掘立柱建物跡と認定できるものが不明である。

こくばら野遺跡^(注53)(熊野郡久美浜町)

この遺跡は、川上谷川右岸の段丘上に立地している。

奈良時代中葉までに建築された15棟の掘立柱建物跡が検出されている。これらは、建物跡主軸方位により5群に分類されているが、柱穴相互の重複関係が認められないため、各群の同時存続性は不明である。

Ⅱ群(掘立柱建物跡9)のみに東西棟が見られ、他はすべて南北棟であり、柱間は2間×3間(15棟中5棟以上)、2間×4間(15棟中3棟以上)が主体を占める。

建物跡の配列は、Ⅰ群では建物跡1と2が雁行形の配列をなすが、柱筋はそろえず、3群では、建物跡11と8が東側柱筋をそろえ南北に直線上に配列され、5と6が雁行形に配列されているほかは、限られた調査区内では、配列の詳細は不明であるが、2～3棟が最少建物群の1単位となっているものと見られる。

床面積は、Ⅰ群(掘立柱建物跡1・2・3)が24.1～26.8m²、Ⅱ群(掘立柱建物跡4・9)が18.5～26.9m²、Ⅲ群(掘立柱建物跡5・6・8・11)が21.2～22.3m²、Ⅳ群(掘立柱建物跡10)が28.6～29.9m²、Ⅴ群(掘立柱建物跡14・15)が20.4m²であり、群別不明の掘立柱建物跡13は、今回調査区内では最大規模で床面積39m²を測る。

桑飼上遺跡との比較では、こくばら野遺跡Ⅰ～Ⅴ群が、桑飼上遺跡のA～D群にあたるが詳細な並行関係は不明である。規模の比較では、桑飼上遺跡の最小建物跡(総柱建物跡

を除く)であるD群建物跡2でさえ床面積28.2㎡を測り、ほとんどの建物跡が床面積30㎡をこえることがなく、柱掘形がすべて直径30～60cmの円形で、柱痕跡直径も15～20cmのくばら野遺跡に比べ、桑飼上遺跡の建物跡群の規模の大きさは明瞭である。

正道官衙遺跡^(註54)(城陽市・久世郡衙推定地)

この遺跡は、木津川右岸の丘陵端部の標高40～50mの低台地上に立地する。

7世紀第3四半期～9世紀前半までの掘立柱建物跡31棟が検出され、建物跡主軸方位、規模、形態、重複関係から3群に分類されている(官衙Ⅰ～Ⅲ期)。

官衙Ⅰ期は、7世紀第3四半期～第4四半期の建物跡群で、「ミヤケ」の施設とも考えられている。

建物跡配列は、北・東・西辺(南辺は未検出)を柵列に囲まれた東西92mの範囲内に、三面廂を持ち、間仕切りした南北棟の掘立柱建物跡(S B 7819 A・S B 7819 B)を中心に、西側(S B 7953・床面積72.7㎡)と北西側(S B 8159・床面積87.4㎡)に総柱の大型掘立柱建物跡群が配列される。中心建物跡はこのように、Ⅰ期の途中で規模が縮小されている(S B 7819 A・3間×11間以上・床面積181.4㎡以上→S B 7819 B・3間×6間以上・床面積94.5㎡)。

官衙Ⅱ期は、7世紀第4四半期から8世紀初頭までの官衙的な施設と考えられ、「評家(衙)」の可能性も指摘されている。

建物跡配列は、中心建物跡群として桁行の長い建物跡(S B 8610・2間×17間、S B 7826・2間×9間)を「コ」字形に配列し、方形区画(一定空間)を形成することである。

官衙Ⅲ期は、8世紀初頭から9世紀前半代までの官衙施設で、山背国久世郡衙と考えられている。

建物跡配列は、二重の溝(築地堀か)により、南と西を区画された(東・北辺は未検出)範囲内に、中心建物跡として南面した東西棟で四面廂の「正殿(S B 7331・2間×6間・床面積67.3㎡)」を配置し、その背後に「後殿(S B 7332・2間×7間・床面積81.9㎡)」を置く。さらに、正殿の南東前面には、南北棟の「脇殿(S B 7336)」、そして、「正殿」の南方正面に柱筋をあわせて「南門(S B 6902)」が置かれる。各建物跡の主軸方位は、正殿と南門以外は微妙にずれている。

桑飼上遺跡との比較のなかでは、正道遺跡官衙Ⅲ期が桑飼上遺跡A～E群にあたるが、桑飼上遺跡では、周辺区画施設が、東・西側部分では未検出で、正道遺跡官衙Ⅲ期の二重溝のような周辺区画施設を欠く可能性が高い。

しかし、正道遺跡官衙Ⅲ期にみられる建物跡配列は、厳密に見ると建物跡主軸方位は建物跡ごとに若干のずれを見せ、この点では、桑飼上遺跡B群建物跡の10尺地割りにのせた規格性の高さに及ばない。

畑ノ前遺跡^(JF55)(相楽郡精華町)

この遺跡は、木津川左岸の台地上に立地する。

70m×70mの範囲に奈良時代前期～中期にかけての23棟の掘立柱建物跡が検出された。これらの建物跡群は、建物跡主軸方位により5群に分類されている。

さらに、建物跡の重複関係により、2期に大別している。すなわち、C・D・E類がⅠ期、A・B類がⅡ期である。

Ⅰ期の建物跡配列は、C類の2間×4間(掘立柱建物跡10・床面積34.6㎡)の東西棟を中心に、東西に2間×3間(建物跡9・床面積25.3㎡、建物跡22・床面積22.3㎡)の東西棟のそれぞれの背後(北側)に、E類の総柱建物跡群3棟、さらに北側にD類の一部総柱の東西棟2棟、建物跡群西端にもC類の長方形の総柱建物跡を配する。倉庫が多いことが特徴である。

Ⅱ期の建物跡配列は、10尺方眼の地割りにのせたもので、Ⅰ期のE類の倉庫群とC類の中心建物跡群を壊して、南1間分の南面廂を持つ3間×5間の東西棟(建物跡2・床面積96.2㎡)と2間×4間の東西棟(建物跡1・床面積60.7㎡)に建て替えられる。この2棟は、北辺柱筋をそろえている。しかし、A類建物跡13・建物跡4・建物跡20が、西辺の柱筋をそろえ、建物跡4の南辺柱筋を建物跡2・1の北辺柱筋にそろえている。

また、A類に先行して建築されていたものともみられるB類は、建物跡12の北辺、建物跡7の南辺、建物跡3の北辺の柱筋をそろえるほか、建物跡11・建物跡12が東辺の柱筋をそろえている。しかし、A類・B類ともに、雁行形・「L」字形の配列を組み合わせたもので、いずれにしても左右対称の配列は見られない。

各期の年代は古墳の周濠に廃棄された土器などからⅠ期の年代は、奈良時代前半までには建築されていたもの、Ⅱ期の年代は、奈良時代中葉までには建て替えが始まったものと考えられる。

桑飼上遺跡との比較については、建物跡群の年代の並行関係が明らかにはしがたいが、畑ノ前遺跡Ⅰ～Ⅱ期までには、桑飼上遺跡A～B群が該当しようか。

畑ノ前遺跡Ⅰ期C類建物跡の床面積はそれぞれ22.3㎡(建物跡22)・25.3㎡(建物跡9)・34.6㎡(建物跡10)で、桑飼上遺跡A群が、43.9㎡(建物跡8)、B群が33.1㎡(建物跡11)～63.9㎡以上(建物跡9)となり、桑飼上遺跡の建物跡規模の方が大きい。ところが、畑ノ前遺跡Ⅱ期には、床面積60.7㎡の建物跡1、さらに床面積96.2㎡の建物跡2が建築され、中心建物跡同士の規模の比較では、畑ノ前遺跡が優位となる。

しかし、建物跡配列については、畑ノ前遺跡では左右対称の配列はどの類も取られることがなく、同じ10尺方眼の地割りに基づく桑飼上遺跡B群建物跡の規格性の強さとは趣を異にする。

5. ま と め

以上の点から桑飼上遺跡の掘立柱建物跡群の持つ特色を列挙すれば、

- ①由良川の自然堤防上に立地し、支流との合流点の狭隘なか所に位置する。
- ②建物跡方位は南北棟が中心となる(東西棟の可能性のある建物跡13、2間四方の建物跡17・14を除けばすべてが南北棟)。
- ③柱間は2間×3間(12棟中4棟)または2間×4間(12棟中4～5棟)が中心となる。
- ④同一建物跡中で柱間距離が不均等である(複数の柱間距離が存在する)。
- ⑤柱掘形が一辺1mをこえるものや柱痕跡直径が45cmあるものがある。
- ⑥B群建物跡はおおむね左右対称の規格により配列されている。
- ⑦最終段階(D・E群建物跡)で建物規模を縮小している。
- ⑧明確な廂を持つ建物跡がみられない。
- ⑨周辺区画施設が未検出。
- ⑩倉庫群が未検出。

このうち①～④、⑦～⑩についてはこの遺跡をなんらかの官衙関係遺跡として認定するためには不利な条件である。①は、この遺跡の立地条件が、支流との合流点に位置することから、絶えず水害の危機にさらされやすいことを示し、あえて公的機関を設置するには非常に危険な場所であったといえる。②～④は、これまで確認されている官衙関連遺跡では、4間×5間程度の東西棟が中心であり、柱間寸法もそろえている。

⑧～⑩については、調査区が遺跡のすべてではないので、今回の調査が遺跡全体でどの部分にあたるのか、今後課題を残すこととなった。

⑤・⑥については、調査例の少ない京都府北部では一般集落との対比のしようがないが、すでにみたように、2～3棟の掘立柱建物を最小構成単位群として形成された、こくばら野遺跡(久美浜町)、志高遺跡カキ安地区(舞鶴市)がこの時期の一般集落の代表的な姿であるとするれば、桑飼上遺跡が一般集落ではないことは当然のことである。また、青野南遺跡(綾部市)、正道官衙遺跡(城陽市)のように、溝、柵列などの周辺区画施設を持ち、中心建物が大規模な東西棟で、倉庫群を伴う様態が郡衙であるとするならば、周辺区画施設を持たない桑飼上遺跡は郡衙跡とも認定できない。むしろ、志高遺跡舟戸南地区(舞鶴市)、畑ノ前遺跡(精華町)に見るように、周辺区画施設を持たないが、比較的大規模な掘立柱建物跡群によって構成されるものは、豪族居宅の可能性が強いものといえる。そのなかで、より規格性の強い畑ノ前遺跡Ⅱ期、さらに桑飼上遺跡B群は、左右対称の規格を強く意識している点で、畑ノ前遺跡以上に規格性が強い建物跡群であるといえる。これは、建物跡配列規格だけを見れば、単なる豪族居宅の性格をこえた官衙的様相の強いものであるとも捉

えられる。

出土遺物の面からも、墨書土器の点数こそ少ないが、転用硯の存在は識字層の存在を推定させるのには充分であり、出土須恵器の様相からは杯L(稜椀・輪状突帯状つまみを持つ蓋)や杯F、葉壺形短頸壺など官衙的色彩(律令的土器様式)の強い遺物が出土したことも、この遺跡が当然一般集落ではなく、単純な豪族居宅だけでもない可能性も示唆する。

遺跡の性格を想定する材料はすでにつきたが、今回の調査区の約500m西の地点には、遺跡の内容は明らかではないが、同時存続する奈良時代の建物跡群が存在したことを想定させる方形柱掘形及び良好な奈良時代の遺物包含層を確認している。さらに約50m東の地点ではやはり飛鳥時代から奈良時代までにはおさまると思われる掘立柱建物跡及び方形柱掘形を確認している。いずれにしても、桑飼上遺跡の掘立柱建物跡群は広範囲にわたって営まれていたものと推察される。これらの遺跡がすべて一体のものであったのか、あるいは断続的に移動した結果のものなのか、今はただちに明らかにはできないが、今回の調査区は自然堤防の一部であって全部ではないことを記し、今後の周辺調査に期待をしたい。

(細川康晴)

- 注1 籠瀬良明「京都府由良川下流谷平野—地形・洪水・集落移転および土地利用—」(『横浜市立大学紀要』A-29 横浜市立大学) 1962 85頁
- 注2 小出 博『日本の河川—自然史と社会史—』 東京大学出版会 1970 248頁
- 注3 例えば、前掲注1など
- 注4 籠瀬良明『自然堤防の諸類型—河岸平野と水害—』 古今書院 1990 202頁
- 注5 肥後弘幸他「桑飼上遺跡」(『京都府遺跡調査概報』第31冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1988
- 注6 細川康晴他「桑飼上遺跡」(『京都府遺跡調査概報』第35冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1989、細川康晴「桑飼上遺跡の掘立柱建物群」(『京都府埋蔵文化財情報』第31号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1989
- 注7 細川康晴他「桑飼上遺跡」(『京都府遺跡調査概報』第40冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1990、細川康晴「桑飼上遺跡の竪穴式住居跡」(『京都府埋蔵文化財情報』第36号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1990
- 注8 岸岡貴英他「桑飼上遺跡」(『京都府遺跡調査概報』第46冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1991、岸岡貴英「桑飼上遺跡の発掘調査」(『京都府埋蔵文化財情報』第40号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1991
- 注9 以下、古墳時代の須恵器の型式については、下記の文献によった。
田辺昭三『陶器古窯址群』I 平安学園考古学クラブ 1966、中村 浩「出土須恵器の編年的

- 検討」(『和泉陶器窯の研究』 柏書房) 1981、中村 浩「近畿地方(1)－摂津・河内・和泉地域－」(『日本陶磁の源流』 柏書房) 1984、瀬戸谷皓「但馬地域」(『日本陶磁の源流』 柏書房) 1984、山田邦和「近畿地方北部の古式須恵器－奈良岡遺跡出土須恵器の検討を通じて－」(『京都府弥栄町奈良岡遺跡発掘調査報告書』 (財)古代学協会) 1985、中村 浩「山城穀塚古墳出土の須恵器」『ミュージアム』431 1987
- 注10 古墳からの出土例はあるが、窯跡からは出土例に乏しい(田辺・注9書)。
- 注11 以下、飛鳥・奈良時代の須恵器の型式については、下記の文献によった。
『平城宮発掘調査報告』Ⅱ 奈良国立文化財研究所 1962、『平城宮発掘調査報告』Ⅳ 奈良国立文化財研究所 1965、『平城宮発掘調査報告』Ⅶ 奈良国立文化財研究所 1976
- 注12 敲石類の分類については、黒坪氏の分類を参考にした(黒坪一樹他「ケシケ谷遺跡 近畿自動車道舞鶴線関係遺跡」『京都府遺跡調査報告書』第10冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1988)。また、黒坪氏には石器の実測などの面で熱心に指導していただいた。記して感謝の意を表する。
- 注13 厳密には白玉と小玉とを区別すべきなのであろうが、両者は形態面のみ区別し得るのであって、機能的には両者を区別することがほとんど不可能である。ここでは煩雑さを避けるために、便宜的に両者を含めた意味で「白玉」という語を使用したい。
- 注14 舞鶴市教育委員会調査。本例については、田代 弘・吉岡博の両氏から御教示を賜った。記して謝意を表する。
- 注15 白玉の製作工程の復原は、以下の研究を参考にした。
置田雅昭「古墳時代手工業の一例－奈良県天理市布留遺跡における玉作り－」『国分直一博士古稀記念論集 日本民族文化とその周辺 考古編』 1980
- 注16 野島 永「弥生時代鉄製品の事例」(『京都府埋蔵文化財情報』第44号 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1992
- 注17 小橋拓司「由良川中・下流域低地における古地理と地形環境」(『立命館文学』483・484 立命館大学文学部) 1985 73～97頁、小橋拓司「石本遺跡周辺の地形変化」(『京都府遺跡調査報告書』第8冊 石本遺跡 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1987 114～119頁
- 注18 高橋 学「地形環境分析からみた条里遺構年代決定の問題点」(『条里制研究』第6号 条里制研究会) 1990 5～22頁
- 注19 「宮遺跡」(『京都府遺跡調査報告書』第10冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1988
- 注20 「青野遺跡第12次発掘調査概報」(『綾部市文化財調査報告』第15集 綾部市教育委員会) 1988
- 注21 「志高遺跡」(『京都府遺跡調査報告書』第12冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1989
- 注22 『庄村遺跡』現地説明会資料 綾部市教育委員会 1992.9.27
- 注23 『青野西遺跡第5次』現地説明会資料 綾部市教育委員会 1991.12.1

- 注24 「日置遺跡」(『宮津市遺跡調査報告』第6集 宮津市教育委員会) 1983
- 注25 「丹後国営農地開発事業(東部・西部地区)関係遺跡昭和63年度、平成3・4年度発掘調査概要(1)奈良岡遺跡(第4次)」(『京都府遺跡調査概報』第55冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1993
- 注26 「七日市遺跡(I)-第2分冊(弥生・古墳時代遺跡の調査)-近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書(XⅡ-2)」(『兵庫県文化財調査報告書』第72-2冊 兵庫県教育委員会) 1990
- 注27 「青野西遺跡」(『京都府遺跡調査報告書』第4冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1985
- 注28 「興遺跡」(『京都府遺跡調査報告書』第17冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1992
- 注29 この竪穴式住居跡26の土器群については、田代 弘氏に実見していただき、Ⅲ様式新段階に併行する土器群というご教示をいただいた。かつ、土器の整理作業についても細部にいたるまでご教示いただいた。記して感謝の意を表する。
- 注30 『京都府弥生土器集成』(財)京都府埋蔵文化財調査研究センター 1989
- 注31 注30に同じ。
- 注32 注27に同じ。
- 注33 注21に同じ。
- 注34 都築暢也・七原恵史他『朝日遺跡』Ⅱ 愛知県教育委員会 1982
- 注35 『西ノ辻遺跡・鬼虎川遺跡』 東大阪市教育委員会・(財)東大阪市文化財協会 1988
- 注36 田代克己・奥井哲秀『東奈良遺跡発掘調査概報』Ⅰ 東奈良遺跡調査会 1979
- 注37 注35に同じ。
- 注38 「太田山古墳群」『北陸自動車道関係遺跡調査報告書』8 石川県教育委員会 1976
- 注39 『細口源山遺跡』 七尾市教育委員会 1982
- 注40 福井英治ほか「田能遺跡発掘調査報告書」(『尼崎市文化財調査報告』第15集 尼崎市教育委員会) 1982
- 注41 奈良岡遺跡・途中ヶ丘遺跡は近年発掘調査が行われ、多量の玉作り関係遺物が出土している。
- 注42 注21に同じ。
- 注43 近畿地方において著名な滑石製品の生産遺跡としては、奈良県曽我遺跡、大阪府池島・福万寺遺跡などがある。池島・福万寺遺跡については、本間元樹・森本 徹・井上智博各氏のご厚意によって、実見させていただいたうえ、多くのご教示を賜った。記して謝意を表する。
- 注44 「北金岐遺跡」(『京都府遺跡調査報告書』第5冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1985
- 注45 『京都府舞鶴市桑飼下遺跡発掘調査報告書』 舞鶴市教育委員会 1975
- 注46 『古墳時代の祭祀-祭祀関係の遺跡と遺物』第2分冊 東日本埋蔵文化財研究会・北武蔵古代文化研究会 1993
- 注47 立石盛詞ほか「後伊勢原遺跡」(『埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書』第79集 (財)埼玉県

埋蔵文化財調査事業団) 1989

- 注48 「神並遺跡第13次発掘調査概要報告書—第二阪奈有料道路建設に伴う—」(『神並遺跡』XⅢ 東大阪市教育委員会・(財)東大阪市文化財協会) 1992 本例については、菅原章太氏のご厚意によって、実見させていただいたうえ、多くのご教示を賜った。記して謝意を表す。
- 注49 「家原・堂ノ元遺跡—国道175号線社バイパス工事に伴う調査—」(『加東郡埋蔵文化財報告』5 兵庫県加東郡教育委員会) 1984
- 注50 竹原一彦「正垣遺跡」(『京都府遺跡調査概報』第22冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1987
- 注51 注21に同じ。
- 注52 中村孝行他「青野南第3次・第4次発掘調査概報」(『綾部市文化財調査報告』第10集 綾部市教育委員会) 1983
- 注53 森島康雄「こくばら野遺跡」(『京都府遺跡調査概報』第49冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1992
- 注54 近藤義行・小泉裕司「正道官衙遺跡」(『城陽市埋蔵文化財調査報告書』第24集 城陽市教育委員会) 1993
- 注55 「京都府(仮称)精華ニュータウン予定地内遺跡発掘調査報告書—煤谷川窯址・畑の前遺跡—」 精華町教育委員会・(財)古代学協会 1988

付表13 掘立柱建物跡柱間規模一覧表

掘立柱建物跡1 (2間×3間) 単位m、()内は尺

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3		合計長	方向	挿図
A—A'	2.00	2.10 (7)			4.10	東西	第60図
B—B'	1.70	2.10 (7)			3.80	〃	
C—C'	2.00	2.30	2.50		6.80	南北	
D—D'	2.00	2.40 (8)	2.10 (7)		6.70	〃	

掘立柱建物跡2 (2間×3間)

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3		合計長	方向	挿図
A—A'	2.30	2.10 (7)			4.40	東西	第61図
B—B'	2.20	2.00			4.20	〃	
C—C'	2.50	1.80 (6)	2.10 (7)		6.40	南北	
D—D'	2.30	2.20	1.80 (6)		6.30	〃	

掘立柱建物跡3 (2間×4間)

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3	柱間4		合計長	方向	挿図
C—C'	—	—				—	東西	第62図
D—D'	2.80	2.80				5.60	〃	
G—G'	2.60	2.50	2.60	2.30		10.00	南北	
H—H'	2.90	2.60	2.20	2.90		10.60	〃	

掘立柱建物跡4 (2間×4間)

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3	柱間4		合計長	方向	挿図
A—A'	2.50	2.50				5.00	東西	第62図
B—B'	2.50	2.45 (8)				4.95	〃	
E—E'	1.80 (6)	1.70	1.00	—		—	南北	
F—F'	1.60	1.60	1.90	1.80 (6)		6.90	〃	

掘立柱建物跡5 (2間×3間)

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3		合計長	方向	挿図
A—A'	2.20	2.40 (8)			4.60	東西	第63図
B—B'	2.70 (9)	2.20			4.90	ノ	
C—C'	2.30	2.40 (8)	2.00		6.70	南北	
D—D'	2.40 (8)	2.30	1.60		6.30	ノ	

掘立柱建物跡6 (2間×4間)

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3	柱間4		合計長	方向	挿図
A—A'	2.55	2.55				5.10	東西	第64図
B—B'	2.50	2.50				5.00	ノ	
E—E'	2.40 (8)	2.30	2.30	2.60		9.60	南北	
F—F'	2.30	2.40 (8)	2.40 (8)	2.40 (8)		9.50	ノ	

掘立柱建物跡7 (1間×3間)

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3		合計長	方向	挿図
C—C'	4.30				4.30	東西	第64図
D—D'	4.40				4.40	ノ	
G—G'	2.40 (8)	—	—		7.00	南北	
H—H'	2.30	2.40 (8)	2.30		7.00	ノ	

掘立柱建物跡8 (2間×4間)

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3	柱間4		合計長	方向	挿図
A—A'	2.60	2.40 (8)				5.00	東西	第65図
B—B'	2.50	2.60				5.10	ノ	
C—C'	1.80 (6)	1.70	2.30	2.80		8.60	南北	
D—D'	1.80 (6)	1.70	2.10 (7)	2.70 (9)		8.30	ノ	

掘立柱建物跡9 (4間×2間以上)

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3	柱間4	合計長	方向	挿図
B—B'	2.60	2.50	2.60	2.60	10.30	東西	第66図
C—C'	2.60	—			—	南北	
D—D'	3.05	—			—	ク	

掘立柱建物跡10 (2間×1間)

柱通り列	柱間1	柱間2	合計長	方向	挿図
A—A'	1.70	1.70	3.40	東西	第67図
B—B'	1.65	1.65	3.30	ク	
C—C'	3.60 (12)		3.60	南北	
D—D'	3.70		3.70	ク	

掘立柱建物跡11 (2間×3間)

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3	合計長	方向	挿図
A—A'	2.20	2.10 (7)		4.30	東西	第67図
B—B'	2.30	2.40 (8)		4.70	ク	
C—C'	2.40 (8)	2.10 (7)	2.10 (7)	6.60 (22)	南北	
D—D'	2.40 (8)	2.10 (7)	2.40 (8)	6.90 (23)	ク	

掘立柱建物跡12 (2間×2間)

柱通り列	柱間1	柱間2	合計長	方向	挿図
A—A'	—	1.60	—	東西	第68図
B—B'	1.60	1.60	3.20	ク	
C—C'	1.35	2.05	3.40	ク	
D—D'	1.73	—	—	南北	
E—E'	1.65	2.05	3.70	ク	
F—F'	1.80 (6)	1.90	3.70	ク	

掘立柱建物跡13 (2間×4間)

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3	柱間4		合計長	方向	挿図
A—A'	1.30	1.65	1.70	1.60		6.25	東西	第68図
B—B'	1.80 (6)	1.70	1.60	1.50 (5)		6.60 (22)	〃	
C—C'	1.85	1.80 (6)				3.65	南北	
D—D'	2.00	1.80 (6)				3.80	〃	

柵

柱通り列	柱間1	柱間2	柱間3	柱間4	柱間5	柱間6	合計長	方向	挿図
A—A'	3.10	2.85	2.35	2.35	2.95	3.20	16.80	東西	第66図
E—E'	3.25							南北	
F—F'	3.40							〃	

付表14 掘立柱建物跡柱掘形規模一覧表(単位 cm)

柱番号			掘形規模				柱痕跡		
掘立柱建物跡	柱通り列	NO.	平面形	東西	× 南北	深さ	直径	深さ	
掘立柱建物跡1	A—A'	1	方形	66.5	70.0	60.0	35.0	35.0	
		2	方形	70.0	70.0	35.0	20.0	25.0	
		3	方形	70.0	80.0	37.5	14.0	25.0	
	B—B'	1	方形	64.0	75.0	50.0	30.0	22.5	
		2	方形	80.0	70.0	65.0	22.5	30.0	
		3	方形	60.0	80.0	45.0	27.5	30.0	
	C—C'	1	—	—	—	—	—	—	—
		2	方形	80.0	75.0	35.0	20.0	7.0	
		3	方形	84.0	65.0	42.5	25.0	20.0	
		4	—	—	—	—	—	—	—
	D—D'	1	—	—	—	—	—	—	—
		2	隅丸方形	69.0	72.5	45.0	20.0	35.0	
3		方形	72.5	70.0	51.5	20.0	37.5		
4		—	—	—	—	—	—	—	
掘立柱建物跡2	A—A'	1	方形	70.0	60.0	35.0	15.0	27.5	
		2	方形	64.0	70.0	25.0	20.0	20.0	
		3	方形	68.5	65.0	56.5	20.0	42.5	
	B—B'	1	方形	85.0	79.0	44.0	20.0	32.5	
		2	方形	65.0	72.5	62.5	17.5	55.0	
		3	方形	90.0	92.5	45.0	20.0	22.5	

	C—C'	1	—	—	—	—	—	—
		2	方形	59.0	85.0	45.0	15.0	30.0
		3	方形	72.5	62.5	37.5	20.0	30.0
		4	—	—	—	—	—	—
	D—D'	1	—	—	—	—	—	—
		2	隅丸方形	70.0	70.0	40.0	20.0	15.0
		3	方形	61.5	70.0	60.0	22.5	40.0
		4	—	—	—	—	—	—
掘立柱建物跡 3	C—C'	1	長方形	57.5	87.5	36.5	16.5	22.5
		2	—	—	—	—	—	—
		3	長方形	90.0	56.5	40.0	25.0	25.0
	D—D'	1	不整形	81.5	90.0	46.5	29.0	34.0
		2	隅丸方形	40.0	60.0	20.0	15.0	10.0
		3	長方形	74.0	90.0	34.0	25.0	24.0
	G—G'	1	—	—	—	—	—	—
		2	隅丸方形	60.0	80.0	34.0	30.0	13.0
		3	方形	85.0	77.5	50.0	16.5	22.5
		4	方形	70.0	65.0	30.0	20.0	16.0
		5	—	—	—	—	—	—
	H—H'	1	—	—	—	—	—	—
		2	—	—	—	45.0	30.0	32.5
		3	隅丸方形	84.0	90.5	61.5	16.5	52.5
		4	方形	75.0	84.0	60.0	27.5	46.5
		5	—	—	—	—	—	—
掘立柱建物跡 4	A—A'	1	方形	57.5	55.0	42.5	22.5	36.0
		2	方形	64.0	62.5	47.5	25.0	22.5
		3	方形	62.5	73.5	44.0	12.5	27.5
	B—B'	1	—	—	—	—	—	—
		2	方形	69.0	67.5	39.5	25.0	30.0
		3	隅丸方形	62.5	59.5	46.0	26.5	35.0
	E—E'	1	—	—	—	—	—	—
		2	楕円形?	—	—	47.5	15.0	27.5
		3	方形	70.0	75.0	50.0	22.5	39.0
		4	方形	65.0	60.5	47.5	19.5	42.5
		5	—	—	—	—	—	—
	F—F'	1	—	—	—	—	—	—
		2	隅丸方形	68.5	67.5	47.5	19.0	29.0
		3	方形	75.0	77.5	56.5	25.0	45.0
		4	方形	64.0	55.0	51.5	20.0	16.5
		5	—	—	—	—	—	—
掘立柱建物跡 5	A—A'	1	方形	70.0	75.0	25.0	30.0	14.0
		2	方形	64.0	75.0	25.0	25.0	10.0
		3	方形	56.0	65.0	22.5	12.5	5.0

	B—B'	1	方形	80.0	29.5	35.0	35.0	20.0	
		2	長方形	100.0	72.5	50.0	22.5	19.0	
		3	隅丸方形	80.0	81.0	40.0	20.0	20.0	
	C—C'	1	—	—	—	—	—	—	
		2	隅丸方形	71.0	80.0	30.0	26.5	10.0	
		3	—	86.0	87.5	20.0	32.5	10.0	
		4	—	—	—	—	—	—	
	D—D'	1	隅丸方形	80.0	81.0	40.0	27.5	21.5	
		2	方形	76.5	75.0	32.5	22.5	15.0	
		3	方形	68.4	71.0	27.5	16.0	10.0	
		4	方形	56.0	65.0	25.0	22.5	5.0	
	掘立柱建物跡 6	A—A'	1	隅丸方形	70.0	70.0	31.5	45.0	24.0
2			方形	76.5	75.0	75.0	25.0	50.0	
3			長方形	85.0	105.0	39.0	32.5	12.5	
B—B'		1	方形	67.5	70.0	39.0	25.0	36.5	
		2	方形	72.5	70.0	14.0	—	—	
		3	長方形	95.0	75.0	40.0	45.0	19.0	
E—E'		1	—	—	—	—	—	—	
		2	隅丸方形	75.0	65.0	30.0	20.0	16.5	
		3	方形	59.0	65.0	30.0	25.0	20.0	
		4	円形	85.0	76.5	54.0	27.5	37.5	
F—F'		1	—	—	—	—	—	—	
		2	方形	74.0	86.0	40.0	30.0	34.0	
		3	方形	80.0	89.0	40.0	30.0	10.0	
		4	隅丸方形	85.0	87.5	39.0	32.5	10.0	
		5	—	—	—	—	—	—	
掘立柱建物跡 7		C—C'	1	方形	80.0	70.0	25.0	—	—
			2	方形	76.0	76.5	42.5	25.0	10.0
		D—D'	1	長方形	57.5	71.5	70.0	20.0	67.5
	2		方形	90.0	81.5	40.0	15.0	5.0	
	G—G'	1	—	—	—	—	—	—	
		2	方形	60.0	59.0	82.5	25.0	75.0	
		3	—	—	—	—	—	—	
		4	—	—	—	—	—	—	
	H—H'	1	—	—	—	—	—	—	
		2	方形	90.0	80.0	30.0	25.0	5.0	
		3	方形	76.5	82.5	35.0	30.0	17.5	
		4	—	—	—	—	—	—	
掘立柱建物跡 8	A—A'	1	隅丸方形	80.0	80.0	40.0	35.0	19.0	
		2	方形	59.0	59.0	35.0	35.0	27.5	
		3	隅丸方形	76.5	77.5	44.0	40.0	10.0	

	B—B'	1	—	—	—	24.0	22.5	14.0	
		2	—	—	—	21.0	25.0	15.0	
		3	—	—	—	17.5	30.0	10.0	
	C—C'	1	—	—	—	—	—	—	
		2	方形	60.0	64.0	55.0	25.0	35.0	
		3	方形	65.0	60.0	52.5	25.0	35.0	
		4	方形	67.5	69.0	65.0	22.5	47.5	
		5	—	—	—	—	—	—	
	D—D'	1	—	—	—	—	—	—	
		2	方形	55.0	60.0	26.5	41.5	23.5	
		3	方形	69.0	57.5	15.0	32.5	5.0	
		4	方形	65.0	61.0	25.0	30.0	19.0	
		5	—	—	—	—	—	—	
	掘立柱建物跡9	B—B'	1	方形	109.0	115.0	100.0	35.0	30.0
			2	方形	130.0	134.0	96.5	35.0	24.0
3			方形	107.5	106.0	110.0	31.0	30.0	
4			方形	105.0	115.0	80.0	45.0	20.0	
5			隅丸方形	180.0 (102.5	180.0 115.0)	75.0	45.0	20.0	
C—C'		1	—	—	—	—	—	—	
		2	方形	109.0	115.0	100.0	35.0	25.0	
D—D'		1	長方形	95.0	125.0	70.0	40.0	6.0	
		2	—	—	—	—	—	—	
掘立柱建物跡10	A—A'	1	長方形	77.5	55.0	61.0	17.5	46.5	
		2	方形	60.0	55.5	32.5	15.0	20.0	
		3	方形	51.5	56.5	29.0	20.0	11.5	
	B—B'	1	隅丸方形	60.0	57.5	39.0	15.0	15.0	
		2	方形	62.5	61.0	52.5	25.0	36.5	
		3	方形	52.5	55.0	61.0	15.0	39.0	
掘立柱建物跡11	A—A'	1	隅丸方形	65.0	62.5	45.0	25.0	35.0	
		2	長方形	107.5	91.5	60.0	22.5	30.0	
		3	長方形	50.0	80.0	66.5	25.0	36.0	
	B—B'	1	隅丸方形	64.0	67.5	60.0	15.0	30.0	
		2	隅丸方形	87.5	85.0	56.5	32.5	42.5	
		3	円形	45.0	47.5	47.5	—	—	
	C—C'	1	—	—	—	—	—	—	
		2	隅丸方形	65.0	76.0	52.5	35.0	20.0	
		3	円形	71.0	62.5	46.0	20.0	12.5	
		4	—	—	—	—	—	—	
	D—D'	1	—	—	—	—	—	—	
		2	隅丸方形	67.0	69.0	40.0	25.0	14.0	
3		隅丸方形	80.0	86.0	30.0	30.0	25.0		
4		—	—	—	—	—	—		

掘立柱建物跡12	A—A'	1	—	—	—	—	—	
		2	円形	45.0	47.5	25.0	15.0	15.0
		3	円形	36.5	35.0	49.0	17.5	45.0
	B—B'	1	円形	45.0	50.0	60.0	17.5	50.0
		2	円形	45.0	45.0	20.0	—	—
		3	円形	37.5	35.0	54.0	15.0	45.0
	C—C'	1	方形	45.0	45.0	25.0	24.0	15.0
		2	円形	41.0	45.0	35.0	15.0	25.0
		3	円形	50.0	50.0	25.0	15.0	10.0
掘立柱建物跡13	A—A'	1	方形	62.5	65.0	20.0	25.0	9.0
		2	方形	55.0	55.0	20.0	15.0	7.5
		3	方形	50.0	55.0	19.0	20.0	5.0
		4	方形	50.0	60.0	15.0	20.0	5.0
		5	方形	55.0	50.0	30.0	20.0	7.5
	B—B'	1	長方形	55.0	75.0	30.0	20.0	5.0
		2	長方形	55.0	75.0	31.5	20.0	11.5
		3	方形	60.0	55.0	20.0	15.0	10.0
		4	長方形	47.5	—	10.0	15.0	5.0
		5	長方形	55.0	75.0	35.0	10.0	5.0
	C—C'	1	—	—	—	—	—	—
		2	方形	74.0	75.0	25.0	20.0	16.5
		3	—	—	—	—	—	—
	D—D'	1	—	—	—	—	—	—
		2	方形	55.0	55.0	25.0	20.0	7.5
3		—	—	—	—	—	—	

新旧遺構対照表(旧遺構番号は、これまでの概報で報告した番号)

新規番号	旧遺構番号	新規番号	旧遺構番号
掘立柱建物跡 1	掘立柱建物跡 5	掘立柱建物跡11	掘立柱建物跡15
掘立柱建物跡 2	掘立柱建物跡 6	掘立柱建物跡12	掘立柱建物跡17
掘立柱建物跡 3	掘立柱建物跡 7	掘立柱建物跡13	—
掘立柱建物跡 4	掘立柱建物跡 8	掘立柱建物跡14	S B901
掘立柱建物跡 5	掘立柱建物跡 9	竪穴式住居跡 9	S H801
掘立柱建物跡 6	掘立柱建物跡10	竪穴式住居跡11	S H601
掘立柱建物跡 7	掘立柱建物跡11	竪穴状遺構 1	方形土坑 S K902
掘立柱建物跡 8	掘立柱建物跡12	土器溜まり 2	S K404
掘立柱建物跡 9	掘立柱建物跡13	土器溜まり 5	S X501
掘立柱建物跡10	掘立柱建物跡14	土坑20	S K502

付表15 弥生時代中期土器観察表

番号	器種	口径及び底径 残存高 (cm)	色調	焼成	胎土	調整 手法及 び文様	口縁部 ・底部 残存度	出土遺構	備考
1	広口壺 C 3	21.60 6.85	茶褐色	良好	やや粗 石英、長石 雲母		1/4	堅穴24	
2	甕A 3	14.90 5.40	黄褐色	堅緻	やや粗 石英、長石	(口縁)刻 み	1/8	堅穴24	スス付着
3	甕B 4	8.20 2.90	茶褐色	堅緻	密 石英、長石 赤色粒、雲 母	(内)ケズ リ	5/16	堅穴24	
4	甕B 4	20.25 3.60	淡灰褐色	良好	普通 雲母、赤色 粒	(外)沈線 文3条	1/16	堅穴24	
5	無頸壺B	18.00 5.30	灰白色	堅緻	やや粗 石英、長石 雲母	凹線文4 条	1/8	堅穴24	
6	高杯(脚 部)	21.80 4.00	褐色	堅緻	やや密 石英、長石 雲母	凹線文3 条	1/4	堅穴24	
7	底部	5.20 4.40	茶褐色	良好	やや粗 赤色粒、石 英、雲母		1/3	堅穴24	
8	底部	4.80 7.10	褐色	堅緻	やや密 石英、長石 赤色粒		1/2	堅穴24	
9	広口壺 A 2	9.40 3.50	淡褐色	良好	やや密 チャート、 赤色粒、石 英	(口縁)刻 み	1/8	堅穴26	
10	広口壺 A 1	12.60 3.90	灰黄褐色	良好	やや密 長石、石英		1/8	堅穴26	
11	広口壺 A 2	23.80 1.90	乳白色	良好	やや密 赤色粒、チ ャート、石 英		1/8	堅穴26	
12	広口壺 A 1	16.40 6.00	淡黄褐色	良好	やや密 赤色粒、石 英、長石		1/16	堅穴26	
13	広口壺 A 2	21.40 5.30	乳灰褐色	堅緻	やや密 赤色粒、雲 母、石英、 長石	(口縁)刻 み	1/8	堅穴26	
14	広口壺 A 1	31.20 7.40	淡赤褐色	良好	やや粗 石英、雲母	(口縁)綾 杉文状の 刻み	1/8	堅穴26	
15	広口壺 A 1	20.20 10.10	淡褐色	良好	普通 赤色粒、石 英、長石、 雲母		1/16	堅穴26	
16	広口壺 A 1	19.40 2.00	淡黄褐色	良好	密 赤色粒、石 英、長石、 雲母		1/8	堅穴26	

17	広口壺 A 1	20.40 2.90	淡褐色	良好	やや密	赤色粒、長石、雲母	(口縁)刻み	1/16	竪穴26
18	広口壺 A 1	21.60 1.25	淡褐色	良好	普通	長石、赤色粒		1/8	竪穴26
19	広口壺 A 2	24.10 1.10	乳白色	良好	やや密	赤色粒、石英、長石		1/8	竪穴26
20	広口壺 A 1	22.60 2.80	淡褐色	良好	粗	石英、赤色粒、雲母		1/8	竪穴26
21	広口壺 A 2	20.00 1.10	淡褐色	堅緻	普通	雲母、赤色粒	(口縁)斜格子 (内)櫛描き文	1/8	竪穴26
22	広口壺 A 2	20.40 8.70	淡黄褐色	堅緻	普通	赤色粒、石英、雲母		1/8	竪穴26
23	広口壺 A 2	28.20 8.20	淡褐色	堅緻	やや密	石英、長石、雲母	(口縁)刻み	3/16	竪穴26
24	広口壺 A 2	16.60 3.20	淡褐色	良好	やや密	長石、石英、赤色粒	(口縁)刻み	1/16	竪穴26
25	広口壺A		淡黄灰褐色	良好	密	長石、石英、赤色粒	(頸部)突帯文		竪穴26
26	広口壺A		淡乳茶白色	堅緻	普通	石英、雲母、赤色粒	(頸部)突帯文		竪穴26
27	広口壺A		乳灰黄色	良好	やや密	赤色粒、チャート	(頸部)突帯文		竪穴26
28	広口壺A		灰黄茶褐色	堅緻	やや密	赤色粒、長石	(頸部)突帯文		竪穴26
29	広口壺A		乳灰黄褐色	堅緻	やや密	雲母、石英	(頸部)突帯文+棒状浮文		竪穴26
30	広口壺A		淡黄緑灰色	堅緻	やや密	石英、長石、赤色粒	(頸部)突帯文		竪穴26
31	広口壺A		黄黒灰色	良好	密	赤色粒、石英、雲母	(頸部)指頭圧痕突帯文		竪穴26
32	広口壺A		橙黄褐色	やや軟	粗	石英、長石	(頸部)指頭圧痕突帯文		竪穴26
33	広口壺A		乳淡赤茶色	堅緻	やや粗	チャート、石英、長石、暗黄褐色礫	(頸部)指頭圧痕突帯文		竪穴26
34	広口壺E	13.70 3.70	赤茶褐色	良好	やや粗	石英、赤色粒、チャート、長石		3/16	竪穴26

35	広口壺E	13.20 6.30	淡橙灰色	良好	普通	赤色粒、チャート		1/4	堅穴26	
36	広口壺D	32.00 11.50	淡黄褐色	堅緻	普通	石英、長石 雲母	(頸部)指頭 圧痕突帯文	1/8	堅穴26	
37	広口壺B	14.90 16.10	茶褐色	良好	普通	長石、赤色 粒	(外)ハケ 4本/cm	1/4	堅穴26	
38	ミニチュ ア土器	2.45 6.50	灰褐色	良好	普通	赤色粒、長 石、石英、 雲母		完存	堅穴26	
39	広口壺	8.50 23.20	淡橙赤 褐色	良好	粗	角礫状石英 雲母、長石	(内)指ナ デ	完存	堅穴26	
40	水差形土 器A	9.40 11.70	淡灰乳 色	良好	普通	赤色粒、石 英、チャート		1/2	堅穴26	
41	甕A 1	25.40 4.10	淡褐色	普通	やや粗	長石、赤色 粒	(口縁)浅 い刻み	1/8	堅穴26	
42	甕A 1	14.60 9.80	淡茶褐 色	普通	やや粗	長石、石英 赤色粒		1/4	堅穴26	
43	甕A 2	25.00	茶褐色	堅緻	やや粗	長石、赤色粒		1/4	堅穴26	
44	甕A 2	26.80 7.50	淡黄茶 褐色	堅緻	普通	長石、石英 赤色粒		1/4	堅穴26	
45	甕A 2	30.60 8.80	淡灰茶 褐色	良好	やや粗	石英、雲母 赤色粒、長 石		3/16	堅穴26	
46	甕A 2	21.90 7.60	茶黄褐 色	良好	やや粗	長石、赤色 粒		1/16	堅穴26	
47	甕A 2	20.60 3.90	淡黄褐 色	良好	普通	赤色粒、長 石、石英粒		1/4	堅穴26	
48	甕A 2	20.10 5.20	黄褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒、礫		1/2	堅穴26	口縁部ス ス附着
49	甕A 2	21.00 10.00	茶褐色	堅緻	普通	赤色粒、石 英、雲母		1/4	堅穴26	
50	甕A 2	15.80 3.30	淡黄褐 色	良好	普通	赤色粒		1/8	堅穴26	
51	甕A 2	21.10 3.05	茶褐色	堅緻	やや粗	長石、赤色 粒、石英		1/8	堅穴26	
52	甕A 2	23.60 18.60	淡黄灰 色	堅緻	やや密	長石、石英 赤色砂粒	(内)指頭 痕	1/4	堅穴26	
53	甕A 2	17.00 5.40	暗茶褐 色	堅緻	普通	長石、赤色 粒	(内)指ナ デ	1/16	堅穴26	
54	甕A 2	19.60 3.10	淡茶褐 色	堅緻	やや粗	長石、石英 赤色粒		1/4	堅穴26	

55	甕A 2	19.40 3.20	黄灰色	良好	やや粗	赤色粒、長石		3/16	竪穴26	
56	甕A 2	19.90 8.40	淡黄褐色	良好	やや粗	赤色粒、石英、雲母、長石	(内)指頭痕	3/16	竪穴26	
57	甕A 2	19.00 4.80	茶黄褐色	良好	普通	長石、赤色粒、石英		1/8	竪穴26	
58	甕A 2	20.20 3.90	赤茶褐色	堅緻	やや粗	長石、礫、雲母	(外)ハケ 12本/cm	1/4	竪穴26	
59	甕A 2	19.00 6.80	黄灰色	良好	普通	赤色粒、長石		1/8	竪穴26	
60	甕A 2	18.20 4.30	淡黄灰色	堅緻	普通	赤色粒、長石、石英		5/16	竪穴26	
61	甕A 2	25.40 7.30	褐色	良好	やや粗	チャート、雲母、赤色粒、長石、石英	(内)指ナ デ	3/8	竪穴26	
62	甕A 2	22.70 5.00	暗黄灰色	良好	普通	石英、赤色粒		1/16	竪穴26	
63	甕A 2	22.40 3.50	淡黄灰褐色	堅緻	普通	長石、石英赤色粒、礫		1/4	竪穴26	スス付着
64	甕A	16.70 7.40	淡乳黄褐色	良好	やや粗	赤色粒、長石、雲母	(内)指ナ デ	3/16	竪穴26	
65	甕A	15.40 9.00	黒茶褐色	良好	普通	長石		1/8	竪穴26	
66	甕A 4	15.80 7.50	黄灰褐色	堅緻	やや粗	赤色粒、長石、石英	(内)指頭 痕	3/16	竪穴26	
67	甕B 1	21.50 5.05	赤褐色	やや軟	普通	長石、石英赤色粒	(内)ハケ	1/8	竪穴26	
68	甕A	23.70 5.00	赤茶褐色	良好	普通	赤色粒、石英、長石		1/8	竪穴26	
69	甕B 1	25.80 3.10	灰色	良好	普通	角礫状石英雲母		1/8	竪穴26	
70	甕B 1	17.10 9.30	淡褐色	良好	普通	角礫状石英		1/8	竪穴26	スス付着
71	甕B 1	19.80 4.80	乳白灰色	良好	普通	石英、赤色粒、雲母		1/8	竪穴26	
72	甕B 1	16.85 22.60	淡褐色	良好	普通	赤色粒、長石、石英		1/2	竪穴26	スス付着
73	甕B 1	27.20 29.30	淡褐色	良好	普通	赤色粒、長石、石英		1/4	竪穴26	
74	甕B 1	17.00 5.60	淡赤褐色	やや軟	普通	長石、石英		3/16	竪穴26	

75	甕B 1	19.90 5.00	淡黄乳 褐色	堅緻	密	チャート、 赤色粒、石 英	(外)ハケ 10本/cm (口縁)刻 み	3/16	堅穴26	
76	甕B 1	14.80 8.20	茶黄褐 色	良好	やや密	長石、角礫 状石英	(外)ハケ 4本/cm	1/8	堅穴26	
77	甕B 2	20.40 9.50	淡黄褐 色	良好	普通	赤色粒、長 石、石英		1/8	堅穴26	
78	甕B 2	17.00 5.30	褐色	堅緻	密	赤色粒		1/8	堅穴26	
79	甕B 2	15.80 7.00	赤褐色	良好	普通	長石、赤色 粒	(外)ハケ 10本/cm	9/16	堅穴26	
80	甕B 2	22.80 24.80	淡褐色	良好	普通	長石、石英	(外)ハケ 5本/cm	1/2	堅穴26	スス付着
81	甕B 2	17.20 4.40	褐色	良好	普通	長石、石英	(外)ハケ	1/16	堅穴26	
82	甕B 2	17.40 4.50	淡乳白 赤色	良好	やや密	長石	(外)ハケ 8本/cm	1/16	堅穴26	
83	甕B 2	17.40 5.15	淡黄灰 色	堅緻	やや密	石英、赤色 粒、チャー ト		1/4	堅穴26	
84	甕C	19.20 7.50	淡赤茶 褐色	堅緻	やや密	石英、長石 チャート	(外)ハケ 7本/cm	3/8	堅穴26	
85	甕C	20.70 9.20	黄褐色	堅緻	密	チャート、 長石、石英	(外)ハケ 6本/cm	1/4	堅穴26	
86	甕C	17.60 5.50	淡茶褐 色	堅緻	普通	赤色粒、石 英、チャー ト	(外)ハケ 12本/cm	3/8	堅穴26	
87	甕A 3	14.50 3.80	淡黄褐 色	堅緻	密	赤色粒 石英、雲母		1/4	堅穴26	
88	甕A 3	16.80 13.50	淡褐色	堅緻	やや密	チャート、 赤色粒、黒 色礫		1/4	堅穴26	
89	甕	9.65 13.05	黄灰茶 褐色	良好	やや密	石英、赤色 粒、雲母	(内)ハケ (外)ハケ +ミガキ	完存	堅穴26	
90	鉢A	16.30 6.25	淡灰褐 色	堅緻	密	チャート、 長石		1/8	堅穴26	
91	鉢A	16.00 6.40	淡灰褐 色	良好	やや密	雲母、石英 長石	(内)ハケ	1/8	堅穴26	
92	鉢A	23.20 12.70	淡乳白 色	やや軟	やや密	石英、長石 雲母		3/16	堅穴26	

93	鉢B	25.20 14.50	淡乳灰 黄色	良好	やや密	石英、長石	(頸部)指 頭圧痕突 帯文	1/16	堅穴26	
94	鉢B	15.50 6.50	乳白灰 色	堅緻	やや密	長石、石英 雲母	(内)ハケ	1/16	堅穴26	
95	鉢B	15.20 17.05	赤茶褐 色	堅緻	普通	長石、石英	(外)ハケ	1/2	堅穴26	
96	鉢B	20.40 13.20	褐色	やや軟	やや粗	石英、長石 チャート	(外)粗い ミガキ	1/8	堅穴26	
97	鉢B	17.00 5.60	淡乳黄 灰茶色	良好	やや粗	長石、赤色 粒、石英	(口縁)刻 み櫛描き 波状文4 条	1/16	堅穴26	
98	高杯B 1	30.50 1.90	淡乳赤 茶褐色	良好	普通	赤色粒、石 英	(口縁)刻 み	1/8	堅穴26	
99	脚部	14.80 8.20	淡褐色	堅緻	密	長石、チャ ート	(外)ミガ キ	1/8	堅穴26	
100	底部	7.60 4.50	淡褐色	堅緻	普通	チャート、 石英、長石		3/8	堅穴26	
101	底部	8.60 5.60	淡褐色	堅緻	普通	石英、長石 チャート		5/8	堅穴26	
102	底部	8.00 4.70	赤褐色	堅緻	密	石英、長石 白~灰色礫		3/8	堅穴26	
103	底部	9.00 6.40	淡褐色	堅緻	密	石英、長石 白~灰色礫	(外)ミガ キ	完存	堅穴26	
104	底部	5.80 12.20	赤褐色	良好	やや密	石英、長石 赤色粒	(内)ハケ →ナデ	1/8	堅穴26	スス付着
105	底部	7.20 2.30	淡褐色	良好	やや粗	角礫状石英 長石	(内)ハケ	完存	堅穴26	
106	底部	9.00 23.10	淡赤褐 色	堅緻	やや密	石英、長石 赤色粒、チャ ート		3/8	堅穴26	
107	底部	7.20 3.60	淡褐色	良好	やや粗	石英、チャ ート		1/4	堅穴26	
108	底部	6.20 6.70	淡褐色	堅緻	普通	石英、長石 雲母		完存	堅穴26	
109	底部	6.20 4.20	茶褐色	堅緻	普通	石英、チャ ート、長石		1/2	堅穴26	
110	底部	6.00 3.50	乳白色	堅緻	やや密	赤色粒、長 石、チャ ート	(外)ミガ キ	完存	堅穴26	
111	底部	6.70 6.20	赤褐色	良好	やや粗	長石、石英 赤色粒、チャ ート		7/8	堅穴26	

112	底部	10.40 6.20	黒褐色	堅緻	やや密	石英、長石 雲母		3/16	堅穴26	
113	底部	7.60 9.20	淡黄褐色	良好	やや粗	角礫状石英 長石		完存	堅穴26	
114	底部	9.10 13.40	淡褐色	堅緻	やや粗	石英、赤色 粒、長石、 チャート	(外)ハケ	1/2	堅穴26	
115	底部	6.10 4.60	茶褐色	良好	普通	石英、長石		1/2	堅穴26	
116	底部	6.20 4.20	茶褐色	堅緻	普通	石英、長石 チャート		1/8	堅穴26	
117	底部	5.60 5.40	淡茶褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		5/8	堅穴26	スス付着
118	壺	18.20 6.50	橙褐色	良好	普通	石英、赤色 粒、長石		1/8	堅穴27	
119	壺	16.40 3.60	明褐色 黄灰色	良好	普通	石英、雲母		5/16	堅穴27	
120	壺	17.20 1.70	淡褐色	堅緻	やや密	石英、長石		1/8	堅穴27	
121	甕A 1	15.60 2.75	暗茶褐色	良好	普通	石英、赤色 粒	(口縁)刻 み	1/8	堅穴27	
122	底部	4.50 4.00		良好	やや粗	石英、長石 赤色粒		5/8	堅穴27	
123	壺C 2	16.80 5.10	暗赤褐色	やや軟	粗	長石、赤色 粒		3/8	堅穴28	
124	壺A	14.40 6.85	橙褐色	良好	粗	長石、赤色 粒	(内)縦ミ ガキ	1/4	堅穴28	
125	壺C 2	13.20 7.25	茶灰褐色	堅緻	普通	長石、赤色 粒		1/4	堅穴28	
126	壺C 3	16.40 3.20	淡褐色	良好	普通			1/4	堅穴28	
127	壺C 4	16.80 3.15	褐色	堅緻	普通	石英、赤色 粒、チャート	凹線文5 条	1/8	堅穴28	
128	壺	15.80 4.65	淡赤褐色	良好	普通	長石、赤色 粒 石英		3/8	堅穴28	
129	壺		褐色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒	凹線文2 条	1/8	堅穴28	
130	細頸壺	7.00 5.60	淡褐色	堅緻	やや密	石英、雲母 長石、赤色 粒		1/8	堅穴28	
131	水差形土 器B	9.40 5.45	橙褐色	堅緻	やや密	石英	凹線文4 条以上	1/4	堅穴28	

132	無頸壺B	25.60 4.50	乳灰色	良好	普通	角礫状石英 雲母、長石	凹線4条	1/8	堅穴28	
133	甕G	23.00 6.80	乳白色	堅緻	密	赤色粒、石 英		1/16	堅穴28	
134	甕G	17.20 10.00	淡灰褐色	良好	やや密	赤色粒、石 英、チャート		7/8	堅穴28	
135	甕A2	16.00 14.70	濃褐色	良好	やや粗	長石	(内)指ナ デ	1/8	堅穴28	スス付着
136	甕A2	19.00 4.70	淡褐色	堅緻	普通	長石、赤色 粒、石英		3/16	堅穴28	
137	甕A2	13.80 6.90	橙褐色	堅緻	やや密	石英、長石	(内)ハケ 8本/cm	1/4	堅穴28	
138	甕A1	21.20 3.30	褐色	堅緻	普通	石英、長石		1/8	堅穴28	
139	甕A3	20.40 3.60	茶褐色	堅緻	普通	石英、黒雲 母、長石		1/8	堅穴28	
140	甕A3	19.10 3.00	茶褐色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒		1/16	堅穴28	
141	甕A3	20.60 7.70	赤褐色	良好	やや粗	赤色粒、石 英、チャート、長石	接合根を 残す	5/16	堅穴28	
142	甕A3	21.10 3.05	暗褐色	良好	やや粗	石英、長石 雲母		1/8	堅穴28	
143	甕A3	24.00 7.00	橙褐色	堅緻	普通	長石、赤色 粒、石英	(外)ハケ 8本/cm	1/8	堅穴28	
144	甕C	17.00 2.20	淡褐色	良好	密	長石、赤色 粒、チャート		1/8	堅穴28	
145	甕C	11.80 5.00	淡褐色	堅緻	やや密	石英、赤色 粒、チャート	ハケ	1/8	堅穴28	
146	甕C	13.40 5.10	淡褐色	良好	密	石英、赤色 粒		1/8	堅穴28	
147	甕	9.50 4.35	濃褐色	良好	普通	長石、石英 雲母	(口縁)刻 み	1/8	堅穴28	
148	甕	11.20 3.40	黄灰色	堅緻		石英、赤色 粒		1/4	堅穴28	
149	鉢	14.10 10.40	淡褐色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒、雲 母		3/16	堅穴28	スス付着
150	高杯A2	30.00 5.01	黄褐色	堅緻	やや密	赤色粒、長 石	深い凹線 文	1/16	堅穴28	

151	高杯A 2	11.85 3.20	淡灰黄色	堅緻	密	石英、長石 赤色粒	凹線文3 条	1/4	堅穴28	
152	高杯A 1	21.80 7.20	淡灰黄色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒、雲 母	(内・外) ミガキ	3/16	堅穴28	
153	高杯B 2	21.80 2.50	淡褐色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒、雲 母		1/8	堅穴28	
154	高杯B 2	24.80 3.30	淡赤褐色	良好	やや密	長石、石英		3/16	堅穴28	
155	底部	7.20 3.30	淡赤褐色	良好	密	角礫状石英		5/16	堅穴28	
156	底部	11.00 2.20	橙褐色	良好	やや粗	長石、石英 赤色粒		1/4	堅穴28	
157	底部	6.40 4.60	淡褐色	良好	密	石英、長石	(外)ケズ リ	3/8	堅穴28	
158	底部	5.80 6.50	淡褐色	堅緻	やや密	赤色粒	(内)ハケ	3/5	堅穴28	
159	底部	10.00 3.00	淡褐色	良好	粗	石英、赤色 粒		完存	堅穴28	
160	底部	10.00 3.90	灰黄褐色	良好	普通	石英	(外)縦ミ ガキ	1/2	堅穴28	
161	底部	9.20 6.00	橙褐色	やや軟	粗	長石、石英 赤色粒	(外)ミガ キ+ケズ リ	完存	堅穴28	
162	底部	10.60 6.60	淡橙褐色	良好	普通	石英、赤色 粒、雲母	(内)ケズ リ	1/2	堅穴28	
163	広口壺B 1	12.60 34.80	淡褐色	良好	密	石英、長石 チャート、 雲母	(外)櫛描 き波状文 ・直線文 8条	3/4	堅穴29	
164	壺	17.80 1.80	淡褐色	堅緻	密	チャート、 石英、赤色 粒	(口縁)刻 み3段 (内)列点 文	1/16	堅穴30	
165	壺	23.20 1.90	乳灰白色	良好	密	石英、長石 雲母	(口縁)刻 み	1/8	堅穴30	
166	壺C 4	19.60 6.70	茶褐色	良好	やや粗	石英、赤色 粒、長石	(内)扇形 文 (口線・ 頸部)凹 線文	1/8	堅穴30	
167	壺C 4	22.40 2.60	黒褐色	良好	やや粗	石英、長石	凹線文2 条	1/16	堅穴30	

168	壺C 4	21.00 3.00	橙褐色	良好	やや粗	石英、暗灰色礫	凹線文2条	1/16	堅穴30	
169	壺C 4	17.20	暗茶褐色	堅緻	普通	長石	凹線文4条	1/2	堅穴30	
170	壺C 2	14.30 8.00	淡褐色	堅緻	やや粗	石英、雲母 長石、赤色粒	(外)ハケ 12条/cm	1/8	堅穴30	
171	壺	6.00	暗茶褐色	堅緻	やや粗	長石、雲母 赤色粒	(頸部)凹 線文	1/8	堅穴30	
172	水差形土 器B	10.90 7.25	淡褐色	堅緻	普通	石英、赤色 粒、長石	浅い凹線 文2条	1/2	堅穴30	
173	水差形土 器B	11.60 7.70	淡褐色	やや軟	普通	石英、長石	凹線文6 条	1/4	堅穴30	
174	水差形土 器B	10.40 7.00	黄灰色	良好	やや密	赤色粒、石 英、暗灰色 礫	凹線文2 条	1/16	堅穴30	
175	水差形土 器A	7.20 5.10	淡黒灰 褐色	良好	普通	長石、雲母		1/4	堅穴30	
176	無頸壺B	11.40 5.50	茶褐色	良好	やや粗	長石、赤色 粒、雲母		1/8	堅穴30	
177	甕A 3	16.00 8.00	茶褐色	やや軟	普通	石英、長石 赤色粒	(外)ハケ 26条/cm	1/8	堅穴30	
178	甕B 3	21.20 3.70	暗茶褐色	良好	粗	石英、赤色 粒、長石		1/8	堅穴30	
179	甕A 3	16.00 3.20	茶褐色	良好	やや粗	石英、長石 赤色粒		1/8	堅穴30	
180	高杯A 3	34.00 6.00	淡茶灰 黄色	堅緻	密	石英、長石 赤色粒	凹線文	1/8	堅穴30	
181	高杯B	31.60	赤茶黒 褐色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒		1/16	堅穴30	
182	脚部	20.60 6.00	淡灰黄 色	良好	やや密	石英、赤色 粒	(内)ケズ リ	1/8	堅穴30	
183	脚部	11.60 4.10	乳黄白 色	良好	普通	長石、赤色 粒、チャー ト	(外)ミガ キ	5/16	堅穴30	
184	脚部	14.00 4.00	淡黄茶 灰色	良好	やや密	石英、長石 赤色粒	(内)ケズ リ	1/2	堅穴30	
185	底部	7.50 4.90	淡茶白 色	良好	普通	長石、石英 赤色粒		1/2	堅穴30	
186	底部	8.80 2.40	淡灰黄 色	良好	やや密	石英、赤色 粒、長石		1/4	堅穴30	
187	底部	7.10 3.00	茶褐色	堅緻	普通	石英、長石 雲母、赤色 粒		1/8	堅穴30	

188	底部	5.80 3.55	乳白色	良好	やや粗	角礫状石英	(内)ケズリ	1/2	堅穴30	
189	底部	7.00 2.60	淡黄灰色	良好	密	石英、長石	(内)ケズリ	1/4	堅穴30	
190	脚柱部	4.80	茶褐色	堅緻	やや密	長石、赤色粒、石英			堅穴30	
191	細頸壺	6.40 4.40	灰黄褐色	堅緻	普通	石英、長石		1/8	堅穴31	
192	脚部	12.40 3.85	黄褐色	良好	やや粗	石英、長石 赤色粒	(内)ケズリ	1/8	堅穴31	
193	広口壺	21.30 4.00	暗褐色	良好	やや密	長石、赤色粒	(口縁)刻み	1/8	溝7	
194	広口壺		淡灰褐色	良好	粗	石英、赤色粒、長石	(内)4方向に垂下櫛描き文5条		溝7	
195	壺	10.40 4.60	褐色	やや軟	普通	長石、石英 雲母、チャート		1/8	溝5	
196	壺	10.80 4.35	淡褐色	やや軟	普通	赤色粒、石英、雲母、 チャート		3/8	溝5	
197	受け口壺	26.20 11.00	淡黄茶褐色	堅緻	やや密	チャート、 石英、赤色粒、長石	(頸部)ヘラ圧痕突帯文	1/8	溝4	
198	無頸壺B	11.50 11.00	茶褐色	良好	普通	チャート、 赤色粒		1/2	溝7	
199	無頸壺B	14.00 6.30	淡黄褐色	良好	普通	石英、チャート、 赤色粒	(外)ミガキ	3/8	溝5	
200	無頸壺B	12.60 11.00	黄褐色	良好	密	チャート	(外)ハケ 18条/cm	1/16	溝5	
201	無頸壺B	20.05 5.30	淡黄褐色	良好	やや密	石英、長石 チャート、 赤色粒	(口縁)刻み	1/16	溝5	
202	無頸壺C	15.00 8.90	淡褐色	良好	普通	石英、長石 雲母	(外)凹線文	1/4	溝5	
203	無頸壺C	16.80 6.30	暗黄灰色	良好		石英、長石 雲母	(外)凹線文	1/4	溝5	
204	水差形土器	11.00 22.90	淡乳褐色	良好	やや密	長石、石英 赤褐色	櫛描き列点文	1/4	溝5	
205	甕A 4	15.20 5.50	淡灰褐色	良好	やや密	長石、石英 赤色粒	(口縁)刻み	5/16	溝5	スス付着

206	甕A 4	15.80 7.20	淡褐色	良好	やや密	石英、長石 赤色粒	(口縁)刻 み	3/8	溝 5	
207	甕A 3	14.40 5.15	茶黄褐色	良好	粗	長石、赤色 粒、石英	(口縁)押 圧	1/8	溝 5	スス付着
208	甕A 2	15.40 5.60	暗茶褐色	良好	普通	長石、雲母		1/16	溝 5	
209	甕B 3	20.00 11.10	暗茶褐色	良好	粗	石英、長石	(外)ハケ 6条/cm	5/16	溝 6	口縁部ス ス付着
210	甕B 3	12.00 9.00	赤褐色	良好	粗	石英、赤色 粒		1/4	溝 5	
211	甕B 3	14.80 10.30	淡褐色	堅緻	密	長石、赤色 粒、石英	(内)ハケ 7条/cm	3/16	溝 6	スス付着
212	甕B 3	13.70 10.50	淡褐色	堅緻	密	赤色粒	(内)ケズ リ	1/8	溝 5	
213	甕B 3	15.00 21.60	黄灰色	やや軟	普通	長石、石英 赤色粒	(外)ミガ キ	ほぼ 完存	溝 5	黒斑あり スス付着
214	甕B 3	15.80	暗茶褐色	良好	普通	長石、チャ ート		1/8	溝 7	
215	甕B 4	14.60 5.35	淡灰褐色	堅緻	密	石英、赤色 粒、チャ ート		1/16	溝 5	
216	甕B 3	12.00 7.85	淡茶褐色	良好	やや密	石英、長石 赤色粒	(内)ハケ 7~8 条/cm	1/8	溝 5	スス付着
217	甕B 4	16.60 18.50	黒褐色	堅緻	やや密	石英、長石 雲母	(内)ケズ リ	1/2	溝 7	
218	甕B 4	12.00 14.40	淡黄褐色	良好	密	チャート、 石英、赤色 粒		3/8	溝 5	
219	甕B 5	17.20 9.20	淡乳灰 褐色	良好	やや密	石英、長石		1/4	溝 5	スス付着
220	鉢A	17.00	茶褐色	良好	やや粗	石英、赤色 粒	(外)ミガ キ	1/8	溝 5	スス付着
221	鉢B	20.70 14.00	淡茶褐色	良好	やや密	石英、チャ ート、赤色 粒		7/8	溝 7	スス付着
222	高杯B	26.40 2.30	赤茶褐色	やや軟	普通	石英、長石 赤色粒		1/8	溝 5	
223	高杯A	25.80 7.00	赤褐色	良好	やや粗	石英、長石 赤色粒	(内)ハケ 4条/cm		溝 5	
224	高杯C	21.60 5.20	淡灰黄 褐色	良好	やや粗	石英、赤色 粒		1/8	溝 5	
225	脚柱部		淡褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	沈線文 5 条		溝 5	

226	脚部	11.60 8.05	淡褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒		完存	溝5	
227	脚部	9.20 8.20	黄褐色	良好	普通	石英、長石 雲母	(内)ケズ リ	3/8	溝5	
228	脚部	11.80 10.10	赤茶褐色	やや軟	普通	石英、チャ ート、長石 雲母		1/8	溝5	
229	底部	6.60 6.30	淡黄色	良好	普通	石英、長石 赤色粒、チ ャート	(内)ハケ 5条/cm	1/2	溝5	
230	底部	6.20 5.30	暗茶褐色	良好	普通	石英、赤色 粒、長石	(外)ミガ キ	1/2	溝5	
231	底部	6.60 5.30	赤茶褐色	やや軟	普通	赤色粒、石 英、長石、 チャート		完存	溝5	
232	底部	6.60 6.80	黄橙色	やや軟	やや密	長石、石英 赤色粒、チ ャート		1/2	溝5	
233	底部	19.50 19.00	淡褐色	堅緻	やや密	石英、長石	(内)ケズ リ	完存	溝5	スス付着
234	底部	7.20 14.75	白灰色	良好	やや粗	石英、赤色 粒、チャ ート	(外)ハケ 10条/cm	5/8	溝7	
235	底部	6.20 9.00	暗褐色	やや軟	粗	石英、長石 赤色粒		完存	溝6	
236	底部	8.70 9.00	淡橙褐色	やや軟	やや密	石英、チャ ート、赤色 粒	(内)指頭 痕	1/8	溝2	
237	底部	9.20 17.80	褐色	堅緻	普通	石英、長石 チャート、 赤色粒、雲 母	ハケ 5条/cm	1/16	溝7	
238	底部	6.00 8.00	黒灰褐色	良好	普通	石英、長石	(内)ケズ リ	1/2	溝6	
239	底部	7.20 15.20	淡黄灰色	良好	やや密	角礫状石英 長石、雲母	(内)ケズ リ	1/2	溝5	スス付着
240	底部	7.10 2.40	褐色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒		5/8	溝5	
241	底部	4.30 3.60	茶褐色	やや軟	やや粗	石英、長石 赤色粒		完存	溝5	
242	底部	10.60 21.00	淡褐色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒	(外)ハケ 4~5 条/cm	1/8	溝12	スス付着

243	無頸壺B	14.80 3.95	暗黒茶 褐色	良好	やや粗	石英、長石		1/12	溝12	
244	高杯	20.30 5.20	乳褐色	良好	やや密	赤色粒、雲 母、石英		1/32	溝15	スス附着
245	甕	9.20 3.50	褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒		1/12	溝14	
246	高杯A 2	26.60 7.00	淡褐色	堅緻	やや密	赤色粒、石 英、チャ ート		1/6	溝16	
247	底部	7.40 1.90	赤褐色	良好	やや粗	赤色粒、石 英		1/8	溝16	スス附着
248	甕B 1	13.80 3.40	褐色	やや軟	粗	赤色粒、長 石		1/12	溝17	スス附着
249	広口壺	14.20 4.60	灰色	良好	普通	石英、長石		1/8	溝24	
250	広口壺	— —	橙褐色	堅緻	密	石英、長石 赤色粒	(外)櫛描 き列点文		溝24	
251	直口壺	17.60 3.10	淡褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	刺突文	1/11	溝24	
252	底部	6.70 4.30	淡黄褐 色	良好	やや密	チャート		1/2	溝24	
253	底部	7.40 3.00	淡褐色	良好	やや粗	雲母、石英	ハケ 横ナデ	完存	溝24	
254	底部	12.00 8.75	赤褐色	堅緻	密	チャート、 石英、赤色 粒、雲母	ハケ	1/16	溝24	
255	底部	14.00 22.10	褐色	やや軟	普通	石英、長石 チャート		完存	溝25	所々スス 附着
256	鉢A	13.60 7.50	褐色	良好	やや粗	石英、長石		1/12	溝26	
257	脚柱部		褐色	良好	密	チャート、 石英、長石			溝26	
258	広口壺 A 2	13.40 6.60	淡黄灰 褐色	堅緻	やや密	チャート、 石英、赤色 粒		1/4	溝28	
259	甕B 3	18.00 4.60	暗褐色	良好	やや粗	長石、石英	(外)ハケ 12条/cm	1/8	溝32	スス附着
260	甕A 2	18.80 5.40	淡黄灰 色	良好	やや粗	長石、石英 赤色粒		1/5	溝32	
261	甕B 5	15.80 4.70	淡乳黒 褐色	良好	密	長石、石英		1/4	溝32	

262	広口壺	5.60 18.60	淡褐色 一部黒色	良好	普通	赤色粒、石英	(外)櫛描き直線文6条、弧文6条	1/2	溝27	黒斑あり
263	甕G	8.60 10.90	淡褐色	良好	やや密			1/8	溝27	
264	底部	10.00 2.00	淡赤褐色	良好	普通	石英、長石チャート		1/2	溝27	
265	底部	5.90 3.45	明赤褐色	良好	普通	赤色粒、石英、長石		1/2	溝27	
266	甕A 1	16.30 12.30	褐色	良好	普通	長石、赤色粒、石英	4~5方向のキザミ	3/4	溝27	スス付着
267	甕D	14.75 8.10	褐色	やや軟	やや粗	雲母、石英	(口縁)浅い刻み	1/6	溝27	
268	甕E	14.20 9.00	黄褐色	堅緻	普通	チャート、長石	(外)8条の櫛描き波状文	1/2	溝27	
269	甕A 1	28.00 17.20	淡褐色	良好	やや密	赤色粒、チャート、石英	ハケ	3/8	土坑4	スス付着
270	甕A 1	28.20 12.70	褐色	良好	やや密	雲母、長石チャート		1/8	土坑4	スス付着
271	甕A 3	16.60 4.00	淡橙黄褐色	良好	普通	赤色粒、チャート、石英	(外)ハケ10条/cm	1/5	土坑7	
272	底部	5.60 2.90		良好	やや密	石英、長石赤色粒		1/8	土坑7	
273	広口壺	16.10 1.00	淡乳橙灰色	堅緻	密	石英、チャート	(内・口縁)ヘラ圧痕突帯文	1/9	土坑11	
274	広口壺	25.40 2.30	淡乳茶白色	良好	やや密	石英、赤色粒、チャート	(口縁)刻み	1/24	土坑11	
275	直口壺	14.40 6.70	茶褐色	普通	やや粗	石英、赤色粒、雲母		1/4	土坑11	
276	底部	4.45		良好	やや粗	石英、赤色粒		1/8	土坑11	スス付着
277	広口壺	— —	淡褐色	堅緻	密	赤色粒、雲母、長石	(外)凹線文5条以上	1/8	土坑12	

278	甕B 4	16.60 4.10	暗褐色	良好	粗	石英、赤色 粒、長石、 雲母		1/8	土坑12	
279	底部	9.60 3.15		良好	密	石英、赤色 粒、長石		1/4	土坑12	
280	底部	3.70 4.00	黒茶褐色	堅緻	やや粗	石英、長石 赤色粒		完存	土坑12	スス付着
281	広口壺	18.70 1.40	褐色	良好	普通	石英、赤色 粒、長石	(口縁)綾 杉状の刻 み	1/10	土坑13	
282	細頸壺	7.00 6.50	淡褐色	良好	普通	石英、赤色 粒、長石	(外)凹線 文2条以 上	1/7	土坑13	
283	直口壺	15.80 3.80	淡乳灰 橙色	良好	密	チャート、 赤色粒、長 石	(外)凹線 文2条	1/10	土坑13	
284	底部	7.00 2.80	淡褐色 スス付 着	良好	やや粗	石英、赤色 粒		1/4	土坑13	
285	無頸壺C	15.40 4.70	淡乳赤 灰色	堅緻	やや密	赤色粒、長 石、チャー ト	(外)凹線 文5条	1/9	土坑17	
286	底部	6.10 2.70	淡橙灰 色	良好	粗	石英、雲母 赤色粒		3/8	土坑17	
287	底部	6.00 2.30	暗茶褐 色	良好	やや粗	長石、石英 赤色粒		1/2	土坑17	
288	甕A 1	17.70 23.40	黄褐色	良好	普通	石英、長石 花崗岩の礫		1/2	土坑16	
289	広口壺 C 2	18.80 5.20	灰褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		1/16	土坑18	
290	甕B 3	18.60 3.20	褐色	良好	やや粗	赤色粒、石 英		1/16	土坑18	
291	広口壺	— —	茶褐色	良好	やや密	赤色粒、チ ャート	(外)櫛描 き波状文 4条 孤文4条			土器溜ま り1
292	広口壺	— 9.90	淡褐色	良好	やや密	雲母、赤色 粒、石英、 長石	(外)櫛描 き直線文 波状文 孤文5条	完存	土器溜ま り1	
293	甕G	16.00 8.10	淡褐色	堅緻	やや密	赤色粒、チ ャート		3/8	土器溜ま り1	
294	甕G	15.40 16.20	黄灰色	良好	やや密	石英、雲母 チャート	(外)刺突 文	1/2	土器溜ま り1	スス付着

295	無頸壺 A	8.40 15.00	淡黒灰色	良好	普通	チャート、 石英	(外)櫛描 き直線文 波状文8 条	1/4	土器溜ま り1
296	甕 F	33.60 7.10	淡褐色	堅緻	普通	赤色粒、石 英、チャ ート		1/8	土器溜ま り1
297	甕 E	23.10 7.60	淡明褐色	堅緻	密	石英、長石 赤色粒		3/16	土器溜ま り1
298	甕 A 2	16.00 5.20	暗茶褐色	良好	やや粗	石英、赤色 粒、長石、 雲母		1/4	土器溜ま り1
299	甕 F	20.00 5.90	黒褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒		3/16	土器溜ま り1
300	底部	6.20 3.40	黒褐色	良好	やや粗	長石、石英 チャート		5/8	土器溜ま り1
301	底部	5.25 1.50	淡黄灰 橙色	良好	密	石英、長石 チャート		1/4	土器溜ま り1
302	底部	6.30 3.60	淡明赤 白茶褐色	堅緻	やや密	長石、石英 赤色粒		完存	土器溜ま り1
303	底部	6.20 2.60	茶褐色	良好	普通	雲母、長石		1/2	土器溜ま り1
304	底部	4.80 5.60	淡橙黄色	良好	密	石英、長石 チャート		1/4	土器溜ま り1
305	底部	9.70 3.00	淡褐色	良好	普通	石英、チャ ート、赤色 粒		1/2	土器溜ま り1
306	広口壺 A 2	19.60 30.40	淡黄灰 色	堅緻	普通	石英、長石 チャート		完形	Lトレン チ包含層
307	広口壺 A	12.80 22.00	淡灰色	良好	普通	石英、長石		完形	包含層
308	広口壺 B	12.00 27.20	暗茶褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒	(外)下半 ミガキ	完形	包含層
309	広口壺 B	14.00 24.80	淡黄灰 色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		完形	包含層
310	水差形土 器 B	10.80 26.60	暗緑灰 色	良好	やや粗	石英、長石	(外)凹線 文3条	完形	Lトレン チ包含層
311	甕 A 1	16.80 22.80	茶褐色	やや軟	普通	石英、長石 赤色粒	(外)下半 ミガキ	完形	Lトレン チ包含層
312	高杯 A 2	30.00 23.00	淡黄褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒		完形	Lトレン チ包含層

313	高杯B 2	24.00 14.40	淡灰褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(内)ミガキ	完形	Lトレン チ包含層	
314	壺	13.60 23.20	暗褐色	堅緻	普通		(外)ミガキ	完形	包含層	
315	ジョッキ 形土器	12.40 12.40	淡黄灰色	良好	普通		(外)櫛描 き列点文 ・波状文	完存	包含層	

付表16 弥生時代後期～古墳時代前期土器観察表

番号	器種	口径及 び底径 残存高 (cm)	色調	焼成	胎土	調整 手法及 び文様	口縁部 ・底部 残存度	出土遺構	備考
316	壺A 1	13.00 10.00	淡褐色	良好	普通	石英、長石	(口縁)擬 凹線2条	3/4	堅穴7
317	壺A 1	15.00 9.65	淡赤褐色	堅緻	密	石英、赤色 粒	(口縁)擬 凹線5条	1/8	堅穴7
318	壺D 1	15.20 5.35	淡褐色	良好	普通	長石	(口縁)擬 凹線3条	3/16	堅穴7
319	壺B 2	12.60 5.90	淡褐色	堅緻	密	石英、雲母	(口縁)ナ デ	3/16	堅穴7
320	壺C 2	12.20 13.20	淡褐色	良好	普通	赤色粒、灰 色系礫		1/4	堅穴7
321	甕A 2	14.80 2.50	淡褐色	良好	密	赤色粒、石 英	(口縁)擬 凹線2条	5/16	堅穴7
322	甕A 3	15.60 3.40	暗褐色	堅緻	密	石英、長石	(口縁)擬 凹線4条	1/4	堅穴7
323	甕A 3	15.10 4.00	暗褐色	堅緻	密	石英、長石	(口縁)擬 凹線4条	1/4	堅穴7
324	高杯A	23.40 26.00	褐色	堅緻	普通	石英、赤色 粒		1/16	堅穴7
325	脚部	21.00 7.50	淡灰褐色	堅緻	密	雲母		1/16	堅穴7
326	脚部	14.50 3.80	灰褐色	堅緻	密	石英、赤色 粒		1/4	堅穴7
327	脚部	17.50 4.10	褐色	堅緻	普通	石英、赤色 粒		3/16	堅穴7
328	底部	3.10 5.20	淡灰褐色	堅緻	普通	石英	(内)ケズ リ	完存	堅穴7
329	底部	4.40 3.20	褐色	堅緻	普通	石英	(内)ケズ リ	完存	堅穴7
330	甕D 3	17.00 20.00	淡褐色	良好	密	長石、チャ ート、赤色 粒	(外)タタ キ	1/2	堅穴11

331	甕D 2	18.00 7.20	橙褐色	やや軟	やや密	石英、雲母	(内)ヘラ ケズリ (外)タタ キ	1/4	竪穴11	
332	甕B 2	23.00 3.60	橙褐色	良好	やや密	石英、雲母 長石、赤色 粒		1/8	竪穴11	
333	鉢C	10.80 7.80	橙褐色	やや軟	普通	石英		1/2	竪穴11	
334	壺B 2	13.20 8.70	褐色	堅緻	普通	雲母、長石 石英		3/8	竪穴12	
335	壺C 2	17.00 6.60	橙褐色	堅緻	やや粗	長石、石英 赤色粒		3/16	竪穴12	
336	甕B 1	14.60 3.50	褐色	良好	普通	石英、雲母	(口縁)ナ デ	1/8	竪穴12	
337	甕A 1	10.00 2.40	淡褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒	(口縁)擬 凹線2条	1/4	竪穴12	
338	甕A 1	16.20 2.60	淡褐色	良好	普通	石英、長石 チャート	(口縁)擬 凹線3条	1/4	竪穴12	スス付着
339	甕A 1	15.40 4.10	褐色	良好	普通	石英、赤色 粒、長石	(口縁)擬 凹線2条	3/16	竪穴12	
340	甕A 1	15.75 3.00	茶褐色	良好	普通	長石	(口縁)擬 凹線2条	1/2	竪穴12	
341	甕A 1	14.30 2.90	赤褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬 凹線2条	1/4	竪穴12	
342	甕A 1	14.60 4.00	淡褐色	堅緻	普通	円礫状石英	(口縁)ナ デ	3/16	竪穴12	
343	甕A 1	14.30 2.85	橙褐色 黒斑	良好	普通	石英、長石	(口縁)擬 凹線2条	1/4	竪穴12	
344	甕A 1	14.70 4.45	淡褐色	良好	やや粗	長石、チャ ート、石英	(口縁)擬 凹線2条	1/16	竪穴12	
345	甕A 2	14.40 4.20	褐色	良好	普通	石英、長石	(口縁)擬 凹線2条	1/8	竪穴12	
346	甕A 2	15.80 2.30	橙褐色	良好	やや粗	赤色粒、石 英、長石、 チャート	(口縁)擬 凹線2条	5/16	竪穴12	
347	甕A 2	15.00 6.00	褐色	良好	普通	長石、石英 雲母	(口縁)擬 凹線2条	1/4	竪穴12	
348	甕A 3	13.80 5.30	黒灰褐 色	堅緻	普通	長石、石英	(口縁)擬 凹線3条	1/8	竪穴12	
349	甕A 3	15.40 3.30	橙褐色	良好	普通	石英、長石	(口縁)擬 凹線4条	5/16	竪穴12	

350	甕B 2	13.40 5.40	橙褐色	良好	普通	石英、長石	ヘラ削り (口縁)ナ デ	3/16	竪穴12	
351	甕A 1	14.45 10.90	赤褐色	普通	普通	チャート、 長石	(口縁)擬 凹線2条	7/8	竪穴12	
352	甕A 1	18.20 7.95	褐色	良好	普通	石英、長石 チャート	(口縁)擬 凹線2条	1/4	竪穴12	
353	甕A 4	26.20 12.00	褐色	良好	やや粗	チャート、 赤色粒、長 石、石英	(口縁)擬 凹線3条	3/16	竪穴12	
354	鉢A 1	14.20 8.20	橙褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		3/16	竪穴12	
355	鉢B	19.20 7.70	淡黄褐色	良好	普通	角礫状石英 長石		1/8	竪穴12	
356	鉢脚部	14.20 7.80	赤褐色	良好	やや粗	長石、赤色 粒		完存	竪穴12	
357	高杯A	28.20 4.00	淡黄褐色	良好	密	長石、石英 雲母		1/16	竪穴12	
358	鉢	9.80 3.40	明褐色	良好	良	石英、長石 赤色粒		3/16	竪穴12	
359	脚部	17.50 3.10	朱が付 着	良好	普通	石英、長石 赤色粒		3/16	竪穴12	
360	器台A 1	16.95 12.50	淡赤黄 褐色	良好	密	長石、赤色 粒、石英	(内)ミガ キ	1/8	竪穴12	
361	底部	4.30 9.80	淡褐色	やや軟	普通	長石、赤色 粒		完存	竪穴12	
362	底部	5.00 2.30	赤褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		底部 5/16	竪穴12	
363	底部	4.80 2.60	橙褐色	良好	普通	長石		1/8	竪穴12	スス付着
364	底部	3.20 2.50	淡黄褐色	普通	密	長石、赤色 粒		完存	竪穴12	
365	底部	11.90 3.60	暗黄褐色	良好	普通	長石、赤色 粒		底部 3/8	竪穴12	
366	底部	4.10 3.00	淡灰褐色	普通	普通	長石		完存	竪穴12	
367	底部	4.80 4.40	橙黄褐色	良好	普通	石英、赤色 粒		完存	竪穴12	
368	壺K	15.40 14.00	(外)茶 褐色	やや軟	普通	石英、長石		3/16	竪穴13	
369	壺K	14.35 7.80	淡乳灰 黄色	良好	普通	石英、長石		7/16	竪穴13	

370	甕 F 2	16.80 11.35	淡橙黄 褐色	良好	普通	長石、赤色 粒、雲母、 チャート		3/4	竪穴13	スス付着
371	甕	13.40 3.60	淡褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		1/2	竪穴13	
372	甕 A 1	9.20 3.30	淡褐色	良好	普通	石英、長石		3/16	竪穴13	
373	甕 F 1	33.40 12.30	淡褐色	やや軟	普通	赤色粒、石 英、長石、 チャート		3/16	竪穴13	
374	甕 A 1	25.30 4.00	淡褐色	良好	普通	赤色粒、長 石	(口縁)擬 凹線3条	1/16	竪穴13	
375	高杯 A	30.10 2.80	褐色	やや軟	普通	石英、長石 赤色粒		1/16	竪穴13	
376	高杯 E	21.70 7.30	淡褐色	やや軟		石英、長石 チャート、 赤色粒			竪穴13	
377	鉢 H	19.30 9.25	淡褐色	やや軟	普通	石英、長石 チャート		7/8	竪穴13	
378	高杯 A	23.20 3.40	淡褐色	やや軟	良	長石、赤色 粒		1/8	竪穴13	
379	底部	9.80 7.00	(外)淡 褐色 一部赤 褐色	良好	良	角礫状石英		底部 1/4	竪穴13	
380	底部	5.50 13.40	淡橙黄 褐色	良好	良	雲母		底部 完存	竪穴13	
381	底部	5.70 7.40	(外)褐 色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		底部 完存	竪穴13	
382	底部	3.80 2.80	(外)橙 褐色	堅緻	普通	石英、赤色 粒		底部 完存	竪穴13	
383	壺 D 2	13.40 4.90	黄褐色	良好	普通	石英		3/16	竪穴14	
384	甕 A 2	15.80 2.80	茶褐色	良好	やや粗	石英、赤色 粒	(口縁)擬 凹線3条	1/8	竪穴14	
385	甕 A 3	15.00 5.80	淡褐色	良好	普通	長石、赤色 粒	(口縁)擬 凹線2条	1/16	竪穴14	
386	甕 A 3	13.90 3.00	暗黒褐 色	良好	普通	長石	(口縁)擬 凹線3条	1/8	竪穴14	
387	甕 A 1	18.60 2.70	褐色	良好	普通	長石、赤色 粒	(口縁)擬 凹線2条	1/8	竪穴14	
388	甕 A 3	16.80 9.00	黒褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒、チ ャート	(口縁)擬 凹線5条	1/16	竪穴14	

389	甕A 3	15.00 2.20	褐色	良好	良	石英、長石	(口縁)擬 凹線3条	1/8	竪穴14	
390	甕A 3	14.90 2.50	淡褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬 凹線5条	3/16	竪穴14	
391	甕A 3	22.40 2.80	淡黄茶 色	堅緻	密	雲母、長石 赤色粒	(口縁)擬 凹線4条	1/16	竪穴14	
392	甕A 1	24.90 3.00	淡乳黄 白色	良好	普通	赤色粒、石 英、雲母	(口縁)擬 凹線4条	1/8	竪穴14	
393	甕A 3	15.90 2.30	褐色	良好	普通	長石、石英	(口縁)擬 凹線3条	1/16	竪穴14	
394	甕A 3	20.00 3.80	褐色	良好	普通	長石、石英 チャート、 赤色粒	(口縁)擬 凹線3条	1/8	竪穴14	
395	甕B 2	19.80 4.30	淡褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒	(口縁)ナ デ	3/16	竪穴14	
396	甕B 2	19.70 4.10	赤褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(口縁)ナ デ	1/16	竪穴14	
397	甕B 2	19.20 4.30	明赤淡 褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒	(口縁)ナ デ	1/16	竪穴14	
398	甕B 2	15.20 6.20	淡褐色	良好	普通	円礫状石英 長石、赤色 粒	(口縁)ナ デ	1/4	竪穴14	
399	甕B 2	17.35 3.70	淡赤褐 色	良好	普通	長石、石英 赤色粒	(口縁)ナ デ	1/8	竪穴14	
400	甕B 2	15.80 7.90	褐色	良好	普通	円礫状石英	(口縁)ナ デ	1/2	竪穴14	
401	鉢A 2	31.80 9.20	褐色	良好	普通	円礫状石英 長石	(口縁)ナ デ	1/8	竪穴14	スス付着
402	甕B 2	15.20 7.70	淡褐色	良好	密	石英、長石 チャート	(口縁)ナ デ	3/8	竪穴14	スス付着
403	甕B 2	14.20 2.70	橙褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒	(口縁)ナ デ	1/4	竪穴14	
404	鉢A 1	12.60 3.30	褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒		1/8	竪穴14	
405	高杯B 2	30.20 5.50	茶褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒	(口縁)擬 凹線5条	1/8	竪穴14	
406	高杯A 2	25.20 2.10	赤褐色	良	密	長石、雲母		1/8	竪穴14	
407	器台	21.10 2.80	淡茶褐 色	良好	普通	長石、石英 赤色粒	(口縁)擬 凹線4条	3/16	竪穴14	
408	蓋	4.10 4.70	褐色	良	普通	雲母、赤色 粒、石英、 長石		完存	竪穴14	

409	蓋	4.30 3.70	淡黄褐色	やや軟	普通	石英、長石 赤色粒		完存	竪穴14	
410	底部	2.40 2.40	黄褐色	良好	密	長石、赤色 粒		完存	竪穴14	
411	底部	4.00 5.70	淡褐色	普通	普通	長石、赤色 粒、石英		完存	竪穴14	
412	底部	2.85 5.40	淡赤褐色	良好	普通	長石、石英 雲母		完存	竪穴14	
413	底部	2.65 4.80	淡黄褐色	普通	普通	石英、長石		完存	竪穴14	
414	底部	2.70 2.20	淡褐色	普通	普通	石英、長石 赤色粒		完存	竪穴14	
415	底部	31.80 4.40	褐色	良好	普通	石英、長石		完存	竪穴14	
416	壺C 2	16.60 4.60	茶褐色	良好	密	長石、赤色 粒	(口縁)ナ デ	1/4	竪穴15	
417	壺D 2	15.80 6.10	黒褐色	良好	密	長石、チャ ート	(口縁)ナ デ	3/16	竪穴15	スス付着
418	甕B 2	15.60 5.25	淡褐色	良	普通	長石、赤色 粒	(口縁)ナ デ	3/8	竪穴15	
419	甕A 2	15.80 3.20	淡褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒	(口縁)擬 凹線2条	3/16	竪穴15	
420	甕A 2	21.40 2.00	褐色	良好	普通	石英、雲母	(口縁)擬 凹線2条	1/8	竪穴15	
421	甕A 3	17.00 10.80	淡褐色	やや軟	普通	長石、石英 チャート	(口縁)擬 凹線3条	1/4	竪穴15	
422	高杯A	30.60 3.20	淡褐色	堅緻	密	石英、雲母		1/16	竪穴15	
423	蓋	3.00 2.30	濃褐色	良好	粗	石英、赤色 粒		3/8	竪穴15	
424	高杯A	32.20 3.60	褐色	堅緻	密	長石、赤色 粒、雲母		1/16	竪穴15	
425	高杯A	20.60 1.90	灰褐色	良好	普通	長石、石英		1/16	竪穴15	
426	高杯C	18.40 5.00	黒褐色	良好	良	石英、長石 赤色粒		1/8	竪穴15	
427	底部	3.00 8.00	淡褐色	良好	普通	石英、長石		3/8	竪穴15	
428	底部	6.00 3.10	褐色	良好	密	長石、石英 雲母		1/4	竪穴15	
429	底部	5.00 2.10	赤褐色	良好	良	長石、石英		1/8	竪穴15	
430	底部	4.20 5.20	淡褐色	良好	良	長石、石英 赤色粒	ハケ	1/2	竪穴15	

431	底部	4.60 7.90	暗褐色	良好	良	石英、長石 赤色粒	ハケ	1/2	竪穴15	
432	脚部	9.80 6.10	赤褐色	良好	密	長石、赤色 粒		1/4	竪穴15	
433	脚部	18.60 4.20	暗褐色	良好	普通	長石、赤色 粒、チャ ート		3/16	竪穴15	
434	脚部	21.40 3.90	淡褐色	堅緻	密	雲母、石英		1/16	竪穴15	
435	壺C 1	14.70 4.10	橙褐色	良好	普通	石英、赤色 粒、長石	(口縁)擬 凹線2条	1/4	竪穴16	
436	壺B 1	11.30 5.70	明褐色	良好	普通	石英、赤色 粒、長石	(口縁)擬 凹線2条	1/4	竪穴16	
437	壺A 2	11.60 5.80	赤褐色	良好	やや密	石英、赤色 粒、長石	(口縁)ナ デ	3/16	竪穴16	
438	甕B 2	17.70 4.00	淡灰褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(口縁)ナ デ	3/16	竪穴16	
439	甕A 1	18.00 4.25	褐色	良好	密	石英、長石 雲母	(口縁)擬 凹線2条	1/8	竪穴16	
440	甕A 3	17.80 4.10	黄褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬 凹線3条	1/8	竪穴16	
441	甕A 3	23.40 2.90	褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬 凹線4条	1/16	竪穴16	
442	鉢A 1	11.40 6.40	淡褐色	やや軟	普通	赤色粒、長 石		5/8	竪穴16	
443	鉢D	10.00 6.10	暗茶褐色	良好	普通	石英、赤色 粒		完存	竪穴16	
444	鉢C	7.65 3.50	淡灰褐色	良好	良好	石英、長石 赤色粒		完存	竪穴16	
445	高杯A	28.65 5.40	褐色	やや軟	普通	石英、長石 赤色粒		7/16	竪穴16	
446	高杯A	27.30 3.80	褐色	良好	良	長石、雲母		3/16	竪穴16	
447	高杯B 1	19.10 5.60	淡黄暗 褐色	堅緻	密	長石、雲母	(口縁)擬 凹線4条	1/8	竪穴16	
448	高杯B 2	29.20 4.80	淡茶褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬 凹線5条	1/4	竪穴16	
449	蓋	14.00 6.00	赤褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		完形	竪穴16	
450	高杯B 2	27.40 4.70	橙褐色	良好	普通	長石、チャ ート、石英	(口縁)擬 凹線5条	1/8	竪穴16	
451	器台A 3	23.60 3.30	黄褐色	やや軟	普通	長石、チャ ート	(口縁)擬 凹線6条	3/16	竪穴16	

452	器台 A 4	22.70 4.80	赤褐色	やや軟	普通	石英、長石 赤色粒、雲 母	(口縁)擬 凹線 4 条	1/4	堅穴16	
453	器台	17.60 15.80	褐色	良好	普通	石英、長石 雲母		完存	堅穴16	
454	底部	16.00 5.80	暗褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		完存	堅穴16	スス付着
455	底部	3.80 8.10	暗黒褐 色	良好	普通	石英		完存	堅穴16	スス付着
456	甕 A 3	23.20 4.60	明褐色	良好	普通	長石、赤色 粒	(口縁)擬 凹線 4 条	1/16	堅穴17	
457	甕 A 3	23.00 3.70		良好	普通	長石、赤色 粒	(口縁)擬 凹線 5 条	1/8	堅穴17	
458	甕 A 3	16.40 10.10	淡赤褐 色	やや軟	普通	長石、赤色 粒	(口縁)擬 凹線 3 条	3/8	堅穴17	
459	甕 A 3	13.00 8.10	淡黄褐 色	やや軟	普通	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬 凹線 3 条	3/16	堅穴17	
460	甕 B 2	18.50 3.70	橙褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(口縁)ナ デ	1/8	堅穴17	
461	甕 B 2	18.65 3.20	橙褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(口縁)ナ デ	1/8	堅穴17	
462	甕 B 2	16.40 4.00	淡黄茶 褐色	やや軟	普通	石英、長石 赤色粒、鎖 礫	(口縁)ナ デ	1/8	堅穴17	
463	甕 B 2	18.30 4.50	橙褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(口縁)ナ デ	1/8	堅穴17	
464	蓋	11.55 5.90	淡赤褐 色	良好	普通	長石、石英 赤色粒		1/4	堅穴17	
465	蓋	4.60 4.50	赤褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒		完存	堅穴17	
466	蓋	13.30 8.25	淡褐色	やや軟	普通	長石、石英 赤色粒		完形	堅穴17	
467	脚部	13.60 2.60	黄褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒		3/16	堅穴17	
468	底部	3.60 5.30	淡褐色	良好	密	長石、石英 赤色粒		完存	堅穴17	
469	甕 B 2	18.80 6.50	暗褐色	良好	密	石英、赤色 粒	(口縁)ナ デ	1/2	堅穴25	
470	蓋	4.70 4.40	茶褐色	良好	普通			完存	堅穴25	
471	底部	3.15 7.20	暗褐色	やや軟	普通	石英、赤色 粒		完存	堅穴25	

472	壺E	11.15 13.70	褐色	やや軟	普通	長石、雲母	(口縁)綾杉状の刻み	1/4	土器溜まり2
473	壺A 2	8.90 4.00	灰褐色	良好	やや密	石英、長石 赤色粒		3/8	土器溜まり2
474	壺C 1	16.20 5.95	褐色	良好	普通	石英、雲母	(口縁)擬凹線3条	1/16	土器溜まり2
475	甕A 3	20.40 2.80	灰白色	良好	やや密	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬凹線4条	1/4	土器溜まり2
476	甕A 3	15.70 6.00	灰白色	良好	やや密	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬凹線5条	1/16	土器溜まり2
477	甕A 3	17.40 2.50	灰白色	良好	やや密	石英、赤色粒	(口縁)擬凹線4条	1/4	土器溜まり2
478	甕A 1	19.60 8.00	淡褐色	軟	普通	長石	(口縁)擬凹線2条	7/8	土器溜まり2
479	甕A 3	16.80 4.95	灰白色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬凹線3条	1/4	土器溜まり2
480	甕A 3	12.60 4.50	灰白色	良好	やや密	石英、雲母	(口縁)擬凹線4条	1/4	土器溜まり2
481	甕B 2	15.20 10.80	淡黄灰色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(内)ケズリ	1/4	土器溜まり2
482	甕B 2	13.20 8.80	淡黄灰色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(内)ケズリ	1/4	土器溜まり2
483	鉢A	13.20 8.80	淡黄灰色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒		完形	土器溜まり2
484	鉢E	10.00 7.00	茶褐色	堅緻	密	石英、長石 赤色粒	(外)ミガキ	完形	土器溜まり2
485	鉢D	11.20 3.60	淡褐色	堅緻	密	石英、長石 赤色粒	(口縁)沈線2条	1/4	土器溜まり2
486	脚部	7.60 4.80	淡黄灰色	堅緻	密	石英、長石 赤色粒	(外)ミガキ	完存	土器溜まり2
487	器台A 2	21.60 4.00	淡黄灰色	良好	密	石英、長石 赤色粒	(口縁)ヘラ描き波状文	3/16	土器溜まり2
488	器台A 2	22.00 3.20	淡黄灰色	良好	密	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬凹線6条	1/8	土器溜まり2
489	器台A 4	20.80 6.40	淡黄灰色	良好	密	石英、長石 赤色粒	(口縁)擬凹線3条	1/8	土器溜まり2
490	脚部	18.40 6.00	淡褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒		1/8	土器溜まり2
491	脚部	18.00 6.40	淡褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒		1/8	土器溜まり2
492	脚部	17.60 4.80	淡褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒		1/4	土器溜まり2

493	底部	2.00 48.00	淡褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		1/4	土器溜ま り2	
494	底部	3.60 4.40	淡褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		1/2	土器溜ま り2	
495	底部	5.20 7.60	淡黄灰 色	堅緻	普通	石英、長石 赤色粒		1/4	土器溜ま り2	
496	底部	2.80 6.40	淡黄灰 色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		1/4	土器溜ま り2	
497	底部	— 6.40	淡黄灰 色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		1/4	土器溜ま り2	
498	底部	3.60 4.40	淡黄灰 色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		1/8	土器溜ま り2	
499	底部	— 5.20	淡黄灰 色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		1/4	土器溜ま り2	
500	鉢F	10.00 6.40	淡茶褐 色	良好	密	石英、長石 黒灰色礫、 赤色粒		1/16	土器溜ま り3	
501	壺J	— 8.80	淡茶褐 色	良好	やや密	石英、長石 赤色粒	(口縁)櫛 描き波状 文5条	完存	土器溜ま り3	
502	壺I	13.60 15.20	淡茶褐 色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		15/16	土器溜ま り3	
503	甕D 1	17.00 6.00	褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(外)タタ キ、ハケ	15/16	土器溜ま り3	
504	甕D 1	16.40 23.20	橙褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(外)タタ キ	1/4	土器溜ま り3	
505	甕D 1	16.20 2.40	橙褐色	良好	やや密	石英、長石 赤色粒、礫	(外)タタ キ	1/4	土器溜ま り3	
506	甕C	14.60 9.50	黄褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒	(外)タタ キ	5/8	土器溜ま り3	
507	甕D 2	14.40 12.40	茶褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(外)タタ キ	3/8	土器溜ま り3	
508	高杯	21.40 7.10	淡褐色	良好	やや密	石英、長石 赤色粒、チ ャート		1/2	土器溜ま り3	
509	脚部	10.40 7.20	黄褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒		1/4	土器溜ま り3	
510	底部		茶褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(外)タタ キ	完存	土器溜ま り3	
511	甕F 1	20.80 5.70	淡褐色	良好	普通	長石、石英 赤色粒		1/16	土器溜ま り4	
512	壺F	26.80 5.20	橙褐色	堅緻	普通	石英、長石		1/8	土器溜ま り4	

513	壺	29.80 7.30	赤茶褐色	堅緻	密	石英		1/2	土器溜まり4	
514	壺H	25.20 7.00	淡褐色	堅緻	密	石英		1/2	土器溜まり4	
515	甕F 2	16.80 5.10	淡灰褐色	良好	普通	長石、赤色粒		1/4	土器溜まり4	
516	壺F	17.10 5.10	淡灰褐色	良好	普通	石英、長石赤色粒		3/8	土器溜まり4	
517	壺G	10.50 20.85	淡橙褐色	堅緻	密	石英、長石雲母	(外)ミガキ	完形	土器溜まり4	
518	壺G	11.20 19.65	淡茶褐色	良好	密	石英、長石赤色粒、雲母	(外)ミガキ	1/2	土器溜まり4	黒斑
519	甕D 3	14.80 9.50	茶褐色	堅緻	普通	石英、長石	(外)タタキ	1/4	土器溜まり4	
520	甕D 3	17.20 7.20	灰褐色	良好	普通	石英、長石赤色	(外)タタキ	5/16	土器溜まり4	
521	甕D 3	16.30 5.00	淡赤褐色	堅緻	密	石英、赤色粒、雲母	(外)タタキ	5/16	土器溜まり4	
522	甕D 3	16.40 4.10	橙褐色	堅緻	密	石英、長石赤色粒	(外)タタキ	3/16	土器溜まり4	
523	甕D 3	14.40 5.80	乳白色	良好	やや密	石英、長石雲母	(外)タタキ	1/4	土器溜まり4	スス付着
524	甕D 3	15.60 3.50	淡橙褐色	良好	普通	石英、長石赤色粒	(外)タタキ	1/8	土器溜まり4	
525	甕D 3	17.60 3.50	灰色	良好	やや密	石英、長石赤色粒	(外)タタキ	1/8	土器溜まり4	スス付着
526	甕D 4	11.75 13.50	茶褐色	堅緻	普通	長石、石英	(外)タタキ	5/8	土器溜まり4	スス付着
527	甕D 3	13.10 5.60	赤褐色	良好	普通	石英、赤色粒	(外)タタキ	1/16	土器溜まり4	
528	甕D 3	14.30 6.40	淡茶褐色	堅緻	やや密	石英、長石	(外)タタキ	1/8	土器溜まり4	
529	甕E	29.40 6.60	灰白色	堅緻	密	石英		1/8	土器溜まり4	
530	甕	— 17.60	淡黄褐色	やや軟	やや密	石英、長石	(外)タタキ	1/2	土器溜まり4	
531	甕E	16.20 19.20	(外)淡黄乳褐色	良好	やや密	石英、長石赤色粒、雲母		1/16	土器溜まり4	
532	底部	4.40 2.90	淡茶褐色	良好	普通	雲母、石英チャート		完存	土器溜まり4	
533	底部	— 2.20	橙褐色	良好	普通	石英		—	土器溜まり4	

534	底部	3.80 4.95	灰白色	堅緻	普通	チャート、 石英		完存	土器溜ま り4
535	底部	5.00 4.20	茶褐色	堅緻	やや密	石英、長石	(外)ケズ リ	3/4	土器溜ま り4
536	底部	5.80	茶褐色	良好	やや密	石英、赤色 粒	(外)タタ キ	完存	土器溜ま り4
537	鉢G	—	淡茶褐 色	良好	密	石英、赤色 粒、雲母	(外)ミガ キ	1/4	土器溜ま り4
538	高杯D	11.80 3.60	淡褐色	良好	普通	石英、雲母		1/8	土器溜ま り4
539	器台B	8.85 6.20	乳白色	堅緻	密	石英、長石 雲母	(外)ミガ キ	1/2	土器溜ま り4
540	高杯D	12.60 5.40	橙褐色	良好	普通	長石、石英	(外)ミガ キ	1/2	土器溜ま り4
541	ミニチュ ア土器	4.70 3.80	灰白色	良好	普通	石英、雲母 チャート	指ナデ	完存	土器溜ま り4
542	ミニチュ ア土器	5.90 4.80	黒色	堅緻	密	石英		完存	土器溜ま り4
543	脚部	15.10 4.00	褐色	堅緻	普通	石英、長石		3/16	土器溜ま り4
544	脚部		淡褐色	良好	密	石英		完存	土器溜ま り4
545	脚部	5.50	赤褐色	堅緻	普通	石英、雲母		—	土器溜ま り4
546	脚部		淡褐色	堅緻	密	長石、チャ ート		—	土器溜ま り4

付表17 古墳時代中期土器観察表

番号	器種	口径 残存高 (cm)	色調	焼成	胎土		調整 手法及 び文様	口縁部 ・底部 残存度	出土遺構	備考
547	甕A 2	17.10 4.35	淡赤褐 色	堅緻	普通	長石、石英		1/4	堅穴 2	
548	壺D	6.60 6.00	淡赤褐 色	良好	普通	長石、石英		1/4	堅穴 2	
549	壺D	—	淡褐色	良好	普通	—		—	堅穴 2	
550	高杯A	14.08 4.80	淡赤褐 色	やや軟	密	—		1/16	堅穴 2	
551	甕B	15.00 26.80	橙褐色	良好	普通	チャート、 長石、石英 雲母		1/2	堅穴 3	
552	甕C	11.70 24.20	淡褐色	軟	やや粗	石英、長石 礫		完形	堅穴 3	

553	壺A	10.80 17.20	茶褐色	堅緻	普通	チャート、 長石、赤色 粒	(内)ケズ リ	7/8	堅穴3	スス付着
554	壺D	8.00 8.50	橙褐色	やや軟	やや粗	長石、石英 赤色粒		7/8	堅穴3	
555	壺D	8.70	淡黄褐色	良好	密	長石、赤色 粒、雲母		1/4	堅穴3	
556	壺A	9.80 5.80	淡灰色	やや軟	普通	長石、チャ ート、石英		7/8	堅穴3	
557	脚部	6.40 11.20	淡茶褐色	やや軟	やや粗	チャート 石英、長石			堅穴3	
558	須恵器 杯蓋	12.20 4.10	暗青灰色	良好	普通			1/8	堅穴4	
559	甕	13.90 3.00	淡褐色	良好	やや粗	赤色粒が目 立つ		1/8	堅穴4	
560	壺B	9.00 12.30	淡橙色	良好	普通	石英、長石 雲母、赤色 粒		完形	堅穴4	底部(穿 孔)
561	高杯C	14.10 11.60	淡橙褐色	軟	普通	石英、長石 赤色粒			堅穴4	
562	須恵器 甕	47.20 4.50	暗青灰色	良好	普通	石英		1/16	堅穴5 埋土	
563	須恵器 杯蓋	9.70 3.80	淡青灰色	良好	普通	黒色粒		1/8	堅穴5 埋土	(外)自然 釉
564	甕A2	15.60 7.30	淡褐色	良好	普通	赤色粒、石 英、チャ ート		完存	堅穴5	
565	甕B	15.00 8.90	淡褐色	堅緻	密	赤色粒		1/4	堅穴5	
566	甕B	15.40 10.50	乳白色	良好	やや粗	赤色粒、チャ ート、長 石		ほぼ 完存	堅穴5	
567	甕B	14.00 12.70	淡褐色	良好	普通	雲母、石英 長石、チャ ート		ほぼ 完形	堅穴5	スス付着
568	甕B	15.80 1.70	淡赤褐色	良好	普通	石英、長石 赤色粒	(内)ケズ リ	1/2	堅穴5	スス付着
569	甕	—	淡褐色	良好	密	赤色粒、チャ ート	(内)ケズ リ		堅穴5	
570	甕B	14.00 25.50	淡褐色	良好	密	赤色粒、長 石、チャ ート	(内外面 とも)ハケ	ほぼ 完存	堅穴5	
571	甕B	12.60 6.00	乳白色	堅緻	密	石英、赤色 粒		1/4	堅穴5	

572	甕B	13.00 7.80	淡赤褐色	堅緻	密	石英、チャート	(内外面とも)ハケ	1/2	堅穴5	
573	甕B	15.60 25.30	黒灰色	良好	密	チャート、長石		1/4	堅穴5	
574	甕B	16.40 4.60	赤褐色	良好	密	長石		1/4	堅穴5	
575	甕B	15.60 4.00	乳白色	堅緻	密	長石、石英 チャート		1/8	堅穴5	
576	甕B	14.20 9.90	暗灰色	良好	普通	長石、雲母	(内外面とも)ハケ	1/8	堅穴5	
577	甕C	11.80 22.35	淡褐色	良好	普通	赤色粒、石英	(内外面とも)ハケ	1/16	堅穴5	
578	甕C	12.10 28.50	暗褐色	良好	普通	チャート、赤色粒	(内外面とも)ハケ	1/2	堅穴5	
579	甕C	13.30 21.00	暗褐色	やや軟	普通	チャート	(内外面とも)ハケ	ほぼ 完存	堅穴5	
580	甕C	14.50 13.10	赤褐色	やや軟	粗	チャート	(内外面とも)ハケ	1/8	堅穴5	
581	甕C	14.20 6.50	暗褐色	良好	普通	石英	(外)ハケ	1/4	堅穴5	
582	甕C	10.20 5.00	淡褐色	良好	やや密	チャート	(内外面とも)ハケ	1/4	堅穴5	
583	甕D	15.20 5.20	赤褐色	良好	良	赤色粒		1/4	堅穴5	
584	甕D	12.35 4.20	淡橙褐色	やや軟	普通	石英		1/8	堅穴5	
585	甕D	16.80 10.40	灰色	堅緻	密	石英、チャート	(内外面とも)ハケ	1/2	堅穴5	
586	甕D	14.80 11.10	淡褐色	やや軟	普通	赤色粒、石英、雲母、 チャート、長石		1/4	堅穴5	
587	甕D	13.60 5.60	淡褐色	良好	普通	赤色粒		1/8	堅穴5	
588	甕D	15.80 5.50	淡褐色	良好	良	石英、長石		1/4	堅穴5	
589	甕D	13.00 7.90	淡褐色	堅緻	やや密	赤色粒、石英	(内外面とも)ハケ	完存	堅穴5	
590	甕D	14.80 7.30	淡赤褐色	良好	やや粗	赤色粒		1/4	堅穴5	
591	甕D	14.80 6.70	淡赤褐色	良好	普通	赤色粒	(内)ケズリ	7/8	堅穴5	

592	甕D	15.60 8.15	淡褐色	良好	良	赤色粒、長石、チャート	(内外面とも)ハケ	完存	竪穴5	
593	甕E	11.10 12.60	褐色	堅緻	普通	チャート、長石、雲母	(内外面とも)ハケ	4/16	竪穴5	
594	甕E	13.00 8.90	淡褐色	堅緻	普通	赤色粒		6/8	竪穴5	
595	甕E	13.00 7.80	暗褐色	良好	やや粗	石英、チャート		1/4	竪穴5	
596	壺C	13.20 7.20	淡黄灰色	やや軟	普通	石英、チャート			竪穴5	
597	壺C	10.60 9.20	橙褐色	良好	良	長石		1/16	竪穴5	
598	壺C	11.20 6.60	淡赤褐色	良好	密	チャート、長石		1/4	竪穴5	
599	壺D	5.20	淡赤褐色	良好	密	—		完存	竪穴5	
600	壺D	6.80 8.60	橙褐色	良好	普通	長石、チャート、赤色粒	(内)指ナデ	1/4	竪穴5	
601	鉢A	7.90 7.00	淡黄褐色	普通	普通	長石、雲母赤色粒		1/2	竪穴5	
602	鉢A	11.20 7.80	黒灰色	普通	普通	赤色粒		1/4	竪穴5	
603	鉢B	16.80 8.00	褐色	良好	密	長石、チャート、石英雲母	(内外面とも)ハケ	完存	竪穴5	黒斑有り
604	鉢B	12.85 7.00	淡赤灰褐色	良好	普通	石英、チャート、赤色粒	(内外面とも)ハケ	3/8	竪穴5	
605	鉢B	13.20 5.20	黒灰色	やや軟	普通	長石、雲母	(内)ハケ	1/2	竪穴5	
606	鉢B	6.90 4.00	淡褐色	良好	普通	チャート		1/2	竪穴5	
607	鉢B	15.00 4.30	黒灰色	やや軟	普通	長石、雲母	(内)ハケ	1/4	竪穴5	
608	鉢B	12.20 5.90	黄褐色	良好	普通	チャート		1/8	竪穴5	
609	鉢B	— 2.00	乳白色	良好	普通	長石、チャート、石英		完存	竪穴5	
610	鉢B	5.40 3.20	褐色	良好	良	石英、長石チャート、雲母		完存	竪穴5	

611	ミニチュ ア土器	4.30	淡褐色	良好	密	石英、チャ ート	指ナデ	完存	堅穴 5	
612	高杯A	17.20 5.50	淡黄褐 色	普通	普通	石英		5/8	堅穴 5	
613	高杯A	16.00 5.20	淡褐色	良好	普通	石英、赤色 粒		1/2	堅穴 5	黒斑
614	高杯A	16.00 5.60	淡褐色	良好	密	チャート		1/8	堅穴 5	
615	高杯B	19.20 14.60	淡褐色	良好	密	長石、チャ ート		3/8	堅穴 5	
616	高杯A	15.60 5.20	淡褐色	堅緻	密	赤色粒		1/2	堅穴 5	
617	高杯A	12.90 5.60	淡赤褐 色	良好	やや粗	石英、赤色 粒		1/8	堅穴 5	
618	高杯B	15.50 11.50	褐色	良好	密	長石、赤色 粒	(内脚)ケ ズリ	1/2	堅穴 5	
619	高杯B	14.80 12.00	淡黄褐 色	良好	密	長石			堅穴 5	
620	高杯B	17.20 5.50	淡黄褐 色	やや軟	普通	石英、チャ ート	(内脚)ケ ズリ	5/8	堅穴 5	
621	高杯B	16.00 5.20	淡褐色	良好	普通	石英、赤色 粒		6/8	堅穴 5	黒斑
622	高杯B	15.30 5.60	淡赤褐 色	良好	密	長石、チャ ート、石英		1/2	堅穴 5	
623	高杯B	14.40 4.80	(外)橙 褐色	良好	密	石英、長石 赤色粒		1/4	堅穴 5	
624	高杯B	15.20 6.00	(外)明 橙褐色	良好	密	長石、チャ ート		7/8	堅穴 5	
625	高杯B	14.80 7.20	淡赤褐 色	堅緻	密	石英		1/16	堅穴 5	
626	高杯B	14.40 5.10	赤褐色	良好	密	チャート、 長石		1/8	堅穴 5	
627	高杯B	16.00 5.90	淡褐色	良好	普通			3/8	堅穴 5	
628	高杯B	14.40 4.40	淡赤褐 色	良好	密	チャート、 長石		1/8	堅穴 5	
629	高杯C	13.40 12.30	赤褐色	良好	普通	長石、雲母		ほぼ 完形	堅穴 5	
630	高杯B	13.20 5.85	赤褐色	良好	密	チャート、 長石		1/2	堅穴 5	
631	高杯B	14.40 5.20	淡褐色	良好	密	チャート、 長石		不良	堅穴 5	
632	脚部	10.20 7.65	淡灰褐 色	良好	普通	石英、長石 雲母		完存	堅穴 5	

633	高杯C	10.40 11.60	淡赤褐色	良好	密	赤色粒		1/4	堅穴5	
634	高杯B	14.20 12.80	赤褐色	良好	普通	長石、石英 チャート		ほぼ 1/2	堅穴5	
635	脚部	11.60 8.40	赤褐色	良好	普通			1/8	堅穴5	
636	脚部	12.80 7.50	赤褐色	良好	普通			5/8	堅穴5	
637	脚部	10.40 7.10	淡褐色	良好	普通			1/2	堅穴5	
638	脚部	11.60 7.15	淡褐色	良好	密	長石、石英		11/16	堅穴5	
639	脚部	11.00 5.80	赤褐色	良好	密	石英、長石 雲母		完存	堅穴5	
640	脚部	12.40 8.05	茶褐色	良好	普通			3/8	堅穴5	
641	脚部	9.80 6.90	赤褐色	良好	密	石英、長石		1/2	堅穴5	
642	脚部	10.20 7.65	淡褐色	良好	普通	石英、長石 チャート		3/8	堅穴5	
643	甕D	16.80 5.60	淡赤褐色	良好	普通	長石、石英		3/8	堅穴8	
644	鉢B	12.80 5.75	赤褐色	堅緻	密	長石		完存	堅穴8	
645	鉢A	14.00 9.10	淡褐色	良好	普通	チャート	(内外面 とも)ハケ	5/8	堅穴8	
646	須恵器 直口壺	10.70 4.30	暗青灰色	良好	普通		波状文6 条	1/4	堅穴8	(内)自然 釉
647	椀	12.10 5.30	褐色	良	普通	長石		3/8	堅穴8	
648	椀	11.70 4.05	淡褐色	良好	密	雲母		3/8	堅穴8	
649	高杯B	13.90 5.10	淡褐色	良好	粗	長石、赤色 粒		5/8	堅穴8	
650	高杯D	23.00 7.00	朱橙色	堅緻	密	雲母		1/8	堅穴8	
651	高杯B	9.40	淡褐色	良好	粗	長石		1/4	堅穴8	
652	甕A1	14.80 6.95	淡赤褐色	堅緻	普通	チャート、 長石	(内)ケズ リ	1/4	堅穴9	
653	甕A1	13.00 10.95	茶褐色	良好	普通	赤色粒、雲 母		5/8	堅穴9	
654	甕C	12.80 20.90	淡褐色	良好	普通	長石		完存	堅穴9	

655	壺D	6.30 7.45	淡褐色	良好	やや粗	長石、赤色 粒		完存	堅穴9	
656	高杯B	14.80 5.60	淡赤褐色	普通	普通	赤色粒		1/2	堅穴9	
657	甕C	15.00 5.70	(外)淡 赤褐色	良好	良	チャート、 石英、長石		3/4	堅穴10	
658	甕A2	16.40 18.80	淡茶褐色	堅緻	良	チャート、 長石	(内外面 とも)ハケ	5/8	堅穴10	
659	甕B	14.40 11.75	淡茶褐色	良好	良	チャート、 石英、長石		1/4	土器溜まり 5	
660	甕B	17.10 4.70	淡茶褐色	良好	良	石英、雲母		1/4	土器溜まり 5	
661	甕B	18.60 5.70	淡橙色	良好	普通	長石、赤色 粒		3/16	土器溜まり 5	
662	甕B	14.90 7.30	淡灰色	良好	良	長石、赤色 粒	(内)ハケ	1/4	土器溜まり 5	
663	甕D	12.40 19.60	淡橙色	良好	密	石英		7/8	土器溜まり 5	
664	甕E	13.20 13.60	淡橙色	良好	密	石英		1/2	土器溜まり 5	
665	高杯A	15.50 12.40	褐色	良好	普通	黒色～灰色 礫	(内脚)ケ ズリ	1/16	土器溜まり 5	
666	高杯B	13.30 10.40	赤褐色	良好	普通	黒色～灰色 礫	(内脚)ケ ズリ	1/2	土器溜まり 5	
667	高杯B	14.90 6.00	灰白色	堅緻	密	長石、赤色 粒		3/16	土器溜まり 5	
668	高杯D	22.10 3.75	灰褐色	堅緻	密	長石、赤色 粒		1/8	土器溜まり 5	
669	脚部	10.60 7.65	淡赤褐色	堅緻	密	長石、赤色 粒	(内脚)ケ ズリ	5/8	土器溜まり 5	
670	脚部	9.80 5.55	淡赤褐色	堅緻	やや粗	石英	(内脚)ケ ズリ	4/8	土器溜まり 5	
671	脚部	11.80 7.10	暗茶褐色	良好	普通	長石、石英	(内脚)ナ デ	完存	土器溜まり 5	
672	脚部	7.50 3.25	淡赤褐色	堅緻	密	長石、赤色 粒		5/8	土器溜まり 5	
675	須恵器 甕	13.40 2.40	淡黒灰色	良好	普通		波状文2 段	1/16	Nトレン チ包含層	(内)自然 釉
676	須恵器 甕		青灰色	良好	密		カキ目・ 波状文4 条2段		Bトレン チ包含層	
677	須恵器 高杯	8.80 3.40	暗青灰色	堅緻	普通	石英	カキ目・ 3方向円 形スカシ	1/8	K G K 2 調査地区 包含層	

678	須恵器 高杯	10.60 7.00	暗灰色	良好	密		波状文6 条・4方 向長方形 スカシ・ 列点文	1/8	Eトレン チ包含層	
679	須恵器 高杯	24.10 5.50	暗青灰 色	堅緻	密			1/16	Nトレン チ包含層	
680	須恵器 高杯	19.40 6.00	青灰色	堅緻	普通		波状文	1/8	Lトレン チ青灰色 粘質土	
681	須恵器 杯蓋	13.20 4.40	暗青灰 色	堅緻	普通		ヘラケズ リ	1/4	9トレン チ包含層 Mトレン チ	
682	須恵器 杯蓋	— 3.20	青灰色	良好	普通		ヘラケズ リ		青灰色粘 質土	
683	須恵器 杯蓋	11.70 3.50	暗青灰 色	良好	普通	黒色粒		1/4	Cトレン チ包含層	
684	須恵器 杯蓋	12.30 4.20	暗青灰 色	良好	粗	石英	ヘラケズ リ	1/4	15トレン チ包含層	
685	須恵器 杯蓋	12.80 3.80	青灰色	堅緻	密		ヘラケズ リ	1/8	15トレン チ包含層	
686	須恵器 杯蓋	11.50 3.20	青灰色	堅緻	普通		—	1/8	Dトレン チ包含層	
687	須恵器 杯蓋	13.20 4.70	淡青灰 色	良好	密		ヘラケズ リ	3/4	Iトレン チ包含層	
688	須恵器 杯蓋	12.60 4.00	灰色	堅緻	密		ヘラケズ リ	1/8	Hトレン チ包含層	
689	須恵器 杯蓋	12.00 3.60	青灰色	堅緻	普通	石英	ヘラケズ リ	1/4	Lトレン チ青灰色 粘質土	
690	須恵器 杯蓋	14.00 3.90	暗灰色	堅緻	密	黒色粒、長 石	ヘラ切り 未調整	1/4	Mトレン チ包含層	
691	須恵器 杯蓋	10.20 3.70	暗青灰 色	堅緻	普通	石英、黒色 粒	不定方向 ナデ	1/4	Mトレン チ包含層	内面 自然釉
692	須恵器 杯蓋	14.00 3.30	淡黒灰 色	堅緻	密		不定方向 ナデ	1/8	Mトレン チ青灰色 粘質土	
693	須恵器 杯身	11.50 40.10	淡黒灰 色	堅緻	密		ヘラケズ リ	1/8	第1次調 査包含層	
694	須恵器 杯身	12.80 3.70	暗青灰 色	堅緻	普通	黒色粒	ヘラケズ リ	1/8	Lトレン チ青灰色 粘質土	外面下 半 自然釉

695	須恵器 杯身	10.00 4.40	暗青灰 色	堅緻	密		ヘラケズ リ	1/8	4トレン チ包含層	
696	須恵器 杯身	12.20 5.10	暗青灰 色	良好	密		ヘラケズ リ	1/4	15トレン チ包含層	
697	須恵器 杯身	11.40 3.80	暗青灰 色	良好	密		ヘラケズ リ	1/2	Lトレン チ青灰色 粘質土	
698	須恵器 杯身	11.50 3.40	灰色	良好	密		ヘラケズ リ	3/4	Lトレン チ青灰色 粘質土	
699	須恵器 杯身	9.80 2.90	青灰色	堅緻	普通	長石	ヘラ切り 未調整	完存	15トレン チ包含層	
700	須恵器 台付椀	10.50 10.20 8.10	暗青灰 色	堅緻	密			1/8	Mトレン チ青灰色 粘質土	
701	須恵器 台付椀	7.90 7.60	青灰色	堅緻	普通	石英		1/8	Mトレン チ包含層	内面 自然釉

付表18 飛鳥・奈良時代土器観察表

番号	器種	口径及 び底径 残存高 (cm)	色調	焼成	胎土	調整 手法及 び文様	口縁部 ・底部 残存度	出土遺構	備考
702	須恵器 蓋	10.10 1.50	淡青灰 色	良好	密		1/8	建物跡7	口縁端 自然釉
703	須恵器 蓋	14.80 2.10	淡青灰 色	堅緻	密		1/8	建物跡5	
704	須恵器 壺	12.80 1.20	青灰色	堅緻	密		1/8	建物跡1	
705	須恵器 蓋	13.00 1.30	淡青灰 色	良好	密		1/16	建物跡3	
706	須恵器 蓋	15.50 1.40	青灰色	堅緻	密		1/16	建物跡1	
707	須恵器 壺	9.20 1.80	淡青灰 色	良好	密		1/8	建物跡1	
708	須恵器 杯B	8.90 1.00	淡青灰 色	良好	密	ヘラ切り 未調整	1/16	建物跡3	
709	須恵器 杯B	9.70 1.50	青灰色	堅緻	密		1/4	建物跡2	
710	須恵器 杯B	9.90 1.00	淡青灰 色	良好	密		1/4	建物跡5	
711	須恵器 短頸壺	9.20 1.70	淡青灰 色	堅緻	密		1/4	建物跡1	

712	須恵器 蓋	22.00 12.00	青灰色	良好	密	—	—	1/8	建物跡5
713	須恵器 甕	22.00 10.00	淡橙褐色	良好	普通	長石、石英 チャート、 赤色粒		1/4	竪穴状遺 構1
714	須恵器 杯A	12.80 3.80	淡青灰色	良好	普通	—	—	完形	竪穴状遺 構1
715	甕	23.20 24.10	褐色	良好	やや粗	石英、長石 チャート、 赤色粒	(内)横ケ ズリ	1/4	竪穴18
716	須恵器 杯B	21.20 6.00	淡青灰色	良好	普通	—	—	1/8	竪穴18
717	須恵器 杯蓋	12.10 3.70	淡青灰色	良好	普通	石英	ヘラケズ リ	1/8	竪穴21
718	高杯 脚部	9.00 6.50	赤褐色	良好	密	長石		1/2	竪穴21
719	須恵器 蓋	13.15 1.55	青灰色	堅緻	密	—	—	1/16	竪穴22
720	須恵器 蓋	14.00 1.00	青灰色	堅緻	密	—	—	1/8	竪穴22
721	須恵器 杯A	12.40 4.00	青灰色	堅緻	良好	—		3/8	竪穴22
722	須恵器 杯L	14.80 3.80	暗青灰色	堅緻	密	—		1/16	竪穴22
723	杯	11.20 2.90	淡褐色	堅緻	密	—		1/8	竪穴22
724	甕	23.20 13.10	暗褐色	良好	密	チャート、 長石、石英		3/8	竪穴22
725	甕	23.80 3.50	淡褐色	良好	密	チャート、 長石		1/8	竪穴22
726	甕	22.00 7.50	暗褐色	堅緻	密	長石、チャ ート		1/16	竪穴22
727	甕	23.20 4.70	淡乳茶 色					1/8	竪穴22
728	甕	24.40 4.00	暗褐色	良好	密	長石、チャ ート		1/8	竪穴22
729	甕	15.25 4.10	明茶褐色	良好	密	チャート		3/16	竪穴22
730	甕	15.00 14.40	黄褐色	堅緻	普通	赤色粒、石 英、砂粒	(内)ケズ リ	3/8	竪穴23
731	須恵器 杯身	11.40 3.80	青灰色	良好	密	—		3/8	竪穴23
732	須恵器 蓋	18.80 2.10	淡青灰色	良好	密	—		1/16	土器溜ま り6

733	須恵器 蓋	14.45 1.60	灰色	良好	やや密	—		1/8	土器溜まり6
734	須恵器 蓋	10.60 1.50	淡青灰色	良好	密	—		1/8	土器溜まり6
735	須恵器 杯B	底部9.4 1.60	淡青灰色	良好	密			1/2	土器溜まり6
736	須恵器 杯	15.00 2.95	淡青灰色	良好	密			1/16	土器溜まり6
737	須恵器 杯	11.00 3.00	灰色	良好	密			1/16	土器溜まり6
738	杯	18.40 3.50	赤茶灰色	良好	やや密	赤色粒、石英、長石	暗文	1/4	土器溜まり6
739	杯	14.00 4.20	淡黒灰色	良好	普通	石英、長石	(外)ケズリ	3/8	土器溜まり6
740	杯	12.60 2.80	赤褐色	良好	密	—	暗文	1/8	土器溜まり6
741	杯	20.80 2.25	明褐色	良好	密	—	暗文	1/8	土器溜まり6
742	杯	8.80 2.50	黒褐色	良好	密	チャート、石英	(外)ケズリ	1/8	土器溜まり6
743	杯	14.20 4.50	茶褐色	良好	やや密	礫、石英、長石	(外)ケズリ、暗文	3/8	土器溜まり6
744	甕	21.30 3.50	淡灰黄色	やや堅緻	普通	石英、礫		1/8	土器溜まり6
745	甕	20.60 3.40	乳褐色	良好	密	長石、黒色砂礫		1/4	土器溜まり6
746	甕	17.80 4.40	淡橙黄褐色	良好	普通			7/16	土器溜まり6
747	鉢	22.10 7.15	赤茶褐色	やや堅緻	やや密	石英		1/4	土器溜まり6
748	須恵器 蓋	17.50 2.00	青灰色	堅緻	密	—		1/8	土器溜まり7
749	須恵器 蓋	16.30 1.75	青灰色	堅緻	密	—		1/4	土器溜まり7
750	須恵器 杯A	10.40 3.50	青灰色	堅緻	密	—		1/4	土器溜まり7
751	須恵器 杯A	12.00 3.50	青灰色	堅緻	密	—		1/4	土器溜まり7
752	須恵器 杯A	11.40 4.90	青灰色	堅緻	密	—		1/8	土器溜まり7
753	須恵器 杯	13.70 3.00	青灰色	堅緻	密	—		1/4	土器溜まり7
754	須恵器 杯	15.10 2.55	青灰色	堅緻	密	—		1/8	土器溜まり7

755	須恵器 杯	15.80 3.80	青灰色	堅緻	密	—	3/16	土器溜まり7
756	須恵器 杯B	12.60 1.10	青灰色	堅緻	密	—	1/8	土器溜まり7
757	須恵器 杯B	9.60 1.15	青灰色	堅緻	密	—	3/16	土器溜まり7
758	須恵器 杯B	9.10 1.70	青灰色	堅緻	密	—	3/16	土器溜まり7
759	杯	14.60 3.50	淡褐色	良好	密	—	1/4	土器溜まり7
760	杯	11.80 2.30	淡褐色	良好	密	—	1/4	土器溜まり7
761	杯	13.10 2.30	赤褐色	良好	密	石英	1/4	土器溜まり7
762	甕	15.80 7.20	赤褐色	良好	密	チャート	1/2	土器溜まり7
763	鍋	33.20 9.50	淡褐色	良好	密	—	1/8	土器溜まり7
764	鍋	38.40 9.80	黄褐色	良好	密	石英、チャート、長石	1/8	土器溜まり7
765	須恵器 蓋	14.60 2.80	灰色	良好	普通	(内)不定方向ナデ	1/8	Cトレンチ包含層
766	須恵器 蓋	15.60 2.40	青灰色	堅緻	密	回転ナデ	1/8	Cトレンチ包含層
767	須恵器 蓋	14.90 2.70	青灰色	堅緻	密	回転ナデ	1/8	Cトレンチ包含層
768	須恵器 蓋	13.60 1.20	暗青灰色	堅緻	普通	(内)不定方向ナデ	1/4	Dトレンチ包含層
769	須恵器 蓋	15.70 2.20	青灰色	良好	普通	(内)不定方向ナデ	1/4	Dトレンチ包含層
770	須恵器 蓋	20.00 1.90	青灰色	堅緻	普通		1/8	Dトレンチ包含層
771	須恵器 蓋	14.20 2.00	青灰色	堅緻	普通	(内)不定方向ナデ	1/4	Cトレンチ包含層
772	須恵器 蓋	18.60 1.80	淡青灰色	やや軟	普通		1/16	Cトレンチ包含層
773	須恵器 蓋	22.00 2.60	灰白色	堅緻	密		1/4	Dトレンチ包含層
774	須恵器 蓋	20.00 1.60	灰白色	堅緻	密		1/8	Cトレンチ包含層
775	須恵器 蓋	14.80 2.20	青灰色	良好	密	(天井)ヘラケズリ	1/16	2次調査包含層

776	須恵器 杯B	13.20 4.40	暗青灰 色	堅緻	密	雲母、長石		完存	Bトレン チ包含層	
777	須恵器 杯B	11.40 3.80	淡青灰 色	堅緻	密			1/16	Dトレン チ包含層	
778	須恵器 杯A	12.40 3.20	青灰色	堅緻	密	—	—	1/8		
779	須恵器 杯B	12.80 3.30	青灰色	堅緻	密			1/16	Dトレン チ包含層	
780	須恵器 杯B	7.00 2.00	青灰色	良好	密		ヘラ切り 未調整	1/8	Dトレン チ包含層	(内)自然 釉
781	須恵器 杯B	8.00 1.60	淡青灰 色	堅緻	密			3/8	Dトレン チ包含層	
782	須恵器 杯B	18.70 4.90	青灰色	堅緻	密		(底面)ヘ ラケズリ	1/4	Cトレン チ包含層	外面～底 面に自然 釉
783	須恵器 皿B	15.40 2.80	淡青灰 色	堅緻	やや粗	石英、長石		1/8	Cトレン チ包含層	
784	須恵器 杯B	13.50 2.00	青灰色	堅緻	密		(底面)不 定方向ナ デ	1/4	Cトレン チ包含層	
785	須恵器 杯A	12.70 3.30	暗青灰 色	堅緻	普通		ヘラ切り 未調整	1/4	Dトレン チ包含層	
786	須恵器 杯A	12.30 3.70	淡青灰 色	堅緻	普通			1/8	2次調査 包含層	自然釉
787	須恵器 杯A	12.10 3.70	淡青灰 色	堅緻	密		ヘラ切り 未調整	1/4	Dトレン チ包含層	
788	須恵器 杯A	13.20 3.30	淡青灰 色	堅緻	密			1/4	Dトレン チ包含層	
789	須恵器 杯A	16.20 4.50	灰色	堅緻	密	雲母		1/8	Dトレン チ包含層	
790	須恵器 杯B	11.60 1.80	青灰色	堅緻	密		(底面)不 定方向ナ デ	1/2	2次調査 包含層	
791	須恵器 蓋	17.60 1.10	青灰色	堅緻	普通	黒色粒、長 石		1/8	Cトレン チ包含層	
792	須恵器 杯A	10.50 3.50	青灰色	良好	密	黒色粒、長 石		1/8	Cトレン チ包含層	(外)自然 釉付着
793	須恵器 杯B	13.40 4.20	淡青灰 色	堅緻	密		(底面)不 定方向ナ デ	1/8	Cトレン チ包含層	
794	須恵器 蓋	11.60 2.20	暗灰色	堅緻	密			完存	Lトレン チ包含層	(外)自然 釉付着
795	須恵器 蓋	14.50 3.00	淡青灰 色	堅緻	密		(内)不定 方向ナデ	1/2	Mトレン チ包含層	

796	須恵器 蓋	14.70 2.50	灰色	堅緻	密		5/8	15トレン チ包含層		
797	須恵器 蓋	14.30 2.10	青灰色	堅緻	密	ヘラ切り 未調整	1/8	15トレン チ青灰色 粘土		
798	須恵器 蓋	14.10 1.60	淡青灰 色	堅緻	密	(天井部 内)不定 方向ナデ	3/8	15トレン チ包含層		
799	須恵器 蓋	20.90 2.30	青灰色	堅緻	密	長石	1/8	15トレン チ包含層		
800	須恵器 蓋	13.80 1.20	青灰色	良好	普通	黒色粒	ヘラ切り 未調整	1/8	15トレン チ包含層	
801	須恵器 蓋	14.80 1.60	青灰色	堅緻	普通	石英、長石		7/8	Mトレン チ包含層	自然釉
802	須恵器 蓋	14.40 1.50	暗青灰 色	堅緻	普通	石英、長石	ヘラ切り 未調整	5/8	Mトレン チ青灰色 粘土	自然釉
803	須恵器 杯B	12.80 3.20	暗青灰 色	堅緻	密	石英、長石		1/4	Mトレン チ包含層	
804	須恵器 杯B	13.40 4.40	暗青灰 色	堅緻	密	雲母		1/8	Mトレン チ包含層	
805	須恵器 杯B	7.00 4.00	暗青灰 色	堅緻	密			3/8	Mトレン チ包含層	
806	須恵器 杯B	14.00 3.80	青灰色	堅緻	普通	長石	ヘラ切り 未調整	5/8	Mトレン チ包含層	
807	須恵器 杯B	13.20 4.00	青灰色	堅緻	密			3/8	15トレン チ包含層	
808	須恵器 杯B	12.20 3.60	暗青灰 色	堅緻	普通		ヘラ切り 未調整	5/8	Mトレン チ包含層	(外)自然 釉付着
809	須恵器 杯B	13.60 3.80	青灰色	堅緻	密	黒色粒 長石、石英	ヘラ切り 未調整	3/8	Mトレン チ包含層	
810	須恵器 杯B	13.80 4.20	暗青灰 色	堅緻	普通	石英		3/8	Mトレン チ包含層	
811	須恵器 杯B	7.00 3.80	青灰色	堅緻	密		(底面)不 定方向ナ デ	1/4	15トレン チ包含層	
812	須恵器 杯B	17.20 4.60	青灰色	堅緻	密		(外底面) カキ目	7/8	Mトレン チ包含層	
813	須恵器 杯B	11.80 4.80	暗青灰 色	堅緻	密			1/4	15トレン チ包含層	
814	須恵器 杯F	9.20 7.10	青灰色	堅緻	普通	長石		1/8	Mトレン チ包含層	(外)全面 自然釉付 着

815	須恵器 皿B	17.00 3.80	淡青灰 色	良好	密		ヘラ切り 未調整	1/8	Mトレン チ青灰色 粘土	
816	須恵器 皿B	17.60 1.60	暗青灰 色	良好	普通	石英、長石		1/4	Mトレン チ青灰色 粘土	
817	須恵器 杯B	10.10 2.00	暗青灰 色	堅緻	普通	石英	ヘラ切り 未調整	1/2	Mトレン チ包含層	(外底面) 墨液?
818	須恵器 杯A	12.00 3.20	青灰色	堅緻	普通	石英	ヘラ切り 未調整	1/16	15トレン チ包含層	
819	須恵器 杯A	12.00 3.30	青灰色	良好	普通	長石		1/4	15トレン チ包含層	
820	須恵器 杯A	12.00 3.40	青灰色	堅緻	やや粗	長石、石英	ヘラケズ リ	5/8	15トレン チ包含層	
821	須恵器 杯A	13.70 2.70	青灰色	良好	普通	石英、長石	(外底面) 不定方向 ナデ	1/8	15トレン チ包含層	
822	須恵器 杯A	12.20 2.90	青灰色	堅緻	普通	石英、長石	(外底面) 不定方向 ナデ	1/4	Mトレン チ包含層	(外)自然 釉付着
823	須恵器 杯A	15.80 3.70	暗青灰 色	堅緻	密		(外底面) 不定方向 ナデ	1/8	Mトレン チ包含層	
824	須恵器 皿A	14.60 2.00	淡青灰 色	良好	普通		ヘラ切り 未調整	1/4	Mトレン チ包含層	
825	須恵器 蓋	8.10 1.70	青灰色	良好	普通	黒色粒		1/4	Lトレン チ青灰色 粘土	(外)自然 釉付着
826	須恵器 蓋	8.20 2.50	青灰色	堅緻	密	石英、長石		1/16	Mトレン チ青灰色 粘土	
827	須恵器 蓋	9.90 1.80	暗青灰 色	堅緻	密	黒色粒		1/8	Lトレン チ包含層	(天井部) 自然釉付 着
828	須恵器 蓋	9.80 2.30	青灰色	堅緻	密			5/8	Lトレン チ包含層	
829	須恵器 蓋	10.00 2.10	青灰色	堅緻	密			5/8	Lトレン チ青灰色 粘土	(外)自然 釉
830	須恵器 蓋	11.40 2.00	青灰色	堅緻	密			1/4	Mトレン チ青灰色 粘土	

831	須恵器 蓋	14.40 2.50	暗青灰 色	堅緻	密		1/8	Mトレン チ青灰色 粘土	
832	須恵器 蓋	16.40 2.00	淡青灰 色	良好	普通		1/8	Lトレン チ包含層	
833	須恵器 蓋	17.80 2.70	暗灰色	堅緻	普通	(外)ヘラ ケズリ	1/8	Nトレン チ包含層	(外)自然 釉
834	須恵器 蓋	19.80 1.50	青灰色	堅緻	普通		1/16	Mトレン チ青灰色 粘土	
835	須恵器 蓋	15.60 3.10	暗灰色	堅緻	普通 長石		1/4	Mトレン チ包含層	(外)自然 釉
836	須恵器 蓋	15.40 3.20	暗灰色	堅緻	普通 長石、石英	(内面)不 定方向ナ デ	5/8	Lトレン チ青灰色 粘土	
837	須恵器 蓋	14.90 3.20	青灰色	堅緻	普通 長石、石英	(天井部 外面)ヘ ラケズリ	1/8	Lトレン チ青灰色 粘土	
838	須恵器 蓋	16.20 2.00	青灰色	堅緻	密		1/16	Lトレン チ青灰色 粘土	(外)自然 釉
839	須恵器 杯L	13.50 3.60	青灰色	良好	普通	(外)ヘラ ケズリ	1/16	15トレン チ青灰色 粘質土	稜椀
840	須恵器 杯L	15.40 3.60	暗青灰 色	良好	普通 長石		1/16	Mトレン チ青灰色 粘土	稜椀
841	須恵器 杯L	15.70 3.60	暗青灰 色	良好	普通 長石、石英		1/16	15トレン チ青灰色 粘土	稜椀
842	須恵器 杯L	17.20 3.80	青灰色	堅緻	普通 黒色粒		1/4	15トレン チ青灰色 粘土	稜椀
843	須恵器 杯L	16.50 4.80	暗青灰 色	堅緻	普通 石英、雲母		1/4	Mトレン チ包含層	(外)自然 釉付着 稜椀
844	須恵器 杯L	17.20 3.60	暗青灰 色	堅緻	密		1/16	Nトレン チ包含層	稜椀
845	須恵器 杯L	17.40 4.10	暗青灰 色	堅緻	密		1/16	Lトレン チ包含層	(外)自然 釉稜椀
846	須恵器 杯L	17.20 4.00	青灰色	堅緻	密		1/4	Nトレン チ青灰色 粘土	(外)自然 釉付着 稜椀

847	須恵器 杯L	17.60 5.50	青灰色	堅緻	密		1/8	Mトレン チ青灰色 粘土	稜碗
848	須恵器 杯L	17.60 3.70	暗青灰 色	堅緻	密		1/16	Mトレン チ包含層	(外)自然 釉 稜碗
849	須恵器 杯L	8.40 3.60	暗青灰 色	堅緻	密		1/8	15トレン チ包含層	稜碗
850	須恵器 杯L	18.80 3.70	暗青灰 色	良好	普通	黒色粒、石 英	1/8	16トレン チ包含層	稜碗
851	須恵器 杯L	19.00 4.60	暗青灰 色	堅緻	普通	長石、石英	1/16	Mトレン チ青灰色 粘土	稜碗
852	須恵器 杯L	18.10 4.60	暗青灰 色	堅緻	普通	黒色粒	1/8	Lトレン チ青灰色 粘質土	(外)自然 釉付着 稜碗
853	須恵器 杯L	19.40 4.30	暗青灰 色	堅緻	密		1/8	Mトレン チ青灰色 粘土	(外)自然 釉 稜碗
854	須恵器 杯L	19.40 3.60	淡青灰 色	堅緻	普通		1/16	Lトレン チ青灰色 粘土	稜碗
855	須恵器 杯L	15.00 5.80	暗青灰 色	堅緻	普通	石英	1/8	Mトレン チ青灰色 粘土	稜碗
856	須恵器 杯L	16.50 6.10	青灰色	堅緻	密	ヘラ切り 未調整	3/8	Mトレン チ青灰色 粘土	稜碗
857	須恵器 杯L	11.30 5.90	青灰色	良好	やや粗		1/4	Mトレン チ青灰色 粘土	(外)自然 釉付着 稜碗
858	須恵器 杯L	23.60 4.30	暗青灰 色	堅緻	普通	黒色粒、石 英	1/8	Mトレン チ包含層	稜碗
859	須恵器 蓋 (短頸壺)	16.20 2.80	灰色	堅緻	密		1/4	Nトレン チ包含層	(外)自然 釉
860	須恵器 蓋 (短頸壺)	5.60 2.60	暗青灰 色	良好	やや粗	黒色粒、雲 母、長石	1/4	Nトレン チ包含層	(外)自然 釉付着
861	須恵器 蓋 (短頸壺)	14.00 2.00	青灰色	良好	普通	長石、黒色 粒	1/8	Mトレン チ包含層	(天井部) 自然釉付 着

862	須恵器 短頸壺	21.20 13.20	青灰色	堅緻	普通	石英	(外面上 半)カキ 目	1/4	Nトレン チ包含層	
863	須恵器 短頸壺	10.40 7.40	暗青灰 色	堅緻	普通		回転指ナ デ	1/16	Mトレン チ包含層	(外面底 部)自然 釉
864	須恵器 鉄鉢形土 器	19.20 10.00	灰白色	良好	普通		回転指ナ デ	1/4	Nトレン チ包含層	
865	須恵器 長頸壺	12.60 13.00	青灰色	良好	やや粗	長石	ヘラ切り 未調整	1/4	Mトレン チ包含層	(内外底 面)自然 釉あり
866	須恵器 蓋	18.80 3.60	暗青灰 色	堅緻	密			1/4	Lトレン チ青灰色 粘土	輪状突帯 状つまみ
867	須恵器 蓋		青灰色	堅緻	密	石英、長石	(内)不定 方向ナデ	完存	15トレン チ包含層	輪状突帯 状つまみ
868	須恵器 蓋		青灰色	堅緻	密			完存		輪状突帯 状つまみ
869	須恵器 蓋		青灰色	堅緻	普通			完存	Mトレン チ青灰色 粘土	輪状突帯 状つまみ
870	須恵器 蓋		淡青灰 色	やや軟	普通			完存	Mトレン チ包含層	輪状突帯 状つまみ
871	須恵器 蓋		青灰色	堅緻	密		(内)不定 方向ナデ	完存	Mトレン チ包含層	輪状突帯 状つまみ
872	須恵器 蓋		青灰色	堅緻	普通	石英		完存	15トレン チ包含層	輪状突帯 状つまみ
873	須恵器 杯	16.40 3.40	暗青灰 色	良好	普通			1/4	Mトレン チ包含層	
874	須恵器 甕	27.30 10.40	暗青灰 色	良好	普通		(内)円形 タタキ (外)格子 タタキ	3/8	Cトレン チ包含層	
875	須恵器 甕	40.20 77.40	青灰色	堅緻	密			完存	Lトレン チ包含層	
876	須恵器 蓋	18.80 2.10	青灰色	堅緻	密			1/8	土器溜ま り6	墨書あり 732と同 じ
877	須恵器 杯A	13.10 2.70	青灰色	堅緻	密			1/16	Mトレン チ青灰色 粘土	墨書あり 「□寸」

878	須恵器 杯A	14.40 4.00	淡青灰 色	堅緻	普通		1/8	Mトレン チ青灰色 粘土	墨書あり 「□守」
879	須恵器 平瓶	底部4 口3.6 3.40	暗青灰 色粘土	堅緻	密		完存	Mトレン チ青灰色 粘土	(底面)墨 書あり 「神□」
880	須恵器 蓋	16.60 1.45	淡青灰 色	堅緻	密 石英		1/8	15トレン チ包含層	(内)いっ ぱいに墨 痕あり
881	須恵器 蓋	13.50 1.50	青灰色	良好	密 長石、黒色 粒		1/8	15トレン チ包含層	(内)いっ ぱいに墨 痕あり
882	須恵器 蓋	16.50 6.10	青灰色	堅緻	密 黒色粒、雲 母		1/8	Lトレン チ青灰色 粘土	自然釉付 着(内)い っぱいに 墨痕あり
883	須恵器 蓋	16.30 5.90	淡青灰 色	堅緻	密 長石		1/8	Lトレン チ青灰色 粘土	(内底面) 墨痕あり
884	須恵器 蓋		青灰色	堅緻	密		完存	Lトレン チ青灰色 粘土	(内底面) 墨痕あり
885	須恵器 杯B	底径 10.80 2.50	青灰色	堅緻	密 長石		3/8	Mトレン チ青灰色 粘土	(内底面) 墨痕あり
886	須恵器 杯B	9.00 1.90	青灰色	堅緻	普通	ヘラ切り 未調整	1/4	Mトレン チ包含層	(外底面) 墨痕あり
887	須恵器 杯B	10.00 1.20	淡青灰 色	やや軟	普通 長石、石英	ヘラ切り 未調整	1/8	15トレン チ青灰色 粘土	(外底面) 墨痕あり
888	須恵器 杯B	13.40 1.80	暗青灰 色	堅緻	普通 長石、石英	(内)不定 方向ナデ	1/4	Lトレン チ青灰色 粘土	(外底面) 墨痕あり
890	須恵器 杯B	10.00 1.40	青灰色	良好	普通 石英	ヘラ切り 未調整	底部 3/8	Lトレン チ青灰色 粘土	(外底面) 墨痕あり
891	須恵器 杯身	9.40 3.40	灰色	堅緻	密	(内外底 面)不定 方向ナデ		Lトレン チ青灰色 粘土	(外底面) ヘラ記号
892	須恵器 杯蓋	13.80 3.20	青灰色	堅緻	密	深いヘラ 描き	1/4	Lトレン チ青灰色 粘土	(内)自然 釉あり (外面) ヘラ記号

893	須恵器 杯	3.40 3.00	暗青灰 色	良好	密	(底部)未 調整		Lトレン チ包含層	(外面) ヘラ記号
894	須恵器 蓋	15.40 1.60	青灰色	堅緻	密	浅いヘラ 描き	1/8	4次調査 地区	(外面) ヘラ記号

付表19 石器観察表

番号	種類	長(cm)	幅(cm)	厚(cm)	重量(g)	石材	形態区分	出土地点
1	石鏃	2.60	1.30	3.00	0.87	安山岩	I類	堅穴27
2	石鏃	2.20	1.30	2.90	0.82	安山岩	I類	L～Nトレンチ包含層
3	石鏃	2.40	1.40	2.50	0.67	安山岩	I類	Mトレンチ包含層
4	石鏃	2.10	1.20	1.60	0.63	安山岩	I類	Bトレンチ包含層
5	石鏃	2.30	1.30	3.00	0.97	安山岩	I類	堅穴26
6	石鏃	2.70	1.50	4.70	1.45	安山岩	I類	Jトレンチ包含層
7	石鏃	2.20	1.90	2.00	0.84	安山岩	I類	Mトレンチ包含層
8	石鏃	2.30	1.40	3.20	1.12	安山岩	I類	堅穴25
9	石鏃	2.60	1.60	4.60	1.92	安山岩	I類	表採
10	石鏃	2.30	1.90	5.30	2.21	安山岩	I類	Lトレンチ包含層
11	石鏃	2.70	1.80	3.80	1.97	安山岩	I類	Lトレンチ包含層
12	石鏃	1.80	1.50	2.10	0.57	安山岩	—	Mトレンチ包含層
13	石鏃	2.10	1.20	3.00	1.41	安山岩	II類	Jトレンチ包含層
14	石鏃	2.90	1.90	3.70	1.79	安山岩	II類	Mトレンチ包含層
15	石鏃	1.60	1.90	4.00	1.84	安山岩	II類	Lトレンチ包含層
16	石鏃	2.20	1.30	3.50	0.76	安山岩	II類	Jトレンチ溝状遺構
17	石鏃	2.90	2.00	3.80	1.97	安山岩	II類	溝24
18	石鏃	3.20	1.50	4.00	1.71	安山岩	III類	堅穴26
19	石鏃	3.10	1.80	2.90	1.36	安山岩	III類	L～Nトレンチ包含層
20	石鏃	2.00	1.40	2.30	0.62	安山岩	IV類	Mトレンチ包含層
21	石鏃	3.60	1.60	4.20	2.17	安山岩	III類	Mトレンチ包含層
22	石鏃	3.90	1.70	4.10	3.13	安山岩	III類	Lトレンチ包含層
23	石鏃	4.10	1.20	6.00	2.82	安山岩	IV類	Lトレンチ包含層
24	石鏃	3.70	2.40	5.50	3.90	安山岩	V類	Fトレンチ包含層
25	石錐	3.00	1.60	7.50	2.98	安山岩	II類	Mトレンチ土坑18
26	石錐	2.40	2.00	6.00	2.08	安山岩	II類	Mトレンチ包含層
27	石錐	2.00	1.30	5.50	0.85	安山岩	II類	Gトレンチ包含層
28	石錐	2.90	1.70	6.00	2.40	安山岩	II類	表採
29	石錐	4.80	1.00	6.50	3.63	安山岩	I類	Lトレンチ堅穴27
30	楔形石器	4.30	4.10	5.60	16.52	安山岩	—	Fトレンチ堅穴14
31	楔形石器	3.20	3.90	4.50	7.16	安山岩	—	16トレンチ包含層
32	削器	7.20	5.90	9.00	35.52	安山岩	—	Lトレンチ包含層
33	磨製石剣	5.20	2.40	6.20	6.81	頁岩～粘板岩	—	16トレンチ包含層
34	磨製石鏃	4.80	2.80	5.00	4.89	頁岩～粘板岩	—	16トレンチ包含層
35	磨製石鏃	2.00	2.00	3.00	1.30	頁岩～粘板岩	—	Jトレンチ包含層
36	磨製石鏃	3.00	2.00	3.70	2.49	頁岩～粘板岩	—	Mトレンチ包含層
37	石庖丁	8.20	2.90	5.60	16.61	頁岩～粘板岩	—	Lトレンチ包含層

38	石斧類	13.20	6.20	3.65	460.00	珪質頁岩	I類	Nトレンチ包含層
39	石斧類	11.00	7.30	5.25	640.00	斑礫岩	I類	Mトレンチ堅穴28
40	石斧類	14.10	6.05	4.80	420.00	角閃石	I類	Lトレンチ包含層
41	石斧類	12.55	7.15	4.55	650.00	閃緑～斑礫岩	I類	Lトレンチ包含層
42	石斧類	10.70	6.30	3.80	440.00	珪質頁岩	I類	Lトレンチ包含層
43	石斧類	—	—	—	452.00	斑礫岩	I類	L～Mトレンチ包含層
44	石斧類	12.45	8.35	3.95	700.00	閃緑～斑礫岩	I類	Lトレンチ堅穴28
45	石斧類	6.35	8.15	2.90	220.00	斑礫岩	I類	15トレンチ包含層
46	石斧類	7.40	8.05	2.15	90.00	珪質頁岩	II類	16トレンチ包含層
47	石斧類	10.60	7.00	3.55	430.00	粗粒玄武岩	II類	Lトレンチ堅穴28
48	石斧類	10.50	6.00	2.10	310.00	斑礫岩	II類	Mトレンチ包含層
49	石斧類	8.60	5.40	1.60	140.00	珪質頁岩～粘板岩	II類	Lトレンチ包含層
50	石斧類	6.80	5.40	1.90	88.00	珪質頁岩～粘板岩	II類	堅穴28
51	石斧類	8.20	7.10	1.30	124.00	珪質頁岩～粘板岩	II類	Lトレンチ包含層
52	石斧類	10.35	4.15	1.85	110.00	珪質頁岩	II類	L～Nトレンチ包含層
53	石斧類	6.85	4.30	1.15	52.00	珪質頁岩	II類	16トレンチ包含層
54	石斧類	6.65	3.80	1.85	68.00	閃緑～斑礫岩	II類	Bトレンチ包含層
55	石斧類	4.85	3.30	0.90	35.00	珪質頁岩	II類	Mトレンチ包含層
56	石斧類	4.25	3.50	0.70	9.00	珪質頁岩	II類	Lトレンチ包含層
57	石斧類	4.20	2.10	0.70	9.00	珪質頁岩	II類	Lトレンチ包含層
58	石斧類	9.80	4.80	2.90	2.25	斑礫岩	III類	Lトレンチ包含層
59	石斧類	12.15	3.90	2.65	280.00	頁岩～粘板岩	III類	4トレンチ表採
60	石斧類	10.50	4.50	2.30	235.00	ホルンフェルス	III類	Mトレンチ包含層
61	石斧類	11.50	3.50	2.30	148.00	角閃石	III類	堅穴26
62	石斧類	9.65	3.80	0.80	35.00	頁岩～粘板岩	IV類	Lトレンチ包含層
63	石斧類	10.30	3.80	1.35	42.00	珪質頁岩～粘板岩	IV類	Lトレンチ表採
64	石斧類	10.85	5.20	1.10	88.00	頁岩～粘板岩	IV類	堅穴5
65	敲石類	12.20	5.90	4.60	587.00	閃緑～斑礫岩	I類	16トレンチ包含層
66	敲石類	15.40	8.20	7.70	148.00	閃緑～斑礫岩	I類	Mトレ土器溜まり4
67	敲石類	16.40	6.00	3.60	567.00	斑礫岩	I類	Mトレンチ包含層
68	敲石類	14.10	6.90	5.50	870.00	斑礫岩	I類	表採
69	敲石類	9.90	9.00	7.80	950.00	花崗岩	II類	Mトレンチ包含層
70	敲石類	12.20	10.30	5.40	940.00	花崗岩	I類	Lトレンチ包含層
71	敲石類	7.90	7.40	5.00	605.00	花崗岩	II類	5トレンチ包含層
72	敲石類	15.20	10.40	7.60	168.00	花崗岩	I類	堅穴22
73	敲石類	12.80	6.60	4.80	620.00	花崗岩	I類	Dトレンチ包含層
74	敲石類	11.40	6.40	5.60	610.00	斑礫岩	II類	Mトレンチ包含層
75	敲石類	9.90	8.80	5.00	610.00	凝灰岩	II類	土器溜まり4
76	敲石類	9.70	8.50	5.00	625.00	花崗岩	II類	Lトレンチ包含層
77	敲石類	11.30	9.70	4.90	795.00	礫岩	III類	方形周溝墓(溝6)
78	敲石類	13.60	9.90	7.80	1340.00	礫岩	III類	Lトレンチ包含層
79	敲石類	13.20	10.70	4.20	700.00	礫岩	III類	Nトレンチ表採
80	石皿	13.40	10.40	4.90	10000.00	花崗岩	—	堅穴28

81	石皿	13.10	10.80	2.80	520.00	花崗岩	—	Lトレンチ包含層
82	石皿	14.60	14.10	5.00	14200.00	花崗岩	—	堅穴28
83	石皿	14.80	11.00	5.00	1040.00	花崗岩	—	堅穴26
84	砥石	13.30	3.10	1.20	95.00	頁岩	I類	Mトレンチ包含層
85	砥石	11.60	3.70	1.30	90.00	頁岩～粘板岩	I類	16トレンチ包含層
86	砥石	9.40	4.40	0.70	40.00	頁岩～粘板岩	I類	Mトレンチ包含層
87	砥石	13.80	6.90	1.10	170.00	頁岩～粘板岩	I類	Mトレンチ包含層
88	砥石	6.10	3.70	0.70	35.00	頁岩～粘板岩	II類	Nトレンチ包含層
89	砥石	6.20	5.40	1.80	70.00	凝灰岩	I類	Mトレンチ包含層
90	砥石	4.00	5.70	1.00	35.00	凝灰岩	I類	Mトレンチ包含層
91	砥石	6.60	2.90	2.40	80.00	砂岩	II類	Mトレンチ包含層
92	砥石	7.60	4.70	2.40	110.00	凝灰岩	II類	Lトレンチ包含層
93	砥石	6.00	3.10	2.50	95.00	頁岩～粘板岩	II類	Mトレンチ包含層
94	砥石	3.20	1.30	1.40	10.00	凝灰岩	II類	15トレンチ包含層
95	砥石	9.10	4.30	1.70	100.00	凝灰岩	II類	堅穴30
96	砥石	8.10	4.00	2.80	140.00	凝灰岩	II類	L～Nトレンチ包含層
97	砥石	7.00	3.50	1.90	75.00	頁岩	II類	17トレンチ包含層
98	砥石	6.60	3.50	2.60	115.00	凝灰岩	II類	堅穴21
99	砥石	10.50	4.50	3.70	265.00	凝灰岩	II類	堅穴26
100	砥石	107.00	6.80	4.30	450.00	礫岩	II類	堅穴26
101	砥石	12.00	5.80	4.30	510.00	凝灰岩	II類	Nトレンチ包含層
102	砥石	10.70	5.10	3.90	350.00	凝灰岩	II類	堅穴13
103	砥石	14.60	6.20	2.50	380.00	凝灰岩	II類	堅穴26
104	砥石	14.70	5.40	4.10	480.00	凝灰岩	II類	Mトレンチ包含層
105	砥石	12.30	8.20	6.70	820.00	アブライト	III類	Mトレンチ包含層
106	砥石	13.50	8.70	4.20	507.00	礫岩	III類	土坑18
107	砥石	15.20	7.60	8.00	1270.00	礫岩	III類	方形周溝墓(溝5)
108	砥石	21.00	12.70	4.90	1770.00	凝灰岩	III類	15トレンチ包含層
109	砥石	22.00	8.90	4.40	1350.00	礫岩	III類	堅穴26
110	砥石	17.80	6.70	6.50	10000.00	砂岩	IV類	堅穴26(中央土坑)
111	砥石	13.80	6.20	2.50	2800.00	砂岩	IV類	17トレンチ包含層

付表20 玉作り関連遺物観察表(数値はcm)

番号	種類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(cm)	石材	出土地点
1	管玉未製品	3.90	3.70	1.60	30.40	緑色凝灰岩	Lトレンチ包含層
2	管玉未製品	3.50	2.60	1.30	20.21	緑色凝灰岩	Lトレンチ包含層
3	管玉未製品	3.60	2.20	1.00	9.44	緑色凝灰岩	16トレンチ包含層
4	管玉未製品	3.70	1.50	1.10	9.01	緑色凝灰岩	16トレンチ包含層
5	管玉未製品	3.00	1.30	0.70	3.91	緑色凝灰岩	Bトレンチ包含層
6	管玉未製品	1.30	—	0.27	0.19	緑色凝灰岩	Lトレ黄褐色粘土上面
7	管玉未製品	0.90	0.78	0.65	0.56	緑色凝灰岩	Lトレンチ包含層
8	管玉未製品	1.69	—	0.75	1.66	安山岩	堅穴26埋土
9	石鋸	8.70	4.00	0.23	15.10	結晶片岩	Lトレンチ包含層
10	石鋸	6.60	2.00	0.36	7.32	結晶片岩	Mトレンチ包含層

11	石鋸	3.80	2.50	0.22	3.34	結晶片岩	Lトレンチ包含層
12	石鋸	3.20	2.00	0.15	2.31	結晶片岩	16トレンチ包含層
13	石鋸	2.60	1.10	0.14	0.53	結晶片岩	Mトレンチ包含層
14	石鋸	3.40	1.20	0.20	2.48	結晶片岩	Mトレンチ包含層

付表21 管玉観察表

番号	長(mm)	径(mm)	重量(g)	色調	石材	穿孔方式	出土地点	備考
1	12.50	2.75	0.14	明緑	緑色凝灰岩	両面	Lトレンチ、包含層	
2	11.45	2.65	0.13	青緑	緑色凝灰岩	両面	竪穴25埋土	
3	10.95	2.40	0.10	明緑	緑色凝灰岩	両面	Lトレンチ、包含層	
4	10.95	2.80	0.15	青緑	緑色凝灰岩	両面	方形周溝墓2、主体部	
5	10.40	2.75	0.11	明緑	緑色凝灰岩	両面	方形周溝墓2、主体部	
6	10.65	2.10	0.08	淡緑灰	緑色凝灰岩	両面	方形周溝墓2、主体部	
7	9.90	2.30	0.08	明緑	緑色凝灰岩	両面	方形周溝墓2、主体部	
8	8.60	2.10	0.06	明緑	緑色凝灰岩	両面	Lトレンチ、包含層	
9	9.90	2.35	0.08	青緑	緑色凝灰岩	片面	方形周溝墓2、主体部	
10	8.55	2.15	0.06	淡緑灰	緑色凝灰岩	両面?	方形周溝墓2、主体部	
11	8.55	2.15	0.07	青緑	緑色凝灰岩	両面	方形周溝墓2、主体部	
12	7.45	2.15	0.05	明緑	緑色凝灰岩	片面	方形周溝墓2、主体部	
13	7.95	2.30	0.06	青緑	緑色凝灰岩	両面	方形周溝墓2、主体部	
14	5.55	2.70	0.07	青緑	緑色凝灰岩	片面?	方形周溝墓2、主体部	
15	7.30	2.15	0.06	淡緑灰	緑色凝灰岩	片面	方形周溝墓2、主体部	
16	6.45	2.15	0.04	淡緑灰	緑色凝灰岩	両面	竪穴25埋土	
17	(6.95)	(1.95)	0.04	明緑	緑色凝灰岩	片面?	竪穴27埋土	一部欠損
18	4.55	2.05	0.04	濃緑	緑色凝灰岩	両面	方形周溝墓2、主体部	
19	5.50	2.00	0.03	淡緑灰	緑色凝灰岩	片面?	方形周溝墓2、主体部	
20	6.60	2.00	0.04	明緑	緑色凝灰岩	片面?	方形周溝墓2、主体部	
21	11.75	2.65	0.15	明緑	緑色凝灰岩	両面	4トレンチ、包含層	
22	11.35	3.00	0.17	明緑	緑色凝灰岩	片面?	4トレンチ、包含層	
23	10.20	3.95	0.29	明緑	緑色凝灰岩	片面	竪穴14 ピット内埋土上面	
24	9.80	4.15	0.29	明青緑	蛇紋岩	両面	Dトレンチ、包含層	
25	(28.25)	4.00	0.84	黄緑灰	蛇紋岩	両面	竪穴2、特殊ピット内	一部欠損
26	(21.25)	4.75	0.09	淡緑灰	緑色凝灰岩	両面	Mトレンチ、包含層	一部欠損
27	(19.70)	(4.75)	0.50	暗青緑	蛇紋岩	片面	竪穴9	一部欠損
28	(11.60)	4.65	0.30	青緑	緑色凝灰岩	両面	Mトレンチ 青灰色粘土	一部欠損

付表22 白玉観察表

番号	長(a)	径(b)	色調	重量(g)	形態	出土遺構
35	0.215	0.445	青緑灰	0.07	1Aa	竪穴3
36	0.205	0.480	青緑灰	0.05	1Aa	竪穴5、埋土水洗
37	0.260	0.415	青緑灰	0.07	1Aa	竪穴5、埋土水洗
38	0.150	0.385	明緑灰	0.03	1Aa	竪穴5、埋土水洗

39	0.190	0.405	青緑灰	0.06	1Aa	竪穴5、埋土水洗
40	0.215	0.390	青緑灰	0.06	1Aa	竪穴5、埋土水洗
41	0.235	0.365	青緑灰	0.06	1Aa	Jトレンチ包含層
42	0.215	0.440	暗緑灰	0.07	1Ab	竪穴2、周壁溝
43	0.355	0.430	暗青緑灰	0.10	1Ab	竪穴8、埋土
44	0.150	0.345	暗青緑	0.02	1Ab	竪穴8、埋土
45	0.205	0.395	暗緑灰	0.05	1Ab	竪穴8、埋土
46	0.300	0.430	暗青緑灰	0.09	1Ab	竪穴8、埋土
47	0.230	0.355	明青緑灰	0.06	1Ab	竪穴5、埋土
48	0.180	0.325	淡緑灰	0.03	1Ab	竪穴5、埋土水洗
49	0.265	0.395	青緑灰	0.07	1Ab	竪穴5、埋土水洗
50	0.235	0.385	緑灰	0.04	1Ab	竪穴5、埋土水洗
51	0.215	0.400	緑灰	0.06	1Ab	竪穴5、埋土水洗
52	0.195	0.300	青緑灰	0.03	1Ab	竪穴5、埋土水洗
53	0.195	0.385	青緑灰	0.05	1Ab	竪穴5、埋土水洗
54	0.230	0.400	青緑灰	0.07	1Ab	竪穴5、埋土水洗
55	0.170	0.400	青緑灰	0.04	1Ab	竪穴5、埋土水洗
56	0.375	0.415	青緑灰	0.10	1Ab	竪穴5、埋土水洗
57	0.225	0.425	青緑灰	0.06	1Ab	竪穴5、埋土水洗
58	0.200	0.410	青緑灰	0.06	1Ab	竪穴5、埋土水洗
59	0.280	0.400	暗緑灰	0.06	1Ab	竪穴5、埋土水洗
60	0.240	0.355	青緑灰	0.05	1Ab	竪穴5、埋土水洗
61	0.220	0.420	青緑灰	0.06	1Ab	竪穴5、埋土水洗
62	0.155	0.395	暗青緑灰	0.04	1Ab	竪穴5、床面
63	0.195	0.405	青緑灰	0.04	1Ab	竪穴5、埋土
64	0.300	0.425	暗緑褐	0.08	1Ab	竪穴6、埋土
65	0.285	0.455	暗緑灰	0.08	1Ab	竪穴6、埋土
66	0.190	0.395	青緑灰	0.05	1Ab	竪穴6、埋土
67	0.275	0.505	青緑灰	0.09	1Bb	竪穴5、埋土水洗
68	0.295	0.380	緑灰褐	0.05	1Bb	竪穴5、埋土水洗
69	0.195	0.400	緑灰	0.05	1Bb	竪穴5、埋土水洗
70	0.240	0.415	青緑灰	0.06	1Bb	竪穴5、埋土水洗
71	0.330	0.410	緑灰褐	0.07	1Bb	竪穴5、埋土水洗
72	0.230	0.380	青緑灰	0.05	1Bb	竪穴5、埋土水洗
73	0.200	0.345	青緑灰	0.02	1Bb	竪穴5、埋土水洗
74	0.270	0.465	青緑灰	0.09	1Bb	竪穴5、床面
75	0.235	0.395	緑灰	0.06	1Bb	竪穴5、床面
76	0.245	0.355	青緑灰	0.03	1Bb	竪穴5、埋土
77	0.370	0.485	暗灰褐	0.09	1Bb	竪穴6、焼土面
78	0.255	0.470	緑灰	0.08	1Bb	竪穴6、埋土
79	0.300	0.395	緑灰	0.07	1Bb	竪穴8、埋土
80	0.295	0.420	暗緑	0.09	1Bb	竪穴8、埋土
81	0.265	0.425	青緑灰	0.09	1Bb	Mトレンチ包含層
82	0.260	0.405	青緑	0.07	1Bb	A～Dトレンチ包含層

83	0.350	0.505	青緑灰	0.09	1Bb	Bトレンチ包含層
84	0.240	0.415	青緑灰	0.05	1Bb	Mトレンチ包含層
85	0.015	0.335	淡緑灰	0.02	2Aa	堅穴3、床面
86	0.145	0.350	淡緑灰	0.03	2Aa	堅穴3、床面
87	0.200	0.350	淡緑灰	0.04	2Aa	堅穴3、床面
88	0.255	0.450	青緑灰	0.09	2Aa	堅穴3、床面
89	0.245	0.440	暗青緑灰	0.06	2Aa	堅穴5、床面
90	0.215	0.485	淡青緑灰	0.05	2Aa	堅穴5、埋土
91	0.320	0.345	青緑灰	0.08	2Aa	堅穴5、埋土水洗
92	0.250	0.400	青緑灰	0.08	2Aa	堅穴5、埋土水洗
93	0.155	0.330	青緑灰	0.03	2Aa	堅穴5、埋土水洗
94	0.225	0.365	緑灰	0.05	2Aa	堅穴5、埋土水洗
95	0.270	0.430	明緑灰	0.08	2Aa	堅穴5、埋土水洗
96	0.300	0.390	青緑灰	0.08	2Aa	堅穴5、埋土水洗
97	0.180	0.340	暗青緑	0.04	2Aa	堅穴5、埋土水洗
98	0.195	0.335	青緑灰	0.03	2Aa	堅穴5、埋土水洗
99	0.175	0.420	緑灰	0.06	2Aa	堅穴5、埋土水洗
100	0.160	0.315	暗緑灰	0.03	2Aa	堅穴5、埋土水洗
101	0.200	0.395	青緑灰	0.06	2Aa	堅穴5、埋土水洗
102	0.280	0.400	暗緑灰	0.09	2Aa	堅穴5、埋土水洗
103	0.290	0.460	青緑灰	0.08	2Aa	堅穴6、埋土
104	0.175	0.315	暗黄緑	0.03	2Aa	堅穴8、埋土
105	0.240	0.360	暗緑	0.04	2Aa	堅穴8、埋土
106	0.300	0.390	青緑灰	0.05	2Aa	堅穴8、埋土
107	0.305	0.445	暗緑灰	0.10	2Aa	堅穴5、埋土
108	0.135	0.410	青緑灰	0.05	2Aa	A～Dトレンチ包含層
109	0.340	0.400	青緑灰	0.07	2Aa	Jトレンチ包含層
110	0.215	0.360	青緑灰	0.02	2Ab	堅穴4、床面
111	0.395	0.390	暗青緑	0.09	2Ab	堅穴5、埋土
112	0.175	0.365	暗青緑	0.02	2Ab	堅穴5、埋土
113	0.170	0.335	黒灰	0.03	2Ab	堅穴5、埋土水洗
114	0.215	0.400	青緑灰	0.07	2Ab	堅穴5、埋土水洗
115	0.240	0.370	緑灰	0.07	2Ab	堅穴5、埋土水洗
116	0.250	0.360	緑灰	0.06	2Ab	堅穴5、埋土水洗
117	0.130	0.335	青緑灰	0.02	2Ab	堅穴5、埋土水洗
118	0.175	0.355	青緑灰	0.04	2Ab	堅穴5、埋土水洗
119	0.160	0.390	緑灰	0.04	2Ab	堅穴5、埋土水洗
120	0.285	0.400	緑灰	0.07	2Ab	堅穴5、埋土水洗
121	0.220	0.405	青緑灰	0.06	2Ab	堅穴5、埋土水洗
122	0.240	0.400	青緑	0.07	2Ab	堅穴5、埋土水洗
123	0.265	0.399	緑灰	0.07	2Ab	堅穴5、埋土水洗
124	0.160	0.400	青緑灰	0.04	2Ab	堅穴5、埋土水洗
125	0.230	0.420	青緑灰	0.06	2Ab	堅穴5、埋土水洗
126	0.215	0.430	青緑	0.08	2Ab	堅穴5、埋土水洗

127	0.265	0.375	青緑	0.07	2Ab	竪穴5、埋土水洗
128	0.165	0.420	青緑灰	0.05	2Ab	竪穴5、埋土水洗
129	0.310	0.365	青緑	0.06	2Ab	竪穴5、埋土水洗
130	0.185	0.490	緑灰	0.08	2Ab	竪穴5、埋土水洗
131	0.220	0.390	緑灰	0.05	2Ab	竪穴5、埋土水洗
132	0.270	0.390	暗灰褐	0.07	2Ab	竪穴5、埋土水洗
133	0.245	0.310	青緑	0.04	2Ab	竪穴5、埋土水洗
134	0.180	0.310	緑灰	0.03	2Ab	竪穴5、埋土水洗
135	0.155	0.380	青緑灰	0.03	2Ab	竪穴5、埋土水洗
136	0.275	0.470	青緑灰	0.11	2Ab	竪穴5、埋土水洗
137	0.210	0.400	青緑灰	0.06	2Ab	竪穴5、埋土水洗
138	0.180	0.355	明灰褐	0.04	2Ab	竪穴5、埋土水洗
139	0.300	0.355	淡緑灰	0.08	2Ab	竪穴6、埋土
140	0.425	0.440	淡緑灰	0.12	2Ab	竪穴6、埋土
141	0.355	0.425	緑灰	0.08	2Ab	竪穴6、埋土
142	0.420	0.445	緑灰	0.13	2Ab	竪穴6、埋土
143	0.375	0.415	青緑灰	0.09	2Ab	竪穴1、床面直上
144	0.245	0.420	青緑灰	0.07	2Ab	竪穴1、床面直上
145	0.140	0.395	青緑灰	0.03	2Ab	竪穴1、床面直上
146	0.170	0.390	青緑灰	0.03	2Ab	竪穴1、床面直上
147	0.250	0.365	青緑灰	0.05	2Ab	竪穴1、床面直上
148	0.170	0.355	暗緑灰	0.04	2Ab	竪穴8、埋土
149	0.325	0.355	暗青緑灰	0.06	2Ab	竪穴10、床面直上
150	0.305	0.400	青緑灰	0.09	2Ab	Cトレンチ包含層
151	0.195	0.440	淡緑灰	0.07	2Ab	A～Dトレンチ包含層
152	0.195	0.415	青緑灰	0.06	2Ab	A～Dトレンチ包含層
153	0.095	0.345	淡緑灰	0.01	2Ba	竪穴3、床面
154	0.150	0.335	淡緑灰	0.02	2Ba	竪穴3、床面
155	0.175	0.340	淡緑灰	0.03	2Ba	竪穴3、床面
156	0.160	0.345	淡緑灰	0.03	2Ba	竪穴3、床面
157	0.120	0.335	淡緑灰	0.02	2Ba	竪穴3、床面
158	0.210	0.435	青緑	0.07	2Ba	竪穴3、床面
159	0.180	0.350	淡緑灰	0.04	2Ba	竪穴3、床面
160	0.385	0.460	淡緑灰	0.11	2Ba	竪穴6、埋土
161	0.270	0.385	暗青緑灰	0.06	2Ba	竪穴5、埋土
162	0.220	0.315	淡緑灰	0.04	2Ba	竪穴8、埋土
163	0.360	0.340	暗緑灰	0.04	2Ba	竪穴8、埋土
164	0.235	0.400	暗青緑	0.07	2Ba	竪穴5、埋土水洗
165	0.145	0.385	青緑	0.04	2Ba	竪穴5、埋土水洗
166	0.170	0.440	淡緑灰	0.05	2Ba	竪穴5、埋土水洗
167	0.200	0.440	青緑灰	0.10	2Ba	竪穴5、埋土水洗
168	0.225	0.380	暗青緑	0.05	2Bb	竪穴5、埋土
169	0.165	0.365	緑灰	0.04	2Bb	竪穴5、埋土
170	0.210	0.370	暗青緑	0.05	2Bb	竪穴5、埋土

171	0.400	0.390	青緑灰	0.07	2Bb	竪穴5、埋土水洗
172	0.225	0.405	緑灰	0.07	2Bb	竪穴5、埋土水洗
173	0.215	0.370	緑灰	0.03	2Bb	竪穴5、埋土
174	0.270	0.380	緑灰褐	0.06	2Bb	竪穴5、埋土水洗
175	0.230	0.350	青緑灰	0.05	2Bb	竪穴5、埋土水洗
176	0.235	0.500	青緑灰	0.10	2Bb	竪穴5、埋土水洗
177	0.215	0.400	青緑灰	0.05	2Bb	竪穴5、埋土水洗
178	0.205	0.385	青緑	0.05	2Bb	竪穴5、埋土水洗
179	0.320	0.320	青緑	0.04	2Bb	竪穴5、埋土水洗
180	0.235	0.415	青緑	0.06	2Bb	竪穴5、埋土水洗
181	0.350	0.410	青緑灰	0.10	2Bb	竪穴5、埋土水洗
182	0.340	0.365	青緑灰	0.07	2Bb	竪穴5、埋土水洗
183	0.225	0.410	青緑灰	0.06	2Bb	竪穴5、埋土水洗
184	0.350	0.420	緑灰	0.10	2Bb	竪穴5、埋土水洗
185	0.210	0.410	青緑	0.05	2Bb	竪穴5、埋土水洗
186	0.290	0.395	緑灰	0.08	2Bb	竪穴5、埋土水洗
187	0.230	0.415	緑灰	0.06	2Bb	竪穴5、埋土水洗
188	0.150	0.400	青緑灰	0.04	2Bb	竪穴5、埋土水洗
189	0.215	0.335	緑灰	0.04	2Bb	竪穴5、埋土水洗
190	0.255	0.390	青緑灰	0.06	2Bb	竪穴5、埋土水洗
191	0.220	0.345	暗青緑灰	0.03	2Bb	竪穴5、床面
192	0.375	0.380	淡緑灰	0.07	2Bb	竪穴6、埋土
193	0.275	0.460	暗緑灰	0.08	2Bb	竪穴6、埋土
194	0.215	0.355	緑灰	0.04	2Bb	竪穴6、埋土
195	0.385	0.450	青緑灰	0.11	2Bb	竪穴6、埋土
196	0.365	0.425	暗緑灰	0.10	2Bb	竪穴6、埋土
197	0.415	0.415	青緑灰	0.09	2Bb	竪穴1、床面直上
198	0.345	0.415	青緑灰	0.08	2Bb	竪穴1、床面直上
199	0.230	0.415	青緑灰	0.06	2Bb	竪穴1、床面直上
200	0.360	0.400	青緑灰	0.06	2Bb	竪穴1、床面直上
201	0.290	0.410	青緑灰	0.06	2Bb	竪穴1、床面直上
202	0.225	0.420	青緑灰	0.05	2Bb	竪穴1、床面直上
203	0.250	0.420	青緑灰	0.08	2Bb	竪穴1、床面直上
204	0.285	0.405	青緑灰	0.07	2Bb	竪穴1、床面直上
205	0.385	0.400	青緑灰	0.08	2Bb	竪穴1、床面直上
206	0.255	0.415	青緑灰	0.06	2Bb	竪穴1、床面直上
207	0.210	0.360	青緑灰	0.04	2Bb	竪穴1、床面直上
208	0.265	0.390	青緑灰	0.05	2Bb	竪穴1、床面直上
209	0.265	0.475	青緑灰	0.05	2Bb	竪穴1、床面直上
210	0.290	0.375	青緑灰	0.05	2Bb	竪穴1、床面直上
211	0.190	0.390	青緑灰	0.03	2Bb	竪穴1、床面直上
212	0.305	0.370	青緑灰	0.04	2Bb	竪穴1、床面直上
213	0.270	0.400	青緑灰	0.06	2Bb	竪穴1、床面直上
214	0.200	0.455	青緑灰	0.04	2Bb	竪穴1、床面直上

215	0.265	0.555	青緑灰	0.12	2Bb	Nトレンチ包含層
216	0.380	0.435	青緑	0.12	2Bb	A～Dトレンチ包含層
217	0.270	0.395	淡緑灰	0.06	2Bb	Nトレンチ包含層
218	0.215	0.325	赤褐	0.04	2Aa	竪穴4、床面直上

付表23 ガラス小玉観察表

番号	長(mm)	径(mm)	重量(g)	色調	出土遺構
219	3.60	4.65	0.11	ライトブルー	竪穴12
220	2.50	4.55	0.07	ライトブルー	竪穴14
221	2.65	3.35～3.50	0.01	コバルトブルー	竪穴14
222	3.80	2.45	0.05	ライトブルー	竪穴14
223	3.60	4.45	0.11	ライトブルー	Fトレンチ包含層
224	0.31	0.36	0.07	ライトブルー	竪穴8

付表24 土錘観察表

No.	現存長 (cm)	最大直径 (cm)	孔径 (cm)	胎土	色調	焼成	残存率	出土位置	備考
1	7.9	1.98	0.31 0.41	精良・1mm以下の砂粒を やや含む(石英・長石・黒雲 母・赤色粒)(チャート?)	橙褐色	良好 土師質・ 有黒斑	完形	竪穴5埋土	
2	7.7	2.18	0.52 (上下同)	精良・1mm以下の砂粒を 多く含む(石英・長石・黒雲 母・チャート)	橙褐色	良好 土師質	完形	竪穴5埋土	
3	7.5	1.88	0.35 (上下同)	精良・1mm以下の砂粒を やや含む(石英・長石・黒雲 母・チャート・赤色粒)	明橙褐 色	良好 土師質	完形	竪穴5埋土	
4	7.1	1.94	0.33 0.45	精良・1mm以下の砂粒を 多く含む(石英・長石・黒雲 母・赤色粒・金雲母)	橙褐色	良好 土師質	完形	竪穴5埋土	
5	6.8	1.80	0.36 0.44	精良・1mm以下の砂粒を 多く含む(石英・長石・黒雲 母・チャート・赤色粒)	灰褐色	良好 土師質・ 有黒斑	完形	3トレンチ 包含層	
6	6.0	1.48	0.54 (上下同)	良・1mm以下の砂粒をか なり多く含む(石英・長石・ 黒雲母・チャート・赤色粒)	橙褐色	良好 土師質	完形	Lトレンチ 青灰色粘土 層	
7	5.8	1.84	0.35 (上下同)	精良・1mm以下の砂粒を やや含む(石英・長石・黒雲 母・チャート・赤色粒)	橙褐色	良好 土師質	約2/3	竪穴5埋土	
8	2.9	1.00	0.42 (上下同)	精良・0.5mm以下の砂粒を やや多く含む(石英・長石 ・黒雲母)(赤色粒・チャ ート?)	茶褐色	良好 土師質	約1/2	包含層	

9	4.0	1.42	0.53 (上下同)	精良・1mm以下の砂粒を やや含む(石英・長石・黒雲 母・チャート)	暗灰色	良好 土師質	約2/3	土器溜まり 6	
10	3.3	1.58	0.40 (上下同)	精良・0.5mm以下の砂粒を やや含む(石英・チャート) (赤色粒?)	黒褐色	良好 土師質	約1/2	溝 1	
11	2.6	2.75	—	良好	灰褐色	良好 土師質	完形	堅穴 5埋土	不明土 製品

付表25 紡錘車観察表

No.	底部径 (cm)	頂部径 (cm)	高さ (厚さ) (cm)	孔径 (cm)	材質	胎土	色調	焼成	残存率	出土位置	線刻文様	備考
12	4.56	—	0.70	0.50	土製	やや粗い。 2mm以下の 砂粒をやや 多く含む。 (長石・石英 ・黒雲母・赤 色粒)	茶褐色	良好 土師質	完形	堅穴26	—	土器体部片 の再利用
13	4.75	2.10	2.28	1.75 (上下同)	土製	精良。1mm 以下の砂粒 をやや含む (長石)	灰色	堅緻 須恵質	完形	Mトレンチ 包含層	—	側面に横方 向の粗い擦 痕
14	5.05	2.64	1.95	上 0.78 下 0.72	石製 凝灰 岩	—	乳白色	—	完形	Lトレンチ 青灰色粘土 層	底面に放 射状文・ 不整円圈 文	側面に横方 向の粗い擦 痕
15	3.85	2.30	2.23	0.62 (上下同)	石製 滑石	—	暗緑色	—	ほぼ完 形	Hトレンチ 青灰色粘土 層	側面・底 面に鋸歯 文・円圈 文	側面に横方 向の粗い擦 痕
16	4.00	1.75	1.75	0.80 (上下同)	石製 凝灰 岩	—	淡黄褐 色	—	約1/2	5トレンチ 包含層	全面に不 整線刻文	—
17	4.43	2.83	1.28	0.73 (上下同)	土製	極めて精良 ・微粒をわ ずかに含む (石英・黒雲 母)	暗灰色	堅緻 須恵質	完形	包含層	—	—

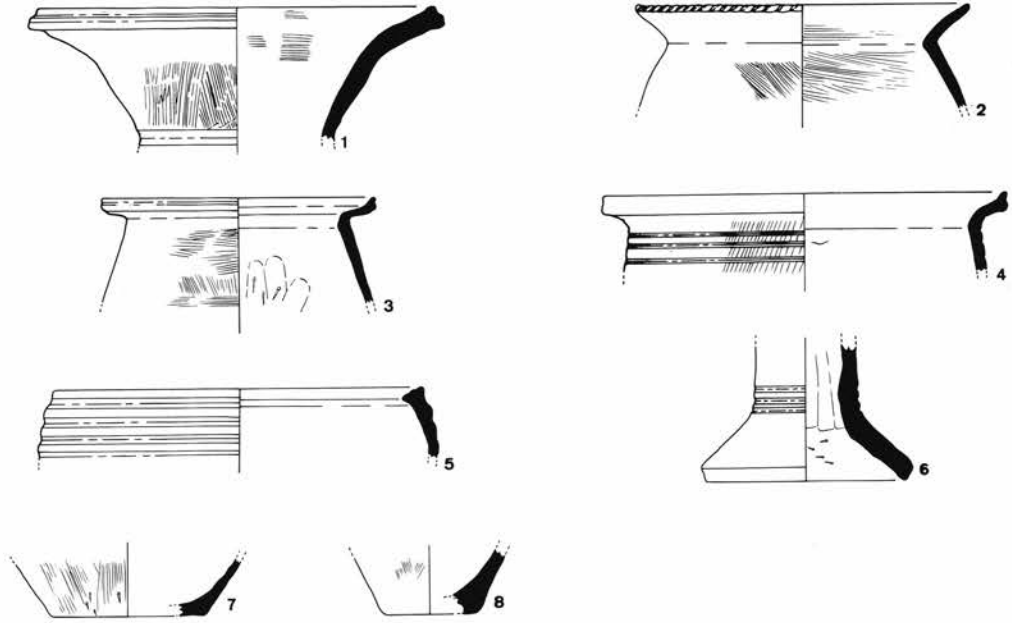
付表26 数珠玉観察表

数珠玉	材質	色調	備考	直径	厚(cm)	孔径
1	ガラス(縞状に表面変質)、白濁	白色	表面に数か所の小孔あり、横縞あり	0.70	0.55	0.20
2	ガラス(縞状に表面変質)、白濁	白色	表面に数か所の小孔あり	0.60	0.60	0.20
3	ガラス(縞状に表面変質)、白濁	白色	表面に数か所の小孔あり	0.60	0.60	0.15
4	ガラス(縞状に表面変質)、白濁	白色	表面に数か所の小孔あり	0.60	0.55	0.20
5	ガラス(縞状に表面変質)、白濁	白色	表面に数か所の小孔あり	0.60	0.50	0.15
6	ガラス(縞状に表面変質)、白濁	白色	表面に数か所の小孔あり	0.55	0.40	0.10
7	ガラス(縞状に表面変質)、白濁	白色	表面に数か所の小孔あり	0.70	0.50	0.20
8	ガラス(縞状に表面変質)、白濁	白色	表面に数か所の小孔あり、2個融着	0.70	0.60 0.50	0.10 0.15
9	水晶、透明	白色	打痕あり(上：大、下：小)	0.60	0.40	0.10
10	水晶、透明	白色	打痕あり(上：大、下：小)	0.60	0.35	0.10
11	ガラス(表面に貫入あり)、透明	白色	表面に数か所の小孔あり、縦長	0.60	0.55	0.15
12	ガラス(縞状に表面変質)、半透	白色	表面に数か所の小孔あり、縦長	0.60	0.50	0.20
13	ガラス(縞状に表面変質)、白濁	淡褐色	表面に数か所の小孔あり、扁平	0.55	0.30	0.15
14	水晶、透明	白色	打痕あり(双方とも同じ)	0.55	0.40	0.15
15	水晶、透明	白色	打痕あり(上：大、下：小)	0.70	0.40	0.15

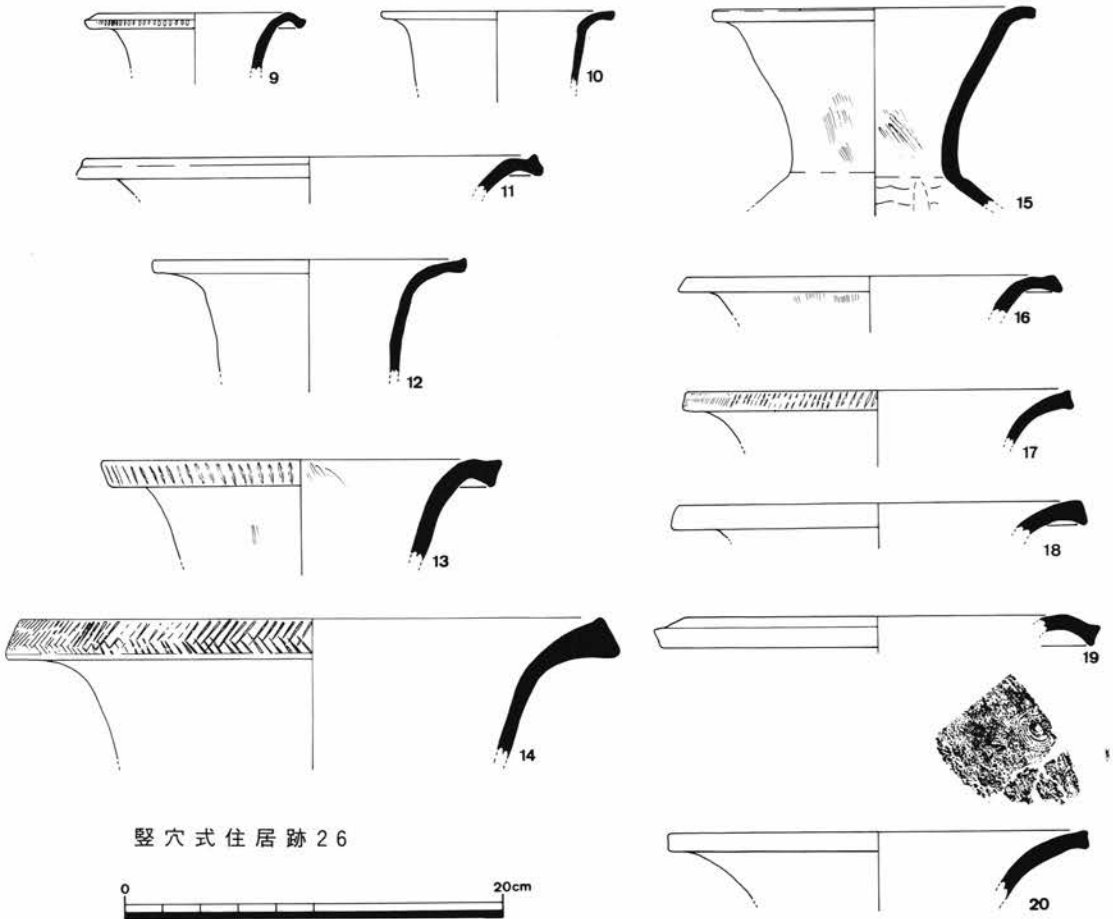
付表27 銅銭一覧表

銭貨	種類	初鑄年	時代	直径(cm)	現状
1	皇宋通寶	1039	北宋	2.2	完形
2	不明			2.2	完形
3	不明			2.2	ほぼ完形
4	政和通寶	1111	北宋	2.4	ほぼ完形
5	咸平通寶	998	北宋	2.4	ほぼ完形
6	祥符通寶	1008	北宋	2.2	完形
7	皇宋通寶	1039	北宋	2.3	ほぼ完形
8	元祐通寶	1086	北宋	2.3	完形
9	開元通寶	621	唐	2.2	4分の1欠損
10	不明			(2.2)	4分の3欠損

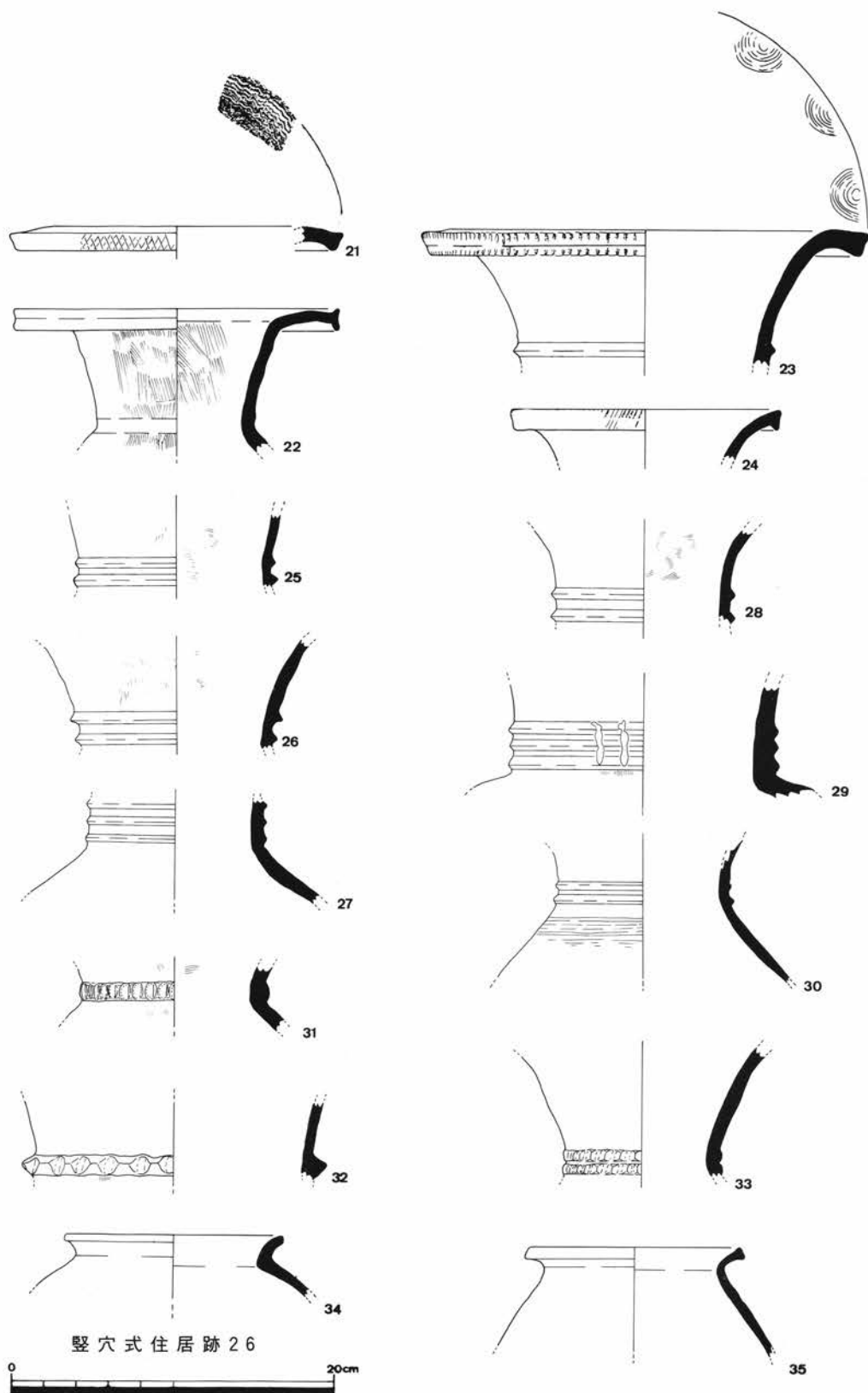
圖 版



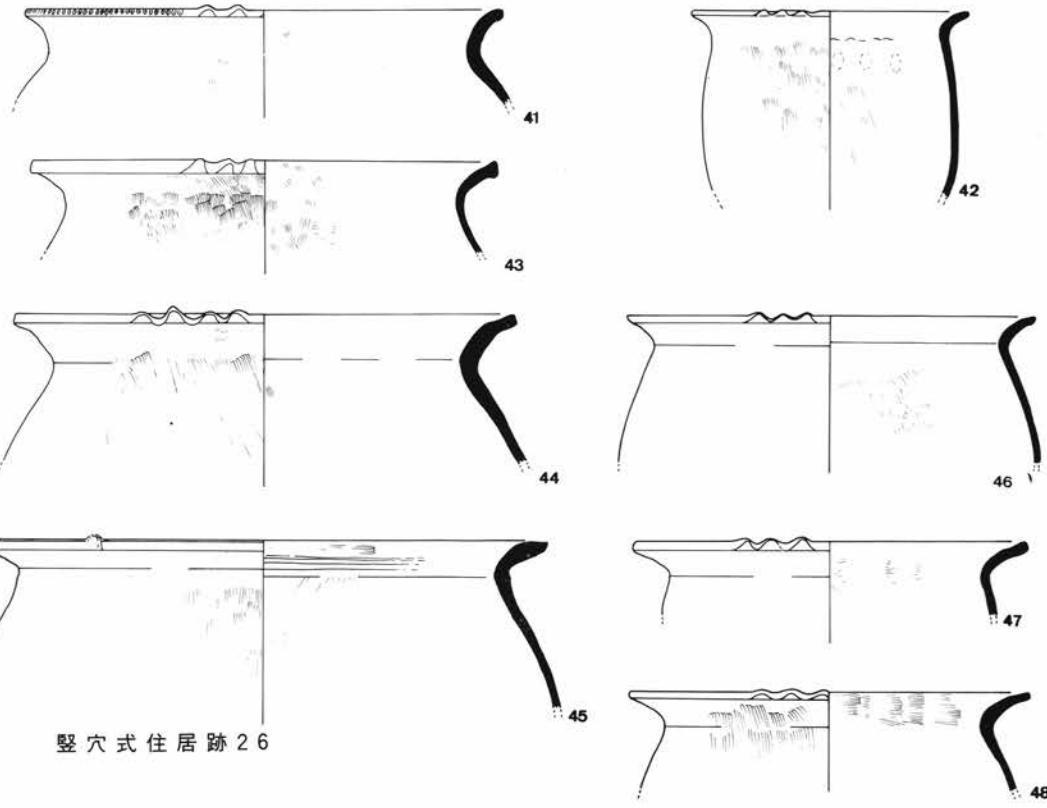
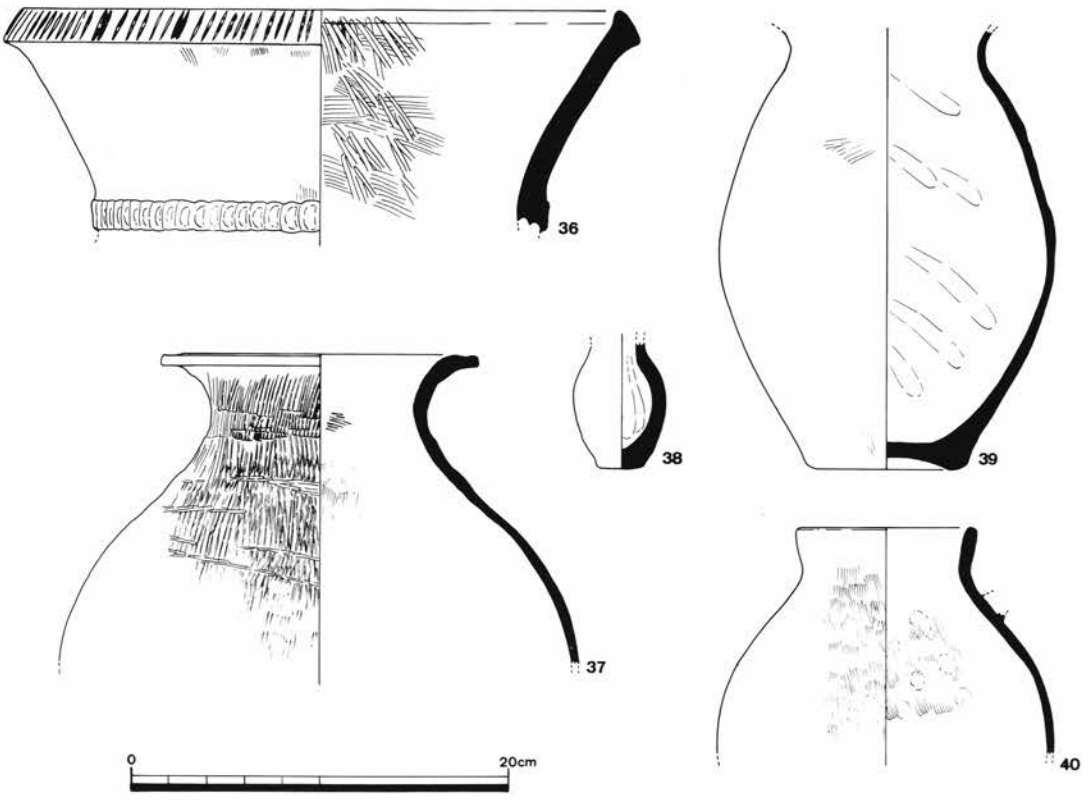
竪穴式住居跡 24



竪穴式住居跡 26

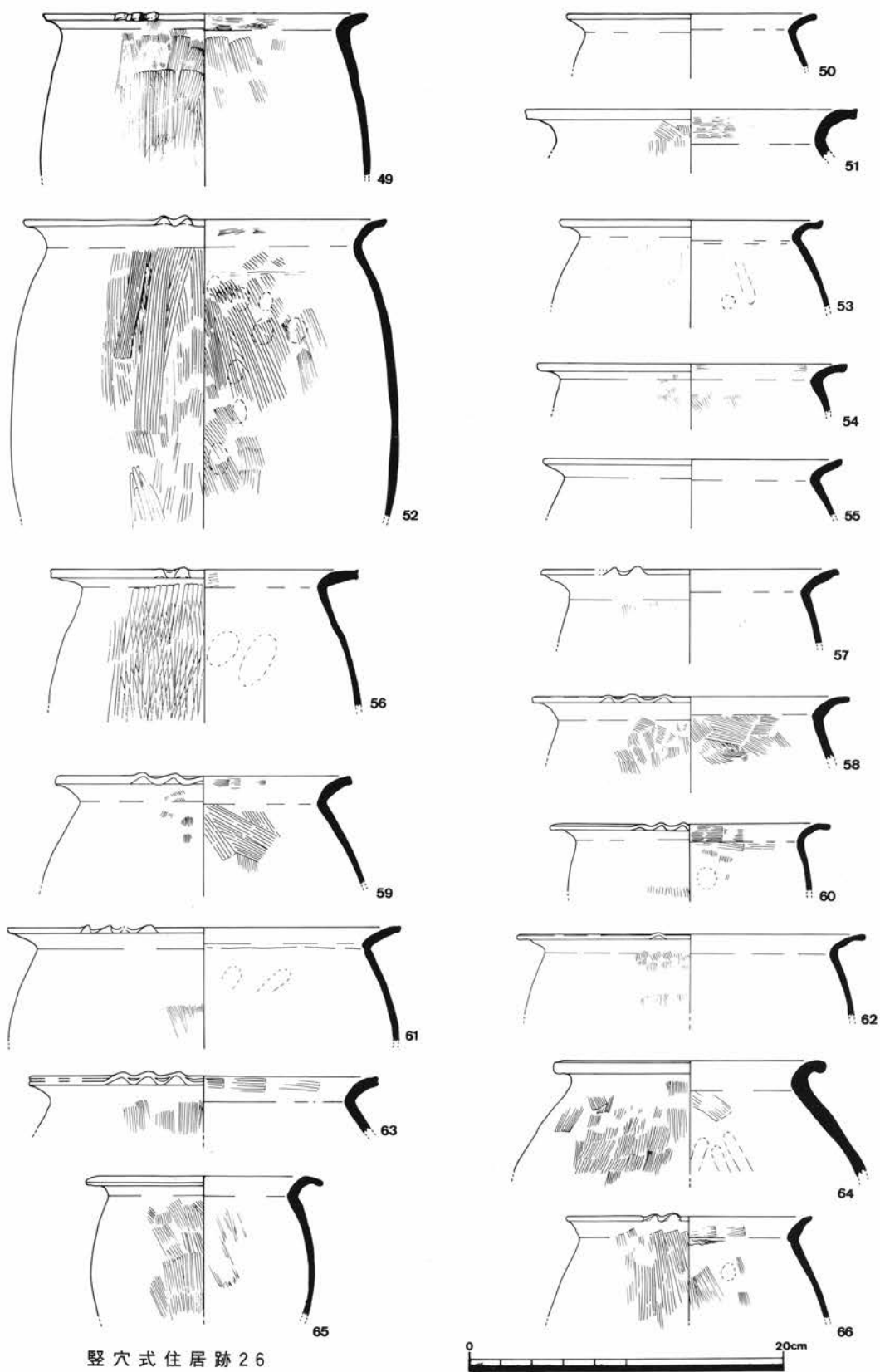


出土遺物実測図 (弥生時代中期 2)



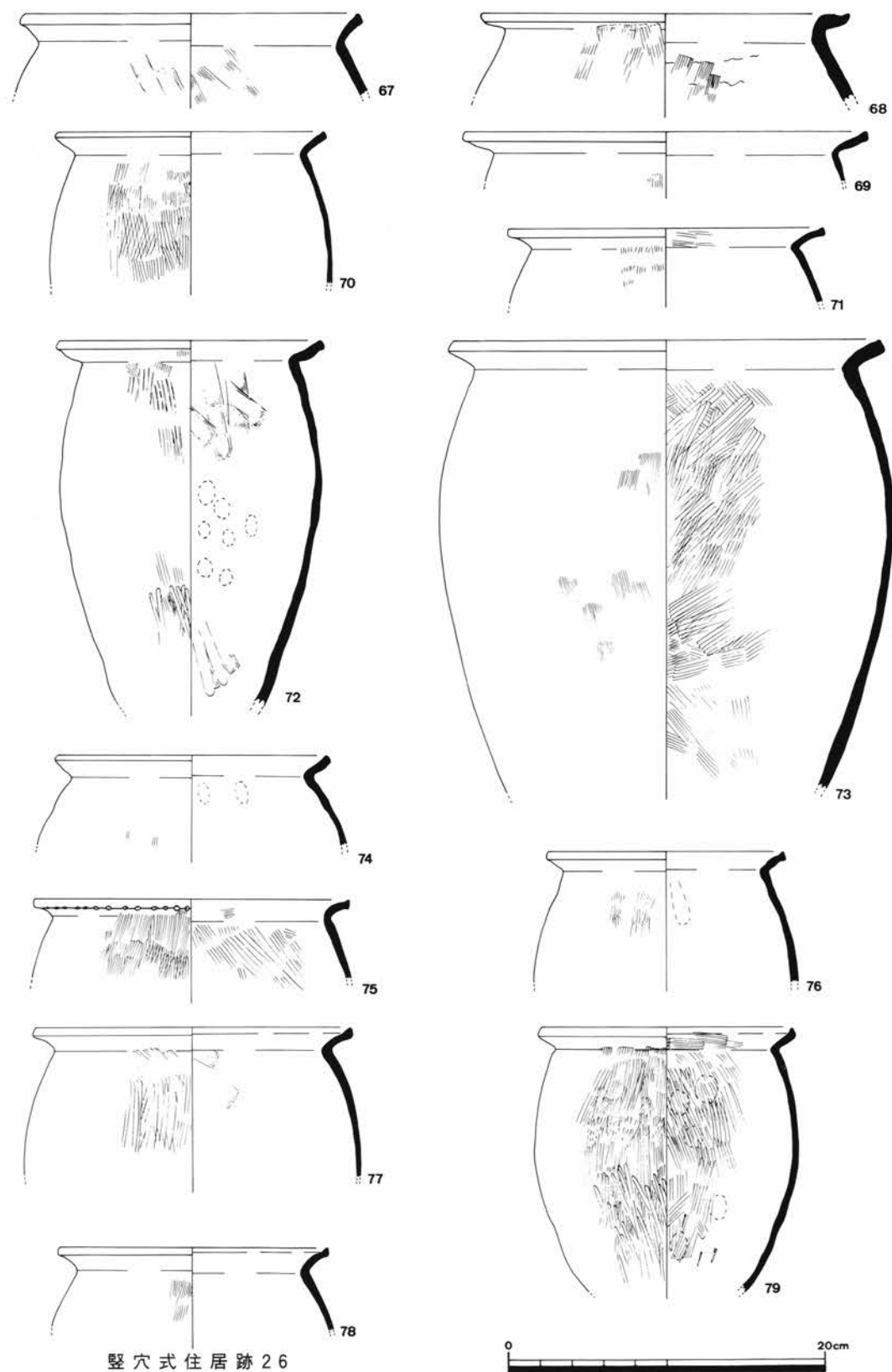
竪穴式住居跡 26

出土遺物実測図 (弥生時代中期 3)



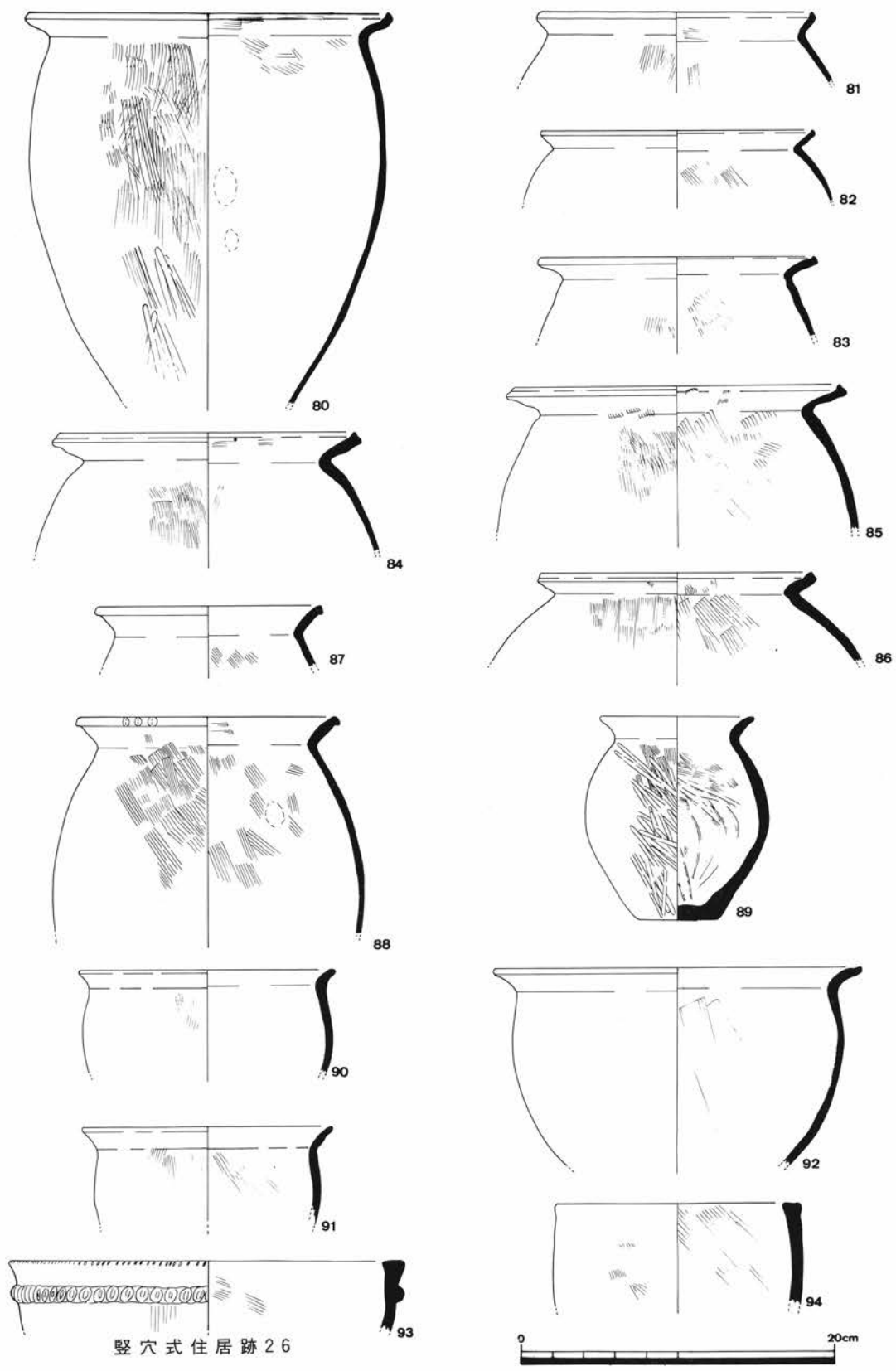
豎穴式住居跡 26

出土遺物実測図 (弥生時代中期 4)

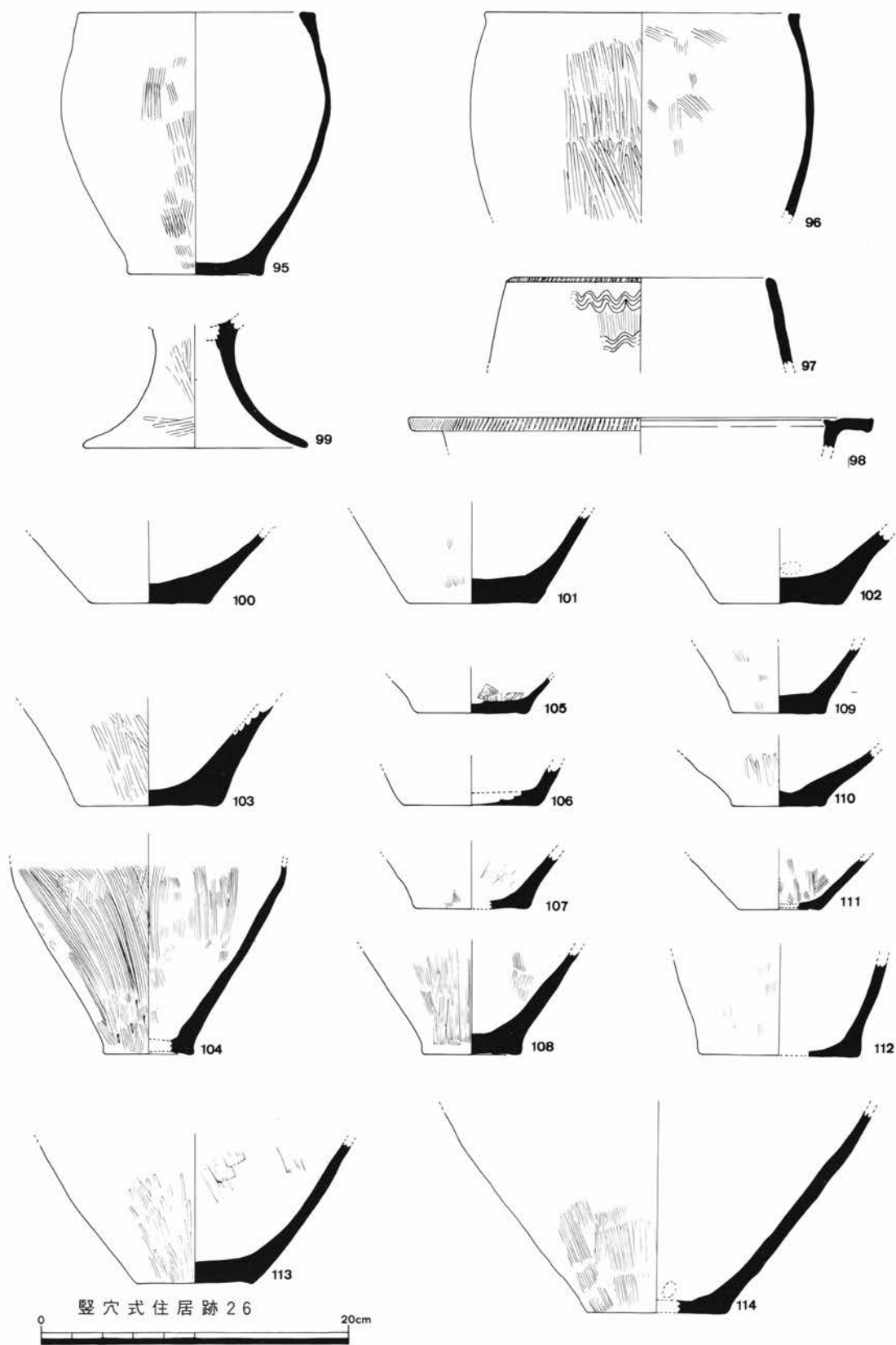


竪穴式住居跡 26

出土遺物実測図 (弥生時代中期 5)



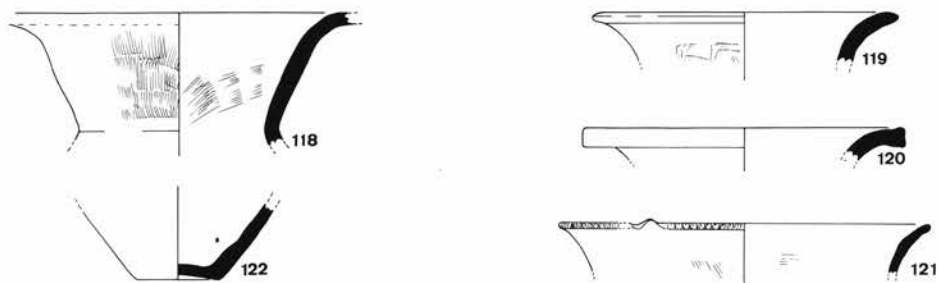
出土遺物実測図（弥生時代中期 6）



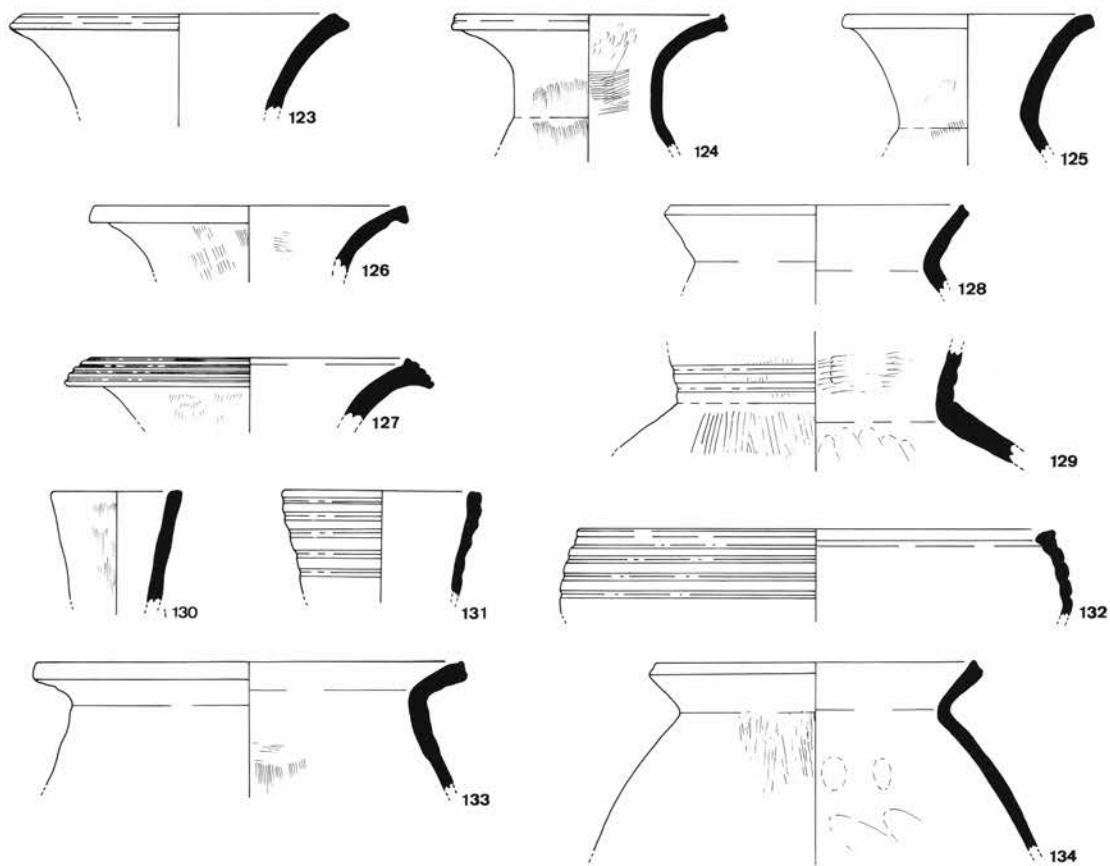
出土遺物実測図（弥生時代中期7）



豎穴式住居跡 26

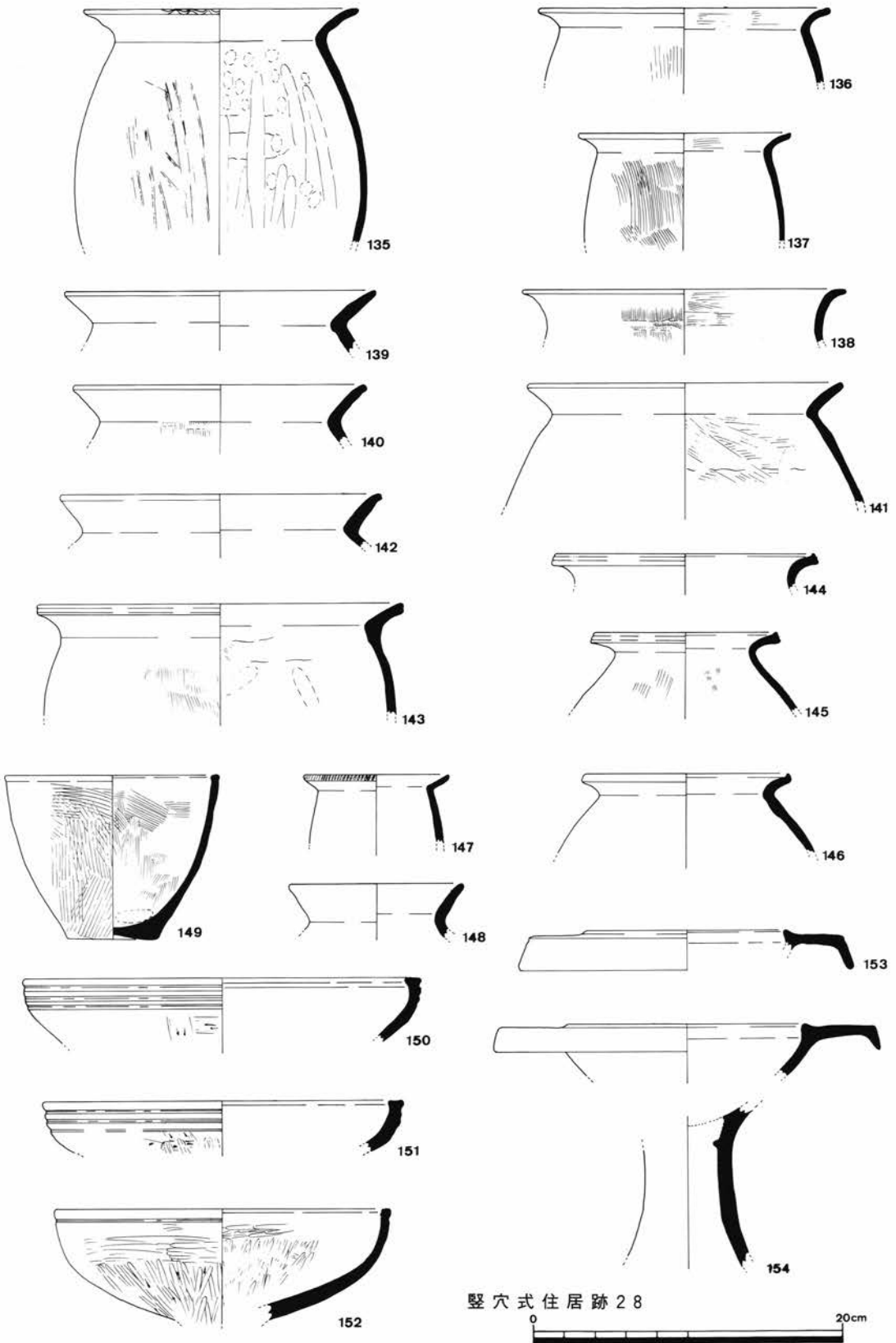


豎穴式住居跡 27

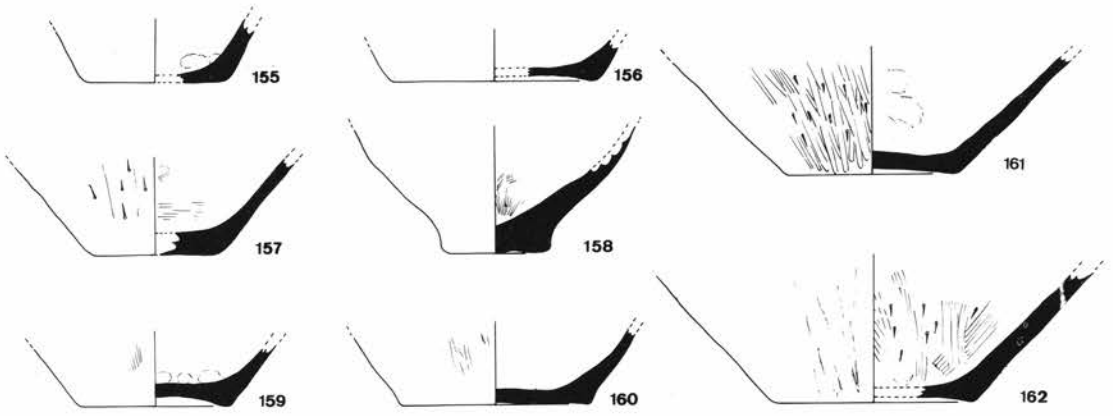


豎穴式住居跡 28

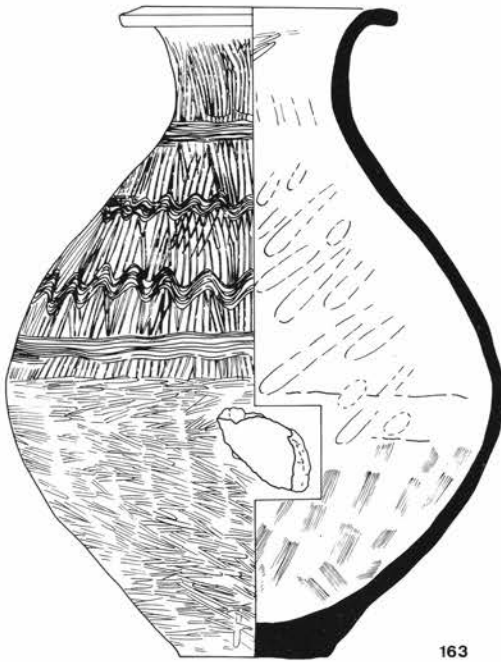




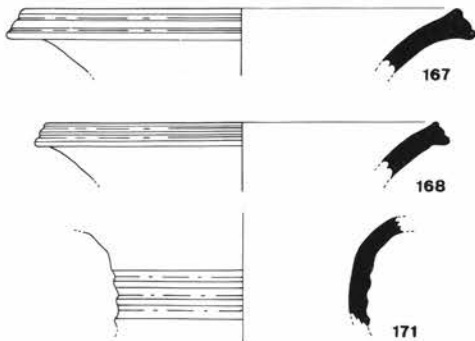
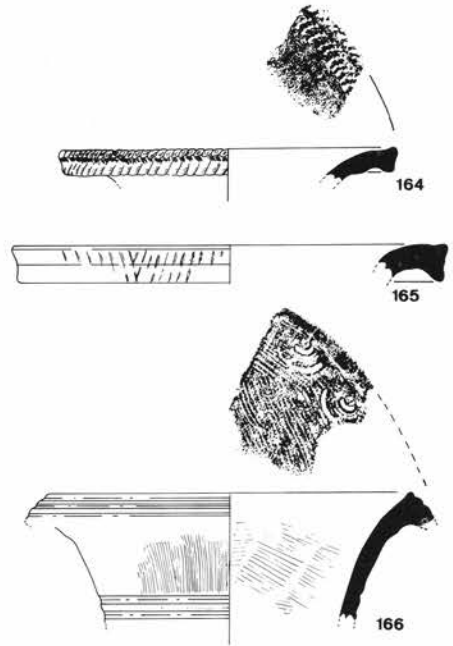
竪穴式住居跡 28



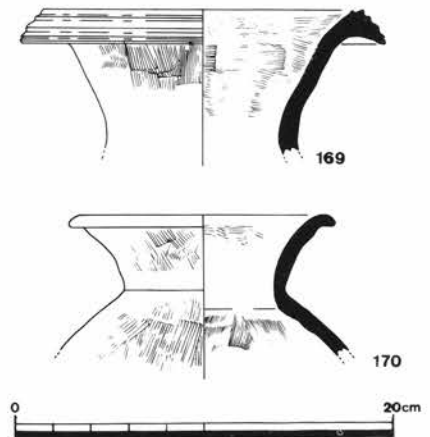
竪穴式住居跡 28

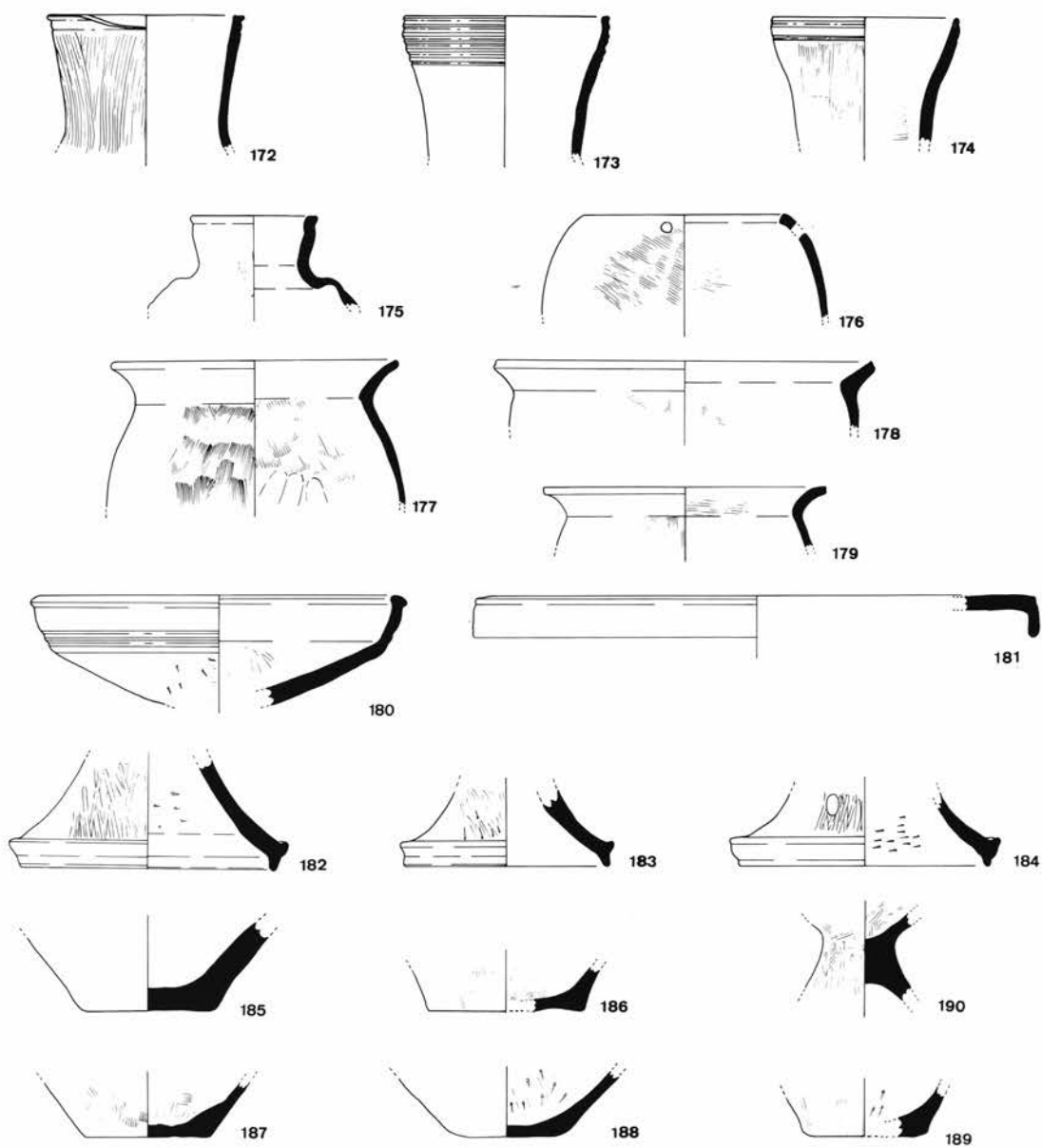


竪穴式住居跡 29

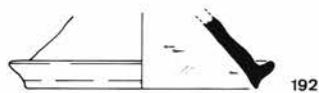


竪穴式住居跡 30





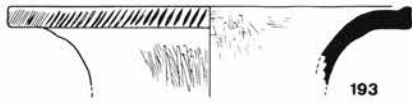
竪穴式住居跡 30



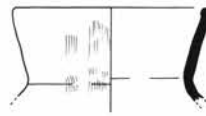
竪穴式住居跡 31



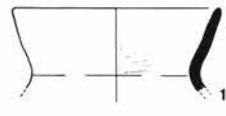
出土遺物実測図 (弥生時代中期11)



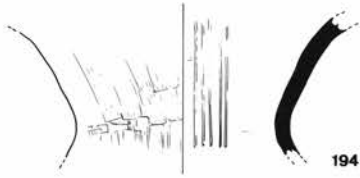
193



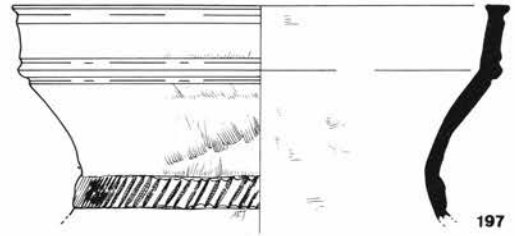
195



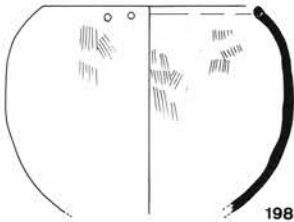
196



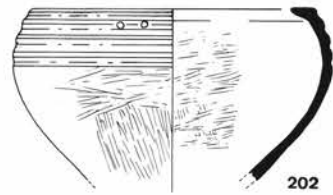
194



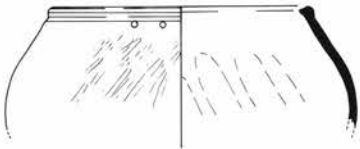
197



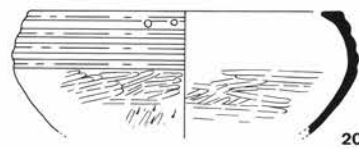
198



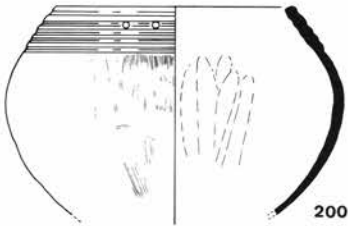
202



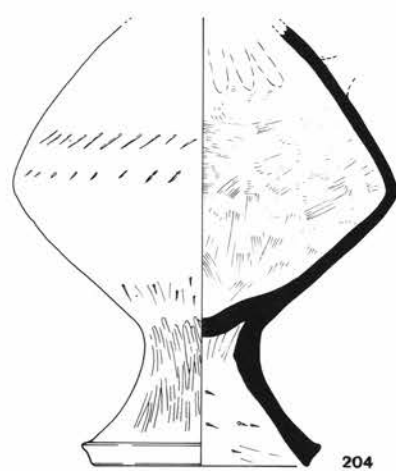
199



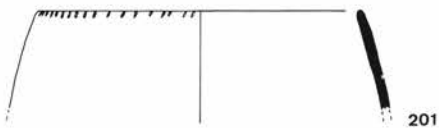
203



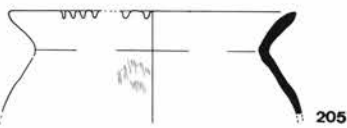
200



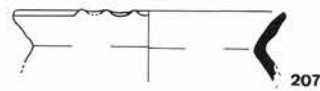
204



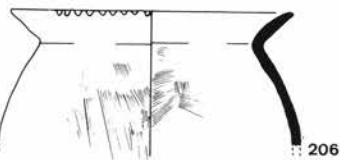
201



205



207



206

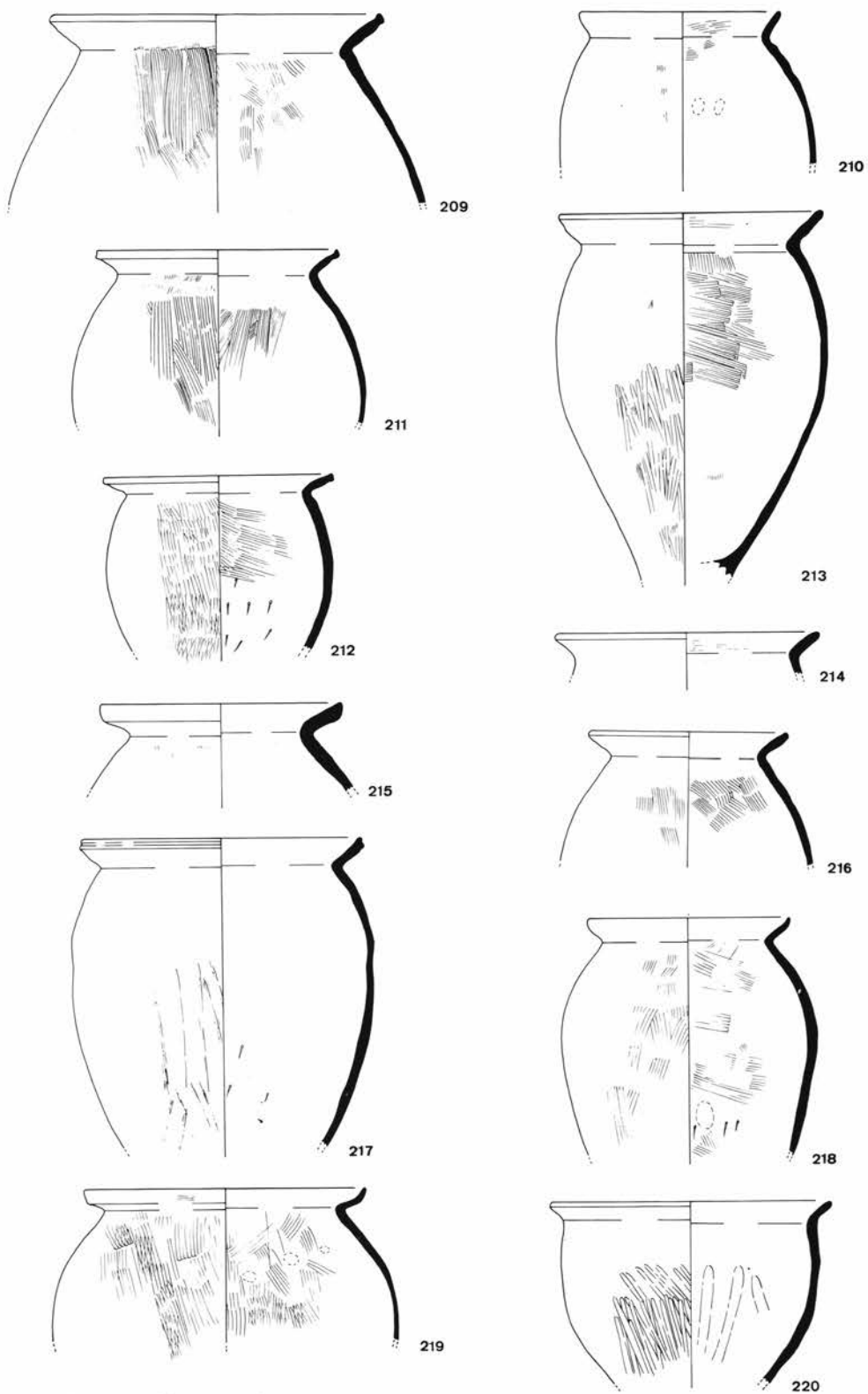


208

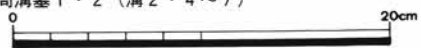
方形周溝墓 1・2 (溝 2・4~7)



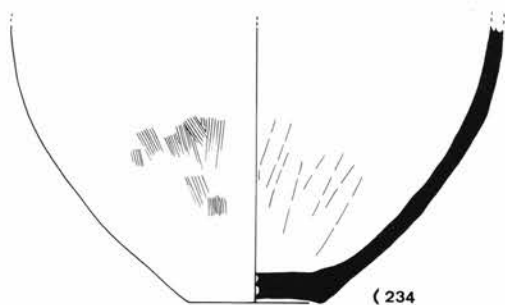
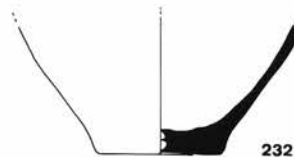
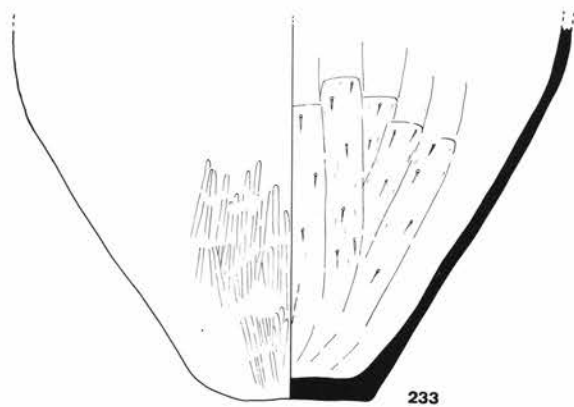
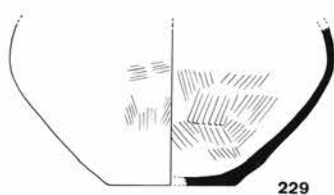
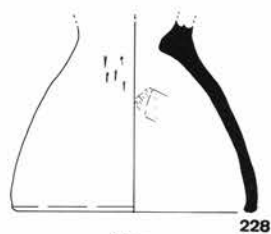
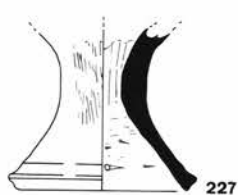
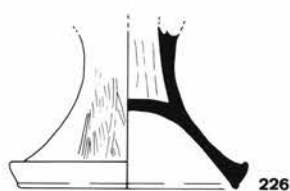
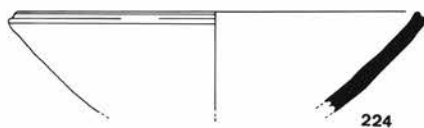
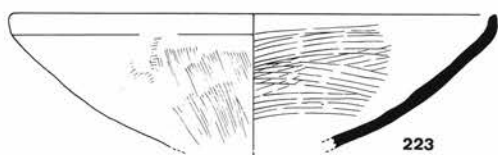
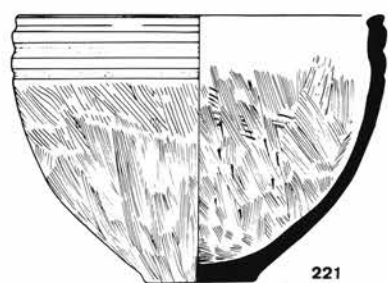
出土遺物実測図 (弥生時代中期12)



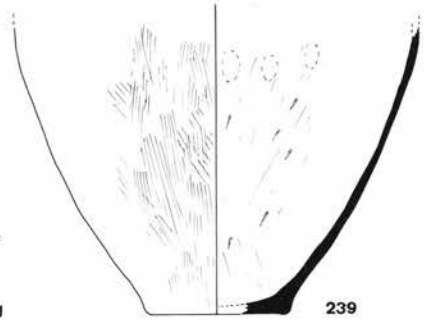
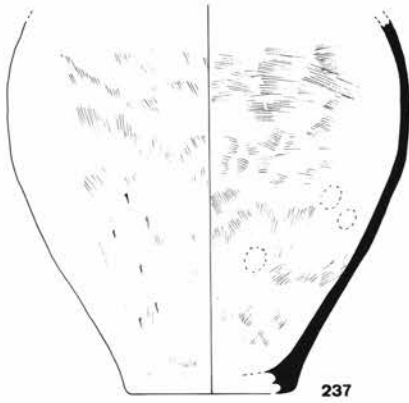
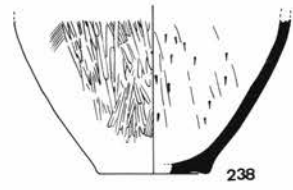
方形周溝墓 1・2 (溝 2・4~7)



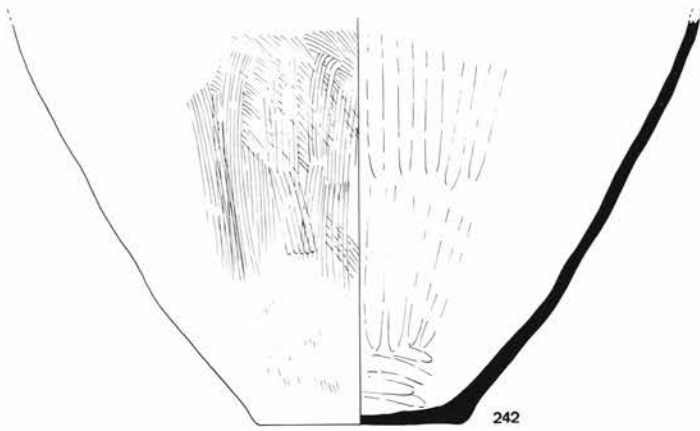
出土遺物実測図 (弥生時代中期13)



方形周溝墓1・2 (溝2・4~7)



方形周溝墓1・2 (溝2・4~7)



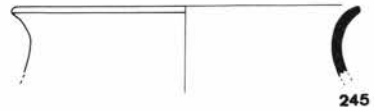
溝12

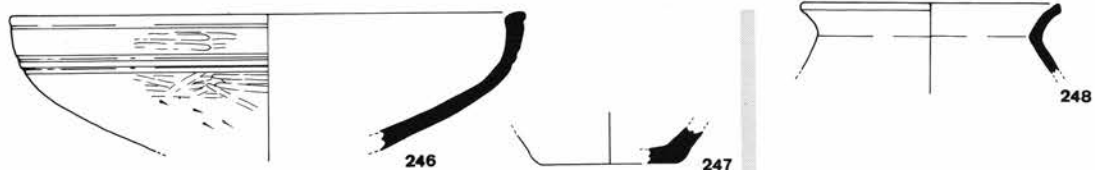


溝15



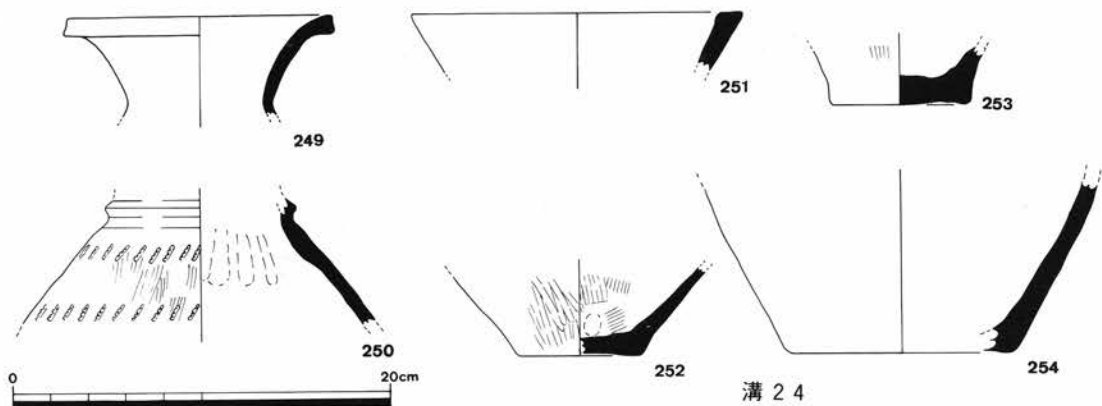
溝14



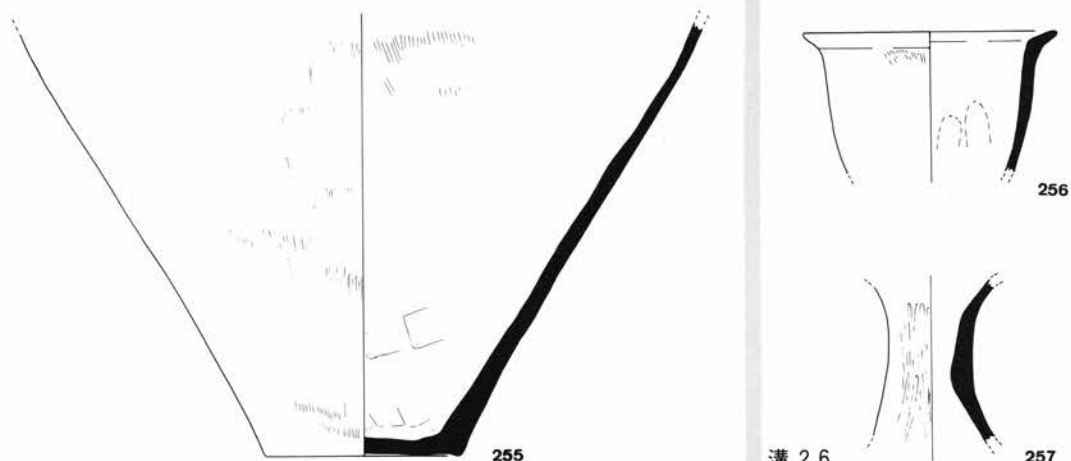


溝 1 6

溝 1 7



溝 2 4



溝 2 5

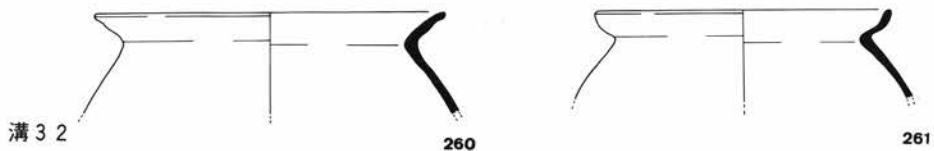
溝 2 6



259

溝 2 8

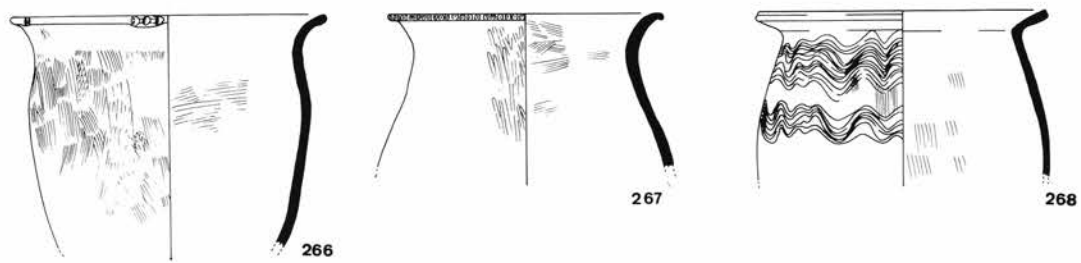
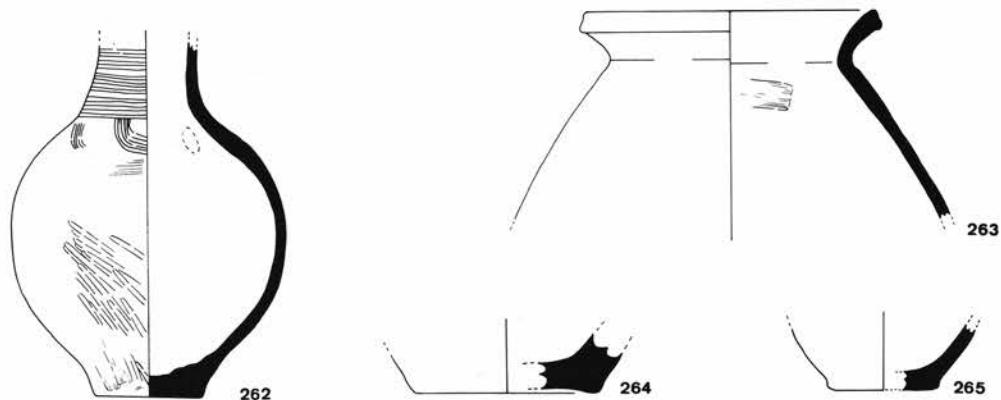
258



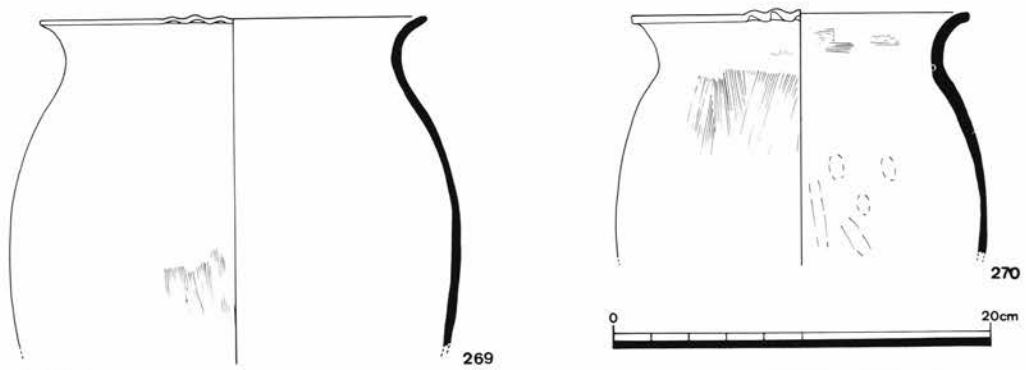
溝 3 2

260

261



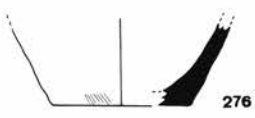
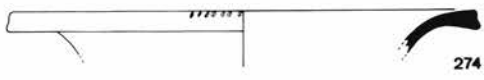
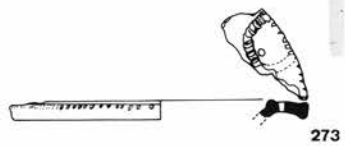
溝 27



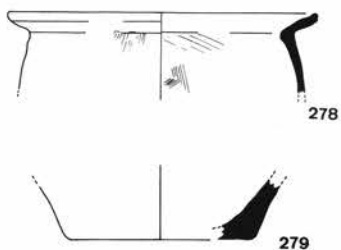
土坑 4



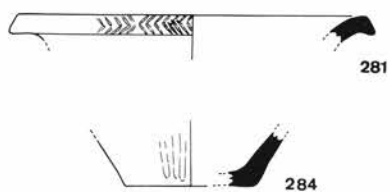
土坑 7



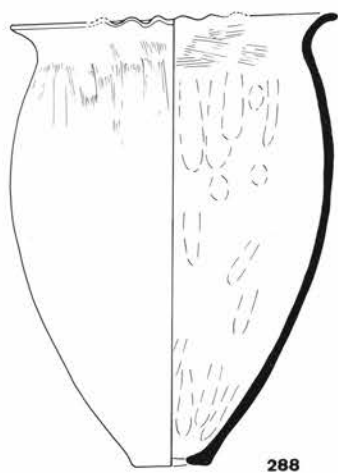
土坑 11



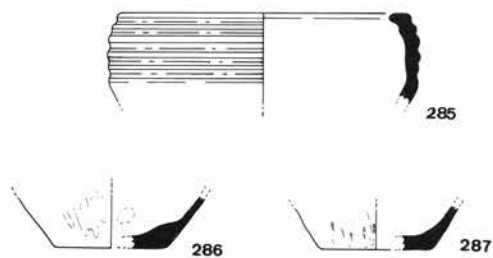
土坑 12



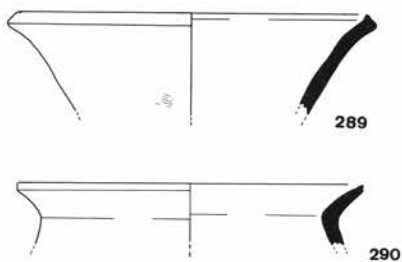
土坑 13



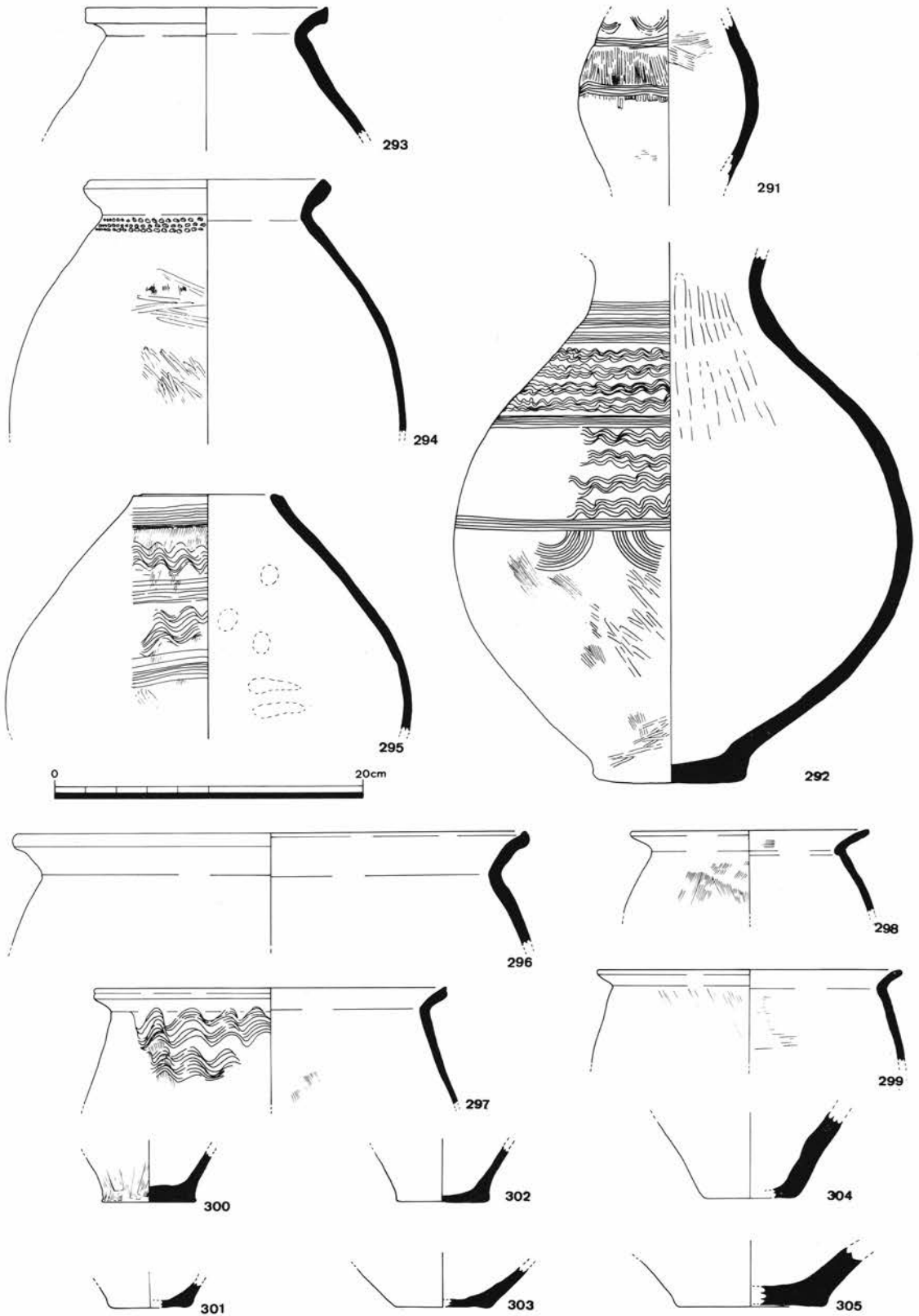
土坑 16



土坑 17

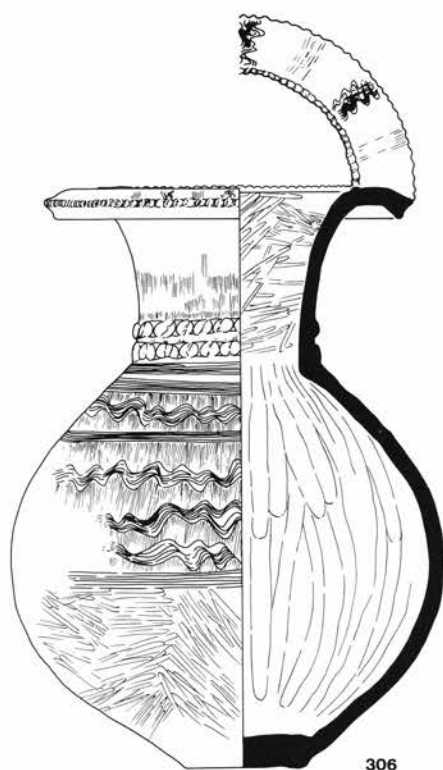


土坑 18

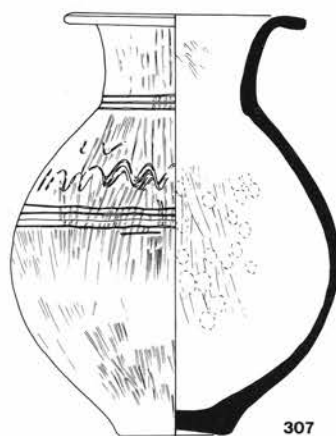


土器溜まり 1

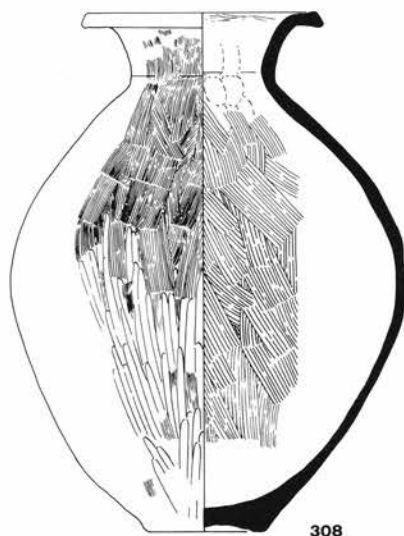
出土遺物実測図 (弥生時代中期19)



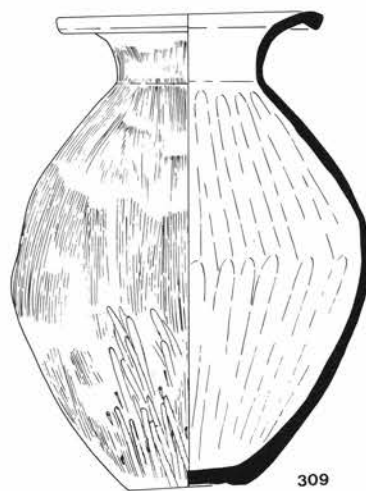
306



307



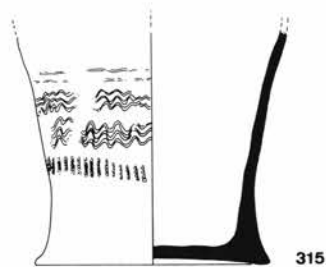
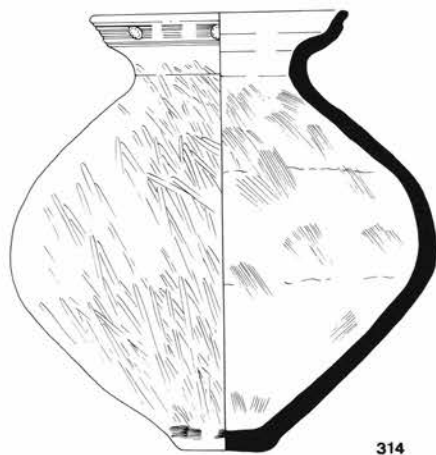
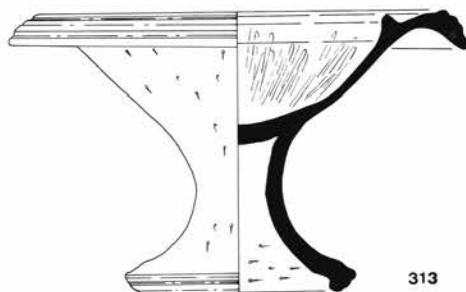
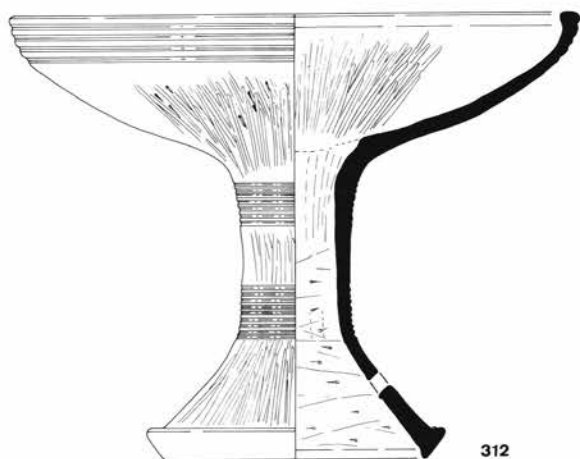
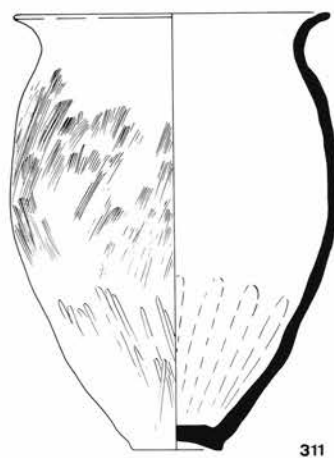
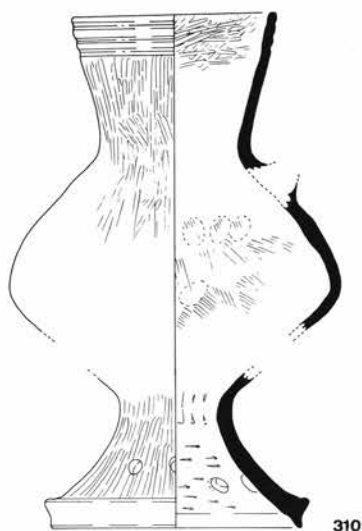
308



309

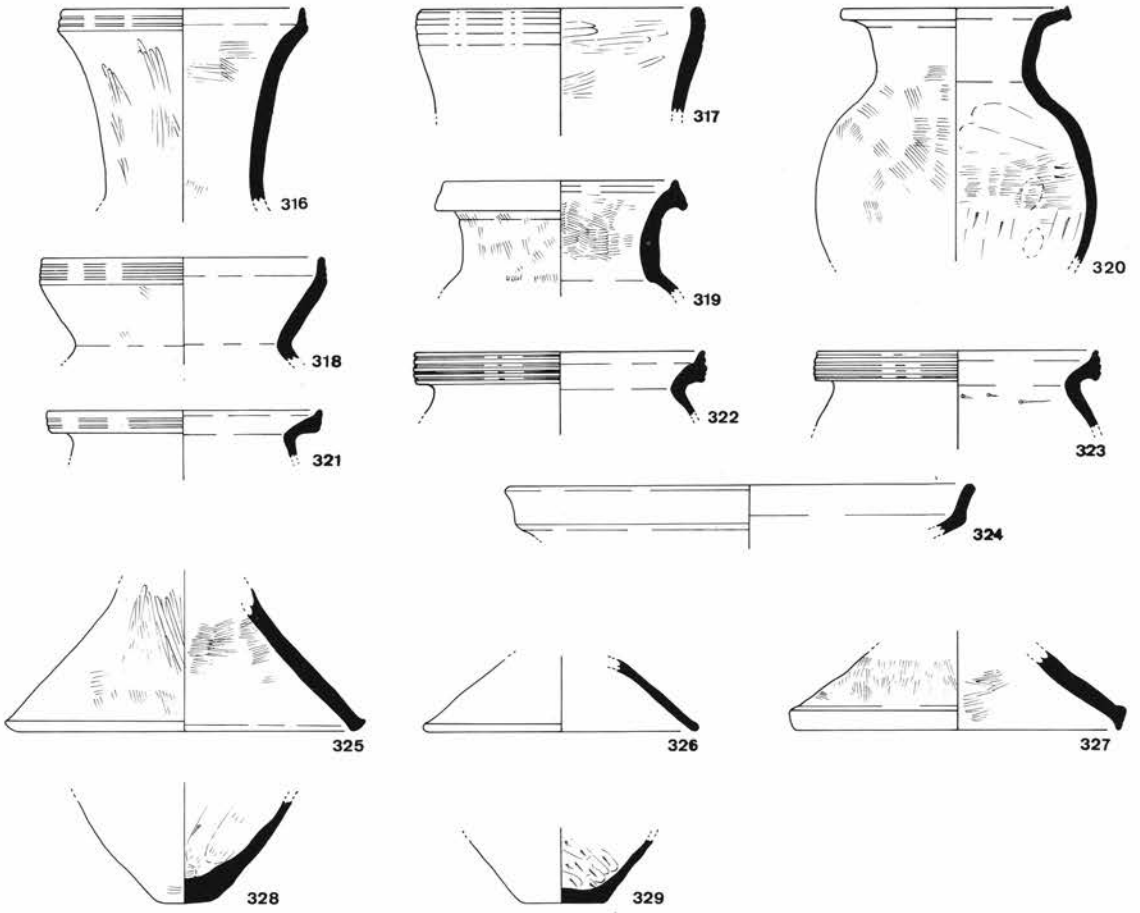
包含層出土土器（弥生時代）



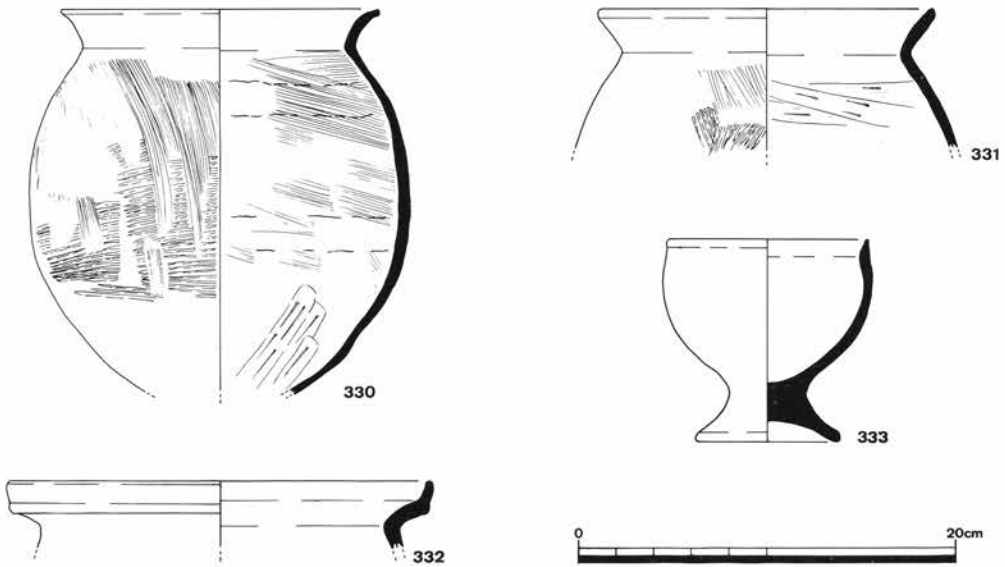


包含層出土土器(弥生時代)

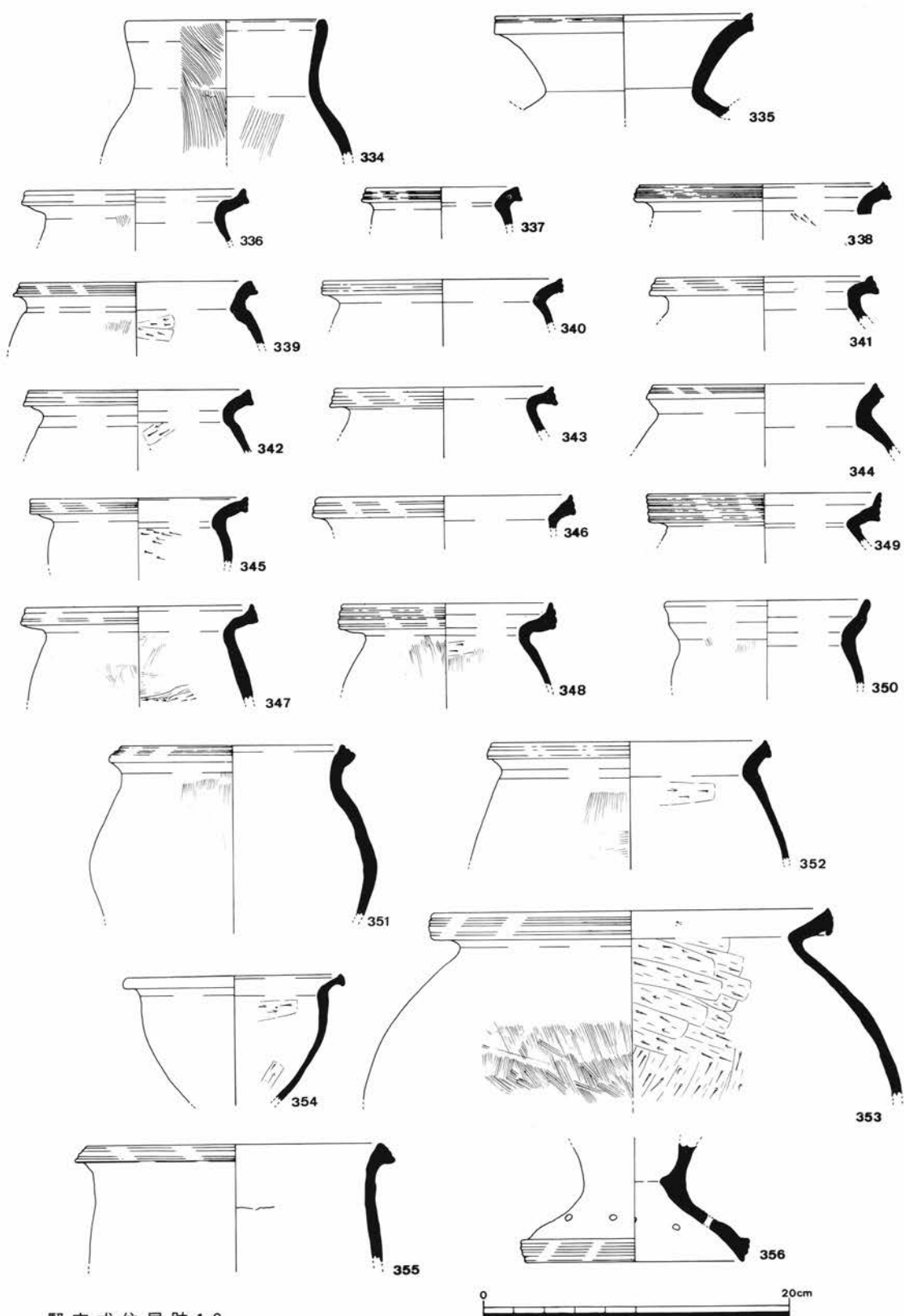
出土遺物実測図(弥生時代2)



竪穴式住居跡 7

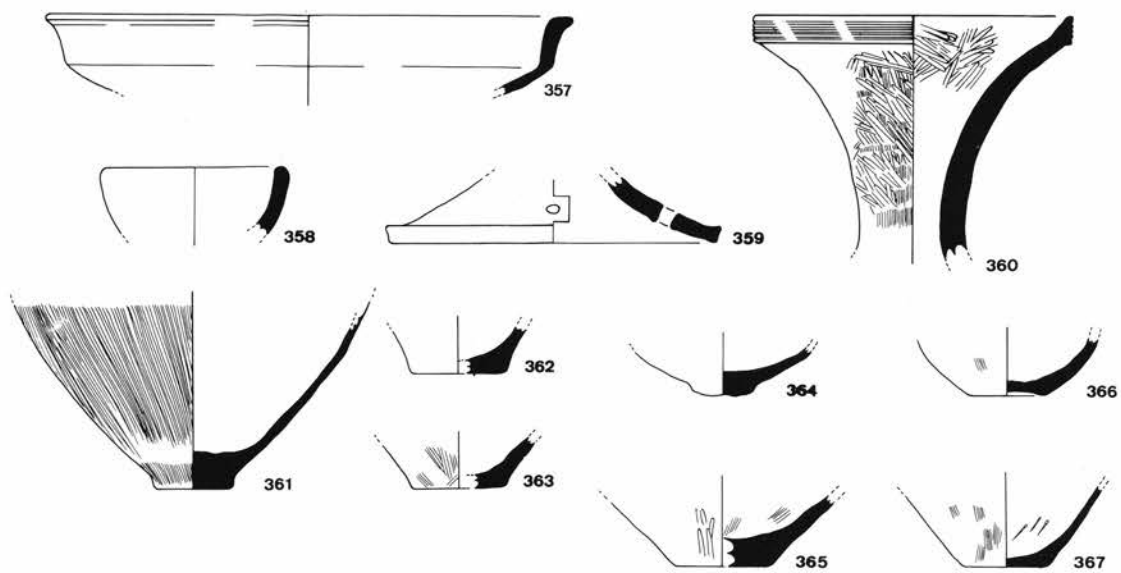


竪穴式住居跡 11

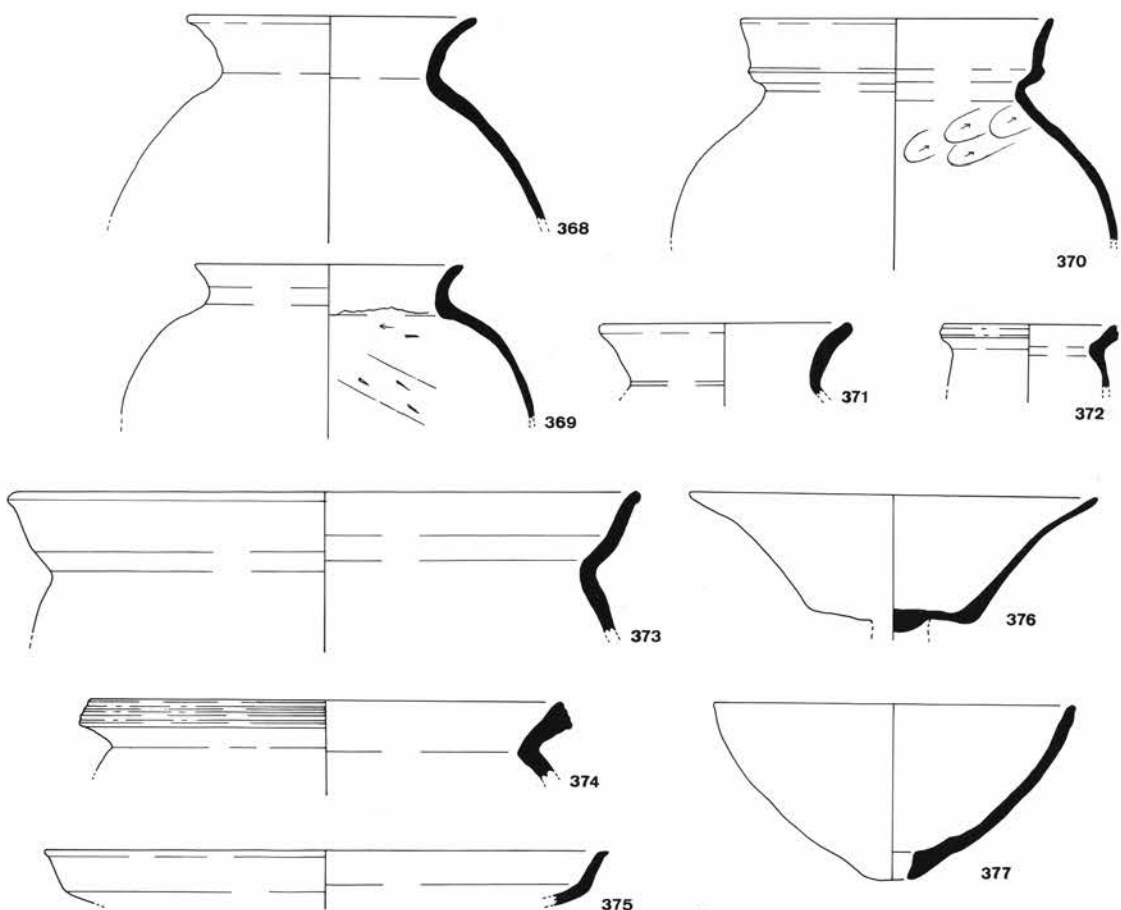


豎穴式住居跡12

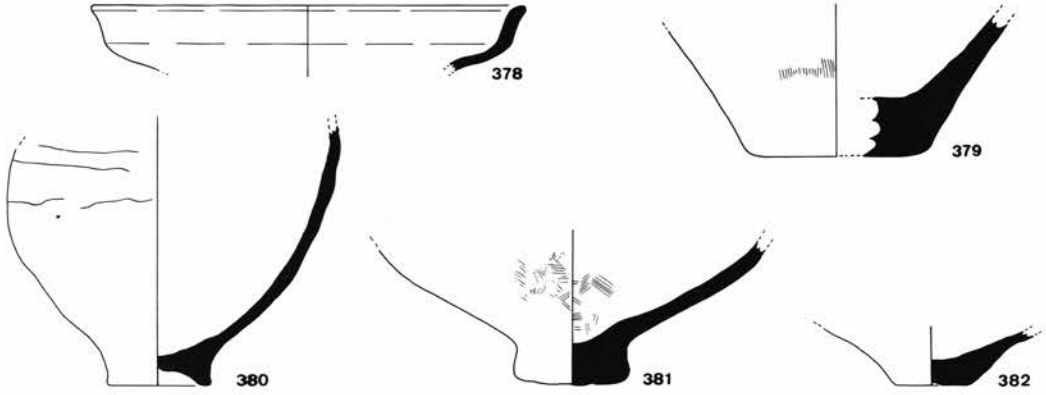
出土遺物実測図（弥生時代後期～古墳時代前期2）



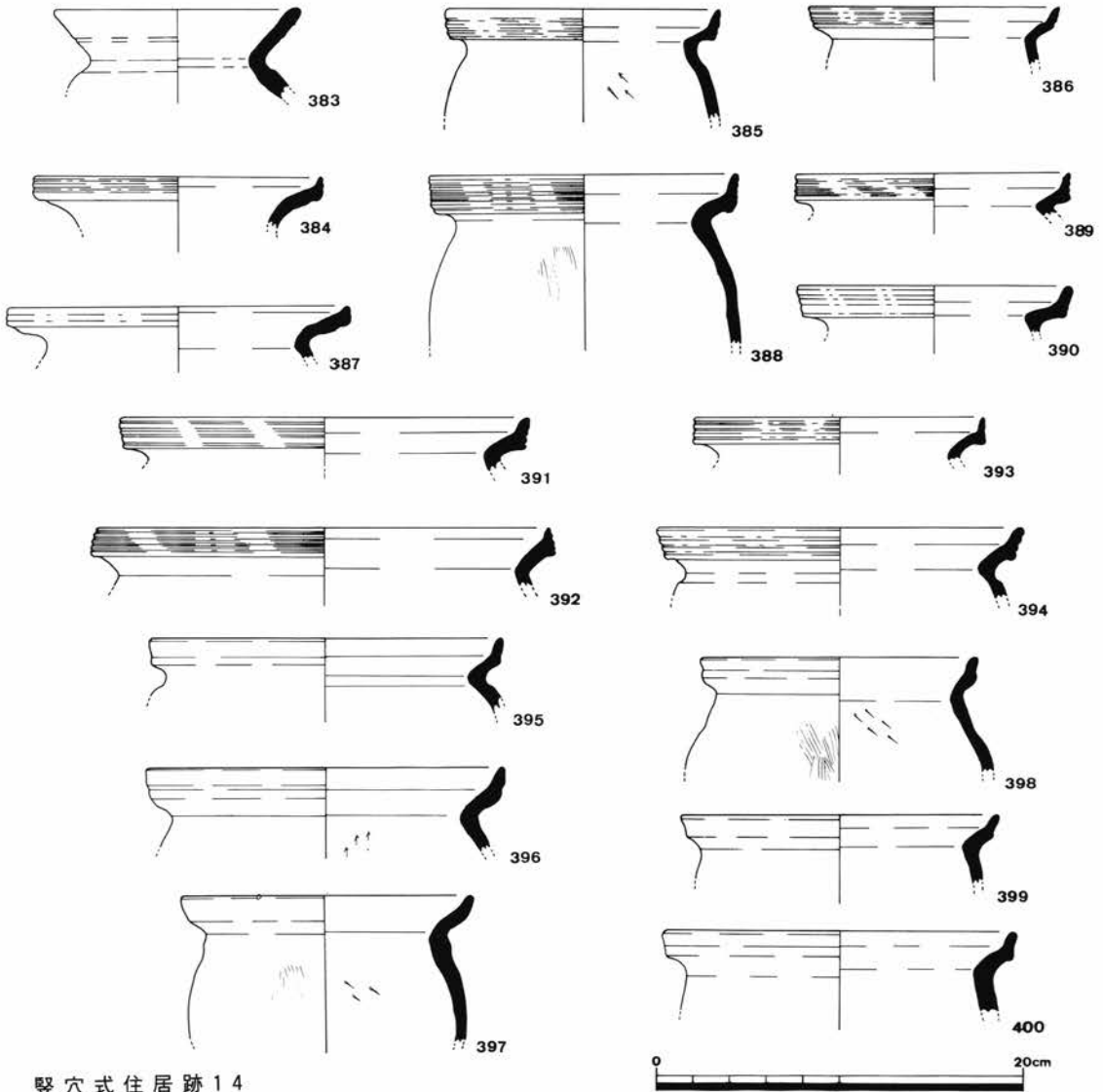
豎穴式住居跡 12



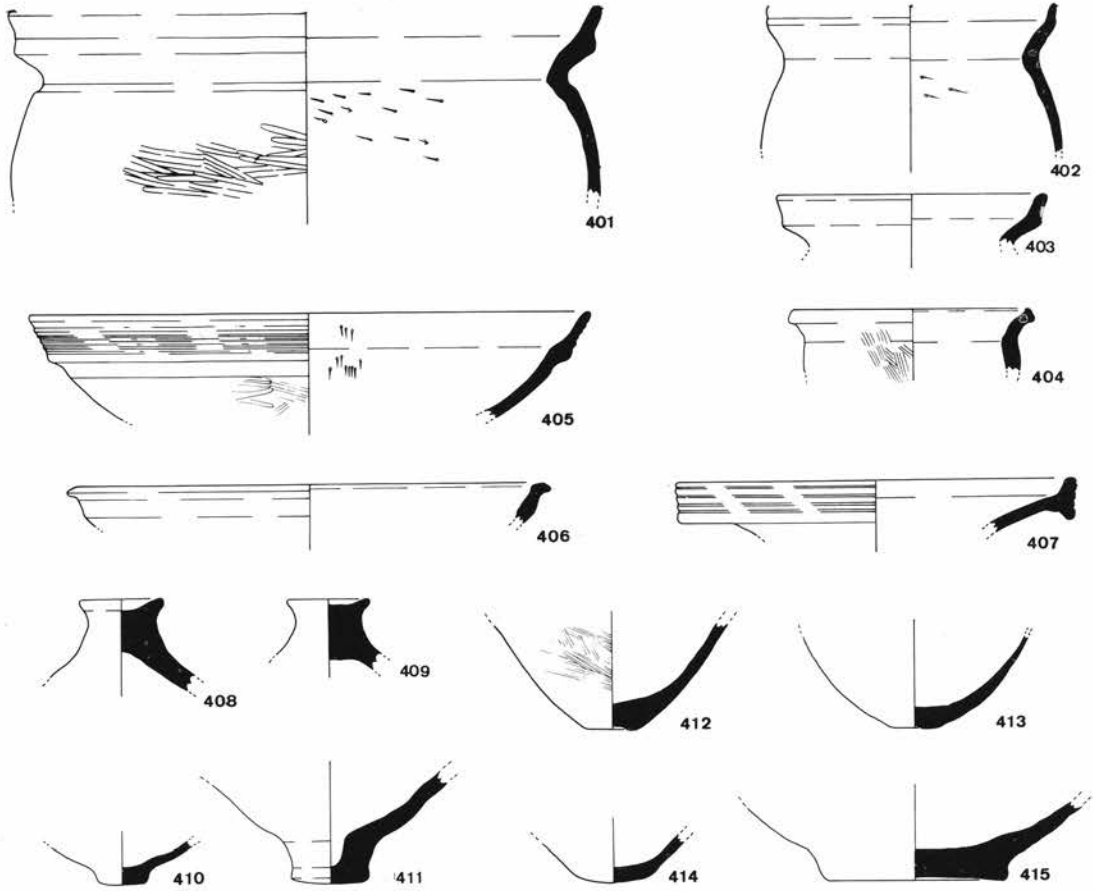
豎穴式住居跡 13



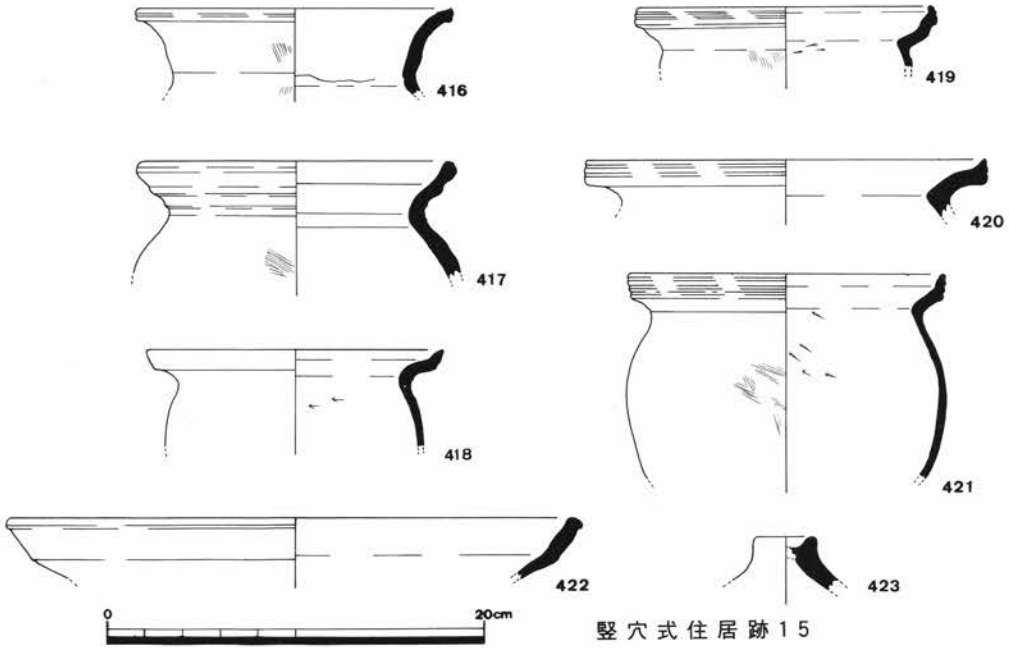
竪穴式住居跡 13



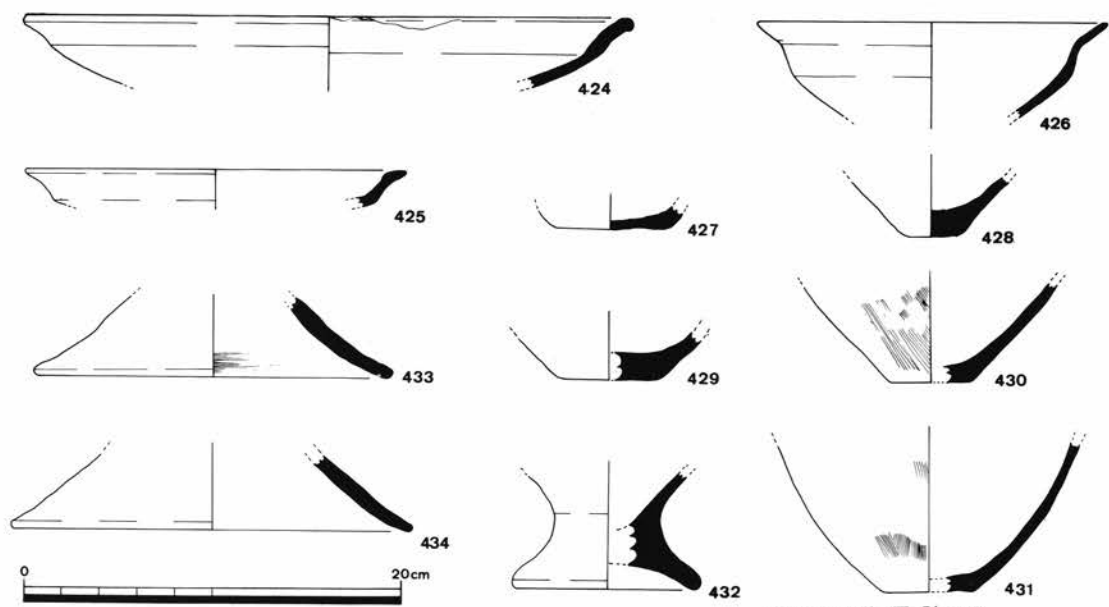
竪穴式住居跡 14



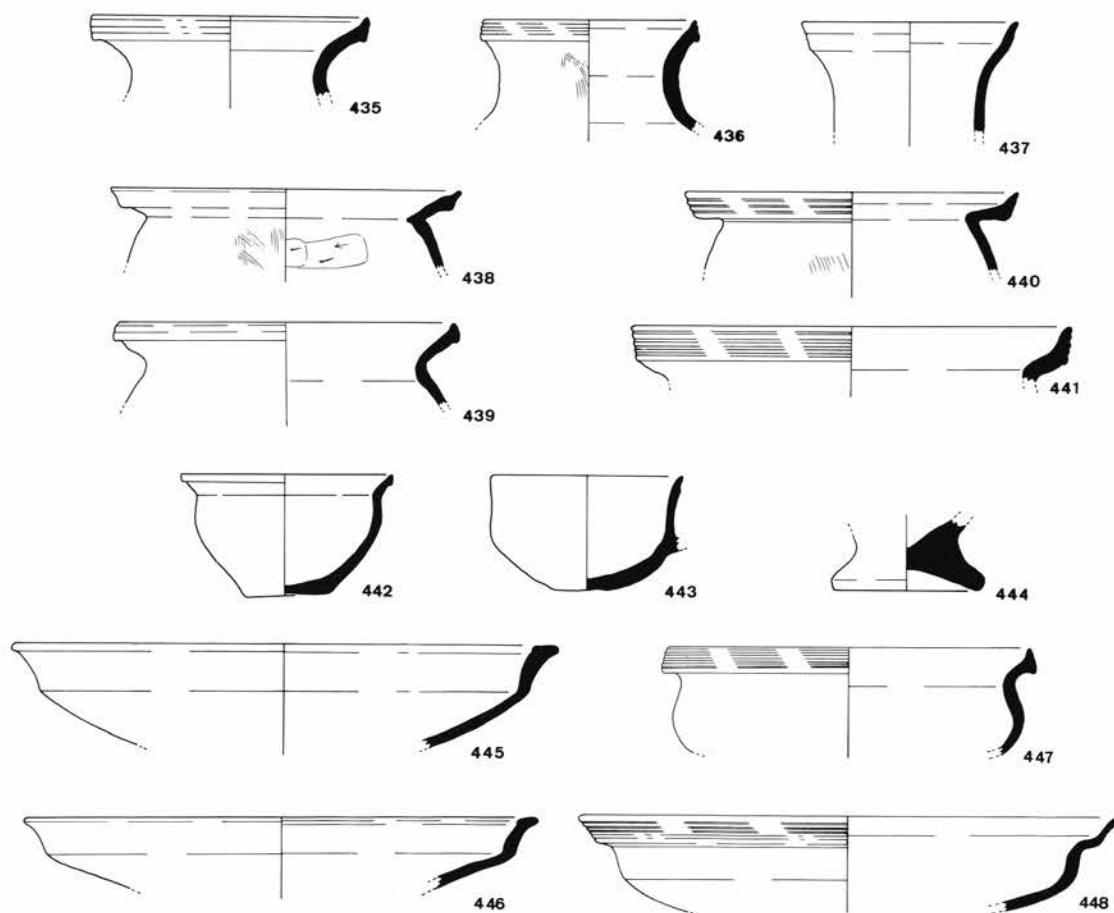
竪穴式住居跡 14



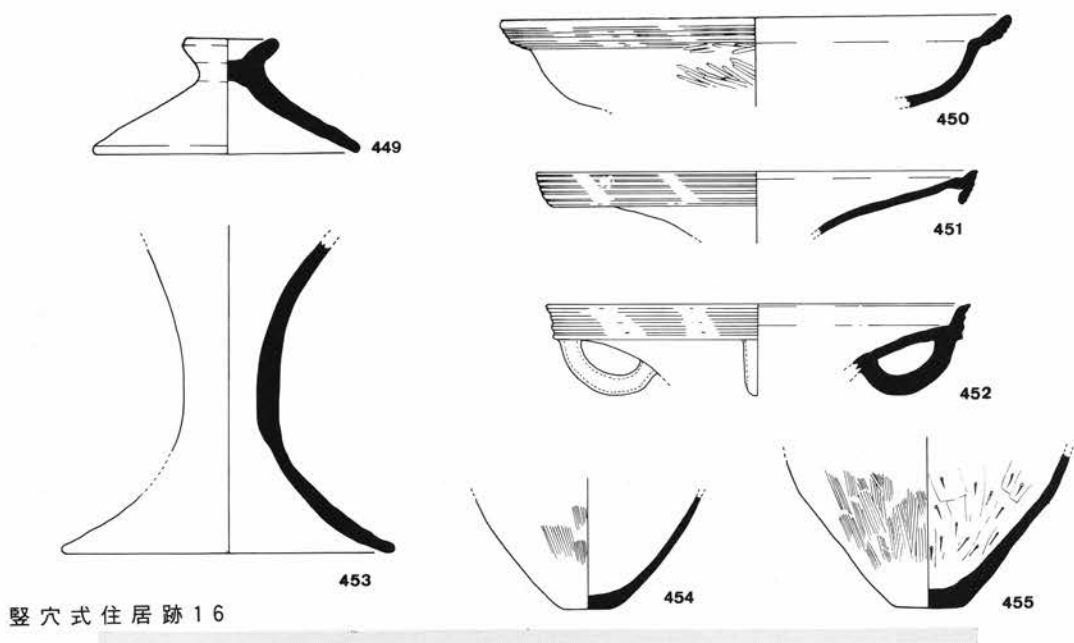
竪穴式住居跡 15



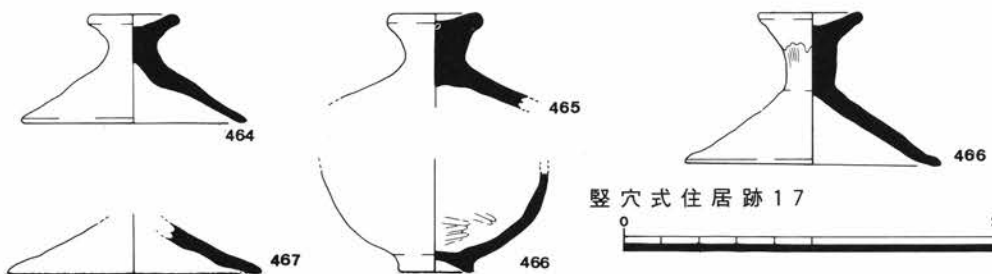
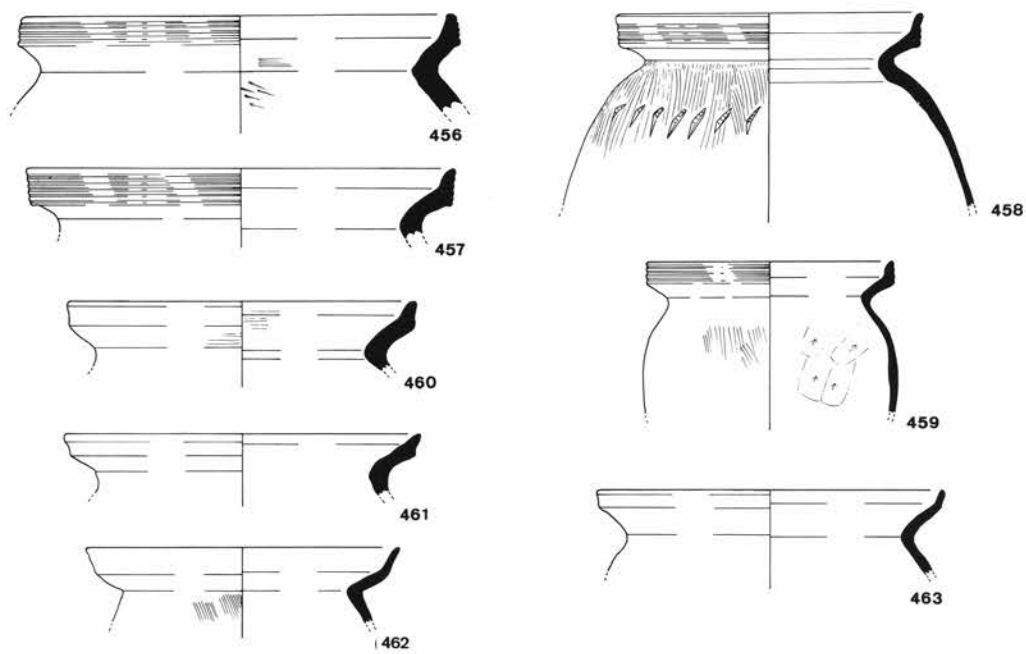
竪穴式住居跡 15



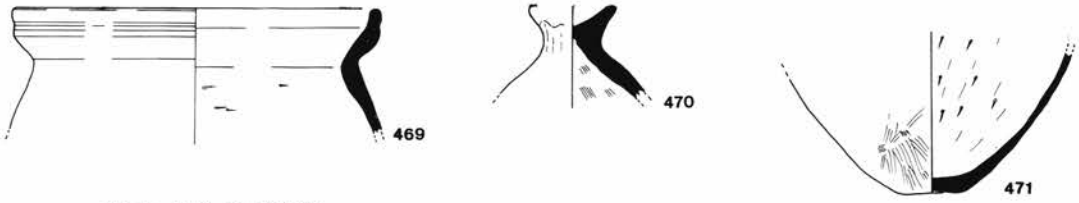
竪穴式住居跡 16



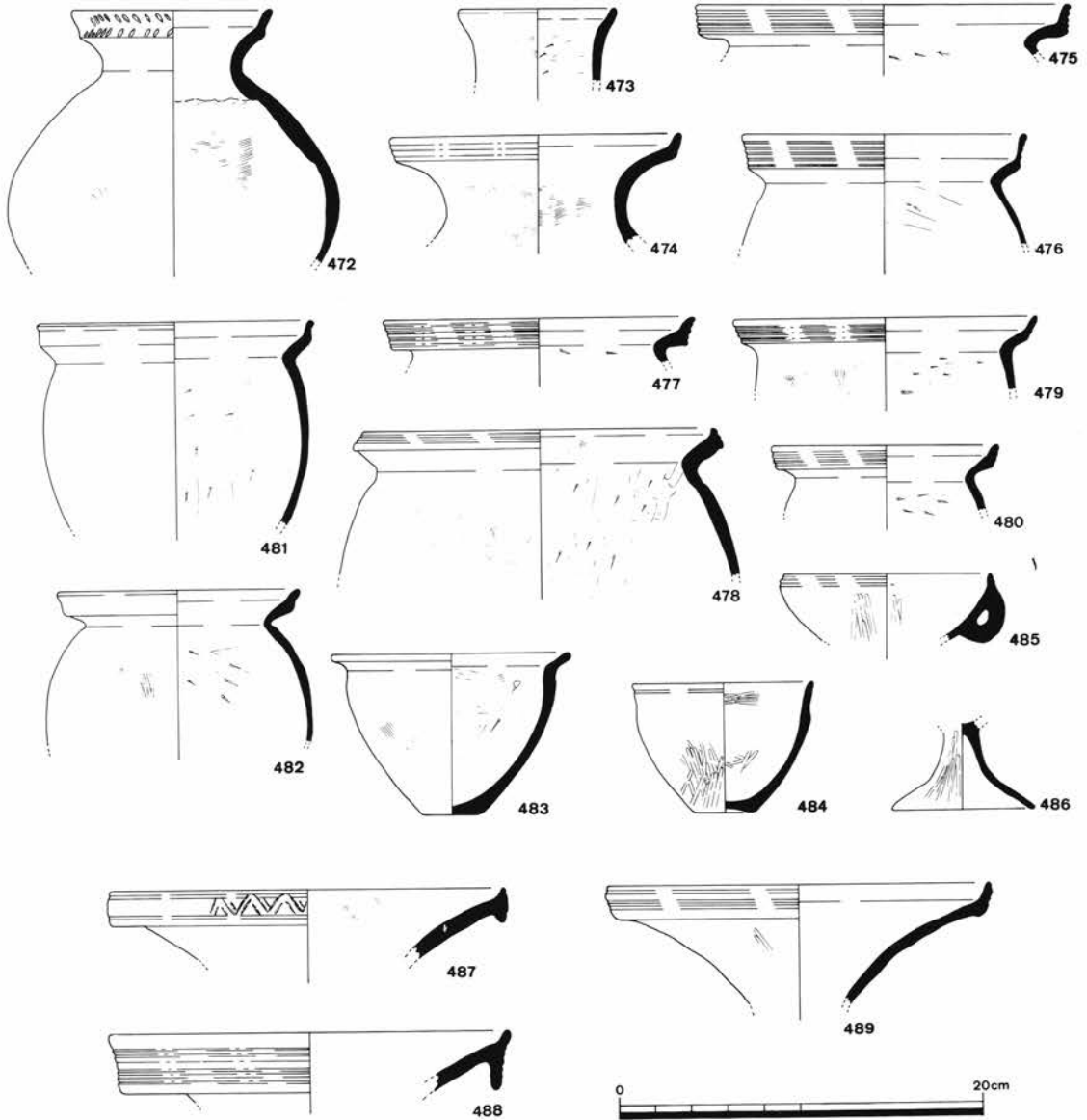
竪穴式住居跡 16



竪穴式住居跡 17
0 20cm

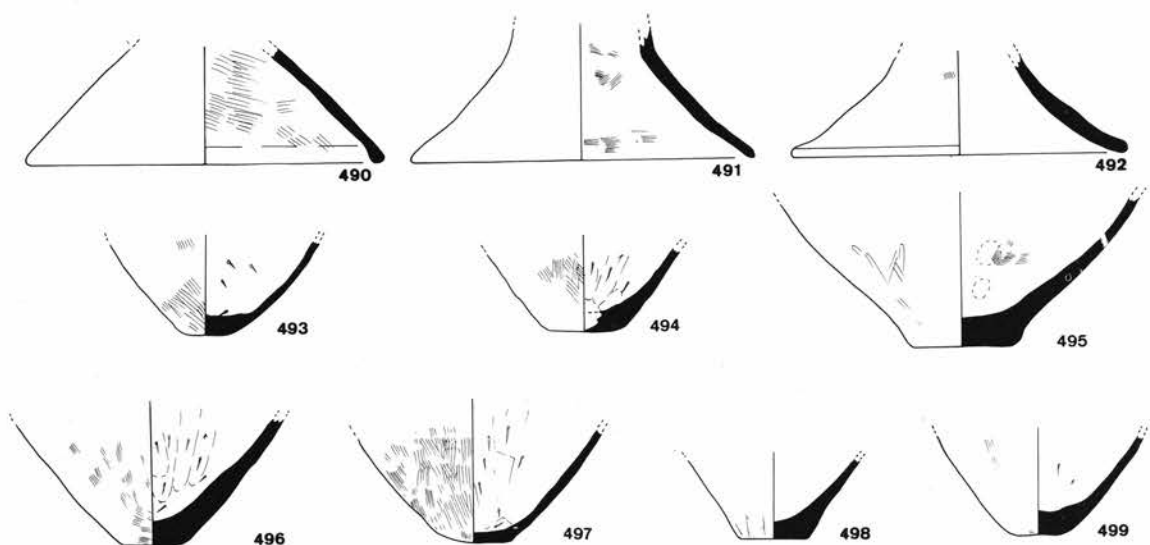


竪穴式住居跡 25

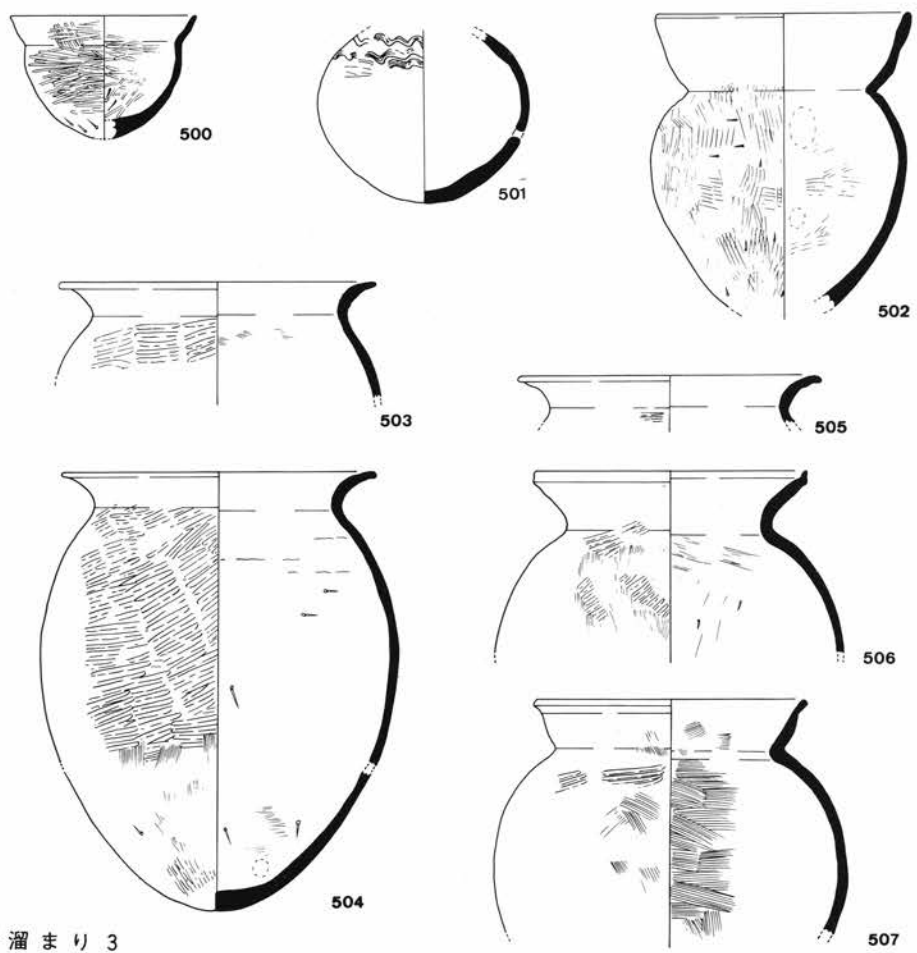


土器溜まり 2

出土遺物実測図（弥生時代後期～古墳時代前期 8）



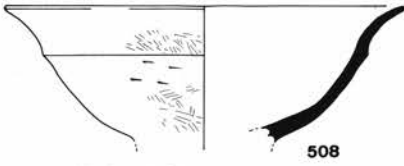
土器溜まり 2



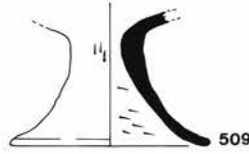
土器溜まり 3



出土遺物実測図（弥生時代後期～古墳時代前期 9）



508

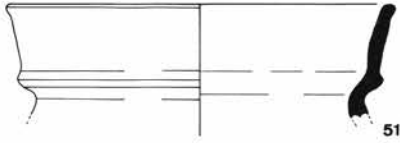


509

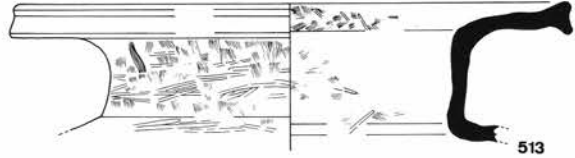


510

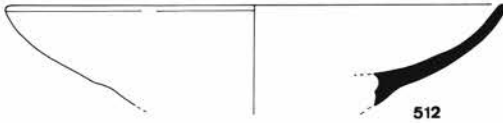
土器溜まり 3



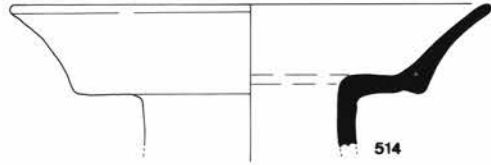
511



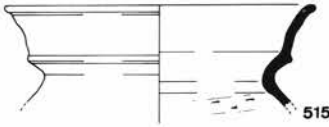
513



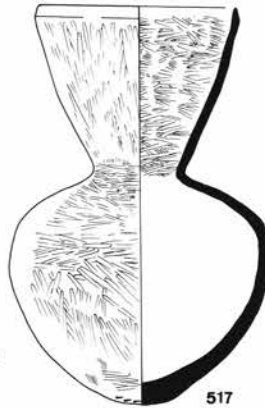
512



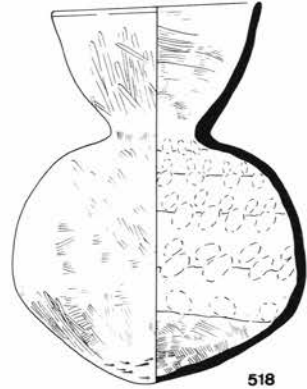
514



515



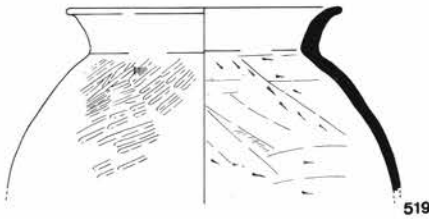
517



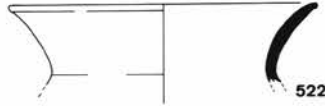
518



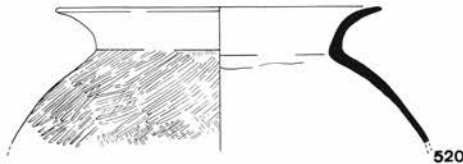
516



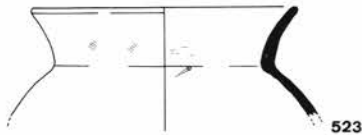
519



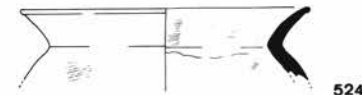
522



520



523



524



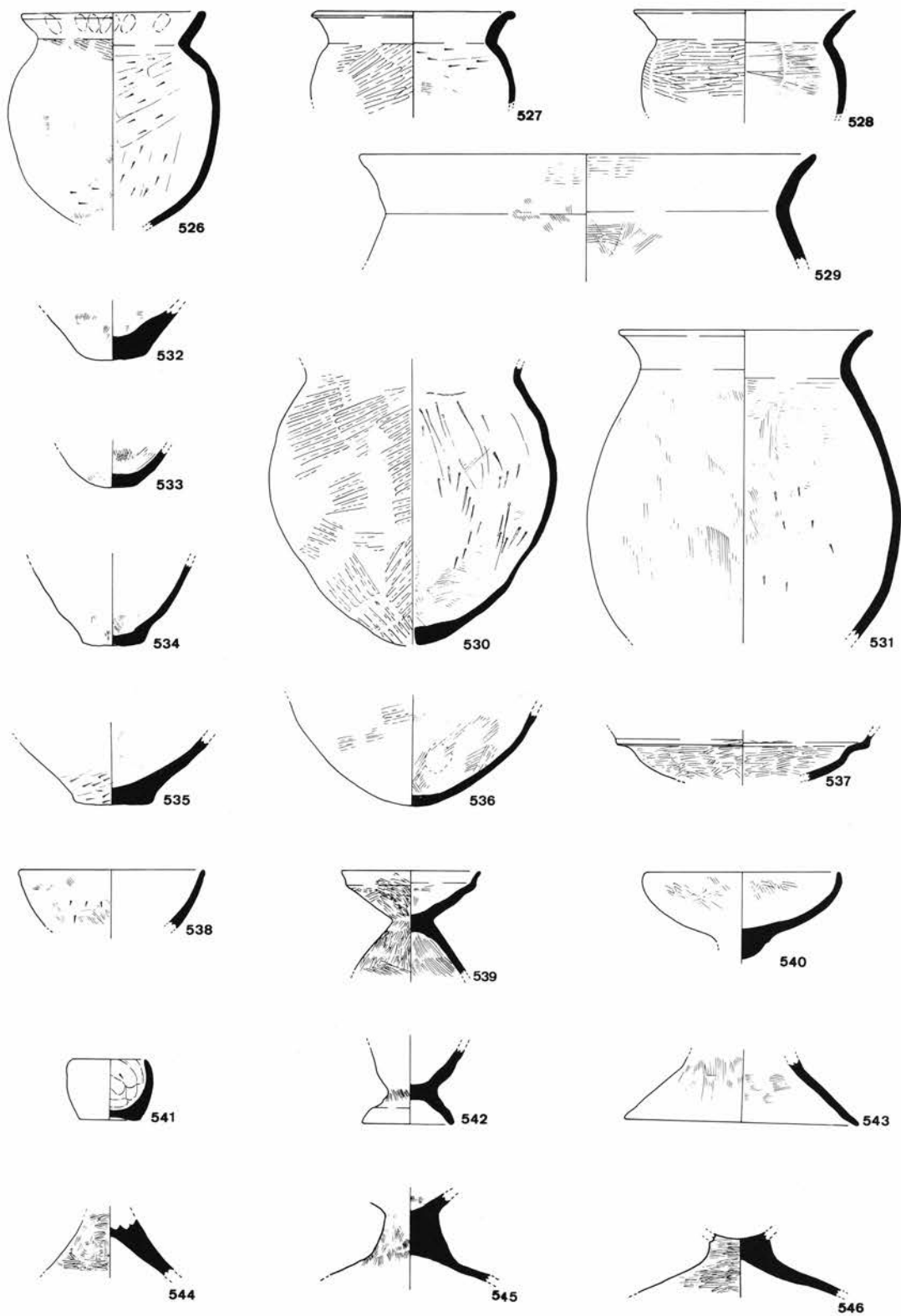
521



525

土器溜まり 4

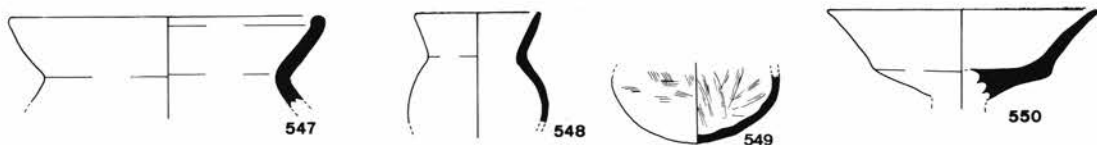
出土遺物実測図 (弥生時代後期～古墳時代前期10)



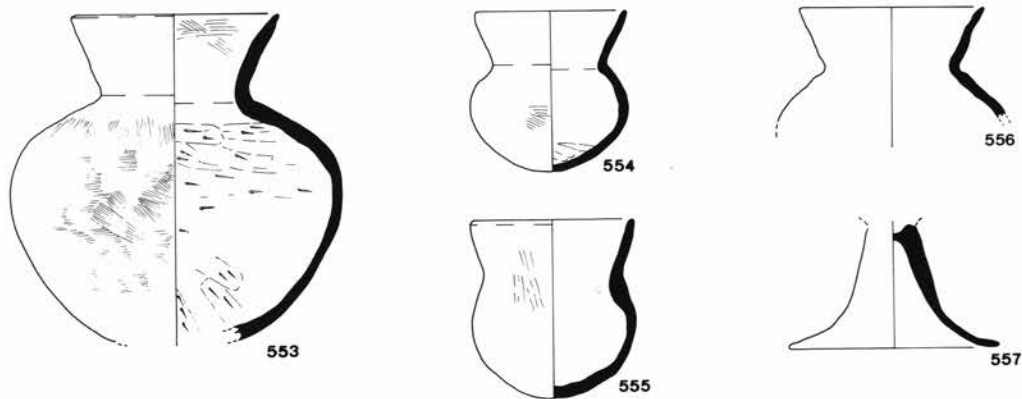
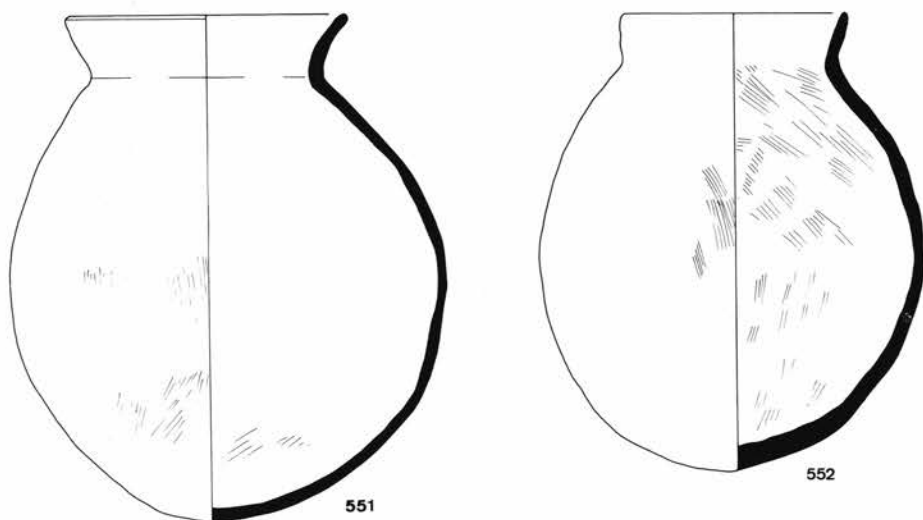
土器溜まり 4



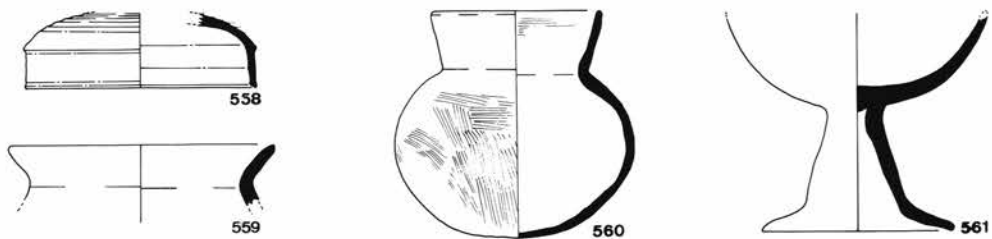
出土遺物実測図(弥生時代後期~古墳時代前期11)



豎穴式住居跡 2

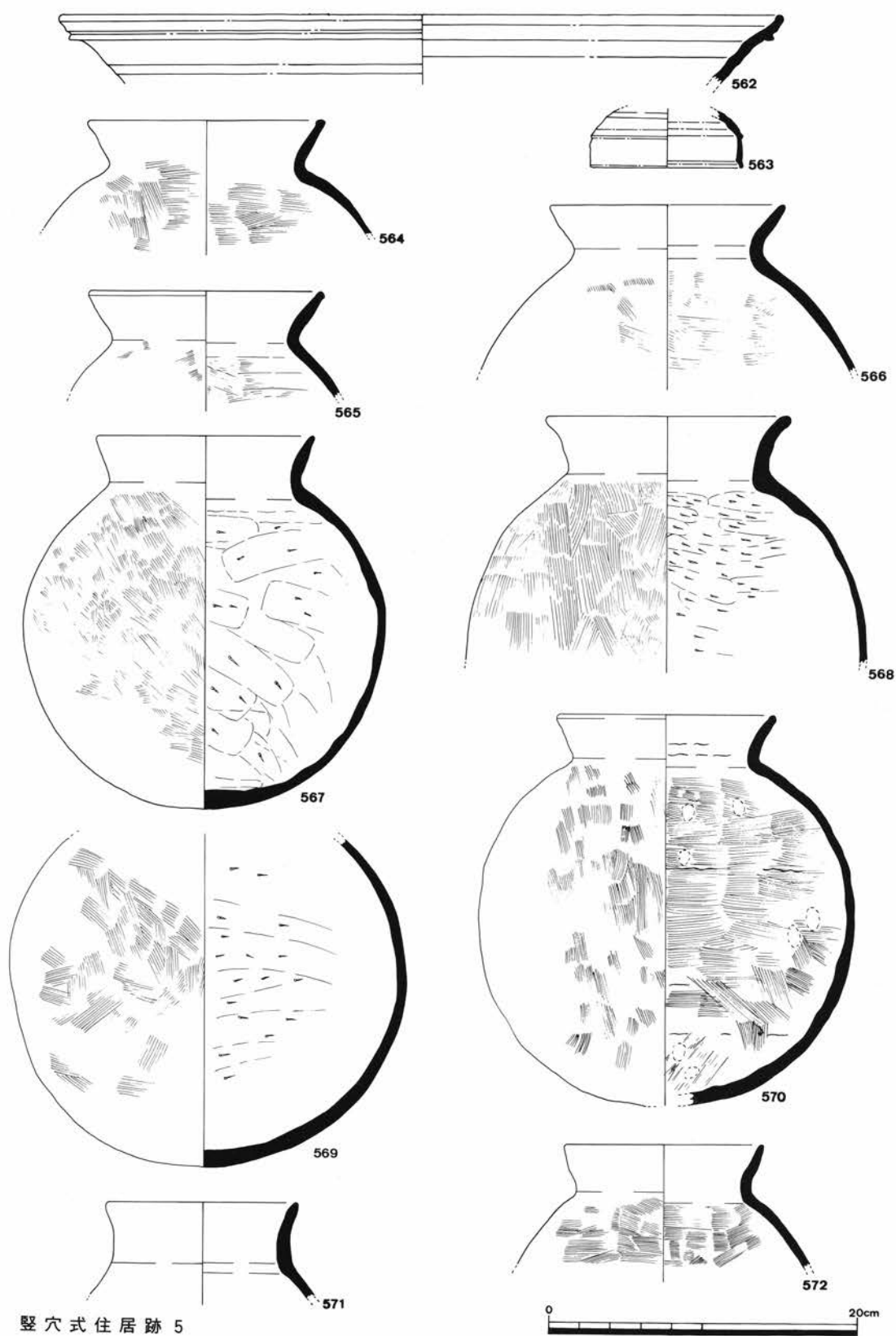


豎穴式住居跡 3

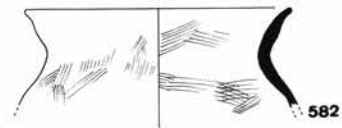
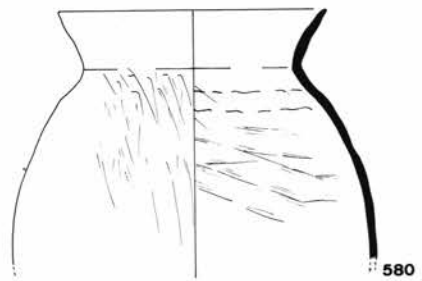
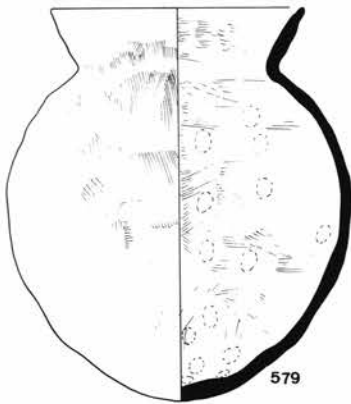
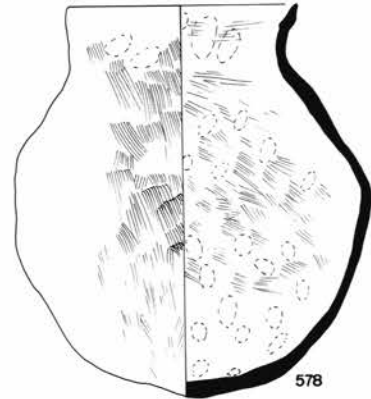
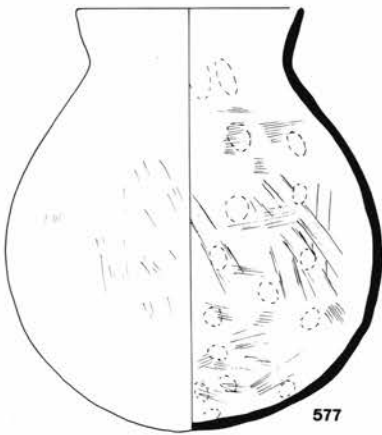
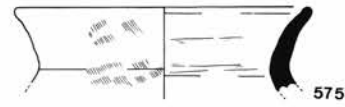
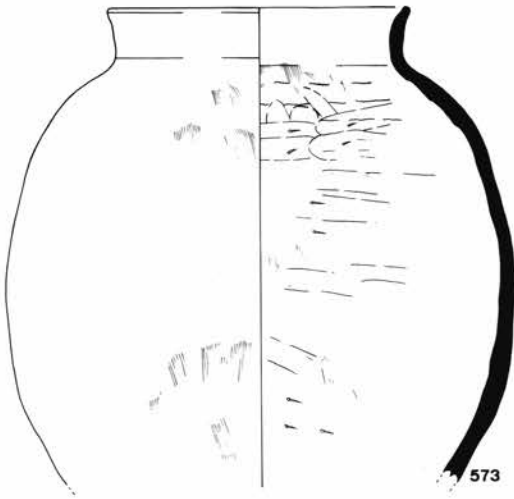


豎穴式住居跡 4



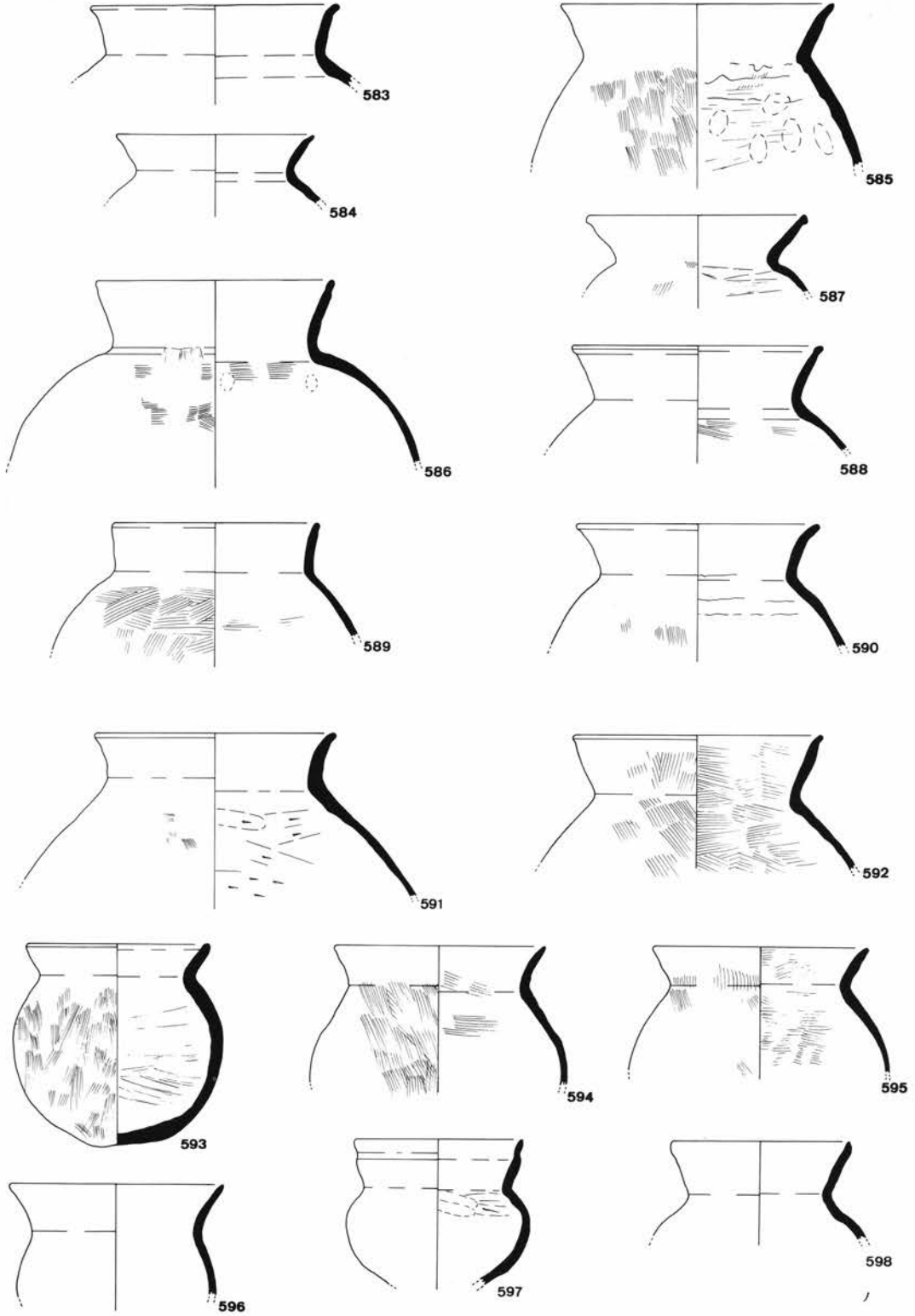


出土遺物実測図 (古墳時代中期・後期 2)



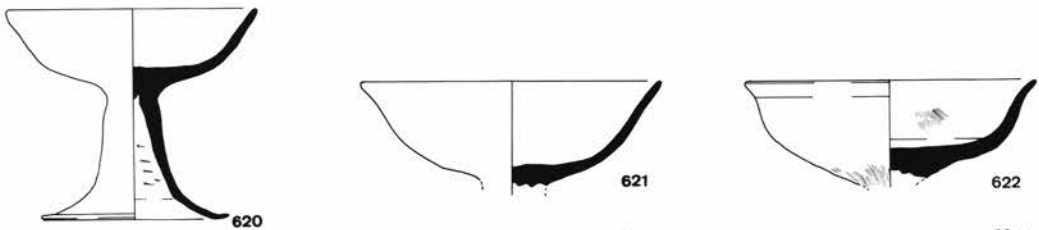
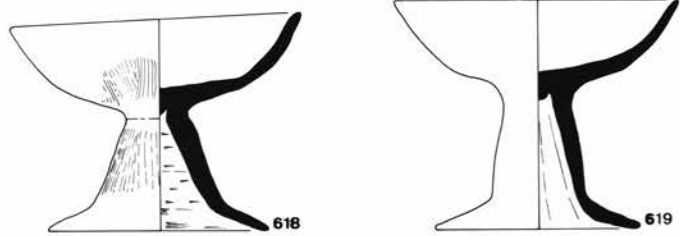
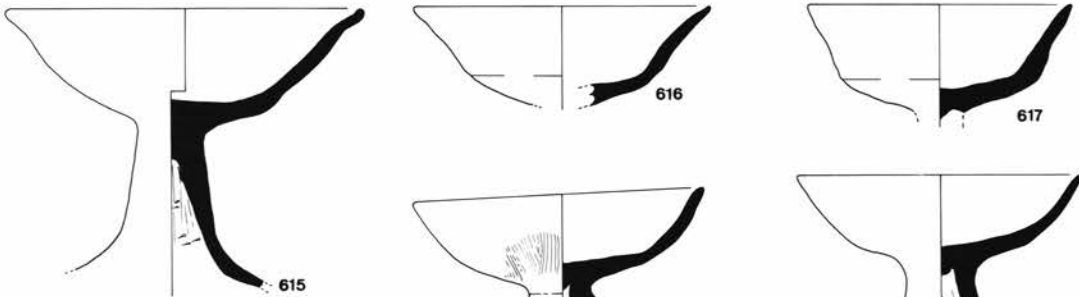
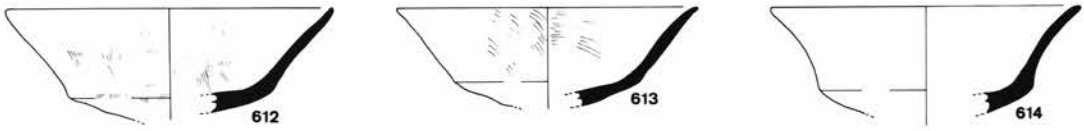
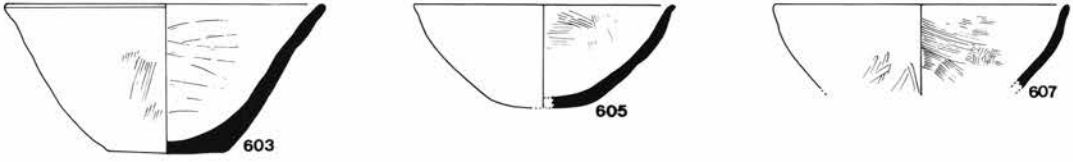
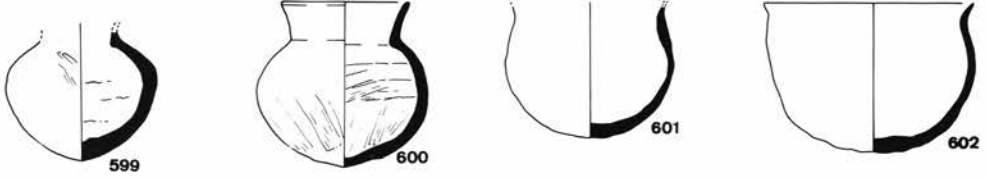
竪穴式住居跡 5





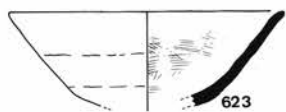
竪穴式住居跡 5

出土遺物実測図 (古墳時代中期・後期 4)



竪穴式住居跡 5





623



624



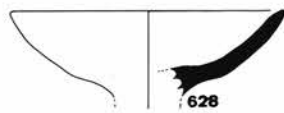
625



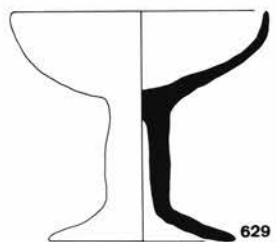
626



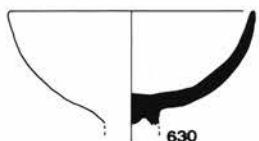
627



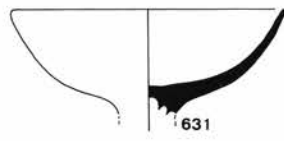
628



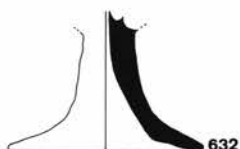
629



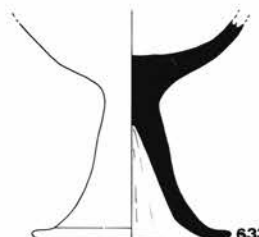
630



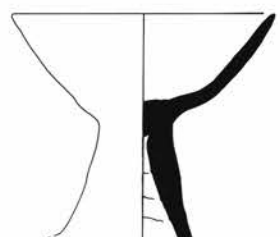
631



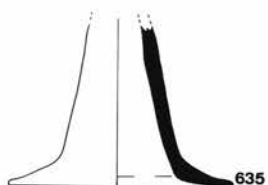
632



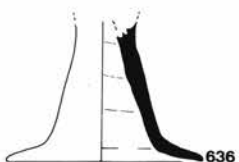
633



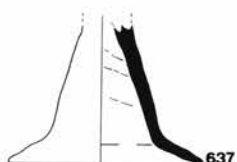
634



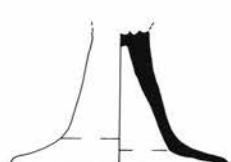
635



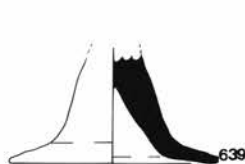
636



637



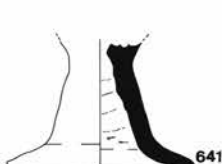
638



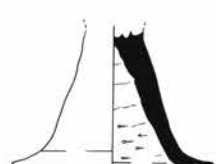
639



640

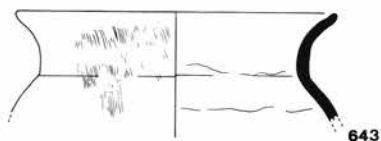


641



642

竪穴式住居跡 5



643



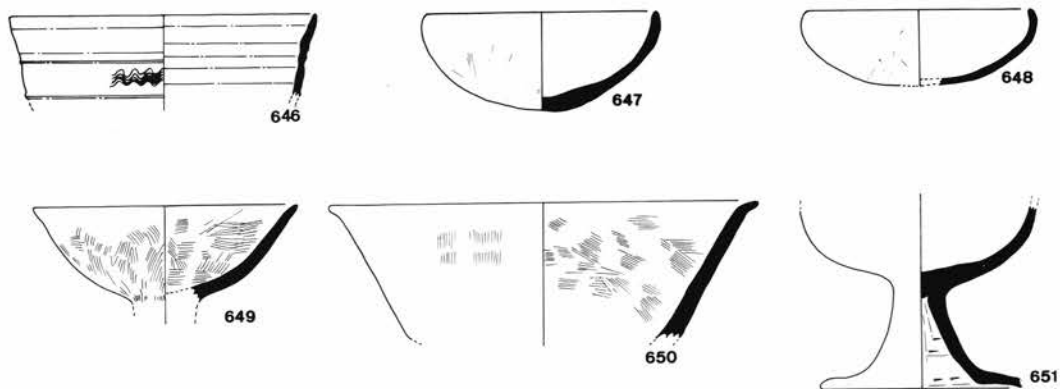
644



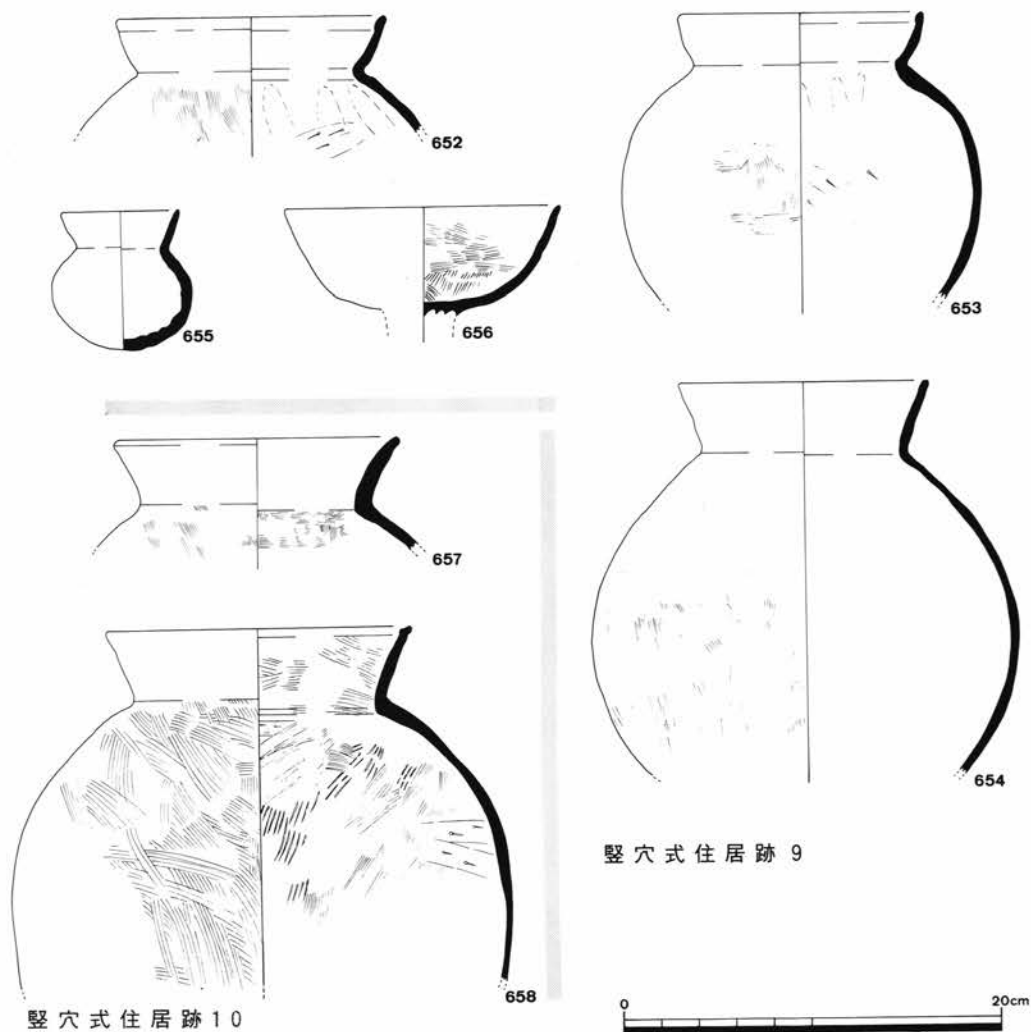
645

竪穴式住居跡 8



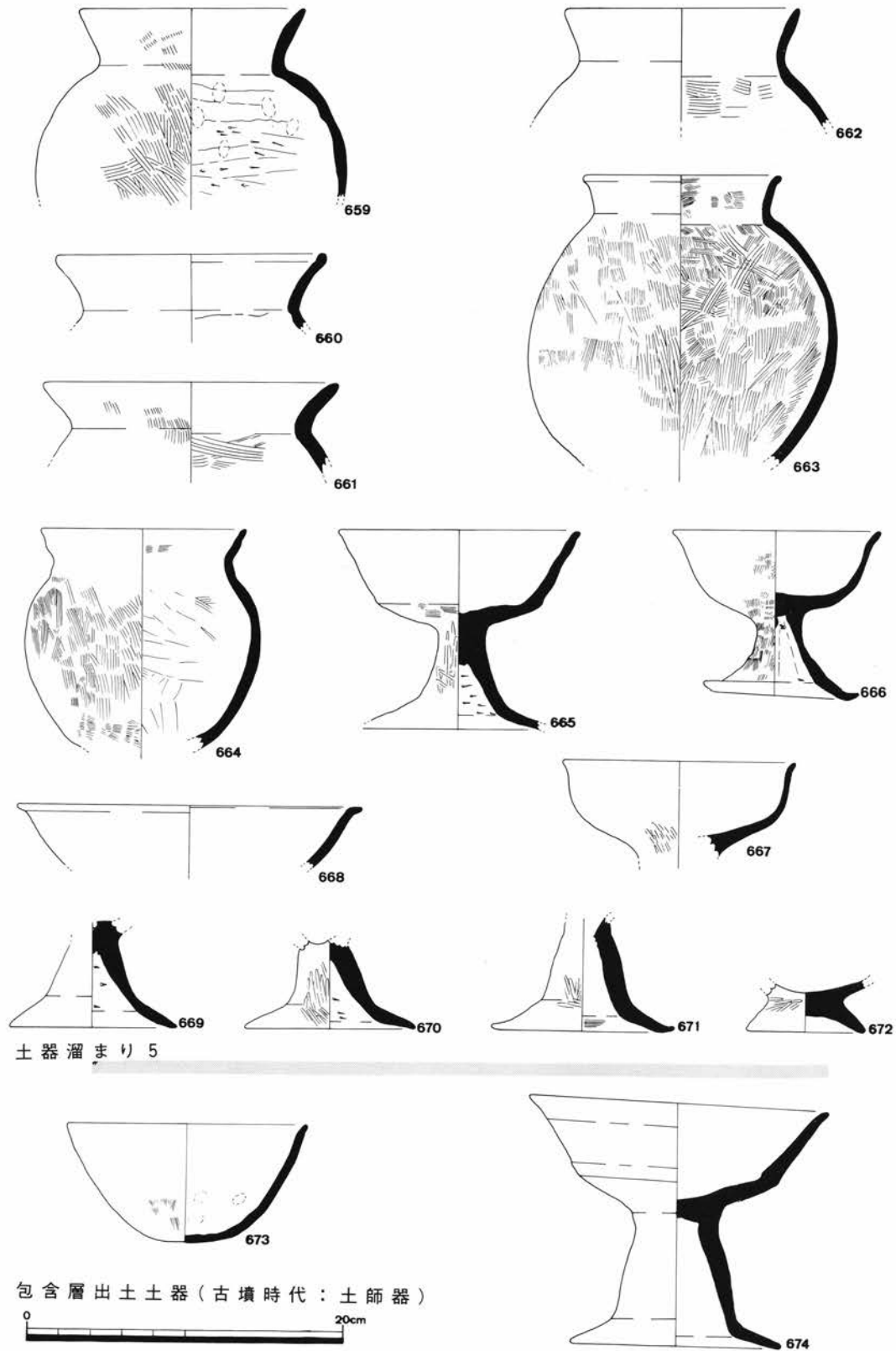


竪穴式住居跡 8

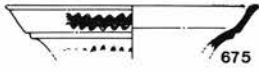


竪穴式住居跡 9

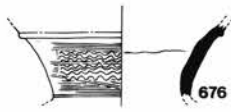
竪穴式住居跡 10



出土遺物実測図（古墳時代中期・後期8）



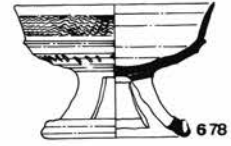
675



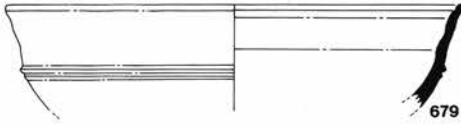
676



677



678



679



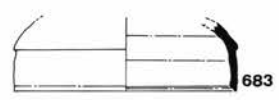
680



681



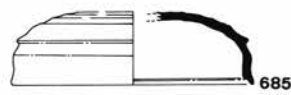
682



683



684



685



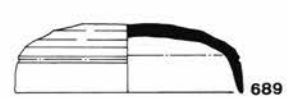
686



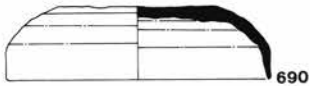
687



688



689



690



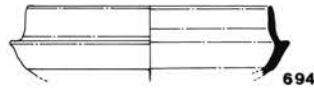
691



692



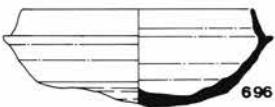
693



694



695



696



697



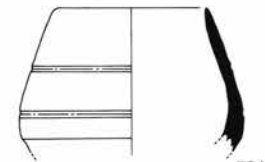
698



699



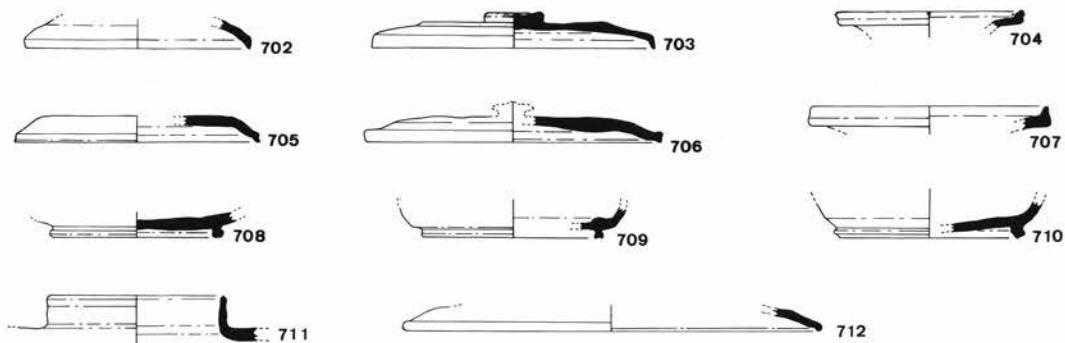
700



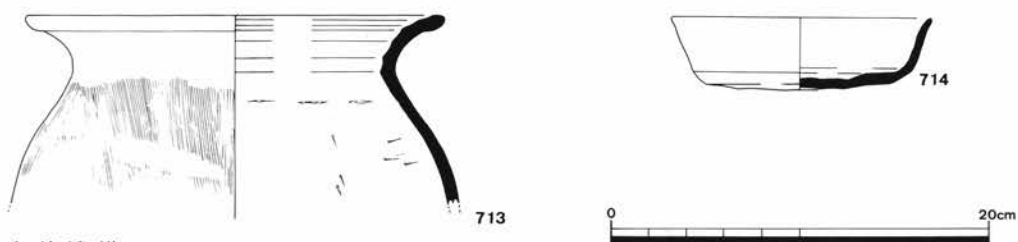
701

包含層出土土器（古墳時代：須恵器）

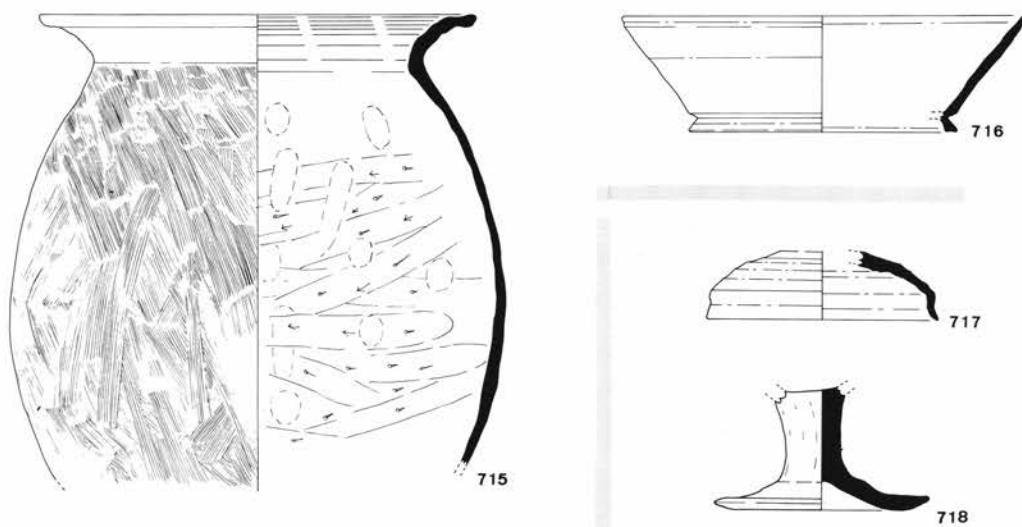




掘立柱建物跡 5・6・7・9・11 柱掘形

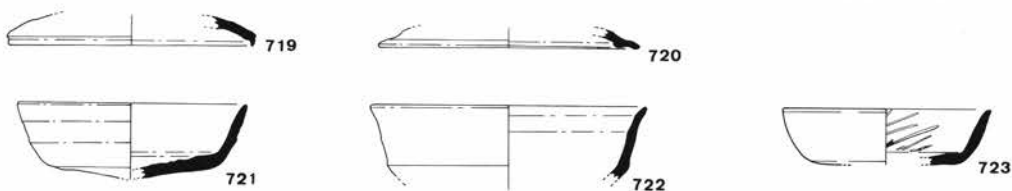


竪穴状遺構 1

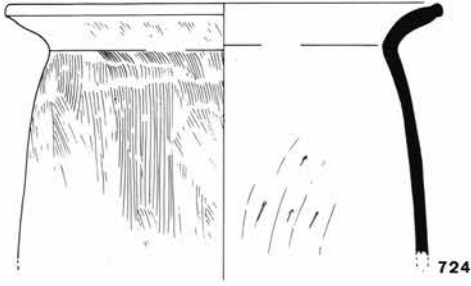


竪穴式住居跡 1 8

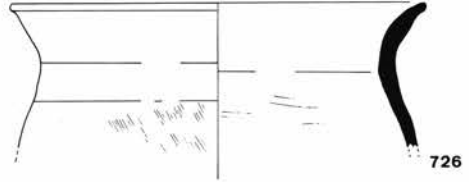
竪穴式住居跡 2 1



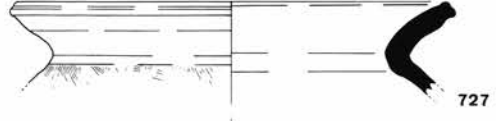
竪穴式住居跡 2 2



724



726



727

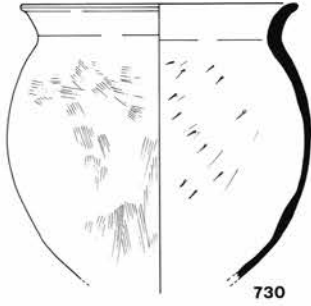


725



728

竪穴式住居跡 22



730



729



731

竪穴式住居跡 23



732



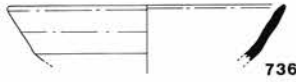
733



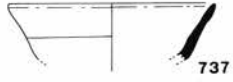
734



735



736



737



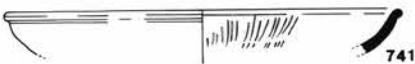
738



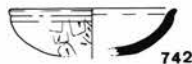
739



740



741



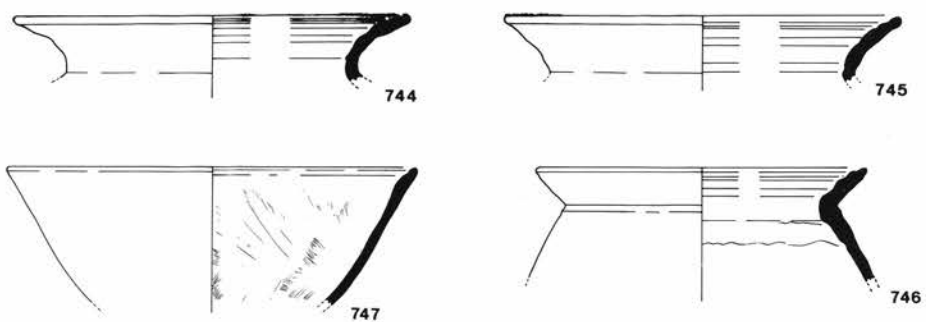
742



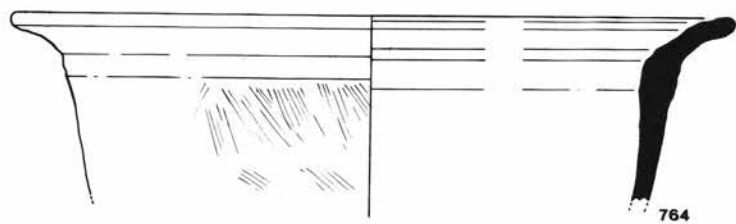
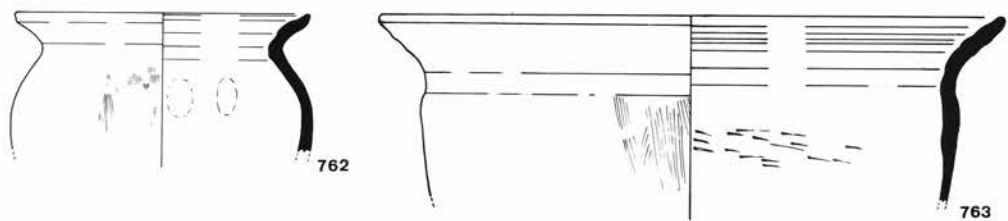
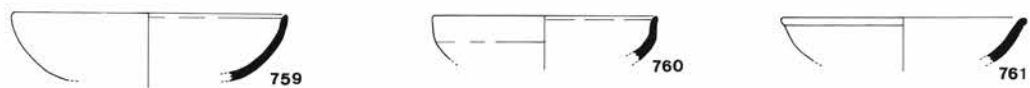
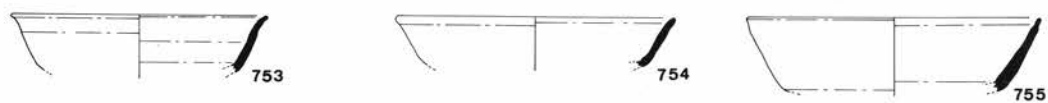
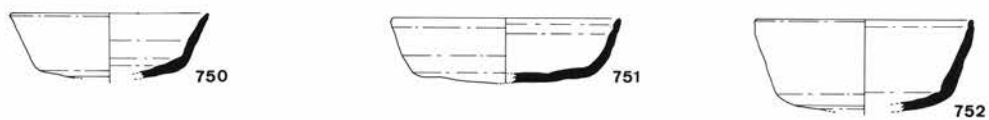
743

土器溜まり 6

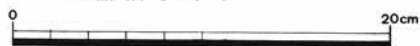


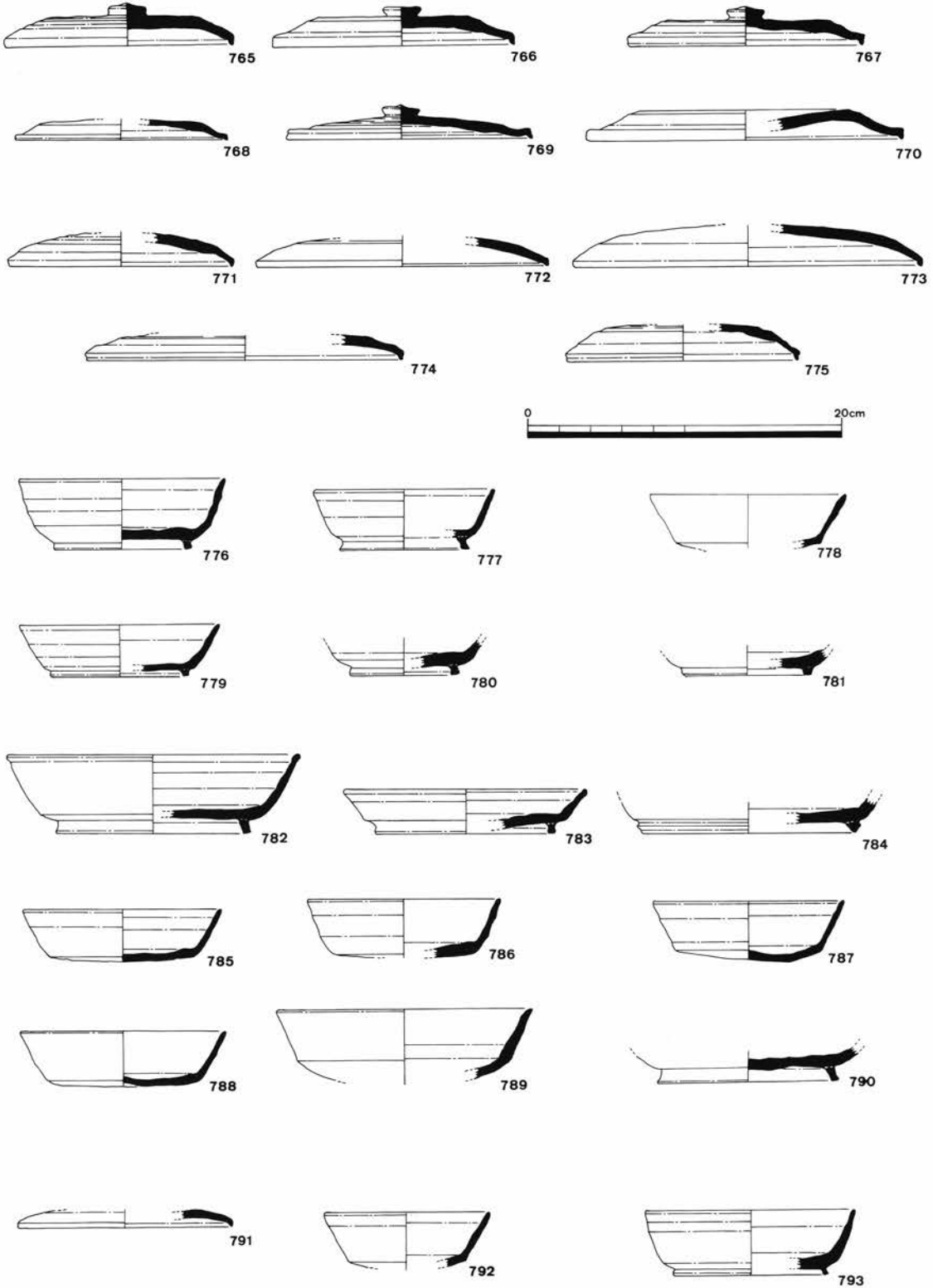


土器溜まり 6



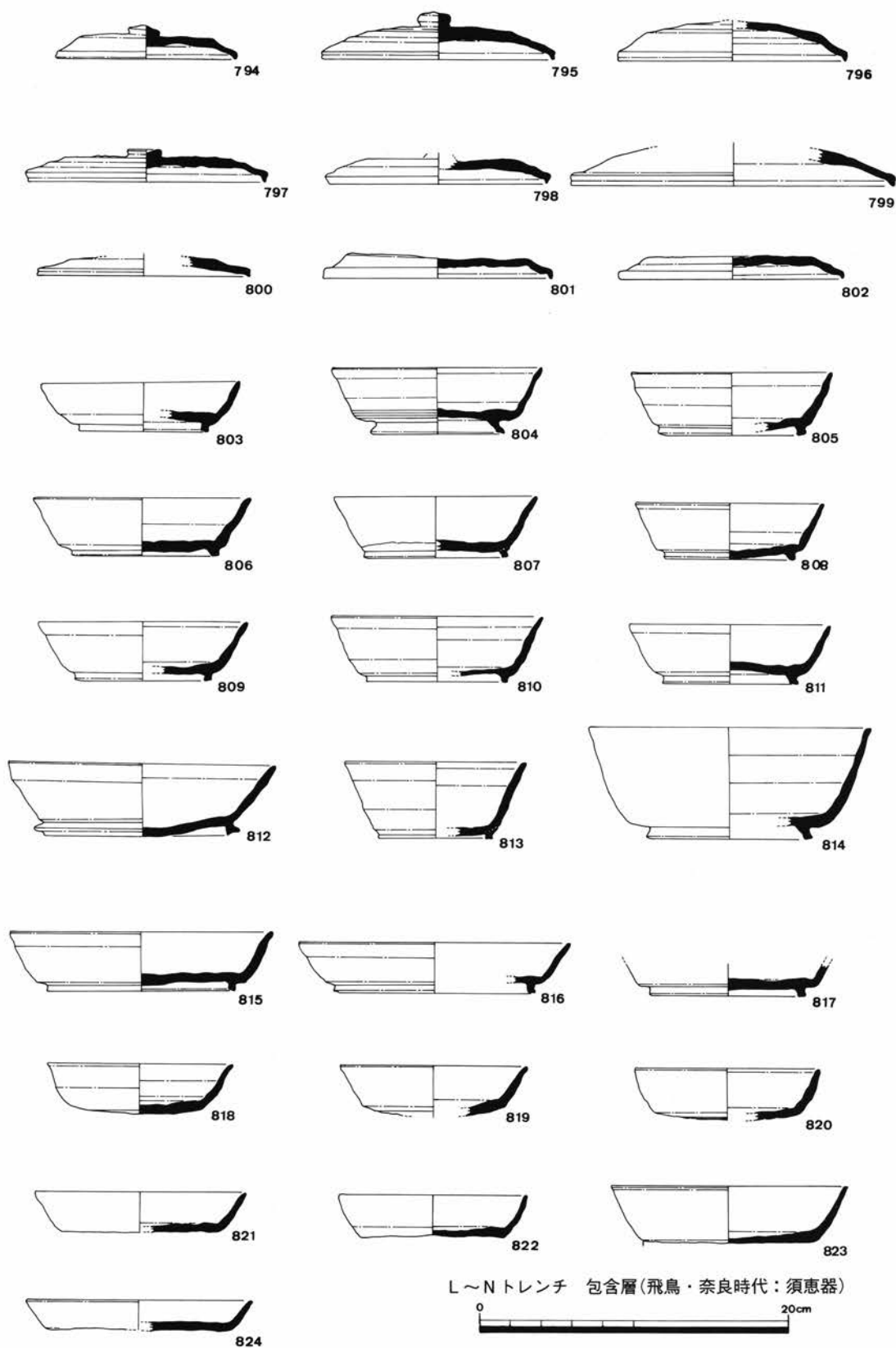
土器溜まり 7



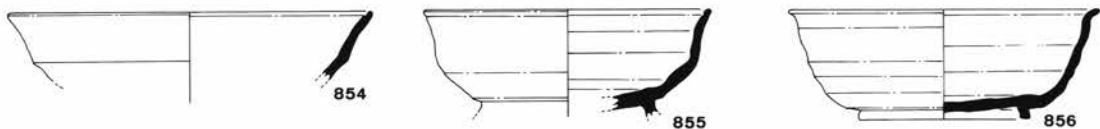
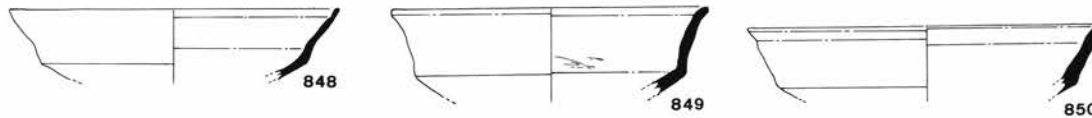
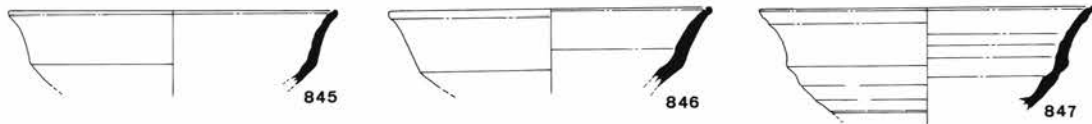
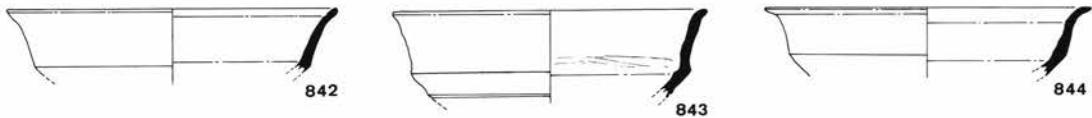
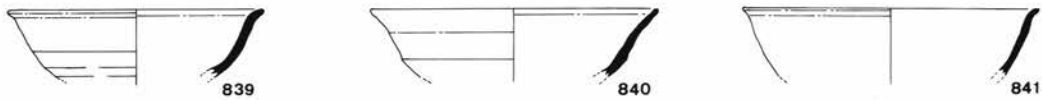
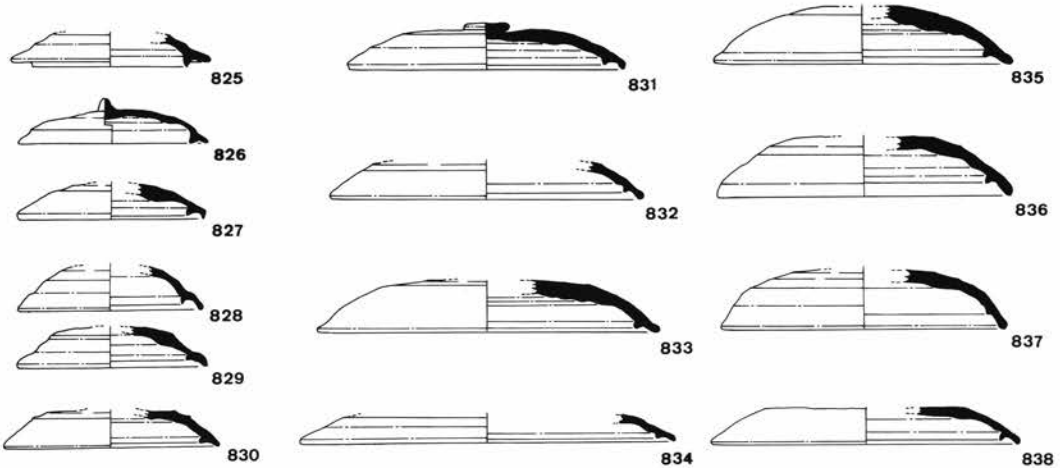


A~Dトレンチ 包含層(飛鳥・奈良時代：須恵器)

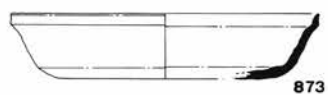
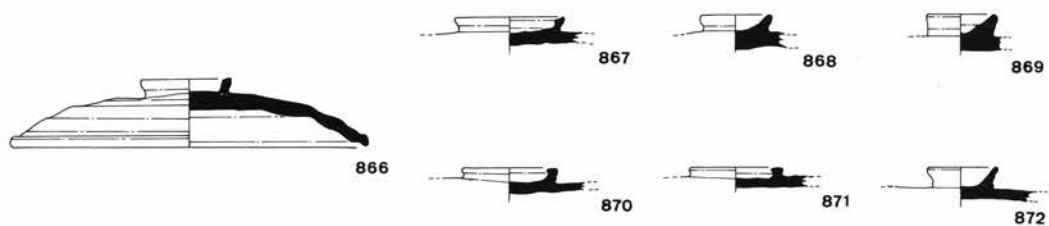
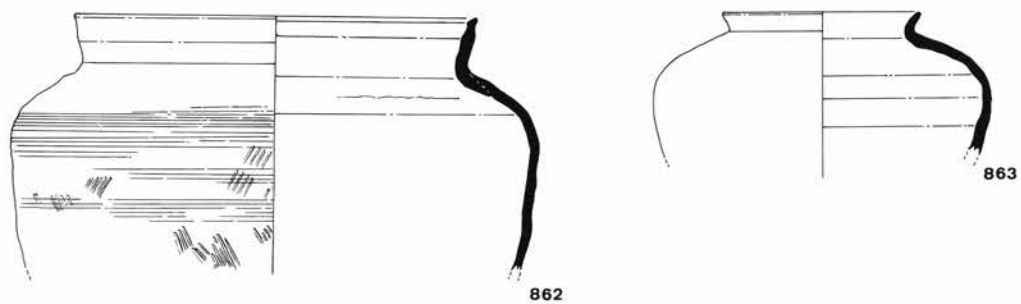
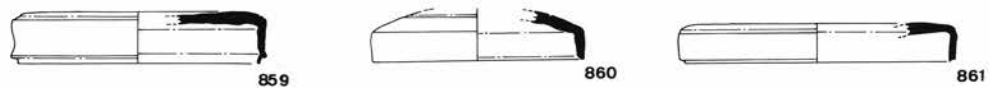
出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代4)



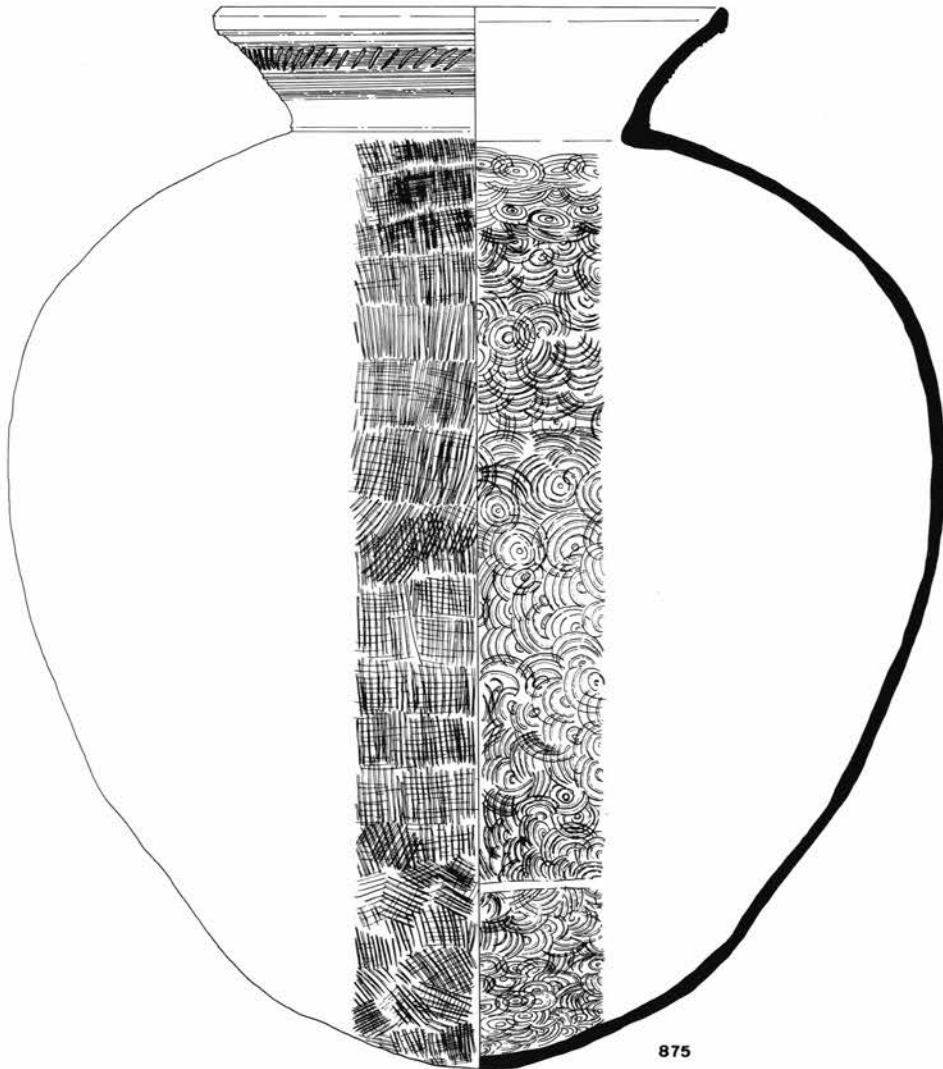
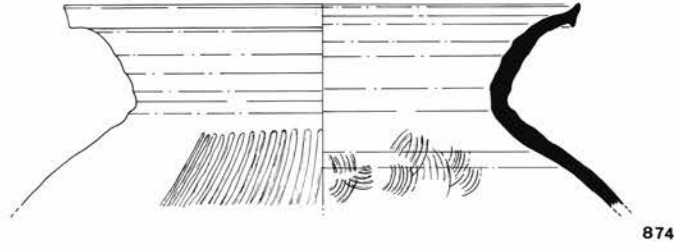
出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代5)



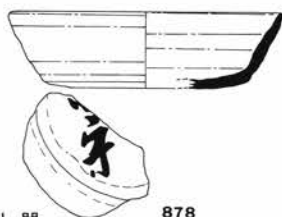
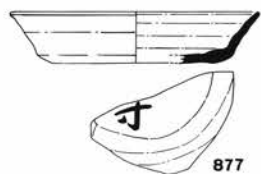
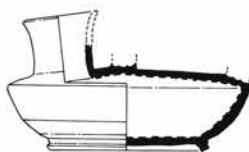
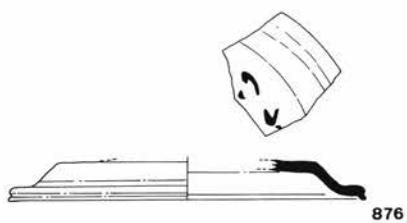
L~Nトレンチ 包含層(飛鳥・奈良時代：須恵器)



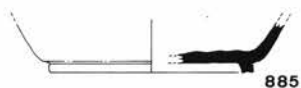
L～Nトレンチ 包含層(飛鳥・奈良時代：須恵器)



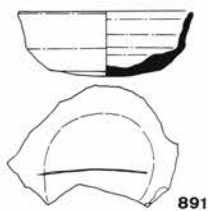
C・Lトレンチ 包含層(飛鳥・奈良時代：須恵器)



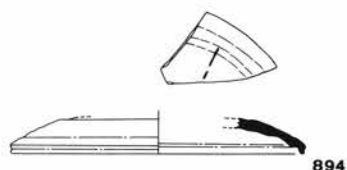
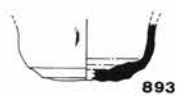
墨書土器

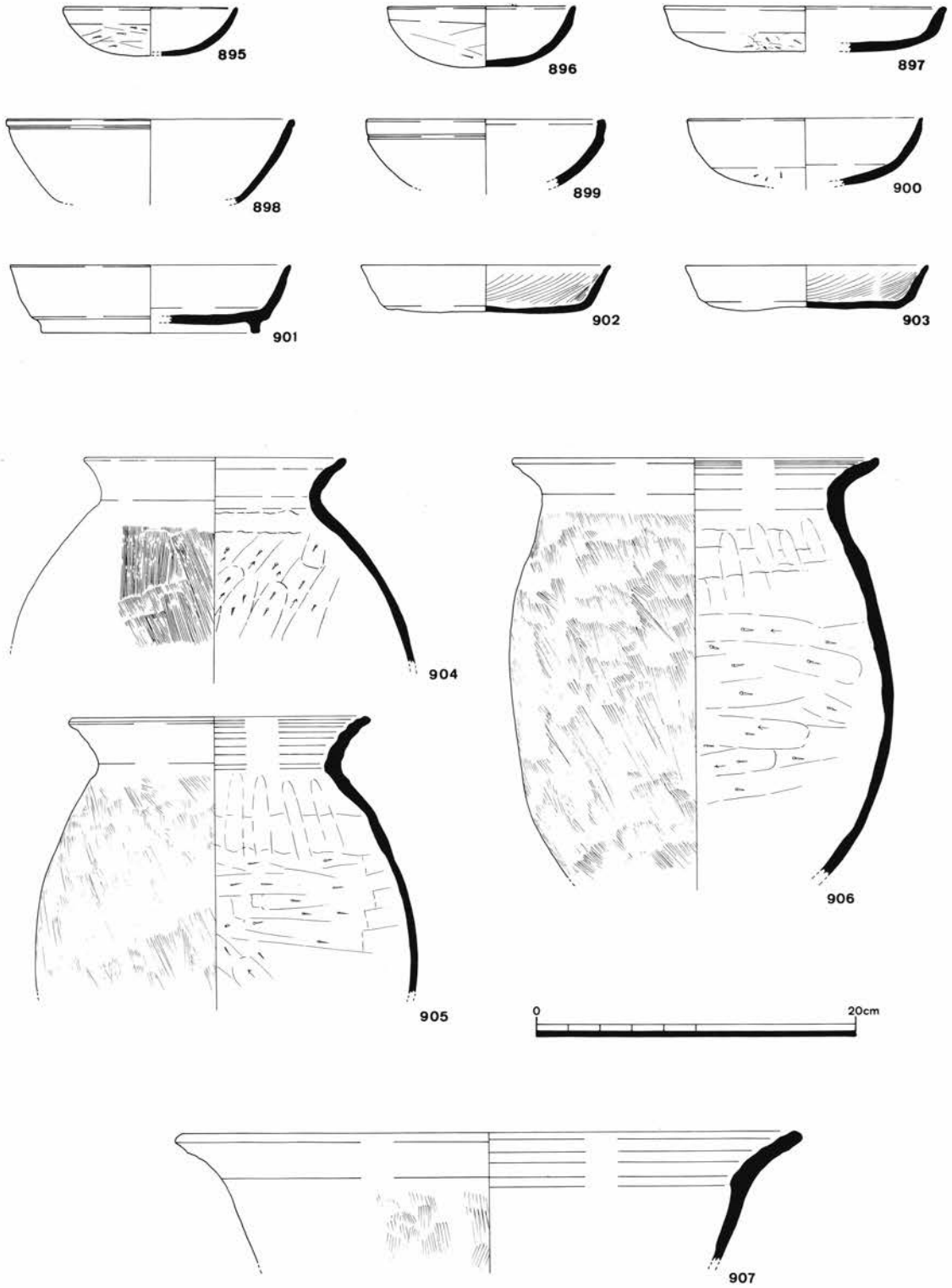


転用硯



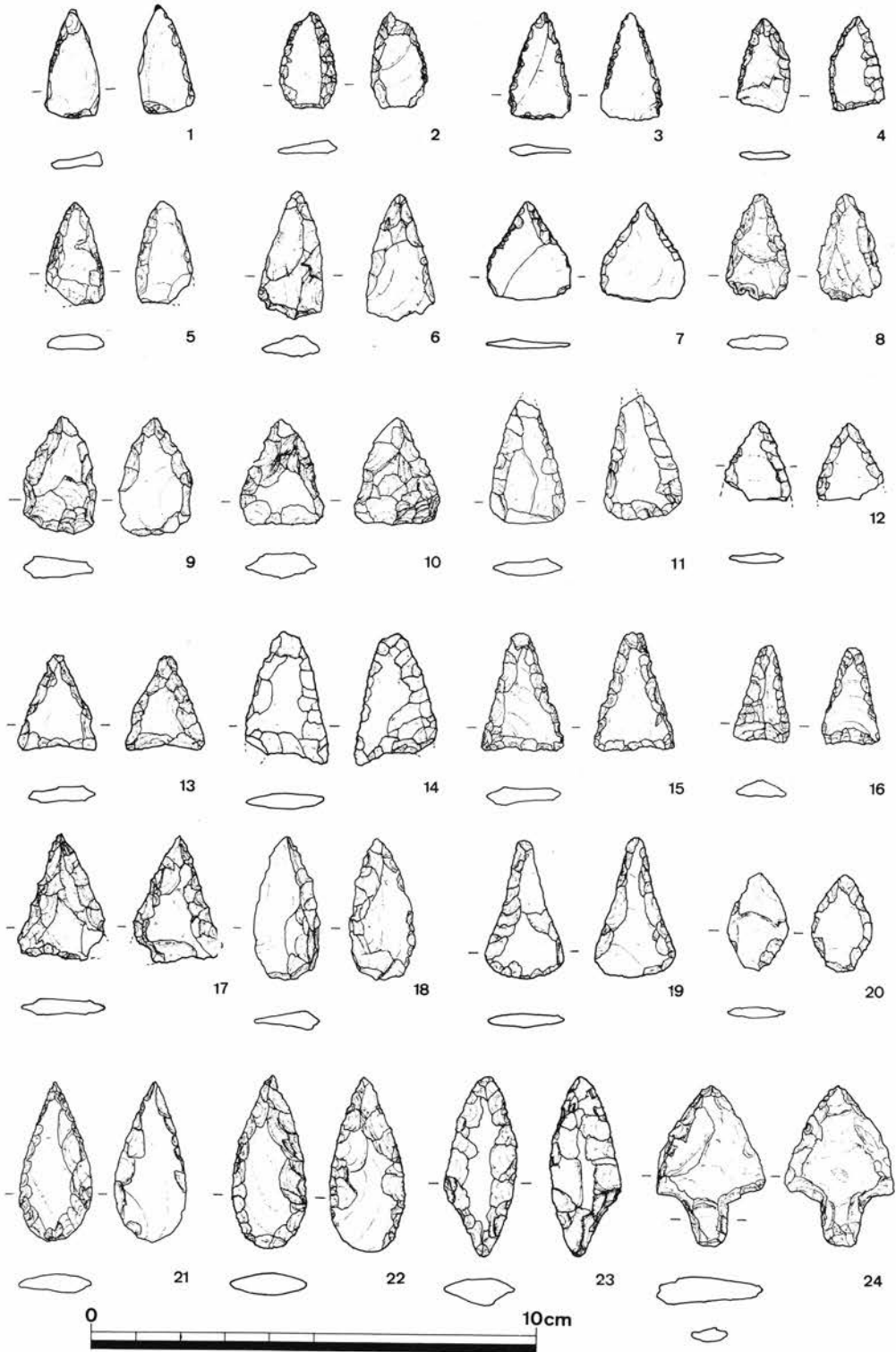
へラ記号を持つ土器



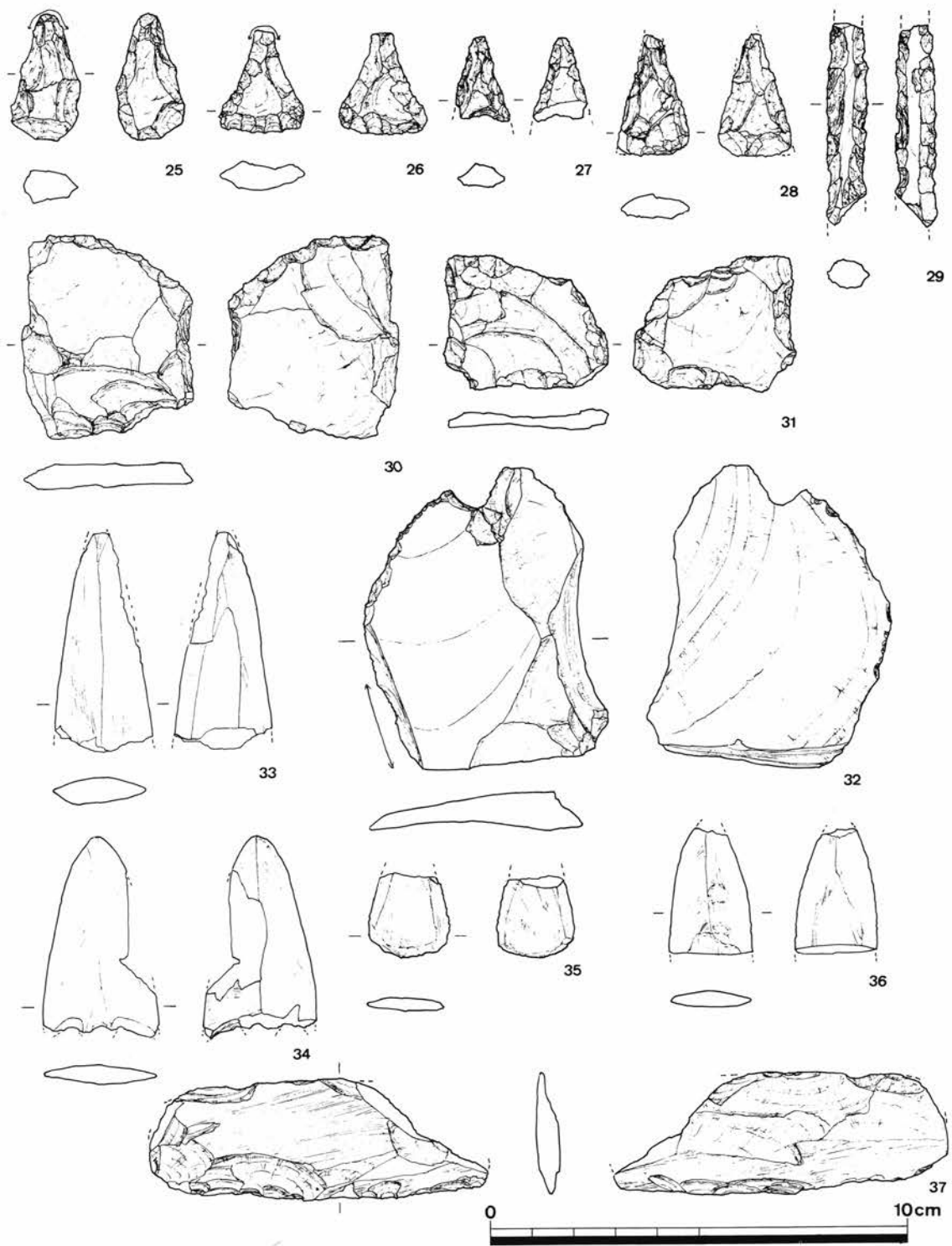


L~Nトレンチ 包含層(飛鳥・奈良時代：土師器)

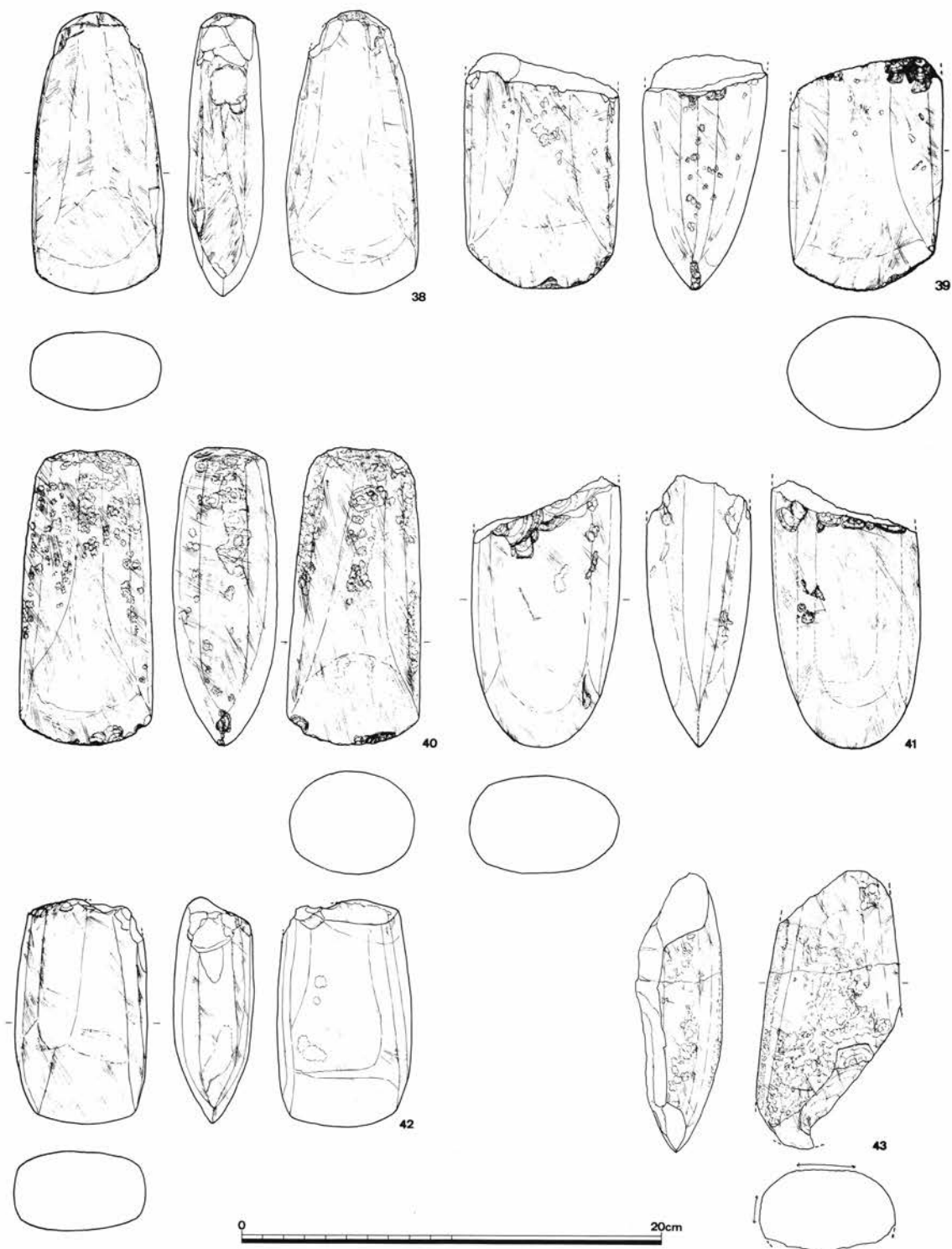
出土遺物実測図(飛鳥・奈良時代10)



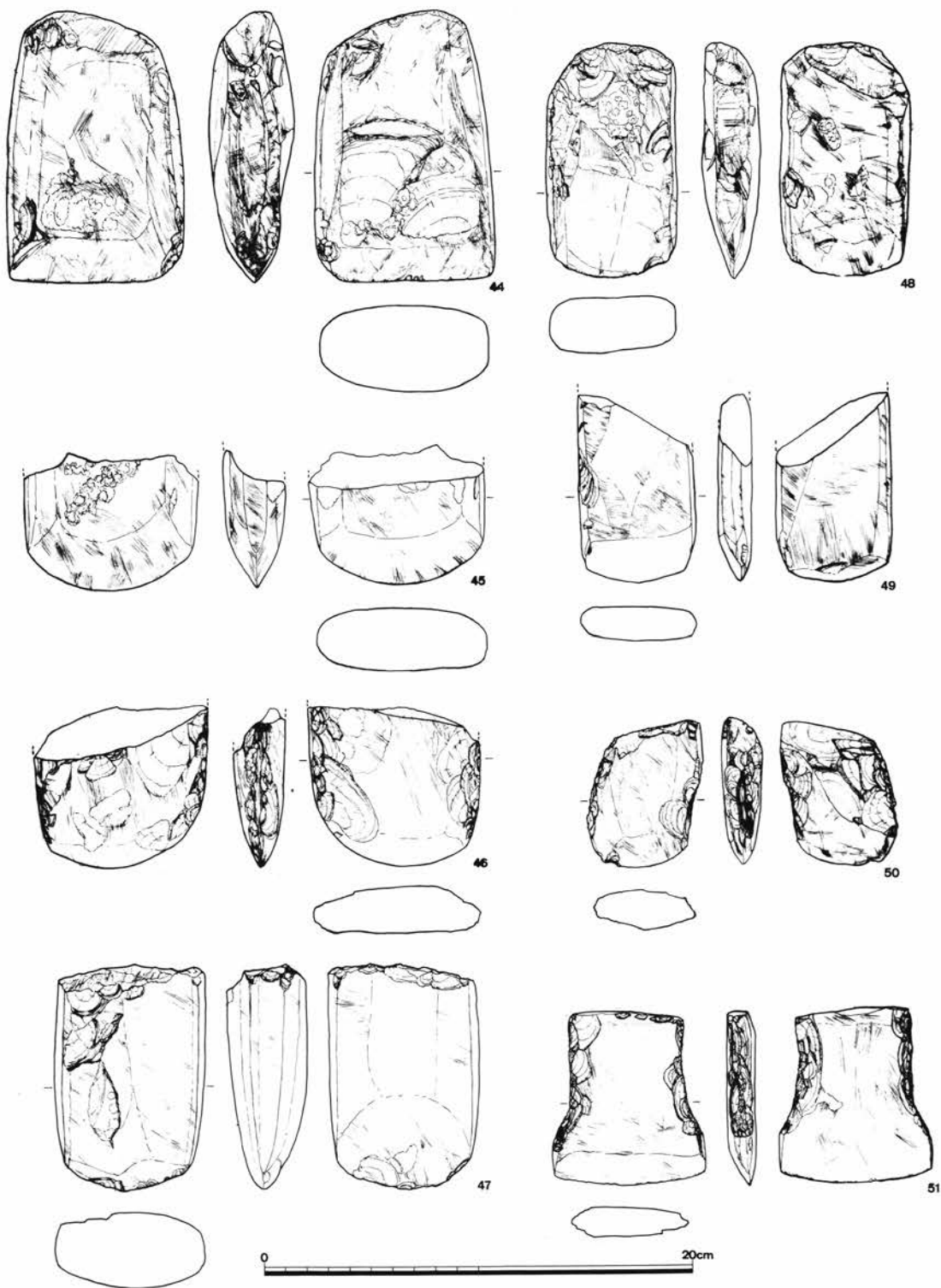
出土遺物実測図 (石鏃)



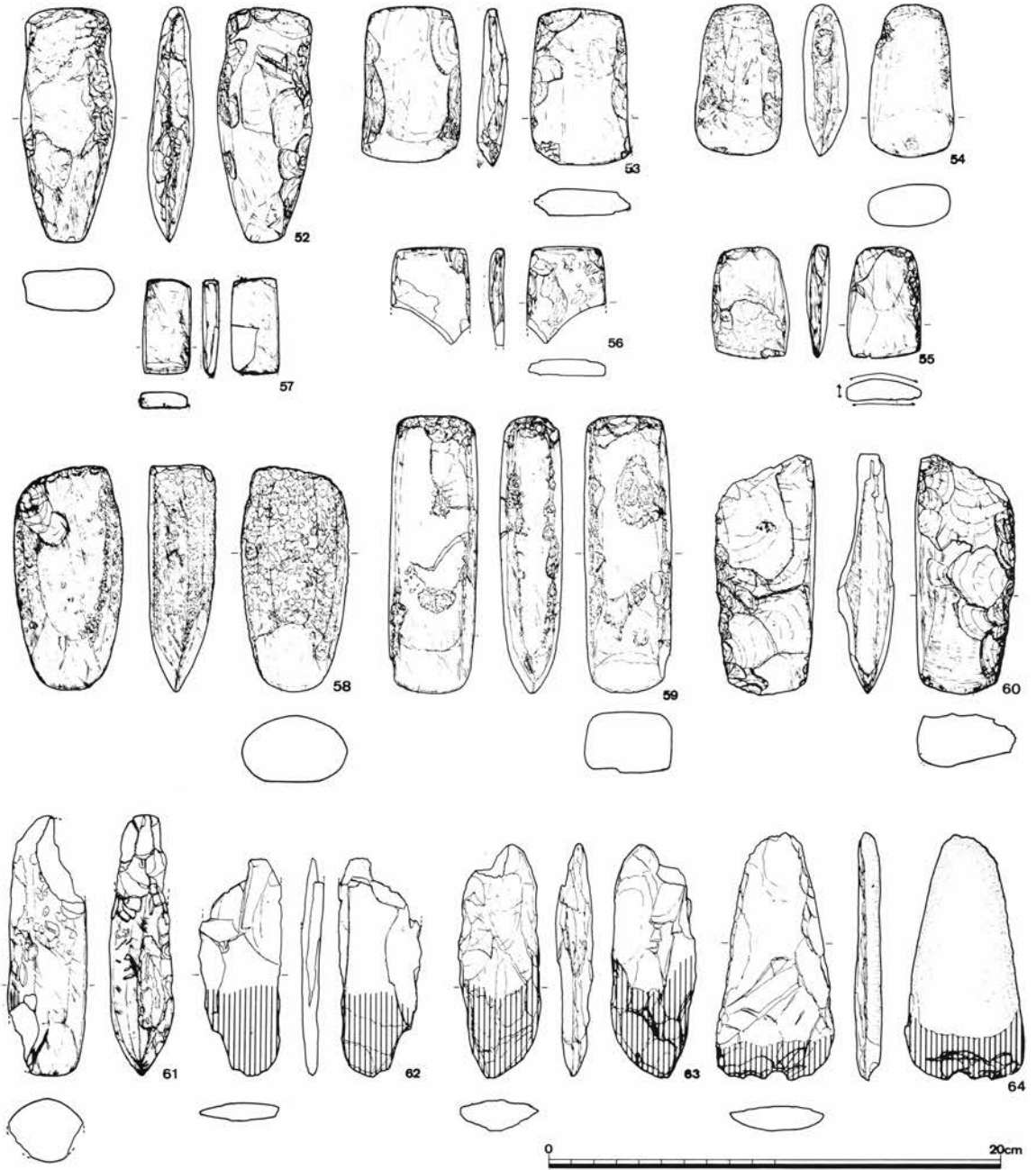
出土遺物実測図 (石錐・磨製石鏃等)



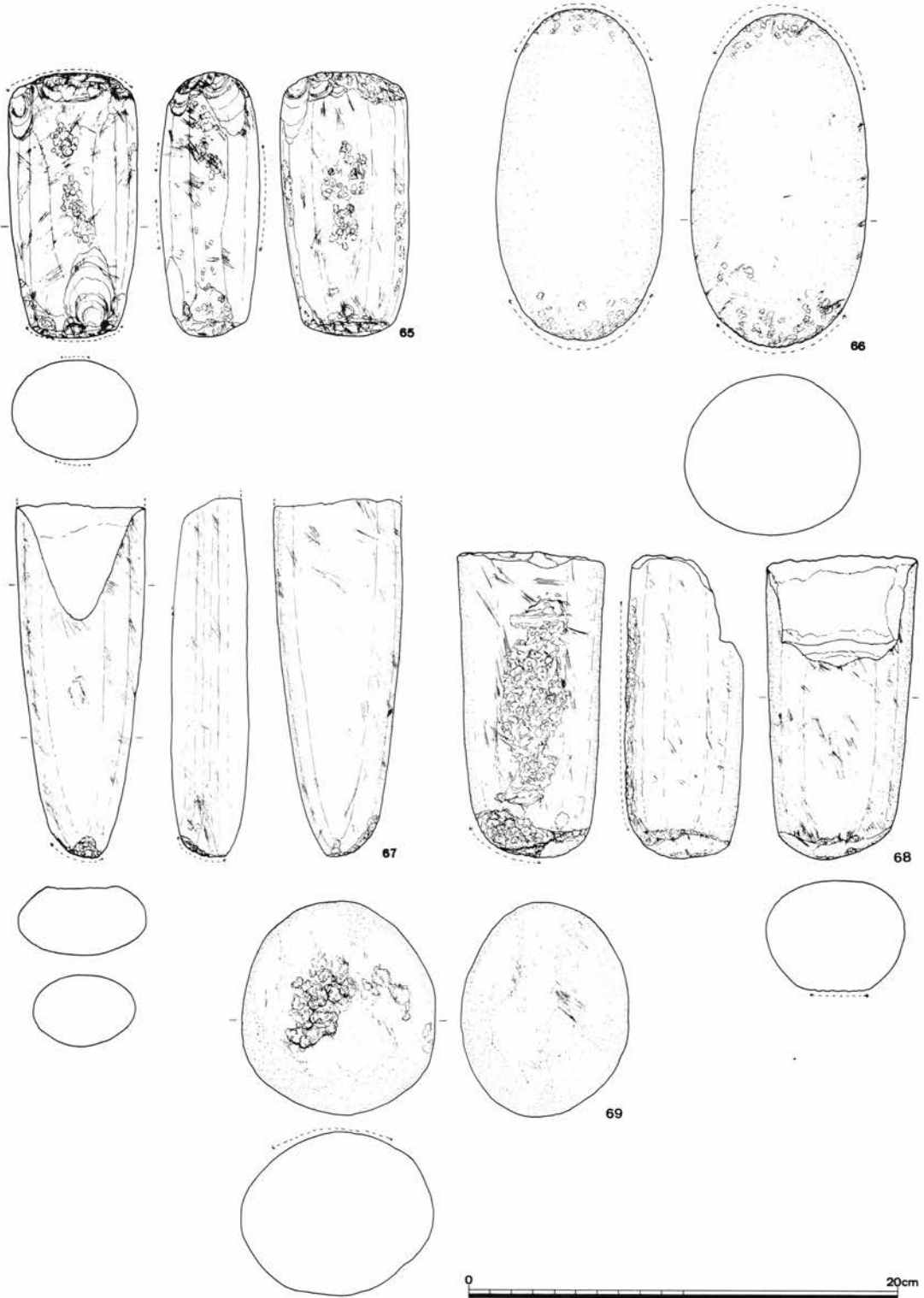
出土遺物実測図(石斧1)



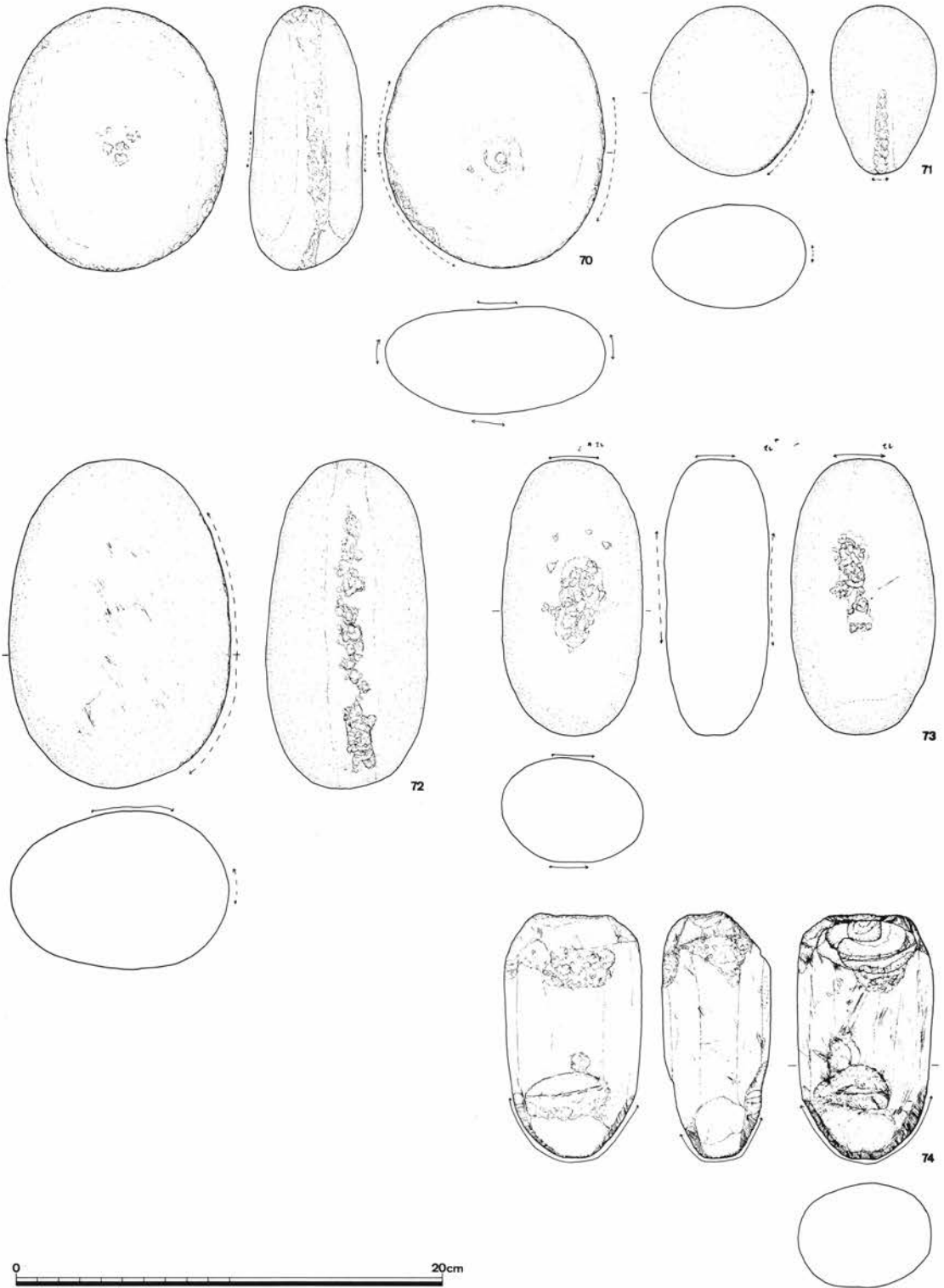
出土遺物実測図（石斧 2）



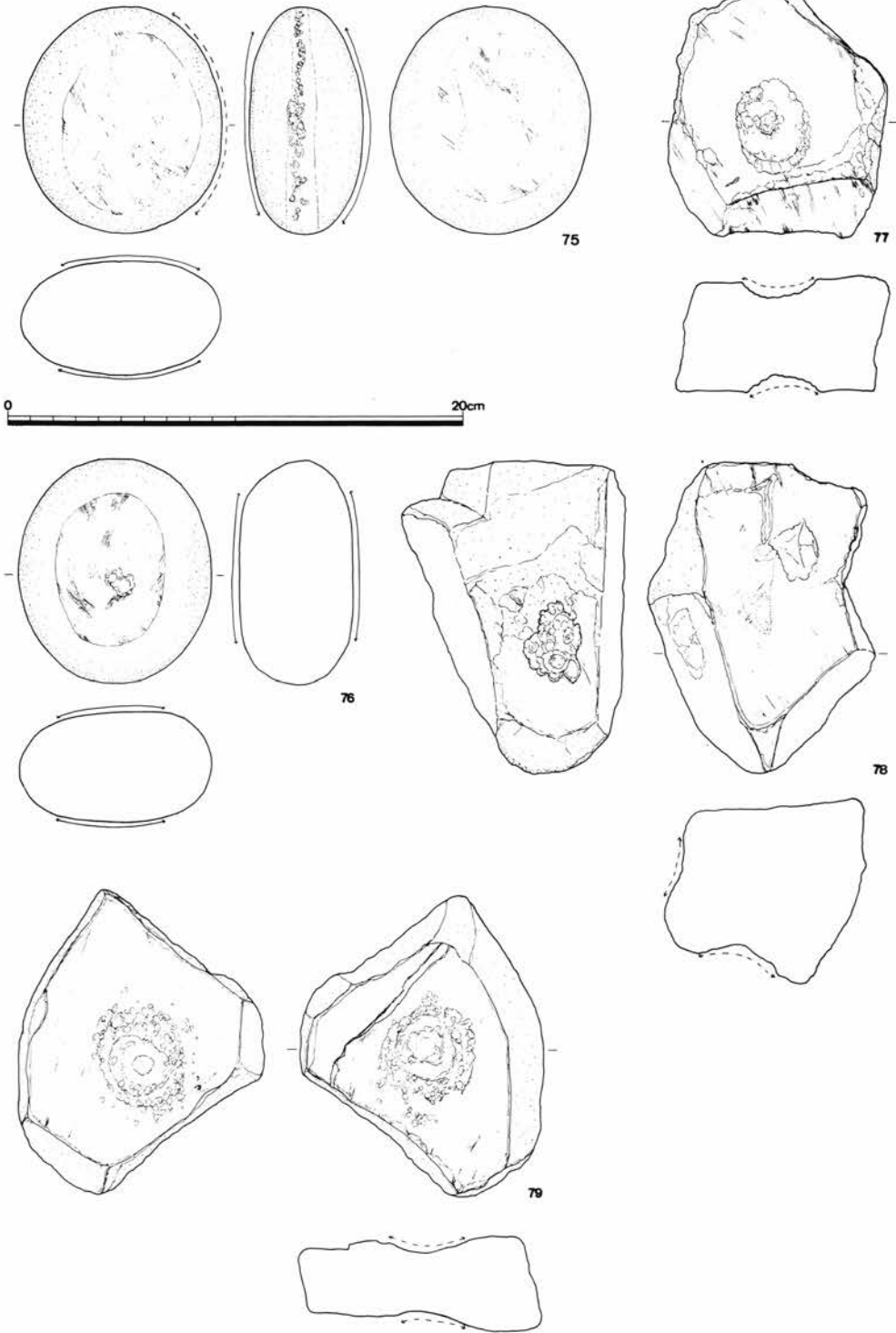
出土遺物実測図 (石斧 3)



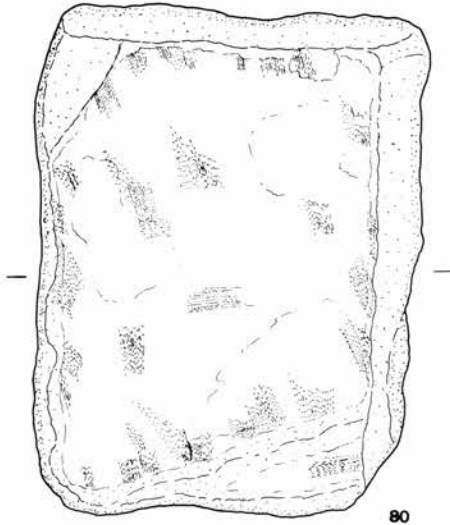
出土遺物実測図（敲石類1）



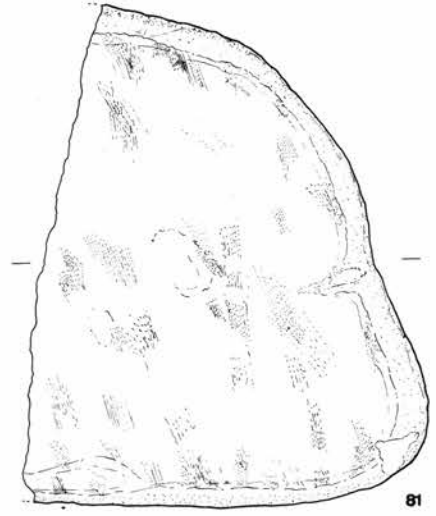
出土遺物実測図（敲石類 2）



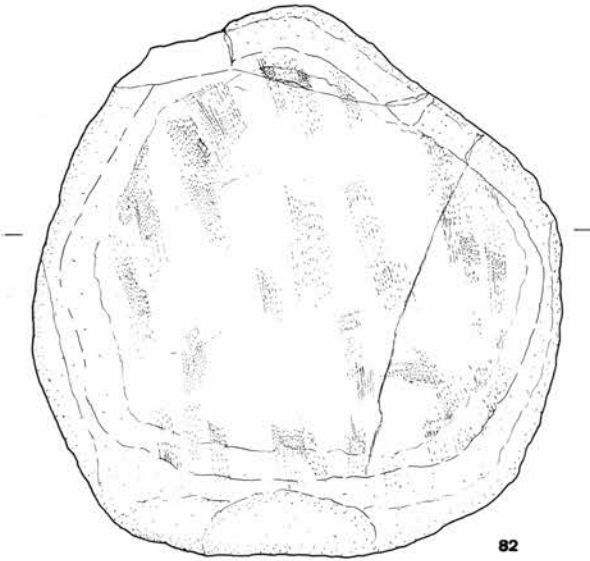
出土遺物実測図（敲石類3）



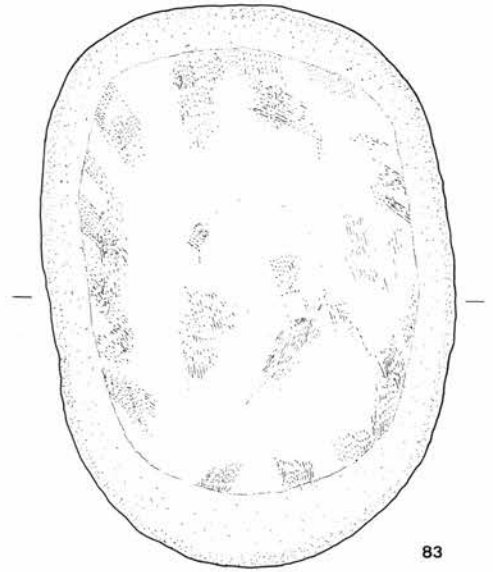
80



81



82



83

出土遺物実測図(石皿)

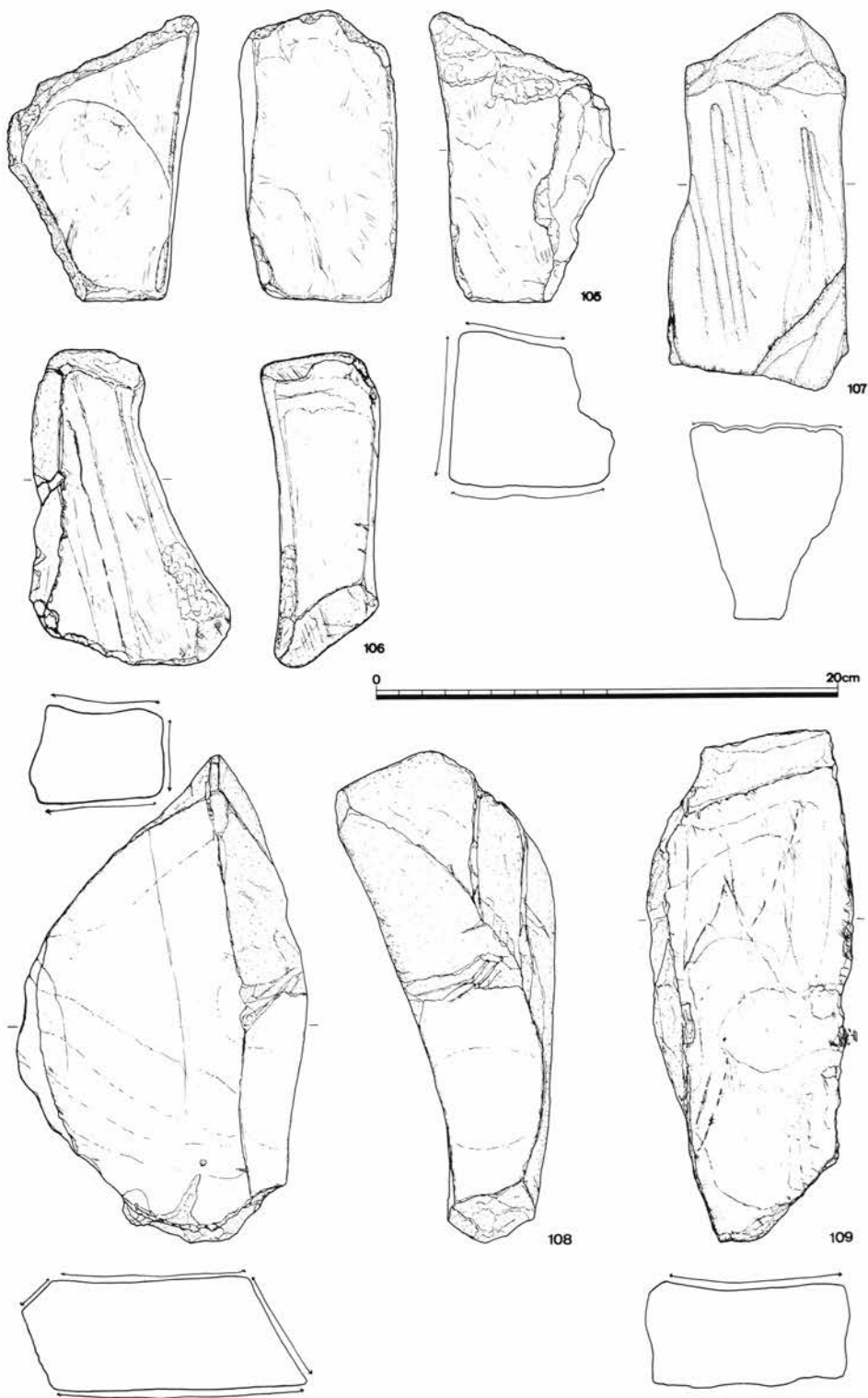


0 20cm

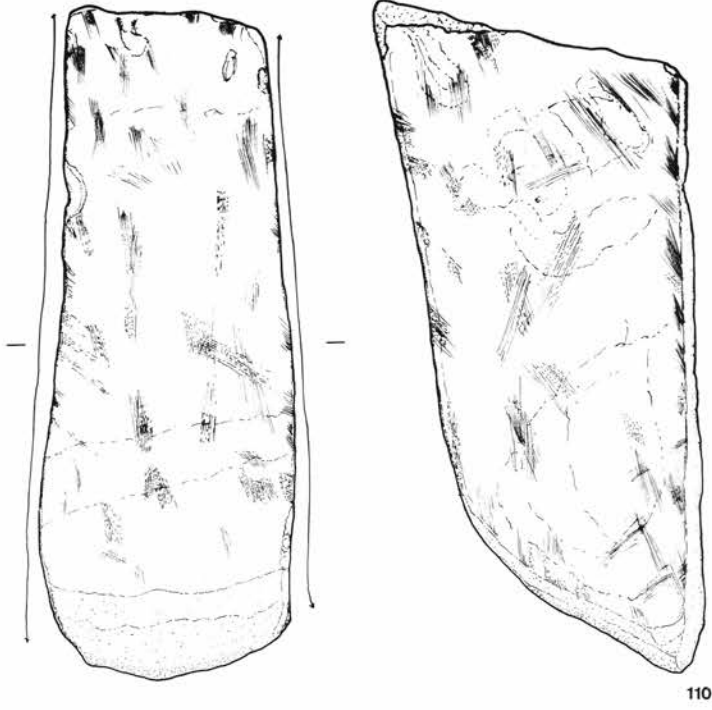
出土遺物実測図（砥石1）



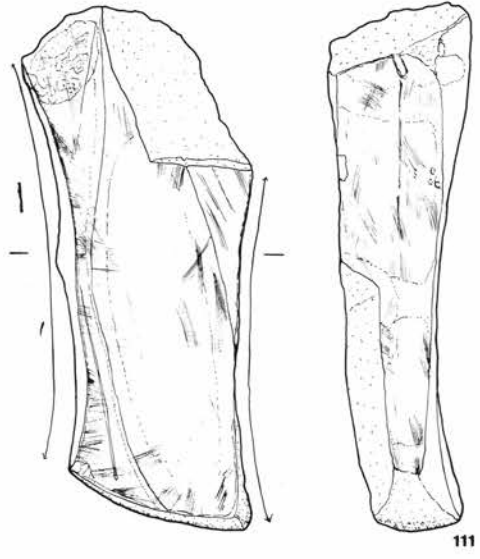
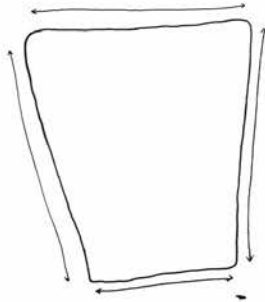
出土遺物実測図（砥石 2）



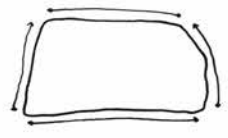
出土遺物実測図（砥石 3）



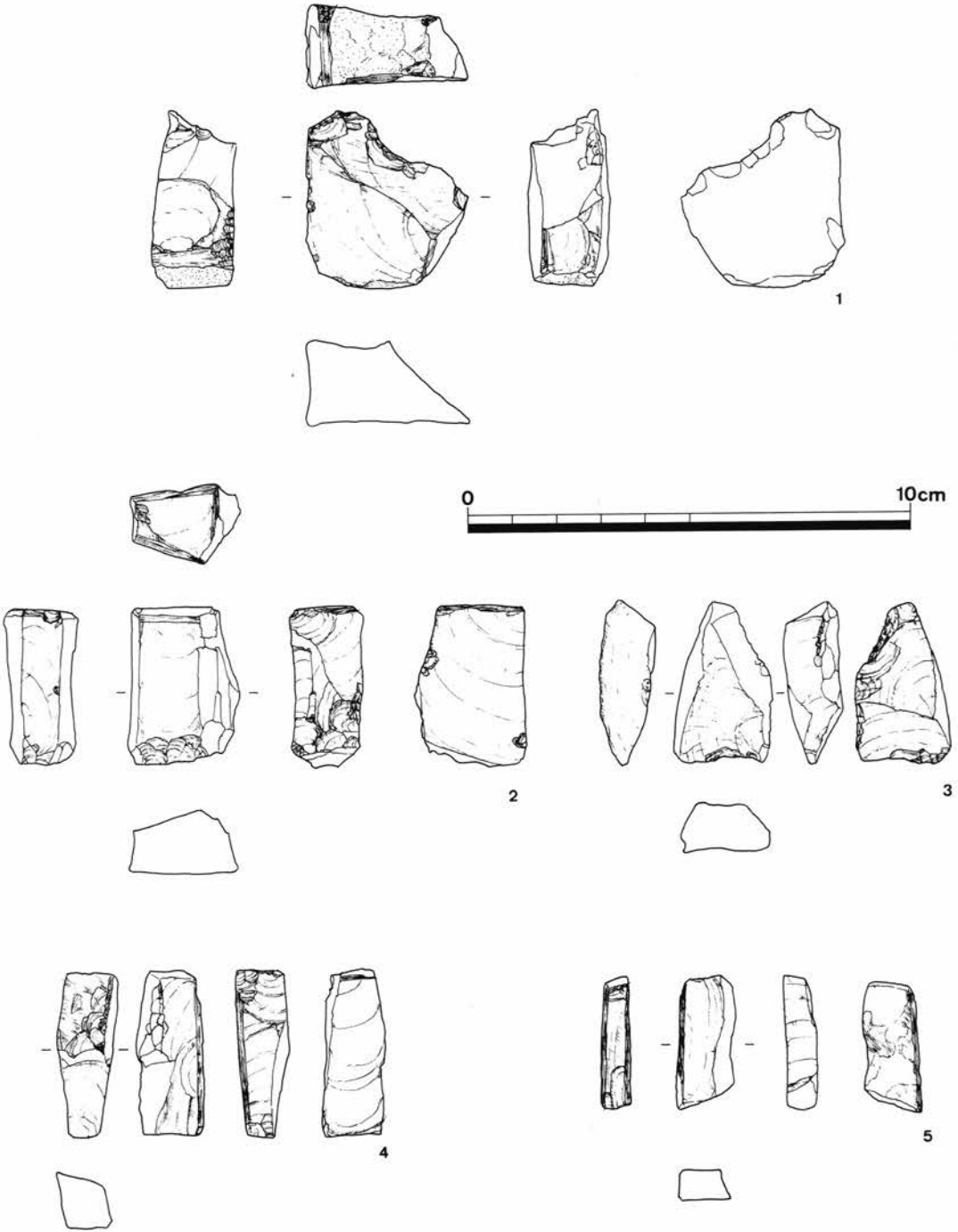
110



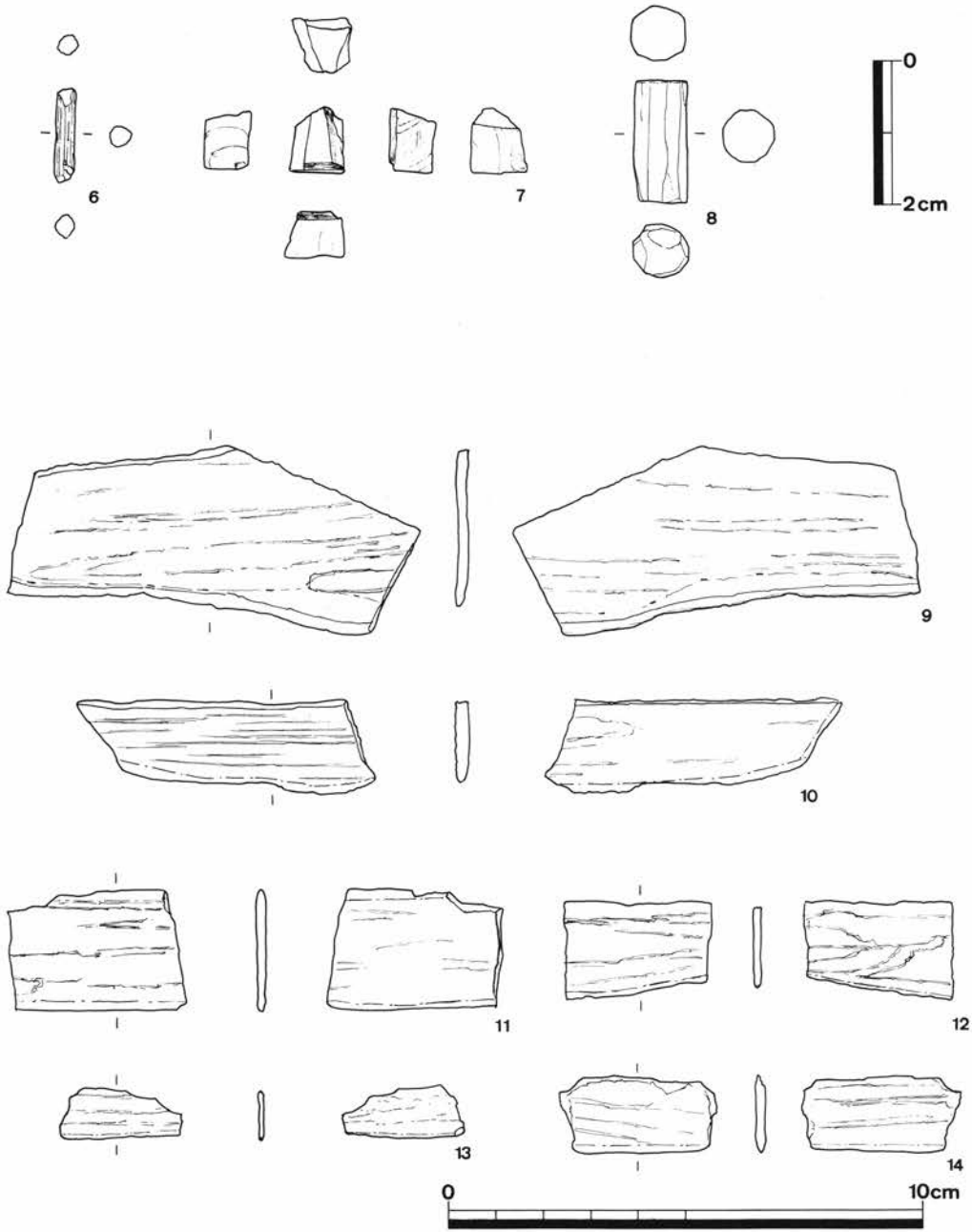
111



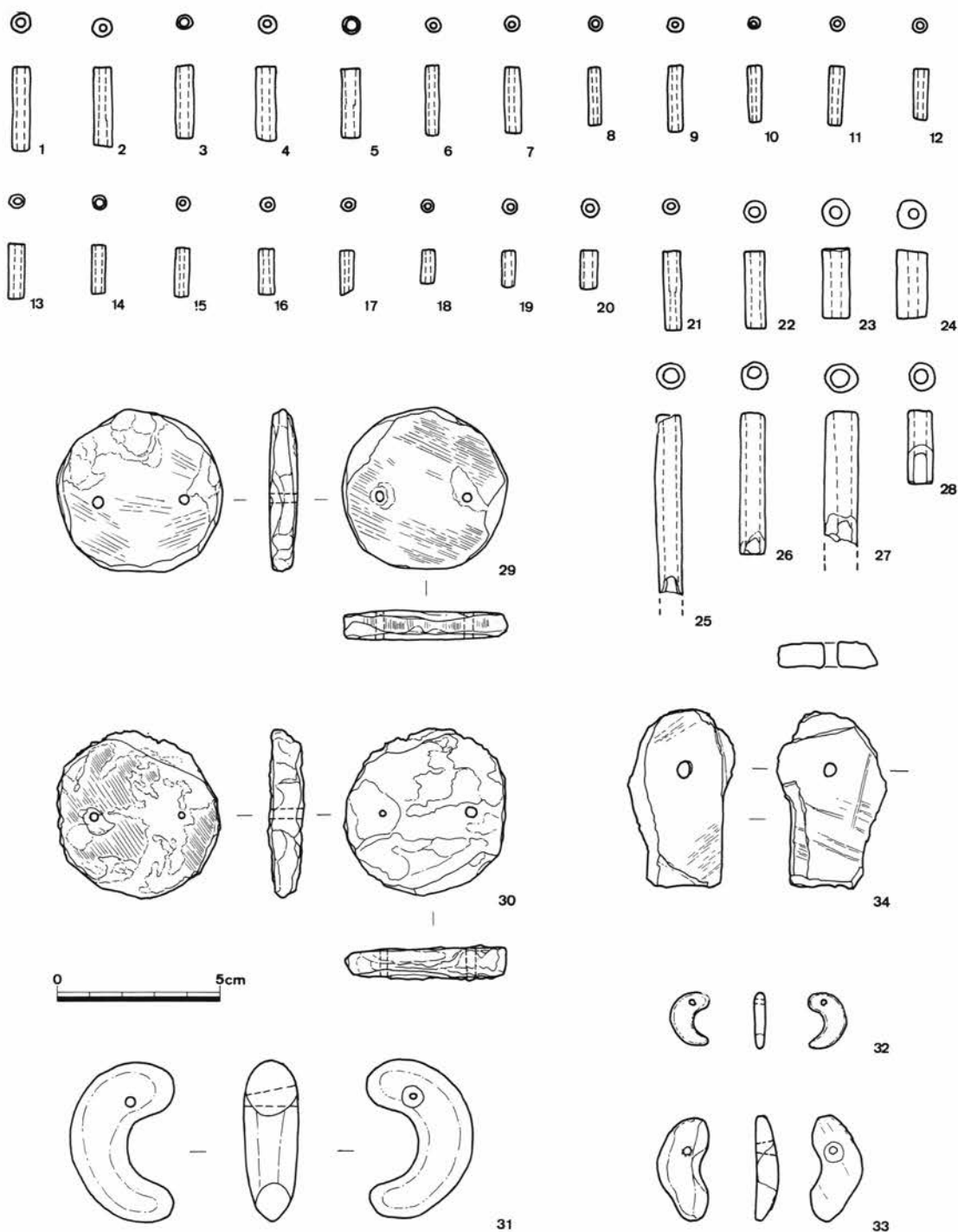
出土遺物実測図（砥石4）



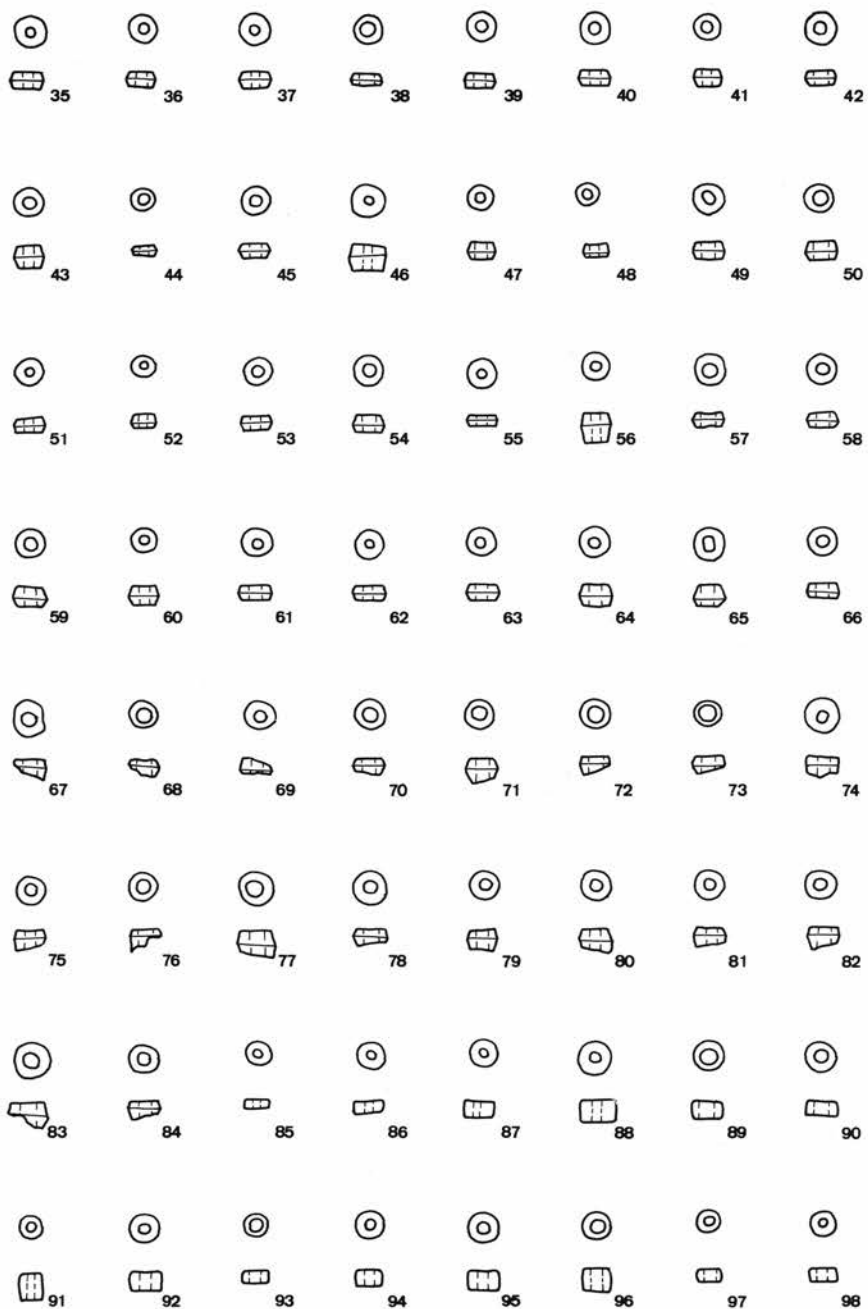
出土遺物実測図 (管玉未製品)



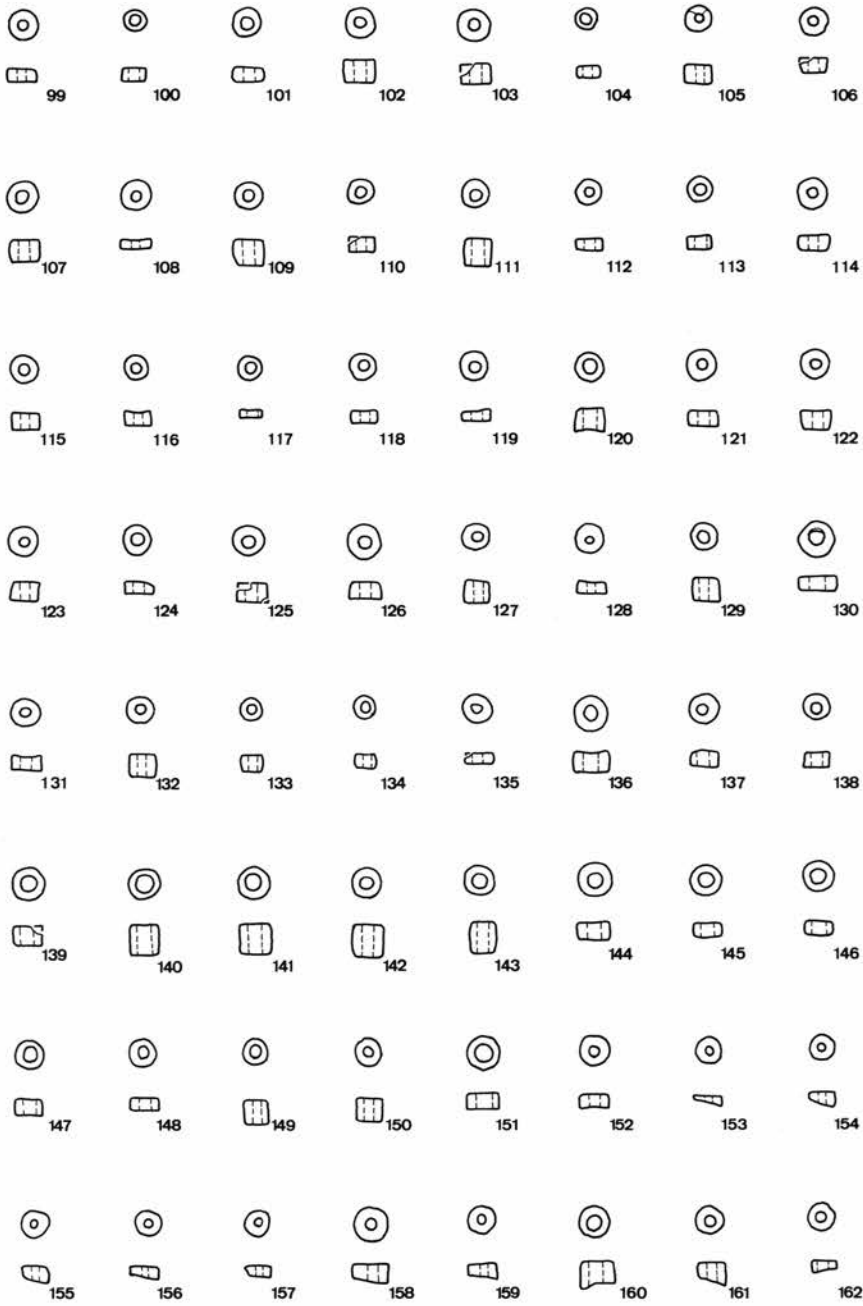
出土遺物実測図（石鋸等）



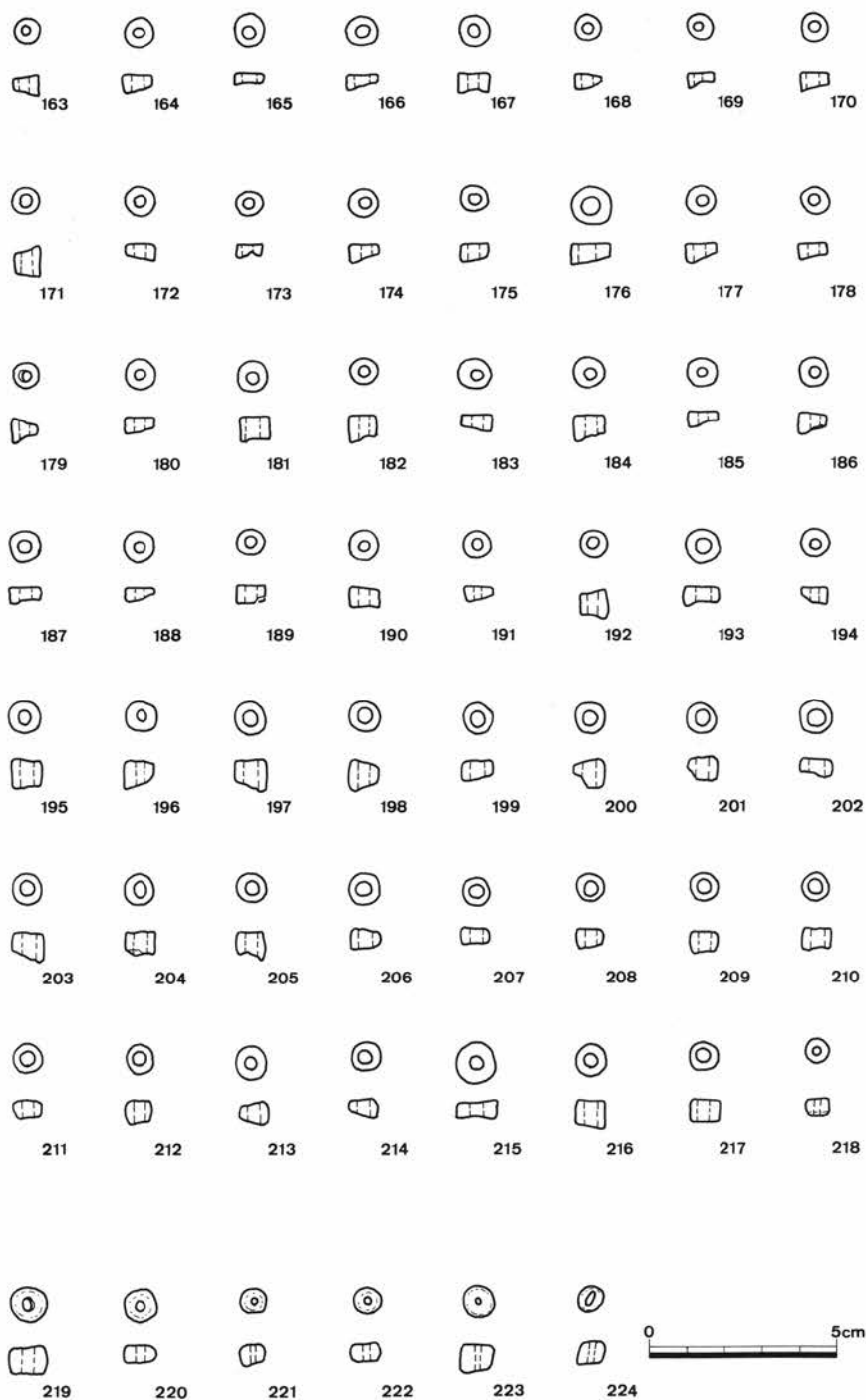
出土遺物実測図（管玉・勾玉・有孔円板）



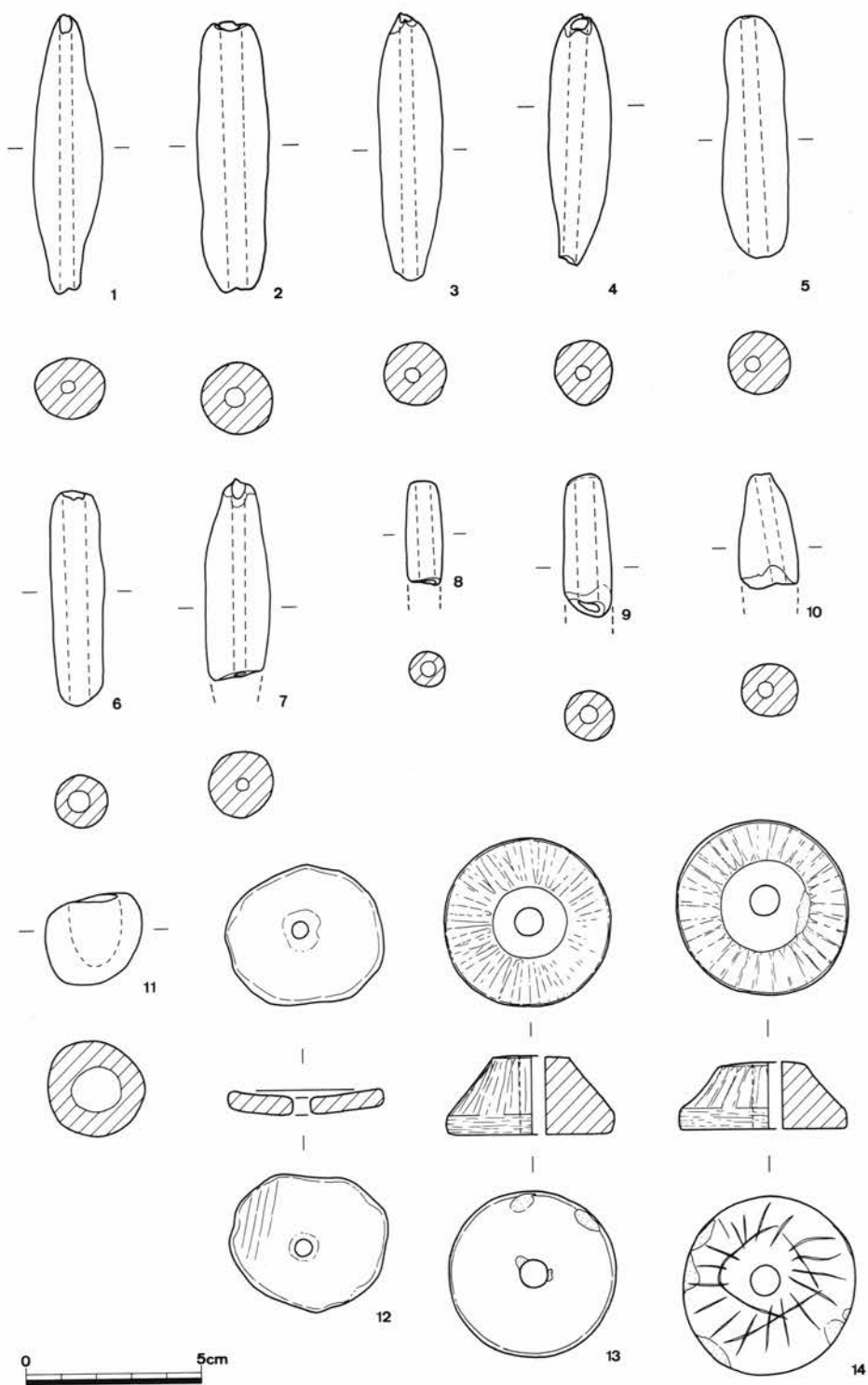
出土遺物実測図（白玉1）



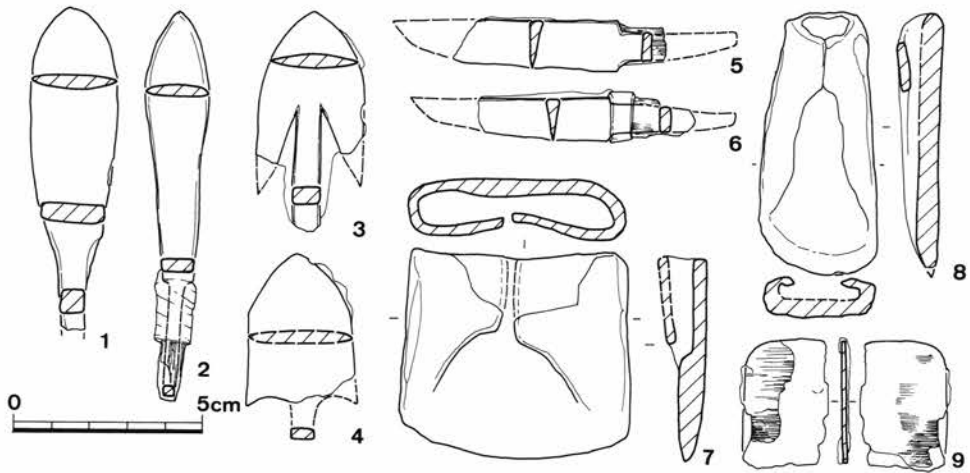
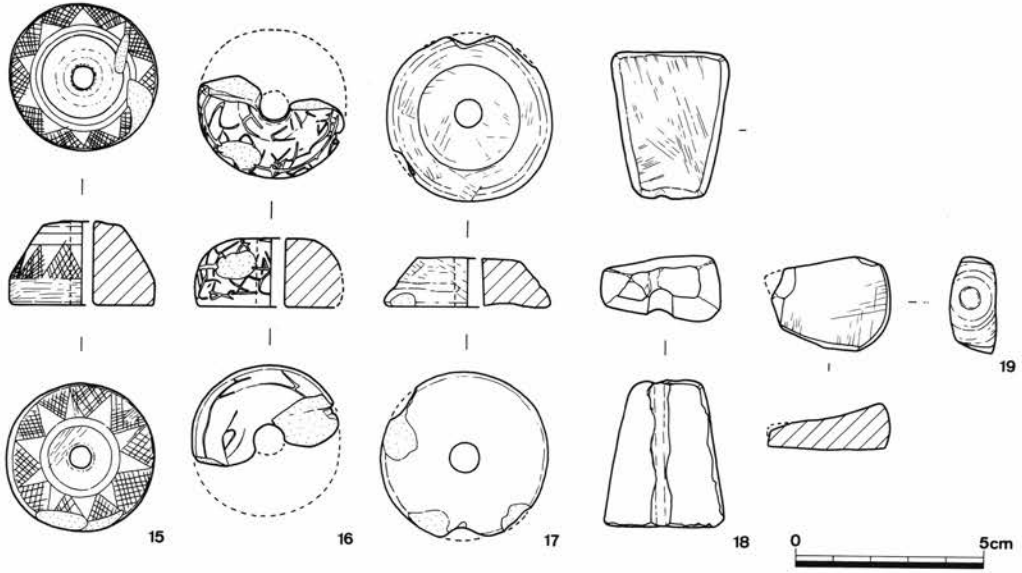
出土遺物実測図(白玉2)



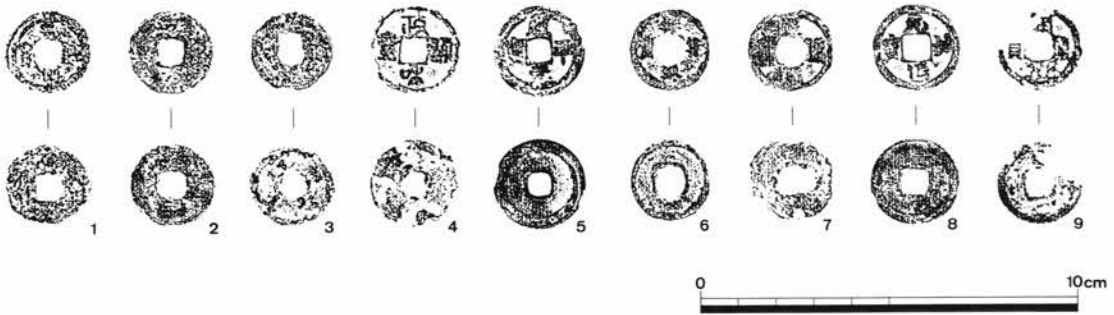
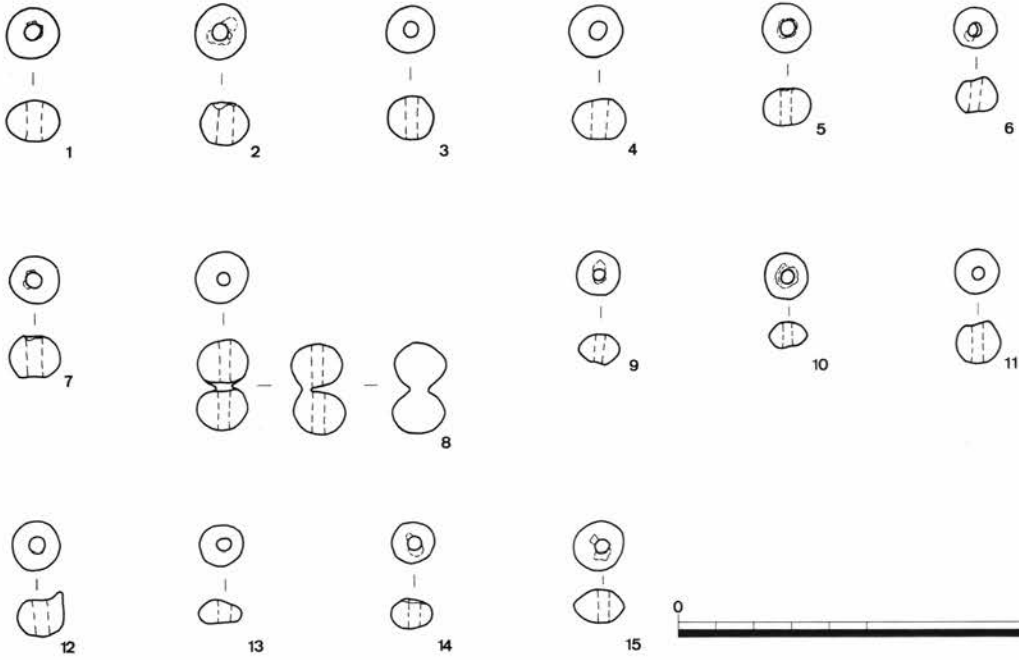
出土遺物実測図（白玉・ガラス小玉）



出土遺物実測図（土錘・紡錘車）



出土遺物実測図 (紡錘車・鉄鏃・刀子等)



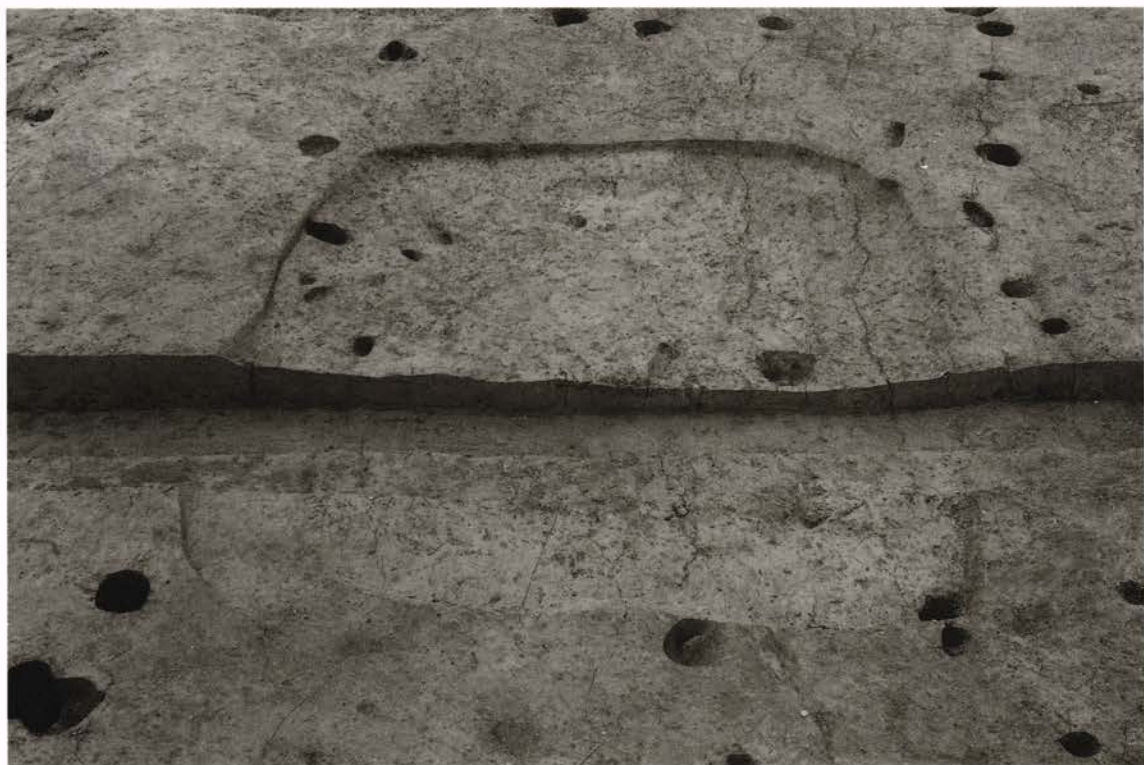
出土遺物実測図 (数珠玉・錢貨)



(1) L・Mトレンチ下層遺構検出状況（東から）



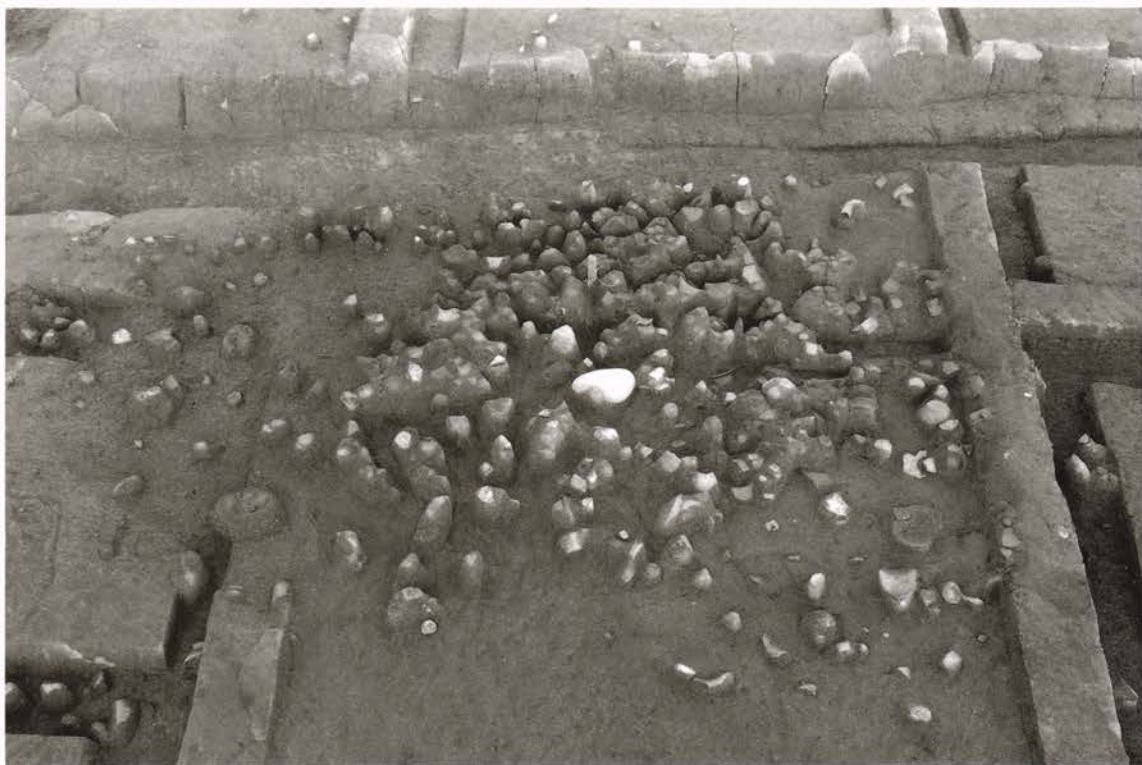
(2) Lトレンチ下層遺構（ピット群）検出状況（南東から）



(1) 竪穴式住居跡29 (東から)



(2) 竪穴式住居跡24 (東から)



(1) 竪穴式住居跡26遺物出土状況（西から）



(2) 竪穴式住居跡26（南から）



(1) 竪穴式住居跡26遺物出土状況（南から）



(2) 竪穴式住居跡26遺物出土状況（南から）



(1) 竪穴式住居跡28遺物出土状況（西から）



(2) 竪穴式住居跡27遺物出土状況（南から）



(1) 竪穴式住居跡32 (東から)



(2) 竪穴式住居跡30・31 (西から)



(1) 方形周溝墓1 (南から)



(2) 方形周溝墓1 主体部 (北から)



(1) 方形周溝墓周溝（溝5～7）遺物出土状況（南から）



(2) 方形周溝墓周溝（溝5～7）遺物出土状況（南から）



(1) 溝5遺物出土状況(東から)



(2) 溝5～7遺物出土状況(北から)



(1) 土坑18 (東から)



(2) 溝27遺物出土状況 (南から)



(1) 石鋸検出状況（南東から）



(2) 管玉未製品検出状況（南から）



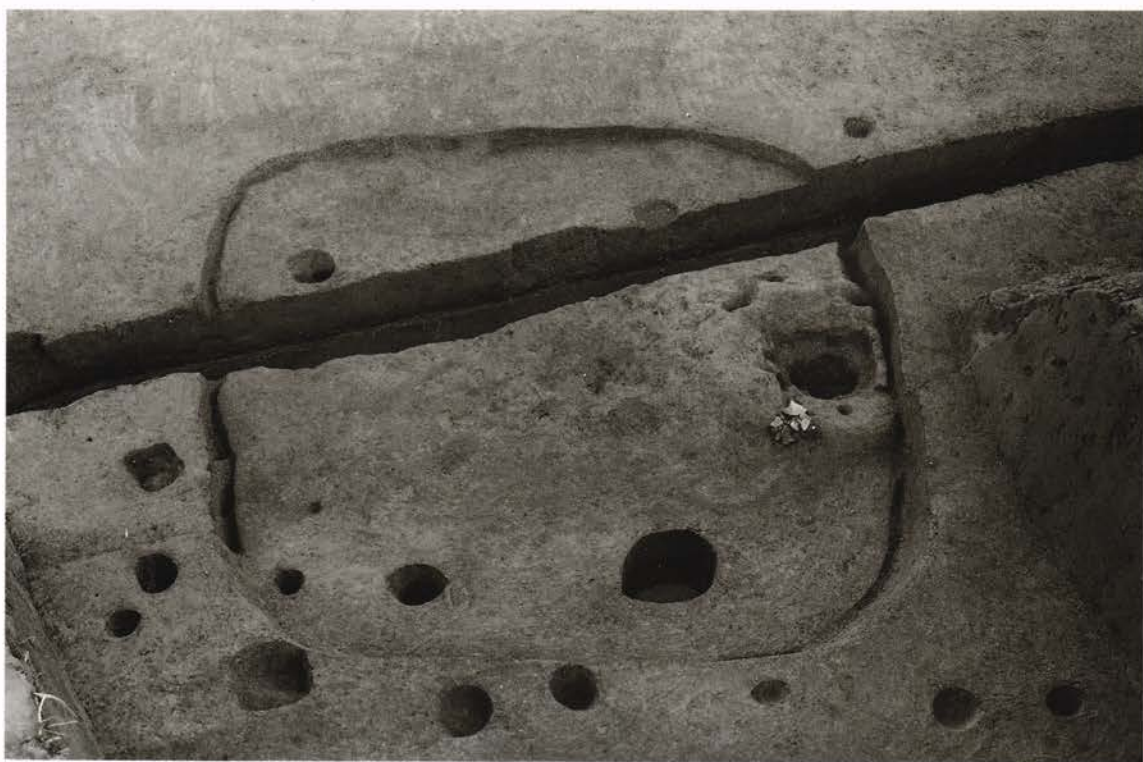
(1) G・Fトレンチ遺構検出状況（東から）



(2) Eトレンチ遺構検出状況（東から）



(1) 竪穴式住居跡11 (南から)



(2) 竪穴式住居跡11 (西から)



(1) 竪穴式住居跡12 (北から)



(2) 竪穴式住居跡12 (北から)



(1) 竪穴式住居跡13遺物出土状況（北から）



(2) 竪穴式住居跡13（北から）



(1) 竪穴式住居跡14 (南から)



(2) 竪穴式住居跡14 (南から)



(1) 竪穴式住居跡14・15・16（東から）



(2) 竪穴式住居跡15・16（南から）



(1) 竪穴式住居跡16 (南から)



(2) 竪穴式住居跡16周壁溝遺物出土状況 (南東から)



(1) 竪穴式住居跡17 (西から)



(2) 竪穴式住居跡17 (南から)



(1) 竪穴式住居跡25遺物出土状況（北から）



(2) 竪穴式住居跡25（東から）



(1) 竪穴式住居跡33・34 (北東から)



(2) 土器溜まり4 (南西から)



(1) 土器溜まり 2 (南から)



(2) 土器溜まり 3 (東から)



(1) C・Dトレンチ下層遺構検出状況（東から）



(2) Cトレンチ下層遺構検出状況（西から）



(1) 竪穴式住居跡 2・5・6 (南から)



(2) 竪穴式住居跡 3・8 (南から)



(1) 竪穴式住居跡 1 (北から)



(2) 竪穴式住居跡 1 白玉出土状況 (東から)



(1) 竪穴式住居跡 2 (西から)



(2) 竪穴式住居跡 2 特殊ピット (西から)



(1) 竪穴式住居跡3 遺物出土状況 (南東から)



(2) 竪穴式住居跡3 (南東から)



(1) 竪穴式住居跡3ピット遺物出土状況(南から)



(2) 竪穴式住居跡3ピット遺物出土状況(西から)



(1) 竪穴式住居跡 4 (南東から)



(2) 竪穴式住居跡 4 特殊ピット遺物出土状況 (南西から)



(1) 竪穴式住居跡 4 有孔円板出土状況



(2) 竪穴式住居跡 4 有孔円板出土状況



(1) 竪穴式住居跡5 遺物出土状況（東から）



(2) 竪穴式住居跡5（東から）



(1) 竪穴式住居跡5ピット遺物出土状況(東から)



(2) 竪穴式住居跡5ピット遺物出土状況(北から)



(1) 竪穴式住居跡6 (南から)



(2) 竪穴式住居跡6 (南から)



(1) 竪穴式住居跡10 (南東から)



(2) 竪穴式住居跡10遺物出土状況 (東から)



(1) 土器溜まり5 (北から)



(2) 土器溜まり5 (北西から)



(1) A・B・C期建物跡群（南から）



(2) D・E期建物跡群（南から）



(1) C・Dトレンチ掘立柱建物跡群（東から）



(2) 掘立柱建物跡9（北から）



(1) 掘立柱建物跡10・12 (南から)



(2) 掘立柱建物跡1



(1) 掘立柱建物跡 5 (北から)



(2) 掘立柱建物跡 3・4



(1) 掘立柱建物跡9 (図版第110のb) 掘形断ち割り (南から)



(2) 掘立柱建物跡9 (図版第110のa) 掘形断ち割り (南から)



(1) 掘立柱建物跡 9 (図版第110のc) 掘形断ち割り (南から)



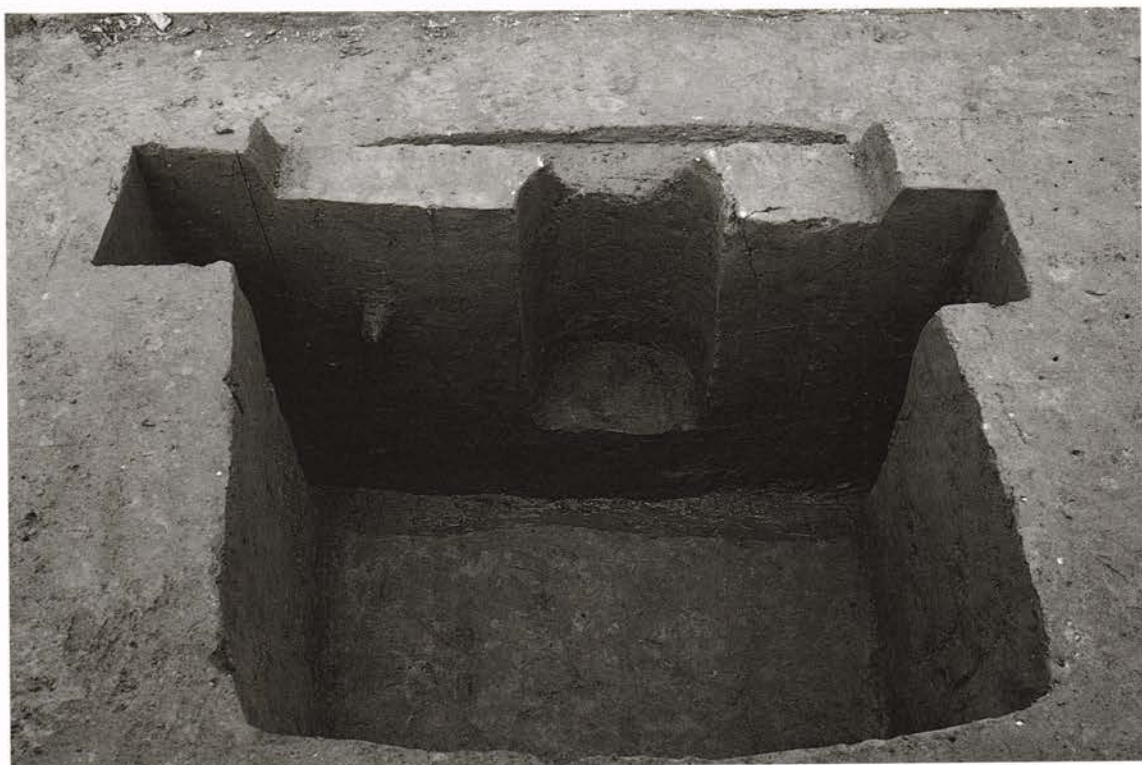
(2) 掘立柱建物跡 9 (図版第110のd) 掘形断ち割り (南から)



(1) 掘立柱建物跡9 (図版第110のe) 掘形断ち割り (南から)



(2) 掘立柱建物跡9 (図版第110のf) 掘形断ち割り (南から)



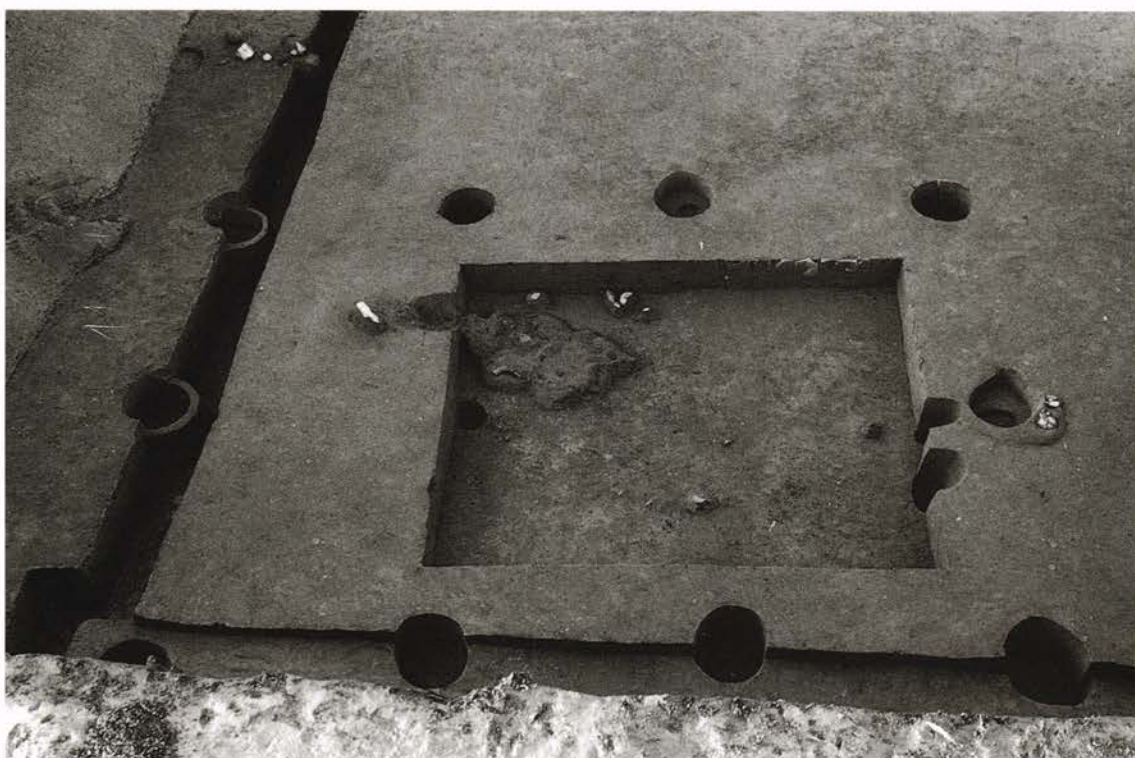
(1) 掘立柱建物跡9 (図版第110のg) 掘形断ち割り (南から)



(2) 掘立柱建物跡13 (南西から)



(1) 竪穴状遺構 床面焼土（東から）



(2) 竪穴状遺構（南から）



(1) 竪穴式住居跡18 (南から)



(2) 竪穴式住居跡18遺物出土状況 (南から)



(1) 竪穴式住居跡23 (南西から)



(2) 竪穴式住居跡22 (北東から)



(1) 竪穴式住居跡21 (南から)



(2) 土器溜まり7 (東から)



(1) Jトレンチ溝状遺構（東から）



(2) Mトレンチ中世墓（西から）



弥生時代中期の土器(1)



22



23



37



15



262



292



40



169



204



308



200



198



213



218



219



294



84



85



52



135



88



210



79



89

弥生時代中期の土器(5)



72



73



80



217



268



49



269



265



288



311



221



95



312



313



315



99



弥生時代後期～古墳時代前期の土器(1)



弥生時代後期～古墳時代前期の土器(2)



370



526



333



401



442



484



449



539

弥生時代後期～古墳時代前期の土器(3)



578



654



570



551



652



653



589



585



573



567



658



579



663



603



645



604



644



647



673

古墳時代中期の土器(3)



553



560



600



554



597



555



618



665



620



651



619



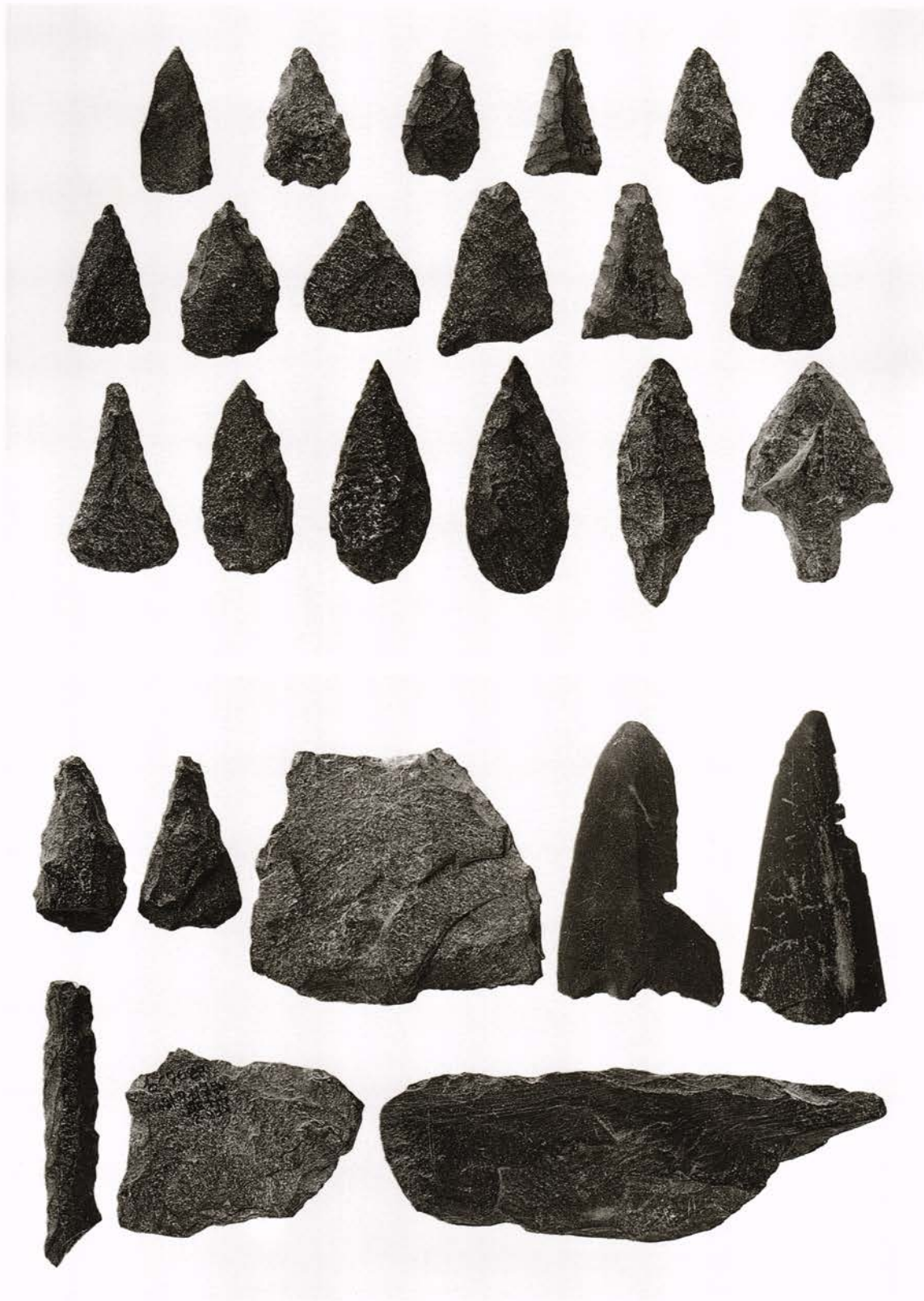
629



古墳時代中期の土器(6)



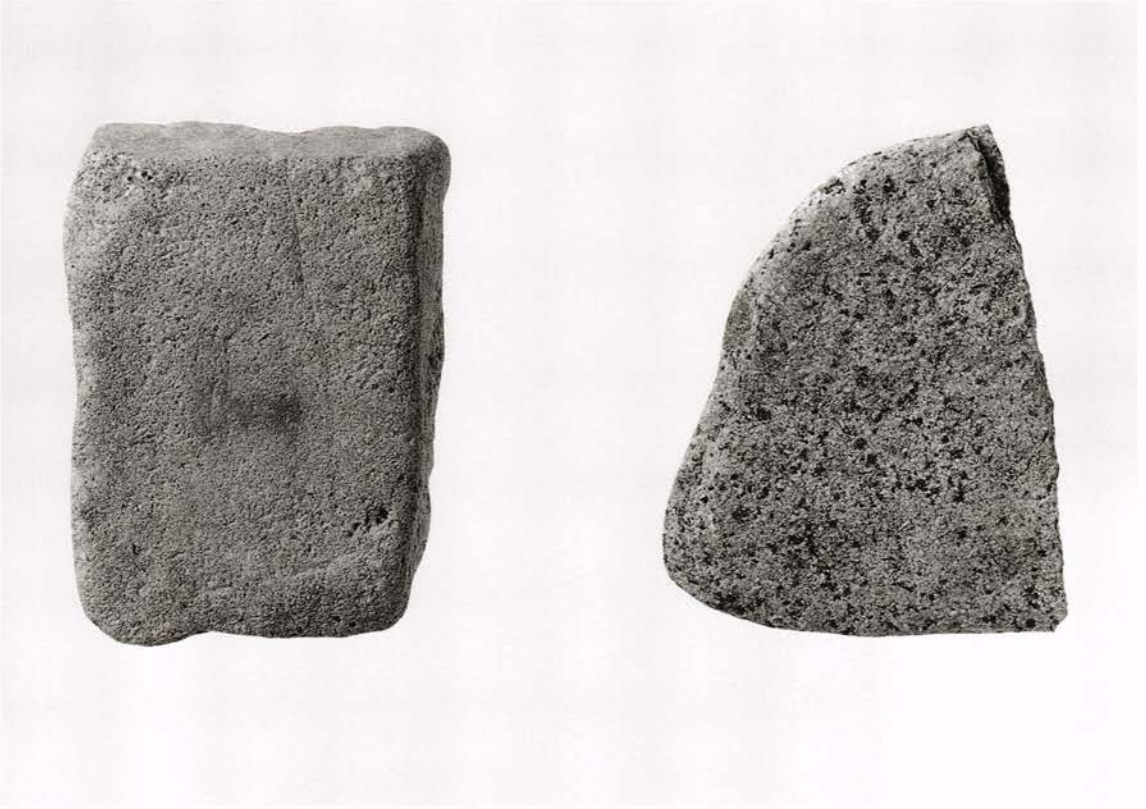




石器(1)



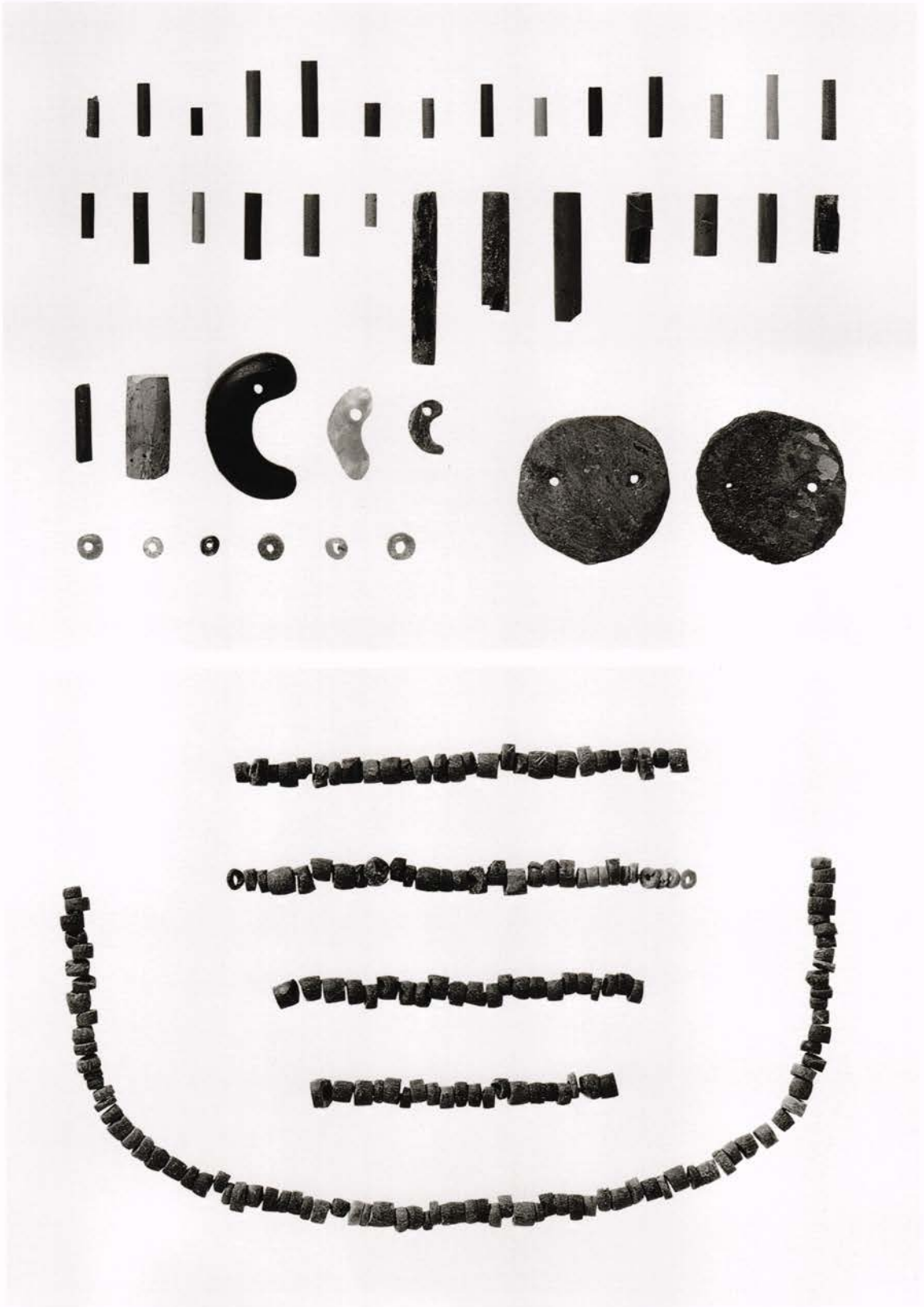
石器(2)



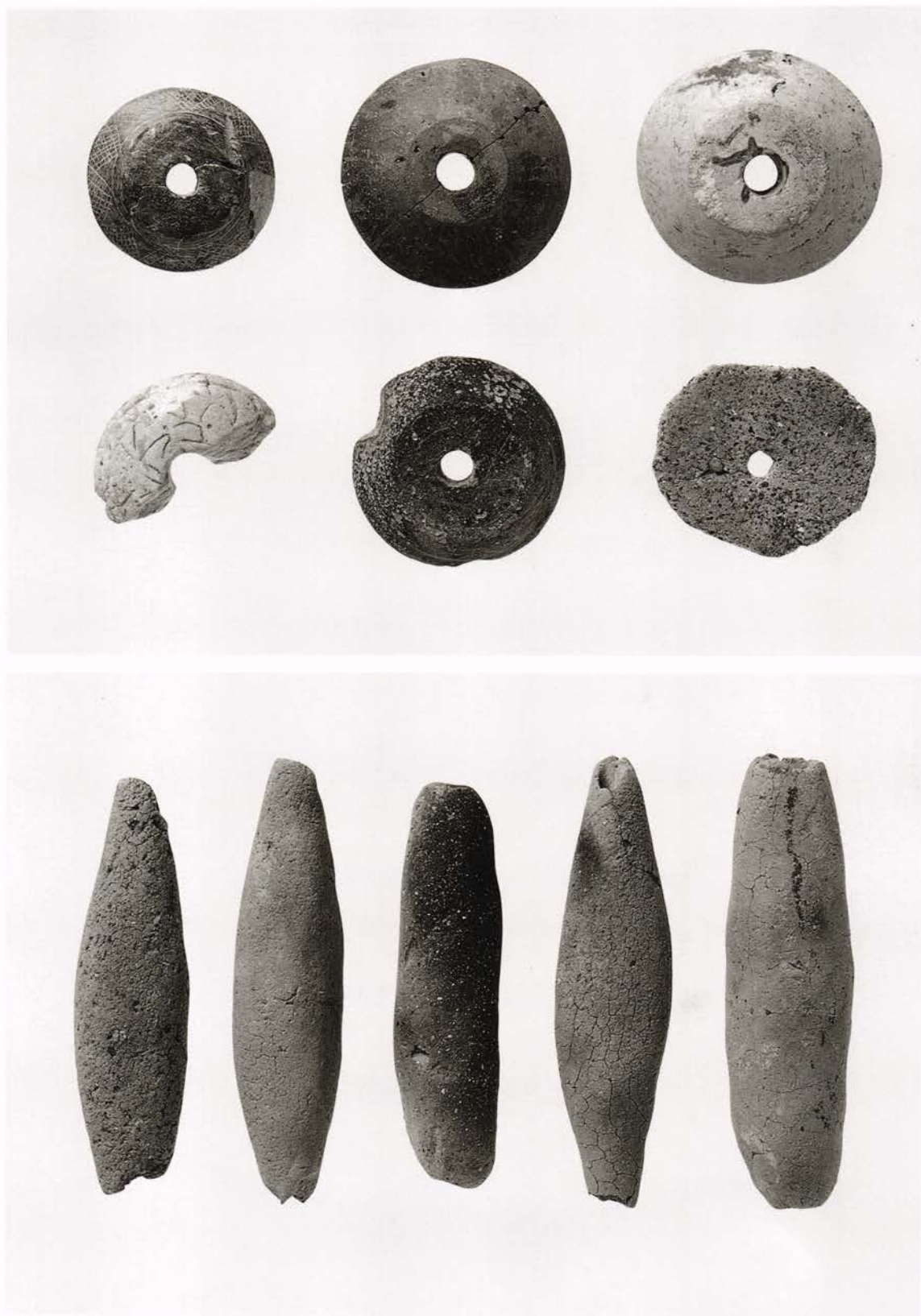
石器(3)



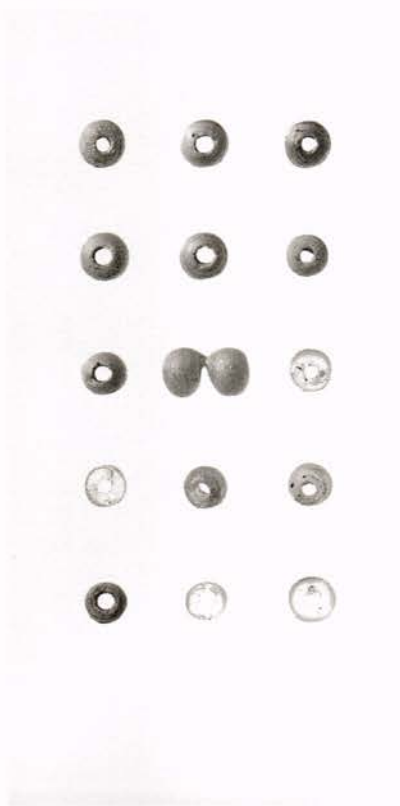
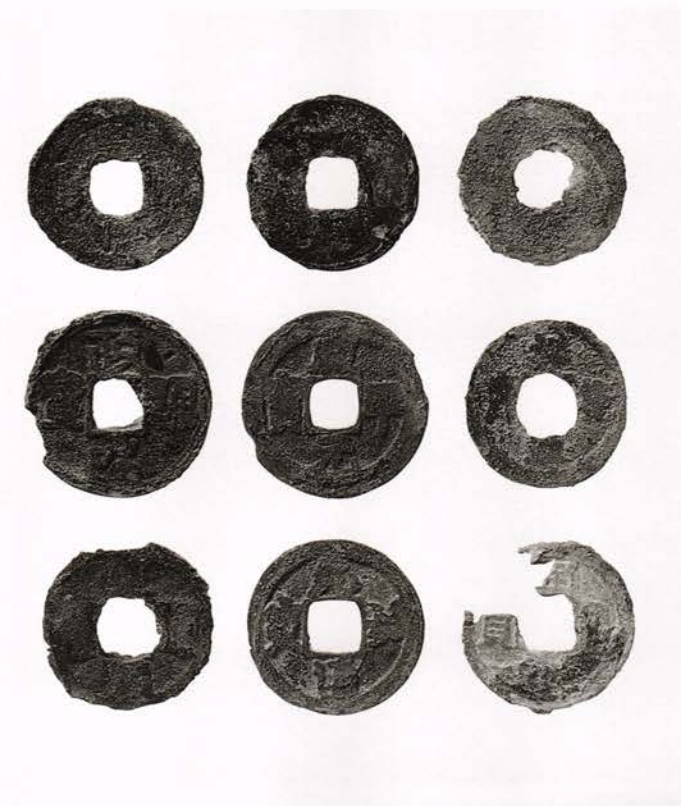
石器(4)・玉作り関係遺物



玉類等



土錘・紡錘車



数珠玉・銅銭・鉄製品

京都府遺跡調査報告書 第19冊

平成5年12月24日

発行 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター
〒617 向日市寺戸町南垣内40番の3
Tel (075)933-3877 (代)

印刷 三星商事印刷株式会社
〒604 京都市中京区新町通竹屋町下ル
Tel (075)256-0961 (代)